



日本国特許庁
PATENT OFFICE
JAPANESE GOVERNMENT

09/827,267
SEN 09/827,267

5/5
#4

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出願年月日

Date of Application:

2001年 2月 7日

出願番号

Application Number:

特願2001-031448

出願人

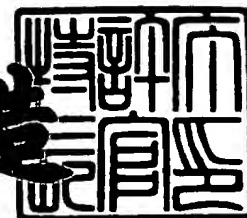
Applicant (s):

財団法人流通システム開発センター
有限会社宮口研究所

2001年 3月16日

特許庁長官
Commissioner,
Patent Office

及川耕造



出証番号 出証特2001-3018789

【書類名】 特許願

【整理番号】 RS0101

【提出日】 平成13年 2月 7日

【あて先】 特許庁長官殿

【国際特許分類】 G06F 15/60

【発明の名称】 I P 転送網を用いた端末間通信接続制御方法

【請求項の数】 140

【発明者】

 【住所又は居所】 埼玉県川越市伊勢原町 2 - 2 7 - 7

 【氏名】 古川 久夫

【発明者】

 【住所又は居所】 千葉県市川市菅野 1 - 4 - 4

 【氏名】 宮口 庄司

【特許出願人】

 【持分】 006/010

 【識別番号】 596176286

 【氏名又は名称】 財団法人流通システム開発センター

【特許出願人】

 【持分】 004/010

 【識別番号】 398009317

 【氏名又は名称】 有限会社宮口研究所

【代理人】

 【識別番号】 100078776

 【弁理士】

 【氏名又は名称】 安形 雄三

【選任した代理人】

 【識別番号】 100084803

 【弁理士】

 【氏名又は名称】 村山 勝

【先の出願に基づく優先権主張】

【出願番号】 特願2000-105023

【出願日】 平成12年 4月 6日

【先の出願に基づく優先権主張】

【出願番号】 特願2000-179234

【出願日】 平成12年 6月15日

【先の出願に基づく優先権主張】

【出願番号】 特願2000-367085

【出願日】 平成12年12月 1日

【先の出願に基づく優先権主張】

【出願番号】 特願2000-382682

【出願日】 平成12年12月15日

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 010836

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 9703450

【包括委任状番号】 9703452

【包括委任状番号】 9803045

【包括委任状番号】 9903046

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 I P 転送網を用いた端末間通信接続制御方法

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 I P 転送網は 2 以上の接続サーバを含み、前記 I P 転送網の外部のメディアルータはデジタルメディアを送受する機能を有する端末を接続しており、

前記メディアルータから接続サーバへ呼設定を送信し、

前記発呼側の接続サーバは、受信した前記呼設定の I P パケットに含まれる発呼側の電話番号と着呼側の電話番号を用いて、前記 I P 転送網内部の端末間通信用の通話回線と、前記通話回線を識別するための回線番号とを定め、前記回線番号を含む初期アドレスメッセージを形成し、

前記形成した初期アドレスメッセージを中継接続サーバを経由して、着呼側の接続サーバへ送信し、前記着呼側の接続サーバは、呼設定を着呼側のメディアルータへ送信し、前記着呼側のメディアルータは、前記呼設定を着呼側の端末に送信すると共に、

前記着呼側の接続サーバは、アドレス完了メッセージを形成して

前記中継接続サーバを経由して、

前記発呼側の接続サーバに送信し、

前記着呼側の接続サーバは、前記着呼側の端末から呼出中の報告を受信すると呼経過メッセージを形成し、前記呼経過メッセージは前記中継接続サーバを経由して前記発呼側の接続サーバに到達し、前記発呼側の接続サーバは、着呼側の端末の呼出中報告を発信側のメディアルータへ送信し、

前記着呼側の接続サーバは、前記着呼側の端末から応答を受信すると応答メッセージを形成し、前記応答メッセージは前記中継接続サーバを経由して前記発呼側の接続サーバに到達し、前記発呼側の接続サーバは、前記着呼側の端末の呼出音を停止し、前記発呼側の端末と着呼側の端末は、前記発呼側と着呼側のメディアルータを経由してデジタルメディアを送受する端末間通信が可能となり、

前記発呼側又は着呼側のメディアルータから前記接続サーバに端末間通信の切断

要求が送信され、前記接続サーバから前記中継接続サーバ及びもう一方側の接続サーバへ解放が送信され、前記もう一方側の接続サーバからもう一方側のメディアルータへ切断指示が送信され、他方、前記もう一方側の接続サーバから前記中継接続サーバを経由して前記サーバへ解放完了が送られ、切断完了がメディアルータへ送信され、2つの端末間通信の接続と解放を行うことを特徴とするIP転送を用いた端末間通信接続制御方法。

【請求項2】前記IP転送網が前記中継接続サーバを含まず、前記発呼側の接続サーバと前記着呼側の接続サーバとの間で、初期アドレスメッセージ、アドレス完了メッセージ、呼経過メッセージ、応答メッセージ、解放メッセージ、解放完了メッセージを送受するようになっている請求項1に記載のIP転送網を用いた端末間通信接続制御方法。

【請求項3】前記接続サーバが、端末間通信の終了後に回線番号、通信時刻、電話番号を含めた端末間通信記録を収集して前記接続サーバの内部に記録し、課金や運用管理に用いるようになっている請求項1に記載のIP転送網を用いた端末間通信接続制御方法。

【請求項4】端末が電話機であり、デジタルメディアがデジタル化音声であり、メディア通信が電話通信である請求項1に記載のIP転送網を用いた端末間通信接続制御方法。

【請求項5】端末がIP端末であり、デジタルメディアが文字乃至デジタル化静止画像であり、メディア通信がIPデータ通信である請求項1に記載のIP転送網を用いた端末間通信接続制御方法。

【請求項6】端末が音声動画像送受信端末であり、デジタルメディアがデジタル化音声動画像であり、メディア通信が音声動画像通信である請求項1に記載のIP転送網を用いた端末間通信接続制御方法。

【請求項7】端末がファックス端末であり、デジタルメディアがデジタル化ファックス画像であり、メディア通信がファックス通信である請求項1に記載のIP転送網を用いた端末間通信接続制御方法。

【請求項8】電話番号が、通信相手端末を識別するための端末識別番号である請求項1に記載のIP転送網を用いた端末間通信接続制御方法。

【請求項 9】 網ノード装置のアドレス管理表に宛先マルチキャストアドレスを登録しておき、前記網ノード装置に入る外部 IP パケットのヘッダ内の宛先マルチキャストアドレスが前記アドレス管理表に登録されていない場合は、前記網ノード装置が当該 IP パケットを廃棄することにより、予定外の IP パケットが IP 転送網内部に混入することを防止することを特徴とする IP 転送網を用いた端末間通信接続制御方法。

【請求項 10】 受信側の網ノード装置のアドレス管理表にマルチキャスト送信者のアドレスを登録許可しないことにより、マルチキャスト IP パケット受信者から、マルチキャスト IP パケット送信者へ向けた前記 IP パケット受信確認用の ACK パケットが網ノード装置を通過できないようにしている請求項 9 に記載の IP 転送網を用いた端末間通信接続制御方法。

【請求項 11】 網ノード装置のアドレス管理表に宛先マルチキャストアドレスを登録しておき、網ノード装置に入る外部 IP パケットのヘッダ内の宛先マルチキャストアドレスが、前記アドレス管理表に登録されていない場合は、前記網ノード装置が当該 IP パケットを廃棄することにより、予定外の IP パケットが IP 転送網内部に混入することを防止することを特徴とする網ノード装置。

【請求項 12】 受信者側の網ノード装置のアドレス管理表にマルチキャスト送信者のアドレスを登録許可しないことにより、マルチキャスト IP パケット受信者からマルチキャスト IP パケット送信者へ向けた前記 IP パケット受信確認用の ACK パケットが、網ノード装置を通過できないようにしていることを特徴とする網ノード装置。

【請求項 13】 網ノード装置が、ドメイン名サーバを宛先 IP アドレスとする IP パケットを検出すると、前記 IP パケットの送信元 IP アドレスと IP パケットが入力した通信回線との組合せが、当該網ノード装置のアドレス管理表に含まれるときに限り、受信した前記 IP パケットをドメイン名サーバへ転送する方法により、端末間通信の通信許可登録をしていることを特徴とする IP 転送網を用いた端末間通信接続制御方法。

【請求項 14】 第 1 の非独立型 IP 電話機と第 2 の非独立型 IP 電話機との間で電話通信を行うため、前記第 1 の非独立型 IP 電話機の送受話器を上げると、前

記第 1 の非独立型 I P 電話機が前記第 2 の非独立型 I P 電話機の電話番号を含む I P パケットを生成して送出し、前記 I P パケットは、H323 終端部を経由し、第 1 のメディアルータ内部の第 1 のドメイン名サーバを経て第 1 の網ノード装置に到達し、前記第 1 の網ノード装置は前記 I P パケットを I P 転送網内部の第 2 のドメイン名サーバに送信し、前記第 2 のドメイン名サーバは前記第 2 の非独立型 I P 電話機の電話番号に 1 : 1 に対応する第 2 の I P アドレスを前記第 1 のドメイン名サーバを経由して、或は前記第 1 のドメイン名サーバを経由せずに前記第 1 の H323 終端部に返信し、前記第 1 の H323 終端部は電話呼接続要求の I P パケットを生成して送出すると、前記生成して送出した I P パケットは、前記第 1 の網ノード装置、前記 I P 転送網内部の 1 以上のルータを経由し、前記第 2 の非独立型 I P 電話機が接続されている他の第 2 の網ノード装置に到達し、通信回線経由で他の第 2 のメディアルータ内部にあり前記第 2 の非独立型 I P 電話機が接続されている第 2 の H323 終端部に届けられ、

第 1 利用者が電話の通話を始めると、前記第 1 の非独立型 I P 電話機は前記第 1 の I P アドレスを発信元 I P アドレスとし、前記第 2 の I P アドレスを宛先 I P アドレスとし、デジタル表現した電話音声を含む I P パケットを送出し、この I P パケットは前記第 1 の H323 終端部を経て前記網ノード装置、前記 I P 転送網内部の 1 以上のルータ、前記第 2 の網ノード装置、前記第 2 の H323 終端部を経て前記第 2 の非独立型 I P 電話機に届けられるようになっている請求項 4 に記載の I P 転送網を用いた端末間通信接続制御方法。

【請求項 1 5】前記第 2 の非独立型 I P 電話機が通信回線経由で直接に他の網ノード装置に接続されている請求項 1 4 に記載の I P 転送網を用いた端末間通信接続制御方法。

【請求項 1 6】前記第 2 の非独立型 I P 電話機が複数であり、前記各非独立型 I P 電話機の間が通信回線経由で直接に他の網ノード装置に接続されている請求項 1 4 に記載の I P 転送網を用いた端末間通信接続制御方法。

【請求項 1 7】非独立型音声画像装置 1 が、メディアルータ 1 を経由して、I P 転送網内部の I P 画像専用ドメイン名サーバに、非独立型音声画像装置 2 のホスト名を問合せ、非独立型音声画像装置 2 の I P アドレスを取得し、次に、非独

立型音声画像装置 1 から、メディアルータ 1 を経由し、IP 転送網を経由し、メディアルータ 2 を経由して、非独立型音声画像装置 2 に音声画像データを送信することから、非独立型音声画像装置 1 と非独立型音声画像装置 2 との間で、音声画像データを送受する音声画像通信を行うことを特徴とする IP 転送網を用いた端末間通信接続制御方法。

【請求項 18】独立型音声画像装置が、IP 転送網内部の IP 画像専用ドメイン名サーバに、非独立型音声画像装置のホスト名を問合せ、非独立型音声画像装置の IP アドレスを取得し、次に独立型音声画像装置から IP 転送網を経由し、メディアルータを経由して、非独立型音声画像装置に音声画像データを送信することから、独立型音声画像装置と非独立型音声画像装置との間で、音声画像データを送受する音声画像通信を行うことを特徴とする IP 転送網を用いた端末間通信接続制御方法。

【請求項 19】第 1 のアナログ電話機と第 2 のアナログ電話機との間で電話通信を行うため、前記第 1 のアナログ電話機の送受話器を上げて、宛先電話番号をダイヤルすると、前記第 2 の電話番号が H 3 2 3 終端部に送られ、前記 H 3 2 3 終端部は、前記第 2 のアナログ電話機の電話番号を含む IP パケットを形成し、前記 IP パケットは、メディアルータ 1 内部のドメイン名サーバを経て第 1 の網ノード装置に到達し、前記第 1 の網ノード装置は、前記 IP パケットを IP 転送網内部の第 2 のドメイン名サーバへ送信し、前記第 2 のドメイン名サーバは、第 2 のアナログ電話機の電話番号に 1 : 1 に対応する第 2 の IP アドレス “IP 2” を、前記第 1 のドメイン名サーバを経由して、或いは前記第 1 のドメイン名サーバを経由せずに前記第 1 の H 3 2 3 終端部に返信し、前記第 1 の H 3 2 3 終端部が電話呼接続要求の IP パケットを生成して送出すると、ここで、前記 IP パケット内部の送信元 IP アドレスは、前記第 1 の H 3 2 3 終端部が第 1 のアナログ電話機に仮想的に付与した第 1 の IP アドレス “IP 1” であり、宛先アドレスは、前記ドメイン名サーバから取得した前記第 2 のアナログ電話機に 1 : 1 に対応する第 2 の IP アドレス “IP 2” であり、前記生成して送出した IP パケットは、前記第 1 の網ノード装置、前記 IP 転送網内部の 1 以上のルータを経由し、前記第 2 のアナログ電話機が接続されている

他の第2の網ノード装置に到達し、通信回線経由で他の第2のメディアルータ内部にある前記第2のアナログ電話機が接続されている第2のH323終端部に届けられ、

第1の利用者が電話の利用を始めると、前記第1のアナログ電話機は、前記第1のIPアドレス“IP1”を発信元IPアドレスとし、前記第2のIPアドレス“IP2”を宛先IPアドレスとし、デジタル表現した電話音声を含むIPパケットを送出し、このIPパケットは、前記第1のH323終端部を経て、前記網ノード装置を経て前記第1の網ノード、前記IP転送網内部の1以上のルータ、前記第2の網ノード装置、前記第2のH323終端部を経て、前記第2のアナログ電話機に届けられるようになっており、

同様に、前記第2のアナログ電話機から前記第1のアナログ電話機にデジタル表現した電話音声を含むIPパケットを送出し、

前記第1の利用者が電話通信終了のため送受話器を置くと、前記第1のH323終端部から、電話通信終了を示すIPパケットが生成されて送出され、前記IPパケットは前記IP転送網内部の1以上のルータを経て前記前記第2の網ノード装置、前記第2のH323終端部に到達し、続いて前記第2のアナログ電話機に電話通信終了信号が通知され、前記第2のアナログ電話機の電話通信終了確認通知が、前記IP転送網を経て、前記と逆方向に前記第1のH323終端部に知らされるようになっていることを特徴とするIP転送網を用いた端末間通信接続制御方法。

【請求項20】前記メディアルータは少なくともドメイン名サーバ、ルータ、接続制御部、H323終端部、SCN境界部を含み、前記ルータはIP通信回線経由でIP端末を接続でき、H323境界部は前記IP通信回線経由で1以上の非独立型IP電話機或は1以上の非独立型IP音声画像装置の少なくとも一方を接続でき、前記SCN境界部は電話通信回線経由で1以上のアナログ電話機を接続でき、IP端末、非独立型IP電話機、非独立型IP音声画像装置、アナログ電話機は前記メディアルータを経由して網ノード装置に接続され、他の網ノード装置又は同一の網ノード装置に接続する他の端末に対応するIPアドレスを取得することにより、端末間通信することができるIP転送網を用いた端末間通信接続制御方法。

【請求項 2 1】前記メディアルータが、前記ドメイン名サーバを含まない請求項 2 0 に記載の I P 転送網を用いた端末間通信接続制御方法。

【請求項 2 2】統合 I P 転送網は、I P データ網、I P 電話網、I P 音声画像網、ベストエフォート網、I P データマルチキャスト網、I P ベース TV 放送網、網ノード装置を少なくとも 2 以上含み、網ノード装置は通信回線を経て前記 I P 転送網のいずれか 1 以上の網に接続されており、前記網ノード装置の論理端子は通信回線を経て前記統合 I P 転送網の外部の端末に接続されている I P 転送網を用いた端末間通信接続制御方法。

【請求項 2 3】I P 転送網の内部にゲートウェイが設置してあり、第 1 のゲートウェイには通信回線を経て I P 端末、非独立型 I P 電話機が接続され、第 2 のゲートウェイには通信回線を経て I P 端末及び I P 音声画像装置が接続され、ゲートウェイを経由した端末間通信が可能であるように前記第 1 のゲートウェイ、I P 転送網、前記第 2 のゲートウェイを経由して端末間通信が可能な請求項 1 に記載の I P 転送網を用いた端末間通信接続制御方法。

【請求項 2 4】前記メディアルータは CATV 網内部の CATV ゲートウェイの内部にあり、通信回線を経て I P 転送網内部の網ノード装置に接続されており、前記メディアルータは CATV 回線インターフェース、CATV 回線のいずれかを経て I P 端末、アナログ電話機、I P 電話機、I P 音声画像装置を接続しており、前記 CATV 回線は CATV 回線特有の通信下位層を含むと共に、通信ネットワークにおいて I P パケットを転送する機能を有する請求項 1 に記載の I P 転送網を用いた端末間通信接続制御方法。

【請求項 2 5】I P 端末 1 が、CATV 回線、CATV ゲートウェイを経由して、統合 I P 転送網内部のドメイン名サーバに、I P 端末 2 のホスト名を提示して、I P 端末 2 の I P アドレスを取得し、前記端末間の端末間通信を行うことを特徴とする I P 転送網を用いた端末間通信接続制御方法。

【請求項 2 6】アナログ電話機 1 が、CATV 回線、CATV ゲートウェイを経由して、統合 I P 転送網内部のドメイン名サーバに、アナログ電話機 2 の電話番号を提示して、アナログ電話機 2 の I P アドレスを取得し、アナログ電話機とアナログ電話機 2 との間の電話通信を行うことを特徴とする I P 転送網を用いた端

末間通信接続制御方法。

【請求項 27】非独立型 IP 電話機が、CATV 回線、CATV ゲートウェイを経由して、統合 IP 転送網内部のドメイン名サーバに、アナログ電話機の電話番号を提示して、当該アナログ電話機の IP アドレスを取得し、次に非独立型 IP 電話機と当該アナログ電話機との間の電話通信を行うことを特徴とする IP 転送網を用いた端末間通信接続制御方法。

【請求項 28】メディアルータを含み、IP 端末、アナログ電話機、非独立型 IP 電話機、非独立型音声画像装置の少なくとも 1 以上を、CATV 回線と CATV インターフェースを経て接続し、前記 IP 端末、アナログ電話機、非独立型 IP 電話機、非独立型音声画像装置から送られる IP パケットを、内部のメディアルータ機能を用いて IP パケットに変換して IP 転送網へ送出し、また、IP 転送網から受信した IP パケットをメディアルータを経由して、前記前記 IP 端末、アナログ電話機、非独立型 IP 電話機、非独立型音声画像装置にいずれかに送出する機能を有する CATV ゲートウェイ。

【請求項 29】IP 端末、非独立型電話機、非独立型 IP 音声画像装置のいずれか 1 以上を収容しており、端末収容無線装置内の無線送受信部から、無線通信路を経由して、ゲートウェイに接続する無線送受信部、ゲートウェイ、網ノード装置、IP 転送網、他の網ノード装置を経由して、他の IP 端末、非独立型電話機、非独立型 IP 音声画像装置と情報交換できる機能を有することを特徴とする端末収容無線装置。

【請求項 30】IP 端末 1 が、端末収容無線装置、無線通信路、無線送受信部を経て、統合 IP 転送網に接続しており、IP 転送網内部のドメイン名サーバに、IP 端末 2 のホスト名を提示して、IP 端末 2 の IP アドレスを取得し、次に IP 端末 1 から IP 端末 2 にデータを送信することから、前記端末間の端末間通信を行うことを特徴とする IP 転送網を用いた端末間通信接続制御方法。

【請求項 31】非独立型 IP 電話機 1 が、端末収容無線装置、無線通信路、無線送受信部を経て、統合 IP 転送網に接続しており、IP 転送網内部のドメイン名サーバに、非独立型 IP 電話機 2 のホスト名を提示して、非独立型 IP 電話機 2 の IP アドレスを取得し、次に非独立型 IP 電話機 1 から非独立型 IP 電話機 2

にデータを送信することから、前記電話機間の端末間通信を行うことを特徴とする I P 転送網を用いた端末間通信接続制御方法。

【請求項 3 2】非独立型音声画像装置 1 が、端末収容無線装置、無線通信路、無線送受信部を経て、統合 I P 転送網に接続しており、I P 転送網内部のドメイン名サーバに、非独立型音声画像装置 2 のホスト名を提示して、非独立型音声画像装置 2 の I P アドレスを取得し、次に、非独立型音声画像装置 1 から非独立型音声画像装置データを送信することから、前記音声画像装置間の端末間通信を行うことを特徴とする I P 転送網を用いた端末間通信接続制御方法。

【請求項 3 3】前記 I P 端末から送出された DNS 問合せ応答形式のデータや送受するテキストデータは、無線インターフェース変換部で無線送受信部の入力データ形式に変換されて無線送受信部に入力され、無線通信路を経由して前記無線送受信部に送られ、前記無線インターフェース変換部においてゲートウェイに入力可能な I P パケットのデータ形式に変換されて通信回線経由で前記ゲートウェイに送られ、前記非独立型 I P 電話機から送出された電話の呼制御用のデータや送受するデジタル表現された音声データは、前記無線インターフェース変換部で無線送受信部の入力データ形式に変換されて前記無線送受信部に入力され、前記無線通信路、無線送受信部、無線インターフェース変換部、通信回線をそれぞれ経由し、前記ゲートウェイに入力可能な I P パケットのデータ形式となって前記ゲートウェイに送られ、前記 I P 電話機から送出された音声画像端末の呼制御用のデータや送受するデジタル表現された音声と動画データは、前記無線インターフェース変換部で無線送受信部の入力データ形式に変換されて前記無線送受信部に入力され、前記無線通信路、無線送受信部、無線インターフェース変換部、通信回線をそれぞれ経由し、前記ゲートウェイに入力可能な I P パケットのデータ形式となって前記ゲートウェイに送られるようになっている請求項 2 3 に記載の I P 転送網を用いた端末間通信接続制御方法。

【請求項 3 4】前記ゲートウェイ内部に通信手順別のゲートウェイ通信インターフェース機能部を複数設け、種々の電話用通信手順に対応できるようにした請求項 2 3 に記載の I P 転送網を用いた端末間通信接続制御方法。

【請求項 3 5】公衆電話交換網の電話番号を有する電話機を LAN 内部のメディア

ルータに接続し、交換機の転送処理部に宛先電話番号と転送先ゲートウェイの電話番号との組を設定しておき、前記公衆電話交換網側の電話機から IP 転送網を経由して、前記 LAN 内部の電話機へ接続し、端末間通信を行い得るようになっている請求項 3 4 に記載の IP 転送網を用いた端末間接続制御方法。

【請求項 3 6】 IP 転送網は少なくとも網ノード装置、電話管理サーバ、メディアルータ、電話ドメイン名サーバ、表管理サーバを含み、

ユーザ i ($i = 1, 2, \dots$) は、前記 IP 転送網の外部にあるユーザのメディアルータに個別の外部 IP アドレス “EA- i ” を設定し、前記ユーザ i のメディアルータに電話機を 1 以上接続し、

前記メディアルータは通信回線を経て前記網ノード装置のいずれかに接続され、前記通信回線の網ノード装置側終端部に、前記ユーザ i の通信のために用いる内部 IP アドレス “IA- i ” が付与され、前記メディアルータにはユーザ個別の電話番号が付与され、

前記電話ドメイン名サーバは、ユーザ個別の電話番号、前記メディアルータの外部 IP アドレス “EA- i ”、及び前記内部 IP アドレス “IA- i ” との組を保持しており、

前記電話ドメイン名サーバはユーザ個別の電話番号を質問されて、外部 IP アドレス及び内部 IP アドレスを回答し、

前記網ノード装置に、前記メディアルータと代理電話管理サーバとの間の IP 通信路を定める IP 通信レコードを設定しておき、

発信元電話機の要求は、前記 IP 通信レコードが用いられ、代理電話管理サーバを経由して電話管理サーバに伝えられ、

前記電話管理サーバが電話ドメイン名サーバに依頼して、送信元電話番号から送信元出でリアルータの外部 IP アドレス及び内部 IP アドレス (“EA- i , IA- i ”)、宛先電話番号から宛先メディアルータの外部 IP アドレス及び内部 IP アドレス (“EA- j , IA- j ”) を取得し、

送信元側と宛先側の電話管理サーバは、送信元及び宛先側のメディアルータ及び電話機と一連の手続きを行い、前記表管理サーバが、前記 4 つの IP アドレスを送信側網ノード装置及び宛先網ノード装置それぞれに送信元電話機と宛先側の電

話機との間の I P 通信レコードとして設定し、
電話通信が終了すると、電話管理サーバは前記表管理サーバに依頼して、前記 I P 通信レコードを抹消することを特徴とする I P 転送網を用いた端末間通信接続制御方法。

【請求項 3 7】送信元側の電話機が電話呼設定を要求すると、送信元側の電話管理サーバは、電話音声用の通信回線を識別する通信回線識別子を宛先電話番号と送信元電話番号の組から一意に定め、
送信元側の電話管理サーバは、電話呼設定を要求する前記通信回線識別子を含む IAM パケットを宛先側の電話管理サーバへ送信し、
宛先側の電話管理サーバは、前記 IAM パケット受信報告する ACM パケットを送信元側の電話管理サーバに返信し、
宛先側の電話機が電話機着信音を鳴動させると、
宛先側電話管理サーバは、着信呼出中を知らせる CPG パケットを送信元側の電話管理サーバに送信し、
宛先側の電話機が呼設定要求に応答すると、宛先側の電話管理サーバは、呼設定要求への応答を示す ANM パケットを送信側の電話管理サーバに送信し、送信元側の電話機は呼出音を停止して通話フェーズに移行し、
通話が終了し、電話呼切断要求が出されると、
電話呼切断要求側の電話管理サーバは、通信回線識別子を用いて電話通信終了を要求する REL パケットをし、被切断側の電話管理サーバへ送信し、
前記被切断側の電話管理サーバは、REL パケット受信報告する REL パケットを返信するようになっている請求項 3 6 に記載の I P 転送網を用いた端末間通信接続制御方法。

【請求項 3 8】 I P パケットのペイロード部分は UDP セグメントとし、電話呼接続フェーズと電話解放フェーズは唯一のポート番号として、異なる電話通信において、接続フェーズと電話解放フェーズを管理する単一の呼制御プログラムの利用を可能とし、電話通話フェーズにおいて、電話機毎に異なる UDP ポート番号を割り当てることにより、メディアルータが唯一の I P アドレスであっても電話機毎に異なる音声を伝えることができるようになっている請求項 3 6 に記載の I P

転送網を用いた端末間通信接続制御方法。

【請求項 39】 1つの電話管理サーバが単独で、送信側の電話管理サーバと受信側の電話管理サーバの機能を果たすために、前記電話管理サーバが、代理電話管理サーバを経由して、送信元メディアルータ及び宛先メディアルータと、電話通信接続フェーズと電話解放フェーズの手続きを行うようになっている請求項 36 に記載の IP 転送網を用いた端末間接続制御方法。

【請求項 40】 前記電話管理サーバが宛先電話番号が自らの通信会社の運用管理する IP 電話網の配下に加加入しているかを知るために、電話番号の通信会社区分表を用いるようになっている請求項 36 に記載の IP 転送網を用いた端末間通信接続制御方法。

【請求項 41】 宛先電話番号を有する電話機が、何処の網ノード装置に加加入しているか否かを知るために、電話番号の電話管理サーバ区分表を用いるようになっている請求項 36 に記載の IP 転送網を用いた端末間通信接続制御方法。

【請求項 42】 運用管理サーバは通信回線識別子、通信時刻、電話番号を含めた電話通信記録を収集し、運用管理用サーバや課金用サーバに通知して、網内部を一元的に管理することにより網内部の端末間通信接続制御の信頼性を向上させるようになっている請求項 36 に記載の IP 転送網を用いた端末間通信接続制御方法。

【請求項 43】 2以上の電話機を收容し、アナログ電話機に入力した音声はアナログインタフェース部でデジタル化されてメディアルータ主要部に送られ、IP 電話機に入力した音声は IP 電話機でデジタル化されてメディアルータ主要部へ送られ、メディアルータ主要部から、電話音声を載せた IP パケットが、回線インタフェース部を経て IP 転送網の網ノード装置へ送出されるようになっており、いずれの電話機の電話番号共にアドレス管理表を用いて割り当て管理することを特徴とするメディアルータ。

【請求項 44】 IP 転送網は 2 以上の網ノード装置を含み、メディアルータは、II P 通信回線を経て前記網ノード装置のいずれかに接続されており、前記 IP 通信回線の網ノード装置側終端部の論理端子に内部 IP アドレスが付与されており、それぞれのメディアルータにはそれぞれ外部 IP アドレスが付与されており

、かつ、前記メディアルータは通信回線を経て1以上の電話機を接続しており、前記網ノード装置内部のアドレス管理表のレコードとして、前記外部IPアドレスと前記内部IPアドレスを含み、IPカプセル化方法を規定するIP通信レコードが予め設定されており、

前記メディアルータに接続された電話機と、他のメディアルータに接続された他の電話機との間において、前記IP通信レコードを用いて電話通信の接続制御と電話通信の解放制御を行うことを特徴とするIP転送網を用いた端末間通信接続制御方法。

【請求項45】電話番号を質問されてIPアドレスを回答する電話番号サーバを含むメディアルータを用いることを特徴とする請求項44に記載のIP転送網を用いた端末間通信接続制御方法。

【請求項46】少なくとも送信元電話番号と宛先電話番号とを含む呼設定IPパケット送信することにより電話呼接続フェーズを行う請求項44に記載のIP転送網を用いた端末間通信接続制御方法。

【請求項47】電話呼識別子の接続制御は複数の電話機に共通のポート番号を用い、電話機毎の個別音声通信は電話機毎に異なるポート番号を割り当てるようになっている請求項46に記載のIP転送網を用いた端末間通信接続制御方法。

【請求項48】IP転送網の内部をIPパケットを送受することにより、呼設定、呼設定受付、呼経過、応答から成る電話通信のための端末間通信接続制御を行って通話フェーズに移行し、IPパケットを送受することにより、解放と解放から成るステップを経て前記通話フェーズを終了させることを特徴とするIP転送網を用いた端末間通信接続制御方法。

【請求項49】電話番号を質問されてIPアドレスを回答する電話番号サーバを含み、初段で電話番号サーバに問合せでIPアドレスを解決し、次に前記取得したIPアドレスを用いて電話呼設定IPパケットを形成し、IP転送網に送信して電話通信の接続フェーズを開始することを特徴とするメディアルータ。

【請求項50】電話呼設定IPパケットの内部に少なくとも送信元電話番号と宛先電話番号とを含んでいる請求項49に記載のメディアルータ。

【請求項51】1以上の電話機を収容し、PBX制御部又は電話制御部の一方又は

両方の機能を含んでいる請求項49に記載のメディアルータ。

【請求項52】IPパケット音声画像送受信機又はIP端末、又はLANにIPパケットを送受できる通信回線を接続できるようになっている請求項49に記載のメディアルータ。

【請求項53】発信優先度制御管理表を含み、メディアルータに接続する電話機やIP端末、動画像送受信機から、メディアルータに送られてくるIPパケット内のIPアドレスと、TCPセグメント又はUDPの送信元ポート番号を用いて、発信優先度制御管理表の指定に従い優先度が高い順から網ノード装置側の通信回線に送出するようになっている請求項49に記載のメディアルータ。

【請求項54】発信優先度制御管理表を含み、メディアルータに接続する電話機やIP端末、動画像送受信機から、メディアルータに送られてくるIPパケット内のIPアドレスと、TCPセグメント又はUDPの送信元ポート番号を用いて、発信優先度制御管理表の指定に従い優先度が高い順から網ノード装置側の通信回線に送出するようになっている請求項49に記載のメディアルータ。

【請求項55】IP転送網は2以上の網ノード装置を含み、メディアルータはIP通信回線を経て前記網ノード装置のいずれかに接続されており、前記IP通信回線の網ノード装置側終端部の論理端子に、内部IPアドレスが付与されており、それぞれのメディアルータにはそれぞれ外部IPアドレスが付与されており、かつ前記メディアルータは通信回線を経て1以上の電話機に接続されており、網ノード装置内部のアドレス管理表のレコードとして、前記外部IPアドレス及び前記内部IPアドレスを含み、

所定会社A-1，会社A-2，・・・，会社A-N（N>2）の間でのみ電話通信を行えるようにIP通信レコードを設定して、閉域電話通信を行うようにできることを特徴とするIP転送網を用いた端末間通信接続制御方法。

【請求項56】所定会社A-1，会社A-2，・・・，会社A-N（N>2）の間で有効な閉域電話通信網に属する会社A-1の電話機が、会社A-1の内線電話機と電話通信でき、会社A-1以外の会社の電話機は、会社A-1の内線電話機と電話通信できないようになっている請求項55に記載のIP転送網を用いた端末間通信接続制御方法。

【請求項 5 7】 I P 転送網は 2 以上の網ノード装置を含み、メディアルータは I P 通信回線を経て前記網ノード装置のいずれかに接続されており、前記 I P 通信回線の網ノード装置側終端部の論理端子に内部 I P アドレスが付与されており、それぞれのメディアルータにはそれぞれ外部 I P アドレスが付与されており、かつ前記メディアルータは通信回線を経て 1 以上の電話機を接続しており、網ノード装置内部のアドレス管理表のレコードとして、前記外部 I P アドレス及び前記内部 I P アドレスを含み、 I P カプセル化方法を規定する 1 以上の I P 通信レコードが予め設定可能であり、通話相手を限定する閉域通信網内の端末間通信に供する 1 以上の I P 通信レコードが予め設定してあり、通話相手を予め限定しない端末間通信に供する I P 通信レコードは、端末間の接続要求により接続フェーズにおいて新規に設定された後に端末間通信に供され、解放フェーズにおいて、前記 I P 通信レコードは抹消されるようになっていることを特徴とする I P 転送網を用いた端末間通信接続制御方法。

【請求項 5 8】 通話相手を限定する閉域電話通信においては、前記メディアルータ内部の電話番号サーバが用いられ、通話相手を限定しない開域電話通信においては I P 転送網の内部の電話番号サーバが用いられる請求項 5 7 に記載の I P 転送網を用いた端末間通信接続制御方法。

【請求項 5 9】 発信側の電話管理サーバと着信側の電話管理サーバとの間で、 I A M パケット、 A C M パケット、 C P G パケット、 A N M パケット、 R E L パケット、 R L C パケットを送受するようになっている請求項 5 7 に記載の I P 転送網を用いた端末間通信接続制御方法。

【請求項 6 0】 応答の後に応答確認を実施し、解放と解放完了との間に解放受付を実施する請求項 5 9 に記載の I P 転送網を用いた端末間通信接続制御方法。

【請求項 6 1】 開域電話通信において、 I P 通信回線と、音声通信において用いられる通信回線とを分離できることを特徴とする I P 転送網を用いた端末間接続制御方法。

【請求項 6 2】 電話番号サーバが C I C 管理表を有し、送信元電話番号、宛先電話番号、電話通信の開始時刻、終了時刻を記録できるようになっている請求項 5 7 に記載の I P 転送網を用いた端末間接続制御方法。

【請求項 6 3】運用管理サーバが電話番号サーバに問い合わせ、送信元電話番号、宛先電話番号、電話通信の開始時刻、終了時刻を取得して課金に用いる請求項 5 7 に記載の I P 転送網を用いた端末間接続制御方法。

【請求項 6 4】発信回線数管理を行うようになっている請求項 5 7 に記載の I P 転送網を用いた端末間接続制御方法。

【請求項 6 5】着信回線数管理を行うようになっている請求項 5 7 に記載の I P 転送網を用いた端末間接続制御方法。

【請求項 6 6】網ノード装置が、I P 網の外部から入力した端末間通信接続用の I P パケットと、音声通信用の I P パケットとを分離する機能を有し、また、I P 網の内部から網ノード装置へ送られた I P パケットを合流して、メディアルータへ送出するようになっている請求項 5 7 に記載の I P 転送網を用いた端末間通信接続制御方法。

【請求項 6 7】公衆電話交換網の中継交換機と I P 転送網のゲートウェイ 1 は、N N I インタフェース通信回線で接続しており、前記公衆電話交換網の加入者交換機“X 1”に接続する電話番号“T N - 1”である電話機“T - 1”を、前記 I P 転送網に接続するメディアルータに、電話番号“T N - 1”として接続し、前記公衆電話交換網の加入者交換機“X 2”に接続する電話番号“T N - 2”である電話機“T - 2”から電話番号“T N - 1”に電話呼接続要求すると、前記接続要求は加入者交換機“X 1”に到達し、加入者交換機“X 1”の着信転送機能により、前記接続要求は、前記中継交換機、前記 N N I インタフェース通信回線、前記ゲートウェイ 1、前記 I P 転送網、前記メディアルータに接続する電話機“T - 1”に到達するようになっていることを特徴とする I P 転送網を用いた端末間通信接続制御方法。

【請求項 6 8】公衆電話交換網の加入者交換機と I P 転送網のゲートウェイ 2 は、U N I インタフェース通信回線で接続しており、前記公衆電話交換網の加入者交換機“X 1”に接続する電話番号“T N - 1”である電話機“T - 1”を、前記 I P 転送網に接続するメディアルータに、電話番号“T N - 1”として接続し、前記公衆電話交換網の加入者交換機“X 2”に接続する電話番号“T N - 2”である電話機“T - 2”から電話番号“T N - 1”に電話呼接続要求すると、前

記接続要求は加入者交換機“X1”に到達し、加入者交換機“X1”の着信転送機能により、前記接続要求は、前記加入者交換機、前記UNIインタフェース通信回線、前記ゲートウェイ2、前記IP転送網、前記メディアルータに接続する電話機“T-1”に到達するようになっていることを特徴とするIP転送網を用いた端末間通信接続制御方法。

【請求項69】公衆電話交換網1に接続する電話機から、IP転送網を経由して他の公衆電話交換網2に接続する他の電話機に通信するため、前記公衆電話交換網から前記IP転送網へ通話回線を接続するためのIP転送網内部への入回線情報は、宛先電話機の電話番号をパラメータとして当該IP転送網内部の回線情報を含むゲートウェイに問い合わせ取得し、ここで前記回線情報を含むゲートウェイはその内部のIP転送網入回線表を参照するようにしたとを特徴とするIP転送網を用いた端末間通信接続制御方法。

【請求項70】公衆電話交換網1に接続する電話機から、IP転送網を経由して他の公衆電話交換網2に接続する他の電話機に通信するため、前記公衆電話交換網から前記IP転送網へ通話回線を接続するためのIP転送網内部への入回線情報は、宛先電話機の電話番号をパラメータとして当該IP転送網外部の入回線情報サーバに問い合わせ取得し、ここで入り回線情報サーバはその内部のIP転送網入回線表を参照するようにしたことを特徴とするIP転送網を用いた端末間通信接続制御方法。

【請求項71】公衆電話交換網1に接続する電話機から、IP転送網を経由して他の公衆電話交換網2に接続する他の電話機に通信するため、前記IP転送網から前記公衆電話交換網への通話回線を接続するためのIP転送網外部への出回線情報は、宛先電話機の電話番号をパラメータとして当該IP転送網内部の出回線情報を用いることを特徴とするIP転送網を用いた端末間通信接続制御方法。

【請求項72】公衆電話交換網1に接続する電話機から、IP転送網を経由して前記公衆電話交換網に接続する他の電話機に通信するため、前記IP転送網から他の公衆電話交換網2への通話回線を接続するためのIP転送網外部への出回線情報は、宛先電話機の電話番号をパラメータとして当該IP転送網内部のゲートウェイに問い合わせ、前記ゲートウェイは当該IP転送網内部にある電話番号サ

一バに問い合わせ、前記電話番号サーバが回答することを特徴とする I P 転送網を用いた端末間通信接続制御方法。

【請求項 7 3】前記 I P 転送網内部への入回線情報は NNI 通信回線経由のアクセス情報であり、前記 I P 転送網外部への出回線情報は NNI 通信回線経由のアクセス情報である請求項 6 9 乃至 7 2 のいずれかに記載の I P 転送網を用いた端末間通信接続制御方法。

【請求項 7 4】前記 I P 転送網内部への入回線情報は UNI 通信回線経由のアクセス情報であり、前記 I P 転送網外部への出回線情報は UNI 通信回線経由のアクセス情報である請求項 6 9 乃至 7 2 のいずれかに記載の I P 転送網を用いた端末間通信接続制御方法。

【請求項 7 5】前記 I P 転送網内部への入回線情報は NNI 通信回線経由のアクセス情報であり、前記 I P 転送網外部への出回線情報は UNI 通信回線経由のアクセス情報である請求項 6 9 乃至 7 2 のいずれかに記載の I P 転送網を用いた端末間通信接続制御方法。

【請求項 7 6】前記 I P 転送網内部への入回線情報は、UNI 通信回線経由のアクセス情報であり、前記 I P 転送網外部への出回線情報は NNI 通信回線経由のアクセス情報である請求項 6 9 乃至 7 2 のいずれかに記載の I P 転送網を用いた端末間通信接続制御方法。

【請求項 7 7】公衆電話交換網の交換機から、回線情報を含むゲートウェイを信号局コードにより識別するようになっている請求項 6 9 又は 7 0 に記載の I P 転送網を用いた端末間通信接続制御方法。

【請求項 7 8】カプセル化機能付終端ゲートウェイと中継ゲートウェイとの間において、電話の接続制御 I P 通信回線と音声 I P 通信回線とが分離されており、電話機 1、カプセル化機能付終端ゲートウェイ及び中継ゲートウェイ、NNI インタフェース通信回線、公衆電話交換網、電話機 2 を順に経由して、2 つの電話機間において電話通信を行えることを特徴とする I P 転送網を用いた端末間通信接続制御方法。

【請求項 7 9】カプセル化機能付終端ゲートウェイ内の電話管理サーバと中継ゲートウェイ内の中継制御部とが共に個別の CIC 管理表を有し、前記個別の CIC 管理

表を用いて回線番号の管理を行うようになっている請求項 7 8 に記載の I P 転送網を用いた端末間通信接続制御方法。

【請求項 8 0】中継制御部が信号局アドレス管理表を検索して宛先電話機の電話番号を提示し、当該電話機を管理する交換機の信号局アドレスを取得するようになっている請求項 7 8 に記載の I P 転送網を用いた端末間通信接続制御方法。

【請求項 8 1】中継制御部が、予め公衆電話交換網と取り決めてあるルールにより回線番号及び信号リンク選択を定めるようになっている請求項 7 8 に記載の I P 転送網を用いた端末間通信接続制御方法。

【請求項 8 2】I P パケット内部のアドレス情報及び信号ユニット内のラベル情報を保持しているアドレス接続表を用いて、I P パケットと信号ユニットとの変換を行うようになっている請求項 7 8 に記載の I P 転送網を用いた端末間通信接続制御方法。

【請求項 8 3】メディアパス接続表を用いて、デジタル音声を格納した I P パケットと NNI 通信回線の音声通信回線の内部を伝送する音声信号との変換を行うようになっている請求項 7 8 に記載の I P 転送網を用いた端末間通信接続制御方法。

【請求項 8 4】請求項 7 8 の I P 転送網を用いた端末間通信制御方法において、I P パケット内部のアドレス情報及び信号ユニット内のラベル情報を含むアドレス接続表を用いて、I P パケットと信号ユニットとの変換を行うことを特徴とする中継制御部。

【請求項 8 5】請求項 7 8 の I P 転送網を用いた端末間通信制御方法において、メディアパス接続表を用いて、デジタル音声を格納した I P パケットと NNI 通信回線の音声通信回線の内部を伝送する音声信号との変換を行うことを特徴とする音声制御部。

【請求項 8 6】音声 I P パケットを送受するための I P アドレスを有し、メディアパス接続表の設定に供する請求項 8 5 に記載の音声制御部。

【請求項 8 7】公衆電話交換網から受信又は送信するために用いる論理音声通信回線を確保し、その識別子を定めることを特徴とする請求項 8 5 に記載の音声制御部。

【請求項 88】カプセル化機能付終端ゲートウェイは中継制御部及び網ノード装置を含み、前記網ノード装置は IP カプセル化と逆カプセル化の機能を有し、前記中継制御部は電話管理サーバ、電話番号サーバ、代理電話サーバ、表管理サーバを含み、メディアルータから網ノード装置に入力した IP パケットのうち、電話呼制御 IP パケットは中継制御部へ転送し、音声 IP パケットは音声 IP 通信回線に分岐するようになっていることを特徴とする請求項 78 に記載のカプセル化機能付終端ゲートウェイ。

【請求項 89】電話機 1、公衆電話交換網 1、NNI インタフェース通信回線 1、IP 転送網に属する中継ゲートウェイ 1 と中継ゲートウェイ 2、NNI インタフェース通信回線 2、公衆電話交換網 2、電話機 2 とを順に経由し、2 つの電話機間において電話通信を行うことを特徴とする IP 転送網を用いた端末間通信接続制御方法。

【請求項 90】電話機 1、公衆電話交換網、NNI インタフェース通信回線、IP 転送網に属する中継ゲートウェイとカプセル化機能付ゲートウェイ、メディアルータ、電話機 2 とを順に経由し、2 つの電話機間において電話通信を行うことを特徴とする IP 転送網を用いた端末間通信接続制御方法。

【請求項 91】電話機 1、メディアルータ、IP 転送網に属する非カプセル化機能付終端ゲートウェイと中継ゲートウェイ、NNI インタフェース通信回線、公衆電話交換網、電話機 2 とを順に経由し、2 つの電話機間において電話通信を行うことを特徴とする IP 転送網を用いた端末間通信接続制御方法。

【請求項 92】非カプセル化終端ゲートウェイ内部のアドレス管理表により、IP アドレス及びポート番号の組を登録した IP パケットのみを通過させる IP パケットフィルタリングを行うようになっている請求項 91 に記載の IP 転送網を用いた端末間通信接続制御方法。

【請求項 93】非カプセル化終端ゲートウェイ内部のアドレス管理表により、ポート番号を登録した IP パケットのみ通過させる IP パケットフィルタリングを行う請求項 91 に記載の IP 転送網を用いた端末間通信接続制御方法。

【請求項 94】電話機 1、メディアルータ 1、IP 転送網 1 に属するカプセル化機能付終端ゲートウェイ及び中継ゲートウェイを経由し、IP 転送網 2 に属する

他の中継ゲートウェイ及び他のカプセル化機能付終端ゲートウェイを経由し、メディアルータ 2、電話機 2 を順に経由して、2 つの電話機間において電話通信を行い得ることを特徴とする I P 転送網を用いた端末間通信接続制御方法。

【請求項 9 5】電話機 1、メディアルータ 1、I P 転送網 1 に属する非カプセル化機能終端ゲートウェイ及び非カプセル化中継ゲートウェイを経由し、I P 転送網 2 に属する他の中継ゲートウェイ及び他の非カプセル化終端ゲートウェイを経由し、メディアルータ 2、電話機 2 を順にまたは、その逆方向に転送することにより、2 つの電話機間において電話通信を行うことを特徴とする I P 転送網を用いた端末間通信接続制御方法。

【請求項 9 6】通信会社 X の運用する I P 転送網 X から、通信会社 Y の運用する I P 転送網 Y へ、I P 転送網 Y の中継制御部 Y を宛先とする I P パケットが入力するケースにおいて、前記中継制御部 Y は、前記 I P パケットを受信すると、電話番号サーバに問合せ、前記 I P パケット内部に含まれる宛先電話番号への接続に関与する、I P 転送網の他中継制御部 Z の I P アドレスを取得して、前記取得した I P アドレスを新しく設定した I P パケットは、前記他の中継制御部 Z に転送されるようになっていることを特徴とする I P 転送網を用いた端末間通信接続制御方法。

【請求項 9 7】網ノード装置は、外部 I P パケットを I P カプセル化して内部 I P パケットを形成する機能、及び、内部 I P パケットを逆 I P カプセル化して前記外部 I P パケットに復元する機能を有し、前記 I P カプセル化と逆 I P カプセル化方法はアドレス管理表のレコードとして保持されており、端末のアドレスはアドレス管理表に含まれる請求項 9 に記載の I P 転送網を用いた端末間通信接続制御方法。

【請求項 9 8】網ノード装置は、外部 I P パケットを I P カプセル化して内部 I P パケットを形成する機能、及び、内部 I P パケットを逆 I P カプセル化して前記外部 I P パケットに復元する機能を有し、前記 I P カプセル化と逆 I P カプセル化方法はアドレス管理表のレコードとして保持されており、端末のアドレスはアドレス管理表に含まれる請求項 1 0 に記載の I P 転送網を用いた端末間通信接続制御方法。

【請求項99】マルチキャストサービス提供者の情報及びマルチキャストサービス購入者の情報を、ユーザサービスサーバ経由で受付けて、マルチキャストトリ－構造の設定に利用するようになっている請求項9に記載の端末間通信接続制御方法。

【請求項100】マルチキャストトリ－構造サーバが、網ノード装置やルータ間の通信回線による接続情報や通信回線コストをリソース管理サーバに問合せて取得し、マルチキャストトリ－構造の設定に利用するようになっている請求項9に記載の端末間通信接続制御方法。

【請求項101】マルチキャストトリ－構造サーバが、網ノード装置内のアドレス管理表へのアドレス付加情報やルータ内の経路表サーバへの付加情報を、複数の表管理サーバに通知して、マルチキャストトリ－構造を定める様になっている請求項9に記載の端末間通信接続制御方法。

【請求102】各ルータの経路表に、マルチキャスト通信レコードを設定しておき、トリ－構築サーバから、前記マルチキャスト通信レコードを利用して、表管理サーバへ、マルチキャストサービス用のトリ－構造設定用のアドレス管理表追加情報や経路表追加情報を転送するようにするようになっている請求項9に記載の端末間通信接続制御方法。

【請求項103】マルチキャスト代理サーバが、網ノード装置に接続する端末と個別通信し、必要であれば、マルチキャストデータを送信することにより、高信頼度マルチキャストを実現するようになっている請求項9に記載の端末間通信接続制御方法。

【請求項104】マルチキャストIPアドレスを宛先アドレスとして含むIPパケットを検出したとき、当該IPパケットを廃棄して、送信元へのIPパケット集中を排除できるようになっている請求項9に記載の端末間通信接続制御方法。

【請求項105】IPカプセル化において、当該通信レコード内の内部パケット出力指定が無指定であるとき、IPパケットを溢れ通信回線に転送するようになっている請求項9に記載の網ノード装置。

【請求項106】音声送信端末からデジタル化音声を送信し、複数のデジタル化音声受信端末が前記デジタル化音声を受信するようになっていることを特

徴とするマルチキャスト有線音声放送通信システム。

【請求項 1 0 7】 デジタル化音声動画像送信端末からデジタル化音声を送信し、複数のデジタル化音声動画像受信端末が前記デジタル化音声動画像を受信するようになっていることを特徴とする有線 TV 通信システム。

【請求項 1 0 8】 IP 転送網は 1 以上の網ノード装置を有し、前記網ノード装置は、IP 転送網の外部から入力する外部 IP パケットを IP カプセル化して内部 IP パケットを形成する機能、及び内部 IP パケットを逆カプセル化して前記外部 IP パケットに復元して外部に出力する機能を有し、前記内部 IP パケットは、IP 転送網内部を、マルチキャスト機能付ルータを 1 以上通過して転送され、前記網ノード装置に IP 通信回線を経て接続する 1 以上の端末は、それぞれ固有の外部 IP アドレスを有すると共に、マルチキャストサービス毎に定まるマルチキャスト IP アドレスを 1 以上有し、マルチキャストデータ送信側の 1 以上の端末が送信したマルチキャストデータは、前記 IP 転送網内部を転送され、1 以上の端末に送達することにより前記端末は 1 以上のマルチキャストサービスを受けられるようになっていることを特徴とする IP 転送網を用いたマルチキャスト通信システム。

【請求項 1 0 9】 受信側端末は、IP 転送網運用者に依頼することにより、マルチキャストサービス別のマルチキャスト IP アドレスを随時新たに設置し、あるいは取り消すことができるようになっている請求項 1 0 8 に記載の IP 転送網を用いたマルチキャスト通信システム。

【請求項 1 1 0】 マルチキャストサービス代理サーバは、網ノード装置に、1 以上を接続できるようになっている請求項 1 0 8 に記載の IP 転送網を用いたマルチキャスト通信システム。

【請求項 1 1 1】 マルチキャストサービス代理サーバが、マルチキャストサービス代理サーバが接続する当該網ノード装置に接続する 1 以上の端末から受信した ACK パケット集約情報や、NACK パケット集約情報、個別端末の情報の集約情報を含む IP パケットを、当該マルチキャストサービスを実施している送信端末、あるいは、送信事務サーバへ送信できる請求項 1 0 8 に記載の IP 転送網を用いたマルチキャスト通信システム。

【請求項 1 1 2】マルチキャストサービス代理サーバが、マルチキャストサービス代理サーバが接続する当該マルチキャストサービスを実施している送信端末、あるいは送信事務サーバと、IP パケットを送受して情報交換できるようになっている請求項 1 0 8 に記載の IP 転送網を用いたマルチキャスト通信システム。

【請求項 1 1 3】マルチキャストサービス代理サーバが、送信元端末から送信されたマルチキャストデータを受信して内部に保持し、次にマルチキャストサービス代理サーバが、網ノード装置のマルチキャスト機能を用いて、前記保持しているマルチキャストデータを、マルチキャストサービス代理サーバが接続する当該網ノード装置に接続する端末に送出できる請求項 1 0 8 に記載の IP 転送網を用いたマルチキャスト通信システム。

【請求項 1 1 4】マルチキャストサービス代理サーバが、通信レコードを網ノード装置に設定してある特定の端末と、IP パケットを送受することにより情報交換できるようになっているようになっている請求項 1 0 8 に記載の IP 転送網を用いたマルチキャスト通信システム。

【請求項 1 1 5】IP カプセル化と逆 IP カプセル化の方法を指定する通信レコード内部の、内部 IP パケット出力先指定値が指定有りのとき IP カプセル化し、内部 IP パケット出力先指定値が指定無しの場合 IP カプセル化せずに、当該外部 IP パケットを、外部 IP パケット溢れ通信回線に出力するようになっている請求項 1 0 8 に記載のマルチキャスト通信システム。

【請求項 1 1 6】溢れ通信回線サーバは、IP カプセル化されない外部 IP パケットを外部 IP パケット溢れ通信回線を経由して受信すると共に、前記外部 IP パケットが含む情報を、網ノード装置経由で、マルチキャストサービス代理サーバに転送するようになっている請求項 1 1 5 に記載の IP 転送網を用いたマルチキャスト通信システム。

【請求項 1 1 7】溢れ通信回線サーバは、IP カプセル化されない外部 IP パケットを外部 IP パケット溢れ通信回線を経由して受信すると共に、前記 IP パケットが含む情報を、溢れ通信回線サーバとマルチキャストサービス代理サーバとを接続する通信回線を経由して、マルチキャストサービス代理サーバに転送するようになっている請求項 1 1 5 に記載の IP 転送網を用いたマルチキャスト通信

システム。

【請求項118】IPカプセル化と逆IPカプセル化の方法を指定する通信レコード内部の、内部IPパケット出力先指定値が指定有りのときIPカプセル化し、内部IPパケット出力先指定値が指定無しの場合、当該外部IPパケットを、外部IPパケット溢れ通信回線に出力するようになっていることを特徴とする網ノード装置。

【請求項119】外部IPパケットをIPカプセル化して内部IPパケットを形成する機能、及び内部IPパケットを逆IPカプセル化して前記外部IPカプセルに復元する機能を有し、前記IPカプセル化と逆IPカプセル化方法を指定する通信レコード内部の、外部IPパケット出力先指定値が指定有りのとき逆IPカプセル化し、外部IPパケット出力先指定値が指定無しの場合、当該内部IPパケットを、内部IPパケット溢れ通信回線に出力するようになっていることを特徴とする網ノード装置。

【請求項120】外部IPパケット溢れ通信回線に接続する溢れIPパケット振分け機能部を含むことができる請求項118に記載の網ノード装置。

【請求項121】網ノード装置のアドレス管理表に宛先マルチキャストアドレスを登録しておき、網ノード装置に入るIPパケットのヘッダ内の宛先マルチキャストアドレスが前記アドレス管理表に登録されている場合は前記IPパケットを転送し、登録されていない場合は、当該IPパケットを廃棄する方法により、予定外のIPパケットがIP転送網内部に混入することを防止するようにしていることを特徴とするIP転送網を用いたマルチキャスト通信システム。

【請求項122】網ノード装置のアドレス管理表に送信元端末のIPアドレスを登録しておき、網ノード装置に入るIPパケットのヘッダ内の送信元端末のIPアドレスが前記アドレス管理表に登録されている場合は前記IPパケットを転送し、登録されていない場合は、当該IPパケットを廃棄する方法により、予定外のIPパケットがIP転送網内部に混入することを防止するようにしている請求項121に記載のIP転送網を用いたマルチキャスト通信システム。

【請求項123】網ノード装置のアドレス管理表に端末のIPアドレスを登録してある場合は、IPパケットを送信し、IPアドレスを登録していない場合は、

前記IPパケットを溢れ通信回線に転送する方法により、予定外のIPパケットがIP転送網内部に混入することを防止するようにしていることを特徴とする網ノード装置。

【請求項124】網ノード装置経路表に宛先マルチキャストアドレスを登録しておき、網ノード装置に入る外部IPパケットのヘッダ内の宛先マルチキャストアドレスが前記経路表に登録されている場合は前記IPパケットを転送し、登録されていない場合は、当該IPパケットを廃棄する方法により、予定外のIPパケットがIP転送網内部に混入することを防止するようにしている請求項121に記載のIP転送網を用いたマルチキャスト通信システム。

【請求項125】経路表に宛先マルチキャストアドレスを登録しておき、網ノード装置に入る外部IPパケットのヘッダ内の宛先マルチキャストアドレスが、前記経路表に登録されている場合は前記IPパケットを転送し、登録されていない場合は、当該IPパケットを廃棄する方法により、予定外のIPパケットがIP転送網内部に混入することを防止するようにしていることを特徴とする網ノード装置。

【請求項126】マルチキャストサービス代理サーバが、送信元端末から送信されたマルチキャストデータを受信して内部に保持し、次に、マルチキャストサービス代理サーバが、網ノード装置のマルチキャスト機能を用いて、前記保持しているマルチキャストデータを、マルチキャストサービス代理サーバが接続する当該網ノード装置に接続する端末に送出できる請求項120又は124に記載のIP転送網を用いたマルチキャスト通信システム。

【請求項127】マルチキャストサービス代理サーバが、マルチキャストサービス代理サーバが接続する当該網ノード装置に接続する1以上の端末から受信したACKパケット集約情報や、NACKパケット集約情報、個別端末の情報の集約情報を含むIPパケットを、当該マルチキャストサービスを実施している送信端末、あるいは送信事務サーバへ送信できる請求項120又は124に記載のIP転送網を用いたマルチキャスト通信システム。

【請求項128】マルチキャストサービス代理サーバが、マルチキャストサービス代理サーバが接続する当該マルチキャストサービスを実施している送信端末、

あるいは、送信事務サーバと、IPパケットを送受して情報交換できるようになっている請求項122又は124に記載のIP転送網を用いたマルチキャスト通信システム。

【請求項129】マルチキャストサービス代理サーバは、IPパケット溢れ通信回線を経由して受信したIPパケットが含む情報を用いるようになっている請求項124乃至126のいずれかに記載のIP転送網を用いたマルチキャスト通信システム。

【請求項130】送信端末がデジタル化音声を送信し、複数の受信端末がデジタル化音声を受信しできるようになっている請求項122又は124に記載の有線音声放送通信システム。

【請求項131】マルチキャスト代理サーバが、送信端末と受信端末間における情報交換を仲介するようになっている請求項130に記載の有線音声放送通信システム。

【請求項132】マルチキャスト代理サーバと送信事務サーバとが、送信端末と受信端末間における情報交換を仲介するようになっている請求項130に記載の有線音声放送通信システム。

【請求項133】送信端末がデジタル化音声動画像を送信し、複数の受信端末がデジタル化音声動画像を受信できるようになっている請求項122又は124に記載の有線TV放送通信システム。

【請求項134】マルチキャスト代理サーバが、送信端末と受信端末間における情報交換を仲介するようになっている請求項133に記載の有線TV放送通信システム。

【請求項135】マルチキャスト代理サーバと送信事務サーバとが、送信端末と受信端末間における情報交換を仲介するようになっている請求項133に記載の有線TV放送通信システム。

【請求項136】端末は、通信回線経由で、アドレス管理モジュールを接続するルータに接続し、前記アドレス管理モジュールのアドレス管理表に送信元IPアドレスを登録しておき、ルータに入るIPパケットのヘッダ内の送信元IPアドレスが、前記アドレス管理モジュール内のアドレス管理表に登録されている場合は

前記 I P パケットを転送し、登録されていない場合は、当該 I P パケットを廃棄する方法により、予定外の I P パケットが I P 転送網内部に混入することを防止するようにしていることを特徴とする I P 転送網を用いたマルチキャスト通信システム。

【請求項 1 3 7】端末は、通信回線経由で、アドレス管理モジュールを接続するルータに接続し、前記アドレス管理モジュールのアドレス管理表に送信元 I P アドレスを登録しておき、ルータに入る I P パケットのヘッダ内の送信元 I P アドレスが、前記アドレス管理モジュール内のアドレス管理表に登録されている場合は前記 I P パケットを転送し、登録されていない場合は、当該 I P パケットをルータの溢れ通信回線に転送する方法により、予定外の I P パケットが I P 転送網内部に混入することを防止するようにしていることを特徴とする I P 転送網を用いたマルチキャスト通信システム。

【請求項 1 3 8】 I P 転送網は 2 以上のルータを含み、これらルータは I P 通信回線で接続され、端末は、通信回線経由で、アドレス管理モジュールを接続するルータに接続し、前記アドレス管理モジュールのアドレス管理表に端末の I P アドレスを登録しておき、ルータに入る I P パケットのヘッダ内の送信元 I P アドレスが、前記アドレス管理モジュール内のアドレス管理表に登録されている場合は前記 I P パケットを転送し、登録されていない場合は、当該 I P パケットを廃棄する方法により、予定外の I P パケットが I P 転送網内部に混入することを防止するようにしていることを特徴とする I P 転送網を用いたマルチキャスト通信システム。

【請求項 1 3 9】マルチキャストサービス提供者が通信会社 X の管理する送信事務サーバと、通信会社 Y の管理する送信事務サーバにマルチキャストデータを送信し、前記通信会社 X の送信事務サーバは、通信会社 X の管理する I P 転送網に接続する複数端末にマルチキャストデータを配送し、同様に、前記通信会社 Y の送信事務サーバは、通信会社 Y の管理する I P 転送網に接続する複数端末にマルチキャストデータを配送できるようになっていることを特徴とするマルチキャスト通信システム。

【請求項 1 4 0】通信会社 X の管理する I P 転送網内の配送結果を、マルチキャ

ストサービス代理サーバ経由で、通信会社 X の送信事務サーバが収集し、マルチキャストサービス提供者に通知できるようになっており、通信会社 Y の管理する I P 転送網内の配送結果を、マルチキャストサービス代理サーバ経由で、通信会社 Y の送信事務サーバが収集し、マルチキャストサービス提供者に通知できるようになっている請求項 1 3 9 に記載のマルチキャスト通信システム。

【発明の詳細な説明】

【 0 0 0 1 】

【発明の属する技術分野】

本発明は、I P (Internet Protocol) 端末、I P 電話機、音声画像装置などの 2 端末間の I P 通信やマルチキャスト I P 技術を用いた 1 : n の I P 通信に適用できる I P 転送網を用いた端末間通信接続制御方法に関する。

【 0 0 0 2 】

【従来の技術】

メール送受信、電話、画像通信などの種々の端末間通信を I P 転送網を利用して実現する方法として本出願人による特願平 1 1 - 1 2 8 9 5 6 号（以下、「先行出願」とする）があり、この先行出願では、I P 電話網、I P 画像網、I P 電子データ汎用網等の様々な特質を有する複数の I P 転送網を内部に分離して含む「統合 I P 転送網」を実現する方法を開示している。各種端末間通信を一体化した I P 転送網を実現するために、前記先行出願が開示している内容を図 3 3 9 を参照して概説する。

【 0 0 0 3 】

統合 I P 転送網 9 0 1 の内部に、I P 画像網 9 0 2、I P 電子データ汎用網 9 0 3、I P 電話網 9 0 4 等の異なる特質を有する複数の I P 転送網を仮想的に設置し、統合 I P 転送網 9 0 1 の外部から統合 I P 転送網 9 0 1 への入力点に設置される網ノード装置 9 0 5 - X や 9 0 5 - Y の内部にそれぞれアドレス管理表を設定し、このアドレス管理表に端末のアドレス等を予め登録しておき、統合 I P 転送網 9 0 1 に入力する I P パケットに書き込まれているアドレス等と、前記アドレス管理表に登録されているアドレス等とを比較することにより、統合 I P 転送網 9 0 1 の内部において個別の I P 転送網に振り分けて送信できるようにして

いる。

【0004】

次に、本発明に関係し、公衆電話交換網（PSTN）で採用されている端末間通信接続制御方法（No.7-共通通信信号方式）を概説する。

【0005】

図340において、98-1及び98-3は電話機が接続する交換機（加入者交換機）、98-2は中継交換機、98-4及び98-5は電話機である。98-6乃至98-8は交換機の通話路制御部、98-9乃至98-11は交換機内部制御部、98-12乃至98-14は電話の端末間接続制御を行う信号局（SP：Signalling Point）である。交換機内部制御部は交換機内部動作制御と共に、通話路制御部と信号局との間の通話回線の設定や復旧のための情報交換などを行う。

【0006】

98-12及び98-14を特に信号端局（SEP：Signalling End Point）といい、98-13を特に信号中継局（STP：Signalling Transfer Point）という。98-15は他の信号端局である。これら信号局98-12乃至98-15は、それぞれ信号回線98-24乃至98-27を経て信号網98-16に接続されており、端末間通信接続制御や網の保守・運用に用いる情報などを信号ユニット（SU：Signalling UNIT）に格納して信号局の間で互いに送受信する。信号局には、他の信号局と識別するための16ビットの信号局コード（PC：Point Code）が付与されている。一方、98-21及び98-22は電話音声を伝送する通話回線であり、端末間通信接続制御のための情報は伝送しない。電話回線98-20及び98-23は、音声と端末間通信接続制御情報が一体のまま、つまり音声と端末間通信接続制御情報とは分離されずに伝送されるインタフェースである（UNIという）。公衆電話交換網（PSTN）内部において、信号回線98-24乃至98-26と通話回線98-21、98-22とが分離していることが、No.7-共通線信号方式の特徴である。

【0007】

図341に示す信号ユニットは、「宛先信号局コード」（DPC：Destination Po

int Code)、「起点信号局コード」(OPC:Origin Point Code)、「回線番号」(CIC:Circuit Identification Code)、メッセージ種別(MSG:message)、メッセージのパラメータを含んでいる。

【0008】

宛先信号局コードは信号ユニットを送る宛先を示し、起点信号局コードは信号ユニットの送信元を示し、回線番号(CIC:Circuit Identification Code)は送信元信号局と宛先信号局の間に設定する通話回線を識別する識別番号である。メッセージ種別として、例えば端末間通信接続制御に用いるためのIAM, ACM, CPG, ANM, REL, RLC, SUS, RES, CONがある。信号ユニットのメッセージ種別領域にIAMと書込んだ信号ユニットを、初期アドレスメッセージ(IAM)という。同様に、信号ユニットのメッセージ種別領域にACMと書込んだ信号ユニットはアドレス完了メッセージ(ACM)、CPGと書込んだ信号ユニットは呼経過メッセージ(CPG)、ANMと書込んだ信号ユニットは応答メッセージ(ANM)、RELと書込んだ信号ユニットは解放メッセージ(REL)、RLCと書込んだ信号ユニットは解放完了メッセージ(RLC)、SUSと書込んだ信号ユニットは中断メッセージ(SUS)、RESと書込んだ信号ユニットは再開メッセージ(RES)、CONと書込んだ信号ユニットは接続メッセージ(SUS)という。

【0009】

図340に示す電話機98-4から交換機98-1、98-2、98-3を経由して、電話機98-5と電話通信するための端末間通信接続制御方法を図342を参照して説明する。なお、各信号局は、各信号局に付与されている信号局コードを宛先や送信元を示すアドレスとして設定した信号ユニットを、信号回線98-24乃至98-27及び共通線信号網98-16を経由して交換する。電話機98-4と交換機98-1は電話回線98-20で接続されており、電話機98-4の端末間接続制御は交換機98-1内の信号局98-12に受け持たせている。同様に、電話機98-5と交換機98-3は電話回線98-23で接続されており、電話機98-5の端末間接続制御は交換機98-3内の信号局98-14に受け持たせている。

【0010】

利用者が電話機 98-4 から発呼要求すると信号局 98-12 が受信し（図 3 4 2 のステップ X1）、交換機 98-1 の通話路制御部 98-6 及び交換機内部制御部 98-9 の機能により、電話機 98-4 から受信した宛先電話番号を用いて通信回線を決め、その通信回線識別子（CIC）を書込んだ信号ユニットを初期アドレスメッセージ（IAM）として形成する。初期アドレスメッセージ（IAM）のパラメータ領域には少なくとも電話機 98-5 の電話番号、つまり宛先電話番号 “Tel-No-98-5” を書き込む。更に、電話機 98-4 の電話番号、つまり送信元電話番号 “Tel-No-98-4” を書き込むこともできる。

【0011】

次に、信号局 98-12 は、電話呼出を行うための初期アドレスメッセージ（IAM）を交換機 98-2 内の信号局 98-13 に送る（ステップ X2）。IAM には、通話回線 98-21 内部の論理通信回線である通話回線の回線番号 “98-4-98-5”、宛先電話番号 “Tel-No-98-5”、送信元電話番号 “Tel-No-98-4”（省略できるオプション）などが含まれている。信号局 98-12 は IAM を送信した後、後述するアドレス完了メッセージ（ACM）の待ち状態に移行すると共に、ACM 待ちタイマーを起動する。

【0012】

交換機 98-2 内の信号局 98-13 は前記 IAM を受信し、交換機内部制御部 98-10 を経て通話回線制御部 98-7 に回線番号 “98-4-98-5” を通知し、通話回線制御部 98-7 は導通試験して通話回線 98-21 を通話可能とし、信号局 98-13 は交換機 98-3 内の信号局 98-14 に前記 IAM を送り（ステップ X3）、信号局 98-14 は受信した IAM の内容を調べ、制御部 98-11 及び通話回線制御部 98-8 を経て通話回線 98-22 を通話可能とし、更に信号局 98-14 は電話機 98-5 を交換機 98-3 に接続しており、着信を許容されているかを調べ、着信許容の場合は電話機 98-5 に呼設定要求を行い（ステップ X4）、更に信号局 98-14 は IAM を受信したことを通知するアドレス完了メッセージ（ACM）を返信し（ステップ X5）、ACM は信号局 98-13 を経て信号局 98-12 に到達する（ステップ X6）。信号局 98-12 は ACM を受信すると、既に設定してある ACM 待ちタイマーを停止する。なお、ACM を受信する前の時点

において、ACM待ちタイマが満了した場合は通話回線は解放されている。

【 0 0 1 3 】

交換機 9 8 - 3 内の信号局 9 8 - 1 4 は、電話機 9 8 - 5 から呼出音を鳴動中であることを意味する情報を受信すると（ステップX7）、信号局 9 8 - 1 3 に対して呼経過メッセージ（CPG）を送信し（ステップX8）、信号局 9 8 - 1 3 は受信したCPGを信号局 9 8 - 1 2 に送信し（ステップX9）、交換機 9 8 - 1 内の信号局 9 8 - 1 2 はCPGを受信し、次に信号局 9 8 - 1 2 は電話機 9 9 - 4 に呼出中音を送信する（ステップX10）。電話機 9 8 - 5 が前記呼設定要求に応答すると（ステップX11）、電話機 9 8 - 5 と交換機 9 8 - 4 との間の通話回線 9 8 - 2 3 を通話可能とし、更に電話機 9 8 - 5 が応答したことを示す応答メッセージ（ANM）を信号局 9 8 - 1 3 に送信する（ステップX12）。

【 0 0 1 4 】

信号局 9 8 - 1 3 は受信したANMを信号局 9 8 - 1 2 に送信し（ステップX13）、信号局 9 8 - 1 2 は電話機 9 8 - 4 に送信している呼出音の停止を通知し（ステップX14）、電話機 9 8 - 4 と電話機 9 8 - 5 との間で電話音声の送受が可能となり、通話フェーズに移行する（ステップX15）。電話機 9 8 - 4 の送受話器がおかれて（オンフック）、解放要求（REL）が送出され（ステップX16）、信号局 9 8 - 1 2 は解放要求（REL）を受信すると、次の解放要求（REL）を信号局 9 8 - 1 3 に送出し（ステップX17）、更に当該通話回線が空き状態になったことを示す解放完了（RLC）を電話機 9 8 - 4 に通知する（ステップX18）。そして信号局 9 8 - 1 3 は解放要求（REL）を受信すると、次の解放要求（REL）を信号局 9 8 - 1 4 に送出し（ステップX19）、更に当該通話回線が空き状態になったことを示す解放完了（RLC）を信号局 9 8 - 1 2 に通知し（ステップX20）、信号局 9 8 - 1 4 は解放要求（REL）を受信すると、次の解放要求（REL）を電話機 9 8 - 5 に送出し（ステップX21）、更に当該通話回線が空き状態になったことを示す解放完了（RLC）を信号局 9 8 - 1 3 に通知する（ステップX22）。電話機 9 8 - 4 と信号局 9 8 - 1 2 との間、及び信号局 9 8 - 1 4 と電話機 9 8 - 5 との間において送受される端末間通信接続制御の手順は、電話機の種類によりバリエーションがあり、例えば前記ステップX18の直後に、電話機 9 8 - 4 から信号局 9

8-12に解放完了に対する確認通知が出され、或いは前記ステップX23の直後に、信号局98-14から電話機98-5に解放完了に対する確認通知が出されるようにしても良い。

【0015】

図343は、電話機98-4から交換機98-1乃至98-3を経由して、電話機98-5と電話通信するための他の端末間通信接続制御方法を説明する図である。この端末間通信接続制御方法は、図296において説明した端末間通信接続制御方法において、ステップX5及びX6を除いたもの、つまりアドレス完了メッセージACMを除いたものに相当する。但し、ステップX2において、信号局98-12はACM待ちタイマの代わりにCPG待ちタイマを設定し、信号局98-12はステップX9の後にCPG待ちタイマを停止する。以上説明した端末間通信接続制御方法は、交換機がISDN交換機でなく、アナログ交換機に採用した方法である。

【0016】

図344は、電話機98-4と電話機98-5との間の他の端末間通信接続制御方法を説明する図であり、この端末間通信接続制御方法では、前述した端末間通信接続制御方法において、応答完了メッセージ（ステップX14）及び通話フェーズ（ステップX15）を待たずに、電話通信を切断する一連のステップを行う例である（ステップX16乃至ステップX23）。

【0017】

図345は、電話機98-4から交換機98-1乃至98-3を経由して、電話機98-5と電話通信するための更に別の端末間通信接続制御方法において、通話中（ステップX15）に電話機98-4の送受話器が短い時間だけ置かれて（オンフック）、電話通信を一時的に中止するための中断メッセージが送信され（ステップX30乃至X33）、送受話器が戻されて（オフフック）、電話通信が再開される再開メッセージが送信され（ステップX35乃至X38）、通話中に戻る（ステップX39）場合を示している。以降の解放（REL）と解放完了（RLC）のステップは、図343を用いて説明した場合と同様である（ステップX40乃至X47）。

【0018】

次に、IP電話通信に関しては、TTC標準“JT-H323 パケットに基づくマルチメディア通信システム”があり、例えばITU-T勧告H323 ANNEX D準拠（1999年4月版）に記述されている。マルチメディア端末間通信における呼接続の制御を行う“シグナリングプロトコルとメディア信号のパケット化”技法は、JT-H225として規定され、また、マルチメディア端末間通信における“マルチメディア通信用制御プロトコル”は、JT-H245として規定されている。

【 0 0 1 9 】

次に、本発明で参照しており、ITUにより規定されるJT-H323ゲートウェイの基本的な機能を、図346～図349を参照して説明する。

【 0 0 2 0 】

図346においてブロック800がJT-H323ゲートウェイであり、SCN回線801から入力してきた音声や画像信号はSCN端末機能802においてデジタルデータ信号に変換され、変換機能803においてデータ形式や信号送受規則などが変換され、端末機能804においてIPパケットの形式に変換されてIP通信回線805へ送出される。また、逆方向の流れ、即ちIP通信回線805から入力した音声や画像データを含むIPパケットは、端末機能804においてデジタルデータの形式に復号化され、変換機能803においてデータ形式や信号送受規則などを変換され、SCN端末機能802においてSCN回線を流れる信号に変換されてSCN回線801へ送出される。ここで、音声や画像信号は、通信相手との電話番号のやりとりなどで使われる“呼制御データ”と、音声や画像そのものを構成する“正味のデータ”とに分けることができる。通信回線805には、呼制御データとしてのIPパケット810（図347）と、音声を構成する正味のデータとしてのIPパケット811（図348）と、画像そのものを構成する正味のデータとしてのIPパケット812（図349）とが流れる。ISDN回線の場合、SCN端末機能802はデータ回線終端装置（DSU）に相当する。また、端末機能804は、JT-323電話機やJT-323音声画像装置との対向通信を行うために必要な端末通信機能を有する。

【 0 0 2 1 】

次に、本発明と密接に関係する特許第3084681号の統合情報通信網について、

図 3 5 0 を参照して概略説明する。

【 0 0 2 2 】

ブロック 1 9 1 は統合 I P 通信網であり、I P 端末 1 9 2 - 1 は I P アドレス " EA01 " を有し、I P 端末 1 9 2 - 2 は I P アドレス " EA02 " を有する。この例は、I P 端末 1 9 2 - 1 から I P 端末 1 9 2 - 2 へ、統合 I P 通信網を経由して外部 I P パケット 1 9 3 - 1 を転送する例であり、I P アドレス " EA01 " 及び " EA02 " は、統合 I P 通信網 1 9 1 の外部で用いるので外部 I P アドレスという。図 3 5 0 乃至図 3 5 3 の記載において、I P のヘッダ部分は I P アドレス部分のみを記載し、他の項目は省略している。

【 0 0 2 3 】

網ノード装置 1 9 5 - 1 は外部 I P パケット 1 9 3 - 1 を受信すると、I P パケット 1 9 3 - 1 が入力した論理通信回線 1 9 4 - 1 の終端部（論理端子）に付与されている内部 I P アドレスが " IA01 " 、I P パケット 1 9 3 - 1 の宛先外部 I P アドレスが " EA02 " であることを確認し、図 3 5 0 に示すアドレス管理表 1 9 6 - 1 内部を検索し、始めに送信元内部 I P アドレスが " IA01 " であり、次に宛先外部 I P アドレスが " EA02 " が含まれるレコードを検索し、更に前記検出したレコード内に I P パケット 1 9 3 - 1 内の送信元外部 I P アドレスが " EA01 " が含まれるかを調べる。なお、前記検出したレコード内に I P パケット 1 9 3 - 1 内の送信元外部 I P アドレスが " EA01 " が含まれるかを調べることは、省略することもできる。

【 0 0 2 4 】

本例では上から 2 行目の " EA01,EA02,IA01,IA02 " を含むレコードであり、このレコード内部にある I P アドレスの " IA01 " 及び " IA02 " を用いて、送信元 I P アドレスが " IA01 " であり、宛先 I P アドレスが " IA02 " である I P ヘッダを有する I P パケット 1 9 3 - 2 を形成する（I P パケットのカプセル化）。ここで、" IA01 " 及び " IA02 " は、統合 I P 通信網 1 9 1 の内部 I P アドレスという。内部 I P パケット 1 9 3 - 2 は、ルータ 1 9 7 - 1, 1 9 7 - 2, 1 9 7 - 3 を経由して網ノード装置 1 9 5 - 2 へ到達する。網ノード装置 1 9 5 - 2 は受信した内部 I P パケット 1 9 3 - 2 の I P ヘッダを除き（I P パケットの逆カプセ

ル化)、得られた外部IPパケット193-3を通信回線194-2へ送出し、IP端末192-2が外部IPパケット193-3を受信する。なお、197-6は、外部IPアドレスが”EA81”、内部IPアドレスが”IA81”のサーバの例である。

【0025】

図351はアドレス管理表の他の実施例であり、図350のアドレス管理表196-1を図351のアドレス管理表196-3に変え、図350のアドレス管理表196-2を図351のアドレス管理表196-4に変えており、他の部分は同一である。アドレス管理表196-3及び196-4は公知のアドレスマスクの技法を適用できる。

【0026】

始めに、通信回線194-1の終端部の論理端子に付与する内部IPアドレス”IA01”を含むアドレス管理表196-3のレコードを検索するが、本ケースでは、アドレス管理表196-3の上から1行目のレコードと2行目のレコードが該当し、1行目のレコードについては、宛先用外部IPマスク”Mask81”と、外部IPパケット193-1内の宛先外部IPアドレス”EA02”との”and”演算の結果が、1行目レコード内宛先外部IPアドレス”EA81x”と一致するかを調べ(下記(1)式)、本ケースでは一致せず、次に2行目のレコードについて、宛先用外部IPマスク”Mask2”と、外部IPパケット193-1内の宛先外部IPアドレス”EA02”との”and”演算の結果が、1行目レコード内宛先外部IPアドレス”EA02y”と一致するかを調べ(下記(2)式)、本ケースでは一致する。送信元IPアドレスについても、前記同様に、下記(3)式により比較する。

【0027】

If(”Mask81” and ”EA02” = ”EA81x”) . . . (1)

If(”Mask2” and ”EA02” = ”EA02y”) . . . (2)

If(”Mask1y” and ”EA01” = ”EA01y”) . . . (3)

以上の比較結果に基づいて 2 行目のレコードが選択され、2 行目のレコード内の内部レコード “IA01” と “IA02” とが用いられてカプセル化が行われ、内部 IP パケット 1 9 3 - 2 が形成される。

【 0 0 2 8 】

図 3 5 2 はアドレス管理表の更に別の実施例であり、図 3 5 0 のアドレス管理表 1 9 6 - 1 を図 3 5 2 のアドレス管理表 1 9 6 - 5 に変え、図 3 5 0 のアドレス管理表 1 9 6 - 2 を図 3 5 2 のアドレス管理表 1 9 6 - 6 に変えており、他の部分は同一である。この例においては、アドレス管理表 1 9 6 - 5 及び 1 9 6 - 6 内部の送信元外部 IP アドレスが “don’ tcare” と表記されており、IP カプセル化において送信元外部 IP アドレスは引用されない。IP パケット 1 9 3 - 1 をカプセル化するとき、アドレス管理表 1 9 6 - 5 内部の送信元内部 IP アドレス “IA01” と宛先外部 IP アドレス “EA02” から、宛先内部 IP アドレス “IA02” を決定する。なお、この実施例ではアドレス管理表の送信元外部 IP アドレスを使わないので、アドレス管理表は送信元外部 IP アドレス用領域を含まないように実施できる。

【 0 0 2 9 】

本発明において、IP 電話機や後述するメディアルータ、各種のサーバ（これらをまとめて「IP 送受信可能ノード」という）はそれぞれ IP アドレスを付与され、IP パケットを送受信して相互にデータ交換することができ、本発明においては IP 通信手段と呼ぶ。図 3 5 3 は、IP 送受信可能ノード 3 4 0 - 1 及び IP 送受信可能ノード 3 4 0 - 2 がそれぞれ IP アドレス “AD1” 及び “AD2” を有し、端末 3 4 0 - 1 から端末 3 4 0 - 2 へ、送信元 IP アドレス “AD1”、宛先 IP アドレス “AD2” である IP パケット 3 4 1 - 1 を送信し、また逆方向に IP パケット 3 4 1 - 2 を受信することにより、互いに各種データを送受している例である。IP パケットのヘッダを除いたデータ部分をペイロードとも呼ぶ。

【 0 0 3 0 】

次に、IP 転送網として IP 技術の 1 つであるマルチキャスト技術を用いて、電子書籍や電子新聞などの IP データを 1 つの配送元から複数の宛先に転送する IP データマルチキャスト網、TV の音声データと画像データとを共に複数宛先に

転送（放送）するIP音声画像網としてのIPベースTV放送網乃至IPベース映画配給網等があり、図354を参照して1つの配送元から複数の宛先に転送するマルチキャスト型のIP転送網27-1を説明する。

【0031】

図354において27-11乃至27-20はルータであり、各ルータには、受信したIPパケットに含まれるマルチキャストアドレス別に、IPパケットを複数の通信回線に転送すべきことを示すルータ別マルチキャスト表が保持されている。本実施例の場合、マルチキャストアドレスが“MA1”を指定している。IP端末28-1からマルチキャストアドレス“MA1”であるIPパケット29-1が送信され、ルータ27-11を経由してルータ27-18に到達すると、ルータ27-18はIPパケット29-2をコピーし、ルータ27-18が保持しているルータ別マルチキャスト表を引用してIPパケット29-3及び29-4を通信回線に転送する。ルータ27-17は受信したIPパケット29-3をコピーし、ルータ別マルチキャスト表を参照してIPパケット29-5を通信回線29-17へ、及びIPパケット29-6を通信回線29-18に転送する。ルータ27-19にはルータ別マルチキャスト表がないので、IPパケット29-4はそのままルータ27-19を通過し、IPパケット29-7となってルータ27-14へ転送される。

【0032】

ルータ27-17は、図355に示すように通信回線29-16からIPパケット29-3を入力し、IPパケット29-3の送信元IPアドレスが“SRC1”、宛先IPアドレスがマルチキャストアドレス“MA1”であることを確認し、マルチキャスト表29-15に、マルチキャストアドレス“MA1”に対して出力インタフェースが“IF-1”と“IF-2”と指定されていることから、ルータ27-17はIPパケット29-3をコピーし、出力インタフェースが“IF-1”である通信回線29-17へIPパケット29-5として出力し、更にルータ27-17はIPパケット29-3をコピーして、出力インタフェースが“IF-2”である通信回線29-18へIPパケット29-6として出力する。

【0033】

ルータ 27-12 は受信した IP パケット 29-5 をコピーし、ルータ別マルチキャスト表を参照して IP パケット 29-8 を IP 端末 28-2 へ、IP パケット 29-9 をそれぞれ IP 端末 28-3 へ転送する。ルータ 27-13 は受信した IP パケット 29-6 をコピーし、ルータ別マルチキャスト表を参照して IP パケット 29-10 を IP 端末 28-4 へ、IP パケット 29-11 を IP 端末 28-5 へそれぞれ転送する。ルータ 27-14 は受信した IP パケット 29-7 をコピーし、ルータ別マルチキャスト表を参照して IP パケット 29-12 を IP 端末 28-6 へ、IP パケット 29-13 を IP 端末 28-7 へ、それぞれ転送する。送信元の IP 端末 28-1 がデジタルデータ形式の電子書籍や電子新聞を IP 転送網 27-1 に転送する場合、この IP 転送網 27-1 は電子書籍や電子新聞を配送するための IP データマルチキャスト網であり、IP 端末 28-2 乃至 28-8 は電子書籍や電子新聞を購読するユーザの IP 端末となる。送信元の IP 端末 28-1 を TV 放送用の音声画像送信装置に置きかえて、TV 番組（音声と画像）を放送すると、この IP 転送網は IP ベース TV 放送網となり、IP 端末 28-2 乃至 28-7 は TV 視聴者用の TV 受信機能付 IP 端末となる。

【0034】

以上述べた図 354 のマルチキャスト方式の実施例において、IP 端末 28-1 が送信者となってマルチキャストデータを送信し、IP 端末 28-2 乃至 28-7 が受信者となっており、このような方法を採用したマルチキャストは、インターネットや広域 LAN などで試験的に使われている。しかし、このマルチキャスト方式ではどの IP 端末もマルチキャストデータ送信元となることが出来るので、悪意の送信者が出現してマルチキャストデータを際限なく送り続けて網を輻輳させ、網機能が停止に追い込まれる危険がある。また、ルータ内部のマルチキャスト表を書換えられたり、大量データをルータに際限なく送り込まれて、ルータが過大負荷となってダウンする危険がある。マルチキャストデータ送信元を限定して不正行為者を排除したり、ルータの過大負荷ダウンなどの攻撃を防ぐ方法により、情報安全性を高めたマルチキャスト方式の実現が期待されている。

【0035】

【発明が解決しようとする課題】

データを主に送受する I P 端末機間の端末間通信接続制御方法は、インターネットにおいて、例えば電子メールを送受するための端末間通信接続制御方法として確立されている。本発明は、インターネット等で確立されているデータ送受を主目的とする I P 端末間の端末間通信接続制御方法を、前述の TTC 標準とは異なる技法により、I P 電話機間の通信や音声画像通信、及び I P マルチキャスト通信などのマルチメディア通信に適用できる端末間通信接続制御方法を確立するものである。

【 0 0 3 6 】

本発明は上述のような事情よりなされたものであり、本発明の目的は、I P 電話機間の通信や音声画像通信、I P マルチキャスト通信などのマルチメディア通信に適用できる端末間通信接続制御方法を提供することにある。

【 0 0 3 7 】

【課題を解決するための手段】

本発明では、No.7-共通線信号方式の回線接続制御方法を I P 転送網向きに見直すことにより、電話機や I P 端末、音声動画像送受信端末やファックス端末などの端末間における I P 転送網を経由した端末間通信接続制御方法を実現している。

【 0 0 3 8 】

図 1 において、1 は I P パケット送受信機能を有する I P 転送網 1-1 及び 1-2 は端末（電話機や I P 端末、音声動画像送受信端末のファックスなど）、1-3 及び 1-4 は 1 以上の端末を I P 転送網に接続するためのメディアルータ、1-5 及び 1-6 は接続サーバ、1-7 は中継接続サーバである。上記各接続サーバ 1-5 及び 1-6 には、公衆電話交換網（PSTN）の加入者交換機（LS）の回線接続制御に類似した機能が付与されており、中継接続サーバ 1-7 には中継交換機（TS）の回線接続制御と類似した機能が付与されている。

【 0 0 3 9 】

利用者が端末 1-1 から宛先電話番号を入力して呼設定を送り（ステップ Z1）、メディアルータ 1-3 が呼設定受付を返し（ステップ Z2）、次にメディアルータ 1-3 は、宛先電話番号と送信元電話番号を含む呼設定のための I P パケット

を接続サーバ1-5に送信し（ステップY1）、接続サーバ1-5は受信した宛先電話番号を用いてIP転送網内部の端末間通信用の通信回線を定め、通信回線を識別するための回線番号（CIC）、宛先電話番号及び送信元電話番号を含むIPパケットを形成する。ここで、回線番号（CIC）は、宛先電話番号及び送信元電話番号の組を識別できるように一意に定めておく。このIPパケットを、初期アドレスメッセージ（IAM）を含むIPパケット、或は単に初期アドレスメッセージ（IAM）という。前記端末間通信用の通信回線は、例えばデジタル化した音声パケットを転送するためのIP通信回線であり、このIP通信回線は、音声IPパケットに設定する送信元IPアドレス及び宛先IPアドレスの組、或はIPパケットに付加したMPLS技法のラベルとして規定できる。なお、IP端末や音声動画データやファックスデータ端末など他の端末の場合、通信回線はIP端末用データ転送用通信回線や音声動画データ送受信端末やファックスデータ転送用通信回線である。

【0040】

次に、接続サーバ1-5は初期アドレスメッセージ（IAM）を接続サーバ1-7へ送る（ステップY2）と共に、後述するアドレス完了メッセージ（ACM）の待ち状態に移行し、ACM待ちタイマーを起動する。中継接続サーバ1-7はIAMを受信し、接続サーバ1-6へIAMを送る（ステップY3）。接続サーバ1-6は受信したIAMの内容を調べ、宛先電話番号を有する端末1-2を接続しているメディアルータ1-4へ通信回線が設定されているか、つまりメディアルータ1-4が接続要求呼の着信を許容されているかを調べ、着信許容の場合はメディアルータ1-4へ呼設定要求を行い（ステップY4）、メディアルータ1-4は端末1-2に呼設定を要求し（ステップZ4）、更に接続サーバ1-6はIAMを受信したことを通知するIPパケットを形成する。このIPパケット（アドレス完了メッセージ（ACM）という）を中継接続サーバ1-7へ返信し（ステップY5）、ACMは中継接続サーバ1-7を経て中継接続サーバ1-5に到達する（ステップY6）。接続サーバ1-5はACMを受信すると、既に設定してあるACM待ちタイマーを停止する。なお、ACMを受信する前の時点において、ACM待ちタイマが満了した場合、通話回線は解放されている。また、ACMはIAMから回線番号（CIC）を引継ぎ、ACM内部

に保持しているか、或はACMはステップY5において、送信元電話番号及び宛先電話番号の組から回線番号を形成し、ACM内部に保持することもできる。

【 0 0 4 1 】

端末 1 - 2 は接続要求呼の着信音を鳴動させてメディアルータ 1 - 4 へ報告し（ステップZ7）、メディアルータ 1 - 4 は端末 1 - 2 が接続要求呼着信呼出しを接続サーバ 1 - 6 へ送信し（ステップY7）、接続サーバ 1 - 6 は端末 1 - 2 が接続要求呼着信呼出中を知らせる IP パケットを形成する。この IP パケットを呼経過メッセージ（CPG）を含む IP パケット、或は単に呼経過メッセージ（CPG）という。接続サーバ 1 - 6 は中継接続サーバ 1 - 7 へ呼経過メッセージ（CPG）を送信し（ステップY8）、中継接続サーバ 1 - 7 は受信した前記CPGを接続サーバ 1 - 5 に送信し（ステップY9）、接続サーバ 1 - 5 はCPGを受信し、接続サーバ 1 - 5 は、メディアルータ 1 - 3 に対してCPGの内容から端末 1 - 2 が呼出中であることをメディアルータ 1 - 3 に通知し（ステップY10）、メディアルータ 1 - 3 は端末 1 - 1 に呼出中音を通知する（ステップZ10）。なお、CPGは、ステップY5において、送信元電話番号及び宛先電話番号の組から回線番号を形成し、CPG内部に保持することもできる。

【 0 0 4 2 】

端末 1 - 2 がステップZ4の呼設定要求に応答すると（ステップZ11）、メディアルータ 1 - 4 は端末 1 - 2 が応答したことを接続サーバ 1 - 6 へ通知し（ステップY11）、接続サーバ 1 - 6 は端末 1 - 2 が呼設定の要求に応答したことを示す IP パケットを形成する。この IP パケットを、応答メッセージ（ANM）を含む IP パケット又は単に応答メッセージ（ANM）という。接続サーバ 1 - 6 は生成したANMを中継接続サーバ 1 - 7 に送信し（ステップY12）、中継接続サーバ 1 - 7 は受信したANMを接続サーバ 1 - 5 に送信する（ステップY13）。接続サーバ 1 - 5 はメディアルータ 1 - 3 に宛先端末 1 - 2 が応答したことを知らせ（ステップY14）、メディアルータ 1 - 3 は端末 1 - 1 に送信している呼出音停止を通知し（ステップZ14）、端末 1 - 1 と端末 1 - 2 との間で、回線番号（CIC）により特定される端末間通信用の通信回線を用いたデジタルメディアを載せた IP パケットの送受が可能となり、通話フェーズに移行する（ステップY15）。なお

、ANMはステップY5において、送信元電話番号と宛先電話番号の組から回線番号を形成し、ANM内部に保持することもできる。端末1-1の切断要求が通知され（ステップZ16）、メディアルータ1-3は切断要求を接続サーバ1-5へ通知し（ステップY16）、端末1-1に切断確認を通知する（ステップZ18）。

【0043】

接続サーバ1-5は切断要求を受信すると、送信元電話番号及び宛先電話番号の組から回線番号（CIC）を識別し、通信回線の解放要求（REL）を意味するIPパケットを形成する。このIPパケットを、解放（REL）を含むIPパケット又は単に解放メッセージ（REL）という。解放メッセージ（REL）は回線番号（CIC）を含み、この解放メッセージ（REL）を中継接続サーバ1-7に送出し（ステップY17）、更に切断要求の完了を示す復旧完了をメディアルータ1-3に返信する（ステップY18）。中継接続サーバ1-7は解放要求（REL）を接続サーバ1-6に送出し（ステップY19）、更に解放要求（REL）の完了を示すIPパケットを形成する。このIPパケットを解放完了（RLC）を含むIPパケット又は単に解放完了メッセージ（RLC）という。この解放完了（RLC）を接続サーバ1-5に返信する（ステップY20）。

【0044】

接続サーバ1-6は解放要求（REL）を受信するとメディアルータ1-4に切断要求を送出し（ステップY21）、解放要求（REL）を完了したことを意味する解放完了（RLC）を中継接続サーバ1-7に返信する（ステップY22）。メディアルータ1-4は切断要求を受信すると端末1-2に接続要求呼の切断指示を通知し（ステップZ22）、前記切断指示を遂行したことを示す切断完了を接続サーバ1-6に返信する（ステップY23）。端末1-2は復旧完了をメディアルータへ通知する（ステップZ23）。端末間通信を終了する手続きにおいて、端末1-2から端末間通信の切断要求をメディアルータ1-4に出すことも可能であり、上述と同様の手順となっている。中継接続サーバ1-7が存在せず、接続サーバ1-5及び1-6の間における端末間通信接続制御の方法も可能である。接続サーバ1-5及び1-6は端末1-1及び1-2の間の端末間通信の終了後、つまりステップY18及びステップY22において、回線番号（CIC）、通信時刻、電話番号を

含めた端末間通信記録を収集し、接続サーバの内部に記録し、課金や運用管理に用いることができる。

【 0 0 4 5 】

以上述べた端末間通信接続制御において、端末が電話機のケースでは、デジタルメディアがデジタル化音声であり、メディア通信が電話通信であり、端末がIP端末（IPパケットを送受する機能を有する端末）であるケースでは、デジタルメディアが文字乃至デジタル化静止画像であり、メディア通信がIPデータ通信であり、端末が音声動画像送受信端末のケースでは、デジタルメディアがデジタル化音声動画像であり、メディア通信が音声動画像通信であり、端末がファックス端末であるケースでは、デジタルメディアがデジタル化ファックス画像であり、メディア通信がファックス通信である。また、通信相手端末を識別するための電話番号を、通信相手端末を識別するために個別に定める端末識別番号、例えば特定の通信網の内部でのみ有効な端末固有番号とすることもできる。

【 0 0 4 6 】

また、メディアルータと接続サーバとの間、及び接続サーバ間における端末間通信接続制御の方法も各種のバリエーションがあり、また、ステップY2におけるACM待ちタイマーの起動を省略することも可能であり、実施例において説明する。

【 0 0 4 7 】

本発明はIP転送網を用いた端末間通信接続制御方法に関し、本発明の上記目的は、第1のIP端末及び第2のIP端末の間でマルチメディアIP通信を行うため、前記第1のIP端末が前記第2のIP端末のホスト名を含むIPパケットをメディアルータ内部のドメイン名サーバ経由で、網ノード装置を経由して統合IP転送網内部のドメイン名サーバに送信し、前記統合IP転送網内部のドメイン名サーバは前記第2のIP端末のホスト名に1:1に対応するIPアドレスを、前記メディアルータ内部のドメイン名サーバ経由で或は直接に前記第1のIP端末に返信し、前記第1のIP端末は前記第2のIP端末に送信するIPパケットを送出すると、前記第1のIP端末が接続するメディアルータを経由し、網ノ

ード装置、IP転送網内部の1以上のルータを経由して前記第2のIP端末が接続されている他の網ノード装置に到達し、通信回線経由で他のメディアルータを経由し、前記IP端末にIPパケットが届けられるようにし、前記ドメイン名サーバを用いることによって達成される。

【0048】

また、本発明の上記目的は、第1の非独立型IP電話機と第2の非独立型IP電話機との間で電話通信を行うため、前記第1の非独立型IP電話機の送受話器を上げると、前記第1の非独立型IP電話機から呼出を通知するIPパケットが送信され、第1のメディアルータの内部の第1のH323終端部が前記IPパケットを検出し、応答のIPパケットを前記第1の非独立型IP電話機へ返信し、前記第1の非独立型IP電話機が前記第2の第1の非独立型IP電話機の電話番号を含むIPパケットを前記第1のH323終端部を経由し、第1のメディアルータの内部の第1のドメイン名サーバ、前記第1のメディアルータが通信回線を経て接続する第1の網ノード装置に到達し、前記第1の網ノード装置は前記IPパケットを前記統合IP転送網内部の第2のドメイン名サーバに送信し、前記第2のドメイン名サーバは、前記第1の非独立型IP電話機の電話番号に1:1対応する第2のIPアドレスを前記第1のドメイン名サーバを経由して、或は前記第1のドメイン名サーバを経由せずに直接に前記第1のH323終端部に返信し、前記第1のH323終端部は、前記第1の非独立型IP電話機に1:1に対応づける第1のIPアドレスを発信元IPアドレスとし、前記第2のIPアドレスを宛先IPアドレスとするIPパケットを生成して送出すると、前記第1の網ノード装置、前記IP転送網内部の1以上のルータを経由し、前記第2の第1の非独立型IP電話機が接続される他の第2の網ノード装置に到達し、通信回線経由で他の第2のメディアルータ内部にあり前記第2の第1の非独立型IP電話機が接続される第2のH323終端部に届けられる。

【0049】

第1利用者が電話の通話を始めると、前記第1の非独立型IP電話機は前記第1のIPアドレスを発信元IPアドレスとし、前記第2のIPアドレスを宛先IPアドレスとしデジタル表現した電話音声を含むIPパケットを送出し、この

I P パケットは前記第 1 の H323 終端装置を経て前記第 1 の網ノード装置、前記 I P 転送網内部の 1 以上のルータ、前記第 2 の網ノード装置、前記第 2 の H323 終端装置を経て、前記第 2 の非独立型 I P 電話機に届けられ、第 2 利用者が音声を発すると、前記第 2 の非独立型 I P 電話機は前記第 2 の I P アドレスを発信元 I P アドレスとし、前記第 1 の I P アドレスを宛先 I P アドレスとし、デジタル表現した電話音声を含む I P パケットを送出し、この I P パケットは前記第 2 の H323 終端装置を経て、第 2 の網ノード装置、前記 I P 転送網内部の 1 以上のルータ、前記第 1 の網ノード装置、前記第 1 の H323 終端装置を経て前記第 1 の非独立型 I P 電話機に届けられる。

【 0 0 5 0 】

第 1 の利用者が電話通信終了のため送受話器を置くと、前記第 1 の I P アドレスを発信元 I P アドレスとし、前記第 2 の I P アドレスを宛先 I P アドレスとし、電話通信終了を示す I P パケットを生成して送出すると、前記第 1 の H323 終端部、第 1 の網ノード装置、前記 I P 転送網内部の 1 以上のルータ、前記第 2 の網ノード装置、第 2 の H323 終端装置を経て前記第 2 の第 1 の非独立型 I P 電話機に届けられると、第 2 の利用者は電話通信終了したことを知り、送受話器をおくと前記第 2 の I P アドレスを発信元 I P アドレスとし、前記第 1 の I P アドレスを宛先 I P アドレスとし、電話通信終了を確認するための I P パケットを生成して送出すると、前記 I P パケットは前記第 2 の H323 終端装置を経て、第 2 の網ノード装置、前記 I P 転送網内部の 1 以上のルータ、前記第 1 の網ノード装置、前記第 1 の H323 終端装置に届けられ、前記第 1 の非独立型 I P 電話機と前記第 2 の非独立型 I P 電話機との間の電話通信が終了し、H323 終端部は前記第 2 の非独立型 I P 電話機に送信する I P パケットを送出すると、網ノード装置、I P 転送網内部の 1 以上のルータを経由し、前記第 2 の非独立型 I P 電話機が接続される他の網ノード装置に到達し、通信回線経由で他のメディアルータに入り、その H323 終端部を経由して前記第 2 の非独立型 I P 電話機に I P パケットが届けられることによって達成される。

【 0 0 5 1 】

発明は I P 転送網内の網ノード装置にアドレス管理表を設定し、このアドレス

管理表に端末のアドレスを登録しておく手段（特願平11-128956）をマルチキャスト技法に適用するものであり、以下にその内容を説明する。IP転送網を通信会社が管理運用する網とし、IP転送網内に網ノード装置を設け、この網ノード装置にIP端末のIPアドレスを登録することにより、情報安全性を高めたマルチキャストによるIPパケット送信を実現する。未登録のマルチキャストIPアドレスを含むIPパケットを受信すると、このIPパケットを廃棄する（IPアドレスフィルタリング）。

【0052】

図2を参照して説明すると、IP転送網1-10の内部に網ノード装置1-11乃至1-14及びルータ1-15乃至1-20を設置している。網ノード装置とルータはIP通信回線により、直接に或は網ノード装置やルータ経由で間接的に接続される。IPパケット送受機能を有するIP端末1-21乃至1-27は、IP通信回線により網ノード装置に接続される。IP端末はルータに直接に接続許可しない。網ノード装置1-11乃至1-14は、当該ノード装置が接続しているIP端末情報のうち、少なくともIPアドレスを当該ノード装置の内部に登録している。

【0053】

第1のIPパケット受入れ検査として、IP転送網に入る外部IPパケットのヘッダ内の宛先IPアドレスが、当該ノード装置のアドレス管理表に登録されているかを検査し、宛先IPアドレスが登録されていない場合は、当該IPパケットを廃棄する。第2のIPパケット受入れ検査として、IP転送網に入る外部IPパケットのヘッダ内の送信元IPアドレスが、当該ノード装置のアドレス管理表に登録されているかを検査し、送信元IPアドレスが登録されていない場合は、当該IPパケットを廃棄する。第1のアドレス登録検査として、網ノード装置のアドレス管理表に宛先マルチキャストアドレスを登録しておき、網ノード装置に入る外部IPパケットのヘッダ内の宛先マルチキャストアドレスがアドレス管理表に登録されていない場合は、網ノード装置が当該IPパケットを廃棄することにより、予定外のIPパケットがIP転送網内部に混入することを防止する。受信者側の網ノード装置のアドレス管理表にマルチキャスト送信者のアドレスを

登録許可しないことにより、マルチキャストIPパケット受信者からマルチキャストIPパケット送信者へ向けたIPパケット受信確認用のACKパケットが、網ノード装置を通過できないようにして、ACKパケットの大量洪水（ACK implosion）によるIP転送網の輻輳発生を予防できる。

【0054】

また、ルータのIPアドレスを宛先アドレスとして登録不許可とし、IP転送網の外部からIP転送網内部のルータへマルチキャスト表の書換え等の危険なIPパケットを送り込めないようにし、或はIP転送網内部のマルチキャスト向け運用管理サーバのIPアドレスの登録を不許可とし、IP転送網の外部からIP転送網内部の運用管理サーバへのアクセスを不可能とし、情報安全性を向上する。第2アドレス登録検査として、マルチキャストデータを含むIPパケットの送信元を限定して、不正行為者の不正行為の発生を抑制する。また、不正行為が行われた場合は、IPパケットの送信元を特定することが容易であり、IP転送網の情報安全性を高めることができる。

【0055】

【発明の実施の形態】

本発明では、本出願人による特願平11-128956号やNo.-7共通線信号方式の回線接続方法、「ITU-T勧告H323 ANNEX D準拠のJT-H323ゲートウェイ」、「SIP電話プロトコル」や、特許第3084681号の実施例-36に開示されている諸機能を幾つか組合わせ若しくは変更し、更にメディアルータ、ゲートウェイ、IP網サービス運用管理サーバを導入し、メディアルータ及びゲートウェイの構成と動作手順、メディアルータやゲートウェイを用いた端末間通信に用いるIPパケットの形態、IP網サービス運用管理サーバの持つべき機能などを具体的に定めることにより、IP転送網を前提とした端末間通信接続制御方法を実現する。

【0056】

特願平11-128956号によれば、統合IP転送網は複数のIP転送網、つまりIPデータ網、IP電話網、IP音声画像網、ベストエフォート網、IPデータマルチキャスト網、IPベースTV放送網、網ノード装置を少なくとも2以上含み、網ノード装置は通信回線を経てIP転送網のいずれか1以上の網に接続されてお

り、他方網ノード装置の網ノード装置端子は通信回線を経て統合 I P 転送網の外部の端末に接続されている。

【 0 0 5 7 】

本発明においては、統合 I P 転送網はその内部に 1 以上のゲートウェイを含むか、或はその外部に、網ノード装置に接続される通信回線を経て 1 以上のメディアルータに直接に又は LAN 内部のメディアルータに間接的に接続されている。ゲートウェイ及びメディアルータは、I P 端末、I P 電話機、I P 音声画像装置等を直接に接続して収容する機能を有する一種のルータである。ゲートウェイ又はメディアルータにより、及び統合 I P 転送網の内部のドメイン名サーバを用いて、端末間の I P 転送網を用いた端末間通信の接続制御を遂行する。端末を I P 転送網に登録記録するため、少なくとも端末のアドレスは網ノード装置内部のアドレス管理テーブル、或は I P 転送網内に設置するドメイン名サーバに記録保持する。各 I P 転送網の内部には、その I P 転送網の運用管理や I P 転送網の提供するサービスやルータや通信回線などの網のリソースを、通信事業者毎に一元的管理するための I P 網サービス運用管理サーバを設置する。

【 0 0 5 8 】

I P 網サービス運用管理サーバの種類は I P 転送網毎に定めてよく、例えば I P データ網の内部に I P データ通信を一括して管理する I P データサービス運用管理サーバ (DNS) を、I P 電話網の内部に電話通信を一括して管理する I P 電話サービス運用管理サーバ (TES) を、I P 音声画像網の内部に音声画像通信を一括して管理する I P 音声画像サービス運用管理サーバ (AVS) を、ベストエフォート網の内部にベストエフォート通信を一括して管理するベストエフォートサービス運用管理サーバ (BES) を、I P データマルチキャスト網の内部に I P データマルチキャスト通信を一括して管理する I P データマルチキャストサービス運用管理サーバ (DMS) を、I P ベース TV 放送網の内部に I P ベース TV 放送を一括して管理する I P ベース TV 放送サービス運用管理サーバ (TVS) をそれぞれ設置することができる。なお、I P 転送網毎のサービス運用管理サーバは、それぞれ I P 転送網が提供する網サービスを専ら管理する網サービスサーバと、網のリソースを専ら管理する網運用管理サーバとに分けることもできる。

【0059】

以下に、本発明の実施例を、図面を参照して説明する。

【0060】

1. メディアルータを用いる第1実施例：

図3において、2は統合IP転送網、3はIPデータ網、4はIP電話網、5-1はIP音声画像網、5-2はベストエフォート網、6-1は通信会社Xが運用管理するIP転送網の範囲、6-2は通信会社Yが運用管理するIP転送網の範囲である。7-1、7-2、7-3、7-4、8-1、8-2、8-3、8-4はそれぞれ網ノード装置であり、9-1及び9-2はゲートウェイである。10-1～10-8は通信回線、11-1～11-10はIP端末、12-1及び12-2は独立型IP電話機、13-1～13-4は非独立型IP電話機、16-1～16-4は非独立型IP音声画像装置である。

【0061】

網ノード装置は通信回線を経てIP転送網のいずれか、つまりIPデータ網3、IP電話網4、IP音声画像網5-1、ベストエフォート網5-2のいずれか1以上の網に接続されており、他方、網ノード装置は通信回線10-1乃至10-8を経て統合IP転送網の外部にあるIP端末11-1や11-2、独立型IP電話機12-1や12-2、メディアルータ14-1や14-2、LAN15-1や15-2等に接続される。メディアルータ14-3、14-4はLAN15-1やLAN15-2の内部に設置されており、網ノード装置に間接的に接続されている。メディアルータ14-1～14-4は、非独立型IP電話機13-1、13-2、13-4、非独立型IP音声画像装置16-1、16-2、16-3、アナログ電話機18-1乃至18-4を直接に接続して収容している。また、他のアナログ電話機18-5や18-6は公衆交換電話網26-1や26-2を経由して、ゲートウェイ9-1や9-2に接続されている。ゲートウェイ9-1は通信回線を経て網ノード装置8-4に接続され、ゲートウェイ9-2は通信回線を経て網ノード装置7-4に接続されている。

【0062】

19-1～19-19はそれぞれIPパケットを転送するルータであり、26

ー 1 及び 2 6 - 2 は公衆交換電話網（以下、「PSTN」とする）である。メディアルータ 14 - 1 は通信回線 10 - 1 を経て網ノード装置 8 - 2 に接続され、メディアルータ 14 - 2 は通信回線 10 - 5 を経て網ノード装置 7 - 2 に接続され、LAN 15 - 1 は通信回線 10 - 3 を経て網ノード装置 8 - 4 に接続され、LAN 15 - 2 は通信回線 10 - 7 を経て網ノード装置 7 - 4 に接続される。

【 0 0 6 3 】

アナログ電話機 1 8 - 5 は電話回線 17 - 3、公衆交換電話網 2 6 - 1、電話回線 17 - 1、ゲートウェイ 9 - 1 を経て網ノード装置 8 - 4 に接続され、同様にアナログ電話機 1 8 - 6 は電話回線 17 - 4、公衆交換電話網 2 6 - 2、電話回線 17 - 2、ゲートウェイ 9 - 2 を経て網ノード装置 7 - 4 に接続される。メディアルータ 14 - 1 はルータ 2 0 - 3、接続制御部 2 2 - 1、H323 終端部 2 3 - 1、SCN 境界部 2 4 - 1 を含み、ルータ 2 0 - 3 は接続制御部 2 2 - 1 に接続され、接続制御部 2 2 - 1 は H323 終端部 2 3 - 1 に接続され、H323 終端部 2 3 - 1 は SCN 境界部に接続される。同様にメディアルータ 14 - 2 は、ルータ 2 0 - 4、接続制御部 2 2 - 2、H323 終端部 2 3 - 2、SCN 境界部 2 4 - 2 を含んでいる。

【 0 0 6 4 】

LAN 1 5 - 1 内部のルータ 2 0 - 1 は、通信回線 10 - 3 を介して網ノード装置 8 - 4 に接続されている。LAN 15 - 1 はイーサネット等の LAN 通信回線を経て、IP 端末 1 1 - 4 とメディアルータ 1 4 - 3 に接続されている。また、メディアルータ 1 4 - 3 は通信回線を経て、IP 端末 1 1 - 5、非独立型 IP 音声画像装置 1 6 - 2、アナログ電話機 1 8 - 2 にそれぞれ接続されている。同様に LAN 1 5 - 2 内部のルータ 2 0 - 2 は、通信回線 10 - 7 を介して網ノード装置 7 - 4 に接続されている。LAN 15 - 2 はイーサネット等の LAN 通信回線を経て、IP 端末 1 1 - 8 とメディアルータ 1 4 - 4 に接続されている。また、メディアルータ 1 4 - 4 は、通信回線を経て IP 端末 1 1 - 9、非独立型 IP 電話機 1 3 - 4、アナログ電話機 1 8 - 4 にそれぞれ接続されている。

【 0 0 6 5 】

2 1 - 1 乃至 2 1 - 5 は、通信会社 X の管理する範囲 6 - 1 と、通信会社 Y の管理する範囲 6 - 2 との間において、IP パケットを転送するルータである。2 7

ー 1 及び 27-2 は ATM 網、27-3 は光通信網、27-4 はフレームリレー (F R) 交換網であり、それぞれ IP パケットを転送するための高速幹線網として用いられている実施例である。なお、ATM 網や光通信網、フレームリレー交換網は、統合 IP 転送網のサブ IP 網いずれの要素としても用いることができる。

【0066】

IP データサービス運用管理サーバ 35-1、IP 電話サービス運用管理サーバ 36-1、IP 音声画像サービス運用サーバ 37-1、ベストエフォートサービス運用管理サーバ 38-1 はそれぞれ通信会社 X により管理され、通信会社 X が管理する網の範囲 6-1 の内部にある。また、IP データサービス運用管理サーバ 35-2、IP 電話サービス運用管理サーバ 36-2、IP 音声画像サービス運用サーバ 37-2、ベストエフォートサービス運用管理サーバ 38-2 はそれぞれ通信会社 Y により管理され、通信会社 Y が管理する網の範囲 6-2 の内部にある。

【0067】

統合 IP 転送網 2 の外部に通信回線を経て接続する各種のマルチメディア端末、つまり IP 電話機や IP 音声画像装置は他の IP 端末と同じく、統合 IP 転送網 2 の内部の所在位置をマルチメディア端末識別用アドレスとしてのホスト名により特定できる。IP 端末やマルチメディア端末のホスト名は、インターネットで使われるコンピュータのホスト名と同様であり、それぞれの IP 端末やマルチメディア端末に付与する IP アドレスに対応付けて命名する。本発明において、IP 電話機や IP 音声画像装置に付与する電話番号を IP 電話機や IP 音声画像装置のホスト名として用いる。

【0068】

ドメイン名サーバ (以下、「DNS」とする) は、ホスト名と IP アドレスの 1 : 1 対応づけ情報を保持しており、ホスト名を提示されると IP アドレスを回答するのがその主要機能であり、インターネットで用いられるものと同様な機能を持つ。

【0069】

IP データ網の専用のドメイン名サーバ 30-1 は、通信会社 X が管理する網

ノード装置に接続されるIPデータ網において用いるIP端末である11-3、11-1、11-4、11-6等について、それぞれの端末に付与されているホスト名とIPアドレスの1:1対応付け情報を保持しており、また、IPデータ網の専用のドメイン名サーバ30-4は、通信会社Yが管理する網ノード装置に接続されるIPデータ網において用いるIP端末である11-7、11-2、11-8等について、それぞれの端末に付与されているホスト名とIPアドレスの1:1対応付け情報を保持している。

【0070】

IP電話網専用のドメイン名サーバ31-1は、通信会社Xが管理する網ノード装置に接続されるIP電話網において用いる非独立型IP電話機13-1、13-3や、アナログ電話機18-1、18-2、18-5等について、それら電話機に付与されているホスト名（電話番号）とIPアドレスの1:1対応付け情報を保持しており、また、IP電話網専用のドメイン名サーバ31-2は、通信会社Yが管理する網ノード装置に接続されるIP電話網において用いる非独立型IP電話機13-2、アナログ電話機18-3、18-4、18-6等について、それら電話機に付与されているホスト名（電話番号）とIPアドレスの1:1対応付け情報を保持している。

【0071】

音声画像網専用のドメイン名サーバ32-1は、通信会社Xが管理する網ノード装置に接続されるIP音声画像網において用いる非独立型IP音声画像装置16-1、独立型IP音声画像装置12-3等について、それらIP音声画像装置に付与されているホスト名（IP音声画像装置番号）とIPアドレスの1:1対応付け情報を保持しており、また、IP音声画像網専用のドメイン名サーバ32-2は、通信会社Yが管理する網ノード装置に接続される音声画像網において用いる非独立型IP音声画像装置16-3、16-4等について、それらIP音声画像装置に付与されているホスト名（IP音声画像装置番号）とIPアドレスの1:1対応付け情報を保持している。

【0072】

ベストエフォート網専用のドメイン名サーバ33-1は、通信会社Xが管理す

る網ノード装置に接続されるベストエフォート網において用いるIP端末11-5、非独立型IP音声画像装置16-2等について、それら端末に付与されているホスト名とIPアドレスの1:1対応付け情報を保持しており、また、ベストエフォート網専用のドメイン名サーバ33-2は、通信会社Yが管理する網ノード装置に接続されるベストエフォート網において用いるIP端末11-9、11-10、非独立型IP電話機13-4等について、それら端末に付与されているホスト名とIPアドレスの1:1対応付け情報を保持している。

【0073】

次に、図4及び図5を参照して、本発明の主要要素であるメディアルータとゲートウェイの基本機能を説明する。

【0074】

SCN端末機能802-0、変換機能803-0、端末機能804-0はそれぞれ前述したSCN端末機能802、変換機能803、端末機能804の有する機能を含む。アナログ電話機41-3からSCN回線40-1を経由して入力してきた音声や画像信号は、SCN端末機能802-0においてデジタルデータ信号に変換され、変換機能803-0においてデータ形式や信号送受規則などを変換され、端末機能804-0においてIPパケットの形式に変換され、IP通信回線40-2へ送出される。また、逆方向の流れ、即ちIP通信回線40-2から入力した音声や画像データを含むIPパケットは、端末機能804-0においてデジタルデータの形式に復号化され、変換機能803-0においてデータ形式や信号送受規則などを変換され、SCN端末機能802-0においてSCN回線を通る信号に変換され、SCN回線40-1を経てアナログ電話機41-3へ送信される。SCN境界部24-0は、SCN端末機能802-0及び変換機能803-0を含んでいる。H323終端部23-0は端末機能804-0を含み、端末機能804-0は前述したH323終端機能を含むことから、H323終端部23-0は端末41-2及び通信回線40-5を経由して対向通信を行うことができる。本発明で用いるマルチメディア端末41-2は、H323仕様に従っているIP電話機やIP音声画像装置類である。

【0075】

接続制御部 2 2 - 0 は通信回線 4 0 - 2 を経て H323 終端部 2 3 - 0 に接続され、回線 4 0 - 3 を経て ルータ 2 0 - 0 に接続される。ルータ 2 0 - 0 は通信回線 4 0 - 4 経由で 網ノード装置 4 1 - 4 に接続され、また、通信回線 4 0 - 6 を経て IP 端末 4 1 - 1 に接続される。通信回線 4 0 - 2 には、呼制御データとしての IP パケット 8 1 0 と、音声を構成する正味のデータとしての IP パケット 8 1 1 や画像そのものを構成する正味のデータとしての IP パケット 8 1 2 とが流れる。

【 0 0 7 6 】

呼制御データは電話番号やパソコンなどのホスト名が含まれる。一方、通信回線 4 0 - 3 を流れる IP パケット 4 3 (図 5) は、DNS にホスト名を通知して問合せ回答を得るためのデータ形式、つまり DNS 問合せ応答形式であり、例えば RFC1996 (A Mechanism for Prompt Notification of Zone Changes) を採用できる。DNS 問合せ応答機能 4 2 は、H323 形式呼制御データ 8 1 0 を DNS 問合せ応答形式データ 4 3 に変換し、DNS に問合せてホスト名に対応する IP アドレスを取得する機能を有する。なお、音声を構成する IP パケット 8 1 1 や画像そのものを構成する IP パケット 8 1 2 は、接続制御部 4 2 を透過的に通過する。

【 0 0 7 7 】

以上をまとめると、アナログ電話機 4 1 - 3 から入力した電話番号は、SCN 境界部 2 4 - 0 でデジタルな電話番号に変更されて H323 終端部 2 3 - 0 に入力し、或は H323 形式の IP 電話機 4 1 - 2 から入力した H323 仕様に従っているマルチメディア端末の電話番号やホスト名は、H323 形式呼制御データ 8 1 0 として H323 終端部 2 3 - 0 に入力し、両者の電話番号は通信回線 4 0 - 2 上で H323 形式呼制御データ 8 1 0 であり、接続制御部 2 2 - 0 を経由して DNS 問合せ応答形式 4 3 に変換される。なお、IP 端末 4 1 - 1 から送られる呼制御データは元々 DNS 問合せ応答形式 4 3 を採用しており、接続制御部 2 2 - 0 の機能を使う必要はないので、直接にルータ 2 0 - 0 に接続されている。ここで、ルータ 2 0 - 0 は通信回線 4 0 - 3 と 4 0 - 6 とを集線すると共に、IP パケットを透過させる。なお、IP パケット 8 1 1 や 8 1 2 内の音声や画像そのものを構成する正味のデータは、接続制御部 2 2 - 0 内部を変更を受けることなく通過する。IP パケット

は、回線 4 0 - 4 経由で網ノード装置 4 1 - 4 とルータ 2 0 - 0 との間を送受される。

【 0 0 7 8 】

DNS問合せ応答の具体例として、I P 電話機に電話番号 “81-47-325-3897” と I P アドレスの “192.1.2.3” とが付与されているとき、電話番号 “81-47-325-3897” を DNS に問い合わせると、DNS が I P アドレス “192.1.2.3” と回答し、或は I P 端末であるパソコンにホスト名 “host1.dname1.dname2.co.jp” と I P アドレス “128. 3.4.5” とが付与されているとき、ホスト名 “host1.dname1.dname2.co.jp” を DNS に問い合わせると、DNS がこのパソコンの I P アドレス “128. 3.4.5” を回答する。

【 0 0 7 9 】

I P 端末 4 1 - 1、マルチメディア端末 4 1 - 2、アナログ端末 4 1 - 3 はそれぞれの間において I P パケットを送受することにより通信することが可能である。即ち、I P 端末 4 1 - 1 は、ルータ 2 0 - 0、接続制御部 2 2 - 0、H323 終端部 2 3 - 0 を経由してマルチメディア端末 4 1 - 2 と I P パケットを送受することにより、相互に通信することが可能であり、アナログ電話機 4 1 - 3 とは、更に SCN 境界部 2 4 - 0 を経由して相互に通信することができる。また、マルチメディア端末 4 1 - 2 は、H323 終端部 2 3 - 0 及び SCN 境界部 2 4 - 0 を経由してアナログ電話機 4 1 - 3 と相互に通信することが可能である。

【 0 0 8 0 】

<<メディアルータの動作>>

本発明のメディアルータ 1 4 - 1 の動作を、図 6 について説明する。メディアルータ 1 4 - 1 の要素の 1 つであるルータ 2 0 - 3 は、図 4 のルータ 2 0 - 0 の機能を有し、図 6 の接続制御部 2 2 - 1 は図 4 の接続制御部 2 2 - 0 の機能を有し、図 6 の H323 終端部 2 3 - 1 は図 4 の H323 終端部 2 3 - 0 の機能を有し、図 6 の SCN 境界部 2 4 - 1 は図 4 の SCN 境界部 2 4 - 0 の機能を有している。図 6 の 4 8 - 1 は前述した DNS と同様な機能を有している。RAS 機構 4 9 - 1 はメディアルータ 1 4 - 1 への端末の登録と認証（登録とは端末をメディアルータへ接続すること、認証とは端末の接続許可条件に従って端末が正規に利用されるかを確認す

ることをそれぞれ意味する）及びメディアルータの内部状態を管理する（例えば内部構成要素とその利用状況を一元管理すること）機構であり、50-1はメディアルータ14-1内部の情報処理を受け持つ情報処理機構であり、51-1はメディアルータ14-1の操作入出力部である。従って、図6のメディアルータ14-1の接続制御部22-1、H323終端部23-1、SCN境界部24-1の各機能は、図4の接続制御部22-0、H323終端部23-0、SCN境界部24-0についての説明により明らかである。

【0081】

<<IP端末間の通信接続制御>>

次に、図6、図7及び図8～図14を参照して、IP端末11-3からIP端末11-7へIPパケットに格納したデータを送信し、また受信する手順を説明する。IP端末11-3は通信回線52-1経由で、自己のアドレス、つまり送信元IPアドレス“A113”、メディアルータ14-1内部のドメイン名サーバ48-1のアドレス、つまり宛先IPアドレス“A481”、通信相手のIP端末11-7のホスト名“IPT-11-7 name”を格納した図9に示すIPパケット45-1を、ドメイン名サーバ48-1へ送信する。ここで、IPパケット45-1に示す問合せ内容、つまり“IPT-11-7 name”は、図5に示す“DNS問合せ応答形式”内の“問合せ部”に格納されている。ドメイン名サーバ48-1は受信したIPパケット45-1の内容を調べ、通信回線10-1を経由し、網ノード装置8-2経由でIPデータ網の専用のドメイン名サーバ30-1に問い合わせる（ステップST10）。ドメイン名サーバ30-1が、前記ホスト名“IPT-11-7 name”に1:1対応するIPアドレス“A117”を含むIPパケットを、ドメイン名サーバ48-1に返信すると（ステップST11）、ドメイン名サーバ48-1はIPパケット45-2をIP端末11-3に返信する。以上述べた手順において、網ノード装置8-2は図8のアドレス管理テーブル44-1を参照し、受信したIPパケット45-1に含まれる送信元アドレス“A113”がアドレス管理テーブルに登録されているかを調べる。本ケースでは、アドレス管理テーブル44-1の上から2行目のレコードに、外部IPアドレスが“A113”であり、通信回線識別記号“Line-10-1”が、通信回線10-1から入力されたIPパケットであ

ることを表わしているのので、IP 端末 11-3 が網ノード装置を経由して通信できる許可登録をしていることを確認している。なお、アドレス管理テーブル 44-1 に登録されていない場合、網ノード装置 8-2 は受信した IP パケット 45-1 を廃棄できる。

【0082】

次に、IP 端末 11-3 は IP 端末 11-7 へ送信する IP パケット 45-3 を生成し、ルータ 20-3 経由で網ノード装置 8-2 に送信すると、網ノード装置 8-2 は、この IP パケット 45-3 を、統合 IP 転送網 1 の内部へ転送すると、IP パケット 45-3 は、図 3 の IP データ網 3 の内部の通信回線と複数のルータ、つまりルータ 19-1、19-3、21-1、19-5、19-6 を通過し、網ノード装置 7-2 に着信する。すると、網ノード装置 7-2 は受信した IP パケット 45-3 を図 7 に示す通信回線 10-5 に送出し（ステップ ST12）、ルータ 20-4 が IP パケット 45-3 を受信し、通信回線 52-2 経由で IP 端末 11-7 へ転送する。IP パケット 45-3 を受信した IP 端末 11-7 は返信用 IP パケット 45-4 を生成し、通信回線経由でルータ 20-4 へ送出すると通信回線 10-5 を経由し（ステップ ST13）、網ノード装置 7-2、統合 IP 転送網 2 の内部の IP データ網 3 を経由して網ノード装置 8-2 に着信し、通信回線 10-1 経由で IP 端末 11-3 に図 12 に示す IP パケット 45-4 が届けられる。以上の手順により、IP 端末 11-3 と IP 端末 11-7 とが IP パケットを送受することにより通信ができた。

【0083】

以上述べた IP 端末からの通信手順において、メディアルータ 14-1 からメディアルータ内のドメイン名サーバ 48-1 を除くこともできる。この場合、IP 端末 11-3 は、送信元 IP アドレス “A113”、IP データ網の専用のドメイン名サーバ 30-1 の IP アドレス “A301”、通信相手の IP 端末 11-7 のホスト名 “IPT-11-7 name” を格納した IP パケット 45-5 をドメイン名サーバ 30-1 へ送信する。ドメイン名サーバ 30-1 は、“IPT 11-7 name” に 1:1 に対応する IP アドレス “A117” を含む IP パケット 45-6 を返信する。なお、メディアルータ内のドメイン名サーバ 48-1 を除いてドメイン名サー

バ30-1に直接にアクセスできる技法は、ドメイン名サーバに関する公知の技法により可能である。

【0084】

前記ステップST11が終了すると、IP端末11-3及び11-7が通信開始の準備ができた状態であり、網ノード装置8-2はIPパケット45-2及び45-6を検出すると、IP端末間通信記録、つまりIP端末11-3とIP端末11-7との間の通信記録をその時刻と共に必要であれば内部に記録保持する。

【0085】

<<非独立型IP電話機間の通信接続制御>>

次に、電話番号をダイヤルして、非独立型IP電話機13-1から非独立型IP電話機13-2へ電話通信を行う手順を説明する。ここで、“非独立型IP電話機”は、メディアルータ14-1、14-2等に接続して通信を行うIP電話機を指し、一方、“独立型IP電話機”はメディアルータに接続せずに、直接に網ノード装置に接続する図3のIP電話機12-1や12-2であり、その通信手順については後述する。

【0086】

図6の非独立型IP電話機13-1は通信回線53-1経由でH323終端部23-1に接続されており、図7の非独立型IP電話機13-2は通信回線53-2経由でH323終端部23-2に接続されている。

【0087】

非独立型IP電話機13-1の送受話器を上げると（オフフック）、呼出を通知する図15に示すIPパケット46-1が図6に示す通信回線53-1に送信され（図6のステップST20）、H323終端部23-1は通信回線53-1から呼出が入力したことを検出し、呼出確認のIPパケット46-2を返信する（ステップST21）。ここで、IPパケット46-1のペイロード（データ部分）に記載される“CTL-Info-1”は呼出制御情報であり、IPパケット46-2のペイロードに記載される“CTL-Info-2”は呼出確認情報である。

【0088】

次に、非独立型IP電話機13-1の利用者は、通信相手先の非独立型IP電

話機 1 3 - 2 の電話番号をダイヤル入力すると、非独立型 I P 電話機 1 3 - 1 の内部で通信相手先電話番号（“Tel-13-2name”）と、非独立型 I P 電話機 1 3 - 1 の電話番号と I P アドレスを含む、例えば H.225 規定の呼制御データ形式の I P パケット 4 6 - 3 を生成し、通信回線 5 3 - 1 経由で H323 終端部 2 3 - 1 に送信する。但し、I P パケット 4 6 - 3 内部に、非独立型 I P 電話機 1 3 - 1 の電話番号と I P アドレスを含むか否かはオプションである。H323 終端部 2 3 - 1 は、通信回線 5 3 - 1 から I P パケット 4 6 - 3 を受信し、図 3 0 のメディアルータ状態表 1 0 0 - 1 内部のレコードを検索して通信回線 5 3 - 1 を表わす回線識別子、このケースではメディアルータ状態表 1 0 0 - 1 の上から 1 行目のレコードであり、“53-1”を検出する。次に、このレコードに記されている非独立型 I P 電話機 1 3 - 1 の電話番号“8 1 - 3 - 1 2 3 4 - 5 6 7 9”や I P アドレス“32.3.53.1”を読み取り、また、I P アドレスや電話番号が I P パケット 4 6 - 3 に含まれていない場合は、メディアルータ状態表に記載される値を I P パケット 4 6 - 3 に設定したり、I P アドレスや電話番号に関する情報が書かれている場合でも不一致な値である場合は、エラー処理として I P パケット 4 6 - 3 を廃棄する。ここで、非独立型 I P 電話機 1 3 - 1 の I P アドレスの A131”の具体的数値を“32.3.53.1”とした例である（ステップ ST22）。

【 0 0 8 9 】

次に、H323 終端部 2 3 - 1 は非独立型 I P 電話機 1 3 - 1 のアドレス、つまり送信元 I P アドレス“A131”、ドメイン名サーバ 4 8 - 1 のアドレス、つまり宛先 I P アドレス“A481”、通信相手先電話番号“Tel-13-2 name”を格納した I P パケット 4 6 - 4 を、図 6 のメディアルータ 1 4 - 1 内部のドメイン名サーバ 4 8 - 1 へ送信する（ステップ ST23）。ドメイン名サーバ 4 8 - 1 は受信した I P パケット 4 6 - 4 の内容を調べ、次に通信回線 1 0 - 1 と、網ノード装置 8 - 2 経由で、I P 電話網の専用のドメイン名サーバ 3 1 - 1 宛てに I P パケット 4 6 - 5 を送信する（ステップ ST24）。I P 電話網の専用のドメイン名サーバ 3 1 - 1 は、前記ホスト名“Tel-13-2 name”に 1 : 1 に対応する I P アドレス“A132”を含む I P パケットをドメイン名サーバ 4 8 - 1 に返信すると（ステップ ST25）、ドメイン名サーバ 4 8 - 1 は H323 終端部 2 3 - 1 に I P パケット 4 6 - 6 を

返信する。

【0090】

次に、H323終端部23-1はH323終端部23-2へ送信するIPパケット46-7を生成し、ルータ20-3経由で網ノード装置8-2に送信すると（ステップST26）、網ノード装置8-2は、このIPパケット46-7を図3の統合IP転送網2の内部へ転送し、IPパケット46-7はIP電話網4の内部のルータ19-8、19-9、21-2、19-11、19-13を通過し、網ノード装置7-2に着信する。すると、網ノード装置7-2は受信したIPパケット46-7を通信回線10-5に送出し、ルータ20-4経由でH323終端部23-2がIPパケット46-7を受信する。H323終端部23-2はIPパケット46-7を電話呼び出しと解釈し、以下の2つの手続きを行う。第1の手続きは、返信用IPパケット46-8を生成し、ルータ20-4へ返信することであり、第2の手続きは、IPパケット46-7を図7に示す通信回線53-2経由で、非独立型IP電話機13-2へ転送することである。

【0091】

図7を参照して説明すると、第1の手続きにより生成されたIPパケット46-8は通信回線10-5を経由し（ステップST27）、網ノード装置7-2及びIP電話網4を経由して網ノード装置8-2に着信し、通信回線10-1経由でルータ20-3に、H323終端部23-1経由で非独立型IP電話機13-1にそれぞれ届けられる。非独立型IP電話機13-1は、IPパケット46-8を受信することにより通信相手呼出し中と解釈する。

【0092】

上記第2の手続きにより、非独立型IP電話機13-2はIPパケット46-7を受信することにより呼出ベルの音（呼出音）を鳴らす。非独立型IP電話機13-2の利用者はこの呼出音を聞き取り、非独立型IP電話機13-2の送受話器を取り上げる（オフフック）。すると、非独立型IP電話機13-2はIPパケット46-9を生成して回線53-2に送出し（ステップST28）、H323終端部23-2がIPパケット46-9を受信し、網ノード装置7-2、IP電話網4を経由して網ノード装置8-2に着信し、通信回線10-1経由でルータ20

－ 3、H323終端部 2 3－1 経由で非独立型 I P 電話機 1 3－1 に届けられ、電話通信相手が非独立型 I P 電話機 1 3－2 の送受話器を取り上げたことを知らせる音（応答）として、非独立型 I P 電話機 1 3－1 の利用者に通知される。

【 0 0 9 3 】

前記ステップST28は応答の情報、つまり非独立型 I P 電話機 1 3－1 と非独立型 I P 電話機 1 3－2 との間の電話通信開始を知らせる I P パケット 4 6－9 が転送される手続きであり、網ノード装置 7－2 や 8－2 は I P パケット 4 6－9 を検出すると、電話通信開始記録、つまり非独立型 I P 電話機 1 3－1 と非独立型 I P 電話機 1 3－2 との間の電話通信開始の事実を I P パケット 4 6－9 の内容の一部、例えば送信元 I P アドレス、宛先 I P アドレス、送信元ポート番号、宛先ポート番号と、その検出時刻とを網ノード装置の内部に設定する課金記録ファイルに保持しておくことができる。

【 0 0 9 4 】

非独立型 I P 電話機 1 3－1 の利用者が電話通信の会話を始めると、非独立型 I P 電話機 1 3－1 はデジタル化した音声を含む I P パケット 4 6－1 0 を生成し、通信回線 5 3－1 に送出する（ステップST29）。音声パケット 4 6－1 0 は、H323制御部 2 3－1、ルータ 2 0－3、網ノード装置 8－2、ルータ 1 9－8、1 9－9、2 1－2、1 9－1 1、1 9－1 3、網ノード装置 7－2、ルータ 2 0－4、H323終端部 2 3－2 を経て非独立型 I P 電話機 1 3－2 に届けられる。非独立型 I P 電話機 1 3－2 の利用者の声は I P パケット 4 6－1 1 にデジタル化されて格納されており、上述と逆の流れ、つまりH323制御部 2 3－2、ルータ 2 0－4、網ノード装置 7－2、ルータ 1 9－1 3、1 9－1 1、2 1－2、1 9－9、1 9－8、網ノード装置 8－2、ルータ 2 0－3、H323終端部 2 3－1 を経て非独立型 I P 電話機 1 3－1 に届けられる（ステップST30）。

【 0 0 9 5 】

非独立型 I P 電話機 1 3－1 の利用者が電話通信の終了のために送受話器を置くと、非独立型 I P 電話機 1 3－1 は電話通信終了を示す I P パケット 4 6－1 2 を生成し、通信回線 5 3－1 に送出する（ステップST31）。I P パケット 4 6－1 2 はH323制御部 2 3－1、ルータ 2 0－3、網ノード装置 8－2、ルータ 1

9-8, 19-9, 21-2, 19-11, 19-13、網ノード装置7-2、ルータ20-4、H323終端部23-2を経て非独立型IP電話機13-2に届けられる。非独立型IP電話機13-2の利用者は電話通信が終了したことを知り、送受話器を置くとIPパケット46-13を生成して送出し、上述と逆の流れ、つまりH323制御部23-2、ルータ20-4、網ノード装置7-2、ルータ19-13, 19-11, 21-2, 19-9, 19-8、網ノード装置8-2、ルータ20-3、H323終端部23-1に届けられる（ステップST32）。

【0096】

前記ステップST32は呼切断の確認情報、つまり非独立型IP電話機13-1と非独立型IP電話機13-2との間の電話通信終了を知らせるIPパケット46-13が転送される手続きであり、網ノード装置8-2や7-2はIPパケット46-13を検出すると、電話通信終了記録、つまり非独立型IP電話機13-1と非独立型IP電話機13-2との間の電話通信終了の事実をIPパケット46-13の内容の一部、例えば送信元IPアドレス、宛先IPアドレス、送信元ポート番号、宛先ポート番号と、その検出時刻とを、網ノード装置の内部の課金記録ファイルに保持しておくことができる。

【0097】

以上の手順により、非独立型IP電話機13-1と非独立型IP電話機13-2とがIPパケットを送受することにより電話通信ができたことになる。

以上述べた通信手順において、メディアルータ14-1からメディアルータ内のドメイン名サーバ48-1を除き、前記ステップST23乃至ST25を、以下に述べるステップST23x及びST25xとに置きかえることもできる。即ち、H323終端部23-1は非独立型IP電話機13-1のアドレス、つまり送信元IPアドレス“A131”、IP電話網の専用のドメイン名サーバ31-1のアドレス、つまり宛先IPアドレス“A311”、通信相手先電話番号“Tel-13-2 name”を格納したIPパケット46-14を通信回線10-1と、網ノード装置8-2経由でIP電話網の専用にいるドメイン名サーバ31-1へ送信する（ステップST23x）。ドメイン名サーバ31-1は、通信相手先電話番号“Tel-13-2 name”に1:1対応するIPアドレス“A132”を含むIPパケット46-15をH323終端部23-

1に返信する（ステップST25x）。

【0098】

以上述べたステップST23乃至ST25、或はステップST23x及びST25xの手続きにおいて、網ノード装置8-2は、通信回線10-1経由で受信したIPパケット46-5に含まれる送信元アドレス“A481”と、通信回線識別記号“Line-10-1”との組み合わせが、アドレス管理テーブル44-1（図8）に登録されているかを調べることにより、或は網ノード装置8-2は、通信回線10-1経由で受信したIPパケット46-14に含まれる送信元アドレス“A131”と、通信回線識別記号“Line-10-1”との組み合わせが、アドレス管理テーブル44-1（図8）に登録されているかを調べることにより、非独立型IP電話機13-1が、通信回線10-1から網ノード装置8-2を経由する通信を許可されている、つまり“通信許可登録”していることを確認している。

【0099】

<<独立型IP電話機間の通信接続制御>>

図6の非独立型IP電話機13-1はH323終端部23-1の終端機能を含んでいることから、非独立型IP電話機13-1は接続制御部22-1と一体化できる。この理由から、図31の独立型IP電話機12-1内部の非独立型IP電話機13-11は、通信回線経由で直接に接続制御部22-11に接続されている。接続制御部22-11から通信回線10-4が出ており、図3の網ノード装置8-4に接続されている。独立型IP電話機12-1と独立型IP電話機12-2とはIPパケットを送受する電話通信を行うことが可能であり、その通信手順は、前記非独立型IP電話機13-1と非独立型IP電話機13-2とがIPパケットを送受することにより電話通信を行うステップST20からステップST32と同様である。そして、異なる第1の点は、メディアルータ14-1内のドメイン名サーバ48-1が存在しないためドメイン名サーバ48-1を経由せず、ステップST23とステップST24とを一体化したステップとみなすこと、異なる第2の点は、H323終端部23-1及び23-2とが存在しないため、これらH323終端部23-1及び23-2の部分をIPパケットが通過できる通信回線に置きかえることである。

【0100】

<<非独立型IP音声画像装置と非独立型IP音声画像装置間>>

次に、非独立型音声画像装置16-1から非独立型IP音声画像装置16-3へIPパケットを送信し、また受信することにより、装置を識別するホスト名称をIPパケットを送受する音声画像通信で行うことが可能である。その通信手順は、非独立型IP電話機13-1と非独立型IP電話機13-2とが、IP電話網の専用のドメイン名サーバ31-1を使うステップST20からステップST32と同様である。異なる点は、IP電話網の専用のドメイン名サーバ31-1を使わずに図7のIP音声画像網の専用のドメイン名サーバ32-1を用い、ステップST24の代わりにステップST44、ステップST25に代わりステップST45を実行することである。非独立型音声画像装置16-1が、IP転送網内部のIP画像専用ドメイン名サーバ32-1に、非独立型音声画像装置16-2のホスト名を問合せ、非独立型音声画像装置16-2のIPアドレスを取得し、次に、非独立型音声画像装置16-1から、非独立型音声画像装置16-2に音声画像データを送信することから、非独立型音声画像装置16-1と非独立型音声画像装置16-2との間で、音声画像データを送受する音声画像通信を行なうことができる。

【0101】

<<独立型IP音声画像装置と非独立型IP音声画像装置との間>>

図6の非独立型IP音声画像装置16-1はH323終端部23-1の終端機能を含んでいることから、非独立型IP音声画像装置16-1接続制御部22-1と一体化できる。この理由から、図32の独立型IP音声画像装置12-3内部の非独立型IP音声画像装置16-12は、通信回線経由で直接に接続制御部22-12に接続されている。接続制御部22-12から通信回線10-9が出ており、図3の網ノード装置8-4に接続されている。

【0102】

独立型IP音声画像装置12-3と非独立型IP音声画像装置16-3とは、IPパケットを送受する音声画像通信を行うことが可能であり、その通信手順は、非独立型IP音声画像装置16-1と非独立型IP音声画像装置16-3とがIP音声画像網5-1の専用のドメイン名サーバ32-1を使い、IPパケット

を送受することにより音声画像通信を行うステップST20からステップST32と同様である。異なる点は、メディアルータ14-1内のドメイン名サーバ48-1が存在しないためドメイン名サーバ48-1を経由せず、ステップST23及びST24を一体化したステップとみなすことである。

独立型IP音声画像端末装置16-4を網ノード装置7-4に接続することにより、独立型音声画像装置12-3と独立型音声画像装置16-4との間で、網ノード装置8-4、IP音声画像網5-1、網ノード装置7-4を経由し、IPパケットを送受する音声画像通信を行うことができる。

【0103】

独立型IP音声画像装置12-3を、音声画像商品を販売する音声画像商品販売会社の販売手段と見なし、非独立型IP音声画像装置16-3や独立型IP音声画像装置16-4を、音声画像商品購入者の購入手段と見なすと、IP転送網を用いた音声画像商品の流通を可能とする仮想的市場が実現できる。購入者は、音声画像伝票により、販売会社に音声画像商品を注文し、販売会社はデジタル音声画像商品を送信できる。

【0104】

<<アナログ電話機間の通信>>

図3、図6、図7、図33乃至図47を参照して、電話番号をダイヤルしてIP電話機でない普通の電話機、つまりアナログ電話機18-1からアナログ電話機18-3へ電話通信を行う手順を説明する。

【0105】

図6のアナログ電話機18-1は通信回線55-1経由でSCN境界部24-1に接続されており、また、図7のアナログ電話機18-3は通信回線55-2経由でSCN境界部24-2に接続されている。アナログ電話機18-1の送受話器を上げると（オフフック）、通信回線55-1経由で呼出のアナログ信号がSCN境界部24-1へ送出され、SCN境界部24-1は受信した呼出信号をデジタルデータ形式に変換する。次に、このデジタルデータの送受規則などを変換し、呼出を通知する図33に示すデジタルデータ47-1を生成してH323終端部23-1に入力し（図6のステップST60）、H323終端部23-1は、呼出確認の図

34のデジタルデータ47-2をSCN境界部24-1へ返信する(ステップST61)。ここで、デジタルデータ47-1内部の“CTL-Info-1”は呼出制御情報であり、デジタルデータ47-2内部の“CTL-Info-2”は呼出確認情報である。

【0106】

次に、アナログ電話機18-1の利用者は、通信相手先のアナログ電話機18-3の電話番号をダイヤル入力すると、電話機18-1が呼設定アナログ信号を通信回線55-1に送出し、SCN境界部23-1が“呼設定”アナログ信号を用いて電話番号を知らせる図35のデータブロック47-3を生成し、H323終端部23-1に送出する。ここで、H323終端部23-1は、図30のメディアルータ状態表100-1内部のレコードを検索して通信回線55-1を表わす回線識別子、このケースではメディアルータ状態表100-1の上から3行目のレコードであり、“55-1”を検出する。次に、このレコードに記されているアナログ電話機18-1の電話番号“81-47-325-3887”や、IPアドレス“20.0.55.1”を読み取る。ここで、アナログ電話機18-1のIPアドレス“A181”の具体的数値は、“20.0.55.1”とした例である(ステップST62)。

【0107】

次に、H323終端部23-1はアナログ電話機18-1に仮想的に付与するアドレス、つまり送信元IPアドレス“A181”、メディアルータ内のドメイン名サーバ48-1のアドレス、つまり宛先IPアドレス“A481”、通信相手先電話番号“Tel-18-3 name”を格納した図36のIPパケット47-4を生成し、ドメイン名サーバ48-1へ送信する(ステップST63)。ドメイン名サーバ48-1は、受信したIPパケット47-4の内容を調べ、次に通信回線10-1と、網ノード装置8-2経由でIP電話網の専用のドメイン名サーバ31-1宛てにIPパケット47-5を送信する(ステップST64)。IP電話網の専用のドメイン名サーバ31-1は、前記ホスト名“Tel-18-3 name”に1:1に対応するIPアドレス“A183”を含むIPパケット47-6をドメイン名サーバ48-1に返信すると(ステップST65)、ドメイン名サーバ48-1は、H323終端部23-1にIPパケットを返信する。

【0108】

次に、H323終端部 2 3 - 1 は H323終端部 2 3 - 2 へ送信する I P パケット 4 7 - 7 を生成し、ルータ 2 0 - 3 経由で網ノード装置 8 - 2 に送信すると（ステップ ST66）、網ノード装置 8 - 2 は、この I P パケット 4 7 - 7 を図 3 の統合 I P 転送網 2 の内部へ転送し、I P パケット 4 7 - 7 は I P 電話網 4 の内部のルータ 1 9 - 8、1 9 - 9、2 1 - 2、1 9 - 1 1、1 9 - 1 3 を通過し、網ノード装置 7 - 2 に着信する。すると、網ノード装置 7 - 2 は受信した I P パケット 4 7 - 7 を通信回線 1 0 - 5 に送出し、ルータ 2 0 - 4 経由で H323終端部 2 3 - 2 が I P パケット 4 7 - 7 を受信する。H323終端部 2 3 - 2 は I P パケット 4 7 - 7 を電話呼び出しと解釈し、以下の 2 つの手続きを行う。第 1 の手続きは返信用 I P パケット 4 7 - 8 を生成し、ルータ 2 0 - 4 へ返信することであり、アナログ電話機 18-3 は I P パケット 4 7 - 7 を受信することにより呼出ベルの音（呼出音）を鳴らす。第 2 の手続きは、I P パケット 4 7 - 7 を、SCN境界部 2 4 - 2 経由でアナログ電話機 18-3 へ転送することである。

【 0 1 0 9 】

図 7 を参照して説明すると、第 1 の手続きにより生成された I P パケット 4 7 - 8 は通信回線 1 0 - 5 を経由し（ステップ ST67）、網ノード装置 7 - 2、I P 電話網 4 を経由して網ノード装置 8 - 2 に着信し、通信回線 1 0 - 1 経由で、ルータ 2 0 - 3、H323終端部 2 3 - 1、SCN境界部 2 4 - 1 経由でアナログ電話機 1 8 - 1 に届けられる。アナログ電話機 1 8 - 1 は I P パケット 4 7 - 8 を受信することにより、通信相手呼出し中と解釈する。

【 0 1 1 0 】

上記第 2 の手続きにより、アナログ電話機 18-3 の利用者はこの呼出音を聞き取り、アナログ電話機 18-3 の送受話器を取り上げる（オフフック）。すると、H323 終端部 2 3 - 2 は I P パケット 4 7 - 9 を生成して（ステップ ST68）、I P パケット 4 7 - 9 をルータ 2 0 - 4 へ向けて送出し、網ノード装置 7 - 2、I P 電話網 4 を経由して網ノード装置 8 - 2 に着信し、通信回線 1 0 - 1 経由でルータ 2 0 - 3、H323終端部 2 3 - 1、SCN境界部 2 4 - 1 経由で、アナログ電話機 1 8 - 1 に届けられ、電話通信相手がアナログ電話機 18-3 の送受話器を取り上げたことを知らせる音（呼設定確認の音）として、アナログ電話機 1 8 - 1 の利用者に

通知される。

【0111】

前記ステップST68は呼設定確認の情報、つまりアナログ電話機18-1とアナログ電話機18-3との間の電話通信開始を知らせるIPパケット47-9が転送される手続きであり、網ノード装置7-2及び8-2はIPパケット47-9を検出すると電話通信開始記録、つまりアナログ電話機18-1とアナログ電話機18-3との間の電話通信開始の事実をIPパケット47-9の内容の一部、例えば送信元IPアドレス、宛先IPアドレス、送信元ポート番号、宛先ポート番号と、その検出時刻とを、網ノード装置の内部に設定する課金記録ファイルに保持することができる。

【0112】

アナログ電話機18-1の利用者が電話通信の会話を始めると、その音声信号は通信回線55-1を経由してSCN境界部24-1へ転送されて音声信号はデジタル表現され、次にH323終端部23-1はデジタル化された音声を含むIPパケット47-10を生成し、通信回線10-1に送出する（ステップST69）。音声パケット47-10はH323制御部23-1、ルータ20-3、網ノード装置8-2、ルータ19-8、19-9、21-2、19-11、19-13、網ノード装置7-2、ルータ20-4、H323終端部23-2を経てアナログ電話機18-3に届けられる。アナログ電話機18-3の利用者の声は上述と逆の流れ、つまりH323制御部23-2、ルータ20-4、網ノード装置7-2、ルータ19-13、19-11、21-2、19-9、19-8、網ノード装置8-2、ルータ20-3、H323終端部23-1を経てアナログ電話機18-1に届けられる（ステップST70）。

【0113】

アナログ電話機18-1の利用者が電話通信の終了のため送受話器を置くと、アナログ電話機18-1は電話終了を表わす呼切断信号を通信回線55-1に送出し、SCN境界部24-1は呼切断信号をデジタルデータ形式に変換し、次にH323終端部23-1は、電話通信終了を示すIPパケット47-12を生成し、通信回線10-1に送出する（ステップST71）。IPパケット47-12は、H3

23制御部23-1、ルータ20-3、網ノード装置8-2、ルータ19-8、19-9、21-2、19-11、19-13、網ノード装置7-2、ルータ20-4、H323終端部23-2を経てアナログ電話機18-3に届けられる。アナログ電話機18-3の利用者は電話通信が終了したことを知り送受話器を置くと、H323終端部23-2はIPパケット47-13を生成して送出して上述と逆の流れ、つまりH323制御部23-2、ルータ20-4、網ノード装置7-2、ルータ19-13、19-11、21-2、19-9、19-8、網ノード装置8-2、ルータ20-3、H323終端部23-1に届けられる（ステップST72）。

【0114】

前記ステップST72は呼切断確認情報、つまりアナログ電話機18-1とアナログ電話機18-3との間の電話通信終了を知らせるIPパケット47-13が転送される手続きであり、網ノード装置8-2及び7-2はIPパケット47-13を検出すると電話通信終了記録、つまりアナログ電話機18-1とアナログ電話機18-3との間の電話通信終了の事実をIPパケット47-13の内容の一部、例えば送信元IPアドレス、宛先IPアドレス、送信元ポート番号、宛先ポート番号と、その検出時刻とを網ノード装置の内部の課金記録ファイルに保持しておくことができる。

【0115】

以上の手順により、アナログ電話機18-1とアナログ電話機18-3とがIPパケットを送受することにより電話通信ができたことになる。

【0116】

以上述べた通信手順において、メディアルータ14-1からメディアルータ内のドメイン名サーバ48-1を除き、前記ステップST63乃至ST65を、以下に述べるステップST63x及びST65xに置きかえることもできる。即ち、H323終端部23-1はアナログ電話機18-1のアドレス、つまり送信元IPアドレス“A181”、IP電話網の専用のドメイン名サーバ31-1のアドレス、つまり宛先IPアドレス“A311”、通信相手先電話番号“Tel-18-3 name”を格納したIPパケット47-14を通信回線10-1と、網ノード装置8-2経由でIP電話専用を用いるドメイン名サーバ31-1へ送信する（ステップST63x）。ドメイン名サ

ーバ 3 1 - 1 は、通信相手先電話番号 “Tel-18-3 name” に 1 : 1 対応する I P アドレス “A183” を含む I P パケット 4 7 - 1 5 を H323 終端部 2 3 - 1 に返信する（ステップ ST65 x）。

【 0 1 1 7 】

以上述べたステップ ST63 乃至 ST65、或はステップ ST63 x 及び ST65 x の手続きにおいて、網ノード装置 8 - 2 は、通信回線 1 0 - 1 経由で受信した I P パケット 4 7 - 5 に含まれる送信元アドレス “A481” と、通信回線識別記号 “Line-10-1” との組合わせが、アドレス管理テーブル 4 4 - 1（図 8）に登録されているかを調べることにより、或は網ノード装置 8 - 2 は、通信回線 1 0 - 1 経由で受信した I P パケット 4 7 - 1 4 に含まれる送信元アドレス “A181” と、通信回線識別記号 “Line-10-1” との組合わせが、アドレス管理テーブル 4 4 - 1（図 8）に登録されているかを調べることにより、アナログ電話機 1 8 - 1 が、通信回線 1 0 - 1 から網ノード装置 8 - 2 を経由する通信を許可されている、つまり通信許可登録していることを確認している。

【 0 1 1 8 】

<< I P データサービス運用管理サーバ >>

通信会社 X の管理下にある I P データサービス運用管理サーバ 3 5 - 1 は周期的に或いは随時、網ノード装置 8 - 2 及び 8 - 4 等と問合わせ I P パケットとを送受することにより、前記ステップ ST11 において網ノード装置が作成した I P 端末間通信記録を取得する。また、I P データサービス運用管理サーバ 3 5 - 1 は、通信会社 X が管理する I P データ網の内部リソース、例えばルータ 1 9 - 1、1 9 - 2、1 9 - 3、I P データ網の専用のドメイン名サーバ 3 0 - 1 及び 3 0 - 2、ルータ間の通信回線等を、ICMP パケットを送受する等の手段により正常か否かを調べ（障害管理）、また、I P データ網内の I P パケットの輻輳が過大でないか等を監視する（通信品質管理）ことにより、通信会社 X の I P データ網を一元的に運用管理する。

【 0 1 1 9 】

同様に、通信会社 Y の管理下にある I P データサービス運用管理サーバ 3 5 - 2 は周期的に或いは随時、網ノード装置 7 - 2 及び 7 - 4 等と問合わせ I P パケ

ットとを送受することにより前記IP端末間通信記録を取得し、また、通信会社YのIPデータ網の障害管理や通信品質を一元的に運用管理する。なお、IPデータサービス運用管理サーバ35-1及び35-2はそれぞれIPデータサービスを専ら管理するIPデータサービスサーバと、IPデータ網のリソースを専ら管理するIPデータ網運用管理サーバとに分けることもできる。

【0120】

<<IP電話サービス運用管理サーバ>>

通信会社Xの管理下にあるIP電話サービス運用管理サーバ36-1は周期的に或いは随時、網ノード装置8-2や8-4等と問合わせIPパケットとを送受することにより、前記電話通信開始記録と電話通信終了記録を取得する。また、通信会社Xの管理するIP電話網の内部リソース、例えばルータ19-8、19-9、19-10、IP電話網の専用のドメイン名サーバ31-1、ルータ間の通信回線等をICMPパケットを送受する等の手段により正常か否かを調べ（障害管理）、また、IP電話網内のIPパケットの輻輳が過大でないかを監視する（通信品質管理）ことにより、通信会社XのIP電話網を一元的に運用管理する。

【0121】

同様に、通信会社Yの管理下にある電話サービス運用管理サーバ36-2は周期的に或いは随時、網ノード装置7-2及び7-4等と問合わせIPパケットとを送受することにより、前記電話通信開始記録と電話通信終了記録を取得し、通信会社YのIP電話網の障害管理や通信品質を一元的に運用管理する。

【0122】

なお、上記手続きのうちステップST28、ステップST68における電話通信開始の記録、及びステップST32、ステップST72における電話通信の終了の記録を省略してもよく、この場合は通信会社Xや通信会社Yによる電話通信開始記録と電話通信終了記録の取得を省くことができる。

【0123】

なお、IP電話サービス運用管理サーバ36-1及び36-2はそれぞれIP電話サービスを専ら管理するIP電話サービスサーバと、IP電話網のリソースを専ら管理するIP電話網運用管理サーバとに分けることもできる。

【0124】

<<IP音声画像サービス運用管理サーバ>>

通信会社Xの管理下にあるIP音声画像サービス運用管理サーバ37-1は周期的に或いは随時、網ノード装置8-2及び8-4等と問合わせIPパケットとを送受することにより、前記音声画像通信開始記録と音声画像通信終了記録を取得する。また、通信会社Xの管理するIP音声画像網の内部リソース、例えばルータ19-14、19-15、IP電話網の専用のドメイン名サーバ32-1、ルータ間の通信回線等をICMPパケットを送受する等の手段により正常か否かを調べ（障害管理）、また、IP音声画像網内のIPパケットの輻輳が過大でないかな等を監視する（通信品質管理）ことにより、通信会社XのIP音声画像網を一元的に運用管理する。

【0125】

同様に、通信会社Yの管理下にあるIP音声画像サービス運用管理サーバ37-2は周期的に或いは随時、網ノード装置7-2や7-4等と問合わせIPパケットとを送受することにより、前記音声画像通信開始記録と音声画像通信終了記録を取得し、通信会社Yの音声画像網の障害管理や通信品質を一元的に運用管理する。なお、IP音声画像サービス運用管理サーバ37-1及び37-2はそれぞれIP音声画像サービスを専ら管理するIP音声画像サービスサーバと、音声画像網のリソースを専ら管理するIP音声画像網運用管理サーバとに分けることもできる。

【0126】

<<ベストエフォートサービス運用管理サーバ>>

通信会社Xの管理下にあるベストエフォートサービス運用管理サーバ38-1は、通信会社Xのベストエフォート網の障害管理や通信品質を一元的に運用管理する。同様に、通信会社Yの管理下にあるベストエフォートサービス運用管理サーバ38-2は、通信会社Yのベストエフォート網の障害管理や通信品質を一元的に運用管理する。なお、ベストエフォートサービス運用管理サーバ38-1及び38-2はそれぞれベストエフォートサービスを専ら管理するベストエフォートサービスサーバと、ベストエフォートサービス網のリソースを専ら管理するベ

ストエフォート網運用管理サーバとに分けることもできる。

【0127】

以上の説明において、実施例における要素名を、例えば「H323終端部」や「H323ゲートウェイ」等と付与しているところがあるが、ITU-H323勧告に従うという意味ではなく、関連した通信技能を有することを表わす。

【0128】

図48に示すように、メディアルータ操作者102は、操作入出力部51-1を経由してRAS機構49-1の内部のRAS管理プログラム101-1と情報交換し、或はRAS管理プログラム内のRAS表を書き換えることにより、端末の登録と認証、メディアルータ14-1の内部状態を管理する。

【0129】

図49に示すように、端末操作者103は非独立型IP電話機13-1を操作し、この操作情報がH323端末プログラム105-2、次に通信回線53-1内に仮想的に存在する3層通信路106を経由して、RAS機構49-1の内部のRAS管理プログラムのインタフェース105-1及びRAS管理プログラムのAP層101-2と情報交換することにより、また、RAS管理プログラム内のRAS表を書換えることにより、端末の登録と認証及びメディアルータ14-1の内部状態を管理する。

【0130】

図50に示すように、電話機操作者は104はアナログ電話機18-1を操作し、この操作情報がSCN境界部24-1内の電話操作プログラム106-2、次にRAS機構49-1の内部のRAS管理プログラムのTCP/IPインタフェース106-1及びRAS管理プログラムのAP層101-3と情報交換することにより、また、RAS管理プログラム内のRAS表を書換えることにより、端末の登録と認証及びメディアルータ14-1の内部状態を管理する。

【0131】

図3の実施例において、通信会社Yが運用管理するIP転送網の範囲6-2の内部要素の全部を除き、更にルータ21-1乃至21-5を除くことができる。このようにした場合、統合IP転送網2の内部は、通信会社Xが運用管理するI

P 転送網の範囲 6-1 と、網ノード装置 7-1 乃至 7-4、8-1 乃至 8-4 と、ゲートウェイ 9-1 及び 9-2 のみとなる。IP データ通信の場合は、例えば網ノード装置 8-2 からルータ 19-1、ルータ 19-3 を経由して網ノード装置 7-2 へ情報を転送し、IP 電話通信の場合は、例えば網ノード装置 8-2 からルータ 19-8 及び 19-9 を経由して網ノード装置 7-2 に情報を転送する。

【0132】

2. ゲートウェイを用いる第 2 実施例：

＜＜ゲートウェイを経由したアナログ電話機間の通信＞＞

図 6、7 のメディアルータ 14-1 及び 14-2 は、図 5 1 のゲートウェイ 9-1 及び図 5 2 のゲートウェイ 9-2 とほぼ同一の内部構成と機能を有し、異なる点はメディアルータ 14-1 及び 14-2 が統合 IP 転送網 2 の外部にあるのに対して、ゲートウェイ 9-1 及び 9-2 は統合 IP 転送網 2 の内部にあり、また、ゲートウェイ 9-1 及び 9-2 の内部には課金部 72-1 及び 72-2 がある他に、メディアルータ 14-1 及び 14-2、ゲートウェイ 9-1 及び 9-2 それぞれの内部は SCN 境界部、H323 終端部、接続制御部、ルータなど共通の内部要素ブロックから構成されている。また、79-1 はゲートウェイ 9-1 の RAS 機構、80-1 はゲートウェイ 9-1 の情報処理機構、81-1 はゲートウェイ 9-1 の操作入出力部である。メディアルータとゲートウェイとは、課金部に関する処理が異なる他は、ほぼ類似の機能で成っている。

【0133】

ゲートウェイ 9-1 には通信回線を経て IP 端末 11-6 や非独立型 IP 電話機 13-3 が接続され、ゲートウェイ 9-2 には通信回線を経て IP 端末 11-10 や非独立型 IP 音声画像装置 16-4 が接続されており、メディアルータを経由した端末間通信が可能であるようにゲートウェイ 9-1、統合 IP 転送網 2、ゲートウェイ 9-2 を経由して、例えば図 3 に示す IP 端末 11-6 と IP 端末 11-10 との間の端末間通信や、非独立型 IP 電話機 13-3 と非独立型 IP 電話機 13-4 との間の端末間通信や、非独立型 IP 音声画像装置 16-1 と

非独立型 I P 音声画像装置 1 6 - 4 との間の端末間通信が可能である。

【 0 1 3 4 】

以下、図 5 1 乃至図 6 8 を参照して、ゲートウェイ 9 - 1、統合 I P 転送網 2、ゲートウェイ 9 - 2 を経由してアナログ電話機 1 8 - 5 とアナログ電話機 1 8 - 6 との間の通信手順を説明する。

【 0 1 3 5 】

アナログ電話機 1 8 - 5 の送受話器を上げると、電話回線 1 7 - 3、公衆交換電話網 2 6 - 1、電話回線 1 7 - 1 を経由して呼出の信号がゲートウェイ 9 - 1 内部の SCN 境界部 7 7 - 1 に着信し(図 5 1 のステップ S60)、SCN 境界部 7 7 - 1 は呼出確認信号を公衆交換電話網 2 6 - 1 経由でアナログ電話機 1 8 - 5 へ返信する(ステップ S61)。次に、アナログ電話機 1 8 - 5 の利用者は、通信相手先電話機 1 8 - 6 の電話番号“Tel-18-6 name”をダイヤル入力すると、アナログ電話機 1 8 - 5 が呼設定信号を通信回線 1 7 - 3 に送出すると、呼設定信号が公衆交換電話網 2 6 - 1、電話回線 1 7 - 1 を経て SCN 境界部 7 7 - 1 に到達し(ステップ S62)、この呼設定信号がデジタル化されて出来た図 5 3 に示すデータブロック 4 8 - 1 が H323 終端部 7 6 - 1 に伝えられ(ステップ S62x)、H323 終端部 7 6 - 1 は図 7 0 のゲートウェイ状態表 1 0 0 - 2 内部のレコードを検索して、通信回線 1 7 - 1 を表わす回線識別子、このケースではゲートウェイ状態表 1 0 0 - 2 の上から 1 行目のレコードであり、“17-1”を検出する。

【 0 1 3 6 】

次に、このレコードに記されているアナログ電話機 1 8 - 5 の電話番号“8 1 - 3 - 9 8 7 6 - 5 4 3 2”や I P アドレス“100.101.102.103”を読み取る。更に、H323 終端部 7 6 - 1 はアナログ電話機 1 8 - 5 のアドレス、つまり送信元 I P アドレス“A185”、ゲートウェイ内のドメイン名サーバ 7 8 - 1 のアドレス、つまり宛先 I P アドレス“A781”、通信相手先電話番号“Tel-18-6 name”を格納した I P パケット 4 8 - 2 を生成し、ドメイン名サーバ 7 8 - 1 へ送信する(ステップ S63)。ドメイン名サーバ 7 8 - 1 は受信した I P パケット 4 8 - 2 の内容を調べ、網ノード装置 8 - 4 経由で I P 電話網の専用のドメイン名サーバ 3 1 - 1 宛てに I P パケット 4 8 - 3 を送信する(ステップ S64)。I P 電話網の専

用のドメイン名サーバ31-1は、前記通信相手先電話番号“Tel-18-6 name”に1:1に対応するIPアドレス“A186”を含むIPパケット48-4をドメイン名サーバ78-1に返信すると（ステップS65）、ドメイン名サーバ78-1はH323終端部76-1にIPパケットを返信する。

【0137】

次に、H323終端部76-1はIPパケット48-5を生成し、網ノード装置8-4に送信すると（ステップS66）、網ノード装置8-4はこのIPパケット47-5を図3の統合IP転送網2の内部へ転送すると、IPパケット48-5はIP電話網4の内部のルータ19-8、19-9、21-2、19-11、19-13を通過して網ノード装置7-4に着信する。すると、網ノード装置7-4は受信したIPパケット48-5を、ルータ74-2、H323終端部76-2を経由してSCN境界部77-2に送出する。SCN境界部77-2は、IPパケット48-5をアナログ電話機18-6への電話呼出しと解釈し、電話回線17-2に対して呼出信号を送出する（ステップS66x）。公衆交換電話網26-2から呼出確認信号を受けると（ステップS66y）、次の2つの手続きを行う。第1の手続きは返信用IPパケット48-6を生成し、ルータ74-2へ返信することであり、第2の手続きは呼設定信号を、回線17-2を経て公衆交換電話網26-2へ送出することである。

【0138】

第1の手続きにより生成されたIPパケット48-6は網ノード装置7-4を経由し（ステップS67）、IP電話網4を経由して網ノード装置8-4に着信し、ゲートウェイ9-1内部のH323終端部76-1に届けられる。次に、H323終端部76-1は、受信したIPパケット48-6を通信相手の電話機（アナログ電話機18-6）を呼出中であると理解し、呼出音を意味するデータブロック48-7をSCN境界部77-1に送出する。すると、SCN境界部77-1は呼出音を通信回線17-1へ送出し、この呼出音が公衆交換電話網26-1、通信回線17-3経由でアナログ電話機18-5に届けられ、アナログ電話機18-5は通信相手のアナログ電話機18-6を呼出し中と解釈する。

【0139】

上記第2の手続きにより、アナログ電話機18-6は呼設定信号を受信し（ステップS67x）、呼出音を鳴らす。アナログ電話機18-6の利用者がこの呼出音を聞き取り、アナログ電話機18-6の送受話器を取り上げると、呼設定確認の信号がアナログ電話機18-6から送出され、回線17-4、公衆交換電話網26-2、回線17-2経由でこの呼設定確認信号がSCN境界部77-2に着信する。SCN境界部77-2が応答の受信をH323終端部76-2に伝達すると（ステップS67y）、H323終端部76-2はIPパケット48-8を生成してH323終端部76-1へ向けて送出する（ステップS68）。すると、このIPパケット48-8は網ノード装置7-4、IP電話網4を経由して網ノード装置8-4に到達し、ゲートウェイ9-1内部のルータ74-1を経てH323終端部76-1に着信する。

【0140】

H323終端部76-1は受信したIPパケット48-8を応答（つまり、アナログ電話機18-6の利用者が送受話器を上げた）と理解し、呼設定確認を意味するデータブロック48-9をSCN境界部77-1に送出する。すると、SCN境界部77-1は呼設定確認信号を通信回線17-1へ送出し、公衆交換電話網26-1、通信回線17-3経由でアナログ電話機18-5に届ける。

【0141】

前記ステップS68は応答の情報、つまりアナログ電話機18-5とアナログ電話機18-6との間の電話通信開始を知らせるIPパケット48-9が転送される手続きであり、網ノード装置7-4や8-4はIPパケット48-9を検出すると電話通信開始記録、つまりアナログ電話機18-5とアナログ電話機18-6との間の電話通信開始の事実をその時刻と共に網ノード装置の内部に設定する課金記録ファイルに保持しておくことができる。

【0142】

アナログ電話機18-1の利用者が電話通信の会話を始めると、その音声信号は通信回線17-3、公衆交換電話網26-1、通信回線17-1を経由してSCN境界部77-1へ転送され、音声信号はデジタル表現され、次にH323終端部76-1はデジタル化された音声を含むIPパケット48-10を生成する。

音声パケット48-10はルータ74-1、網ノード装置8-4、ルータ19-8、19-9、21-2、19-11、19-13、網ノード装置7-4、H323終端部76-2、SCN境界部77-2、通信回線17-2、公衆交換電話網26-2、通信回線17-4を経てアナログ電話機18-6に届けられる（ステップS69）。アナログ電話機18-6の利用者の声はIPパケット48-11として上述と逆の流れ、つまりSCN境界部77-2、H323制御部76-2、網ノード装置7-4、ルータ19-13、19-11、21-2、19-9、19-8、網ノード装置8-4、ゲートウェイ9-1内部のH323終端部76-1、SCN境界部77-1、通信回線17-1等を経てアナログ電話機18-5に届けられる（ステップS70）。

【0143】

アナログ電話機18-5の利用者が電話通信の終了のため送受話器を置くと、アナログ電話機18-5は電話終了を表わす呼切断信号を通信回線17-3に送出し、SCN境界部77-1は呼切断信号をデジタルデータ形式に変換し、次にH323終端部76-1は電話通信終了を示すIPパケット48-12を生成し、ルータ74-1に送出すると（ステップS71）、IPパケット48-12は網ノード装置8-4、ルータ19-8、19-9、21-2、19-11、19-13、網ノード装置7-4、H323終端部76-2、SCN終端部77-2を経てアナログ電話機18-6に届けられる。アナログ電話機18-6の利用者は電話通信が終了したことを知り送受話器を置くと、SCN境界部77-2は呼切断確認（つまり電話通信終了）と理解すると共に、公衆交換電話網26-2から、アナログ電話機18-5とアナログ電話機18-6との間の電話通信のために必要とした「公衆交換電話網の利用料金」を通知してもらう。例えば通信回線17-2がISDN回線の場合、電話通信終了時に課金情報を通知されるようになっている。

【0144】

SCN境界部77-2は、前記入手した公衆交換電話網の利用料金を課金料金として、H323終端部76-2に通知する。H323終端部76-2は呼解放確認と課金料金とを知り、次の2つの手続きを行うことができる。H323終端部76-2は、第1の手続きとしてIPパケット48-13を生成してルータ74-2に向けて

送出する。すると、上記と逆の流れ、つまり網ノード装置 7-4、ルータ 19-13、19-11、21-2、19-9、19-8、網ノード装置 8-4、H323 終端部 76-1 に届けられる（ステップ S72）。更に、H323 終端部 76-2 は、前記第 2 の手続きとして、前記手順により入手した課金料金の情報を含むデータブロック 48-14 を、ゲートウェイ 9-2 の内部で動作するデータ転送機能を用いて課金部 72-2 に通知する。課金部 72-2 は、前記取得したアナログ電話機 18-5 とアナログ電話機 18-6 との間の電話通信において、公衆交換電話網 26-2 を利用した課金情報を保持しておくことができる。

【0145】

以上の手順により、アナログ電話機 18-5 とアナログ電話機 18-6 とが IP パケットを送受することにより電話通信ができたことになる。

【0146】

前記ステップ S72 は呼切断確認情報、つまりアナログ電話機 18-5 とアナログ電話機 18-6 との間の電話通信終了を知らせる IP パケット 48-13 が転送される手続きであり、網ノード装置 8-4 及び 7-4 は IP パケット 48-13 を検出すると電話通信終了記録、つまりアナログ電話機 18-5 とアナログ電話機 18-6 との間の電話通信終了の事実をその時刻と共に網ノード装置の内部に設定する課金記録ファイルに保持しておくことができる。

【0147】

通信会社 X の管理下にある IP 電話サービス運用管理サーバ 36-1 は周期的に或いは随時、網ノード装置 8-4 と問合わせ IP パケットとを送受することにより、前記電話通信開始記録と電話通信終了記録を取得する。更に、IP 電話サービス運用管理サーバ 36-1 は課金部 72-1 と問合わせ IP パケットを送受することにより、前記課金情報を取得する。同様に、通信会社 Y の管理下にある IP 電話サービス運用管理サーバ 36-2 は周期的に或いは随時、網ノード装置 7-4 と問合わせ IP パケットとを送受することにより、電話通信開始記録及び電話通信終了記録を取得する。更に、IP 電話サービス運用管理サーバ 36-2 は、課金部 72-2 と問合わせ IP パケットとを送受することにより、前記課金情報を取得する。

【0148】

以上述べた通信手順において、ゲートウェイ 9-1 からドメイン名サーバ 78-1 を除き、前記ステップ S63 乃至 S65 を以下に述べるステップ S63x 及び S65x に置きかえることもできる。即ち、H323 終端部 76-1 はアナログ電話機 18-5 のアドレス、つまり送信元 IP アドレス “A185”、IP 電話網の専用のドメイン名サーバ 31-1 のアドレス、つまり宛先 IP アドレス “A311”、通信相手先電話番号 “Tel-18-6 name” を格納した IP パケット 48-15 を、網ノード装置 8-4 経由でドメイン名サーバ 31-1 へ送信する（ステップ S63x）。IP 電話網の専用のドメイン名サーバ 31-1 は、通信相手先電話番号 “Tel-18-6 name” に 1:1 に対応する IP アドレス “A186” を含む IP パケット 48-16 を H323 終端部 76-1 に返信する（ステップ S65x）。

【0149】

以上述べたステップ S63 乃至 S65、或はステップ S63x 及び S65x の手続きにおいて、網ノード装置 8-4 は通信回線 17-1 及び H323 終端部 76-1 を経由し、ゲートウェイ内のドメイン名サーバ 78-1 で生成された IP パケット 48-3 に含まれる送信元アドレス “A781” と通信回線識別記号 “Line-17-1” との組合わせが、アドレス管理テーブル 44-2（図 69）に登録されているかを調べることにより、或は網ノード装置 8-4 は、H323 終端部 76-1 で生成された IP パケット 48-15 に含まれる送信元アドレス “A185” と、通信回線識別記号 “Line-17-1” との組合わせがアドレス管理テーブル 44-2（図 69）に登録されているかを調べることにより、アナログ電話機 18-5 が通信回線 17-1 から網ノード装置 8-4 を経由する通信を許可されている。つまり、通信許可登録していることを確認している。

【0150】

<<電話サービス運用管理サーバ>>

通信会社 X の管理下にある IP 電話サービス運用管理サーバ 36-1 は周期的に或いは随時、網ノード装置 8-2 及び 8-4 等と問合わせ IP パケットとを送受することにより、電話通信開始記録及び電話通信終了記録を取得する。また、通信会社 X の管理する IP 電話網の内部リソース、例えばルータ 19-8、19

ー9、19-10、ドメイン名サーバ31-1、ルータ間の通信回線等をICMPパケットを送受する等の手段により正常か否かを調べ（障害管理）、また、IP電話網内のIPパケットの輻輳が過大でないかを監視する（通信品質管理）ことにより、通信会社XのIP電話網を一元的に運用管理する。

【0151】

同様に、通信会社Yの管理下にあるIP電話サービス運用管理サーバ36-2は周期的に或いは随時、網ノード装置7-2や7-4等と問合わせIPパケットとを送受することにより、電話通信開始記録及び電話通信終了記録を取得し、通信会社YのIP電話網の障害管理や通信品質を一元的に運用管理する。

【0152】

なお、上記手続きのうち、ステップS68における電話通信開始の記録、及びステップS72における電話通信の終了の記録を省略してもよく、この場合は、通信会社Xや通信会社Yによる電話通信開始記録と電話通信終了記録の取得を省くことができる。また、IP電話サービス運用管理サーバ36-1及び36-2はそれぞれIP電話サービスを専ら管理するIP電話サービスサーバと、IP電話網のリソースを専ら管理するIP電話網運用管理サーバとに分けることもできる。

【0153】

3. ゲートウェイを用いる第3実施例：

図71を参照して、本発明によるメディアルータをCATV通信網の内部で用いることにより、IP転送網を用いた端末間通信接続する第3の実施例を説明する。

【0154】

メディアルータ115はCATV網113-1内部のCATVゲートウェイ113-2の内部にあり、通信回線112を経て統合IP転送網110内部の網ノード装置111に接続されており、また、メディアルータ115はCATV回線インタフェース114、CATV回線119-1乃至119-4のいずれかを経て、IP端末116-1乃至116-3、アナログ電話機117、非独立型IP電話機118-1、非独立型IP音声画像装置118-2を接続している。CATV回線119-1乃至119-4は、CATV回線特有の通信下位層（通信物理層及びデータリンク

層)を含むと共に、通信ネットワークにおいてIPパケットを転送する機能を有する。IP端末116-1から送信されたIPパケットはCATV回線119-1を経てCATV回線インタフェース114に入り、ここでIPパケットが取り出されてメディアルータ115に送られる。メディアルータ115は図6のメディアルータ14-1と同様に構成されており、14-1と同じ機能例えば、ドメイン名サーバを含む。この理由から、メディアルータ115は、呼制御データを含むIPパケットをDNS問い合わせ応答形式データに変換して、通信回線112へ送出でき、また、アナログ電話機117や非独立型IP電話機118-1、非独立型IP音声画像装置118-2から、CATV回線119-2乃至119-4、CATV回線インタフェース114を経て入力したIPパケットは、メディアルータ115を経由して通信回線112に送信され、また逆に、つまり網ノード装置111から通信回線112経由で送られてくるIPパケットはメディアルータ115を経由し、CATV回線インタフェース114を経、次にCATV回線119-1乃至119-4のいずれかを経てIP端末116-1、アナログ電話機117、非独立型IP電話機118-1、非独立型IP音声画像装置118-2のいずれかに送信できる。

【0155】

以上述べた原理により、CATV網113-1内部のIP端末116-1、アナログ電話機117、非独立型IP電話機118-1、非独立型IP音声画像装置118-2は統合IP転送網110を経由して、他の実施例で説明しているように、統合IP転送網内部のドメイン名サーバを用い、統合IP転送網110に接続される他の各種の端末、つまりIP端末やアナログ電話機、IP電話機、IP音声画像装置などの端末と、端末間通信が可能である。

【0156】

IP端末116-1が、CATV回線119-1、CATVゲートウェイ113-2を経由して、統合IP転送網110内部のドメイン名サーバに、通信相手先IP端末のホスト名を提示して、当該相手先IP端末のIPアドレスを取得し、次に、IP端末116-1から、当該相手先IP端末にデータを送信することから、データを送受する端末間通信を行うことができる。同様に、アナログ電話

機117が、CATV回線119-2、CATVゲートウェイ113-2を経由して、統合IP転送網110内部のドメイン名サーバに、通信相手先アナログ電話機のホスト名、つまり、当該相手先電話機の電話番号を提示して、当該相手先電話機のIPアドレスを取得し、次に、アナログ電話機117から、当該相手先アナログ電話機と音声データを送受することから、電話通信を行うことができる。同様に、非独立型IP電話機118-1が、CATV回線119-3、CATVゲートウェイ113-2を経由して、統合IP転送網110内部のドメイン名サーバに、通信相手先アナログ電話機のホスト名、つまり、当該相手先電話機の電話番号を提示して、当該相手先電話機のIPアドレスを取得し、次に、非独立型電話機118-1から、当該相手先アナログ電話機と音声データを送受することから、電話通信を行うことができる。

【0157】

4. 無線インタフェースを有するゲートウェイを用いる第4実施例：

図72を参照して、本発明によるゲートウェイに端末収容無線装置を組み合わせ、IP転送網を用いて端末間通信接続する第4の実施例を説明する。

【0158】

120は統合IP転送網、121は網ノード装置、122はゲートウェイ、123は無線送受信部、124-1は無線インタフェース変換部、124-2は通信回線、125は無線通信路、126は端末収容無線装置、127は無線送受信部、128-1はIP端末、128-2は非独立型IP電話機、128-3は非独立型IP音声画像装置、129-1乃至129-3は無線インタフェース変換部である。ゲートウェイ122は、図51のゲートウェイ9-1と同一の機能を含み、IP端末やH323端末やアナログ電話機などの端末を、通信回線124-2を経由して接続すると、端末間通信のために用いることができる。この理由から、IP端末やIP電話機、IP音声画像装置を通信回線124-2により接続することにより端末間通信を行うことができる。

【0159】

IP端末128-1から送出されたDNS問合せ応答形式のデータや送受する

テキストデータは、無線インタフェース変換部 1 2 9 - 1 で無線送受信部の入力データ形式に変換されて無線送受信部 1 2 7 に入力され、無線通信路 1 2 5 を経由して無線送受信部 1 2 3 に送られ、無線インタフェース変換部 1 2 4 - 1 においてゲートウェイに入力可能な IP パケットのデータ形式に変換されて、通信回線 1 2 4 - 2 経由でゲートウェイ 1 2 2 に送られる。非独立型 IP 電話機 1 2 8 - 2 から送出された電話の呼制御用のデータや送受するデジタル表現された音声データは、無線インタフェース変換部 1 2 9 - 2 で無線送受信部の入力データ形式に変換されて無線送受信部 1 2 7 に入力され、次に無線通信路 1 2 5、無線送受信部 1 2 3、無線インタフェース変換部 1 2 4 - 1、通信回線 1 2 4 - 2 をそれぞれ経由し、ゲートウェイに入力可能な IP パケットのデータ形式となってゲートウェイ 1 2 2 に送られる。非独立型 IP 音声画像装置 1 2 8 - 3 から送出された IP 音声画像装置の呼制御用のデータや送受するデジタル表現された音声と動画データは、無線インタフェース変換部 1 2 9 - 3 で無線送受信部の入力データ形式に変換されて無線送受信部 1 2 7 に入力し、次に無線通信路 1 2 5、無線送受信部 1 2 3、無線インタフェース変換部 1 2 4 - 1、通信回線 1 2 4 - 2 をそれぞれ経由し、ゲートウェイに入力可能な IP パケットのデータ形式となってゲートウェイ 1 2 2 に送られる。また、逆方向のデータの流れ、例えば網ノード装置 1 2 1 から IP 電話用の IP パケットは、ゲートウェイ 1 2 2、通信回線 1 2 4 - 2、無線インタフェース変換部 1 2 4 - 1、無線送受信部 1 2 3、無線通信路 1 2 5、無線送受信部 1 2 7、無線インタフェース変換部 1 2 9 - 2 を経て非独立型 IP 電話機 1 2 8 - 2 に届けられる。

【 0 1 6 0 】

更に、端末収容無線装置 1 2 6 に接続された IP 端末 1 2 8 - 1、非独立型 IP 電話機 1 2 8 - 2、非独立型 IP 音声画像装置 1 2 8 - 3 は、統合 IP 転送網 1 2 0 を経由して統合 IP 転送網 1 2 0 に接続される他の各種の端末、つまり IP 端末やアナログ電話機、IP 電話機、IP 音声画像装置などの端末と、端末間通信が可能である。

【 0 1 6 1 】

5. ゲートウェイの構造が異なる第5実施例：

本実施例は、第2実施例の図51に示すゲートウェイ9-1の構造が異なる他の実施例であり、図73を参照して説明する。

【0162】

9-5はゲートウェイであり、74-5はルータ、78-5はドメイン名サーバ、79-5は、ゲートウェイ9-5への端末の登録と認証、ゲートウェイ9-5の内部状態（例えば通信状態、休止状態）を管理するRAS機構である。ここで、「端末の登録」とは端末をゲートウェイへ接続すること、「認証」とは、端末の接続許可条件に従って端末が正規に利用できるかを確認することを意味する。80-5はゲートウェイ9-5内部の情報処理を受け持つ情報処理機構であり、81-5はゲートウェイ9-5の操作入出力部であり、72-5は課金部である。82-3はH323通信手順用ゲートウェイ部（H323-GW）、75-3はH323接続制御部、76-3はH323終端部、77-3はSCN境界部であり、82-4はSIP通信手順用ゲートウェイ部（SIP-GW）、75-4はSIP接続制御部、76-4はSIP終端部、77-4はSCN境界部である。52-3はIP端末を接続できるIP通信回線であり、53-3はH323通信手順のIP電話機が接続可能な通信回線であり、53-4はSIP通信手順のIP電話機が接続可能な通信回線であり、17-3、17-4はそれぞれ公衆交換電話網につながる通信回線である。

【0163】

図73のゲートウェイ9-5は、第2実施例の図51のゲートウェイ9-1と置き換え可能であり、ルータ74-5はルータ74-1と、ドメイン名サーバ78-5はドメイン名サーバ78-1と、RAS機構79-5はRAS機構79-1と、情報処理機構80-5は情報処理機構80-1と、操作入出力部81-5は操作入出力部81-1と、課金部72-5は課金部72-1と、H323接続制御部75-3はH323接続制御部75-1と、H323終端部76-3はH323終端部76-1と、SCN境界部77-3はSCN境界部77-1の機能とそれぞれ置き換え可能である。このようになっているから、図73のゲートウェイ9-5を図51のゲートウェイ9-1と置き換えた後に、IP通信回線52-3の先にIP端末を接続し、また、通信回線53-3の先にH323通信手順のIP電話機を接続し、また、通信

回線 17-3 の先にアナログ電話機を接続し、ゲートウェイ 9-5 を経由し、統合 IP 転送網 2 につながる第 2 実施例の図 52 の端末の 11-10、18-6 などと接続し、通信を行うことができる。H323-GW の 82-3 は、“H323 通信手順用のゲートウェイ通信インタフェース機能部”である。

【0164】

同様に、SIP-GW 82-4 は SIP 通信手順用のゲートウェイ通信インタフェース機能部であり、通信回線 53-4 の先に接続する SIP 通信手順の IP 電話機から通信回線 53-4 を経て、SIP 通信手順に従って端末を動作させる SIP 終端部 76-4 を経由し、SIP 通信手順に従って端末接続を行う SIP 接続制御部 75-4 及びルータ 74-5 を経由することにより、図 52 の電話機 18-6 などと接続し、通信を行うことができる。更に、通信回線 17-4 の先に接続する電話機から、SCN 境界部 77-4 を経由して電話機 18-6 などと接続し、通信を行うことができる。

【0165】

H323-GW 82-3 及び SIP-GW 82-4 は、2 つの通信手順に対応する通信回線インタフェースを提供している。将来、通信手段が新らしく開発された場合は、ゲートウェイ 82-3 及び 82-4 の位置に、新しい通信手段用のゲートウェイを増設することもできる。通信手順別のゲートウェイ通信インタフェース機能部を複数含むことにより、様々な通信手順の電話接続制御に対応することができる。

【0166】

6. 電話管理サーバを用いる第 6 実施例：

図 74 において、201 は統合 IP 通信網、202 は IP データ網、203 は IP 電話網、204 は音声画像網であり、206-1 は通信会社 1 が運用管理する統合 IP 通信網の範囲、206-2 は通信会社 2 が運用管理する統合 IP 通信網の範囲である。図 74 及び図 75 を参照し、電話通信の準備から説明する。アナログ電話機 213-5 から、メディアルータ 212-1、通信回線 210-1、網ノード装置 208-1、IP 電話網 203 内部を経由し、網ノード装置 209

ー 2、通信回線 2 1 0 - 5、メディアルータ 2 1 2 - 2、アナログ電話機 2 1 4 - 4 へ電話通信を行うための端末間通信接続制御方法を説明する。ここで、2 1 9 - 1 乃至 2 1 9 - 1 0、2 2 1 - 1 はそれぞれルータであり、また各種サーバが、統合 IP 通信網 2 0 1 の内部に置かれており、それぞれのサーバは IP アドレスを付与されている。図 7 4 に示すように、各種のサーバ、ルータ、ノード装置はそれぞれ IP 通信回線により接続され、それぞれが有する IP 通信手段により IP パケットを送受してデータ交換できる。2 0 9 - 1 及び 2 0 9 - 2 は電話ゲートウェイであり、例えばアナログ電話機 2 0 9 - 4 から公衆電話交換網 2 0 9 - 3 を経由して電話通信を行うことができ、これに関しては他の実施例において説明している。なお、電話管理サーバ 3 1 3 - 5 及び 3 1 4 - 5 は、図 1 の接続サーバ 1 - 5 及び 1 - 6 にほぼ相当する。ゲートウェイ 2 0 9 - 1 及び 2 0 9 - 2 は、図 1 の中継接続サーバーの 1 - 7 にほぼ相当し、これらゲートウェイの機能は、他の実施例において説明する。

【 0 1 6 7 】

213-1 及び 214-1 はアナログ電話機を収容する PBX、213-2 乃至 213-6 及び 214-2 乃至 214-6 はアナログ電話機である。電話機 213-2 及び 213-3 は PBX 213 - 1 に接続され、電話機 214-2 及び 214-3 は PBX 214 - 1 に接続され、電話機 213-4 乃至 213-6 はメディアルータ 212 - 1 に接続され、電話機 214-4 乃至 214-6 はメディアルータ 212 - 2 に接続されている。

【 0 1 6 8 】

メディアルータ 2 1 2 - 1 は IP アドレス “E A 0 1” を、メディアルータ 2 1 2 - 2 は IP アドレス “E A 0 2” をそれぞれ付与される。電話機 2 1 3 - 4 乃至 2 1 3 - 6 は代表電話番号 “Tel-No-1” を、電話機 2 1 4 - 4 乃至 2 1 4 - 6 は代表電話番号 “Tel-No-2” を付与され、電話機 2 1 3 - 2、2 1 3 - 3、2 1 4 - 2、2 1 4 - 3 は、内線電話番号 “2 1 3 2”、“2 1 3 3”、“2 1 4 2”、“2 1 4 3” をそれぞれ付与されている。内線用の電話機 2 1 3 - 2 及び 2 1 3 - 3 はメディアルータ 2 1 2 - 1 から IP 電話網 2 0 3 側の電話機と通信することではなく、同様に内線用の電話機 2 1 4 - 2 及び 2 1 4 - 3 はメディアルータ 2 1 2 - 2 から IP 電話網 2 0 3 側の電話機と通信することはない例である

【0169】

<<電話通信の準備>>

IP電話の利用を希望するユーザ227-1は、IP電話サービスの利用を通信会社1に所属するIP電話受付者228-1に申込み(図75のステップP100)、IP電話受付者228-1は、IP電話の申込情報であるユーザ氏名や住所、通信料金の支払い方法、ユーザ電話番号“Tel-No-1”をユーザ227-1から入手し、また、メディアルータ212-1に付与する外部IPアドレス“EA01”、ユーザがメディアルータ212-1を接続するために用いる通信回線210-1の識別記号“L210-1”と、この通信回線210-1が接続する網ノード装置208-1の網ノード装置識別記号“NN-208-1”とをユーザサービスサーバ313-6に通知する(ステップP101)。ここで、ユーザ227-1がIPアドレス“EA01”をIP電話受付者228-1に提示する。

【0170】

ユーザは、ユーザ電話番号“Tel-No-1”に対応付けて用いるIPアドレス“EA01”をメディアルータ212-1に設定する。次に、ユーザサービスサーバ313-6は、受付けた電話利用者を識別するためのユーザ識別記号“UID-1”をユーザ227-1に付与し、“UID-1”を外部IPアドレス“EA01”に対応させ、ユーザ227-1用の内部IPアドレス“IA01”を定め、前記受付て得られたユーザ氏名や住所、通信料金の支払い方法、ユーザ電話番号“Tel-No-1”、外部IPアドレス“EA01”等の情報と共に、ユーザサービスサーバのデータベースに保持する(ステップP102)。電話機213-5は、電話番号“Tel-No-1”に対応する外部IPアドレス“EA01”を使用するので、IP電話網203を利用する電話通信において、電話機213-5の外部IPアドレスは“EA01”であるという表現を用いる。

【0171】

次に、ユーザサービスサーバ313-6は、前記申込者の少なくともユーザ電話番号“Tel-No-1”、外部IPアドレス“EA01”、内部IPアドレス“IA01”を、IP通信手段を用いて電話管理サーバ313-5へ通知する(ステップP103)

【0172】

電話管理サーバ313-5はこれら3通りの情報、つまりユーザ電話番号“Tel-No-1”、外部IPアドレス“EA01”、及び内部IPアドレス“IA01”の相互に対応付けられる1組の情報を電話ドメイン名サーバ313-2に通知する（ステップP105）。電話ドメイン名サーバ313-2は、ユーザ電話番号“Tel-No-1”と“外部IPアドレス”、“内部IPアドレス”とを、RFC1996などで定められているドメイン名サーバの運用規則である資源レコード等の形式により保持する（ステップP106）。

【0173】

更に、電話管理サーバ313-5は4つのアドレス“EA01, EA81, IA01, IA81”を表管理サーバ313-3に知らせる（ステップP107）。なお、電話管理サーバ313-5は、常に代理電話管理サーバ313-1の外部IPアドレス“EA81”及び内部IPアドレス“IA81”を保持している。

【0174】

表管理サーバ313-3は網ノード装置208-1に対して前記4つのアドレス“EA01, EA81, IA01, IA81”を知らせると（ステップP108）、網ノード装置208-1は、図76に示すように網ノード装置208-1内部のアドレス管理表360-1の第1レコードに示した4つのアドレス“EA01, EA81, IA01, IA81”を保持する（ステップP109）。ここで、アドレス“IA01”は、通信回線210-1と網ノード装置208-1との接続点（論理端子）に付与するIPアドレスであり、以降、通信回線210-1の論理端子に付与した内部IPアドレスという。なお、この時点では、アドレス管理表360-1の第2行目のレコードは空白となっている。

【0175】

前記アドレス管理表360-1の1行目のレコードを網ノード装置のアドレス管理表のIP通信レコードと呼び、送信元外部IPアドレス“EA01”、宛先外部IPアドレス“EA81”、送信元内部IPアドレス“IA01”、宛先内部IPアドレス“IA81”により定義する。このIP通信レコードは、特に代理電話管理サーバ

3 1 3 - 1 とメディアルータ 2 1 2 - 1 との間の I P 通信路を定める網ノード装置のアドレス管理表の I P 通信レコードと呼ぶ。

【 0 1 7 6 】

同様にして、I P 電話の利用を希望するユーザ 2 2 7 - 2 は、I P 電話サービスの利用を通信会社 2 に所属する I P 電話受付者 2 2 8 - 2 に申込み（図 7 5 のステップ P110）、I P 電話受付者 2 2 8 - 2 は、I P 電話の申込情報であるユーザ氏名や住所、通信料金の支払い方法、ユーザ電話番号“Tel-No-2”をユーザ 2 2 7 - 2 から入手し、また、メディアルータ 2 1 2 - 2 に付与する外部 I P アドレス“EA02”、ユーザがメディアルータ 2 1 2 - 2 を接続するために用いる通信回線 2 1 0 - 5 の識別記号“L 2 1 0 - 5”と、この通信回線 2 1 0 - 5 が接続する網ノード装置 2 0 9 - 2 の網ノード装置識別記号“NN-2 0 9 - 2”とを、ユーザサービスサーバ 3 1 4 - 6 に入力する（ステップ P111）。ここで、ユーザ 2 2 7 - 2 が取得済みの I P アドレス“EA02”を I P 電話受付者 2 2 8 - 2 に提示する。

【 0 1 7 7 】

ユーザは、ユーザ電話番号“Tel-No-2”に対応する I P アドレス“EA02”をメディアルータ 2 1 2 - 2 に設定する。次に、ユーザサービスサーバ 3 1 4 - 6 は、受付けた電話利用者を識別するためのユーザ識別記号“UID-2”をユーザ 2 2 7 - 2 に付与し、外部 I P アドレス“EA02”に対応させるユーザ 2 2 7 - 2 用の内部 I P アドレス“IA02”を定め、前記受付けて得られたユーザ氏名や住所、通信料金の支払い方法、ユーザ電話番号“Tel-No-2”、外部 I P アドレス“EA02”等の情報と共に、ユーザサービスサーバのデータベースに保持する（ステップ P112）。電話機 2 1 4 - 4 は、電話番号“Tel-No-2”に対応する外部 I P アドレス“EA02”を使用するので、I P 電話網 2 0 3 を利用する電話通信において、電話機 2 1 4 - 4 の外部 I P アドレスは“EA02”であるという表現を用いる。

【 0 1 7 8 】

次に、ユーザサービスサーバ 3 1 4 - 6 は、前記申込者の少なくともユーザ電話番号“Tel-No-2”、外部 I P アドレス“EA02”、内部 I P アドレス“IA02”を、I P 通信手段を用いて電話管理サーバ 3 1 4 - 5 へ通知する（ステップ P113）

。電話管理サーバ314-5はこれら3通りの情報、つまりユーザ電話番号“Tel-No-2”、外部IPアドレス“EA02”、及び内部IPアドレス“IA02”を電話ドメイン名サーバ314-2に通知する（ステップP115）。電話ドメイン名サーバ314-2は、ユーザ電話番号“Tel-No-2”と外部IPアドレス“EA02”、内部IPアドレス“IA02”の相互に対応付けられる1組の情報を資源レコード等の形式により保持する（ステップP116）。更に、電話管理サーバ314-5は4つのアドレス“EA02,EA82,IA02,IA82”を表管理サーバ314-3に知らせる（ステップP117）。

【0179】

なお、電話管理サーバ314-5は、常に代理電話管理サーバ314-1の外部IPアドレス“EA82”及び内部IPアドレス“IA82”を保持している。また、電話ドメイン名サーバ313-2及び314-2は、インターネットなどで用いられるドメイン名サーバと同様の再帰呼出し機能を有しており、必要な時点で、電話ドメイン名サーバが有する情報を相互に交換できる（ステップP120）。

【0180】

表管理サーバ314-3は、網ノード装置209-2に対して前記4つのアドレス“EA02,EA82,IA02,IA82”を知らせると（ステップP118）、網ノード装置209-2は、図77に示すように網ノード装置209-2の内部のアドレス管理表360-2の第1レコードに4つのアドレス“EA02,EA82,IA02,IA82”を保持する（ステップP119）。ここで、アドレス“IA02”は、通信回線210-5と網ノード装置209-2との接続点（論理端子）に付与する内部IPアドレスである。なお、この時点では、アドレス管理表360-2の第2行目のレコードは空白となっている。このIP通信レコードは、特に代理電話管理サーバ314-1とメディアルータ212-2との間のIP通信路を定める網ノード装置のアドレス管理表のIP通信レコードである。

【0181】

<<通信路確立フェーズ>>

図74、図76乃至図78を参照して、電話機213-5から電話機214-4に電話呼出しする端末間通信接続制御方法を説明する。

【0182】

メディアルータ212-1は電話番号の“Tel-No-1”及び外部IPアドレス“EA01”を保持し、メディアルータ212-2は電話番号“Tel-No-2”及び外部IPアドレス“EA02”を保持している。電話機213-5が他の電話機と通話するときは、メディアルータ212-1に付与されている電話番号“Tel-No-1”を用い、電話機214-4が他の電話機と通話するときは、メディアルータ212-2に付与されている電話番号“Tel-No-2”を用いる。

【0183】

<<接続フェーズ>>

利用者が電話機213-5の送受話器を上げ（オフフック）、通信相手先電話機214-4の電話番号“Tel-No-2”をダイヤル入力し、メディアルータ212-1に送信すると（ステップP200）、メディアルータ212-1は応答する（ステップP201）。

【0184】

次に、メディアルータ212-1は少なくとも送信元電話番号“Tel-No-1”、宛先電話番号“Tel-No-2”、ユーザ個別情報（User-Info.）を含むIPパケット（図79の379）を形成し、網ノード装置208-1に送信することにより電話の呼設定の手続きを開始する（ステップP204）。なお、ユーザ個別情報（User-Info）は、後述する手順のステップP219においてメディアルータ212-2に届けることができるものであり、例えば電話の呼びをユーザ側で管理するための電話呼び識別子（“C-id”）、IP電話の音声圧縮方式の識別記号や音声符号変換コーデックの識別記号などから成る。図79のIPパケット379のペイロード部分は、UDPセグメントとし、例えば送信元ポート番号及び宛先ポート番号とも“5060”として、メディアルータ212-1及び212-2の内部の電話通信接続制御用のプログラムを他と区別するために用いることができる。

【0185】

網ノード装置208-1は、IPパケットを受信すると図76に示すアドレス管理テーブル360-1を検索し、外部IPアドレスとして送信元IPアドレスが“EA01”であり、宛先IPアドレスが“EA81”が含まれるレコードを検索する

。本例では、アドレス管理表 360-1 の上から 1 行目のレコード、つまり “EA01,EA81,IA01,IA81” であるレコードを見つけると、このレコード内部の 3 番目と 4 番目に記載されている IP アドレス “IA01” 及び “IA81” を用いて、IP パケットのカプセル化技法を適用して、図 80 に示す内部 IP パケットである IP パケット 380 を形成し、IP アドレスが “IA81” である代理電話管理サーバ 313-1 へ送信する(ステップ P205)。ここで、IP パケットの 380 のペイロード部分は、IP パケットの 379 である。

【0186】

代理電話管理サーバ 313-1 は IP パケットの 380 を受信すると、ペイロード部分が IP パケットの 379 である IP パケットの 381 を生成し、IP アドレスが “IA91” である電話管理サーバ 313-5 へ送信する(ステップ P206)。電話管理サーバ 313-5 は、通信回線識別子(CIC-1-2)を、送信元電話番号 “Tel-No-1” と宛先電話番号 “Tel-No-2” との組み合わせに依存して、例えば CIC-1-2= “Tel-No-1” + “Tel-No-2” と定め、通信回線識別子(CIC-1-2)を電話管理サーバ 313-5 の内部に保持する。ここで、“+” は電話番号を並べること(データの連結)を意味する。

【0187】

電話管理サーバ 313-5 は、前記ステップ P206 において受信した送信元電話番号の “Tel-No-1” 及び宛先電話番号 “Tel-No-2” を電話ドメイン名サーバ 313-2 に通知し(ステップ P207)、電話ドメイン名サーバ 313-2 から電話番号 “Tel-No-1” に 1 対 1 に対応する外部 IP アドレスの “EA01” と、内部 IP アドレスの “IA01”、及び電話番号 “Tel-No-2” に 1 対 1 に対応する IP アドレスの “EA02” と内部 IP アドレスの “IA02” とを受信する(ステップ P208)。ここで、電話ドメイン名サーバ 313-2 は、電話番号 “Tel-No-2” の IP アドレス情報を電話ドメイン名サーバ 314-2 に再帰呼出し機能を用いて問い合わせ、取得している。電話管理サーバ 313-5 は、電話ドメイン名サーバ 313-2 から受信した IP アドレス “EA01” と、ステップ P206 において IP パケット 381 内部から取得済みの送信元 IP アドレス (“EA01”) とが一致するか否かを調べ、不一致の場合は電話接続の手続きを中止し、一致する場合は、前記で保持した

通信回線識別子 (CIC-1-2) の情報に、送信元電話機の IP アドレス “EA01”、内部 IP アドレス “IA01”、宛先電話機の IP アドレス “EA02”、内部 IP アドレス “IA02” を追加保持する。なお、統合 IP 通信網内部のサーバ間通信の IP パケットは内部 IP アドレスを用い、図 82 に示す形式の IP パケット 382 を送受する。網ノード装置はサーバではない。網ノード装置と代理電話管理サーバとの間において送受信する IP パケットは、図 80 及び図 84 に示すカプセル化済み形式の IP パケットであり、網ノード装置とメディアルータとの間において送受する IP パケットは、図 79 に示すように外部 IP アドレスを適用したカプセル化する前段階の IP パケットである。

【0188】

次に、電話管理サーバ 313-5 は、送信元電話機の IP アドレス “EA01”、内部 IP アドレスの “IA01”、送信元電話番号 “Tel-No-1”、宛先電話機の IP アドレス “EA02”、内部 IP アドレスの “IA02”、宛先電話番号 “Tel-No-2”、ユーザ個別情報 (User Info.)、通信回線識別子 (CIC-1-2) を含む IP パケット (IAM パケット) を通信会社 1 の代表サーバ 313-7 を経由して (ステップ P214)、通信会社 2 の代表サーバ 314-7 を経由して (ステップ P215)、通信会社 2 の電話管理サーバ 314-5 に送信する (ステップ P216)。電話管理サーバ 314-5 は、4 つの IP アドレス “EA01, IA01, EA02, IA02” と、2 つの電話番号 “Tel-No-1” 及び “Tel-No-2” と、通信回線識別子 (CIC-1-2) と、ユーザ個別情報 (User-Info.) とを受信し、ユーザ個別情報 (User-Info.) 以外は内部に保持する。

【0189】

更に、更に内部アドレス “IA92” である電話管理サーバ 314-5 は、図 83 の IP パケットの 383 を内部 IP アドレス “IA82” である代理電話管理サーバ 314-1 に通知する (ステップ P217)。ここで、IP パケットの 383 は送信元電話機の IP アドレス “EA01”、宛先電話機の IP アドレス “EA02”、送信元電話番号 “Tel-No-1”、宛先電話番号 “Tel-No-2”、ユーザ付加情報 (User-Info.) を含んでいる。そして、代理電話管理サーバ 314-1 は、図 84 の IP パケットの 384 を形成して網ノード装置 209-2 に送信し (ステップ P218)、網ノード装置 209-2 は、IP パケットの 384 のヘッダを除く IP パケットの

逆カプセル化を行って図 8 5 に示す I P パケットの 3 8 5 を形成し、メディアルータ 2 1 2 - 2 に送信する（ステップ P219）。メディアルータ 2 1 2 - 2 は、送信元電話機の I P アドレス “EA01”、宛先電話機の I P アドレス “EA02”、送信元電話番号 “Tel-No-1”、宛先電話番号 “Tel-No-2”、ユーザ付加情報 (User-Info.) を取得する。

【 0 1 9 0 】

次に、メディアルータ 2 1 2 - 2 は、電話着信を知らせる前記情報の受信を 2 つの電話番号 “Tel-No-1” 及び “Tel-No-2” を添えて電話管理サーバ 3 1 4 - 5 に返信し（ステップ P221, P222, P223）、電話管理サーバ 3 1 4 - 5 は受信した 2 つの電話番号 “Tel-No-1” 及び “Tel-No-2” から通信回線識別子 (CIC-1-2) を復元し、次に通信回線識別子 (CIC-1-2) を含む前記情報の受取り確認の I P パケット (ACM パケット) を電話管理サーバ 3 1 3 - 5 を経てメディアルータ 2 1 2 - 1 へ送信する（ステップ P224 乃至 P229）。

【 0 1 9 1 】

次に、メディアルータ 2 1 2 - 2 は電話呼出し（着信）を電話機 2 1 4 - 4 に知らせ（ステップ P230）、電話機 2 1 4 - 4 は電話呼出しを知ると電話呼出音を鳴らす。メディアルータ 2 1 2 - 2 は、前記呼出した電話番号 “Tel-No-2” の電話機 2 1 4 - 4 が呼出中であることを、送信元電話番号 “Tel-No-1” 及び宛先電話番号 “Tel-No-2” との組を添付して、網ノード装置 2 0 9 - 2 を経由し（ステップ P231）、更に代理電話管理サーバを経由し（ステップ P232）、電話管理サーバ 3 1 4 - 5 へ通知する（ステップ P233）。通信会社 2 の電話管理サーバ 3 1 4 - 5 は、メディアルータ 2 1 2 - 2 から送付されてきた送信元電話番号 “Tel-No-1” 及び宛先電話番号 “Tel-No-2” の組を用いて通信回線識別子 (CIC-1-2) を復元し、次に通信回線識別子 (CIC-1-2) を含む前記情報の受取り確認の I P パケット (CPG パケット) を形成し、電話管理サーバ 3 1 3 - 5 へ送信する（ステップ P234, P235, P236）。電話管理サーバ 3 1 3 - 5 は前記 CPG パケットを受信し、CPG パケットから通信回線識別子 (CIC-1-2) を読み出す。

【 0 1 9 2 】

次に、電話管理サーバ 3 1 3 - 5 は通信回線識別子 (CIC-1-2) を用いて、ス

テップP214において記録保持していたアドレス及び電話番号を読み出し、少なくとも送信元電話機が接続するメディアルータ212-1のIPアドレス“EA01”、宛先電話機が接続するメディアルータ212-2のIPアドレス“EA02”、送信元電話番号“Tel-No-1”、宛先電話番号“Tel-No-2”を代理電話管理サーバ313-1に送信すると（ステップP237）、網ノード装置208-1を経て（ステップP238）、メディアルータ212-1に通知される（ステップP239）。メディアルータ212-1は、送信元電話機213-5に宛先電話機214-4を呼出中であることを知らせ（ステップP240）、送信元電話機213-5は呼出音を鳴らす。

【0193】

一方、電話機214-4の利用者が電話呼出音を聞きとり、電話機の送受話器を取り上げると（オフフック）、IP電話機214-4はオフフックをメディアルータ212-2に通知し（ステップP241）、メディアルータ212-2はオフフック通知を網ノード装置209-2を経由し（ステップP242）、更に代理電話管理サーバを経由し（ステップP243）、電話管理サーバ314-5に知らせる（ステップP244）。通信会社2の電話管理サーバ314-5は、送信元電話番号“Tel-No-1”及び宛先電話番号“Tel-No-2”の組から通信回線識別子（CIC-1-2）を復元し、通信回線識別子（CIC-1-2）を含む前記情報の受取り確認のIPパケット（ANMパケット）を形成し、電話管理サーバ313-5へ送信する（ステップP245, P246, P247）。電話管理サーバ313-5はANMパケットを受信し、ANNパケットから通信回線識別子（CIC-1-2）を読み出す。

【0194】

電話管理サーバ314-5は、ステップP245の時点で保持している通信回線識別子（CIC-1-2）を用いて、ステップP217の時点で保持記憶していたIPアドレス及び電話番号を読み出す。次に、電話管理サーバ314-5は、送信元電話機のIPアドレス“EA01”及び内部IPアドレスの“IA01”、宛先電話機が接続するメディアルータ212-2のIPアドレス“EA02”及び内部IPアドレスの“IA02”を表管理サーバ314-3に通知し（ステップP250）、表管理サーバ314-3は、通信回線識別子（CIC-1-2）、送信元電話機のIPアドレス“EA01”及

び内部 I P アドレスの “IA01”、宛先電話機の I P アドレス “EA02” 及び内部 I P アドレスの “IA02” の組を内部に保持すると共に、網ノード装置 2 0 9 - 2 の内部のアドレス管理表 3 6 0 - 2 に保持する（ステップ P251）。この様子は、図 7 7 のアドレス管理表 3 6 0 - 2 の 2 行目のレコードとして示される。

【 0 1 9 5 】

電話管理サーバ 3 1 3 - 5 は、前記読み出した通信回線識別子 (CIC-1-2) を用いて、ステップ P 2 1 4 の時点で保持記憶していた I P アドレス及び電話番号を読み出す。次に、電話管理サーバ 3 1 3 - 5 は、通信回線識別子 (CIC-1-2)、送信側メディアルータ 2 1 2 - 1 の I P アドレス “EA01” 及び内部 I P アドレスの “IA01”、宛先メディアルータ 2 1 2 - 2 の I P アドレス “EA02” 及び内部 I P アドレスの “IA02” を表管理サーバ 3 1 3 - 3 に通知し（ステップ P252）、表管理サーバ 3 1 3 - 3 は通信回線識別子 (CIC-1-2)、送信元電話機の I P アドレス “EA01” 及び内部 I P アドレスの “IA01”、宛先電話機の I P アドレス “EA02” 及び内部 I P アドレスの “IA02” をその内部に保持すると共に、網ノード装置 2 0 8 - 1 の内部のアドレス管理表 3 6 0 - 1 に保持する（ステップ P253）。この様子は、図 7 6 のアドレス管理表 3 6 0 - 1 の 2 行目のレコードとして示される。

【 0 1 9 6 】

図 7 6 のアドレス管理表 3 6 0 - 1 の 2 行目のレコードは、網ノード装置内に設定する “アドレス管理表の I P 通信レコード” であり、この I P 通信レコードの内容は、送信元外部 I P アドレス “EA01”、宛先外部 I P アドレス “EA02”、送信元内部 I P アドレス “IA01”、宛先内部 I P アドレス “IA02” により定義されるものと規定する。

【 0 1 9 7 】

アドレス管理表 3 6 0 - 1 の 2 行目の I P 通信レコードは、外部 I P アドレス “EA01” 及び外部 I P アドレス “EA02” を含んでおり、外部 I P アドレス “EA01” を付与されたメディアルータ 2 1 2 - 1 と、外部 I P アドレス “EA02” を付与されたメディアルータ 2 1 2 - 2 との間の I P 通信路を定めている。アドレス管理表 3 6 0 - 2 の 2 行目の I P 通信レコードも、同様にメディアルータ 2 1 2 -

1とメディアルータ212-2との間のIP通信路を定めている。

【0198】

なお、送信元外部IPアドレス“EA01”が電話番号“Tel-No-1”と1対1に対応して定まり、宛先外部IPアドレス“EA02”が電話番号“Tel-No-2”と1対1に対応して定まり、発信元と宛先を区別しない場合、“網ノード装置のアドレス管理表のIP通信レコードは、単に電話番号“Tel-No-1”と電話番号“Tel-No-2”との間のIP通信路を定めるアドレス管理表のレコード“である。

【0199】

前記ステップP245は呼設定を確認する応答情報、つまり電話機213-5と電話機214-4との間の電話通信開始可能を知らせる手続きであり、電話管理サーバ314-5は、例えば通信回線識別子(CIC-1-2)、送信元メディアルータ212-1のIPアドレス“EA01”、宛先メディアルータ212-2のIPアドレス“EA02”、送信元電話番号“Tel-No-1”、宛先電話番号“Tel-No-2”を電話通信開始可能の時刻を元に課金管理サーバ314-4に通知し(ステップP254)、課金管理サーバ314-4は通信回線識別子(CIC-1-2)、送信元電話番号“Tel-No-1”、宛先電話番号“Tel-No-2”、送信元メディアルータ212-1のIPアドレス“EA01”、宛先メディアルータ212-2のIPアドレス“EA02”等を記録保持しておくことができる(ステップP254)。

【0200】

同様に、課金管理サーバ313-4は、送信元電話番号“Tel-No-1”、宛先電話番号“Tel-No-2”、送信元電話機のIPアドレス“EA01”、宛先電話機のIPアドレス“EA02”等を記録保持しておくことができる(ステップP255)。また、電話管理サーバ313-5は、宛先電話機214-4の利用者が送受話器を上げて電話呼出しに応答したこと、つまり電話呼出しに対する応答を代理電話管理サーバ313-1を経由し(ステップP256)、更に網ノード装置208-1を経由し(ステップP257)、メディアルータ212-1を経由し(ステップP258)、電話機213-5に知らせる(ステップP259)。

【0201】

以上述べたIP電話機213-5が受話器を上げたステップP200から、呼設定

の完了を電話機 213-5 へ知らせるまで（ステップ P259）の一連のステップを電話通信の接続フェーズと呼ぶ。また、上述の端末間接続制御において、網ノード装置 208-1 から通信回線 370-1 を経て、ルータ 219-1、代表サーバ 313-7、314-7、ルータ 219-2、通信回線 370-5 を経て網ノード装置 209-2 に接続する通信回線を、IP 電話網 203 内部の「接続制御回線」と呼ぶ。なお、接続制御回線は、端末間通信接続制御のための IP パケットを送受するために使用される。

【0202】

<<通信フェーズ>>

図 86 乃至図 89 を参照して説明する。電話機 213-5 に入力した音声はメディアルータに伝送され（ステップ P300）、メディアルータは、音声をデジタル化して IP パケット 387 を形成し、網ノード装置 208-1 へ送信する（ステップ P301）。IP パケット 387 がカプセル化されて内部 IP パケット 388 に変換されて、通信回線 370-3、ルータ 219-5、219-7、221-1、219-10、219-9、通信回線 370-6 を経て網ノード装置 209-2 に到達し（ステップ P302）、IP ヘッダを除く逆カプセル化により IP パケット 389 に変換してメディアルータ 212-2 を経て（ステップ P303）、電話機 214-4 に届けられる（ステップ P304）。電話機 214-4 の利用者の音声は逆方向の流れ、つまりメディアルータ 212-2（ステップ P305）、網ノード装置 209-2（ステップ P306）、ルータ 219-9、219-10、221-1、219-7、219-5 を経て網ノード装置 208-1 に到達し（ステップ P307）、メディアルータ 212-1 を経て（ステップ P308）、電話機 213-5 へ届けられる（ステップ P309）。

【0203】

上記通信フェーズにおいて、IP パケット 387 及び 389 のペイロード部分を UDP セグメントとし、送信元及び宛先 UDP ポート番号を、例えば”5004”,”5006”,”5010”,”5012”,”5016”等に変えることにより、他の音声を伝える電話通信が可能である。デジタル化した音声を含む IP パケット 388 は、網ノード装置 208-1 から通信回線 370-3 を経て、ルータ 219-5、219-

7, 221-1, 219-10, 219-9、通信回線370-6を経て、網ノード装置209-2に接続する通信回線を転送されるので、このIP通信回線をIP電話網203内部の「音声通信回線」と呼び、前記接続フェーズにおけるIP電話網203の「接続制御回線」と区別できる。

【0204】

通信フェーズにおいては、図76のアドレス管理表360-1の2行目のレコード、つまり送信元外部IPアドレス“EA01”、宛先外部IPアドレス“EA02”、送信元内部IPアドレス“IA01”、宛先内部IPアドレス“IA02”であるIP通信レコード、つまり電話番号“Tel-No-1”と電話番号“Tel-No-2”との間のIP通信路を定めるアドレス管理表のレコードを用いて行われる。

【0205】

<<解放フェーズ>>

図90を参照して説明すると、電話機213-5の利用者が電話通信の終了のため送受話器を置き、メディアルータ212-1に電話通信終了を通知すると（ステップP400）、メディアルータ212-1は少なくとも電話通信の解放要求の表示、送信元電話番号“Tel-No-1”、宛先電話番号“Tel-No-2”を含むIPパケットを生成し、網ノード装置208-1に送信すると（ステップP401）、網ノード装置208-1は、図76のアドレス管理表360-1の1行目のレコードを用いて受信したIPパケットをカプセル化したIPパケットを生成し、代理電話管理サーバ313-1に送信する（ステップP402）。次に、代理電話管理サーバ313-1は、前記メディアルータが始めに生成している電話の解放要求の表示、送信元電話番号“Tel-No-1”、宛先電話番号“Tel-No-2”を含むIPパケットを形成して電話管理サーバに送信する（ステップP403）。以上述べたステップP401, P402, P403において使われるIPパケットの形式やIPアドレスの設定方法は、電話通信接続フェーズにおけるステップP204, P205, P206と同一である。

【0206】

電話管理サーバ313-5は、2つの電話番号“Tel-No-1”及び“Tel-No-2”から通信回線識別子（CIC-1-2）を復元し、電話通信の解放要求の表示及び通信回線識別子（CIC-1-2）を含むIPパケット（RELパケット）を形成し、通信会社

1 の代表サーバ 3 1 3 - 7 に送信する（ステップ P404）。前記 I P パケットは通信会社 2 の代表サーバ 3 1 4 - 7 を経由し（ステップ P405）、通信会社 2 の管理下にある電話管理サーバ 3 1 4 - 5 に到達する（ステップ P406）。

【 0 2 0 7 】

次に、電話管理サーバ 3 1 3 - 5 は、ステップ P400 乃至 P403 による解放要求を遂行したことを報告する解放完了の I P パケットを、代理電話管理サーバ 3 1 3 - 1、網ノード装置 2 0 8 - 1 を経由してメディアルータ 2 1 2 - 1 へ返信する（ステップ P407、P408、P409）。また、電話管理サーバ 3 1 3 - 5 は、表管理サーバ 3 1 3 - 3 に通信回線識別子（CIC-1-2）含む I P パケットを送信する（ステップ P433）。表管理サーバ 3 1 3 - 3 は、前記ステップ P252 の遂行後に通信回線識別子（CIC-1-2）に対応するアドレスを保持しているので、4 つの I P アドレス“EA01,EA02,IA01,IA02”の抹消指示を受けたことを確認し、図 7 6 に示す網ノード装置 2 0 8 - 1 内部のアドレス管理表 3 6 0 - 1 の 2 行目のレコード、つまり送信元外部 I P アドレス“EA01”、宛先外部 I P アドレス“EA02”、送信元内部 I P アドレス“IA01”、宛先内部 I P アドレス“IA02”、I P 通信レコードを抹消する（ステップ P434）。つまり、電話番号“Tel-No-1”と電話番号“Tel-No-2”との間の I P 通信路を定めるアドレス管理表のレコードを抹消する。

【 0 2 0 8 】

電話管理サーバ 3 1 4 - 5 は、ステップ P406 により電話通信の解放要求の表示及び通信回線識別子（CIC-1-2）を含む I P パケットを受信すると、解放要求の I P パケット形成して代理電話管理サーバ 3 1 4 - 1 へ送信し、解放要求の指示を意味する I P パケットは、網ノード装置 2 0 9 - 2 を経由してメディアルータ 2 1 2 - 2 へ到達する（ステップ P411、P412、P413）。また、電話管理サーバ 3 1 4 - 5 は前記ステップ P411 を遂行したことを報告するため、通信回線識別子（CIC-1-2）を含む I P パケット（RLC パケット）を形成し、前記 RLC パケットを通信会社 2 の代表サーバ 3 1 4 - 7 に送信する（ステップ P414）。前記 RLC パケットは通信会社 1 の代表サーバ 3 1 3 - 7 を経由し（ステップ P415）、通信会社 1 の管理下にある電話管理サーバ 3 1 3 - 5 に到達する（ステップ P416）。解放完

了のIPパケットを受信した電話管理サーバ313-5は、課金管理サーバ313-4に、電話通信の終了を通知すると（ステップP442）、課金管理サーバ313-4は通信回線番号（CIC-1-2）により識別される電話通信の終了を知り、この結果を内部に記録する。

【0209】

次に、電話管理サーバ314-5は、表管理サーバ314-3に通信回線識別子（CIC-1-2）含むIPパケットを送信し（ステップP431）、表管理サーバ314-3は、図77に示す網ノード装置209-2内部のアドレス管理表360-2の2行目のレコードの内容である”EA02”,”EA01”,”IA02”,”IA01”の4つのアドレスの組を抹消する（P432）。メディアルータ212-2は、ステップP413により電話通信の解放要求を知ると電話機214-5に通話の切断指示を送り（ステップP420）、続いてステップP413による解放要求の遂行を報告する解放完了のIPパケットを、網ノード装置209-2、代理電話管理サーバ314-1、電話管理サーバ314-5へ返信する（ステップP421、P423、P424）。電話管理サーバ314-5は課金管理サーバ314-4に呼番号の電話通信の終了を通知すると（ステップP441）、課金管理サーバ314-4は通信回線番号（CIC-1-2）により識別される電話通信の終了を知り、この結果を内部に記録する。

【0210】

<<電話通信接続制御に付随する事項>>

電話利用者が電話通信を長時間放置し電話通信を終了させないケース、つまり図90に示す電話終了のステップP400を行わないことが考えられる。この場合、電話通信料金が限りなく大きくなる等の弊害が予想される。この事態を避けるため、例えば電話管理サーバ313-5は長い時間、例えば24時間毎に課金管理サーバ313-4に問い合わせ検出し、長時間の電話通信を検出すると、図90のステップP400乃至P403を除いて、ステップP404、P407、P433、P442を独自に行うこともできる。

【0211】

<<他の通信料金の徴収方法>>

通信料金については、例えば統合 I P 通信網 2 0 1 の内部に通信会社 1 用の課金情報収集サーバを設置し、課金管理サーバ 3 1 3 - 4 が収集した課金情報を集めてユーザサービスサーバ 3 1 3 - 6 に通知し、課金サーバから電話利用者に電話料金を請求することができる。通信会社 2 も同様に課金情報収集サーバを設置できる。通信会社 1 と通信会社 2 との間で、通信会社代表サーバ 3 1 3 - 7 及び 3 1 4 - 7 を経由した I P 通信手段を用いて、上述により収集した課金情報を交換することもできる。

【 0 2 1 2 】

<<通信会社が 1 社のケース>>

図 7 4 の通信会社 2 の運用管理範囲 2 0 6 - 2 が存在せず、I P 電話網 2 0 3 が通信会社 1 の運用管理範囲となった場合にも、上記の電話接続フェーズの動作が可能である。このために、図 9 1 に示すように、通信会社 2 の運用管理範囲 2 0 6 - 2 を通信会社 1 の運用管理範囲に変更し、通信会社 2 の代表サーバ 3 1 4 - 7 を廃止し、ルータ 2 1 9 - 1 とルータ 2 1 9 - 2 との間を I P 通信回線で接続する。このようにすると、前記電話通信の接続フェーズにおいて、図 7 8 に示すステップ P214 乃至 P216 は図 9 2 に示す P214X となり、図 7 8 に示すステップ P224 乃至 P226 は図 9 2 に示す P224X となり、図 7 8 に示すステップ P234 乃至 P236 は図 9 2 に示す P234X となり、図 7 8 に示すステップ P245 乃至 P247 は図 9 2 に示す P245X となり、他ステップは同一である。

【 0 2 1 3 】

通信会社 2 の一連の電話通信の準備は、全て通信会社 1 の電話通信の準備に変更される。電話通信接続フェーズと電話通信解放フェーズにおける前記一連のステップのうち、電話管理サーバ 3 1 3 - 5 と電話管理サーバ 3 1 4 - 5 との間の通信は残し、通信会社 1 の代表サーバ 3 1 3 - 7 と通信会社 2 の代表サーバ 3 1 4 - 7 が受持つ一連のステップを省く。更に、電話管理サーバ 3 1 3 - 5 と電話管理サーバ 3 1 4 - 5 とを一体化した電話管理サーバとすることもできる。このようにすると、前記電話通信接続フェーズにおいて、図 9 2 に示すステップ P214X, P224X, P234X, P245X, P254X は廃止され、ステップ P217, P223, P233, P244, P250, P251 は、それぞれ図 9 3 に示す P217x, P223x, P233x, P244x, P250x, P251x となり、他の

ステップは同一である。

【0214】

<<電話管理サーバの接続制御に関する説明その1>>

電話管理サーバ313-5から通信会社を代表するサーバ313-7への通信を行う前記ステップP214において、宛先電話番号“Tel-No-2”が自からの通信会社の運用管理するIP電話網の配下に属しているか（加入しているか）、或いは他の通信会社が運用管理するIP電話網の配下に加入しているかを電話ドメイン名サーバ313-2に問い合わせ前に知ることが可能であり、以下の手順によって行う。

【0215】

電話管理サーバ313-5は、“電話番号の通信会社区分表”を用いてこの問題を解決する。図94に示す電話番号の通信会社区分表の例により説明する。通信会社区分表の通番1のレコードとして、“電話番号”の欄に“81-3-5414-xxxx”、“自社か？”の欄に“No”、“他の通信会社識別情報”の欄に“Com-130”と示されている。“xxxx”は10進数の“0000”から“9999”を意味しており、本例の場合、電話番号の81-3-5414-0000乃至81-3-5414-9999は、Com-130により識別される通信会社が運用管理するIP電話網に属していることを示している。また、通信会社区分表の通番2のレコード上の電話番号の“1-2245-5678”は、Com-025により識別される通信会社が運用管理するIP電話網に属していることを示しており、通信会社区分表の通番3のレコード上の電話番号の“81-47-325-3887”は、電話管理サーバ313-5の属する当該通信会社が運用管理するIP電話網に属していることを示している。

【0216】

<<電話管理サーバの接続制御に関する説明その2>>

電話管理サーバ313-5から通信会社を代表するサーバ313-7への通信を行う前記ステップP214において、宛先電話番号“Tel-No-2”のIP電話機が自からの通信会社の運用管理配下にあると判明した場合でも、他の電話管理サーバが接続している電話番号が“Tel-No-2”である電話機が、何処の網ノード装置に加入しているか否かを知ることが可能であり、以下に説明する。電話管理サーバ

313-5は、“電話番号の電話管理サーバ区分表”によりこの問題を解決する。図95に示す電話番号の電話管理サーバ区分表の例により説明する。

【0217】

通信会社区分表の通番1のレコード上の電話番号の“81-47-325-3887”は、電話管理サーバ313-5が運用管理する網ノード装置に加入（つまり通信回線を接続）していることを示している。通信会社区分表の通番2のレコード上の電話番号の“81-2245-56xx”は、電話番号の81-2245-5600乃至81-2245-5699が電話管理サーバのIPアドレスが“100.10.11.40”である当該通信会社が運用管理する網ノード装置に加入（つまり通信回線を接続）していることを示している。次に、通信会社区分表の通番3のレコード上の電話番号の“81-6-1234-xxxx”は、電話番号の81-6-1234-0000乃至81-6-1234-9999が当該通信会社が運用管理する網ノード装置に加入（つまり通信回線を接続）していることを示している。

【0218】

<<運用管理サーバによる網の運用管理>>

通信会社1の運用管理サーバ313-9は、周期的に或いは随時通信会社1の運用管理範囲206-1内部のリソースである網ノード装置208-1、208-2、ルータ219-1,219-3,219-5,219-6,219-7、電話ドメイン名サーバ313-2、電話管理サーバ313-5、代理電話管理サーバ313-1、表管理サーバ313-3、課金管理サーバ313-4、代表サーバ313-7、ユーザサービスサーバ313-6、電話ゲートウェイ209-1等と、IP通信手段を用いることにより、或いはICMPパケットを送受する手段により、これらリソースが正常か否かを調べ、或いはリソース間の通信回線が正常か否かを調べ（障害管理）、また、前記網内のIPパケットの輻輳が過大でないか等を監視する（通信品質管理）ことにより、通信会社1の運用管理範囲206-1内部を一元的に運用管理する。運用管理の結果得られた通信回線を含む網リソースの障害状況や通信品質状況は、ユーザサービスサーバ313-6を経て電話利用者227-1へ報告することもできる。

【0219】

同様に、通信会社2の運用管理サーバ314-9は、周期的に或いは随時通信

会社2の運用管理範囲206-2内部の各種リソースと通信し、これらリソースが正常か否かを調べ、或いはリソース間の通信回線が正常か否かを調べ（障害管理）、また、前記網内のIPパケットの輻輳が過大でないか等を監視する（通信品質管理）ことにより、通信会社2の運用管理範囲206-2内部を一元的に運用管理する。運用管理結果は、ユーザサービスサーバ314-6を経て電話利用者227-2へ報告することもできる。

【0220】

運用管理サーバ313-9及び314-9による前記の網運用管理により、IP電話機213-5とIP電話機214-4との間のIP転送網201の内部の電話網203の端末間通信接続制御の信頼性を向上させることができる。同様に、課金管理サーバ313-4及び314-4による通信料金の徴収手段により通信会社の網運用経済基盤が支えられることとなり、IP転送網201の内部の電話網203の端末間通信接続制御の信頼性を向上させることができる。

【0221】

実施例6を要約し、補足すると次のようになる。即ち、IP転送網は少なくとも網ノード装置、電話管理サーバ、メディアルータ、電話ドメイン名サーバ、表管理サーバを含み、ユーザ i ($i=1,2,\dots$) は、IP転送網の外部にあるユーザのメディアルータに個別の外部IPアドレス“EA- i ”を設定し、ユーザ i のメディアルータに電話機を1以上接続し、前記メディアルータは通信回線を経て前記網ノード装置のいずれかに接続され、前記通信回線の網ノード装置側終端部（論理端子）にはユーザ i の通信のために用いる内部IPアドレス“IA- i ”が付与され、前記メディアルータにはユーザ個別の電話番号が付与されている。また、前記電話ドメイン名サーバはユーザ個別の電話番号、前記メディアルータの外部IPアドレス“EA- i ”及び前記内部IPアドレス“IA- i ”の組を保持しており、前記電話ドメイン名サーバは、ユーザ個別の電話番号を質問されて、外部IPアドレス及び内部IPアドレスを回答し、網ノード装置に、メディアルータと代理電話管理サーバとの間のIP通信路を定めるIP通信レコードを設定している。

【0222】

発信元電話機の要求には前記IP通信レコードが用いられ、代理電話サーバを経由して電話管理サーバに伝えられ、前記電話管理サーバが電話ドメイン名サーバに依頼して、送信元電話番号から送信元メディアルータの外部IPアドレスと内部IPアドレス(“EA-i,IA-i”)、また、宛先電話番号から宛先メディアルータの外部IPアドレス及び内部IPアドレス(“EA-j,IA-j”)を取得し、表管理サーバが、これらIPアドレスを送信側網ノード装置及び宛先網ノード装置それぞれに、送信元電話機と宛先電話機との間の電話通信に用いるIP通信レコードとして設定する。送信元側の電話機から呼設定を要求すると、送信元側のメディアルータは、宛先電話番号及び送信元電話番号を含むIPパケットを送信元側の電話管理サーバに送り、送信元側の電話管理サーバは、電話音声用の通信回線を識別する回線番号(CIC)を宛先電話番号及び送信元電話番号の組から一意に定める。

【0223】

次に、送信元側の電話管理サーバは、送信元電話番号、宛先電話番号及び回線番号を含む「電話呼設定を要求するIAMパケット」を宛先側の電話管理サーバへ送信し、宛先側の電話管理サーバは宛先側のメディアルータに着信を知らせ、電話機が着信を許容される時は、宛先側の電話管理サーバは前記「IAMパケット受信報告するACMパケット」を送信元側の電話管理サーバを経由して送信元側メディアルータに送信する。また、前記宛先側のメディアルータは宛先側の電話機に電話呼設定を要求する。電話機着信音を鳴動させると、メディアルータは着信呼出中を宛先側の電話管理サーバに知らせ、宛先側電話管理サーバは、「着信呼出中を知らせるCPGパケット」を送信元側の電話管理サーバに送信し、送信元側の電話管理サーバは、メディアルータを経由して着信呼出中送信元側の電話機に知らせる。

【0224】

宛先側の電話機が呼設定要求に応答すると、応答は宛先側のメディアルータを経て宛先側の電話管理サーバに知らされ、宛先側の電話管理サーバは「呼設定要求への応答を示すANMパケット」を形成して送信側の電話管理サーバに送信し、送信元側の電話管理サーバは送信元側のメディアルータに呼設定要求への応答を

知らせ、送信元側の電話機は呼出音を停止し、通話フェーズに移行する。送信元側又は宛先側電話機の通話が終了し、電話呼の切断要求が通知されると、この切断要求はメディアルータを経て電話管理サーバへ通知される。

【 0 2 2 5 】

電話呼切断要求側の電話管理サーバは、回線番号 (CIC) を用いて「電話通信終了を要求する REL パケット」を形成し、他の被切断側の電話管理サーバへ送信し、前記被切断側の電話管理サーバは「REL パケット受信報告する RLC パケット」を返信する。被切断側の電話管理サーバは、電話通信の終了報告を切断要求側のメディアルータに知らせる。

【 0 2 2 6 】

電話管理サーバは電話通信の終了後に、回線番号、通信時刻、電話番号を含めた電話通信記録を収集し、運用管理用サーバ及び課金用サーバに通知することができる。電話管理サーバと中継電話管理サーバとの間の端末間通信接続制御や、2つの電話管理サーバ間の端末間通信接続制御において、前記 IAM、ACM、CPG、ANM、REL、RLC が送受される。電話管理サーバとメディアルータとの間で端末間接続制御のために IP パケットが送受される。

【 0 2 2 7 】

IP パケットのペイロード部分は UDP セグメントとし、電話呼接続フェーズと電話解放フェーズは唯一のポート番号として、異なる電話通信において、接続フェーズと電話解放フェーズを管理する単一の呼制御プログラムの利用を可能としている。また、電話通話フェーズにおいて、電話機毎に異なる UDP ポート番号を割り当てることにより、メディアルータが唯一の IP アドレスであっても電話機毎に異なる音声を伝えることができる。1つの電話管理サーバが単独で、送信側の電話管理サーバ及び受信側の電話管理サーバの機能を果たすために、前記電話管理サーバが代理電話管理サーバを経由して、送信元メディアルータ及び宛先メディアルータと電話通信接続フェーズ及び電話解放フェーズの手続きを行うこともできる。

【 0 2 2 8 】

前記電話管理サーバが、宛先電話番号が自からの通信会社の運用管理する IP

電話網の配下に属しているか、或いは他の通信会社が運用管理するIP電話網の配下に加わっているかを知るために、電話番号の通信会社区分表を用いることもできる。宛先電話番号を有する電話機が何処の網ノード装置に加わっているか否かを知るために、電話番号の電話管理サーバ区分表を用いることもできる。通信会社の運用管理サーバが、通信会社の運用管理範囲の網ノード装置や各種サーバ、電話ゲートウェイと情報交換して網内部を一元的に運用管理することにより、網内部の端末間通信接続制御の信頼性を向上させ、或は課金管理サーバと連携し、IP転送網の端末間通信接続制御の信頼性を向上させるようになっている。

【0229】

7. メディアルータの構造が異なる第7実施例：

図96は、メディアルータに関して、IPアドレス及び電話番号の付与方法を説明するための模式図であり、図97は網ノード装置のIPパケットのカプセル化関連事項を説明する図であり、これらの図を参照して説明する。

【0230】

メディアルータ530はIP電話機515-1乃至515-4及びアナログ電話機516-1乃至516-3を収容し、回線インタフェース部533からIPパケット送受用の論理通信回線539-1乃至539-3を介して、網ノード装置540に接続する。ここで、物理通信回線538は論理通信回線539-1乃至539-3の全てを含む。

【0231】

メディアルータ530は電話呼制御その他のメディアルータ530の主な処理を行い、メディアルータ主要部531及びアナログ電話機との接続インタフェースを有するアナログインタフェース部532、回線インタフェース部533、アドレス電話番号対応表534、電話機管理表535を含み、メディアルータ主要部531は、その内部にIPアドレス“EA01”、“EA12”、“EA13”及び“ADR”を有している。IPアドレス“EA01”は電話番号“Tel-No-1”と、IPアドレス“EA12”は電話番号“Tel-No-12”と、IPアドレス“EA13”は電話番号“Tel-No-13”とそれぞれ1対1に対応付けられており、この様子はアドレス電話番号

対応表 5 3 4 に示されている。IP 電話機及びアナログ電話機に付与する電話番号は、アドレス管理表を用いて管理する。従って、電話番号を変更するときは、アドレス管理表を書き換える。

【 0 2 3 2 】

メディアルータ主要部 5 3 1 の内部にポート 5 3 8 - 1 乃至 5 3 8 - 7 があり、これらのポートにはそれぞれ“1”乃至“7”なるポート番号が付与されており、更にこれらポートは通信回線を経て IP 電話機に直接接続され、或いはアナログインタフェース部 5 3 2 を経てアナログ電話機 5 1 6 - 1 乃至 5 1 6 - 3 に間接的に接続されている。IP 電話機 5 1 5 - 1 乃至 5 1 5 - 4 には、それぞれ“Id-5”乃至“Id-8”なる識別名及び IP アドレス“AD01”乃至“AD04”が付与されており、この様子は電話機管理表 5 3 5 内のポート番号が 1 乃至 4 であるレコードに示されている。電話機管理表内の“D”は IP 電話機を表わし、“A”はアナログ電話機を表わす。ポート 5 3 2 - 1 には IP アドレス“EA01”が付与されており、ポート 5 3 2 - 2 には IP アドレス“EA12”が付与され、ポート 5 3 2 - 3 には IP アドレス“EA13”が付与されている。ポート 5 3 8 - 1 及び 5 3 2 - 1 は通信回線で接続され、ポート 5 3 8 - 7 及び 5 3 2 - 3 は通信回線で接続されている。IP 電話機 5 1 5 - 1 はポート 5 3 8 - 1 に通信回線 5 1 7 - 1 で接続されるので、IP 電話機 5 1 5 - 1 はメディアルータ 5 3 0 を経由して網ノード装置に接続されるとき、IP アドレス“EA01”を用いることが出来ることになる。同様に、アナログ電話機 5 1 6 - 3 に IP アドレス“EA13”が固定的に割り当てられている。アナログ電話機 5 1 6 - 3 はメディアルータ 5 3 0 を経由して網ノード装置に接続されるとき、常に IP アドレス“EA13”が用いられることを示す。この様子は、アドレス管理表 5 3 5 のポート 1 であるレコードとポート 7 であるレコードにそれぞれ示されている。

【 0 2 3 3 】

ポート 5 3 8 - 4 及び 5 3 8 - 5 は通信回線で接続されており、IP 電話機 5 1 5 - 4 は通信回線 5 1 7 - 4、ポート 5 3 8 - 4 及び 5 3 8 - 5、アナログインタフェース 5 3 2、通信回線 5 1 8 - 1 を経てアナログ電話機 5 1 6 - 1 に接続されており、IP 電話機 5 1 5 - 4 とアナログ電話機 5 1 6 - 1 との間で電話

通信が可能である。同様に、IP電話機515-2は通信回線517-2、ポート538-2及び538-3、通信回線517-3を経てIP電話機515-3に接続されており、両IP電話機との間で電話通信が可能である。

【0234】

2つのアナログ電話機間の電話通信も、アナログインタフェース部の機能により可能である。IP電話機515-1乃至515-4は、音声をデジタル化してIPパケットに載せて送信し、逆の機能としてデジタル化した音声をアナログ音声に復元する。アナログインタフェース部は、アナログ電話機516-1乃至516-3から受信した音声をデジタル化してメディアルータ主要部531へ送り、逆の機能としてメディアルータ主要部531から受信したデジタル化した音声をアナログ音声に復元して、アナログ電話機へ送る。

【0235】

＜＜電話接続のためのメディアルータと網ノード装置の一連の手順＞＞

IP電話機515-1の受話器を上げると、呼出のIPパケット520が通信回線517-1を経てメディアルータ主要部531へ伝えられる。ここで、IPパケット520内部のヘッダに書込まれている送信元IPアドレスは“AD01”、宛先IPアドレス“ADR”である。メディアルータ主要部531は、“呼出受付”のIPパケットをIP電話機515-1へ返信する。次に、IP電話機515-1の利用者が通信相手先の電話番号“Tel-No-4”をダイヤル入力すると、IP電話機515-1の内部で、IPパケットのペイロードに送信元電話番号“Tel-No-1”と、通信相手先の電話番号“Tel-No-4”とを含む電話の“呼設定”のIPパケットを生成し、メディアルータ530に送信する。

【0236】

メディアルータ530は、メディアルータ主要部531において前記IPパケットを受信し、少なくとも送信元電話番号“Tel-No-1”と宛先電話番号“Tel-No-4”を含むIPパケットを作成し、網ノード装置540に送信することにより呼設定の手続きを開始する。

【0237】

網ノード装置540はIPパケットの521を受信すると、図97に示すアド

レス管理テーブル541を検索し、外部IPアドレスとして送信元IPアドレスが“EA01”であり、宛先IPアドレスが“EA81”が含まれるレコードを検索し、この場合はアドレス管理表541の上から1行目のレコード、つまり“EA01,EA81,IA01,IA81”であるレコードを見つけると、このレコード内部の3番目及び4番目に記載されるIPアドレス“IA01”及び“IA81”を用いてIPパケットのカプセル化技法を適用して内部IPパケットの542を生成し、IPアドレスが“IA81”である代理電話管理サーバ545へ送信する。ここで、IPパケット542のペイロード部分は、IPパケットの521である。なお、上記において、物理通信回線538が論理通信回線539-1乃至539-3の全てを含むので、論理端子543-1乃至543-3は全て同一の内部IPアドレス値“IA01”としている例である。

【0238】

8. 閉域電話通信を行う第8の実施例：

図98において、1001は統合IP通信網、1002はIPデータ網、1003はIP電話網、1004は音声画像網であり、1005は通信会社1が運用管理する統合IP通信網の範囲、1006は通信会社2が運用管理する統合IP通信網の範囲である。1002乃至1004は、何れもIPパケット転送機能を有するIP転送網でもあり、IP転送網の内部ではIPパケットを送受するIP通信手段により情報交換できる。統合IP通信網1001の外部で用いるIPアドレスを外部IPアドレスといい、内部で用いるIPアドレスを内部IPアドレスという。1011乃至1017は電話機、1021乃至1025はメディアルータ、1080と1081は電話ゲートウェイ、1082及び1083は公衆電話交換網（PSTN）、1084及び1085は電話機である。

【0239】

電話機1011からメディアルータ1021、通信回線1040、網ノード装置1031、IP電話網1003内部を経由し、網ノード装置1032、通信回線1041、メディアルータ1022、電話機1012へ電話機の通信接続を行う“端末間通信接続制御方法”を説明する。

【 0 2 4 0 】

電話機 1 0 1 1 乃至 1 0 1 3 の利用者は、それぞれの電話番号と、それら電話機が接続するメディアルータに付与する外部 I P アドレスの値とを事前に決めておく。図 1 0 0 及び図 1 0 1 を参照して説明すると、電話機 1 0 1 1 は電話番号 “Tel-No-1” を用い、メディアルータ 1 0 2 1 には外部 I P アドレス “EA1” を付与し、電話機 1 0 1 2 は電話番号 “Tel-No-2” を用い、メディアルータ 1 0 2 2 には外部 I P アドレス “EA2” を付与し、電話機 1 0 1 3 は電話番号 “Tel-No-3” を用い、メディアルータ 1 0 2 3 には外部 I P アドレス “EA3” を付与する。電話番号サーバ 1 0 2 6 乃至 1 0 2 8 は、いずれも電話番号 “Tel-No-1” を提示されると外部 I P アドレス “EA1” を回答し、電話番号 “Tel-No-2” を提示されると外部 I P アドレス “EA2” を回答し、電話番号 “Tel-No-3” を提示されると外部 I P アドレス “EA3” を回答するように設定しておく。この方法は、例えば内線電話番号 “1 0 0” から “1 9 9” などの電話番号グループを一定のルール、例えば 100 番台を 1 に対応させるルールによりドメイン名 “1.” に対応付けておき、ドメイン名サーバ (DNS) の公知技法を適用できる。

【 0 2 4 1 】

<<電話通信の準備>>

図 9 8 及び図 9 9 を参照して説明すると、ユーザ 1 0 6 0 は電話受付者 1 0 6 1 に電話利用を申込み (図 9 9 のステップ A100)、電話受付者 1 0 6 1 は電話の申込情報である前記外部 I P アドレス “EA1” 及び “EA2”、ユーザ氏名や料金支払い方法、通信回線 1 0 4 0 の識別記号 “L-1 0 4 0” と網ノード装置 1 0 3 1 の識別記号 “NN-1 0 3 1”、通信回線 1 0 4 1 の識別記号 “L-1 0 4 1” と網ノード装置 1 0 3 2 の識別記号 “NN-1 0 3 2” 等をユーザ 1 0 6 0 から入手し、ユーザサービスサーバ 1 0 4 1 に通知する (ステップ A101)。ユーザサービスサーバ 1 0 4 1 は、ユーザ 1 0 6 0 を識別するためのユーザ識別記号 “UID-1” を決め、前記受付により得られた外部 I P アドレス “EA1” 及び “EA2”、ユーザ氏名等のユーザ申込情報をユーザサービスサーバ 1 0 4 1 が有するデータベースに保持する (ステップ A102)。

【 0 2 4 2 】

次に、ユーザサービスサーバ1041は、前記手続きにより得られた外部IPアドレス“EA1”及び“EA2”と、通信回線の識別記号“L-1040”及び“L-1041”と、網ノード装置の識別記号“NN-1031”及び“NN-1032”とを電話管理サーバ1042へ通知すると（ステップA103）、電話管理サーバ1042は内部IPアドレス“IA1”及び“IA2”を決め、4つのアドレス“EA1, EA2, IA1, IA2”を表管理サーバ1043に知らせる（ステップA107）。ここで、内部IPアドレスの“IA1”は、通信回線1040と網ノード装置1031との接続点に付与した内部IPアドレスであり、“IA2”は通信回線1041と網ノード装置1032との接続点に付与した内部IPアドレスであり、網ノード装置の識別記号“NN-1031”及び“NN-1032”と、通信回線の識別記号“L-1040”及び“L-1041”とを用いて、統合IP転送網1001の内部で統一して決める値であり、電話管理サーバ1042と1065とが前記IP通信手段により情報交換して、同一値であることを別途事前に確認している。

【0243】

表管理サーバ1043は網ノード装置1031に前記の4つのアドレスを知らせると（ステップA108）、網ノード装置は、図100に示すように網ノード装置内部のアドレス管理表1034の第1レコードとして前記4つのアドレス“EA1, EA2, IA1, IA2”を保持する（ステップA109）。アドレス管理表1034の1行目のレコードは、外部IPアドレス“EA1”を有するメディアルータ1021と、外部IPアドレス“EA2”を有するメディアルータ1022との間のIP通信レコードと定義される。IP通信レコードは、内部IPパケットを生成するIPカプセル化においてIPヘッダ内のアドレス情報を提供する。同様にアドレス管理表1034の2行目のレコードとして、4つのアドレス“EA1, EA3, IA1, IA3”がIP通信レコードとして設定されている。

【0244】

同様にして、ユーザ1062が電話サービスを電話受付者1063申し込み、前記と同様の手順を経て（図99のステップA110乃至ステップA119）、網ノード装置1032の内部に、図101に示すように外部IPアドレス“EA2”を有す

るメディアルータ1022と、外部IPアドレス“EA1”を有するメディアルータ1021との間のIP通信レコードが設定され、また、アドレス管理表1035の1乃至4行目のレコードに上述と同一の原理により、外部IPアドレス“EA2”を有するメディアルータ1022と外部IPアドレス“EA3”を有するメディアルータ1023との間のIP通信レコードや、他のIP通信レコードが設定されている。なお、ユーザ1062が電話受付者1063に申し込んで、メディアルータ1022と、メディアルータ1021との間のIP通信レコードを設定する前記手順に代わり、ユーザ1060が電話受付者1061に申し込んで、メディアルータ1022とメディアルータ1021との間のIP通信レコードを設定することも出来る。このため、電話管理サーバ1042が前記ステップ“A107”を遂行するときに、ステップ“A117-2”（図99）も同時に遂行して、表管理サーバ1066にIP通信レコードの設定を依頼する。

【0245】

<<接続フェーズ>>

利用者が電話機1011の受話器を上げて、通信相手先電話機1012の電話番号“Tel-No-2”をダイヤル入力して、メディアルータ1021内部のメディアルータ管理部1056に電話呼出し（図102のステップA200）、メディアルータ管理部1056は電話呼を確認する（ステップA201）。

【0246】

メディアルータ管理部1056は電話番号サーバ1026に電話番号“Tel-No-2”を提示し（ステップA202）、対応するメディアルータ1022のIPアドレス“EA2”を取得し（ステップA203）、送信元電話番号“Tel-No-1”と、宛先電話番号“Tel-No-2”と、電話呼識別子“C-ID”と、接続制御関連情報“Info-1”とを含む電話呼設定のための外部IPパケット1070（図103）を形成し、網ノード装置1031に送信する（ステップA204）。ここで、外部IPパケット1070のIPヘッダのIPアドレス領域は、送信元IPアドレス“EA1”及び宛先IPアドレス“EA2”であり、外部IPパケット1070のペイロード部分はUDPセグメントであり、送信元ポート番号は“5060”、宛先ポート番号は“5060”としている例である。電話呼識別子“C-ID”は、電話通信における電話

発呼後の接続フェーズから音声通信フェーズ、解放フェーズまでの電話の呼を、他の電話呼と区別するために用いる。接続制御関連情報“Info-1”は、音声通信フェーズにおいて用いるUDPポート番号、例えば“5004”を少なくとも含み、他の内容として音声圧縮方式の識別記号や音声符号変換コーデック識別記号、メディアルータ1021のIPアドレス“EA1”を含めることが出来る。ここで、メディアルータ管理部1056及び1057が、事前に定めてあるルールにより電話呼識別子“C-ID”及び接続制御関連情報“Info-1”を設定して参照する。

【0247】

網ノード装置1031はIPパケット1070を受信すると、IPパケット1070を入力した通信回線1040の終端部（論理端子）に付与されている内部IPアドレスが“IA1”、IPパケット1070の宛先外部IPアドレスが“EA2”であることを確認し、図100に示すアドレス管理表1034を検索する。始めに送信元内部IPアドレスが“IA1”であるIP通信レコードを検索し、次に前記検出したIP通信レコード内に宛先外部IPアドレスが“EA2”が含まれるIP通信レコードがあるかを検索する。

【0248】

次に、前記検出したIP通信レコード内にIPパケット1070内の送信元外部IPアドレスが“EA1”が含まれるかを調べる。この場合は、アドレス管理表1034の上から1行目、つまり“EA1,EA2,IA1,IA2”であるIP通信レコードを見つけると、このIP通信レコード内部の3番目及び4番目に記載される“IA1”及び“IA2”を用いて、外部IPパケット1070に新たなIPヘッダを付与するIPパケットのカプセル化技法を適用して、図104に示す内部IPパケット1071を形成する。

【0249】

アドレス管理表内部でのIP通信レコードの前記検索において、始めに送信元内部IPアドレスが“IA1”であるレコードを検索し（複数候補あり）、次に前記検索したレコードの中から宛先外部IPアドレスが“EA2”であるIP通信レコードを検索する。送信元外部IPアドレス“EA1”を検索することを省略することもできる。前記IPパケットのカプセル化において、内部IPパケットのへ

ッダ部のIPアドレス域に、前記内部IPアドレスの送信元IPアドレス“IA1”と宛先IPアドレス“IA2”とが設定される。形成された内部IPパケット1071は網ノード装置1032に送信され（ステップA205）、ルータ1035-1乃至1035-6を経由して網ノード装置1032に到達し、網ノード装置1032はIPパケット1071のヘッダを除くIPパケットの逆カプセル化を行ってIPパケット1072を復元し（図105）、IPパケット1072をメディアルータ1022に送信する（ステップA206）。

【0250】

前記IPパケットの逆カプセル化において、網ノード装置1032は、値が“EA2, EA1, IA2, IA1”であるIP通信レコードを次のように使うことができる。即ち、網ノード装置1032内部のアドレス管理表1035に前記4つのIPアドレスを含むIP通信レコードが存在し、受信した内部IPパケット1071のヘッダ内部のIPアドレス域に“IA2, IA1”があり、外部IPパケットの1072内部のIPアドレス域に“EA2, EA1”があるので逆カプセル化可能であると確認する。4つのアドレス（“EA2, EA1, IA2, IA1”）が一致するIP通信レコードが存在しないとき、受信したIPパケットを廃棄することもできる。或は、アドレス管理表1035の中に3つのアドレス（“EA1, IA2, IA1”）が一致するIP通信レコードが存在しないとき、IPパケット1071内の宛先外部IPアドレス“EA2”はチェックしないで逆カプセル化を行わず、受信したIPパケットを廃棄することもできる。

【0251】

メディアルータ管理部1057は、外部IPパケットの1072から送信元電話番号“Tel-No-1”と、宛先電話番号“Tel-No-2”と、電話呼識別子“C-ID”と、接続制御関連情報“Info-1”とを取得する。メディアルータ管理部1057は、“Info-1”内部から、音声通信フェーズにおいて送信元電話機が用いるポート番号として、例えば“5004”を取得し、また、電話呼識別子“C-ID”を用いて、前記着信した電話呼を他の電話呼と区別するために用いることができる。

【0252】

以上説明した一連のステップA204, A205, A206を呼設定と呼び、前記一連のステ

ップを“IAM”により省略して表わす。

【0253】

メディアルータ管理部1057は、前記の呼設定に対して呼設定受付を通知するため、電話呼識別子“C-ID”、送信元電話番号“Tel-No-1”、宛先電話番号“Tel-No-2”を含むIPパケットをメディアルータ管理部1056に返信する（ステップA207,A208,A209）。この一連のステップA207,A208,A209を呼設定受付と呼び、省略記号として“ACM”で表わす。メディアルータ管理部1057は、前記呼設定受付において電話呼識別子“C-ID”のみを用い、送信元電話番号“Tel-No-1”及び宛先電話番号“Tel-No-2”を返信しないことも出来る。

【0254】

次に、メディアルータ管理部1057は電話呼出し（着信）を電話機1012に伝えと（ステップA210）、電話機1012は着信の確認のため返信し（ステップA211）、電話呼出音を鳴らす。メディアルータ管理部1057は電話機1012を呼出中であることを知らせるため、電話呼識別子“C-ID”、送信元電話番号“Tel-No-1”、宛先電話番号“Tel-No-2”を含むIPパケットを生成してメディアルータ管理部1056へ返信する（ステップA212,A213,A214）。この一連のステップA212,A213,A214を呼経過又は呼出中といい、省略記号として“CPG”で表わす。呼経過のステップにおいて、送信元電話番号“Tel-No-1”及び宛先電話番号“Tel-No-2”を返信しないようにすることも可能である。メディアルータ管理部1056は、送信元電話機1011に宛先電話機1012を呼出中であることを知らせる（ステップA215）。

【0255】

一方、電話機1012の利用者が電話機の呼出音を聞きとり、電話機の送受話器を取り上げてメディアルータ管理部1057に知らせると（ステップA220）、メディアルータ管理部1057は、前記の電話呼識別子“C-ID”、送信元電話番号“Tel-No-1”、宛先電話番号“Tel-No-2”、接続制御関連情報“Info-2”を含むIPパケットを生成し、メディアルータ1021内部のメディアルータ管理部1056へ通知する（ステップA222,A223,A224）。この一連のステップA222,A223,A224を応答と呼び、省略記号として“ANM”で表わす。前記接続制御関連情

報 “Info-2” の中に、音声通信フェーズにおいて用いるUDPポート番号、例えば “5 0 0 6” を少なくとも含む。前記 I P パケットの形式は、図 1 0 4 の内部 I P パケット 1 0 7 1 と同一の形式であるが、送信元電話番号 “Tel-No-1” 及び宛先電話番号 “Tel-No-2” は、I P パケット内部に書き込みを省略することもできる。前記の電話機 1 0 1 2 の応答（ステップ A220）に対して、メディアルータ管理部 1 0 5 6 が確認する（ステップ A221）。

【 0 2 5 6 】

メディアルータ管理部 1 0 5 6 は、“Info-2” から通信フェーズにおいて用いる宛先ポート番号の例えば “5 0 0 6” を知り、電話機 1 0 1 2 からの応答（オフック）を電話機 1 0 1 1 に知らせ（ステップ A225）、電話機 1 0 1 1 が確認する（ステップ A226）。なお、前記ステップ A221 及びステップ A226 は省略することもできる。以上により電話呼出しの接続フェーズが完了する。

【 0 2 5 7 】

なお、前記ステップのうち、ステップ A200 及び A210 を“呼設定”、ステップ A201 及び A211 を“呼設定受付”、ステップ A215 を“呼出し”、ステップ A220 及び A225 を“応答”、ステップ A221 及び A226 を“応答確認”とそれぞれ呼ぶ。

【 0 2 5 8 】

<<通信フェーズ>>

電話機 1 0 1 1 の利用者が音声による会話を始めると、音声信号はメディアルータ管理部 1 0 5 6 に送られ（図 1 0 6 のステップ A250）、メディアルータ管理部 1 0 5 6 は音声をデジタル化して、更に適当な長さに区分し、図 1 0 7 の外部 I P パケット 1 0 7 3 を形成する。そして、外部 I P パケット 1 0 7 3 の内部のUDPセグメントのペイロード部分に前記デジタル化した音声を格納し、I P パケットの 1 0 7 3 を網ノード装置 1 0 3 1 に送信する（ステップ A251）。UDP セグメント内部の送信元ポート番号は、接続フェーズにおいて、メディアルータ管理部 1 0 5 6 と 1 0 5 7 とが相互に交換して取得した送信元ポート番号 “5 0 0 4” と宛先ポート番号 “5 0 0 6” とが用いられる。

【 0 2 5 9 】

網ノード装置 1 0 3 1 は I P パケットの 1 0 7 3 を受信すると、アドレス管理

表の内部に“EA1,EA2,IA1,IA2”であるIP通信レコードを見出し、このIP通信レコードを用いて外部IPパケット1073がカプセル化されて内部IPパケット1074となり、ルータ1035-1乃至1035-6を経て網ノード装置1032に到達する(ステップA252)。そして、外部IPパケット1075が復元され、外部IPパケット1075はメディアルータ管理部1057を経て(ステップA253)、電話機1012に届けられる(ステップA254)。電話機1012の利用者の音声を含むIPパケットは前記逆方向の流れ、つまりメディアルータ管理部1057(ステップA260)、網ノード装置1032(ステップA261)、ルータ1035-6乃至1035-1を経て網ノード装置1031に到達し(ステップA262)、メディアルータ管理部1056を経て(ステップA263)、電話機1011へ届けられる(ステップA264)。

【0260】

<<解放フェーズ>>

電話機1011の利用者が電話通信の終了のため送受話器を置き、メディアルータ管理部1056に電話通信の終了を通知すると(図110のステップA280)、メディアルータ管理部1056は、少なくとも電話通信の終了を意味する情報及び電話呼識別子“C-ID”を含むIPパケットを形成する。このIPパケットを網ノード装置1031に送信し(ステップA281)、網ノード装置1031においてカプセル化され、IP転送網1003を通過して網ノード装置1032に到達し(ステップA282)、網ノード装置1032において逆カプセル化され、メディアルータ管理部1057を経由して(ステップA283)、電話機1012に到達する(ステップA284)。この一連のステップA281,A282,A283,A284を解放といい、省略記号として“REL”で表わす。

【0261】

次に、解放の完了を報告するIPパケットが逆方向に通知される(ステップA286,A287,A288)。この一連のステップA286,A287,A288を解放完了といい、省略記号として“RLC”で表わす。ステップA281,A282,A283等において使われるIPパケットの形式やIPアドレスの設定方法は、電話通信の接続フェーズにおけるステップA204,A205,A206等と同一である。

【 0 2 6 2 】

<<他の電話機間の通信>>

電話機 1 0 1 1 から電話番号 “Tel-No-3” を有する電話機 1 0 1 3 に電話通信することも同様に可能であり、電話番号サーバ 1 0 2 6 に質問すると、電話番号 “Tel-No-3” に対応する外部 IP アドレス “EA3” が回答される。アドレス管理表 1 0 3 4 内部の IP 通信レコード “EA1,EA3,IA1,IA3” 及びアドレス管理表 1 0 3 5 内部の IP 通信レコード “EA3,EA1,IA3,IA1” が、IP パケットのカプセル化や逆カプセル化に用いられる。また、電話機 1 0 1 2 から電話機 1 0 1 3 に電話通信することも、前記と同様の端末間通信接続制御方法により可能である。電話通信が終了すると、ポート番号 “5 0 0 4” 及び “5 0 0 6” は空き番号として、次の電話通信に用いることができる。

【 0 2 6 3 】

<<通信会社が 1 社のケース>>

図 9 8 の通信会社 2 の運用管理範囲 1 0 0 6 が存在せず、IP 電話網 1 0 0 3 が通信会社 1 の運用管理範囲となった場合にも、上記電話呼の接続フェーズ、通話フェーズ、解放フェーズが可能である。このケースでは、通信会社 2 の運用管理範囲 1 0 0 6 を通信会社 1 の運用管理範囲に変更し、通信会社 1 の代表サーバ 1 と通信会社 2 の代表サーバ 1 0 3 6 - 1 乃至 1 0 3 6 - 2 を廃止し、ルータ 1 0 3 5 - 7 とルータ 1 0 3 5 - 1 との間を IP 通信回線で接続する。

【 0 2 6 4 】

<<メディアルータの他の実施例>>

図 1 1 1 を参照して、メディアルータの他の実施例を説明する。メディアルータ 1 0 2 1 - 1 は図 9 8 に示すメディアルータ 1 0 2 1 の機能を含み、メディアルータ管理部 1 0 5 6 - 1 はメディアルータ管理部 1 0 5 6 の機能を含み、電話番号サーバ 1 0 2 6 - 1 は電話番号サーバ 1 0 2 6 の機能をそれぞれ含む。1 0 4 0 - 1 は網ノード装置への通信回線である。1 0 8 0 - 1 は接続制御部、1 0 8 1 - 1 は電話制御部、1 0 8 2 はメディアルータ運用管理部、1 0 8 3 は電話番号・ピン番号・UDP ポート番号対応表である。メディアルータ運用管理部 1 0 8 2 は、電話通話を記録する機能及びメディアルータ内部の障害検出などによる

信頼性管理機能を含む。電話制御部 1 0 8 1 - 1 は電話機 1 0 1 1 - 1 乃至 1 0 1 1 - 4 を通信回線経由で接続されており、電話通信におけるプロトコル変換、音声符号変換、揺らぎ制御、アナログ音声をディジタル音声に変換又は逆変換して送受するための機能を有する。1 0 8 4 は回線インタフェース部であり、通信回線 1 0 4 0 - 1 及び I P パケットを送受する機能を含む。メディアルータ運用管理部 1 0 5 6 - 1 は、メディアルータ運用管理部 1 0 5 6 と同等の電話接続制御及び解放制御、即ち図 1 0 2 を参照して説明した電話接続制御、図 1 1 0 を参照して説明した電話解放制御を行うことができる。

【 0 2 6 5 】

電話番号・ピン番号・UDPポート番号対応表 1 0 8 3 は、電話番号“Tel-No-1”が電話制御部 1 0 8 1 - 1 内のピン番号“T1”に 1 : 1 対応し、更にピン番号“T1”にUDPポート番号“5004”を 1 : 1 対応させることを示す。以下同様であり、電話番号“Tel-No-12”がピン番号“T2”及びUDPポート番号“5006”に 1 : 1 対応し、電話番号“Tel-No-13”がピン番号“T3”及びUDPポート番号“5008”に 1 : 1 対応し、電話番号“Tel-No-14”がピン番号“T4”及びUDPポート番号“5010”に 1 : 1 対応することを表わす。このようになっているので、例えば電話番号“Tel-No-1”を用いるケースでは、UDPポート番号を、電話番号・ピン番号・UDPポート番号対応表 1 0 8 3 を参照して“5 0 0 4”とする。UDPポート番号は、音声通信用の公知のRTPを識別するポート番号（音声通信用RTPポート番号）として用いる。

【 0 2 6 6 】

図 1 1 2 の 1 0 8 3 - 1 は、電話番号・ピン番号・UDPポート番号対応表の他の実施例を示しており、1 0 8 3 と交換することができる。このケースでは電話番号“Tel-No-1”は代表電話番号であり、電話機 1 0 1 1 - 1 乃至 1 0 1 1 - 4 は同じ電話番号“Tel-No-1”を有し、UDPポート番号は“5 0 0 4”乃至“5 0 1 0”と異なるので、電話機 1 0 1 1 - 1 乃至 1 0 1 1 - 4 は同時刻に混信せずに、異なったポート番号を用いて電話の音声通信が可能である。

【 0 2 6 7 】

図 1 1 3 の 1 0 8 3 - 2 は電話番号・ピン番号・UDPポート番号対応表の他の

実施例を示しており、1083と交換することができる。このケースでは、電話番号“Tel-No-12”である電話機1011-2が先の時刻に電話して、UDPポート番号“5004”を付与されている例である。他の電話機1011-1、1011-3、1011-4は、電話通信を開始する接続フェーズの段階で、他の未割当てのUDPポート番号“5006”及び“5008”などが付与され、電話呼の解放フェーズで前記付与されたUDPポート番号の付与を中止（返還）される。接続制御部1080-1は、ピン番号とUDPポート番号との対応付けの組合せを適宜変更することにより、前記のような代表電話番号を実現することができる。

【0268】

<<メディアルータの他の実施例>>

図114を参照して、メディアルータの他の実施例を説明する。メディアルータ1021-2は図98に示すメディアルータ1021の機能を含み、接続制御部1080-2は図111に示す接続制御部1080-1の機能を含み、電話制御部1081-2は電話制御部1081-1の機能を含む。1040-2は網ノード装置へ接続するための通信回線である。メディアルータ管理部1056-2はメディアルータ管理部1056の機能を含み、電話番号サーバ1026-2は電話番号サーバ1026の機能を含む。1085-1はPBX制御部、1085-2はPBX、1086及び1087はルータ、1088はメディアルータの運用管理部、1089はイーサネットを用いた通信回線、1090及び1091はIPパケットを送受する機能を有するIP端末、1092は音声画像を送受する機能を有する動画像送受信機である。IP端末1090及び1091、動画像送受信機1092は共にIP通信回線を経てルータ1087に接続されている。また、ルータ1087から、IP通信回線を経てLAN1093に接続されている。接続制御部1080-2や電話番号サーバ1026-2、ルータ1086及び1087は通信回線1089により相互に接続されている。

【0269】

PBX1085-2は複数の電話機を収容する私設構内交換機であり、PBX制御部1085-1は接続制御部1080-2とPBX1085-2との間に位置し、両者のインタフェース変換（音声符号変換や音声圧縮など）を行う。この

ように成っているので、メディアルータ1021-2は多数の電話機を電話制御部1081-2を介して直接に収容し、或はPBX1085-2を介して収容できる。これら電話機は、IP転送網を経由して他の電話機と電話通信することができる。

【0270】

メディアルータ1021-2は上述のように成っているため、通信回線1040-2から入力したIPパケットはルータ1086及び通信回線1089を経て接続制御部1080-2に到達可能であり、また、IPパケットは逆方向に、つまり接続制御部1080-2から通信回線1089、ルータ1086、通信回線1040-2へ向けて転送可能である。同様に、通信回線1040-2から入力したIPパケットは、ルータ1086、通信回線1089、ルータ1087、通信回線を経てLAN1093内部のIP端末1090や、IP端末1091、動画像送受信機1092のいずれにも到達可能である。また、IPパケットが逆方向に転送可能であり、IP端末1090、IP端末1091、動画像送受信機1092から通信回線、ルータ1087、通信回線1089、ルータ1086、通信回線1040-2に転送可能である。

【0271】

<<発信優先度制御>>

次に、メディアルータ1021-2の発信優先度制御の機能について説明する。図115は、メディアルータ1021-2内部の一部と、メディアルータ1021-2に接続するIP端末やLANの接続状態を示す模式図である。但し、途中の通信回線は記載を省略してあり、1085-21は電話番号サーバ1026-2から送出されるIPパケット、1085-22は接続制御部1080-2から送出されるIPパケット、1085-23はLAN1093から送出されるIPパケット、1085-24はIP端末1091から送出されるIPパケット、1085-25は動画像送受信機1092から送出されるIPパケットである。また、IPパケット1085-21乃至1085-25は、イーサネット通信回線1089及びルータ1086を経て通信回線1040-2に送られる。IPパケット1085-21乃至1085-25のペイロードがTCP又はUDPセグメントの場合、

これらセグメントの内部に送信元ポート番号と宛先ポート番号とが含まれる。

【 0 2 7 2 】

図 1 1 6 の 1 0 8 5 - 3 は、前記 I P パケットがイーサネット通信回線 1 0 8 9 側から通信回線 1 0 4 0 - 2 に送られる順序を定める発信優先度制御管理表 1 0 8 5 - 3 を示している。I P パケットがイーサネット通信回線 1 0 8 9 側から入力し、ルータ 1 0 8 6 を通過して通信回線 1 0 4 0 - 2 に出力するとき、通過する I P パケットの内部のペイロードが TCP セグメントか UDP セグメントであるかを調べ、TCP セグメントか UDP セグメントであるときは、その内部の送信元ポート番号を調べる。I P パケットが時間的に近似した時刻に、ルータ 1 0 8 6 に到達した場合、送信元ポート番号が “ 1 0 8 ” である TCP セグメント又は UDP セグメントを含む I P パケットが時間的に最優先で送られ、次に送信元ポート番号が “ 5 0 6 0 ” や、“ 5 0 0 4 ” 乃至 “ 5 0 2 0 ” である TCP セグメント又は UDP セグメントを含む I P パケットが送られる。

【 0 2 7 3 】

発信優先度制御管理表 1 0 8 5 - 3 の中に記載するポート番号の値を、他の値に変更して用いることもできる。また、発信優先度管理表 1 0 8 5 - 3 を図 1 1 7 の発信優先度制御管理表 1 0 8 5 - 4 に変更して用いることも可能である。発信優先度制御管理表 1 0 8 5 - 4 を用いるケースでは、送信元 I P アドレス “ 15 0 . 1 . 2 . 3 ” であり、かつ送信元ポート番号 “ 1 0 8 ” である I P パケットを最優先し、次の優先度として、送信元 I P アドレス “ 192 . 1 . 2 . 3 ” であり、かつ送信元ポート番号 “ 5 0 6 0 ” 又は “ 5 0 0 4 ” 乃至 “ 5 0 2 0 ” である I P パケットを優先する。

【 0 2 7 4 】

上記実施例において、メディアルータ 1 0 2 1 - 2 が発信優先度制御管理表 1 0 8 5 - 3 により指定されるポート番号を基準にして、或は発信優先度制御管理表 1 0 8 5 - 4 により指定される I P アドレス及びポート番号の組を基準にして、I P パケットから通信回線 1 0 4 0 - 2 へ送出する I P パケットの送出順序を定める機能を有することが特徴である。

【 0 2 7 5 】

次に、図 1 1 8 を参照して説明する。メディアルータ 1 0 2 1 - 3 及び 1 0 2 1 - 4 が IP 転送網 1 0 0 1 - 1 を経由して接続され、メディアルータ 1 0 2 1 - 3 に IP 端末 1 0 9 1 - 1、動画像送受信機 1 0 9 2 - 1、LAN 1 0 9 3 - 1 が接続され、LAN 1 0 9 3 - 1 の内部に IP 端末 1 0 9 0 - 1 が含まれている。同様に、メディアルータ 1 0 2 1 - 4 に IP 端末 1 0 9 1 - 2、動画像送受信機 1 0 9 2 - 2、LAN 1 0 9 3 - 2 が接続され、LAN 1 0 9 3 - 2 の内部に IP 端末 1 0 9 0 - 2 が含まれている。メディアルータ 1 0 2 1 - 3 及び 1 0 2 1 - 4 は、図 1 1 4 のメディアルータ 1 0 2 1 - 2 の機能を含む。このようになっているから、例えば IP 端末 1 0 9 0 - 1 と IP 端末 1 0 9 1 - 2 との間、IP 端末 1 0 9 1 - 1 と IP 端末 1 0 9 0 - 2 との間、動画像送受信機 1 0 9 2 - 1 と動画像送受信機 1 0 9 2 - 2 との間において、メディアルータ 1 0 2 1 - 3、IP 転送網 1 0 0 1 - 1、メディアルータ 1 0 2 1 - 4 を介して IP パケットを送受することに出来る。

【 0 2 7 6 】

以上を要約すると、次のようになる。IP 転送網は 2 以上の網ノード装置を含み、メディアルータは IP 通信回線を経て前記網ノード装置のいずれかに接続されており、前記 IP 通信回線の網ノード装置側の終端部に内部 IP アドレスが付与されており、それぞれのメディアルータにはそれぞれ外部 IP アドレスを付与されており、電話番号サーバを内部に有し、かつメディアルータは通信回線を経て 1 以上の電話機を接続している。また、網ノード装置の内部のアドレス管理表のレコードとして前記外部 IP アドレス及び前記内部 IP アドレスを含み、少なくとも IP カプセル化方法を定める IP 通信レコードが予め設定されており、呼設定 IP パケットの内部に少なくとも送信元電話番号、宛先電話番号、更に接続制御は複数の電話機に共通のポート番号を用い、また、電話機毎の個別の音声通信は電話機毎に異なるポート番号を割り当てることにより、メディアルータは P B X 制御部又は電話制御部的一方又は両方を含み、メディアルータは IP パケットを送受する機能を有する IP 端末、或は LAN、音声画像を IP パケットに格納して送受する機能を有する音声画像送受信機を IP 通信回線を経て接続可能である。メディアルータは発信優先度制御管理表を含み、メディアルータに接続する

電話機やIP端末、動画像送受信機などからメディアルータに送られて来るIPパケット内のTCPセグメント又はUDPセグメントの送信元ポート番号、更に送信元IPアドレスを用いて、発信優先度制御管理表の指定に従い、優先度が高い順から網ノード装置側の通信回線に送出できる。

【0277】

9. 閉域電話通信をおこなう第9の実施例：

図119において、1100はIP転送網であり、IP転送網1100の外部で用いるIPアドレスを外部IPアドレスといい、内部で用いるIPアドレスを内部IPアドレスという。メディアルータ1115乃至1117は外部IPアドレス“EA1”乃至“EA3”をそれぞれ付与されている。電話機1121乃至1124は電話番号“101”、“102”、“103”、“104”を付与され、電話機1125乃至1128は電話番号“211”、“212”、“213”、“214”を付与され、電話機1129乃至1132は電話番号“301”、“302”、“303”、“304”を付与されている。

【0278】

電話番号サーバ1135乃至1137は、インターネットなどで広く使われるドメイン名サーバ（DNS）と同様の機能を有し、本実施例においては、電話番号を提示されると、その電話番号を有する電話機を収容しているメディアルータの外部IPアドレスを回答する。例えば電話番号サーバ1135に電話番号“212”を質問すると、電話番号“212”を有する電話機1126を収容しているメディアルータ1116の外部IPアドレス“EA2”を回答する。

【0279】

<<電話通信の準備>>

網ノード装置1101乃至1103はそれぞれ内部のアドレス管理表1110乃至1112のレコードとしてIP通信レコードが設定されている。例えばアドレス管理表1110の第2行目のIP通信レコードとして、“EA1,EA3,IA1,IA3”が設定されており、前記IP通信レコードは、外部IPアドレス“EA1”を有するメディアルータ1115と、外部IPアドレス“EA3”を有するメディアル

ータ1117との間の電話通信に用いられる。内部IPアドレス“IA1”は論理IP通信回線1144の網ノード装置1101側の終端部（論理端子）に付与され、内部IPアドレス“IA3”は論理IP通信回線1146の網ノード装置1103側の終端部に付与されている。電話機1121からメディアルータ1115、IP転送網1100、メディアルータ1117を経由して電話機1131に電話通信を行うための“端末間通信接続制御方法”を説明する。

【0280】

<<接続フェーズ>>

利用者が電話機1121の受話器を上げて、通信相手先電話機1131の電話番号“303”をダイヤル入力し、電話制御部1133を経てメディアルータ1115内部のメディアルータ管理部1138に電話呼出し（図120のステップA300）、メディアルータ管理部1138は電話呼を確認する（ステップA301）。メディアルータ管理部1138は電話番号サーバ1135に電話番号“303”を提示し（ステップA302）、メディアルータ1117のIPアドレス“EA3”を取得し（ステップA303）、次に送信元電話番号“101”、宛先電話番号“303”、電話呼識別子“C-ID”、接続制御関連情報としてUDPポート番号“5004”を含む外部IPパケット1134（図119）を形成し、網ノード装置1101に送信する（ステップA304）。

【0281】

ここで、外部IPパケット1134のIPヘッダ内のIPアドレス域は、送信元IPアドレス“EA1”及び宛先IPアドレス“EA3”であり、外部IPパケット1134のペイロード部分はUDPセグメントであり、送信元ポート番号“5060”、宛先ポート番号“5060”としている例である。

【0282】

網ノード装置1101はIPパケット1134を受信すると、アドレス管理表1110の上から2行目、つまり“EA1,EA3,IA1,IA3”であるIP通信レコードを用いて、IPパケットのカプセル化技法を適用して内部IPパケット1140を形成し、網ノード装置1103に向けて送信する（ステップA305）。内部IPパケット1140は、ルータ1105、1106、1107を経由して網ノード

装置1103に到達し、網ノード装置1103はIPパケットのヘッダを除くIPパケットの逆カプセル化を行ってIPパケット1134を復元し、IPパケット1134をメディアルータ管理部1117に送信する（ステップA306）。この一連のステップA304, A305, A306を呼設定と呼び、省略記号として“IAM”で表わす。

【0283】

メディアルータ管理部1139は、前記受信したIPパケットから送信元電話番号“101”と、宛先電話番号“303”と、メディアルータ1115のIPアドレス“EA1”と、電話呼識別子“C-ID”と、接続制御関連情報として送信元電話機が音声通信フェーズにおいて用いるUDPポート番号“5004”とを取得した後、電話呼出の確認を返信する（ステップA307, A308, A309）。この一連のステップA307, A308, A309を呼設定受付と呼び、省略記号として“ACM”で表わす。次に、メディアルータ管理部1139は、電話呼出し（着信）を知らせるIPパケットを電話機1131に送信し（ステップA310）、電話機1131は返信する（ステップA311）。電話機1131は、電話呼出しを知ると電話呼出音を鳴らす。メディアルータ管理部1139は、電話機1131呼出中をメディアルータ管理部1138へ返信すると（ステップA312, A313, A314）、メディアルータ管理部1138は、送信元電話機1121に宛先電話機1131を呼出中であることを知らせる（ステップA315）。この一連のステップA312, A313, A314を呼経過又は呼出中といい、省略記号として“CPG”で表わす。

【0284】

電話機1131の利用者が電話機の送受話器を取り上げると（オフフック）、メディアルータ管理部1139に通知され（ステップA320）、メディアルータ管理部1139が返信し（ステップA321：応答確認）、更にメディアルータ管理部1139は、送信元電話番号“101”と、宛先電話番号“303”と、電話呼識別子“C-ID”と、接続制御関連情報として電話機1131が音声通信フェーズにおいて用いるUDPポート番号“5008”とを含むIPパケットを形成し、メディアルータ管理部1138へ返信する（ステップA322, A323, A324）。メディアルータ管理部1138は、受信した情報から宛先電話機が用いるUDPポート番

号“5008”を知る。メディアルータ管理部1138は、電話機1131からのオフフック通知を電話機1121に知らせ（ステップA325）、電話機1121が返信する（ステップA326：応答確認）。前記一連のステップA322, A323, A324を応答と呼び、省略記号として“ANM”で表わす。前記応答確認のステップA321及びA326は、実施するか否かを選択できるオプションである。以上により、電話の接続フェーズが完了する。

【0285】

<<通信フェーズ>>

電話機1121の利用者が音声による会話を始めると、音声信号はメディアルータ管理部1138に送られ（図120のステップA350）、メディアルータ管理部1138は、電話制御部1133がデジタル化した音声をIPパケットの内部のUDPセグメントのペイロード部分に格納した後、網ノード装置1101に送信する（ステップA351）。前記UDPセグメント内部の送信元ポート番号は、前記接続フェーズにおいて取得した送信元ポート番号“5004”と宛先ポート番号“5008”とが用いられる。

【0286】

網ノード装置1101はデジタル化した音声を含む前記IPパケットを受信すると、カプセル化して内部IPパケット1141とし、内部IPパケットの1141はルータ1105, 1106, 1107を経て網ノード装置1103に到達する（ステップA352）。網ノード装置1103は内部IPパケット1141の内部IPヘッダを除くIP逆カプセル化を行い、得られた外部IPパケットをメディアルータ管理部1139へ送信し（ステップA353）、電話機1131に届けられる（ステップA354）。電話機1131の利用者のデジタル化音声を含むIPパケットは、前記の逆方向の流れを経て電話機1121へ届けられる（ステップA360乃至A364）。

【0287】

<<解放フェーズ>>

電話機1121の利用者が電話通信の終了を通知すると（図120のステップA380）、他の実施例で説明していると同様の一連のステップ（ステップA381乃至

A383)を経て、電話機1131に到達する(ステップA384)。この電話通信の終了報告が、ステップA386乃至A388によりメディアルータ管理部1138に返信される。前記一連のステップA380,A381,A382,A383,A384を解放といい、省略記号として“REL”で表わす。更に、他の一連のステップA386,A387,A388を解放完了といい、省略記号として“RLC”で表わす。

【0288】

他の電話機間の通信、例えば電話機1121から電話番号“212”を有する電話機1126に電話通信することが可能であり、電話機1132から電話番号“213”を有する電話機1127に電話通信することが前記同様の端末間通信接続制御方法により可能である。

【0289】

<<電話番号サーバの詳細説明>>

電話番号サーバの機能をより詳細に説明する。電話番号の100番代はメディアルータ1115に接続し、電話番号の200番代はメディアルータ1116に接続し、電話番号の300番代はメディアルータ1117にそれぞれ接続していることに着目すると、図121に示すように電話番号の木構造を定めることができる。ルート1150の下位に、ドメイン1151乃至1153が同位のレベルで木構造状に関係付けすることが出来る。ドメイン1151は100番代の電話番号に関する情報を提供し、ドメイン1152は200番代の電話番号に関する情報を提供し、ドメイン1153は300番代の電話番号に関する情報を提供でき、100番代の電話番号をドメイン名として“1.”と表わすルールとし、200番代の電話番号をドメイン名として“2.”と表わすルールとし、300番代の電話番号をドメイン名として“3.”と表わすルールとし、図122に整理して示す。図122において、“1XX”は100番代の電話番号を表わし、“2XX”は200番代を、“3XX”は300番代の電話番号をそれぞれ表わす。

【0290】

なお、電話番号サーバ1135は、ドメイン名サーバDNSについての公知の技術を適用して、ルート1150を管理する電話番号サーバの機能を代行する機能を付与することが出来る。ルート1150を管理する電話番号サーバの機能とし

て、“1.”を質問されるとドメイン1151を直接に管理する電話番号サーバ1135のIPアドレス“EA1”を回答し、“2.”及び“3.”の質問にはそれぞれ“EA2”及び“EA3”を回答する。電話番号サーバは、それぞれが直接に管理するドメイン名を質問されると、途中経過においては他の電話番号サーバのIPアドレスを回答することがあるが、最終的には質問されたドメイン名に対応するIPアドレスを回答する(図123)。このようになっているから、電話番号サーバ1136に“3.”を質問すると、“3.”に対応するIPアドレス“EA3”を取得できる。このような、電話番号サーバ間で繰返し問い合わせる「電話番号サーバの再帰呼出機能」の具体的実現方法は、公知のドメイン名サーバの再帰呼出機能を採用して実現される。

【0291】

<<電話番号サーバの他の実施例>>

図124に示すように、IP転送網1190の網ノード装置1180乃至1184のいずれかに通信回線を経てメディアルータ1191乃至1197を接続し、会社Aに属するメディアルータ1191に接続する電話機の電話番号は、他の会社Bや会社Cに知らせる公開の電話番号“1-1××”である。ここで、“-”は電話番号としては空白と同等で無視し、“××”は10進数の“00”乃至“99”を意味する。会社Aに属するメディアルータ1193に接続する電話機の電話番号も、公開する電話番号で“1-2××”である。会社Aに属するメディアルータ1195に接続する電話機の電話番号は、他社に公開する電話番号の“1-3××”及び会社A外には公開しない内線電話番号“8××”である。会社Bに属するメディアルータ1192に接続する電話機の電話番号は、公開する電話番号“2-1××”であり、会社Bに属するメディアルータ1194に接続する電話機の電話番号は、公開する電話番号“2-2××”である。会社Cに属するメディアルータ1196に接続する電話機の電話番号は、公開する電話番号“3-×××”である。“×××”は10進数の“000”乃至“999”を意味する。会社Aに属するメディアルータ1197に接続する電話機の電話番号は、会社A外には公開しない内線電話番号“7××”である。

【0292】

図125は、上記電話番号の体系を電話番号の木構造として表現したものであり、1185はルートドメイン、1186は会社Aの非公開の内線電話番号を対象とするドメイン、1187は会社Aの公開する電話番号を対象とするドメイン、1188は会社Bの公開する電話番号からなるドメイン、1189は会社Cの公開する電話番号を対象とするドメインである。ここで、1186のドメイン名“##”は、会社Aに属するメディアルータ1195及び1197の内部でのみ用いる秘密のドメイン名であり、数字を含まず、またドメイン名の長さは20文字と長い値に定めている。このようにして、会社B及び会社Cのメディアルータ1192、1194、1196から、会社A専用の秘密のドメイン名“##”の値を知ることもしくは、ドメイン名“##”を取得することを困難化している。例えば“##”の問い合わせに対して、IPアドレスを回答しない。この結果として、会社Bや会社Cから会社Aの内線電話番号を有する電話機にアクセスすることが困難となり、内線電話番号を使うことが困難となる意味で安全性が向上する。

【0293】

電話機1198から宛先電話番号“2-145”をダイヤルすると、メディアルータ1195内部のメディアルータ管理部1195-1が、電話番号“2-145”を図126の変換表1185-1に示すように、電話番号のドメイン名形式である“1.2.”に変換する。次に、メディアルータ1195内部の電話番号サーバ1195-2に“1.2.”を提示して質問すると、電話番号サーバは図127の表1185-2に示すように、“1.2.”に対応するメディアルータ1192のIPアドレス“MR2”を回答する。

【0294】

なお、内線電話番号“700”である会社Aの電話機から、電話番号“2-100”である会社Bの電話機を呼出せるようにするかしないかは、ドメイン名サーバの設定次第であり、いずれとすることもできる。

【0295】

以上を要約すると、次のようになる。即ち、IP転送網は2以上の網ノード装置を含み、メディアルータは、論理IP通信回線を経て前記網ノード装置のいずれかに接続されており、前記論理IP通信回線の網ノード装置側の終端部に内部

IPアドレスが付与されており、それぞれのメディアルータにはそれぞれ外部IPアドレスを付与されており、電話番号サーバを内部に有し、かつメディアルータは通信回線を経て1以上の電話機を接続されている。網ノード装置の内部のアドレス管理表のレコードとして、前記外部IPアドレスと及び前記内部IPアドレスを含み、少なくともIPカプセル化方法を定めるIP通信レコードが予め設定されており、会社A、会社B、会社Cの間で、網ノード装置内部に所定のIP通信レコードを設定し、会社A、会社B、会社Cの間でのみ有効な電話番号（“1-×××”、“2-×××”、“3-×××”）を用いた閉域電話通信網を設定することができる。

【0296】

電話番号“1-100”である会社Aの電話機から、電話番号“1-200”である会社Aの電話機を呼出し、また、電話番号“2-100”である会社Bの電話機を呼出し、電話番号“3-100”である会社Cの電話機を呼出し、内線電話番号“700”及び“800”である会社Aの電話機を呼出し、それぞれと電話通信できる。また、内線電話番号“700”である会社Aの電話機から、内線電話番号“800”である会社Aの電話機を呼出し、電話番号“1-200”である会社Aの電話機を呼出し、電話通信できる。電話番号“2-100”である会社Bの電話機から、内線電話番号“800”である会社Aの電話機を呼び出すことは、前記“##”の説明通りできない。

【0297】

会社の数をNとすると、次のようにできる。所定会社A-1, 会社A-2, . . . , 会社A-N (N>2) の間でのみ電話通信を行えるようにIP通信レコードを設定して、閉域電話通信を行うようにできる。また、会社A-1, 会社A-2, . . . , 会社A-N (N>2) の間で有効な閉域電話通信網に接続する会社A-1の電話機が、会社A-1の内線電話機と電話通信でき、会社A-1以外の会社の電話機は、会社A-1の内線電話機と電話通信できないようにできる。

【0298】

10. 閉域電話通信と開域電話通信とを併用する第10実施例：

図128において、1200はIP転送網であり、メディアルータ1201乃至1206は外部IPアドレス“EA1”乃至“EA6”をそれぞれ付与されている。電話機1208は電話番号“1001”を、電話機1209は電話番号“1002”をそれぞれ付与され、電話機1210は電話番号“101”を、電話機1211は電話番号“102”をそれぞれ付与され、電話機1212乃至1215は電話番号“3001”乃至“3004”をそれぞれ付与されている。メディアルータ1202に接続する電話機1216乃至1219は、電話番号“234-2001”乃至“234-2004”をそれぞれ有する。

【0299】

また、電話機1220乃至1223は電話番号“2001”乃至“2004”をそれぞれ付与され、電話機1224乃至1227はそれぞれ電話番号“301”乃至“304”を付与され、電話機1228乃至1231はそれぞれ電話番号“201”乃至“204”を付与されている。ここで、電話番号“1××”、“2××”、“3××”は、会社A専用の内線電話番号であり、“×”は、0から9までの10進数の数字を表わす。電話番号“1×××”は会社Aの電話番号、電話番号“2×××”は会社Bの電話番号、電話番号“3×××”は会社Cの電話番号である。これら3つの電話番号“1×××”、“2×××”、“3×××”は、会社A、会社B、会社Cの間でのみ電話通信するための論理的な閉域電話網を構成するための電話番号であり、閉域電話番号という。なお、電話番号“234-2001”乃至“234-2004”は、不特定の相手と電話通信するための電話番号であり、開域電話番号という。

【0300】

電話番号サーバ1134、1272及び1137乃至1142は、インターネットなどで使用されるドメイン名サーバ（DNS）と同様の機能を有し、電話番号を提示されると、その電話番号を有する電話機を収容しているメディアルータの外部IPアドレスを回答する。例えば電話番号サーバ1137に電話番号“3001”を質問すると、電話番号“3001”を有する電話機1212を収容しているメディアルータ1206の外部IPアドレス“EA6”を回答する。

【0301】

<<電話通信のための端末間接続制御の準備>>

図128に示すように、網ノード装置1244乃至1248はそれぞれ内部にアドレス管理表1250乃至1255があり、それぞれ他の実施例で説明していると同様のIP通信レコードが設定されている。例えばアドレス管理表1250の第1行目のIP通信レコードとして、“EA1, EA3, IA1, IA3”が設定されており、前記IP通信レコードは、外部IPアドレス“EA1”を有するメディアルータ1201と、外部IPアドレス“EA3”を有するメディアルータ1203との間の電話通信に用いられる。内部IPアドレス“IA1”は論理IP通信回線1257の網ノード装置1244側の終端部（論理端子）に付与され、内部IPアドレス“IA3”は論理IP通信回線1258の網ノード装置1248側の終端部に付与されている。

【0302】

電話番号“1001”の電話機1208から、IP転送網1200を経由して電話番号“301”の電話機1224に電話通信を行うための“端末間通信接続制御方法”を、図128及び図129を参照して説明する。

【0303】

<<接続フェーズ>>

電話機1208の受話器を上げ、通信相手先電話機1224の電話番号“301”をダイヤル入力し、呼出信号がメディアルータ管理部1260へ伝えられ（ステップH300）、メディアルータ管理部1260は電話呼を確認する（ステップH301）。メディアルータ管理部1260は、その内部に保持している図175の表1255-1を調べて、電話番号“301”に対応する電話番号のドメイン名が“3.#.a”であることを知り、電話番号サーバ1137に電話番号ドメイン名“3.#.a”を問合せ（ステップH302）、電話番号サーバ1137は、図176の表1255-2に示すルールに従いメディアルータ1204のIPアドレス“EA4”を回答する（ステップH303）。

【0304】

次に、少なくとも送信元電話番号“1001”、宛先電話番号“301”、電話機1208の通話送信に用いるUDPポート番号“5004”を含む外部IPパ

ケット1310（図130）を形成し、網ノード装置1244に送信する（ステップH304）。なお、IPケット1310の中に、メディアルータ1260が関与する電話呼の識別番号や音声圧縮方式、音声符号変換などの識別名称などから成る関連情報“Info-1”を含めることができる。

【0305】

網ノード装置1244は、IPケット1310を受信すると、アドレス管理表1250の上から2行目、つまり“EA1,EA4,IA1,IA4”であるIP通信レコードとを用いて、IPケットのカプセル化技法を適用して、内部IPケット1311（図131）を形成して送信する。内部IPケット1311は、図128に示すルータ1263、1264を経由して網ノード装置1246に到達し（ステップH305）、網ノード装置1246はIPケットの逆カプセル化を行ってIPケットを復元し、前記復元したIPケットをメディアルータ1204に送信する（ステップH306）。

【0306】

メディアルータ管理部1265は、前記受信したIPケットから少なくとも送信元電話番号“1001”、宛先電話番号“301”、通話用UDPポート番号“5004”を取得した後、電話呼出の確認を返信する（ステップH307,H308,H309）。

【0307】

次に、メディアルータ管理部1265は、電話呼出し（着信）を電話機1224に伝える（ステップH310）。電話機1224はメディアルータ管理部1265に返信し（ステップH311）、更に電話呼出音を鳴らす。メディアルータ管理部1265は、電話機1224呼出中をメディアルータ管理部1260を経由して宛先電話機1208へ知らせる（ステップH312,H313,H314,H315）。ステップH314において、送信元電話番号“1001”、宛先電話番号“301”、電話機1224の通話送信に用いるUDPポート番号“5008”を電話機1208へ知らせる。

【0308】

電話機1224の利用者が電話機の送受話器を取り上げると、電話機1224

はメディアルータ管理部 1 2 6 5 に通知する（ステップ H320）。メディアルータ管理部 1 2 6 5 は、ステップ H320 による応答をメディアルータ 1 2 6 0 を経由して送信元電話機 1 2 0 8 に応答する（ステップ H322, H323, H324, H325）。電話機 1 2 0 8 はメディアルータ 1 2 6 0 に向けて応答確認し（ステップ H321）、メディアルータ 1 2 6 5 は電話機 1 2 2 4 に向けて応答確認する（ステップ H326）。ここで、ステップ H321 及びステップ H326 は、実施するしないかを選択できるオプションである。以上により、電話の接続フェーズが完了する。

【 0 3 0 9 】

前記接続フェーズにおいて、外部 I P パケット内部は UDP セグメントであり、送信と受信 UDP ポート番号は、例えば “ 5 0 6 0 ” が用いられる。

【 0 3 1 0 】

<<通信フェーズ>>

電話機 1 2 0 8 の利用者と電話機 1 2 2 4 との電話通信は、他の実施例で説明しているのと同様のステップであり、アドレス管理表 1 2 5 0 内部の第 2 行目の I P 通信レコード、つまり “EA1, EA4, IA1, IA4” のレコードと、アドレス管理表 1 2 5 3 内部の第 1 行目の I P 通信レコード、つまり “EA4, EA1, IA4, IA1” のレコードとが用いられる。電話機 1 2 0 8 からメディアルータ管理部 1 2 6 0 へ音声を送られ（ステップ H350）、メディアルータ管理部 1 2 6 0 において、前記音声デジタル化されて外部 I P パケット 1 3 1 2（図 1 3 2）のペイロード部分に転記され、網ノード装置 1 2 4 4 に到達する。そして、I P カプセル化されて内部 I P パケット 1 3 1 3（図 1 3 3）に変換された後、I P 転送網 1 2 0 0 の内部を転送されて、網ノード装置 1 2 4 6 に到達し、逆カプセル化されてメディアルータ管理部 1 2 6 5 に到達する（ステップ H351 乃至 H353）。ここで、前記デジタル化された音声アナログ音声に変換され、電話機 1 2 2 4 に到達する（ステップ H354）。電話機 1 2 2 4 から電話機 1 2 0 8 への逆方向への電話音声も同様に伝送される（ステップ H360 乃至 H364）。通話フェーズにおいて、外部 I P パケット 1 3 1 2 内部は UDP セグメントであり、電話機 1 2 0 8 から送信する UDP ポート番号は “ 5 0 0 4 ” が、電話機 1 2 0 8 が受信する UDP ポート番号は “ 5 0 0 8 ” がそれぞれ用いられる例である。

【0311】

<<解放フェーズ>>

電話機1208の利用者が電話通信の終了を通知すると（図129のステップH380）、他の実施例で説明していると同様の一連のステップ（ステップH381乃至H383）を経て、電話機1224に到達する（ステップH384）。メディアルータ管理部1265から、メディアルータ管理部1260に解放完了を通知する（ステップH386乃至H388）。上記解放フェーズにおける外部IPパケットの形式は、前記接続フェーズにおいて使用されるIPパケット1310と同様であり、ペイロード部分はUDPセグメントであり、送信及び受信UDPポート番号は、例えば“5060”が用いられる。

【0312】

<<メディアルータ内部の電話番号サーバを用いる他の例>>

電話機1208の受話器を上げ、通信相手先の他の企業に属する電話機1220の電話番号“2001”をダイヤル入力すると、メディアルータ管理部1260は、その内部に保持している表1255-1を調べて、電話番号“2001”に対応する電話番号のドメイン名が“b.”であることを知る。次に、電話番号サーバ1137に電話番号ドメイン名“b.”を問合せ、電話番号サーバ1137は、電話機1220を接続しているメディアルータ1205のIPアドレス“EA5”を回答することにより、異なる企業に属する電話機1208と電話機1220との間において、同様の端末間通信接続制御方法により電話通信が可能である。

【0313】

以上述べた端末間通信接続制御方法において、IP転送網1200内部の電話番号サーバ1134及び1272は使用されず、代わりにメディアルータ1201内部の電話番号サーバ1137が使用される。また、アドレス管理表1250及び1253、1252内の既に設定されているIP通信レコードが使用される特徴がある。

【0314】

<<IP転送網内の電話番号サーバを用い、IP通信レコードを生成し電話通信する方法>>

図134を参照して、電話番号“1001”である電話機1208から、電話番号“234-2001”である電話機1216へ電話通信する端末間通信接続制御方法を説明する。

【0315】

<<接続フェーズ>>

電話機1208の受話器を上げると呼出信号がメディアルータ管理部1260へ伝えられ(ステップV0)、メディアルータ管理部1260は電話呼出を確認し(ステップV1)、メディアルータ管理部1260は、その内部に保持している(図175の)表1255-1を調べて、電話番号“234-2001”に対応する電話番号のドメイン名が“o.”であることを知る。次に、電話番号サーバ1137に電話番号ドメイン名“o.”を問合せ(ステップV2)、電話番号サーバ1137は、前記“o.”を管理する電話番号サーバ1272にアクセスするための代理電話管理サーバ1270の外部IPアドレス“EA81”をメディアルータ管理部1260に回答する(ステップV3)。

【0316】

次に、メディアルータ管理部1260は、送信元IPアドレスをメディアルータ1201のIPアドレス“EA1”とし、宛先IPアドレスを前記取得したIPアドレス“EA81”とし、送信元電話番号“1001”、宛先電話番号“234-2001”、電話音声通信に用いるUDPポート番号“5006”、付加情報“Info-2”を含むIPパケット1320(図135)を形成し、網ノード装置1244へ送信する(ステップV4)。IPパケット1320のペイロード部分はUDPパケットであり、その送信元及び宛先ポート番号共“5060”としている。前記付加情報はメディアルータ1260の内部で使われる情報であり、例えば電話機1208を使うための音声圧縮方式(G.711やG729A)や音声符号変換、電話の呼を識別するための番号である。後述する電話管理サーバ1271や代理電話管理サーバ1270は、前記付加情報に関与しない。

【0317】

網ノード装置1244は、外部IPパケット1320が入力した論理通信回線1257の終端部に付与された内部IPアドレス“IA1”と、IPパケット13

20内の宛先IPアドレス“EA81”とを用いて、図128のアドレス管理テーブル1250内のIP通信レコードを検索する。更に、IPパケット1320内の送信元IPアドレス送信元IPアドレス“EA1”がIP通信レコードに含まれることを確認し、本ケースではアドレス管理表1250の上から4行目のレコード、つまり“EA1,EA81,IA1,IA81”であるレコード内部の3番目及び4番目に記載されるIPアドレス、つまり“IA1”及び“IA81”を用い、IPパケットのカプセル化技法を適用してIPパケット1321（図136）を形成し、内部IPアドレスが“IA81”である代理電話管理サーバ1270へ送信する（ステップV5）。

【0318】

代理電話管理サーバ1270はIPパケット1321を受信すると、IPパケット1321のペイロード部分と、前記アドレス“EA1,IA1,EA81,IA81”をペイロード部分に含むIPパケット1322（図137）とを形成し、電話管理サーバ1271へ送信する（ステップV6）。ここで、代理電話管理サーバ1270は、予め保持している電話管理サーバ1271のIPアドレス“IA91”を用いている。

【0319】

<<発信回線数の制御>>

電話管理サーバ1271は、受信したIPパケット1322から送信元側のメディアルータ1201のアドレス“EA1”を取り出し、図160の発信回線管理表1326-5と比較し、IPアドレスが“EA1”のレコードについて、使用中回線数を“1”増やして上限回線数と比較する。本実施例では使用中回線数は“2”であり、上限回線数は“5”であるので、次の手続きに進む。なお、電話管理サーバ1271は、使用中回線数が上限回線数より大となると、以降の接続フェーズに進まずに中断する。或は中断理由を説明するIPパケットを形成して、代理電話サーバ1270を経て、送信元メディアルータ管理部1260へ通知する。電話管理サーバ1271は、発信回線制御を行うか否かを選択できる。

【0320】

<<回線番号の管理>>

電話管理サーバ1271はIPパケット1322（図137）を読み出し、送信

元電話番号“1001”及び宛先電話番号“234-2001”を取得し、これら2つの電話番号の組から音声通信用回線を管理するための回線番号“CIC-2”を算出する（CIC: Circuit Identification Code）。次に、CIC管理表1323（図138）のレコードに、回線番号“CIC-2”と、送信元電話番号“1001”と、宛先電話番号“234-2001”と、電話機1208が接続するメディアルータ1201の外部IPアドレス“EA1”及び内部IPアドレス“IA1”と、電話代理サーバ1270の外部IPアドレス“EA81”及び内部IPアドレス“IA81”と、電話代理サーバ1271のIPアドレス“IA91”と、手順区分“IAM”と、書込み時刻（年月日時分秒）“St-2”とを書き込む。

【0321】

次に、電話管理サーバ1271は、宛先電話番号“234-2001”に関与するIPアドレスを質問するIPパケット1324（図139）を電話番号サーバ1272に示し（ステップV7）、電話番号サーバ1272は、電話機1216が接続するメディアルータ1202の外部IPアドレス“EA2”及び内部IPアドレス“IA2”と、電話代理サーバ1275の外部IPアドレス“EA82”及び内部IPアドレス“IA82”と、電話管理サーバ1274のIPアドレス“IA92”とを含むIPパケット1325（図140）を、電話管理サーバ1271に回答する（ステップV8）。電話管理サーバ1271は、電話番号サーバ1272から取得した5つのIPアドレス“EA2”，“IA2”，“EA82”，“IA82”，“IA92”をCIC管理表1323（図138）に追加し、この結果はCIC管理表1326-1（図141）の2行目レコードのIPアドレス項目の欄に示されている。

【0322】

次に、電話管理サーバ1271はCIC管理表1326-1（図141）のIPアドレス情報を参照し、パケット1322（図137）からIPパケット1327（図142）（IAMパケットという）を形成し、IPパケット1327を電話管理サーバ1274へ送信する（ステップV9）。ここで、IPパケット1327の送信元IPアドレスは電話管理サーバの“IA91”であり、宛先IPアドレスは電話管理サーバ1274の“IA92”である。電話管理サーバ1271は後述するステップV16の待ち状態に移行すると共に、回線番号“CIC-2”と対応付けたステ

ップV16待ちタイマを起動する。このタイマが満了した場合は、後述するステップV60におけると同様の通話回線の解放手続きを開始する。

【0323】

<<着信回線数の制御>>

電話管理サーバ1274は、受信したIPパケット1327（図142）から宛先側のメディアルータ1202のアドレス“EA2”を取り出し、（図161の）着信回線管理表1326-6と比較し、使用中回線数を“1”増やして上限回線数と比較する。本実施例では、アドレス“EA2”のレコードについて、使用中回線数は“2”であり、上限回線数は“7”であるので、次の手続きに進む。電話管理サーバ1274は、着信回線管理表1326-6を用いて着信回線制御を行うか否かを選択できる。

【0324】

<<回線番号の管理>>

電話管理サーバ1274はIPパケット1327を受信すると、そのペイロード部分に含まれる回線番号“CIC-2”、手順区分“IAM”、送信元電話番号“1001”、宛先電話番号“234-2001”、IPアドレス（“EA1”，“IA1”，“EA81”，“IA81”，“IA91”，“EA2”，“IA2”，“EA82”，“IA82”，“IA92”）を取り出し、電話管理サーバ1274が管理するCIC管理表1326-2（図143）のレコードとして書き込み記録する。この書込み時刻“St-3”も、CIC管理表1326-2のレコードに書込む。

【0325】

電話管理サーバ1274は、続いてIPパケット1327から取得した情報を用いてIPパケット1328（図144）を形成し、代理電話管理サーバ1275へ送信する（ステップV10）。IPパケット1328のペイロードはUDPセグメント及びアドレス領域を含み、前記UDPセグメント内部に送信元メディアルータ1201のIPアドレス“EA1”を追加している。前記アドレス領域はIPアドレス“EA2,IA2,EA82,IA82”を含む。

【0326】

代理電話管理サーバ1275は、IPパケット1328から取得した情報を用

いて、IPパケット1329（図145）を形成して網ノード装置1247へ送信する。送信元アドレス“IA82”、宛先アドレス“IA2”であるIPパケット1329は網ノード装置1247へ到達し（ステップV11）、網ノード装置1247は受信したIPパケット1329を逆カプセル化し、IPパケット1330（図146）を形成した後、IPパケット1330をメディアルータ管理部1267へ送信する（ステップV12）。

【0327】

メディアルータ管理部1267はIPパケット1330を受信し、内部に含まれる宛先電話番号“234-2001”が着信可能であるかを確認し、着信可能であれば電話機1216に呼出し（着信）を通知する（ステップV20）。更に、IPパケット1330の内容、つまり送信元電話番号“1001”、宛先電話番号“234-2001”、送信元のIPアドレス“EA1”、送信元のUDPポート番号“5006”、付加情報Info-2を読み出し、保持する。メディアルータ管理部1267は電話機1216の着信可能性（着信可能又は不可能の区分）を知らせるため、送信元電話番号“1001”、宛先電話番号“234-2001”及び着信可能性を含むIPパケットを生成し、電話管理サーバ1274へ通知する（ステップV13, V14, V15）。なお、ステップV13, V14, V15において使用するIPパケットの形式は、後述するステップV22, V23, V24で使用するIPパケットの形式と同様である。

【0328】

電話管理サーバ1274はメディアルータ管理部1267が形成し送信した前記IPパケットを受信し、前記受信したIPパケットから送信元電話番号“1001”、宛先電話番号“234-2001”及び着信可能性の情報を取り出す。そして、前記2つの電話番号から回線番号“CIC-2”を算出し、回線番号“CIC-2”と電話機1216の着信可能性の情報を含むIPパケット1331（図147）（ACMパケットという）を形成し、電話管理サーバ1271へ送信する（ステップV16）。電話管理サーバ1271は、受信したIPパケット1331から回線番号“CIC-2”及び手順区分“ACM”を取り出し、前記ステップV9の時点で設定した回線番号“CIC-2”に対応付けたACM待ちタイマを停止し、電話管理サーバ1

271が保持するCIC管理表1326-1（図141）を調べて、回線番号が“CIC-2”であるレコードを見出し、前記レコードの手順区分欄を前記手順区分“ACM”に書き変える。

【0329】

次に、電話管理サーバ1271は、前記ACMパケットを受信したことを示すIPパケット（電話機1216の着信可能性の情報を含む）を生成し、メディアルータ管理部1260へ通知する（ステップV17,V18,V19）。なお、ステップV17,V18,V19で用いるIPパケットの形式は、後述するステップV26,V27,V28で用いるIPパケットの形式と同一である。ステップV17,V18,V19は実施するか否かを選択できる。

【0330】

電話機1216が電話呼出中をメディアルータ管理部1267に報告すると（ステップV21）、電話機1216が電話呼出中であることを知らせるため、送信元電話番号“1001”及び宛先電話番号“234-2001”と、電話機が音声通信に用いるUDPポート番号“5008”と、付加情報Info-3とを含むIPパケット1332（図148）を形成して、網ノード装置1247に送信する（ステップV22）。網ノード装置1247は、アドレス管理表1254のアドレス値が“EA2,EA82,IA2,IA82”であるレコードを用いてIPパケット1332をカプセル化し、IPパケット1332-1（図149）を形成する。IPパケット1332-1は代理電話管理サーバ1275に送信され（ステップV23）、代理電話管理サーバ1275はIPパケット1332-2（図150）を形成し、電話管理サーバ1274に送信する（ステップV24）。

【0331】

電話管理サーバ1274は、受信したIPパケット1332-2から送信元電話番号“1001”及び宛先電話番号“234-2001”を取り出し、前記2つの電話番号から回線番号“CIC-2”を算出して、IPパケット1333（図151）（CPGパケットという）を形成し、電話管理サーバ1271へ送信する（ステップV25）。IPパケット1333は、IPパケット1332-2から取得したUDPポート番号“5008”及び付加情報Info-3を含んでいる。

【0332】

電話管理サーバ1271は、受信したIPパケット1333から回線番号“CIC-2”、手順区分“CPG”、UDPポート番号“5008”及び付加情報Info-3を取り出し、CIC管理表1326-1（図141）の回線番号“CIC-2”であるレコードの手順区分を“CPG”と書換え、IPアドレス“EA1,IA1,EA81,IA81”、送信元電話番号“1001”、宛先電話番号“234-2001”を読み出し、これら取得した情報を用いてIPパケット1333-1（図152）を形成して代理電話管理サーバへ送信する（ステップV26）。

【0333】

代理電話管理サーバ1270は、受信したIPパケット1333-1に含まれる情報を用いてIPパケット1333-2（図153）を形成して網ノード装置1244に送信し（ステップV27）、網ノード装置1244は受信したIPパケット1333-2を逆カプセル化し、IPパケット1333-3（図154）を形成してメディアルータ管理部1260へ送信する（ステップV28）。メディアルータ管理部1260は、受信したIPパケット1333-3から送信元電話番号“1001”、宛先電話番号“234-2001”、宛先のIPアドレス“EA2”、宛先のUDPポート番号“5008”、付加情報Info-3を読み出して保持する。メディアルータ管理部1260は宛先電話呼出し中を電話機1208に通知する（ステップV29）。

【0334】

次に、電話機1216の利用者が電話呼出しに応答すると（ステップV31）、電話機1216が電話機1216の応答を知らせるため、送信元電話番号“1001”及び宛先電話番号“234-2001”含むIPパケットを電話管理サーバ1274へ送信する（ステップV32,V33,V34）。電話管理サーバ1274は、前記受信したIPパケットから送信元電話番号“1001”と宛先電話番号“234-2001”とを取り出し、前記2つの電話番号から回線番号“CIC-2”を算出し、少なくとも回線番号“CIC-2”を含むIPパケット1334（図155）（ANMパケットという）を形成し、電話管理サーバ1271へ送信する（ステップV35）。電話管理サーバ1271は、受信したIPパケット1334から回

線番号“CIC-2”及び手順区分“ANM”を取り出し、電話管理サーバ1271が保持するCIC管理表1326-1（図141）を調べて、回線番号が“CIC-2”であるレコードを見出し、前記レコードの手順区分欄を前記手順区分“ANM”に書き変える。

【0335】

次に、電話管理サーバ1271は前記ANMパケットの受信、つまり電話機1216が電話呼出しに応答したことをメディアルータ管理部1260へ通知し（ステップV36,V37,V38,）、メディアルータ管理部1260は呼出信号を電話機1208へ送る（ステップV39）。

【0336】

<<IP通信レコードの設定>>

電話管理サーバ1274は、前記ステップV34において電話管理サーバ1274通過するIPパケットの中から回線番号“CIC-2”を取得し、電話管理サーバ1274が有するCIC管理表1326-2から回線番号が“CIC-2”であるレコードを見出し、このレコード内部からIPアドレス“EA2”，“EA1”，“IA2”，“IA1”を取り出して表管理サーバ1276に送信し（ステップV42）、表管理サーバ1276は、網ノード装置1247内部のアドレス管理表1254の2行目のレコード“EA2,EA1,IA2,IA1”として設定する（ステップV43）。

【0337】

同様に、電話管理サーバ1271は、前記ステップV35において電話管理サーバ1271を通過するIPパケットの中から回線番号“CIC-2”を取得し、電話管理サーバ1271が有するCIC管理表1323から回線番号が“CIC-2”であるレコードを見出し、このレコード内部からIPアドレス“EA1”，“EA2”，“IA1”，“IA2”を取り出して表管理サーバ1273に送信し（ステップV44）、表管理サーバ1273は、網ノード装置1244内部のアドレス管理表1250の5行目のレコード“EA1,EA2,IA1,IA2”として設定する（ステップV45）。

【0338】

<<接続フェーズのバリエーション>>

なお、メディアルータ管理部1267はステップV31に対する応答確認を電話

機1216に送信することができ（ステップV41）、同様に、電話機1208はステップV39に対する応答確認をメディアルータ管理部1260に送信することができる（ステップV40）。ステップV41及びステップV40は、実施するかしないかを選択できるオプションである。また、前記説明した接続フェーズにおいて、電話機1216の通話用UDPポート及び付加情報はステップV22乃至V29で送信したが、代わりにステップV32乃至V39で行うことも出来る。

【0339】

<<通信フェーズ>>

電話機1208の利用者と電話機1216との電話通信は、他の実施例で説明しているのと同様のステップであり、アドレス管理表1250内部、前記接続フェーズにおいて設定された第5行目のIP通信レコード(“EA1,EA2,IA1,A2”)と、アドレス管理表1254内部の第2行目のIP通信レコード(“EA2,EA1,IA2,IA1”)とが用られる。電話機1208の音声はデジタル化されて、IPパケット1335（図156）のペイロードに載せられる。ここで、前記接続フェーズにおいて入手した宛先アドレス及びUDPポート番号が用いられる。即ち、送信元アドレスはメディアルータ1201のIPアドレス“EA1”であり、宛先アドレスは宛先電話機1216の接続するメディアルータ1202のIPアドレス“EA2”であり、送信元UDPポート番号として“5006”、宛先UDPポート番号として“5008”が用いられる。電話機1208からアナログ音声を送られ（ステップV50）、メディアルータ管理部1260で音声はデジタル化されて音声IPパケット1335となり、網ノード装置1244に送られる（ステップV51）。ここでカプセル化されてIPパケット1336（図157）となり、IP通信回線経由で、図128のルータ1263、ルータ1264を経て網ノード装置1247に到達し（ステップV52）、ここで逆カプセル化されてメディアルータ管理部1267に到達し（ステップV53）、アナログ音声に戻されて電話機1216に到達する（ステップV54）。電話機1216から送られたアナログ音声は、前記逆方向に送られる（ステップV55乃至V59）。

【0340】

<<解放フェーズ>>

電話機 1208 の利用者が電話通信の解放を通知すると（図 134 のステップ V60）、メディアルータ管理部 1260、網ノード装置 1244、代理電話管理サーバ 1270 を経由して電話管理サーバ 1271 に通知され（ステップ V60 乃至 V63）、電話管理サーバ 1271 は、CIC 管理表 1326-1 の中の回線番号が“CIC-2”であるレコードの終了時刻の欄に終了時刻“Ed-1”を書き込む。次に、解放 IP パケット 1337（図 158）（REL パケットという）を形成して電話管理サーバ 1274 へ通知し（ステップ V64）、電話管理サーバ 1274 は、電話通信の解放を代理電話管理サーバ 1275 を経て電話機 1216 に通知する（ステップ V71 乃至 V74）。更に、電話管理サーバ 1274 は、CIC 管理表 1326-2 の中の回線番号が“CIC-2”であるレコードの終了時刻の欄に終了時刻“Ed-2”を書き込み、解放 IP パケット 1337 を受信したことを報告するために、解放完了 IP パケット 1338（図 159）（RLC パケットという）を形成して、電話管理サーバ 1271 に返信する（ステップ V70）。

【0341】

電話管理サーバ 1271 はステップ V64 の後、解放指示を代理電話管理サーバ 1270、網ノード装置 1244 を経由してメディアルータ管理部 1260 に知らせる（ステップ V65, V66, V67）。メディアルータ管理部 1267 は解放指示を電話機 1216 に通知すると共に（ステップ V74）、解放報告を代理電話サーバを経由して電話管理サーバ 1274 に知らせる（ステップ V75, V76, V77）。

【0342】

<<IP 通信レコードの抹消>>

ステップ V64 の後に、電話管理サーバ 1271 は、解放 IP パケット 1337 の中に書き込んだ回線番号“CIC-2”を表管理サーバ 1273 に送信し（ステップ V78）、網ノード装置 1244 内部の回線番号“CIC-2”に対応するアドレス管理表 1250 のレコード（このケースでは内容が“EA1, EA2, IA1, IA2”である IP 通信レコード）を抹消する（ステップ V79）。ステップ V70 の後に、電話管理サーバ 1274 は、解放完了 IP パケット 1338 の中に書き込んだ回線番号“CIC-2”を表管理サーバ 1276 に送信し（ステップ V80）、網ノード装置 1247 内部の回線番号“CIC-2”に対応するアドレス管理表 1254 のレコード（このケー

スでは内容が“EA2,EA1,IA2,IA1”であるIP通信レコード)を抹消する(ステップV81)。

【0343】

<<通話情報の収集>>

IP転送網1200内部の運用管理サーバ1277は、適宜定めてある時刻或いは時間間隔毎に電話管理サーバ1271に問い合わせると(図162のステップV200)、CIC管理表1326-1の中で終了時刻が書き込まれているかなどを手掛りとして、電話通信が終了しているレコードを検出する。そして、送信元電話番号、宛先電話番号、開始時刻、終了時刻などの電話通信記録を電話管理サーバ1271に通知し(ステップV201)、電話通信が終了しているCIC管理表1326-1のレコードを抹消する。同様に、運用管理サーバ1277は電話管理サーバ1274に問い合わせると(ステップV202)、CIC管理表1326-2の中で終了時刻が書き込まれているかなどを手掛りとして、電話通信が終了しているレコードを検出する。そして、送信元電話番号、宛先電話番号、開始時刻、終了時刻などの電話通信記録を電話管理サーバ1274に通知し(ステップV203)、電話通信が終了しているCIC管理表1326-2のレコードを抹消する。このようになっているから、電話管理サーバを経由する電話通信の記録、つまり送信元電話番号、宛先電話番号、開始時刻、終了時刻などを収集し、電話通信の課金などに用いることができる。なお、前記通話情報の収集は、実施するかしないかを選択できる。

【0344】

<<発信回線管理と着信回線管理>>

前記接続フェーズにおいて、電話管理サーバ1271は、(図142の)IAMパケット1327形成時に(ステップV9)、図160の発信回線管理表1326-5の送信側のメディアルータのアドレス“EA1”に対応する使用中回線数を“1”増やす。同様に、電話管理サーバ1274は、図161の着信回線管理表1326-6の宛先側のメディアルータのアドレス“EA2”に対応する使用中回線数を“1”増やす。

【0345】

前記解放フェーズにおいて、電話管理サーバ 1 2 7 1 は図 1 5 8 の REL パケット 1 3 3 7 形成時に（ステップ V64）、図 1 6 0 の発信回線管理表 1 3 2 6 - 5 の送信側のメディアルータのアドレス“EA1”に対応する使用中回線数を“1”減数する。同様に、電話管理サーバ 1 2 7 4 は図 1 5 9 の RLC パケット 1 3 3 8 形成時に（ステップ V70）、図 1 6 1 の着信回線管理表 1 3 2 6 - 6 の宛先側のメディアルータのアドレス“EA2”に対応する使用中回線数を“1”減数する。なお、前記発信回線管理及び着信回線管理は、実施するかしないかを選択できる。

【 0 3 4 6 】

<<接続フェーズの他の例>>

前記接続フェーズ（ステップ V0 乃至 V45）において、応答確認のステップ（ステップ V90 乃至 V96）を追加することが出来、図 1 6 3 を参照して説明する。メディアルータ管理部 1 2 6 0 は応答の通知を受けると（ステップ V38）、応答確認の通知を意味する IP パケットを形成して返信することが出来、前記応答確認用の IP パケットは、網ノード装置 1 2 4 4、代理電話管理サーバ 1 2 7 0、電話管理サーバ 1 2 7 1、電話管理サーバ 1 2 7 4、電話代理サーバ 1 2 7 5、網ノード装置 1 2 4 7 を経てメディアルータ管理部 1 2 6 7 へ送られる（ステップ V90 乃至 V96）。このようにして、通信の信頼性を向上させることも出来る。

【 0 3 4 7 】

<<解放フェーズの他の例>>

前記解放フェーズ（ステップ V60 乃至 V77）に代わり次のステップが可能であり、図 1 6 3 を参照して説明する。

【 0 3 4 8 】

電話機 1 2 0 8 の利用者が電話通信の解放を通知すると（図 1 6 8 のステップ V100）、メディアルータ管理部 1 2 6 0、網ノード装置 1 2 4 4、代理電話管理サーバ 1 2 7 0、電話管理サーバ 1 2 7 1、電話管理サーバ 1 2 7 4、代理電話管理サーバ 1 2 7 5、網ノード装置 1 2 4 7、メディアルータ管理部 1 2 6 7 を経由して電話機 1 2 1 6 に通知される（ステップ V100 乃至 V108）。メディアルータ管理部 1 2 6 7 は前記解放の通知を受け取ると（ステップ V107）、解放受付を

知らせるため前記と逆方向に、つまり網ノード装置1247、代理電話管理サーバ1275、電話管理サーバ1274、電話管理サーバ1271、代理電話管理サーバ1270、網ノード装置1244を経由してメディアルータ管理部1260に知らせる（ステップV111乃至V118）。続いて、解放完了の通知を前記と同じルートで、つまり網ノード装置1247、代理電話管理サーバ1275、電話管理サーバ1274、電話管理サーバ1271、代理電話管理サーバ1270、網ノード装置1244を経由してメディアルータ管理部1260に知らせる（ステップV121乃至V127）。また、網ノード装置1244内部のアドレス管理表1250と、網ノード装置1247内部のアドレス管理表1254内部の音声通信に用いたレコードとを抹消することは、前記ステップV80及びV81、或いはステップV78及びV79と同様である。解放受付と解放完了の2度の手順により信頼性を高めることができる。

【0349】

<<TCP技術の採用>>

前記接続フェーズ及び解放フェーズにおいて、電話管理サーバ1271と電話管理サーバ1274との間の通信、つまり図134に示すステップV9,V16,V25,V35,V64,V70をUDP通信により実施する代わりに、TCP通信により実施することができ、図164乃至図169を参照し、以下に説明する。

【0350】

図164はステップV9をTCP通信により実施する例であり、電話管理サーバ1271から電話管理サーバ1274に、TCPコネクション確立のためのSYN指定を含むTCPパケット1390-1を送信し、電話管理サーバ1274は、通信開始了解のACK表示を含むTCPパケット1391-1を回答し、電話管理サーバ1271から電話管理サーバ1274にIPパケット1327と同一内容（呼設定IAMの通知）を含むTCPパケット1392-1を送信する（ステップV9t）。次に、電話管理サーバ1271から電話管理サーバ1274に、TCPコネクション終了のためのFIN指定を含むTCPパケット1393-1を送信し、電話管理サーバ1274から電話管理サーバ1271に終了確認のためのTCPパケット1394-1を返信する。

【0351】

図165はステップV16をTCP通信により実施する例であり、電話管理サーバ1274から電話管理サーバ1271に、TCPコネクション確立のためのSYN指定を含むTCPパケット1390-2を送信し、電話管理サーバ1271は通信開始了解のACK表示を含むTCPパケット1391-2を回答し、電話管理サーバ1274から電話管理サーバ1271にIPパケット1331と同一内容（呼設定受付ACMの通知）を含むTCPパケット1392-2を送信する（ステップV16t）。次に、電話管理サーバ1274から電話管理サーバ1271に、TCPコネクション終了のためのFIN指定を含むTCPパケット1393-2を送信し、電話管理サーバ1271から電話管理サーバ1274に終了確認のためのTCPパケット1394-2を返信する。

【0352】

図166はステップV25をTCP通信により実施する例であり、電話管理サーバ1271から電話管理サーバ1274に、TCPコネクション確立のためのSYN指定を含むTCPパケット1390-3を送信し、電話管理サーバ1274は通信開始了解のACK表示を含むTCPパケット1391-3を回答し、電話管理サーバ1271から電話管理サーバ1274にIPパケット1333と同一内容（呼経過CPGの通知）を含むTCPパケット1392-3を送信する（ステップV25t）。次に、電話管理サーバ1271から電話管理サーバ1274に、TCPコネクション終了のためのFIN指定を含むTCPパケット1393-3を送信し、電話管理サーバ1274から電話管理サーバ1271に終了確認のためのTCPパケット1394-3を返信する。

【0353】

図167はステップV35をTCP通信により実施する例であり、電話管理サーバ1271から電話管理サーバ1274に、IPパケット1334と同一内容（呼経過ANMの通知）を含むTCPパケット1392-4を送信することが特徴であり（ステップV35t）、前記他の方法と同様にして実施できる。また、図168はステップV64をTCP通信により実施する例であり、電話管理サーバ1271から電話管理サーバ1274に、IPパケット1337と同一内容（解放RELの通知）を含むT

CPパケット 1 3 9 2 - 5 を送信することが特徴であり（ステップV64t）、前記他の方法と同様にして実施できる。

【 0 3 5 4 】

図 1 6 9 はステップV70をTCP通信により実施する例であり、電話管理サーバ 1 2 7 4 から電話管理サーバ 1 2 7 1 に、IPパケット 1 3 3 8 と同一内容（解放完了RLCの通知）を含むTCPパケット 1 3 9 2 - 6 を送信することが特徴であり（ステップV70t）、前記他の方法と同様にして実施できる。

【 0 3 5 5 】

＜制御回線と通話回線の分離＞

次に、開域電話通信において、端末間接続制御において用いられるIP通信回線と音声通信において用いられる通信回線とが分離できることを説明する。

【 0 3 5 6 】

端末間接続制御において用いられるIPパケット 1 3 2 2、1 3 2 7、1 3 2 8、1 3 3 1、1 3 3 2 - 2、1 3 3 3、1 3 3 3 - 1、1 3 3 4、1 3 3 7、1 3 3 8 は、代理電話管理サーバ 1 2 7 0、電話管理サーバ 1 2 7 1、電話管理サーバ 1 2 7 4、代理電話管理サーバ 1 2 7 5 を結ぶIP通信回線のいずれかの範囲 1 2 8 9（図 1 7 0）を転送する。一方、音声通信において用いられるIPパケット 1 3 3 5 及び 1 3 3 6 は、網ノード装置 1 2 4 4、ルータ 1 2 9 1、ルータ 1 2 9 2、網ノード装置 1 2 4 7 を結ぶIP通信回線の範囲 1 2 9 3（図 1 7 0）を転送される。端末間接続制御において用いられるIP通信回線は交換通信網の共通線信号網の回線に相当し、音声通信において用いられる通信回線は交換通信網の音声通信回線に対応できる。

【 0 3 5 7 】

このようになっているから、網ノード装置 1 2 4 4 は、メディアルータ 1 2 0 1 から送信される端末間通信接続用のIPパケットを、ルータ 1 2 6 3 へ送信し、音声通信用のIPパケットを、ルータ 1 2 9 1 へ分離して送信する機能があり、逆方向のIPパケットの流れに着目すると、端末間通信接続用のIPパケットと音声通信用のIPパケットを合流して、メディアルータ 1 2 0 1 へ送信する。

【 0 3 5 8 】

<<電話番号の木構造と電話DNSサーバ>>

図171に示す木構造は会社Bの電話番号サーバ1140が管理する電話番号の木構造であり、ルート1250の下位に、ドメイン1251乃至1254が同位のレベルで木構造状に関係付けられており、ドメイン1251は電話番号“1×××”（1000番代の電話番号）を、ドメイン1252は電話番号“2×××”を、ドメイン1253は電話番号“3×××”を、ドメイン1254はその他の電話番号に関するIPアドレスをそれぞれ管理する。図172に示す木構造は会社Aの電話番号サーバ1142が管理する電話番号の木構造であり、ルート1251の下位に、ドメイン1251-2と1251-3、1254が同位のレベルで木構造状に関係付けられており、ドメイン1251-2は会社Aの電話番号“1×××”を、ドメイン1251-3は会社Aのドメイン“#”をそれぞれ管理し、ドメイン1251-4は会社Aの内線電話番号“1××”を、ドメイン1251-5は会社Aの内線電話番号“2××”を、ドメイン1251-6は会社Aの内線電話番号“3××”に関するIPアドレスをそれぞれ管理する。

【0359】

ここで、ドメインの“#”は会社Aの専用の秘密値であり、他の会社には非公開である。つまり、会社A以外の会社Bや会社Cなどに属する電話番号サーバから質問に対して、電話番号サーバ1142は、ドメインの“#”の配下にあるドメイン1151-4乃至1151-6に関する情報を回答しないようになっている。ドメイン1254はその他の電話番号に関するIPアドレスを管理する。

【0360】

図173に示す木構造は会社Aの電話番号サーバ1137が管理する電話番号の木構造であり、ルート1250-1の下位に、ドメイン1251乃至1254が同位のレベルで木構造状に関係付けられており、ドメイン1251は会社Aに属する電話番号を、ドメイン1252は会社Bの電話番号“2×××”を、ドメイン1253は会社Cの電話番号“3×××”を、ドメイン1254はその他の電話番号に関するIPアドレスをそれぞれ管理する。ドメイン1251-2は会社Aの電話番号“1×××”を、ドメイン1251-3は会社Aのドメイン“#”をそれぞれ管理し、ドメイン1251-4は会社Aの内線電話番号“1××”を

、ドメイン1251-5は会社Aの内線電話番号“2××”を、ドメイン1251-6は会社Aの内線電話番号“3××”に関するIPアドレスをそれぞれ管理する。

【0361】

ここで、ドメインの“#”は、前述した会社Aの専用の秘密値である。また、図174に示す木構造は会社Xの電話番号サーバ1139が管理する電話番号の木構造であり、ルート1250-2の下位に、ドメイン1254-2と1254が同位のレベルで木構造状に関係付けられており、ドメイン1254-2は会社Xに属する電話番号を、ドメイン1254は他の電話番号に関するIPアドレスをそれぞれ管理する。

【0362】

図175の表1255-1は、メディアルータ管理部1260が、メディアルータ1201に接続する電話機1208乃至1211が通話相手先とする電話番号をドメイン名に変換する方法を表わしており、表1255-1の1行目の電話番号“1×××”、例えば電話番号“1001”を電話番号ドメイン名“1. a.”で表現し、表1255-1の2行目の電話番号“2×××”を電話番号ドメイン名“b.”で表現し、表1255-1の7行目の他電話番号を電話番号ドメイン名“0.”で表現することを意味し、他の行も同様である。電話番号サーバ1137は図176の表1255-2に従い、例えば電話番号ドメイン名“1. a.”を質問されてIPアドレス“EA1”を回答し、電話番号ドメイン名“b.”を質問されてIPアドレス“EA5”を回答し、電話番号ドメイン名“0.”を質問されてIPアドレス“EA81”を回答する。

【0363】

図177の表1256-1は、メディアルータ管理部1264が、メディアルータ1203に接続する電話機1228乃至1231が通話相手先とする電話番号をドメイン名に変換する方法を表わしており、表1256-1の1行目の電話番号“1×××”を電話番号ドメイン名“1. a.”で表現し、表1256-1の2行目の電話番号“1××”を電話番号ドメイン名“1. #. a.”で表現し、表1256-1の5行目の他電話番号を電話番号ドメイン名“0.”で表現す

ることを意味し、他の行も同様である。電話番号サーバ 1142 は図 178 の表 1256-2 に従い、例えば電話番号ドメイン名 “1. a.” を質問されて IP アドレス “EA1” を回答し、電話番号ドメイン名 “1. #. a.” を質問されて IP アドレス “EA1” を回答し、電話番号ドメイン名 “0.” を質問されて IP アドレス “EA81” を回答する。

【0364】

図 179 の表 1257-1 は、メディアルータ管理部 1266 が、メディアルータ 1205 に接続する電話機 1220 乃至 1223 が通話相手先とする電話番号をドメイン名に変換する方法を表わしており、表 1257-1 の 1 行目の電話番号 “1×××” を電話番号ドメイン名 “a.” で表現し、表 1257-1 の 2 行目の電話番号 “2×××” を電話番号ドメイン名 “b.” で表現し、表 1256-1 の 4 行目の他電話番号を電話番号ドメイン名 “0.” で表現することを意味し、他の行も同様である。電話番号サーバ 1140 は図 180 の表 1257-2 に従い、例えば電話番号ドメイン名 “a.” を質問されて IP アドレス “EA1” を回答し、電話番号ドメイン名 “b.” を質問されて IP アドレス “EA5” を回答し、電話番号ドメイン名 “0.” を質問されて IP アドレス “EA81” を回答する。

【0365】

電話番号サーバ 1137 乃至 1142 は、ドメイン名サーバ (DNS) の公知の再帰呼出機能を用いて他の電話番号サーバを呼出し、他の電話番号サーバが直接管理する IP アドレスを取得している。

【0366】

以上を要約すると、次のようになる。即ち、メディアルータ 1 とメディアルータ 2 とが IP 転送網を経由して接続されており、電話機 1 がメディアルータ 1 に接続され、電話機 2 がメディアルータ 2 に接続されており、電話機 1 及び電話機 2 がメディアルータ 1 の内部の電話番号サーバを用い、IP 転送網内部の電話番号サーバを用いずに、電話通信することができる。なお、メディアルータ 1 或いはメディアルータ 2 には、複数の電話機が接続できる。また、IP 転送網は固有の電話番号サーバを含み、電話機 1 及び電話機 2 が、メディアルータ 1 の内部の

電話番号サーバを用いて I P 転送網内の電話番号サーバにアクセスし、電話機 2 に電話通信することができる。

【 0 3 6 7 】

I P 転送網は 2 以上の網ノード装置を含み、メディアルータは論理 I P 通信回線を経て前記網ノード装置のいずれかに接続されており、前記論理 I P 通信回線の網ノード装置側の終端部に内部 I P アドレスが付与されており、それぞれのメディアルータには外部 I P アドレスが付与されており、電話番号サーバを内部に有し、かつメディアルータは通信回線を経て 1 以上の電話機に接続されている。網ノード装置の内部のアドレス管理表のレコードとして、前記外部 I P アドレス及び通信レコードが予め設定されており、電話通信の接続フェーズは呼設定 (I A M) 、呼設定受付 (A C M) 、呼経過 (C P G) 、応答 (A N M) から成る一連のステップで成り、また、電話通信の解放フェーズは解放 (R E L) 及び解放完了 (R L C) から成る一連のステップで成る。また、応答 (A N M) の後に応答確認 (A C K) を実施し、解放 (R E L) と解放完了 (R L C) との間に解放受付を実施することもできる。

【 0 3 6 8 】

更に要約すると、発信側の電話管理サーバと着信側の電話管理サーバとの間で、 I A M パケット、 A C M パケット、 C P G パケット、 A N M パケット、 R E L パケット、 R L C パケットを送受するようになっている。通話相手を限定する閉域電話通信においては、メディアルータ内部の電話番号サーバが用いられ、また、通話相手を限定しない開域電話通信においては、メディアルータ内部の電話番号サーバを用いることにより、 I P 転送網の内部の電話番号サーバが用いられる。開域電話通信において、端末間接続制御において用いられる I P 通信回線と、音声通信において用いられる通信回線とが分離できる。電話管理サーバが C I C 管理表を有し、送信元電話番号、宛先電話番号、電話通信の開始時刻、終了時刻を記録できるようになっている。運用管理サーバが電話管理サーバに問い合わせ、送信元電話番号、宛先電話番号、電話通信の開始時刻、終了時刻を取得して課金に用いることができる。

【0369】

11. 公衆電話網からの電話転送を行う第11実施例：

<<準備>>

図181を参照して説明する。電話機520は電話番号“03-5414-8510”であり、電話回線517を経て交換機513に接続されている。通信回線524-1は交換機514-1とゲートウェイ521-1とを接続し、インタフェースは共通線信号線と通話回線とを含むNNIであり、共通線信号線上では、共通線信号方式により規定される信号ユニットが伝送される。ゲートウェイ521-1は、一般に公開するGW論理名（ゲートウェイ論理名）“GW5211”と、公衆電話交換網515側から識別できる信号局コード“#1234”とを付与されている。加入者交換機513、511は、前記GW論理名“GW5211”と信号局コード“#1234”との組を、予め内部に保持している。通信回線524-2は交換機514-2とゲートウェイ521-2とを接続し、インタフェースはUNIである。通信回線のゲートウェイ521-2側終端には、電話番号“03-1111-2222”が付与されている。

【0370】

<<NNI回線着信転送の準備>>

電話機520の所有者は電話機520を電話回線517から切り離し、メディアルータ527に接続する通信回線528に電話機530として接続する。電話機530の電話番号は“03-5414-8510”である。電話機520の利用者532は、公衆交換電話網の受付533に電話機520を電話機530の位置、つまり、ゲートウェイ“GW5211”を入口とするIP転送網522に接続換えしたことを通知し（図182のステップH01）、受付533は変更内容、つまり、前記電話番号“03-5414-8510”とGW論理名“GW5211”を通信回線534を経由して交換機513に通知する（ステップH02）。交換機513は前記保持している情報を用いて、GW論理名“GW5211”を信号局コード“#1234”に変換し、その転送処理部516に、電話番号“03-5414-8510”と転送先ゲートウェイ521-1の信号局コード“#1234”との組を記憶させておく（ステップH03）。

【0371】

<<NNI回線着信転送>>

電話番号“047-325-3897”である電話機510から、宛先電話番号“03-5414-8510”に発呼すると（ステップH05）、交換機511が発呼を受付ける（ステップH06）。次に、交換機511から通信回線512を経て、交換機513に電話機520を電話呼出する手順を行う（ステップH08）。交換機513は、転送処理部516に予め記憶している電話番号“03-5414-8510”と転送先ゲートウェイ521-1の信号局コード“#1234”を見出し（ステップH09）、交換機511に前記取得した信号局コード“#1234”を通知する（ステップH10）。交換機511は、受信したゲートウェイ521-1のアドレスとしての前記信号局コード“#1234”を宛先とし、メッセージ部に前記転送先の宛先電話番号“03-5414-8510”を含む信号ユニットを形成して送信すると、前記信号ユニットは、交換機514-1を経て（ステップH11）、通信回線524-1を経てゲートウェイ521-1へ到達する（ステップH12）。以降は、ルータ525-1を経て、電話管理サーバ525を経由し（H15）、接続制御用回線524-5、ルータ525-2、接続制御用回線524-4、網ノード装置523-2を経て（ステップH16）、更に通信回線526を経てメディアルータ527に到達する（ステップH17）。メディアルータ527は、前記電話接続要求に対する電話呼受付の通知を逆の方向に送信すると、前記電話呼受付の通知は、網ノード装置523-2を経て（ステップH21）、更に電話管理サーバ525を経て（ステップH22）、ゲートウェイ521-1に到達する（ステップH23）。ゲートウェイ521-1は、前記電話発呼受付を、交換機514-1を経由し（ステップH25）、交換機511に通知する（ステップH26）。

【0372】

次に、メディアルータ527は通信回線528を経て、電話番号“03-5414-8510”である電話機530を呼び出すと（ステップH28）、その着信呼出中通知が前記と逆方向、つまりメディアルータ527、網ノード装置523-2、接続制御用回線524-4、電話管理サーバ525、ゲートウェイ521

ー 1、交換機 5 1 4 - 1、交換機 5 1 1 を経て発呼した電話機 5 1 0 に通知される（ステップ H30 乃至 H37）。電話機 5 3 0 の利用者が送受話器を上げると（オフフック）、電話機 5 3 0 は応答通知をメディアルータ 5 2 7 に通知し（ステップ H40）、以下は上述と同様にして、メディアルータ 5 2 7、網ノード装置 5 2 3 - 2、接続制御用回線 5 2 4 - 4、電話管理サーバ 5 2 5、ゲートウェイ 5 2 1 - 1、交換機 5 1 4 - 1、交換機 5 1 1 を経て発呼した電話機 5 1 0 に通知される（ステップ H41～H47）。

【 0 3 7 3 】

前記ステップ H11, H12, H15 として送受される電話呼接続のための接続制御用データを IAM メッセージといい、ステップ H23, H25, H26 の間の接続制御用データを ACM メッセージといい、ステップ H33, H35, H36 の間の接続制御用データを CPG メッセージといい、ステップ H43, H45, H46 の間の接続制御用データを ANM メッセージという。前記電話呼接続フェーズにおいて、前記メッセージ（IAM, ACM, CPG, ANM）は、網ノード装置 5 2 3 - 1 を通過しないことが特徴である。つまり、前記メッセージは、ゲートウェイ 5 2 1 - 1 と電話管理サーバ 5 2 5 との間を直接に送受される。

【 0 3 7 4 】

以上により、電話機 5 1 0 と電話機 5 3 0 との間の通信接続手順が完了し、電話機 5 1 0 と電話機 5 3 0 との間の音声による通話が可能となる。なお、電話機 5 1 0 から送信された音声は、交換機 5 1 1、交換機 5 1 4 - 1、通信回線 5 2 4 - 1 を経てゲートウェイ 5 2 1 - 1 に到達し、ゲートウェイ 5 2 1 - 1 において、デジタル化された音声となり、網ノード装置 5 2 3 - 1、通信回線 5 2 4 - 3、ルータ 5 2 5 - 2、音声通信用の通信回線 5 2 4 - 6、網ノード装置 5 2 3 - 2、メディアルータ 5 2 7 に到達し、メディアルータ 5 2 7 において、デジタル化した音声はアナログ化されて電話機 5 3 0 へ到達する。また、電話機 5 3 0 から送信された音声は、前記と逆の通信路を経由して伝達されて電話機 5 1 0 に到達する。

【 0 3 7 5 】

電話の通話終了において、電話機 5 1 0 から電話の呼解放が交換機 5 1 1 に送

出され（ステップH50）、交換機514-1を経て（ステップH51）、ゲートウェイ521-1に通知され（ステップH53）、ゲートウェイ521-1から呼解放完了の通知を交換機511宛てに送出する（ステップH54,H55）。

【0376】

次にゲートウェイ521-1は、前記手順で取得した電話呼の解放をIP転送網522を経由して電話機530宛てに送出し（ステップH61乃至H64）、呼解放完了の通知がメディアルータ527からゲートウェイ521-1宛てに返送される（ステップH65～H67）。逆方向、つまり電話機530から公衆電話交換網515に向けて呼解放できることは、他の実施例により説明している。前記ステップH51,H53,H61の電話呼解放の接続制御用データをRELメッセージといい、ステップH67、H54、H55の接続制御用データをRLCメッセージという。

【0377】

なお、上記ステップH01乃至H03を行わず、電話機520の所有者532が電話番号“03-5414-8510”である電話機520から電話機530の位置、つまり、ゲートウェイ“GW5211”を入口とするIP転送網522に接続換えする予告を、通信回線517を経由して交換機513に通知した後に、電話機520を電話機530の位置に接続換えすることができ（図182のステップH01X）、次に交換機513は、前記保持している情報を用いて、GW論理名“GW5211”を信号局コード“#1234”に変換し、その転送処理部516に、電話番号“03-5414-8510”と転送先ゲートウェイ521-1の信号局コード“#1234”との組を保持させておく方法を採用することもできる（ステップH03X）。

【0378】

以上により、NNI回線経由の電話着信転送の説明を終わり、次にUNIに基く電話着信転送を説明する。

【0379】

<<UNI回線着信転送の準備>>

図181及び図183を参照して説明する。電話機520の所有者は電話機520を電話回線517から切り離し、通信回線528に電話機530として接続

する。電話機530の電話番号は“03-5414-8510”である。次に電話機520の利用者532は、受付533に電話機520を接続換えしたことを通知し（ステップH01）、受付533は、変更内容を通信回線534を経由して交換機513に通知する（ステップH02）。交換機513はその転送処理部516に、電話番号“03-5414-8510”と、通信回線524-2の転送先ゲートウェイ521-2側終端部に付与されている電話番号“03-1111-2222”との組を記憶させておく（ステップH03-2）。

【0380】

<<UNI回線着信転送>>

本ケースにおいては、交換機514-1の代わりに交換機514-2を用い、更にゲートウェイ521-1の代わりにゲートウェイ521-2を用いることが異なっている。この理由から、交換機514-2とゲートウェイ521-2の間の端末間通信接続制御手順が、新しいステップH12-2及びステップH13-2になることが特徴であり、以下に説明する。

【0381】

電話番号“047-325-3897”である電話機510から宛先電話番号“03-5414-8510”に発呼すると（ステップH05-2）、交換機511が発呼を受付ける（ステップH06-2）。次に、交換機511から、通信回線512を経て交換機513（ステップH08-2）に、電話機520を電話呼出する。交換機513は、転送処理部516に予め記憶している電話番号“03-5414-8510”と転送先ゲートウェイ521-2の入力回線524-2の終端部に付与された電話番号“03-1111-2222”とを見出し（ステップH09-2）、前記取得した電話番号“03-1111-2222”を交換機511に通知する（ステップH10-2）。交換機511は、前記受信したゲートウェイ521-2の入力回線の電話番号“03-1111-2222”を宛先とし、前記転送先の宛先電話番号“03-5414-8510”を含む信号ユニットを形成して送信すると、前記信号ユニットは交換機514-2に到達する（ステップH11-2）。前記信号ユニットに含まれる電話接続要求（SETUP）が、通信回線524-2を経てゲートウェイ521-2送られると（ステップH12-2）、ゲートウェイ

5 2 1 - 2 は、前記ステップH12-2の電話呼接続要求を受付たことを交換機 5 1 4 - 2 に通知する（ステップH13-2）。更に、網ノード装置 5 2 3 - 1 を経て（ステップH14-2）、ルータ 5 2 5 - 2 を経て、電話管理サーバ 5 2 5 を経由し（H15-2）、再びルータ 5 2 5 - 2、接続制御用回線 5 2 4 - 4、網ノード装置 5 2 3 - 2 を経て（ステップH16-2）、通信回線 5 2 6 を経て、メディアルータ 5 2 7 に到達する（ステップH17-2）。

【 0 3 8 2 】

メディアルータ 5 2 7 は前記電話接続要求に対する電話呼受付の通知を逆の方向に送信すると、前記電話呼受付の通知は網ノード装置 5 2 3 - 2 を経て（ステップH21-2）、電話管理サーバ 5 2 5 を経て（ステップH22-2）、網ノード装置 5 2 3 - 1 を経て（ステップH23-2）、ゲートウェイ 5 2 1 - 2 に到達する（ステップH24-2）。ゲートウェイ 5 2 1 - 2 は、前記電話発呼受付を交換機 5 1 4 - 2 を経由し（ステップH25-2）、交換機 5 1 1 に通知する（ステップH26-2）。

【 0 3 8 3 】

次に、メディアルータ 5 2 7 は通信回線 5 2 8 を経て電話番号“0 3 - 5 4 1 4 - 8 5 1 0”である電話機 5 3 0 を呼び出すと（ステップH28-2）、その着信呼出中通知が前記と逆方向、つまりメディアルータ 5 2 7（ステップH30-2）、網ノード装置 5 2 3 - 2（ステップH31-2）、電話管理サーバ 5 2 5（ステップH32-2）、網ノード装置 5 2 3 - 1（ステップH33-2）、ゲートウェイ 5 2 1 - 2（ステップH34-2）、交換機 5 1 4 - 2（ステップH35-2）、交換機 5 1 1 を経て（ステップH36-2）、発呼した電話機 5 1 0 に通知される（ステップH37-2）。

【 0 3 8 4 】

電話機 5 3 0 の利用者が送受話器を上げると（オフフック）、電話機 5 3 0 は応答通知をメディアルータ 5 2 7 に通知し（ステップH40-2）、以下は上述と同様にして、メディアルータ 5 2 7、網ノード装置 5 2 3 - 2、電話管理サーバ 5 2 5、網ノード装置 5 2 3 - 1、ゲートウェイ 5 2 1 - 2、交換機 5 1 4 - 2、交換機 5 1 1 を経て、発呼した電話機 5 1 0 に通知される（ステップH41-2～H47-2）。前記電話呼接続フェーズにおいて、ゲートウェイ 5 2 1 - 2 と電話管理サ

ーバ 5 2 5 との間の接続フェーズのために、網ノード装置 5 2 3 - 1 を経由したメッセージの送受が行われることが特徴である。

以上により、電話機 5 1 0 と電話機 5 3 0 との間の通信接続手順が完了し、電話機 5 1 0 と電話機 5 3 0 との間の音声による通話が可能となる。

【 0 3 8 5 】

<<通話フェーズと解放フェーズ>>

通話フェーズと解放フェーズは、前記NNI回線着信転送のケースと同様であり、異なる点は、交換機 5 1 4 - 1 の代わりに交換機 5 1 4 - 2 を用い、更にゲートウェイ 5 2 1 - 1 の代わりにゲートウェイ 5 2 1 - 2 を用いる点である（ステップH50-2及至H53-2、H54-2及至H55-2、H60-2及至H63-2、H65-2及至H68-2）。

【 0 3 8 6 】

<<UNI経由の着信転送の他実施例>>

図 1 8 1 及び図 1 8 4 を参照して説明する。電話機 5 2 0 の所有者は電話機 5 2 0 を電話回線 5 1 7 から切り離し、メディアルータ 5 2 7 に接続する通信回線 5 2 8 に電話機 5 3 0 として接続することは、前記実施例のUNI回線着信転送の準備と同様である。

【 0 3 8 7 】

<<UNI回線着信転送>>

このUNI回線着信転送の実施において、交換機 5 1 1 及び交換機 5 1 4 - 2 は、交換機 5 1 3 を経由して接続制御用メッセージを送受することが特徴であり、以下に説明する。

【 0 3 8 8 】

電話番号“047-325-3897”である電話機 5 1 0 から宛先電話番号“03-5414-8510”に発呼すると（ステップH05-3）、交換機 5 1 1 が発呼受付し（ステップH06-3）、交換機 5 1 1 から、通信回線 5 1 2 を経て交換機 5 1 3 に電話機 5 2 0 を電話呼出する（ステップH08-3）。交換機 5 1 3 は、転送処理部 5 1 6 に予め記憶している電話番号“03-5414-8510”と転送先ゲートウェイ 5 2 1 - 2 の入力回線 5 2 4 - 2 の終端部に付与された電話番号“03-1111-2222”とを見出し（ステップH09-3）、続いてゲ

ートウェイ 5 2 1 - 2 の入力回線の電話番号 “0 3 - 1 1 1 1 - 2 2 2 2” を宛先とし、前記転送先の宛先電話番号 “0 3 - 5 4 1 4 - 8 5 1 0” を含む信号ユニットを形成して送信すると、前記信号ユニットは交換機 5 1 4 - 2 に到達する（ステップ H11-3）。前記信号ユニットに含まれる電話接続要求（SETUP）が通信回線 5 2 4 - 2 を経てゲートウェイ 5 2 1 - 2 送られると（ステップ H12-3）、ゲートウェイ 5 2 1 - 2 は、前記ステップ H12-3 の電話呼接続要求を受付たことを交換機 5 1 4 - 2 に通知する（ステップ H13-3）。更に、網ノード装置 5 2 3 - 1 を経て（ステップ H14-3）、ルータ 5 2 5 - 2 を経て、電話管理サーバ 5 2 5 を経由し（ステップ H15-3）、再びルータ 5 2 5 - 2、接続制御用回線 5 2 4 - 4、網ノード装置 5 2 3 - 2 を経て（ステップ H16-3）、通信回線 5 2 6 を経てメディアルータ 5 2 7 に到達する（ステップ H17-3）。

【 0 3 8 9 】

メディアルータ 5 2 7 は前記電話接続要求に対する電話呼受付の通知を逆の方向に送信すると、前記電話呼受付の通知は網ノード装置 5 2 3 - 2 を経て（ステップ H21-3）、電話管理サーバ 5 2 5 を経て（ステップ H22-3）、網ノード装置 5 2 3 - 1 を経て（ステップ H23-3）、ゲートウェイ 5 2 1 - 2 に到達する（ステップ H24-3）。ゲートウェイ 5 2 1 - 2 は、前記電話発呼受付を、交換機 5 1 4 - 2 を経由し（ステップ H25-3）、交換機 5 1 3 を経由し（ステップ H26-3）、交換機 5 1 1 に通知する（ステップ H27-3）。

【 0 3 9 0 】

次に、メディアルータ 5 2 7 は通信回線 5 2 8 を経て、電話番号 “0 3 - 5 4 1 4 - 8 5 1 0” である電話機 5 3 0 を呼び出すと（ステップ H28-3）、その着信呼出中通知が前記と逆方向、つまりメディアルータ 5 2 7（ステップ H30-3）、網ノード装置 5 2 3 - 2（ステップ H31-3）、電話管理サーバ 5 2 5（ステップ H32-3）、網ノード装置 5 2 3 - 1（ステップ H33-3）、ゲートウェイ 5 2 1 - 2（ステップ H34-3）、交換機 5 1 4 - 2（ステップ H35-3）、交換機 5 1 3（ステップ H36-3）、交換機 5 1 1 を経て（ステップ H37-3）、発呼した電話機 5 1 0 に通知される（ステップ H38-3）。電話機 5 3 0 の利用者が送受話器を上げると（オフフック）、電話機 5 3 0 は応答通知をメディアルータ 5 2 7 に通知し（ス

テップH40-3)、以下は上述と同様にして、メディアルータ527、網ノード装置523-2、電話管理サーバ525、網ノード装置523-1、ゲートウェイ521-2、交換機514-2、交換機513、交換機511を経て発呼した電話機510に通知される(ステップH41-3~H48-3)。

【0391】

以上により、電話機510と電話機530との間の通信接続手順が完了する。

【0392】

<<通話フェーズと解放フェーズ>>

通話フェーズと解放フェーズは前記UNI回線着信転送のケースと同様であり、異なる点は、交換機511と交換機514-2は、交換機513を経由して接続制御用メッセージを送受する点である。

【0393】

以上述べた原理により、公衆電話交換網515に接続するアナログ電話機510は、IP転送網522を経由して公衆電話交換網において用いる電話番号“03-5414-8510”を有するメディアルータ527に接続したアナログ電話機530と、端末間通信が可能である。更に、メディアルータは他の実施例で説明しているように、LANの内部に設置することが可能である。この理由から、公衆電話交換網において用いる電話番号“03-5414-8510”を有する電話機をLAN内部のメディアルータに接続しておき、公衆電話交換網515に接続するアナログ電話機510からIP転送網522を経由して、電話番号“03-5414-8510”を有するLAN内部のアナログ電話機へ接続し、端末間通信が可能である。

【0394】

以上を要約すると、公衆電話交換網に接続する電話機への電話呼接続要求を、IP転送網に接続する電話機へ転送する技法であり、公衆電話交換網515の中継交換機514-1とIP転送網522のゲートウェイ521-1は、NNIインタフェース通信回線524-1で接続しており、加入者交換機513に接続する電話番号“TN-1”である電話機520を、IP転送網522に接続するメディアルータ527に、電話番号“TN-1”として接続し、加入者交換機51

1 に接続する電話番号“TN-2”である電話機510から電話番号“TN-1”に電話呼接続要求すると、前記接続要求は加入者交換機513に到達し、加入者交換機513の着信転送機能により、前記接続要求は、中継交換機514-1、NNI インタフェース通信回線524-1、ゲートウェイ521-1、IP 転送網522、メディアルータ527を経由して、電話機530に到達するようになっている。

【0395】

また、公衆電話交換網515の加入者交換機514-2とIP 転送網522のゲートウェイ521-2は、UNI インタフェース通信回線524-2で接続しており、公衆電話交換網515の加入者交換機513に接続する電話番号“TN-1”である電話機520を、前記IP 転送網に接続するメディアルータ527に、電話番号“TN-1”として接続し、加入者交換機511に接続する電話番号“TN-2”である電話機510から電話番号“TN-1”に電話呼接続要求すると、前記接続要求は加入者交換機513に到達し、加入者交換機513の着信転送機能により、前記接続要求は、加入者交換機514-2、UNI インタフェース通信回線524-2、ゲートウェイ521-2、IP 転送網522、メディアルータ527を経由して、電話機530に到達するようになっている。

【0396】

12. 公衆電話網からの電話転送を行う第12実施例：

<<準備>>

図185において、540はIP 転送網、541乃至545は網ノード装置、546-1乃至546-5は中継装置（ルータ）、550及び554は“回線情報を含むゲートウェイ”、551、552、553はゲートウェイである。これら網ノード装置、中継装置及びゲートウェイは、それぞれIP パケット転送機能を有する通信回線を経由して直接に、或は前記中継装置を経て間接的に接続されている。555乃至556は公衆電話交換網（PSTN）、557乃至566は交換機、570乃至573は電話機、597及び598は電話機、576乃至578はネットワークネットワークインターフェース（NNI）を有する通信回線、58

0乃至581はユーザネットワークインターフェース (UNI) を有する通信回線、583はIPパケット転送機能を有する通信回線である。584及び585はIP転送網入回線表であり、586乃至590はIP転送網出回線表である。591はメディアルータである。593乃至594は電話番号サーバであり、通信回線を経てルータ546-1又はルータ546-3に接続されている。NNI通信回線に接続するゲートウェイ550、554は、公衆電話交換網側から識別するための信号局コードと、IP転送網540から識別するためのIPアドレスとをそれぞれ個別に付与されている。

【0397】

回線情報を含むゲートウェイ550には通信事業者識別コード“00XY”が付与され、回線情報を含むゲートウェイ554には通信事業者識別コード“00UV”が付与されている例である。ゲートウェイ551には信号局コード“#2222”が付与され、ゲートウェイ552の通信回線580側の入口には電話番号“03-4444-4000”が付与されている。電話番号サーバ593乃至594は電話番号を提示すると、この電話番号を有しているゲートウェイのIPアドレス、或はこの電話番号を有しているメディアルータ (MR) のIPアドレスを回答する機能を有し、IP転送網出回線表586乃至590は、前記ゲートウェイやメディアルータが有する全ての電話番号と対応するIPアドレス情報を含む。電話機570の電話番号は“03-1111-2222”であり、電話機571の電話番号は“06-3333-4444”であり、電話機572の電話番号は“092-555-6666”であり、電話機597の電話番号は“07-3333-4444”であり、電話機598の電話番号は“093-555-6666”であり、それぞれ通信回線を経て公衆電話交換網555或いは556内部のいずれかの交換機に接続されており、電話機573は電話番号“045-777-8888”であり、通信回線を経てメディアルータ591に接続されている。

【0398】

図186はIP転送網入回線表584の内容 (例) を示しており、第1行目のレコードの場合、宛先電話番号の範囲が“06-0000-0000”から“0

6-9999-9999”である電話機に、通信回線を接続するためのゲートウェイの区分はNNIであり、ゲートウェイの信号局コードは“#2222”であることを示している。このケースでは、当該ゲートウェイは551となっている。第5行目のレコードの場合も、同様である。また、第2行目の場合、宛先電話番号の範囲が“092-0000-0000”から“092-999-9999”である電話機に、通信回線を接続するためのゲートウェイの区分はUNIであり、ゲートウェイに接続する電話番号は、“03-4444-4000”乃至“03-4444-4099”の範囲にあることを示している。このケースでは当該ゲートウェイが552となっている。第3行目のレコード、第4行目のレコードも同様である。IP転送網入回線表585の内容は、IP転送網入回線表584と同様の内容を含む。

【0399】

図187は、IP転送網出回線表586の内容(例)を示しており、第1行目のレコードの場合、宛先電話番号の範囲が“06-0000-0000”から“06-9999-9999”である電話機に、通信回線を接続するためのゲートウェイ(GW)又はメディアルータ(MR)がIP転送網に接続しており、GW又はMRのIPアドレスは“10.240.240.1”乃至“10.240.240.255”であることを示しており、第2行目のレコードも同様である。IP転送網出回線表587乃至590の内容はIP転送網出回線表586と同種の情報を含む。

【0400】

<<電話機間の通信接続制御—その1>>

図185に示す電話番号“03-1111-2222”である発信元の電話機570から、電話番号“06-3333-4444”である宛先の電話機571へ電話接続する例である。図188に示す590-1は、公衆電話交換網555内部における電話接続を、590-2はIP転送網540内部における電話接続を、590-3は公衆電話交換網556内部における電話接続をそれぞれ表わす。図188及び図189を参照して説明する。

【0401】

電話機570から“00XY-06-3333-4444”とダイヤルして電

話呼出しすると（図 1 8 8 のステップ J01）、交換機 5 5 7 が呼出確認し（ステップ J02）、交換機 5 5 7 は、前記ダイヤルされた情報に含まれる通信事業者識別コード“0 0 X Y”を用いて、“0 0 X Y”が付与されている回線情報を含むゲートウェイ 5 5 0 に接続する交換機 5 5 8 を見出し、前記ダイヤル時に取得した発信元電話番号“0 3 - 1 1 1 1 - 2 2 2 2”と“0 0 X Y - 0 6 - 3 3 3 3 - 4 4 4 4”とを、交換機 5 5 8 に送信する（ステップ J03）。そして、交換機 5 5 8 は、発信元電話番号“0 3 - 1 1 1 1 - 2 2 2 2”と、宛先電話番号“0 6 - 3 3 3 3 - 4 4 4 4”とを回線情報を含むゲートウェイ 5 5 0 に送信し（ステップ J04）、回線情報を含むゲートウェイ 5 5 0 は、回線情報を含むゲートウェイ 5 5 0 内部の IP 転送網入回線表 5 8 4 を参照して、宛先電話機の電話番号をパラメータとして、即ち宛先電話番号が“0 6 - 3 3 3 3 - 4 4 4 4”である電話機に通信回線を接続するためのゲートウェイへのアクセス情報として、ゲートウェイは NNI インタフェースを有し、信号局としてのゲートウェイの信号局コードは“# 2 2 2 2”であることを知り、交換機 5 5 8 に返信する（ステップ J05）。次に、交換機 5 5 8 は、信号局コード“# 2 2 2 2”であるゲートウェイに接続する交換機を探し、このケースにおいては交換機 5 5 9 であることを見出し、前記手順により取得しているゲートウェイへのアクセス情報としての信号局コード“# 2 2 2 2”、発信元電話番号“0 3 - 1 1 1 1 - 2 2 2 2”及び宛先電話番号“0 6 - 3 3 3 3 - 4 4 4 4”を含む情報を交換機 5 5 9 に転送する（ステップ J06）。

【 0 4 0 2 】

交換機 5 5 9 は、NNI 通信回線 5 7 7 を経て信号局コード“# 2 2 2 2”であるゲートウェイ 5 5 1 に発信元電話番号“0 3 - 1 1 1 1 - 2 2 2 2”、宛先電話番号“0 6 - 3 3 3 3 - 4 4 4 4”を転送する（ステップ J07）。ゲートウェイ 5 5 1 は、前記手順により取得した発信元電話番号“0 3 - 1 1 1 1 - 2 2 2 2”、宛先電話番号“0 6 - 3 3 3 3 - 4 4 4 4”を含む IP パケットを形成する。IP パケットの送信元 IP アドレスは、ゲートウェイ 5 5 1 に付与された（ゲートウェイ 5 5 1 自身が知っている）IP アドレスであり、宛先 IP アドレスは通信回線を接続するための通信相手先、このケースではゲートウェイ 5 5 4 の

IPアドレス“10.240.240.1”であり、ゲートウェイ551内部の（図187の）IP転送網出回線表586から、宛先電話機の電話番号をパラメータとして、即ち宛先電話番号“06-3333-4444”に対応するIPアドレスの一つ“10.240.240.1”を用いる例である。前述したゲートウェイ551が、ゲートウェイ554のIPアドレスを見出す手続きに代わり、ゲートウェイ551から電話番号サーバ593に宛先電話番号“06-3333-4444”を有する電話機に接続するためのゲートウェイのIPアドレスを質問する“問合せIPパケット”を送出し、電話番号サーバ593から回答を得て用いることもできる（オプション）。

【0403】

前述の交換機の機能のうち、“ステップJ04”及び“ステップJ05”は、電話交換網の共通線信号方式・トランザクション機能部のメッセージを用いることが出来る。

【0404】

前述により形成されたIPパケットはゲートウェイ551から送出され、ルータ546-1、電話管理サーバ549-1を経て（ステップJ08）、ルータ546-1、ルータ546-5、電話管理サーバ549-5を経て（ステップJ09）、ルータ546-5、ゲートウェイ554を経て（ステップJ10）、NNI通信回線578を経て交換機562に到達する（ステップJ11）。前記IPパケットは、発信元電話番号“03-1111-2222”、宛先電話番号“06-3333-4444”を含む。

【0405】

続いて、発信元電話番号“03-1111-2222”、宛先電話番号“06-3333-4444”を含む呼設定要求が交換機561に転送され（ステップJ12）、前記呼設定要求を受信した交換機561が呼設定要求の確認通知を交換機557へ返信する（ステップJ14及至ステップJ20）。次に、交換機561は電話機571を呼出し（ステップJ13）、電話機が呼出中を交換機561に返信すると（ステップJ22）、交換機561は宛先電話機571の呼出中を送信元電話機570に通知する（ステップJ23～ステップJ30）。電話機571がオフフック

されると、電話通信開始を表わす I P パケットが送信元電話機 5 7 0 に通知されて（ステップ J32 及至ステップ J40）、電話通信が開始される。

【 0 4 0 6 】

以上により、電話機 5 7 0 と電話機 5 7 1 との間の端末間通信接続制御の手順が完了し、電話機 5 7 0 と電話機 5 7 1 との間の通話が行えるようになる。

【 0 4 0 7 】

電話の通話終了において、電話機 5 7 0 から電話の呼解放通知が交換機 5 5 7 に送出され（図 1 8 9 のステップ J42）、交換機 5 5 7 から呼解放完了通知が電話機 5 7 0 に返される（ステップ J43）。以下続いて、交換機 5 5 7、交換機 5 5 9、ゲートウェイ 5 5 1、電話管理サーバ 5 4 9 - 1、電話管理サーバ 5 4 9 - 5、ゲートウェイ 5 5 4、交換機 5 6 2、交換機 5 6 1、電話機 5 7 1 間で呼解放の通知と呼解放完了の通知を順次送受することで、接続の解放を実施する（ステップ J44 及至 J59）。

【 0 4 0 8 】

前記ステップの交換機や電話管理サーバで送受される制御データは、共通線信号の接続制御メッセージに相当し、例えばステップ J09, J17, J26, J36, J50, J51 は、それぞれ IAM メッセージ、ACM メッセージ、CPG メッセージ、ANM メッセージ、REL メッセージ、RLC メッセージに相当する。

【 0 4 0 9 】

以上の“電話機間の通信接続制御—その 1”を要約すると、下記のような。即ち、I P 転送網を中継網として用い、公衆電話交換網に接続する 2 電話機間の通信接続制御方法であり、送信元電話機は、送信元電話番号、通信事業者識別コード及び宛先電話番号を用いて発呼し、通信事業者コードにより特定される I P 転送網側ゲートウェイにおいて、“I P 転送網内部への入回線表”を参照することにより、I P 転送網へ接続するための入ゲートウェイの信号局コードを取得する。入ゲートウェイでは、宛先電話番号をパラメータとして、そのゲートウェイ内の“I P 転送網外部への出回線表”を参照することにより、I P 転送網内部から公衆電話交換網へ通話回線を接続するための出ゲートウェイの I P アドレスを取得し、前記取得した I P アドレスに向けて、発信元電話番号及び宛先電話

番号を含めたIPパケットを出ゲートウェイへ転送する。出ゲートウェイでは、前記で受信したIPパケットに含まれる発信元電話番号、宛先電話番号を元に公衆電話交換網に発呼を行い、交換機を経て宛先電話に転送する。

【0410】

前記他の方法として、“IP転送網外部への出回線情報”は電話番号サーバに問い合わせ、前記電話番号サーバが回答する。“IP転送網内部への入回線情報”はIP転送網外部にNNI通信回線を有するゲートウェイの信号局コードであり、“IP転送網外部への出回線情報”はIP転送網外部にNNI通信回線を有するゲートウェイへのIPアドレスである。

【0411】

<<電話機間の通信接続制御—その2>>

図190及び図191を参照して説明する。

【0412】

電話番号“03-1111-2222”である発信元の電話機570から、電話番号“092-555-6666”である宛先の電話機572へ電話接続する例である。電話機570から、“00XY-092-555-6666”とダイヤルして電話接続を要求すると(図190のステップK01)、交換機557が応答する(ステップK02)。交換機557は、前記ダイヤルされた情報に含まれる通信事業者識別コード“00XY”を用いて、“00XY”が付与されている回線情報を含むゲートウェイ550に接続する交換機558を見出し、前記ダイヤル時に取得した発信元電話番号“03-1111-2222”及び“00XY-092-555-6666”を交換機558に送信する(ステップK03)。

【0413】

交換機558は、発信元電話番号“03-1111-2222”及び宛先電話番号“092-555-6666”を回線情報を含むゲートウェイ550に送信し(ステップK04)、回線情報を含むゲートウェイ550は、回線情報を含むゲートウェイ550内部のIP転送網入回線表584を参照して、宛先電話番号が“092-555-6666”である電話機に通信回線を接続するためのゲートウェイへのアクセス情報として電話番号“03-4444-4000”を1つ見

出して、交換機558に通知する（ステップK05）。次に、交換機558は、ゲートウェイ電話番号“03-4444-4000”に接続する交換機を探し、このケースにおいては交換機560であることを見出し、前記手順により取得しているゲートウェイへのアクセス情報としての電話番号“03-4444-4000”、発信元電話番号“03-1111-2222”及び宛先電話番号“092-555-6666”を含む情報を交換機560に転送する（ステップK06）。交換機560は、電話番号“03-4444-4000”が付与されているゲートウェイ552に、UNI通信回線580を経て“03-1111-2222”及び宛先電話番号“092-555-6666”を転送する（ステップK07）。ゲートウェイ552は、これら2つの電話番号を受信したことを交換機560に報告する（ステップK08）。

【0414】

ゲートウェイ552は前記情報を受信すると（図187の）IP転送網出回線表587を検索し、宛先電話番号“092-555-6666”をパラメータとして、通信回線を接続するための通信相手先のゲートウェイ、このケースではゲートウェイ553のIPアドレス“10.240.241.1”を取得し、前記取得した発信元電話番号“03-1111-2222”及び宛先電話番号“092-555-6666”を含むIPパケットを形成する。前記形成するIPパケットの送信元IPアドレスは、ゲートウェイ552に付与された（ゲートウェイ552自身が知っている）IPアドレスであり、宛先IPアドレスは、前記取得したゲートウェイ553のIPアドレス“10.240.241.1”である。

【0415】

なお、前述したゲートウェイ552がゲートウェイ553のIPアドレスを見出す手続きにおいて、ゲートウェイ552から電話番号サーバ594に、宛先電話番号“092-555-6666”を提示してゲートウェイ553のIPアドレスの値を質問する“問合せIPパケット”を送出し（図190のステップKK1）、電話番号サーバ594から回答を得て（図190のステップKK2）ことができ、或は電話番号サーバ594の内容を予めゲートウェイ552の内部に転送しておき、IP転送網出回線表として用いることもできる（但し、ステップKK1とK

K2はオプション)。

【0416】

次に、前記形成されゲートウェイ552から送出されたIPパケットは、網ノード装置543及びルータ546-2を経て、電話管理サーバ549-2を経て(ステップK09)、ルータ546-3、ルータ546-4、電話管理サーバ549-4を経由して(ステップK10)、網ノード装置545を経てゲートウェイ553に到達する(ステップK11)。次にゲートウェイ553は、発信元電話番号“03-1111-2222”及び宛先電話番号“092-555-6666”を含む情報をUNI通信回線581を経て交換機563に通知する(ステップK12)。交換機563は、これら2つの電話番号を受信したことをゲートウェイ553に返信する(ステップK13)。

【0417】

交換機563は、発信元電話番号“03-1111-2222”及び宛先電話番号“092-555-6666”を含む呼設定要求を交換機564に転送し(ステップK14)、交換機564は前記呼設定要求を受け取ったことを交換機557へ返信する(ステップK16～ステップK22)。交換機564は電話機572を呼出し(ステップK15)、電話機572は電話呼出中を交換機564に通知する(ステップK24)。交換機564は、宛先電話機572を呼び出していることを送信元電話機570に通知する(ステップK25～ステップK32)。電話機572がオフフック通知されると(ステップK33)、電話通信開始可能通知が送信元電話機570に通知されて(ステップK35～ステップK42)、電話通信が開始される。

【0418】

以上により、電話機570と電話機572との間の端末間通信接続制御の手順が完了し、電話機570と電話機572との間の通話が行えるようになる。

【0419】

電話の通話終了において、電話機570から電話の呼解放の通知が交換機557に送出され(図191のステップK44)、交換機557から呼解放完了の通知が電話機570に返される(ステップK45)。この呼解放の通知及び呼解放完了の通知により、電話機570と交換機557との間の接続が解放される。以

下続いて、交換機 557、交換機 560、ゲートウェイ 552、電話管理サーバ 549-2、電話管理サーバ 549-4、ゲートウェイ 553、交換機 563、交換機 564、電話機 572 間で呼解放の通知と呼解放完了の通知を順次送受することで、電話呼の解放を遂行する（ステップ K46～K61）。

【0420】

以上の“電話機間の通信接続制御—その 2”を要約すると、公衆電話交換網に接続する電話機から、IP 転送網を経由して公衆電話交換網に接続する他の電話機に通信するための端末間通信接続制御方法であり、概略は電話機間の通信接続制御—その 1 と類似している。異なる主な点は、“IP 転送網内部への入回線情報”は IP 転送網外部に UNI 通信回線を有するゲートウェイの電話番号であり、

“IP 転送網外部への出回線情報”は IP 転送網外部に UNI 通信回線を有するゲートウェイへの IP アドレスである。

【0421】

<<電話機間の通信接続制御—その 3>>

電話番号“03-1111-2222”である発信元の電話機 570 から、電話番号“093-555-6666”である宛先の電話機 598 へ電話接続する例である。

【0422】

この例においては、電話機 570 から“00XY-093-555-6666”とダイヤルして電話接続を要求し、交換機 558 は回線情報を含むゲートウェイ 550 に要求すると、ゲートウェイ 550 内部で IP 転送網入回線表 584 が用いられ、交換機 558 は宛先電話番号が“093-555-6666”である電話機に通信回線を接続するためのゲートウェイへのアクセス情報として信号局コード“#2222”を取得し、ここで、交換機 559 とゲートウェイ 551 とは NNI 通信回線 577 を経て接続されている。

【0423】

次に、ゲートウェイ 551 は、ゲートウェイ 551 内部の IP 転送網出回線表 586 又は電話番号サーバ 593 に問い合わせ、宛先電話番号“093-555-6666”を有する電話機に通信回線を接続するためのゲートウェイ 553 の I

Pアドレスを取得し、発信元電話番号“03-1111-2222”及び宛先電話番号“093-555-6666”を含むIPパケットを形成する。前記形成されたIPパケットはゲートウェイ551から送出され、ルータ546-1、電話管理サーバ549-1、ルータ546-1、ルータ546-5、電話管理サーバ549-5、ルータ546-5、網ノード装置545を経てゲートウェイ553に到達する。

【0424】

以降、IPパケットから得られる発信元電話番号“03-1111-2222”及び宛先電話番号“093-555-6666”を含む端末間接続情報が、交換機563及び交換機566を経て電話機598に到達し、電話機570と電話機598との間の端末間通信接続制御が完了する。

【0425】

以上の“電話機間の通信接続制御—その3”と“電話機間の通信接続制御—その1”とは類似しているが、対比的な点は、“IP転送網内部への入回線情報”はIP転送網外部にNNI通信回線を有するゲートウェイの信号局コードであり、“IP転送網外部への出回線情報”はIP転送網外部にUNI通信回線を有するゲートウェイへのIPアドレスである。

【0426】

<<電話機間の通信接続制御—その4>>

電話番号“03-1111-2222”である発信元の電話機570から、電話番号“07-3333-4444”である宛先の電話機597へ電話接続する例である。

【0427】

この例においては、電話機570から、“00XY-07-3333-4444”とダイヤルして電話接続を要求し、交換機558は回線情報を含むゲートウェイ550に要求し、ゲートウェイ550内部でIP転送網入回線表584が用いられ、交換機558は、宛先電話番号が“07-3333-4444”である電話機に通信回線を接続するためのゲートウェイへのアクセス情報として電話番号“03-4444-4000”を取得する。次に、ゲートウェイ552はゲ-

トウェイ552内部のIP転送網出回線表587又は電話番号サーバ594に問合わせて、宛先電話番号“07-3333-4444”を有する電話機に通信回線を接続するためのゲートウェイ554のIPアドレスを取得し、発信元電話番号“03-1111-2222”及び宛先電話番号“07-3333-4444”を含むIPパケットを形成する。前記形成されたIPパケットはゲートウェイ552から送出され、網ノード装置543、ルータ546-2、電話管理サーバ549-2、ルータ546-2、ルータ546-1、ルータ546-5、電話管理サーバ549-5、ルータ546-5を経てゲートウェイ554に到達する。

【0428】

以降、IPパケットから得られる発信元電話番号“03-1111-2222”と宛先電話番号“07-3333-4444”とを含む端末間接続情報が、交換機562及び交換機565を経て電話機597に到達し、電話機570と電話機597との間の端末間通信接続制御が完了する。

【0429】

以上の“電話機間の通信接続制御—その4”と“電話機間の通信接続制御—その1”とは類似しているが、対比的な点は、“IP転送網内部への入回線情報”はIP転送網外部にUNI通信回線を有するゲートウェイの電話番号であり、“IP転送網外部への出回線情報”はIP転送網外部にNNI通信回線を有するゲートウェイへのIPアドレスである。

【0430】

<<電話機間の通信接続制御—その5>>

電話番号“03-1111-2222”である発信元の電話機570から、メディアルータ591に接続する電話機573（但し、電話番号は“045-777-8888”である電話機）へ電話接続する例である。

【0431】

電話機570から“00XY-045-777-8888”とダイヤルして電話接続を要求すると（図192に示すステップL01）、交換機557が応答し（ステップL02）、交換機557は前記ダイヤルされた情報に含まれる通信事業者識別コード“00XY”を用いて、“00XY”が付与されている回線情報を

含むゲートウェイ550に接続する交換機558を見出し、前記ダイヤル時に取得した発信元電話番号“03-1111-2222”及び“00XY-045-777-8888”を交換機558に送信する（ステップL03）。

【0432】

交換機558は、発信元電話番号“03-1111-2222”及び宛先電話番号“045-777-8888”を、回線情報を含むゲートウェイ550に送信し（ステップL04）、ゲートウェイ550は、IP転送網入回線表584を参照し、宛先電話番号が“045-777-8888”である電話機に通信回線を接続するためのゲートウェイへのアクセス情報として電話番号“03-4444-4000”を見出して交換機558に通知する（ステップL05）。次に、交換機558は、ゲートウェイ電話番号“03-4444-4000”に接続する交換機560を見出し、前記手順により取得している電話番号“03-4444-4000”、発信元電話番号“03-1111-2222”及び宛先電話番号“045-777-8888”を含む情報を、交換機560に転送する（ステップL06）。交換機560は電話番号“03-4444-4000”が付与されているゲートウェイ552に、通信回線580を経て、“03-1111-2222”及び宛先電話番号“045-777-8888”を転送し（ステップL07）、ゲートウェイ552は、少なくともこれら2つの電話番号を受信したことを交換機560に返信する（ステップL08）。

【0433】

次に、ゲートウェイ552は、前記の通信接続制御により取得した発信元電話番号“03-1111-2222”及び宛先電話番号“045-777-8888”を含むIPパケットを形成する。IPパケットの送信元IPアドレスはゲートウェイ552に付与された（ゲートウェイ552自身が知っている）IPアドレスであり、宛先IPアドレスは、通信回線を接続するための通信相手先、このケースではメディアルータ591のIPアドレス“10.241.1.1”であり、IP転送網出回線表587から宛先電話番号“045-777-8888”をパラメータとして見出す。

【0434】

こうして形成され、ゲートウェイ 5 5 2 から送出された電話呼接続要求の IP パケットは、網ノード装置 5 4 3、ルータ 5 4 6 - 2、電話管理サーバ 5 4 9 - 2、ルータ 5 4 6 - 2、ルータ 5 4 6 - 3、電話管理サーバ 5 4 9 - 3、ルータ 5 4 6 - 3、網ノード装置 5 4 4 を経て、メディアルータ 5 9 1 に到達する（ステップ L10～L16）。メディアルータ 5 9 1 は、前記電話呼接続要求を受けたことを交換機 5 5 7 へ返信し（ステップ L20～ステップ L25）、更にメディアルータ 5 9 1 は電話機 5 7 3 を呼出し（ステップ L18）、電話機が返信すると（ステップ L27）、メディアルータ 5 9 1 は送信元電話機 5 7 0 に宛先電話機呼出中を通知する（ステップ L29～ステップ L35）。電話機 5 7 3 がオフフックされると（ステップ L36）、電話通信開始可能を表わす応答が送信元電話機 5 7 0 に通知されて（ステップ L38～ステップ L44）、電話通信が開始される。

【 0 4 3 5 】

以上により、電話機 5 7 0 と電話機 5 7 3 との間の端末間通信接続制御手順が完了し、電話機 5 7 0 と電話機 5 7 3 との間の通話が行えるようになる。

【 0 4 3 6 】

電話の通話終了において、電話機 5 7 0 から電話の呼解放の通知が交換機 5 5 7 に送出され（ステップ L45）、交換機 5 5 7 から呼解放完了の通知が電話機 5 7 0 に返される（ステップ K46）。この呼解放の通知及び呼解放完了の通知により、電話機 5 7 0 と交換機 5 5 7 の間の接続が解放される。以下続いて、交換機 5 5 7、交換機 5 6 0、ゲートウェイ 5 5 2、電話管理サーバ 5 4 9 - 2、電話管理サーバ 5 4 9 - 3、メディアルータ 5 9 1、電話機 5 7 3 間で呼解放通知と呼解放完了通知を順次送受することで、接続の解放を実施する（ステップ J47～J60）。

【 0 4 3 7 】

以上の“電話機間の通信接続制御－その 5”は、“電話機間の通信接続制御－その 1”と類似しており、対比的な主要点は、電話接続先が、メディアルータに接続する電話機である。

【 0 4 3 8 】

<<電話機間の通信接続制御－その 6>>

図193を参照して説明する。540-1はIP転送網、550-1及び554-1はゲートウェイ、1000は「入り回線情報サーバ」である。他の装置や電話機、公衆交換網などは図185に示す装置や電話機など同一であり、同じ番号で示している。この実施例は、(図185の)回線情報を含むゲートウェイ550の代わりに、IP転送網入り回線表584を含む入り回線情報サーバ1000を用いることが特徴であり、図188のステップJ04とステップJ05の代わりに、図194のステップJ04xとステップJ05xを用いる。

【0439】

入り回線情報サーバ1000は、公衆電話交換網555から識別できる通信事業者識別コード“00XY”と、公衆電話交換網555から識別するための信号局コードとを付与されている。電話番号“03-1111-2222”である発信元の電話機570から、電話番号“06-3333-4444”である宛先の電話機571へ電話接続する例である。図194を参照して説明する。

【0440】

電話機570から“00XY-06-3333-4444”とダイヤルして電話呼出しすると(図194のステップJ01)、交換機557が呼出確認し(ステップJ02)、交換機557は、前記ダイヤルされた情報に含まれる通信事業者識別コード“00XY”を用いて、“00XY”が付与されている入り回線情報サーバ1000に接続する交換機558を見出し、前記ダイヤル時に取得した発信元電話番号“03-1111-2222”及び“00XY-06-3333-4444”を交換機558に送信する(ステップJ03)。交換機558は、発信元電話番号“03-1111-2222”及び宛先電話番号“06-3333-4444”を入り回線情報サーバ1000に送信し(ステップJ04x)、入り回線情報サーバ1000は、入り回線情報サーバ1000内部のIP転送網入り回線表584を参照し、宛先電話機の電話番号をパラメータとして、即ち宛先電話番号が“06-3333-4444”である電話機に通信回線を接続するためのゲートウェイへのアクセス情報として、ゲートウェイはNNIインタフェースを有し、信号局としてのゲートウェイの信号局コードは“#2222”であることを知り、交換機558に返信する(ステップJ05x)。以下、前記ステップJ06~J40を実

施することにより、電話機 5 7 0 と電話機 5 7 1 との間の端末間通信接続制御手順が行われ、電話機 5 7 0 と電話機 5 7 1 との間の通話が行えるようになる。同様に、電話機 5 7 0 から、電話機 5 7 2、5 9 7、5 9 8、5 7 3 との間の端末間通信接続制御の手順を行うことができる。

【0 4 4 1】

<<網ノード装置の実施例>>

前記端末間通信接続制御方法において用いられる網ノード装置について、図 1 9 5 を参照して説明する。

【0 4 4 2】

5 4 0 - 1 は IP 転送網、5 4 3 - 1 及び 5 4 5 - 1 は網ノード装置、5 5 2 - 1 及び 5 5 4 - 1 はゲートウェイ、5 4 7 - 1 及び 5 4 8 - 1 は中継装置であり、それぞれ通信回線により接続されている。ゲートウェイ 5 5 2 - 1 に IP アドレス “a” が、ゲートウェイ 5 5 4 - 1 に IP アドレス “b” がそれぞれ付与されており、更に網ノード装置 5 4 3 - 1 のゲートウェイ 5 5 2 - 1 側の通信回線との接点に、IP アドレス “x” が付与され、網ノード装置 5 4 5 - 1 のゲートウェイ 5 5 4 - 1 側の通信回線との接点に、IP アドレス “y” が付与されている。5 4 3 - 1 T は、前記の 4 組の IP アドレス “a”、“b”、“x”、“y” を保持しているアドレス管理表である。5 4 5 - 1 T は、前記 4 組の IP アドレス “b”、“a”、“y”、“x” を保持しているアドレス管理表である。

【0 4 4 3】

ゲートウェイ 5 5 2 - 1 からゲートウェイ 5 5 4 - 1 に送られる IP パケットの PCK-1 は、送信元 IP アドレスが “a”、宛先 IP アドレスが “b” であり、網ノード装置 5 4 3 - 1 に到達すると、アドレス管理表 5 4 3 - 1 T が参照される。本例では、内部情報 “a”、“b”、“x”、“y” のうち、前から 3 つの IP アドレス “a”、“b”、“x” が IP パケットの PCK-1 内部の 3 つの IP アドレスと一致するので、アドレス管理表 5 4 3 - 1 T 内部の他の IP アドレス “y” が取り出されて、IP ヘッダを付与する IP カプセル化が行われて、新しい IP パケットである PCK-2 が形成される。PCK-2 は網ノード装置 5 4 3 - 1 から通信回線に送出され、ルータ 5 4 7 - 1、5 4 8 - 1 を経て網ノード装置 5 4 5

ー 1 に到達し、ここで前記 I P カプセル化により付与された I P ヘッダを取り除く逆カプセル化が行われて、I P パケットの PCK-3 が復元され、通信回線を経てゲートウェイ 5 5 4 - 1 に送られる。アドレス管理表 5 4 5 - 1 T は、前記と逆方向の I P パケット送信のために使われる。

【 0 4 4 4 】

網ノード装置 5 4 3 - 1 及び 5 4 5 - 1 は、I P カプセル化と逆カプセル化を行う機能を有し、そのためにアドレス管理表を保持している。ゲートウェイの I P アドレスは、網ノード装置 5 4 3 - 1 と 5 4 5 - 1 のアドレス管理表内に登録保持されている特徴がある。

【 0 4 4 5 】

<< 網ノード装置の他の実施例 >>

図 1 9 6 を参照して、網ノード装置 5 4 3 - 2 及び 5 4 5 - 2 の他の実施例を説明する。

【 0 4 4 6 】

5 4 0 - 2 は I P 転送網、5 4 3 - 2 及び 5 4 5 - 2 は網ノード装置、5 5 2 - 2 及び 5 5 4 - 2 はゲートウェイ、5 4 7 - 2 及び 5 4 8 - 2 は中継装置であり、それぞれ通信回線により接続されている。ゲートウェイ 5 5 2 - 2 に I P アドレス “ a ” が、ゲートウェイ 5 5 4 - 2 に I P アドレス “ b ” がそれぞれ付与されている。5 4 3 - 2 T は前記 I P アドレス “ a ” を、5 4 5 - 2 T は前記 I P アドレス “ b ” を保持しているアドレス管理表である。

【 0 4 4 7 】

ゲートウェイ 5 5 2 - 2 からゲートウェイ 5 5 4 - 2 に送られる I P パケットの PCK-11 は、送信元 I P アドレスが “ a ” 、宛先 I P アドレスが “ b ” であり、網ノード装置 5 4 3 - 2 に到達するとアドレス管理表 5 4 3 - 2 T が参照される。本例では、内部情報の “ a ” が I P パケットの PCK-11 内部の送信元の I P アドレスと一致するので、PCK-11 を I P 転送網 5 4 0 内部に転送する許可があると理解でき、次に PCK-11 をそのまま、PCK-12 とする。PCK-12 は網ノード装置 5 4 3 - 2 から通信回線に送出され、ルータ 5 4 7 - 2 , 5 4 8 - 2 を経て網ノード装置 5 4 5 - 2 に到達する。ここで、アドレス管理表 5 4 5 - 2 T の内部に PCK - 12 の

宛先IPアドレス“b”が記録されているので、PCK-12はそのまま、PCK-13として、通信回線を経てゲートウェイ554-2に送られる。網ノード装置543-2及び545-2は、IP転送網540-2の内部にIPパケットを受入れ許可を確認し、或はIP転送網540-2の外部にIPアドレス“b”が存在することを確認できる。ゲートウェイのIPアドレスは、網ノード装置543-2及び545-2のアドレス管理表内に登録保持されている特徴がある。

【0448】

以上、網ノード装置の機能を要約すると、本実施例において、網ノード装置は、IPパケットをIP転送網の外部からIP転送網の内部に受け入れるとき、IPヘッダを新たに付与するIPカプセル化を行うタイプと、IPカプセル化を行わないタイプの2つのタイプがある。ゲートウェイのIPアドレスは、網ノード装置のアドレス管理表内に登録保持されている。

【0449】

13. 制御線と音声線とを分離して公衆電話交換網に接続する第13実施例：

制御通信回線と音声通信回線とを分離し、IP転送網と公衆電話交換網（PSTN）とを経由する電話機間通信接続制御する方法を説明する。

図197において、1500はIP転送網、1501は公衆電話交換網、1502はカプセル化機能付ゲートウェイ、1503は中継ゲートウェイ、1508及び1520は電話機、1518は中継交換機、1519は加入者交換機、1505は共通線信号方式による制御通信回線、1506は音声通信回線である。1507は制御IP通信回線、1509は音声IP通信回線である。1544及び1547は網ノード装置、1570は代理電話サーバ、1571は電話管理サーバ、1572は電話番号サーバ、1573は表管理サーバ、1521、1522、1523、1524はそれぞれルータである。1513は中継制御部（STP）、1516は音声制御部である。

【0450】

図197に示すIP転送網の内部リソース（装置やサーバ）の一部は、図128又は図170に示すIP転送網の内部リソースの一部と対応付け可能であり、

電話機1508、メディアルータ1560、網ノード装置1544、代理電話サーバ1570、電話管理サーバ1571、電話番号サーバ1572、表管理サーバ1573、網ノード装置1547はそれぞれ電話機1208、メディアルータ1201、網ノード装置1244、代理電話サーバ1270、電話管理サーバ1271、電話番号サーバ1272、表管理サーバ1273、網ノード装置1247に対応する。

【0451】

<<中継制御部の機能>>

本発明において、共通線信号方式におけるポイント (Point) を信号局、ポイントコード (Point Code) を“信号局アドレス”により表わす。中継ゲートウェイ1503内部の中継制御部1513は、公衆電話交換網1501から見ると共通線信号方式の中継信号局 (STP) であり、信号局アドレス“PC-3”を付与されている。中継制御部1513は信号局アドレス管理表1527 (図208) を管理しており、この信号局アドレス管理表を検索して、公衆電話交換網1501内の交換機の信号局アドレスを取得することが出来る。中継ゲートウェイ1503は、NNI通信回線1505に送信する信号ユニット内に書き込む回線番号“CI C-n”や、信号リンク選択“SLS-n”の生成ルールを公衆電話交換網1501と同じルールに定めてある。

【0452】

中継制御部1513は、IPアドレス“GW03”を付与されており、制御IP通信回線1507から送られてくるIPパケットに格納された電話呼制御の各種メッセージ (IAM, ACM, CPG, ANM, REL, RLCなど) を、共通線信号方式の信号ユニットに格納した各種メッセージ (IAM, ACM, CPG, ANM, REL, RLCなど) に変換して、制御通信回線1505へ送信する。また、逆方向に、中継制御部1513は、制御通信回線1505から送られてくる信号ユニットに格納された電話呼制御用の各種メッセージを、IPパケットに格納したメッセージに変換して制御IP通信回線1507へ送信する機能を有する。中継制御部1513に付与されたIPアドレス“GW03”や信号局コード“PC-3”は、中継ゲートウェイ1503に付与されたIPアドレスや信

号局コードでもある。

【0453】

<<音声制御部の機能>>

音声制御部1516は、音声IP通信回線1509から送られてくるIPパケットに格納された音声を、公衆電話交換網1501内を転送できる形式、例えばISDNの一次群インタフェース(PRI、23B+D)のデータ通信路に適合する音声フレームに変換して音声通信回線1506に送信する。また、逆方向に、音声制御部1516は、公衆電話交換網1501の音声通信回線1506から送られてくる音声フレームをIPパケット形式に変換して、音声IP通信回線1509に送信する機能を有する。音声制御部は内部に音声IPパケットを送受するためのIPアドレスを有し、メディアパス接続表の設定に供する。

【0454】

<<電話番号サーバ>>

電話番号サーバ1572は電話番号を質問すると、質問を受けた電話番号を有する電話機へ通信するためのIPアドレスを回答する。電話通信先が中継ゲートウェイであるケースでは、中継ゲートウェイに付与されたIPアドレスの値を回答し、電話通信先がカプセル化機能付ゲートウェイであるケースでは、ゲートウェイの先に接続するメディアルータのIPアドレスを回答する。

【0455】

<<接続フェーズ>>

電話機1508から電話機1520へ電話通信する例である。この実施例では、代理電話サーバ1570のIPアドレス“EA81”はIP転送網1500の利用者へ公開しており、メディアルータ1560は前記IPアドレス“EA81”を保持している。電話機1508の受話器を上げると、呼出信号がメディアルータ1560へ伝えられ(図198のステップN01)、メディアルータ1560は電話呼出を確認する(ステップN02)。次に、メディアルータ1560は、送信元IPアドレスをメディアルータ1560のIPアドレス“EA1”、宛先IPアドレスを代理電話サーバ1570の外部IPアドレス“EA81”とし、送信元となる電話機1508の電話番号“TN-1”、宛先となる電話機1520の電話番号“TN-2”、

送信元となる電話機1508が電話音声を送信するために用いるUDPポート番号“5006”、付加情報“Info-2”を含むIPパケット1530（図199）を形成し、網ノード装置1544へ送信する（ステップN03）。IPパケット1530のペイロード部分はUDPパケットであり、その送信元及び宛先ポート番号とも“5060”の例である。

【0456】

網ノード装置1544は外部IPパケット1530を入力し、他の実施例で説明しているIPカプセル化技法を適用して内部IPパケット1531（図200）を形成し、IPパケット1531を、内部IPアドレスが“IA81”である代理電話サーバ1570へ送信する（ステップN04）。代理電話サーバ1570は、IPパケット1531を受信すると、IPパケット1531内部に含まれるIPアドレス“EA1,IA1,EA81,IA81”を、ペイロード部分に含むIPパケット1532-1（図201）を形成し、電話管理サーバ1571へ送信する（ステップN05）。ここで、代理電話サーバ1570は、予め保持している電話管理サーバ1571のIPアドレス“IA91”を用いている。

【0457】

<<CIC管理表の形成>>

電話管理サーバ1571はIPパケット1532-1を受信し、電話管理サーバ1571が管理するCIC管理表のレコードに、電話管理サーバ1571のIPアドレス“IA91”、手順区分“IAM”、送信元電話番号“TN-1”、宛先電話番号“TN-2”、メディアルータ1560の外部IPアドレスの“EA1”と内部IPアドレスの“IA1”、IPパケット1532-1内部の音声通信用ポート番号“5006”、代理電話サーバ1570の外部IPアドレス“EA81”と内部IPアドレス“IA81”、書込み時刻（年月日時分秒）“St-2”を書き込む（図202のCIC管理表1571-1）。

【0458】

次に、電話管理サーバ1571は、宛先電話番号“TN-2”を質問するIPパケット1532-2（図203）を電話番号サーバ1572に示し（ステップN06）、電話番号サーバ1572は、電話機1520へ接続する装置類のIPアドレ

ス“GW03”をIPパケット1532-3（図204）に格納して回答する（ステップN07）。なお、電話機1520へ接続する装置類は、中継ゲートウェイ1503内部の中継制御部1513となっている例である。

【0459】

<<回線番号の管理>>

電話管理サーバ1571は、電話番号サーバ1572から取得した中継制御部1513のIPアドレス“GW03”をCIC管理表1571-1（図202）に追加し、更に電話管理サーバ1571のIPアドレス“IA91”及び中継制御部1513のIPアドレス“GW03”の組に対して、電話管理サーバ1571が定めているルールによりCIC番号“CIC-2”を定め、CIC管理表に書き込む。この様子は、CIC管理表1571-2（図205）のレコード示されている。

【0460】

次に電話管理サーバ1571はCIC管理表1571-2（図205）を参照し、IPパケット1532-1（図201）からIPパケット1534（図206）（IAMパケット）を形成し、IPパケット1534を中継制御部1513へ送信する（ステップN09）。ここで、IPパケット1534の宛先IPアドレスは中継制御部1513のIPアドレス“GW03”である。

【0461】

<<中継制御部の動作>>

中継制御部1513はIPパケット1534（図206）を受信すると（ステップN09）、IPパケット1534から送信元IPアドレス“IA91”、宛先IPアドレス“GW03”、回線番号“CIC-2”、手順区分“IAM”、送信元電話番号“TN-1”、宛先電話番号“TN-2”、メディアルータ1560の外部IPアドレスの“EA1”と内部IPアドレスの“IA1”、音声通信用ポート番号“5006”、代理電話サーバ1570の外部IPアドレス“EA81”と内部IPアドレス“IA81”を取り出し、中継制御部1513が管理するCIC管理表1513-1（図207）のレコードとして、時刻“St-3”と共に書き込み記録する。

【0462】

更に、中継制御部1513は、信号局アドレス管理表1527（図208）を

検索して、宛先電話機 1520 の電話番号 “TN-2” を提示して、電話機 1520 を管理する交換機 1519 の信号局アドレス “PC-19” を取得する。更に、中継制御部 1513 は、予め公衆電話交換網 1501 と取り決めてあるルールにより、回線番号 “CIC-3”、信号リンク選択 “SLS-3” を定める。中継制御部 1513 は、中継制御部 1513 の信号局アドレス “PC-3”、前記取得した “PC-19”、前記信号リンク選択 “SLS-3”、前記回線番号 “CIC-3” とを、メディアパス識別子 “MP-7” と共に、アドレス接続表 1525 の新規レコードとして書き込み、結果としてアドレス接続表は 1525-1 に示すようになる（図 209）。

【0463】

続いて、中継制御部 1513 は、前記信号局アドレス “PC-3”、前記取得した “PC-19” と、前記回線番号 “CIC-3” と信号リンク選択 “SLS-3” と、IP パケット 1534 から取得したメッセージ “IAM”、パラメータ “Para-2” を含む信号ユニット 1535 を形成し（図 210）、制御通信回線 1505 へ送信する（ステップ N10）。

【0464】

<<中継制御部と音声制御部との連携動作>>

中継制御部 1513 は、前記メディアパス識別子 “MP-7”、カプセル化用の内部 IP アドレス “IA-1”、前記メディアルータ 1560 の外部 IP アドレスの “EA1”、音声通信用ポート番号 “5006” とを、情報回線 1515 経由で音声制御部 1516 へ通知し（図 211 のステップ 1513-1）、音声制御部 1516 は、前記通知された情報をメディアパス接続表 1528 のレコードとして書き込み、書き込み完了を報告する（ステップ 1516-1）。前記メディアパス識別子は、2 電話機間の電話呼（接続／通話／解放）に用いる音声通信路を識別するために用いる。メディアパス接続表 1528-1（図 214）のレコードは書き込み前を、メディアパス接続表 1528-2（図 215）は書き込み結果を示す。なお、音声制御部 1516 は、音声制御部 1516 から音声通信回線 1506 へ音声を送信するための論理通信回線を定め、その論理通信回線識別子 “CH-1”（（送信チャンネル：Channel-S により表わす））を、メディアパス接続表 1528-2 のレコードとして書き込んでいる。

【0465】

<<交換網の動作とACMメッセージ>>

交換機1518は、制御通信回線1505経由で信号ユニット1535を受信し（ステップN10）、次に信号ユニット1535を交換機1519へ転送する（ステップN11）。交換機1519は信号ユニット1535を受信し、内部に含まれる宛先電話番号“TN-2”が着信可能であることを確認し、着信可能であれば着信通知を電話機1520へ通知し（ステップN12）、更に信号ユニット1535の受信を知らせる信号ユニット1538-1（図218）を形成して返信し、前記信号ユニットは交換機1518を経由して（ステップN13）、中継制御部1513に到達する（ステップN14）。中継制御部1513は、受信した信号ユニット1538-1のラベル情報を基に、アドレス接続表1525-1（図209）を参照し、IPパケット形成のためのアドレス情報を取得し、IPパケット1551（ACMメッセージ）（図219）を形成し、IPパケット1551を電話管理サーバ1571へ送信する（ステップN15）。

【0466】

電話管理サーバ1571は、受信したIPパケット1551から回線番号“CIC-2”及び手順区分“ACM”を取り出し、電話管理サーバ1571が保持するCIC管理表1571-2（図205）を調べて、自己IPアドレス“IA91”、相手IPアドレス“GW03”、回線番号“CIC-2”であるレコードを見出し、CIC管理表1571-2の該当レコードの手順区分欄を前記手順区分“ACM”に書き変える。次に、電話管理サーバ1571は、前記ACMメッセージを受信したことを示すIPパケットを形成し、メディアルータ1560へ通知する（ステップN17, N18, N19）。

【0467】

<<メディアパス接続表>>

ステップN10を完了した後に、中継制御部1513は、音声制御部1516にメディアパス識別子“MP-7”を添付して、IPアドレスとポート番号を要求すると（図212のステップ1513-2）、音声制御部1516は、音声制御部1516が形成しIP転送網1500の内部の音声IP通信回線1509に送出す

るIPパケットのカプセル化用の内部IPアドレス“IA1”、送信元IPアドレス“EA3”とUDPパケットのポート番号“5008”とを、中継制御部1513へ回答する（ステップ1516-2）。メディアパス識別子により識別する音声通信路は、音声制御部1516の内部に付与するIPアドレス（“IA3, EA3, …”）と、ポート番号（“5004、5006、…”）の組み合わせにより、多数の音声通信路を定めることができる。なお、音声制御部1516は、交換機1518から受信する論理音声通信回線を確認し、その識別子“CH-2”（受信チャンネル：Channel-Rで表わす）を定め、メディアパス接続表1528-3（図216）のレコードに記録している。

【0468】

中継制御部1513は、音声制御部1516内の内部IPアドレス“IA1”、送信元外部IPアドレス“EA3”とUDPパケットのポート番号“5008”とを音声制御部1516から受信し、IPアドレス“EA3”に対応する内部IPアドレス“IA3”を定め、CIC管理表1513-1（図207）に書き込み、その結果はCIC管理表1513-2（図217）のようになる（なお、代理電話管理サーバのアドレスは含まれない）。なお、中継制御部1513は、予め音声制御部用の内部IPアドレスを1以上保持しており、その1つを前記内部IPアドレス“IA3”としている。

【0469】

<<CPGメッセージの送信>>

電話機1520が電話呼出中を交換機1519に報告すると（ステップN20）、交換機1519は電話呼出中を知らせる信号ユニット（CPGメッセージ）を形成して送信し、前記信号ユニットは交換機1518を経由して（ステップN21）、中継制御部1513に到達する（ステップN22）。中継制御部1513は、受信した前記信号ユニットのラベル情報を基にアドレス接続表1525-1（図209）を参照し、IPパケット形成のためのアドレス情報を取得し、IPパケット形式のCPGメッセージ1552（図220）を形成し、前記IPパケットは電話管理サーバ1571へ送信される（ステップN23）。電話管理サーバ1571は、前記電話呼出中通知をメディアルータ1560経由で電話機1508へ通知

する（ステップN25乃至N28）。中継制御部1513は前記CPGメッセージを形成するとき、CIC管理表1513-2（図217）から音声制御部内の送信元外部IPアドレス“EA3”、内部IPアドレス“IA3”とUDPパケットのポート番号“5008”とを取得し、CPGメッセージ1552に書き込んでいる。電話管理サーバ1571は、受信したCPGパケット1552から、外部IPアドレス“EA3”、内部IPアドレス“IA3”及びポート番号“5008”を取り出して管理表1571-2（図205）に書き込むことができる。

【0470】

<<ANMメッセージの送信>>

次に、電話機1520の利用者が電話呼出しに応答すると（ステップN30）、交換機1519は応答を知らせる信号ユニット（ANMメッセージ）を形成して送信し、前記信号ユニットは交換機1518を経由して（ステップN31）、中継制御部1513に到達する（ステップN32）。中継制御部1513は、受信した前記信号ユニットのラベル情報を基にアドレス接続表1525-1（図209）を参照し、IPパケット形式のANMメッセージ1553（図221）を形成し、IPパケット1553は電話管理サーバ1571へ送信される（ステップN33）。そして、電話管理サーバ1571は、前記電話応答の通知をメディアルータ1560経由で電話機1508へ通知する（ステップN35乃至N38）。即ち、電話管理サーバ1571から代理電話サーバ1570へIPパケット1554（図223）が送られ（ステップN35）、代理電話サーバ1570から網ノード装置1544へIPパケット1555（図224）が送られ（ステップN36）、網ノード装置1544からメディアルータ1560へIPパケット1556（図225）が送られる（ステップN37）。

【0471】

中継制御部1513は前記ANMメッセージを形成するとき、CIC管理表1513-2（図217）から音声制御部内の送信元外部IPアドレス“EA3”、内部IPアドレス“IA3”とUDPパケットのポート番号“5008”とを取得し、ANMメッセージ1553に書き込んでいる。電話管理サーバ1571は、受信した応答パケット1553から外部IPアドレス“EA3”、内部IPアドレス“IA3”及び

ポート番号“5008”を取り出してCIC管理表1571-2（図205）に書き込むことができる。

【0472】

<<CIC管理表1571への書き込みタイミング>>

電話管理サーバ1571が、前記外部IPアドレス“EA3”，内部IPアドレス“IA3”及びポート番号“5008”を取り出してCIC管理表1571-2に書き込むタイミングは、前記説明のうちCPGメッセージを受信したステップN23、又はANMメッセージを受信したステップN33の一方のみ行う。

【0473】

<<中継制御部によるIP通信レコードの設定>>

中継制御部は、前記ステップN33において、CIC管理表1513-3（図222）のレコード内部からIPアドレス“EA3”、“EA1”、“IA3”、“IA1”を取り出して表管理サーバ1576に送信し（ステップN41）、表管理サーバ1576は、網ノード装置1547内部のアドレス管理表のIP通信レコード“EA3、EA1、IA3、IA1”として設定する（ステップN42）。なお、前記アドレス管理表のレコードの形態及びレコードへのアドレス設定方法は他の実施例において説明している。

【0474】

<<電話管理サーバによるIP通信レコードの設定>>

同様に、電話管理サーバ1571は、前記ステップN35において、CIC管理表のレコード内部からIPアドレス“EA1”、“EA3”、“IA1”、“IA3”を取り出して表管理サーバ1573に送信し（ステップN43）、表管理サーバ1573は、網ノード装置1544内部のアドレス管理表のIP通信レコード“EA1、EA3、IA1、IA3”として設定する（ステップN44）。

【0475】

<<通信フェーズ>>

電話機1508の利用者と電話機1520との電話通信は、他の実施例で説明しているのと同様のステップであり、網ノード装置1544内部のアドレス管理表のIP通信レコード、つまり“EA1,EA3,IA1,IA3”のレコードと、網ノード装

置1547内部のアドレス管理表のIP通信レコード“EA3,EA1,IA3,IA1”のレコードとが用いられる。

【0476】

電話機1508の音声はデジタル化されて、IPパケット1561（図226）のペイロードに乗せられる。ここで、前記接続フェーズにおいて入手した宛先アドレス及びUDPポート番号が用いられる。即ち、送信元アドレスは、メディアルータ1560のIPアドレス“EA1”、宛先アドレスは、宛先電話機1520の接続する音声制御部1516内部のIPアドレス“EA3”であり、メディアルータが音声送信に用いるUDPポート番号は、“5006”、音声制御部1516が音声送信に用いるUDPポート番号は“5008”である。

【0477】

電話機1508からアナログ音声を送られ、メディアルータ1560で音声はデジタル化されて音声IPパケット1561（図226）となり、網ノード装置1544に送られ、網ノード装置において、IP通信レコード“EA1,EA3,IA1,IA3”が用いられて、IPカプセル化が行われて、IPパケット1562（図227）となり、IP通信回線経由で、ルータ1524を経て網ノード装置1547に到達する。ここで、前記IP通信レコード“EA3,EA1,IA3,IA1”が用いられて逆カプセル化されてIPパケット1563（図228）となり、デジタル化音声格納されたIPパケット1563はIP音声制御部1516に到達する。音声制御部は、IPパケット1563に含まれる送信元IPアドレス“EA1”、送信元ポート番号“5006”、宛先IPアドレス“EA3”、宛先ポート番号“5008”を取り出し、メディアパス接続表1528-3（図216）を参照する。送信元IPアドレス“EA1”、送信元ポート番号“5006”、宛先IPアドレス“EA3”、宛先ポート番号“5008”であるメディアパスレコードが用いられて、IPパケット1563内のデジタル化音声は、音声通信回線1506を伝送される形態の音声フレーム1564（図229）に変換され、音声フレーム1564は交換機1518を経由して交換機1519に到達し、電話機1520から音声が出力される。電話機1520から送られた音声フレームに格納された音声は、上述と逆方向に送られ電話機1508へ到達する。

【0478】

<<解放フェーズ>>

電話機1508の利用者が電話通信の解放を通知すると（図198のステップN50）、メディアルータ1560は電話呼解放通知を電話管理サーバ1571に送り（ステップN51乃至N53）、電話管理サーバ1571は解放完了をメディアルータ1560へ返信する（ステップN64乃至N66）。また、電話管理サーバ1571は、電話呼解放を知らせるIPパケット1565（図230）を中継制御部1513に送り（ステップN55）、中継制御部1513は解放完了を知らせるIPパケット1566（図231）を電話管理サーバ1571へ返信する（ステップN62）。中継制御部1513は電話呼解放通知を中継交換機1518に送り（ステップN56）、中継交換機1518は解放完了を中継制御部1513へ返信する（ステップN61）。また、中継交換機1518は電話呼解放通知を交換機1519に送り（ステップN57）、交換機1519は解放完了を中継交換機1518へ返信し（ステップN60）、交換機1519は電話呼切断信号を電話機1520へ送信する（ステップN58）。

【0479】

<<メディアパスレコードの抹消>>

前記ステップN55において、中継制御部1513は、音声制御部1516にメディアパス接続表1528-3（図216）の当該メディアパスのレコードを抹消するように指示し（図213のステップ1513-3）、音声制御部1516は当該メディアパスのレコード抹消を報告する（ステップ1516-3）。また、当該レコードは前記、電話呼（接続／通話／解放）の運用記録に用いることができる（オプション）。

【0480】

<<IP通信レコードとCIC管理表レコードの抹消>>

電話管理サーバ1571は、ステップN55の後に、解放IPパケット1565の中に書き込んだ回線番号“CIC-2”を表管理サーバ1573に送信し（ステップN73）、網ノード装置1544内部の回線番号“CIC-2”対応するIP通信レコード“EA1、EA3、IA1、IA3”を抹消する（ステップN74）。更に、電話管理サー

バ1571が管理するCIC管理表1571-2（図205）の当該電話機のレコードを抹消する。なお、電話管理サーバ1571は、当該レコードを前記、電話呼（接続／通話／解放）の運用記録に用いることもできる（オプション）。

【0481】

中継制御部1513は、解放完了IPパケット1566の中に書き込んだ回線番号“CIC-2”を表管理サーバ1576に送信し（ステップN71）、網ノード装置1547内部のIP通信レコード“EA3、EA1、IA3、IA1”を抹消する（ステップN72）。更に、中継制御部1513が管理するCIC管理表1513-3（図222）の当該電話通信のレコードを抹消する。なお、当該レコードを運用記録に用いることもできる。

【0482】

以上を要約すると次のようになる。

カプセル化機能付終端ゲートウェイと中継ゲートウェイとの間において、電話の接続制御IP通信回線と音声IP通信回線とが分離されており、電話機1、カプセル化機能付終端ゲートウェイと中継ゲートウェイ、NNIインタフェース通信回線、公衆電話交換網、電話機2とを順に経由して、2つの電話機間において電話通信を行い得る。また、カプセル化機能付終端ゲートウェイ内の電話管理サーバと中継ゲートウェイ内の中継制御部とが、共に個別のCIC管理表を有し、前記個別のCIC管理表を用いて回線番号の管理を行う。中継ゲートウェイ内の中継制御部は、IPパケット内部のアドレス情報及び信号ユニット内のラベル情報を含むアドレス接続表を用いて、IPパケットと信号ユニットとの変換を行う。

【0483】

中継制御部は、信号局アドレス管理表を検索して宛先電話機の電話番号を提示し、当該電話機を管理する交換機の信号局アドレスを取得する。また、中継制御部が、予め公衆電話交換網と取り決めてあるルールにより回線番号、信号リンク選択を定める。

【0484】

音声制御部は、中継ゲートウェイ内の音声制御部内のメディアパス接続表を用いて、デジタル音声を格納したIPパケットと、NNI通信回線の音声通信回線

の内部を伝送する音声信号との変換を行う。また、IPパケット内部のアドレス情報及び信号ユニット内のラベル情報を含むアドレス接続表を用いて、IPパケットと信号ユニットとの変換を行う。音声制御部は内部に音声IPパケットを送受するためのIPアドレスを有し、メディアパス接続表の設定に供する。また、音声制御部は、公衆電話交換網から受信又は送信するために用いる論理音声通信回線を確認し、その識別子を定める。カプセル化機能付終端ゲートウェイは中継制御部及び網ノード装置を含み、網ノード装置はIPカプセル化及び逆カプセル化の機能を有し、中継制御部は電話管理サーバ、電話番号サーバ、代理電話サーバ、表管理サーバを含み、メディアルータから網ノード装置に入力したIPパケットのうち、電話呼制御IPパケットは中継制御部へ転送し、音声IPパケットは音声IP通信回線に分岐するようになっている。このようになっているので、電話機1508及び1520は、IP転送網1500、公衆電話交換網1501を經由して電話通信が可能である。

【0485】

14. IP転送を中継網として用いる第14実施例：

図232において、1400はIP転送網、1401及び1402は中継ゲートウェイ、1403はカプセル化機能付ゲートウェイ、1405乃至1407は公衆電話交換網（PSTN）、1408乃至1411は加入者交換機、1412及び1413は中継交換機、1415及び1416は共通線信号方式を適用した制御通信回線、1417及び1418は音声通信回線である。また、制御通信回線1415及び音声通信回線1417の組は、交換機1412と中継ゲートウェイ1401との間のNNI通信回線であり、制御通信回線1416及び音声通信回線1418の組は、交換機1413と中継ゲートウェイ1402との間のNNI通信回線である。1438及び1439はアドレス接続表、1441及び1442はゲートウェイアドレス管理サーバ、1443及び1444は信号局アドレス管理サーバである。1429及び1430はメディアパス接続表である。本発明において、共通線信号方式におけるポイント（Point）を信号局、ポイントコード（Point Code）を“信号局アドレス”により表わす。

【0486】

中継ゲートウェイ1401のIPアドレスは“GW05”であり、中継制御部1423が前記IPアドレス“GW05”を保持しており、同様に中継ゲートウェイ1402のIPアドレスは“GW06”であり、中継制御部1424が前記IPアドレス“GW06”を保持している。

【0487】

<<電話機1420と電話機1421との間の通信>>

始めに、電話機1420から公衆電話交換網1405、IP転送網1400、公衆電話交換網1406を経由して、電話機1421へ電話通信する端末間通信接続制御方法を説明する。

【0488】

<<接続フェーズ>>

電話機1420の受話器を上げると、呼出信号が交換機1408へ伝えられ(図233のステップHA01)、交換機1408は電話呼出を確認し(ステップHA02)、交換機1408は電話呼設定要求を中継交換機1412へ通知する(ステップHA03)。そして、中継交換機1412は前記呼設定要求を受付けて共通線信号方式の信号ユニット1451を形成し、前記信号ユニット1451を、制御通信回線1415へ経て中継ゲートウェイ1401内の中継制御部1423へ転送する(ステップHA04)。信号ユニット1451の宛先信号局コードは、“DPC-1”、送信元信号局コードは“OPC-1”、信号リンク選択は“SLS-1”、回線番号は“CIC-1”、メッセージは“IAM”、パラメータは“Para-1”であり、前記パラメータ“Para-1”の内容は、電話機1420の電話番号“TN-1”及び電話機1421の電話番号“TN-2”とを含む。図232に示す信号ユニット1451内のメッセージ“MSG-1”は“IAM”を意味する。

【0489】

<<中継制御部1423の動作>>

中継制御部1423は信号ユニット1451を受信する(ステップHA04)。図256は、中継制御部1423が、信号ユニット1451をIPパケットへ変換する手順を示している。中継制御部1423は信号ユニット1451を受信し(

図 2 5 6 のステップ S 1 4 6 1 - 2)、信号ユニット 1 4 5 1 内部の信号局ラベル “DPC-1, OPC-1, SLS-1, CIC-1” を取り出し (ステップ S 1 4 6 1 - 3)、アドレス接続表 1 4 3 8 内部に信号局ラベル、つまり宛先信号局コード (DPC)、送信元信号局コード (OPC)、信号リンク選択 (SLS)、回線番号 (CIC) の組を含むレコードが存在するかを調べる (ステップ S 1 4 6 1 - 4)。本ケースでは、アドレス接続表 1 4 3 8 - 1 (図 2 4 4) 内に一致するレコードがないので、前記信号局ラベルをアドレス接続表 1 4 3 8 のレコードに追加して書込み (ステップ S 1 4 6 1 - 5)、中継制御部 1 4 2 3 は、パラメータ “Para-1” 内の電話機 1 4 2 1 の電話番号 “TN-2” を取り出し、中継制御部 1 4 2 3 はゲートウェイアドレス管理サーバ 1 4 4 1 に質問し、前記電話番号 “TN-2” を管理するゲートウェイの IP アドレスの回答を得る (ステップ S 1 4 6 1 - 6)。本ケースでは、中継ゲートウェイ 1 4 0 2 の IP アドレス “D-ad-x” を取得する。ここで、ゲートウェイアドレス管理サーバ 1 4 4 1 及び 1 4 4 2 は、電話番号 1 0 桁の全部又は上位の 6 桁 (市外局番と電話局番号) を入力し、質問した電話番号を管理するゲートウェイの IP アドレスを出力する。

【 0 4 9 0 】

なお、ゲートウェイアドレス管理サーバの 1 4 4 1 及び 1 4 4 2 は、電話番号をドメイン名に置きかえることにより、ドメインネームサーバ (DNS) の公知の技法により実現することもできる。更に、質問する電話番号の数が少ない場合は、ゲートウェイアドレス管理サーバの代わりに IP アドレス管理表 1 4 4 1 - 1 (図 2 3 4) とすることもできる。ここで、IP アドレス管理表 1 4 4 1 - 1 は、電話番号と当該中継ゲートウェイの IP アドレスとの対応を表にまとめたものであり、電話番号を指定すると、対応する中継ゲートウェイの IP アドレスが得られる。なお、IP アドレス管理表は、他の実施例において説明している IP 転送網出回線表と同一の目的、つまり電話番号と IP アドレスとの対応を検索するために用いられる。

【 0 4 9 1 】

中継制御部 1 4 2 3 は、中継ゲートウェイ 1 4 0 1 の IP アドレス “S-ad-x” を保持しており、IP パケット 1 4 5 2 を形成する。IP パケット 1 4 5 2 の宛

先IPアドレスは“D-ad-x”、送信元IPアドレスは“S-ad-x”、回線番号は“CIC-x”、メッセージは“IAM”であり、パラメータ“Para-x”は、電話機1420の電話番号“TN-1”と電話機1421の電話番号“TN-2”とを含む。前記メッセージやパラメータは、それぞれ信号ユニット1451から取得する（図236参照）。中継制御部1423は、“S-ad-x”及び“D-ad-x”の組毎に回線番号“CIC-x”を一定のルールで定めて用いる（図256のステップS1461-7）。例えば、直前に生成した回線番号の値を内部のメモリに保持しておき、1ずつ加算して用い、次の計算式を用いて生成する。

【0492】

$$CIC-x = CIC-x + 1 \bmod 65536 \quad \dots (4)$$

中継制御部1423のアドレス接続表1438は、中継制御部1423が信号ユニット1451を受信する前の時点において空白であり、この様子をアドレス接続表1438-1（図244）として示す。中継制御部1423がIPパケット1452を形成すると、信号ユニット1451内部のラベル情報“DPC-1, OPC-1, SLS-1, CIC-1”と、IPパケット1452内部のラベル情報“S-ad-x, D-ad-x, CIC-x”とを組合せて、更に音声制御部1427に対して音声通信路を要求するためのメディアパス識別子“MP-8”を定め、アドレス接続表の内部に追加して書込む（図256のステップS1461-8）。この様子をアドレス接続表1438-2（図245）に示す。

【0493】

アドレス接続表1438-2のレコード内部の信号局アドレス項目（“DPC-1, OPC-1”）のうち、左側の“DPC-1”がアドレス接続表1438-2を保持している中継接続ゲートウェイ1401の信号局アドレスである。同様にアドレス接続表1438-2のIPアドレス項目（“S-ad-x, D-ad-x”）のうち、左側の“S-ad-x”がアドレス接続表1438-2を保持している中継接続ゲートウェイ1401のIPアドレスである。当該レコードの右端がメディアパス識別子“MP-8”である。

【0494】

<<中継制御部と音声制御部との連携動作>>

図232を参照して説明する。中継制御部1423は、音声制御部1427に、情報回線1429-1経由で前記メディアパス識別子“MP-8”を提示し（図251のステップ1423-1）、音声制御部1427は音声通信用に供する音声制御部1427の内部モジュールの内部IPアドレス“IA5”、外部IPアドレス“EA5”、音声通信用ポート番号“5010”を確保して、情報回線1429-1経由で、中継制御部1423へ報告する（ステップ1427-1）。更に、音声制御部1427は、音声通信回線1417へ音声フレームを送信する論理通信回線を識別する論理通信回線識別子“CH-1”を定め、音声通信回線1417から音声フレームを受信する論理通信回線を識別する論理通信回線識別子“CH-2”を定め、前記論理通信回線識別子“CH-1”及び“CH-2”をメディアパス接続表1429に書き込み、結果はメディアパス接続表1429-1（図248）のようになる。

【0495】

なお、論理通信回線1417がISDN通信回線の1次群速度インタフェース回線（PRI）の場合、論理通信回線識別子はISDN通信装置の装置番号及び特定のBチャンネル（ユーザ情報の論理伝送回線）指す番号の組から成っている。

【0496】

中継制御部1423は中継ゲートウェイ1401のIPアドレス“GW05”、上述のように取得又は生成したCIC番号“CIC-2”、信号ユニット1451内部の電話番号“TN-1”、“TN-2”、IPアドレス“EA5”及び“IA5”、ポート番号“5010”をCIC管理表に書き込む。結果はCIC管理表1423-1（図240）のようになる。但し、手順区分は、ステップHA04の後であるので“IAM”とする。また、中継制御部1423は予め音声制御部1427の内部IPアドレスを1以上保持しており、その1つを前記内部IPアドレス“IA5”としている。

【0497】

<<IP転送網内の転送>>

中継制御部1423は、前記により形成した（図256のステップS1461

ー9) IPパケット1452をIP転送網1400内部へ送信し(ステップS1461-10)、IPパケット1452は、制御通信回線1431-1、ルータ1431、制御通信回線1431-2を経由して、中継ゲートウェイ1402内の中継制御部1424へ到達する(ステップHA05)。

【0498】

<<中継制御部1424:CIC管理表及びアドレス接続表の設定>>

中継制御部1424はIPパケット1452を受信する(図257のステップS1462-2)。IPパケット1452からIPアドレス、メッセージ、回線番号、パラメータを取り出す(ステップS1462-3)。ここで、宛先IPアドレスは“D-ad-x”、送信元IPアドレスは“S-ad-x”、回線番号は“CIC-x”、メッセージは“IAM”、パラメータは“Para-x”であり、パラメータ“Para-x”は、電話機1420の電話番号“TN-1”と電話機1421の電話番号“TN-2”とを含んでいる。アドレス接続表1439-1(図246)の内部に、対応するIPアドレス“S-ad-x”、“D-ad-x”及び回線番号の組が存在するかを調べる(ステップS1462-4)。本ケースではその組が存在しないので、前記IPアドレス“S-ad-x”及び“D-ad-x”、回線番号アドレス“CIC-x”を取り出してアドレス接続表1439-1に書き込み(ステップS1462-5)、中継制御部1424は、信号局アドレス管理サーバ1444に宛先電話機の電話番号“TN-2”を提示し、電話番号“TN-2”である電話機1421を管理する交換機1409の信号局アドレス“DPC-2”を取得し(ステップS1462-6)、図246のアドレス接続表1439-1に書込む(ステップS1462-7)。結果として、アドレス接続表は1439-2となる(図247)。当該レコードの右端がメディアパス識別子“MP-9”である。

【0499】

中継制御部1424は、予め公衆交換網1406と取り決めてあるルールにより回線番号“CIC-2”、信号リンク選択“SLS-2”を定め、メッセージは“IAM”及びパラメータ“Para-2”を含む信号ユニット1453を形成し(ステップS1462-8)、制御通信回線1416へ送信する(ステップS1462-9)。

【0500】

<<中継制御部と音声制御部との連携動作>>

図232を参照して説明する。中継制御部1424は、情報回線1430-1を経由して、音声制御部1428にメディアパス識別子“MP-9”と、前記取得した音声制御部1427内モジュールの内部IPアドレス“IA5”、外部IPアドレス“EA5”と、音声制御部1427が音声送信に用いるポート番号“5010”とを提示すると（図252のステップ1424-1）、音声制御部1428は、音声制御部1428内モジュールの内部IPアドレス“IA6”、外部IPアドレス“EA6”と音声制御部1428が音声送信に用いるポート番号“5012”とを中継制御部1424へ報告する（ステップ1428-1）。この手順において、音声制御部1428は、IPアドレス及びポート番号の2対（外部IPアドレス“EA5”及びポート番号“5010”、内部IPアドレス“IA6”、外部IPアドレス“EA6”及びポート番号“5012”）をメディア接続表1430に書き込む。更に、音声制御部1428は、音声通信回線1418へ音声フレームを送信する論理通信回線を識別するための論理通信回線識別子“CH-3”を定め、音声通信回線1418から音声フレームを受信する論理通信回線を識別するための論理通信回線識別子“CH-4”を定め、論理通信回線識別子“CH-3”及び“CH-4”をメディアパス接続表1430に書き込む。結果は、メディアパス接続表1430-1（図249）のようになる。

【0501】

メディアパス接続表1430-1の意味は、送信元IPアドレス“EA5”、送信元ポート番号“5010”、宛先IPアドレス“EA6”、宛先ポート番号“5012”であるIPパケット（ペイロードはUDP）を受信すると、そのUDPペイロード内のデジタル化音声を送信元IPアドレス“EA5”、送信元ポート番号“5010”であるIPパケット（ペイロードはUDP）に格納して、IP転送網1400内部へ送信することである。

【0502】

更に、音声通信回線1418へ音声を送信するための論理通信回線を定め、そ

の論理通信回線識別子“CH-2”を定め、IPアドレスとポート番号と共にメディアパス接続表1430に書き込む。書き込み結果は、メディアパス接続表1430-1（図249）のようになる。

【0503】

<<公衆電話交換網1406の動作>>

信号ユニット1453は中継交換機1413に到達し（ステップHA06）、信号ユニット1453は公衆電話交換網1406の中を転送され、交換機1409に到達する（ステップHA07）。交換機1409は、電話番号“TN-2”である電話機1421が着信許可されているか等を調べて、着信許可があると、電話呼設定要求（着信通知）を電話機1421に通知する（ステップHA08）。

【0504】

次に、交換機1409は、図237に示す信号ユニット1454を形成する。信号ユニット1454内部の宛先信号局アドレス“DPC-3”、送信元信号局アドレス“OPC-3”、信号リンク選択“SLS-3”、回線番号“CIC-3”である。ここで、“OPC-3”の値は“DPC-2”の値であり、“DPC-3”の値は“OPC-2”の値であり、“SLS-3”の値は“SLS-2”の値であり、“CIC-3”の値は“CIC-2”の値である。即ち、信号局アドレスは、前記ステップの送信元信号局と宛先信号局のアドレスとを交換した値であり、信号リンク選択及び回線番号の値は変わらない。

【0505】

交換機1409は信号ユニット1454を公衆電話交換網1406の内部に転送し、信号ユニット1454は交換機1413を通過し（ステップHA11）、制御通信回線1416を経由して中継ゲートウェイ1402内部の中継制御部1424へ到達する（ステップHA12）。

【0506】

中継制御部1424は信号ユニット1454を受信し（図256のS1461-2）、信号ユニット1454内部の信号局ラベルを取り出し（S1461-3）、アドレス接続表1439内部に信号局ラベル“DPC-3, OPC-3, SLS-3, CIC-3”の内容が同一であるレコードがあるかを調べる（ステップS1462-4）。本ケースでは、アドレス接続表1439-2内に一致するレコードがあるので、

次に図238に示すIPパケット1455を形成し（図256のS1461-9）、IP転送網1400内に送信する（S1461-10）。IPパケット1455内の送信元IPアドレス“S-ad-u”、宛先IPアドレス“D-ad-u”、回線番号“CIC-u”である。ここで、“S-ad-u”の値は“D-ad-x”の値であり、“D-ad-u”の値は“S-ad-x”の値であり、“CIC-u”の値は“CIC-x”の値である。即ち、中継局ゲートウェイのアドレスは、前記ステップHA05におけるIPパケット1452のIPアドレスの送信元と宛先とを交換した値であり、回線番号の値は変わらない。IPパケット1455は、制御通信回線1431-2、ルータ1431、制御通信回線1431-1を経て、中継制御部1423へ到達する（図233のステップHA13）。中継制御部1423はIPパケット1455を受信し（図257のS1462-2）、IPパケット1455からIPアドレス“S-ad-u”及び“D-ad-u”、回線番号“CIC-u”を取り出す。そして、アドレス接続表1438内部において、ラベル情報“S-ad-u”が“D-ad-x”と一致し、“D-ad-u”が“S-ad-x”と一致し、回線番号“CIC-u”が“CIC-x”と一致するので、図239に示す信号ユニット1456を形成する（図257のS1462-8）。次に、制御通信回線1415に送信し（S1462-9）、信号ユニット1456は中継交換機1412に到達し（ステップHA14）、信号ユニット1456は公衆電話交換網1405の中を転送されて交換機1408に到達する（ステップHA15）。

【0507】

一方、電話機1421は、ステップHA08による着信通知を受けて、電話呼出中であることを示す信号ユニットを交換機1409に返信し（ステップHA20）、交換機1409は、電話呼出中を知らせる信号ユニット（CPGメッセージ）を交換機1413へ通知する（ステップHA21）。交換機1413は、前記信号ユニットを制御通信回線1416を経由して中継ゲートウェイ1402の中継制御部1424へ送信し（ステップHA22）、中継制御部1424はその内部のアドレス接続表1439-2を参照し、図256に示す前記同様の手順により前記電話呼出中を通知するIPパケットを形成する。前記形成されたIPパケットは、制御通信回線1431-2、ルータ1431、制御通信回線1431-1を通過して中継

制御部 1423 に到達する（ステップ HA23）。

【0508】

中継制御部 1423 は IP パケットを受信し、前記電話呼出中を通知する信号ユニットを形成し、前記信号ユニットを制御通信回線 1415 へ送信する（S1462-9）。前記信号ユニットは、中継交換機 1412 を通過して（ステップ HA24）、交換機 1408 に到達する（ステップ HA25）。交換機 1408 は、電話機 1421 呼出中を電話機 1420 へ通知する（ステップ HA26）。

【0509】

次に、電話機 1421 の利用者が電話呼出しに応答すると（ステップ HA30）、以降は応答を知らせる信号ユニットが交換機 1409 から送信され、交換機 1413 を経て（ステップ HA31）、中継制御部 1424 へ到達する（ステップ HA32）。中継制御部 1424 においてアドレス接続表 1439 が参照され、応答を知らせる IP パケット（ANM）が形成され、前記 IP パケットは制御通信回線 1431-2、ルータ 1431、制御通信回線 1431-1 を経由して中継制御部 1423 に到達する（ステップ HA33）。中継制御部 1423 においてアドレス接続表 1438 が参照され、応答を知らせる信号ユニットが形成され、制御通信回線 1415 を経由し、交換機 1412 を経て（ステップ HA34）、交換機 1408 へ到達する（ステップ HA35）。交換機 1408 は応答信号を電話機 1420 に送る（ステップ HA36）。

【0510】

<<アドレス接続表の完成>>

図 232 を参照して説明する。中継制御部 1423 は、音声制御部 1427 に前記メディアパス識別子“MP-8”と、前記取得した音声制御部 1428 内モジュールの内部アドレス“IA6”、外部 IP アドレス“EA6”と、音声制御部 1428 が音声送信に用いるポート番号“5012”とを提示すると（図 253 のステップ 1423-2）、音声制御部 1427 は、メディアパス接続表 1429-1（図 248）に、前記 IP アドレス“IA6, EA6”及び前記ポート番号“5012”を書き込み、メディアパス接続表 1429-2（図 250）を完成して、中継制御部 1423 へ報告する（ステップ 1427-2）。

【0511】

前記接続フェーズにおいて、電話機1420及び1421の電話回線のために設定した公衆電話交換網1405が設定した回線番号“CIC-1”と、IP転送網1400が設定した回線番号“CIC-x”とは、アドレス接続表1438において関係付けられ、IP転送網1400が設定した回線番号“CIC-x”と公衆電話交換網1406が設定した回線番号“CIC-2”とは、アドレス接続表1439において対応付けられる。これら2つの対応付けは、電話機1420及び1421の電話通信の始まりから終了まで一定である。

【0512】

<<通信フェーズ>>

以上の手順により、電話機1420と電話機1421との間で通話が可能となり、音声通信が行われる（ステップHA38）。電話機1420から送られた音声は、交換機1408において電話呼接続制御の信号と音声信号とに分けられた後に交換機1412に送られ、音声通信回線1417を経て、中継ゲートウェイ1401内の音声制御部1427を経て、音声通信回線1433-1、ルータ1433、音声通信回線1433-2、中継ゲートウェイ1402内の音声制御部1428を経て、音声通信回線1418、交換機1413、交換機1409を経て、電話機1421に到達する。電話機1421から電話機1420は前記説明と逆方向に転送される。音声と電話接続制御との通信回線が、交換機1408と交換機1409との間で分離できることが特徴である。

【0513】

<<解放フェーズ>>

利用者が受話器を置くと、電話機1420から通信の解放が交換機1408へ通知され（図233のステップHA40）、交換機1408は解放メッセージ（REL）を交換機1412へ通知する（ステップHA41）。交換機1412は解放メッセージを受信すると、直ちに解放完了メッセージ（RLC）を交換機1408へ返信し（ステップHA55）、交換機1412は解放メッセージ（REL）を中継制御部1423へ通知する（ステップHA42）。中継制御部1423は解放完了メッセージ（RLC）を交換機1412へ返信し（ステップHA54）、中継制御部1423は解

放メッセージ (REL) を中継制御部 1 4 2 4 へ通知し (ステップ HA43)、中継制御部 1 4 2 4 は解放完了メッセージ (RLC) を中継制御部 1 4 2 3 へ返信する (ステップ HA53)。中継制御部 1 4 2 4 は解放メッセージ (REL) を交換機 1 4 1 3 へ通知し (ステップ HA44)、交換機 1 4 1 3 は解放完了メッセージ (RLC) を中継制御部 1 4 2 4 へ返信し (ステップ HA52)、交換機 1 4 1 3 は解放メッセージ (REL) を交換機 1 4 0 9 へ通知する (ステップ HA45)。交換機 1 4 0 9 は解放完了メッセージ (RLC) を交換機 1 4 1 3 へ返信し (ステップ HA51)、交換機 1 4 0 9 は解放通知を電話機 1 4 2 1 へ知らせる (ステップ HA46)。

【 0 5 1 4 】

中継制御部 1 4 2 3 は、ステップ HA42 において (図 2 5 8 のステップ S1463-2)、前記信号ユニットが解放メッセージ (REL) と判定すると (ステップ S1463-3、S1463-4、S1463-5)、アドレス接続表の該当するレコードを抹消する (ステップ S1463-6)。この結果、アドレス接続表 1 4 3 8 - 2 (図 2 4 5) のレコードは、アドレス接続表 1 4 3 8 - 1 (図 2 4 4) に示すように空欄となる。同様に、中継制御部 1 4 2 4 は、ステップ HA43 において (図 2 5 9 のステップ S1464-2)、前記信号ユニットに含まれるメッセージが解放メッセージ (REL) と判定すると (ステップ S1464-3、S1464-4、S1464-5)、アドレス接続表の該当するレコードを抹消する (ステップ S1464-6)。この結果、アドレス接続表 1 4 3 9 - 2 (図 2 4 7) のレコードは、アドレス接続表 1 4 3 9 - 1 (図 2 4 6) に示すように空欄となる。

【 0 5 1 5 】

<<メディアパスレコードの抹消>>

中継制御部 1 4 2 3 は、前記ステップ HA43 において、音声制御部 1 4 2 7 にメディアパス接続表 1 4 2 9 - 2 (図 2 5 0) の当該メディアパス “MP-8” のレコードを抹消するように指示し (図 2 5 4 のステップ 1 4 2 3 - 3)、音声制御部 1 4 2 7 は当該メディアパス接続表のレコード抹消を報告する (ステップ 1 4 2 7 - 3)。また、中継制御部 1 4 2 4 は、前記ステップ N53 において、音声制御部 1 4 2 8 にメディアパス接続表 1 4 3 0 - 1 (図 2 4 9) の当該メディアパス “MP-9” のレコードを抹消するように指示し (図 2 5 5 のステップ 1 4 2 4 - 2

）、音声制御部 1 4 2 8 は当該メディアパス接続表のレコード抹消を報告する（ステップ 1 4 2 8 - 2）。なお、当該レコードは運用記録に用いることができる。

【0 5 1 6】

<<電話機 1 4 2 0 と電話機 1 4 2 2 との間の通信>>

電話機 1 4 2 2 から、メディアルータ 1 4 0 4、カプセル化機能付終端ゲートウェイ 1 4 0 3、中継ゲートウェイ 1 4 0 2、公衆電話交換網 1 4 0 6 を経由して、電話機 1 4 2 1 に電話をかける端末間通信接続制御方法、つまり電話機 1 - メディアルータ - I P 転送網側 - 公衆電話交換網 - 電話機 2 である端末間通信接続制御方法については、他の実施例において説明している。前記と逆方向の電話機 2 - 公衆電話交換網 - I P 転送網 - メディアルータ - 電話機 1 である端末間通信接続制御方法は、ほぼ同様の手順により、容易に類推できる手順により実施できる。電話機 1 4 2 0 から、公衆電話交換網 1 4 0 5 を経由して、中継ゲートウェイ 1 4 0 1、カプセル機能付終端ゲートウェイ 1 4 0 3、メディアルータ 1 4 0 4 を経由して、電話機 1 4 2 2 に電話をかける端末間通信接続制御方法は、他の実施例でカプセル化機能付ゲートウェイの機能を説明しており、前記説明とほぼ同様の手順により実施できる。更に、電話機 1 4 2 0 から、公衆電話交換網 1 4 0 5 を経由して、中継ゲートウェイ 1 4 0 1、カプセル化機能付終端ゲートウェイ 1 4 0 3、メディアルータ 1 4 0 4 を経由して、UNI 通信回線 1 4 1 9、公衆電話交換網 1 4 0 7 を経て電話機 1 4 2 3 へ電話をかける端末間通信接続制御方法は、他の実施例で U N I 通信回線を経由した公衆電話交換網経由の端末間通信接続制御手順を説明しており、前記説明とほぼ同様の手順により実施できる。

【0 5 1 7】

以上を要約すると次のようになる。2 つの電話機間の端末間接続制御において、電話機 1、公衆電話交換網 1、NNI インタフェース通信回線 1、I P 転送網に属する中継ゲートウェイ 1 と中継ゲートウェイ 2、NNI インタフェース通信回線 2、公衆電話交換網 2、電話機 2 とを順に経由する。他の方法として、電話機 1、公衆電話交換網 1、NNI インタフェース通信回線 1、I P 転送網に属する中継ゲートウェイとカプセル化機能付ゲートウェイ、メディアルータ、電話機 2 をこ

の順に経由する。

【0518】

15. 音声線をIPカプセル化しない第15実施例：

本実施例は、他実施例中の網ノード装置をIPカプセル化しない終端装置に変更し、終端ゲートウェイは非カプセル化終端ゲートウェイに変更し、中継ゲートウェイは非カプセル化中継ゲートウェイに変更した例である。音声IPパケットはIPカプセル化せず、表管理サーバと代理電話サーバを除いている。

【0519】

図260において、1600はIP転送網、1601は公衆電話交換網、1602は非カプセル化終端ゲートウェイ、1603は終端装置、1604は終端ゲートウェイ制御部(SEP)、1605は非カプセル化中継ゲートウェイ、1606は中継制御部(STP)、1607は音声制御部、1608は中継交換機、1609は加入者交換機、1610は電話番号“TN-1”の電話機、1611は電話番号“TN-2”の電話機、1612及び1613は制御IP通信回線、1614及び1615は音声IP通信回線、1616は共通線信号方式の制御通信回線、1617は音声通信回線、1620はアドレス管理表、1671は電話管理サーバ、1672は電話番号サーバである。非カプセル化中継ゲートウェイ1605は、非カプセル化終端ゲートウェイ1602と相互通信ができる中継ゲートウェイである。メディアルータ1660や電話機等のIP転送網の外部にある装置類を使用することができるIPアドレスを外部IPアドレスといい、IP転送網1600の外部にある装置類を使用することができないIP転送網1600内部専用のIPアドレスを内部IPアドレスという。電話管理サーバ1671は外部IPアドレス“EA91”と内部IPアドレス“IA91”とを有し、用途別に使い分けて情報安全性を向上させている。

【0520】

<<接続フェーズ>>

電話機1610から、電話機1611へ電話通信する例である。電話機1610の受話器を上げると、呼出信号がメディアルータ1660へ伝えられ(図26

1のステップB01)、メディアルータ1660は電話呼出を確認する(ステップB02)。次に、送信元IPアドレス“EA1”、宛先IPアドレス“EA91”、電話番号“TN-1”、電話番号“TN-2”、音声送信用ポート番号“5006”、付加情報“Info-2”を含むIPパケット1630(図262)を形成し、端末装置1603へ送信する(ステップB03)。ここで、IPアドレス“EA1”はメディアルータ1660のIPアドレス、IPアドレス“EA91”は電話管理サーバ1671の外部IPアドレス、IPパケット1630のペイロード部分はUDPパケットであり、送信元及び宛先ポート番号がいずれも“5060”の例である。

【0521】

<<端末装置によるパケットフィルタ>>

端末装置1603はIPパケット1630を受信すると、IPパケット1630内部に含まれる送信元IPアドレス“EA1”、送信元ポート番号“5060”、宛先IPアドレス“EA91”、宛先ポート番号“5060”の全てが、アドレス管理表1620内部のレコードとして登録されているか否かを調べる。本ケースでは、アドレス管理表1620-1(図263)の1行目のレコードとして含まれているので、端末装置1603は、IPパケット1630内部の宛先IPアドレス“EA91”を電話管理サーバの内部IPアドレス“IA91”に変換する(NAT機能)。次に、アドレス管理表1620-1内の当該レコードの右端の出力インタフェース“IF1612”の指定に従い、制御IP通信回線1612にIPパケット1631として送出する(ステップB04)。なお、受信したIPパケット1630内部のIPアドレス及びポート番号がアドレス管理表1620に登録されていないケースでは、IPパケット1630は廃棄される。このようにして、IPパケットのフィルタリングを行う。

【0522】

<<CIC管理表の形成>>

電話管理サーバ1671はIPパケット1631を受信し、電話管理サーバ1671が内部に保持するCIC管理表のレコードに、電話管理サーバ1671の内部IPアドレス“IA91”、手順区分“IAM”、送信元電話番号“TN-1”、宛先電話番号“TN-2”、前記IPアドレスの“EA1”、前記音声送信用ポート番号“5

006”、書込み時刻（年月日時分秒）“St6”をCIC管理表1671-1（図264）として書き込む。

【0523】

次に、電話管理サーバ1671は、宛先電話番号“TN-2”を質問するIPパケット1632-1（図265）を電話番号サーバ1672に示し（ステップB06）、電話番号サーバ1672は、IPアドレス“GW03”をIPパケット1632-2（図266）に格納して回答する（ステップB07）。ここで、前記IPアドレス“GW03”は中継ゲートウェイ1605のIPアドレスとなっている。

【0524】

<<回線番号の管理>>

電話管理サーバ1671は、IPアドレス“IA91”及びIPアドレス“GW03”の組に対して定めているCIC番号形成ルールによりCIC番号“CIC-2”を定め、IPアドレス“GW03”と共にCIC管理表に書き込む。この結果は、CIC管理表1671-2（図267）のレコードに記録されている。次に電話管理サーバ1671は、IPパケット1631及びCIC管理表1671-2を参照し、IPパケット1634（図268）（IAMパケット）を形成し、IPパケット1634を中継ゲートウェイ1605へ送信する（ステップB09）。

【0525】

<<中継制御部の動作>>

中継制御部1606は、IPパケット1634（図268）を受信すると（ステップB09）、IPパケット1634から送信元IPアドレス“IA91”、宛先IPアドレス“GW03”、回線番号“CIC-2”、手順区分“IAM”、送信元電話番号“TN-1”、宛先電話番号“TN-2”、外部IPアドレスの“EA1”、音声送信用ポート番号“5006”を取り出し、中継ゲートウェイ1605が内部に保持するCIC管理表1605-1（図269）のレコードとして、時刻“St7”と共に書込んで記録する。

【0526】

更に、中継制御部1606は信号局アドレス管理表1627（図270）を検索し、電話番号“TN-2”を提示して電話機1611を管理する交換機1609の

信号局アドレス“PC-09”を取得する。更に、中継制御部1606は、予め公衆電話交換網1601と取り決めてあるルールにより信号リンク選択“SLS-3”、回線番号“CIC-3”を定める。中継制御部1606は、中継ゲートウェイ1605の信号局アドレス“PC-3”、前記取得した“PC-09”、前記信号リンク選択“SLS-3”、前記回線番号“CIC-3”、前記IPアドレス“GW03”、IPアドレス“IA91”、回線番号“CIC-2”とを新たに定めるメディアパス識別子“MP-7”と共に、アドレス接続表1625の新規レコードとして書き込む。結果として、アドレス接続表は1625-1に示すようになる(図271)。続いて、中継制御部1606は、前記信号局アドレス“PC-09”と“PC-3”、前記信号リンク選択“SLS-3”と回線番号“CIC-3”、メッセージ“IAM”、電話番号“TN-1”及び“TN-2”を含む信号ユニット1635を形成し(図272)、制御通信回線1616へ送信する(ステップB10)。

【0527】

<<中継制御部と音声制御部との連携動作>>

中継制御部1606は、前記メディアパス識別子“MP-7”、前記外部IPアドレス“EA1”、音声送信用ポート番号“5006”を、情報回線1629経由で音声制御部1607へ通知する。音声制御部1607は、前記通知された情報をメディアパス接続表1628のレコードとして書き込む。更に、音声制御部1607は、音声制御部1607から音声通信回線1617へ音声を送信するための論理通信回線を定め、その論理通信回線識別子“CH-1”をメディアパス接続表1628のレコードとして書き込む。以上の結果を、メディアパス接続表1628-1(図273)に示す。

【0528】

<<交換網の動作とACMメッセージ>>

交換機1608は、制御通信回線1616経由で信号ユニット1635を受信し(ステップB10)、信号ユニット1635を交換機1609へ転送する(ステップB11)。交換機1609は信号ユニット1635を受信し、内部に含まれる宛先電話番号“TN-2”が着信可能であるか否かを確認し、着信可能であれば着信通知を電話機1611へ通知する(ステップB12)。更に、信号ユニット163

5の受信を知らせる信号ユニット1635-1(図275)を形成して返信し、信号ユニットは、交換機1608を経由して(ステップB13)、中継ゲートウェイ1605に到達する(ステップB14)。中継制御部1606は、受信した信号ユニット1635-1のラベル情報を基に、アドレス接続表1625-1(図271)を参照し、IPパケット形成のためのアドレス情報を取得する。IPパケット1651(ACMメッセージ)(図276)を形成し、IPパケット1651を電話管理サーバ1671へ送信する(ステップB15)。電話管理サーバ1671は、受信したIPパケット1651から回線番号“CIC-2”及び手順区分“ACM”を取り出し、電話管理サーバ1671が保持するCIC管理表1671-2(図267)を調べて、自己IPアドレス“IA91”、相手IPアドレス“GW03”、回線番号“CIC-2”であるレコードを見出し、CIC管理表1671-2の該当レコードの手順区分欄を前記“ACM”に書き変える。

【0529】

次に、電話管理サーバ1671は、前記ACMメッセージを受信したことを示すIPパケットを形成し、メディアルータ1660へ通知する(ステップB18、B19)。

【0530】

<<メディアバス接続表>>

前記ステップB10と並行して、あるいはステップB10を完了した後に、中継制御部1606は音声制御部1607にメディアバス識別子“MP-7”を提示し、同時にIPアドレスとポート番号を要求する。すると、音声制御部1607は、音声制御部1607が音声IP通信回線1615に送出するIPパケットの送信元IPアドレス“EA7”とUDPパケットのポート番号“5008”とを中継制御部1606へ回答する。なお、音声制御部1607は交換機1608から受信する論理音声通信回線を確保し、その識別子“CH-2”をメディアバス接続表1628-2(図274)のレコードに記録する。メディアバス接続表のレコードの左側が音声制御部1607のIPアドレス“EA7”及びポート番号“5008”なり、右側が通信相手先のIPアドレス“EA1”及びポート番号“5006”となるように並べている。中継制御部1606は、IPアドレス“EA7”及びポート番号“

5 0 0 8”を受信し、CIC管理表 1 6 0 5 - 1（図 2 6 9）に書き込む。その結果は、CIC管理表 1 6 0 5 - 2（図 2 7 9）のようになる。

【 0 5 3 1】

<<CPGメッセージの送信>>

電話機 1 6 1 1 が電話呼出中を交換機 1 6 0 9 に報告すると（ステップB20）、交換機 1 6 0 9 は電話呼出中を知らせる信号ユニット（CPGメッセージ）を形成して送信し、前記信号ユニットは交換機 1 6 0 8 を経由して（ステップB21）、中継ゲートウェイ 1 6 0 5 に到達する（ステップB22）。中継制御部 1 6 0 6 は、受信した前記信号ユニットのラベル情報を基にアドレス接続表 1 6 2 5 - 1（図 2 7 1）を参照し、IP パケット形成のためのアドレス情報を取得し、IP パケット形式の CPG メッセージ 1 6 5 2（図 2 7 7）を形成する。IP パケットは電話管理サーバ 1 6 7 1 へ送信され（ステップB23）、電話管理サーバ 1 6 7 1 は、前記電話呼出中通知をメディアルータ 1 6 6 0 経由で電話機 1 6 1 0 へ通知する（ステップB26乃至B28）。中継制御部 1 6 0 6 は CPG メッセージを形成するとき、CIC管理表 1 6 0 5 - 2（図 2 7 9）から外部 IP アドレス“EA7”及びポート番号“5 0 0 8”を取得し、CPGメッセージ 1 6 5 2 に書き込んでいる。電話管理サーバ 1 6 7 1 は、受信した CPG パケット 1 6 5 2 から外部 IP アドレス“EA7”及びポート番号“5008”を取り出し、管理表 1 6 7 1 - 2（図 2 6 7）に書き込むことができる。

【 0 5 3 2】

<<ANMメッセージの送信>>

次に、電話機 1 6 1 1 の利用者が電話呼出しに応答すると（ステップB30）、交換機 1 6 0 9 は応答を知らせる信号ユニット（ANMメッセージ）を形成して送信し、前記信号ユニットは交換機 1 6 0 8 を経由して（ステップB31）、中継制御部 1 6 0 6 に到達する（ステップB32）。中継制御部 1 6 0 6 は、受信した前記信号ユニットのラベル情報を基にアドレス接続表 1 6 2 5 - 1（図 2 7 1）を参照し、IP パケット形式の ANM メッセージ 1 6 5 3（図 2 7 8）を形成し、IP パケット 1 6 5 3 は電話管理サーバ 1 6 7 1 へ送信される（ステップB33）。電話管理サーバ 1 6 7 1 は、前記応答通知をメディアルータ 1 6 6 0 経由で電話

機 1610 へ通知する（ステップ B36 乃至 B38）。即ち、電話管理サーバ 1671 から、IP パケット 1656（図 282）が終端装置 1603 を経由して（ステップ B36）、メディアルータ 1660 へ送られる（ステップ B37）。

【0533】

中継制御部 1606 は ANM メッセージを形成するとき、CIC 管理表 1605-2（図 279）から外部 IP アドレス“EA3”及びポート番号“5008”を取得し、ANM メッセージ 1653 に書き込んでいる。電話管理サーバ 1671 は、受信した応答パケット 1653 から外部 IP アドレス“EA7”及びポート番号“5008”を取り出し、CIC 管理表 1671-2（図 267）に書き込むことができる。

【0534】

<<CIC 管理表への書き込みタイミング>>

電話管理サーバ 1671 が、前記外部 IP アドレス“EA7”及びポート番号“5008”を取り出して CIC 管理表 1671-2 に書き込み、CIC 管理表 1671-3（図 280）を形成するタイミングは、前記説明のうち CPG メッセージを受信したステップ B23、或は ANM メッセージを受信したステップ B33 の一方のみ行う。

【0535】

<<アドレス管理表への書き込み>>

電話管理サーバ 1671 は、CIC 管理表 1671-3（図 280）から、送信元電話機 1610 が接続するメディアルータ 1660 の外部 IP アドレス“EA1”と、メディアルータ 1660 が音声送信に用いるポート番号“5006”と、音声制御部 1607 内部の外部 IP アドレス“EA7”と、音声制御部が音声送信に用いるポート番号“5008”とを取り出し、音声送出インタフェース“IF1614”と共に終端装置 1603 のアドレス管理表 1620 に書き込む（ステップ B39）。この結果を、アドレス管理表 1620-2（図 281）の第 3 行目のレコード“EA1, 5006, EA7, 5008, IF1614”に示す。

【0536】

<<通信フェーズ>>

電話機 1610 の利用者と電話機 1611 との電話通信は、他の実施例で説明しているのと同様のステップである。電話機 1610 のアナログ音声はディジタ

ル化され、IPパケット1661（図283）のペイロードに乗せられる。IPパケット1661の送信元アドレスはメディアルータ1660のIPアドレス“EA1”、宛先アドレスは前記取得した音声制御部1607内部のIPアドレス“EA7”、メディアルータの音声送信ポート番号は“5006”、音声制御部1607が音声送信に用いるUDPポート番号は“5008”である。

【0537】

IPパケット1661内部のIPアドレス及びポート番号が、アドレス管理表1620-2の3行目のレコード“EA1、5006、EA7、5008、IF1614”に含まれているので、IPパケット1661は出力回線インタフェース“IF1614”の指定により、IPパケット1662として音声IP通信回線1614へ送出され、ルータ1624、音声IP通信回線1615を経て、中継ゲートウェイ1606の音声制御部1607へ到達する。

【0538】

音声制御部1607は、受信したIPパケット1662からIPアドレスとポート番号“EA1、5006、EA7、5008”とを取り出し、メディアパス接続表1628-2（図274）の内部で、IPアドレスとポート番号が一致するレコードを検索する。ここで、メディアパス接続表の1行目のレコードに含まれるIPアドレス及びポート番号の組が一致するので、IPパケット1662は正規のIPパケットと見なされて受信される。なお、一致しないケースでは、前記IPパケットは廃棄される。

【0539】

次に、IPパケット1662内のデジタル化音声は、音声通信回線1617を伝送される形態の音声フレーム1664（図284）に変換され、音声フレーム1664は交換機1608を経由して交換機1609に到達し、電話機1611から音声出力される。電話機1611から送られた音声フレームに格納された音声は前記と逆方向に送られ、電話機1610へ到達する。

【0540】

<<解放フェーズ>>

電話機1610の利用者が電話通信の解放を通知すると（図261のステップ

B50)、メディアルータ1660は電話呼解放通知を電話管理サーバ1671に送り(ステップB51乃至B52)、電話管理サーバ1671は解放完了をメディアルータ1660へ返信する(ステップB64乃至B66)。電話管理サーバ1671は、電話呼解放を知らせるIPパケット1665(図285)を中継制御部1606に送り(ステップB55)、中継制御部1606は解放完了を知らせるIPパケット1666を電話管理サーバ1671へ返信し(ステップB62)、中継制御部1606は電話呼解放通知を中継交換機1608に送る(ステップB56)。中継交換機1608は解放完了を中継制御部1606へ返信し(ステップB61)、中継交換機1608は電話呼解放通知を交換機1609に送り(ステップB57)、交換機1609は解放完了を中継交換機1608へ返信し(ステップB60)、交換機1609は電話呼切断信号を電話機1611へ送信する(ステップB58)。

【0541】

<<メディアパスレコードの抹消>>

前記ステップB55において、中継制御部1606は音声制御部1607に指示して、メディアパス接続表1628-2(図274)に従って前記設定した当該メディアパスのレコード抹消を指示し、CIC管理表1605-2(図279)の当該レコードの抹消を指示する。更に、前記電話通信の接続制御において設定したアドレス接続表1625-1(図271)の当該レコードを抹消する。

【0542】

<<アドレス管理表とCIC管理表レコードの抹消>>

電話管理サーバ1671は、前記電話通信の接続制御において設定したCIC管理表1671-3(図280)の当該レコードを抹消すると共に、端末装置1603が管理するアドレス管理表1620-2(図281)の当該レコードを抹消するように端末装置1603に指示する(ステップB69)。

【0543】

<<端末装置のバリエーション>>

端末装置1603は、受け入れたIPパケット内部のアドレスを変更する機能(NAT機能)を行わないことも可能である。このケースでは、電話管理サーバの

外部 I P アドレス “EA91” と内部 I P アドレス “IA91” とを一致させる。

【 0 5 4 4 】

<< 終端装置の他のバリエーション >>

終端装置 1 6 0 3 内部のアドレス管理表 1 6 2 0 の中に I P アドレスを含まないようにすることも出来、アドレス管理表 1 6 2 0 - 3 (図 2 8 7) として示す。このケースでは I P アドレスの登録は行わないが、電話機の端末間接続制御にポート番号 “5 0 6 0” を用い、電話の音声通信において、ポート番号の “5 0 0 4” から “5 0 4 8” を用い、他のポート番号の I P パケットを廃棄する。このようにして、電話以外の I P パケットの送受を禁止する。

【 0 5 4 5 】

このようになっているので、電話機 1 6 1 0 及び 1 6 1 1 は I P 転送網 1 6 0 0、公衆電話交換網 1 6 0 1 を経由して電話通信が可能である。中継ゲートウェイは中継制御部及び音声制御部を含み、中継制御部は接続対応表及び信号局アドレス管理表を含んでいる。音声制御部はメディアパス接続表を含んでいる。音声制御部は音声通信回線 1 6 1 7 内の論理通信チャネルを定め、チャネル識別子 “CH-j” をメディアパス接続表に書き込む。非カプセル化終端ゲートウェイ及び非カプセル化中継ゲートウェイを用い、非カプセル化終端ゲートウェイ内部の終端装置のアドレス管理表により I P アドレス及びポート番号の組を登録した I P パケットのみを通過させる I P パケットフィルタリングを行う。あるいは、前記アドレス管理表によりポート番号を登録した I P パケットのみ通過させる I P パケットフィルタリングを行うこともできる。また、公衆電話交換網に接続する電話機と I P 転送網に接続する電話機との間で電話通信を行うことが可能である。

【 0 5 4 6 】

1 6. 制御線と音声線とを分離して公衆電話交換網に接続する第 1 6 実施例：

図 2 8 8 において、1 7 0 0 及び 1 7 0 1 は I P 転送網、1 7 0 2 は公衆電話交換網 (PSTN)、1 7 0 3 及び 1 7 0 4 はカプセル化機能付終端ゲートウェイ、1 7 0 5 は共通線信号方式の制御回線 1 7 3 8 に接続する中継ゲートウェイ、1 7 0 6 及び 1 7 0 7 は I P 通信回線に接続する中継ゲートウェイ、1 7 1 0 乃至

1 7 1 3 及び 1 7 1 8 は中継制御部、1 7 1 4 及び 1 7 1 5 は網ノード装置、1 7 1 6 及び 1 7 1 7 は音声制御部、1 7 2 0 及び 1 7 2 1 は電話機、1 7 2 5 乃至 1 7 2 9 は制御通信回線、1 7 3 1 乃至 1 7 3 6 は音声通信回線である。1 7 2 5 乃至 1 7 3 6 は I P 通信回線でもある。1 7 3 8 は共通線信号方式の制御通信回線、1 7 3 9 は音声通信回線である。網ノード装置 1 7 1 4 及び 1 7 1 5 は I P カプセル化機能を有し、他の実施例で説明している。I P 転送網 1 7 0 0 及び 1 7 0 1 は異なる通信会社が運用する点で個別の I P 転送網であるが、I P パケットは通信回線 1 7 2 7 及び 1 7 3 4 のいずれを経由しても一方から他方へ転送できる。

【 0 5 4 7 】

カプセル化機能付終端ゲートウェイ 1 7 0 3 内の中継制御部 1 7 1 0 は他の実施例で説明しているように電話管理サーバ、代理電話サーバ、電話番号サーバ、表管理サーバを含み、同様に中継制御部 1 7 1 3 も電話管理サーバ、代理電話サーバ、電話番号サーバ、表管理サーバを含む。

【 0 5 4 8 】

<< 接続フェーズ >>

電話機 1 7 2 0 から電話機 1 7 2 1 へ電話通信する例である。図 2 8 9 において、1 7 0 0 - 1 は I P 転送網 1 7 0 0 の範囲を、1 7 0 1 - 1 は I P 転送網 1 7 0 1 の範囲をそれぞれ表わす。電話機 1 7 2 0 の受話器を上げると、呼出信号がメディアルータ 1 7 2 2 へ伝えられ(ステップ E01)、メディアルータ 1 7 2 2 は電話呼出を確認する(ステップ E02)。次に、メディアルータ 1 7 2 2 は送信元となる電話機 1 7 2 0 の電話番号“TN-1”、宛先となる電話機 1 7 2 1 の電話番号“TN-2”を含む電話呼接続要求の I P パケットを形成して網ノード装置 1 7 1 4 へ送信する。網ノード装置 1 7 1 4 は前記 I P パケットを入力し、他の実施例で説明している I P カプセル化を適用して内部 I P パケットを形成し、前記 I P パケットをカプセル化機能付終端ゲートウェイ 1 7 0 3 内の中継制御部 1 7 1 0 へ送信する(ステップ E03)。

【 0 5 4 9 】

網ノード装置 1 7 1 4 は前記ステップ E03 に返信の I P パケットをメディアル

ータ 1 7 2 2 に返信し（ステップ E04）、電話呼接続要求の IP パケット 1 7 5 0 を形成して、制御 IP 通信回線 1 7 2 5 に送出する。すると、IP パケット 1 7 5 0 は、制御 IP 通信回線 1 7 2 6 を経て中継制御部 1 7 1 1 に到達する（ステップ E05）。IP パケット 1 7 5 0 は送信元 IP アドレス “S-ad-4”、宛先 IP アドレス “D-ad-4”、回線番号 “CIC-4”、メッセージ “IAM”、パラメータを “Para-4” を含む。前記パラメータは電話番号 “TN-1” 及び “TN-2” を含んでいる。宛先 IP アドレス “D-ad-4” は中継制御部 1 7 1 3 の IP アドレスである第 1 のケースと、中継制御部 1 7 1 2 の IP アドレスである第 2 のケースとがある。前記第 1 のケースにおいて、IP パケット 1 7 5 0 は、そのまま制御通信回線 1 7 2 7 を経て中継ゲートウェイ 1 7 1 2 内の中継制御部 1 7 1 2 に到達する（ステップ E06）。

【 0 5 5 0 】

なお、中継制御部 1 7 1 1 及び 1 7 1 2 は、IP パケット 1 7 5 0 内部から IP アドレス “S-ad-4”、“D-ad-4”、回線番号 “CIC-4”、IAM”、電話番号 “TN-1” 及び “TN-2” などを、他の実施例で説明したような CIC 管理表 1 7 1 1 - 1（図 2 9 0）として記録することができる。中継制御部 1 7 1 2 は他の実施例で説明しているような電話番号サーバを保持している。前記第 2 のケースにおいて、中継制御部 1 7 1 2 は IP パケットを受信すると、前記電話番号サーバを用いて、宛先電話番号 “TN-2” から IP パケット 1 7 5 0 の IP 転送網 1 7 0 1 内部における新しい宛先 IP アドレスを検索し、IP パケット 1 7 5 0 の宛先 IP アドレスとして用いる。中継制御部 1 7 1 2 が送出する IP パケット 1 7 5 1 は IP パケット 1 7 5 0 と同一であるか、あるいは上述した新しい IP アドレスを設定したパケットである。

【 0 5 5 1 】

IP パケット 1 7 5 1 は制御通信回線 1 7 2 8、1 7 2 9 を経由し、パケット機能付終端ゲートウェイ 1 7 0 4 の中継制御部 1 7 1 3 に到達する（ステップ E07）。なお、中継制御部 1 7 1 3 は他の実施例で説明しており、電話管理サーバ、代理電話サーバ、電話番号サーバ、表管理サーバからなる。中継制御部 1 7 1 3 内部の電話管理サーバが、IP パケット 1 7 5 1 を基にメディアルータに電話

呼出要求を知らせる IP パケットを送り、メディアルータ 1 7 2 3 が前記 IP パケットを受信する（ステップ E08）。

【 0 5 5 2 】

メディアルータ 1 7 2 3 は電話呼設定要求を電話機 1 7 2 1 へ通知し（ステップ E09）、ステップ E08 を受信したことを知らせる IP パケットを返信する（ステップ E11）。中継制御部 1 7 1 3 は ACM パケットを形成して返信し（ステップ E12）、前記 ACM パケットは中継制御部 1 7 1 2、1 7 1 1 を通過して中継制御部 1 7 1 0 へ到達する（ステップ E13、E14）。電話機 1 7 2 1 が呼出中通知をメディアルータに知らせると（ステップ E20）、メディアルータ 1 7 2 3、中継制御部 1 7 1 3、1 7 1 2、1 7 1 1、1 7 1 0、メディアルータ 1 7 2 2 を経て、電話機 1 7 2 0 へ電話呼出中が知らされる（ステップ E21 乃至 E26）。電話機 1 7 2 1 が応答すると、メディアルータ 1 7 2 3、中継制御部 1 7 1 3、1 7 1 2、1 7 1 1、1 7 1 0、メディアルータ 1 7 2 2 を経て、電話機 1 7 2 0 へ電話機 1 7 2 1 の応答が知らされ、通話可能となる（ステップ E30 乃至 E36）。

【 0 5 5 3 】

電話機 1 7 2 0 と電話機 1 7 2 1 との間で音声通信が行われる（ステップ E38）。電話機 1 7 2 0 から送られた音声は、メディアルータ 1 7 2 2 においてデジタル化されて IP パケットに格納され、網ノード装置 1 7 1 4、通信回線 1 7 3 1、1 7 3 2、1 7 3 3、音声制御部 1 7 1 6、通信回線 1 7 3 4、音声制御部 1 7 1 7、通信回線 1 7 3 5、1 7 3 6、網ノード装置 1 7 1 5 を経由して、メディアルータ 1 7 2 3 に到達し、ここでデジタル化された音声はアナログ音声となり、電話機 1 7 2 1 へ到達する。網ノード装置 1 7 1 4 及び 1 7 1 5 において、IP パケットの IP カプセル化及び逆カプセル化されることは他の実施例で説明している。電話機 1 7 2 0 が解放要求を出すと（ステップ E40）、他実施例において説明しているようにして、一連の電話呼解放と解放完了の手続きが行われて電話通信が完了する（ステップ E41 乃至 E45、ステップ 51 乃至 E55）。

【 0 5 5 4 】

<<各種ネットワークの接続>>

図 2 9 1 は、公衆電話交換網と IP 転送網との接続を、他の実施例を含めてま

とめて図に表わしたものである。1760及び1761は公衆電話交換網（PSTN）、1762及び1763はIP転送網、1764及び1765は加入者交換機（LS）、1766及び1767は中継交換機、1768乃至1771はカプセル化機能付終端ゲートウェイ、1772及び1773は中継ゲートウェイ、1776乃至1779はメディアルータ、1780乃至1785は電話機である。各交換機は中継制御部及び音声制御部を含み、カプセル化機能付終端ゲートウェイ及び中継ゲートウェイも中継制御部及び音声制御部を含む。前記交換機とゲートウェイとの間は、制御通信回線と音声制御回線とで結ばれている。中継ゲートウェイ1772とカプセル化機能付終端ゲートウェイ1768及び1769との間の制御回線の上に網ノード装置を設置し、中継ゲートウェイ1773とカプセル化機能付終端ゲートウェイ1770及び1771との間の制御回線の上に網ノード装置を設置する。これについては他の実施例で説明しているので、図291では省略している。

【0555】

このようになっているので、例えば電話機1782及び1785は、メディアルータ1776、カプセル化機能付終端ゲートウェイ1768、中継ゲートウェイ1772、中継ゲートウェイ1773、カプセル化機能付終端ゲートウェイ1771、メディアルータ1779を経由して端末間通信接続制御により、電話通信が可能である。

【0556】

また、電話機1780と電話機1785との間で、交換機1764、交換機1766、中継ゲートウェイ1772、中継ゲートウェイ1773、カプセル化機能付終端ゲートウェイ1767、メディアルータ1779を経由して、端末間通信接続制御により、電話通信が可能である。更に、電話機1780と電話機1781との間で、交換機1764、交換機1766、中継ゲートウェイ1772、中継ゲートウェイ1773、交換機1767、交換機1765を経由して、端末間通信接続制御により、電話通信が可能である。但し、本ケースは、交換機1766及び1767が地理的に遠く離れているケースなどに有効である。

【0557】

<<非カプセル化終端ゲートウェイを用いる例>>

上述と同様の各種ネットワークの接続であるが、図292に示すように、カプセル化機能付終端ゲートウェイ1768乃至1771を用いずに、非カプセル化終端ゲートウェイ1768x乃至1771xを用いている。中継ゲートウェイ1772及び1773を用いず、非カプセル化機能付終端ゲートウェイと相互通信ができる非カプセル化中継ゲートウェイ1772x及び1773xを用いている。

【0558】

以上説明したように、電話機1782と電話機1785との間、電話機1780と電話機1785との間、電話機1780と電話機1781との間で、前記と同様の端末間通信接続制御により電話通信が可能である。このようになっているので、電話機1、メディアルータ1、IP転送網1に属するカプセル化機能付終端ゲートウェイと中継ゲートウェイを経由し、IP転送網2に属する他の中継ゲートウェイと他のカプセル化機能付終端ゲートウェイを経由し、メディアルータ2、電話機2を順に経由して、2つの電話機間において電話通信を行い得る。更に、電話機1、メディアルータ1、IP転送網1に属する非カプセル化機能終端ゲートウェイ及び非カプセル化機能中継ゲートウェイを経由し、IP転送網2に属する他の中継ゲートウェイと他のカプセル化機能付終端ゲートウェイを経由し、メディアルータ2、電話機2を順に経由して、2つの電話機間において電話通信を行い得る。

【0559】

通信会社Xの運用するIP転送網1700から、通信会社Yの運用するIP転送網1701へ、IP転送網1701の中継制御部1712を宛先とするIPパケットが入力するケースにおいて、前記中継制御部1712は前記IPパケットを受信すると、電話番号サーバに問合せ、前記IPパケット内部に含まれる宛先電話番号“TN-2”への接続に関与するIP転送網の他中継制御部1713のIPアドレスを取得して、前記取得したIPアドレスを新しく設定したIPパケットは、前記他の中継制御部1713に転送されるようになっている。

【0560】

17. マルチキャスト通信を行う第17実施例：

本実施例を図293乃至図295を参照して説明する。IP転送網1800の内部に網ノード装置1801乃至1805及びルータ1807乃至1809を設置している。網ノード装置とルータはIP通信回線により、直接に或は網ノード装置やルータ経由で間接的に接続される。IPパケット送受機能を有する端末1810-1乃至1810-19はIP通信回線を經由で、網ノード装置に接続される。1811-1乃至1815-1は網ノード装置のアドレス管理表であり、1817-1乃至1819-1はルータの経路表である。

【0561】

図294の1868は、マルチキャスト通信における端末間通信接続制御機能を実現するサーバ類の主な所在を示しており、1857はマルチキャスト管理サーバ、1855及び1856はユーザサービスサーバ、1853及び1854は受付者、1851はマルチキャストサービス提供者、1852はマルチキャストサービス購入者、1850はルータ、1859はトリー構築サーバ、1858はIP転送網1800のリソース管理サーバ、1861乃至1863は表管理サーバである。1841乃至1845は、マルチキャストレコードが設定されたときに、予定外のIPパケットが出力される溢れ通信回線である。IP転送網1800内部のサーバやルータ類はIPアドレスを付与され、IPパケットを送受することにより相互に情報交換できるIP通信手段を有する。なお、本実施例において、端末やサーバは固有のIPアドレスを有する他に、複数のマルチキャストIPアドレスを付与できる。

【0562】

端末1810-2はマルチキャストサービスにおいて、マルチキャストデータを送信する送信端末でもある。マルチキャストデータはデジタル化した音声やファックスデータ、静止画像や動画像などのいわゆるマルチメディアデータを含む。

【0563】

<<通信レコード>>

アドレス管理表の行を通信レコード又はIP通信レコードという。例えばアドレス管理表1811-1の第2行目“I01, E01, E26, I26, G03, F02”を、外部IPアドレス“E01”と外部IPアドレス“E26”との間の通信レコード、或は外部IPアドレス“E01”を有する端末1810-2と、外部IPアドレス“E26”を有する端末1810-16との間のIP通信路を定める通信レコードという。通信レコードの内容が“a, b, c, d, e, f”であるとき、第1番目の項目は“a”、第2番目の項目は“b”であり、以下同様である。項目がアドレスであるとき、例えば第3番目のアドレス項目は“c”であるという。

【0564】

通信レコードの第1番目の項目を送信側論理端子（外部IP通信回線と網ノード装置の論理的接点）に付与した送信元内部IPアドレス、第2番目の項目を送信元外部IPアドレス、第3番目の項目を宛先外部IPアドレス、第4番目の項目を宛先側論理端子に付与した宛先内部IPアドレス、第5番目の項目を内部IPパケットの出力先指定、第6番目の項目を外部IPパケットの出力先指定という。

【0565】

<<2 端末間のIP転送>>

図293の端末1810-2に外部IPアドレス“E01”が付与され、通信回線1822の網ノード装置1801側終端に内部IPアドレス“I01”が付与され、図295の端末1810-16に外部IPアドレス“E26”が付与され、通信回線1826-6の網ノード装置1804側終端に内部IPアドレス“I26”が付与されている。網ノード装置のアドレス管理表1811-1乃至1815-1内部の数値は、他実施例で説明していると同様の方法により初期値が設定された状態を示しており、以下においてIPパケット転送により説明する。

【0566】

端末1810-2は、送信元外部IPアドレス“E01”、宛先外部IPアドレス“E26”である外部IPパケット1829-1を通信回線1822に送出し、網ノード装置1801は外部IPパケット1829-1を受信する。次に、

網ノード装置1801は、アドレス管理表1811-1の第2行目のレコード“ I 0 1、E 0 1、E 2 6、I 2 6、G 0 3、F 0 2”が前記取得した3つのIPアドレス、つまり通信回線1810-2の終端部に付与された内部IPアドレス“ I 0 1”、受信した外部IPパケット1829-1内の送信元外部IPアドレス“E 0 1”と、宛先外部IPアドレス“E 2 6”とを含んでいることを確認し、前記レコードに含まれる“ I 0 1、I 2 6”を用いて内部IPパケットを形成し、前記レコードに含まれる“G 0 3”が指定する通信回線1823-2へ内部IPパケット1829-2として送出する。前記IPカプセル化の手順において、当該通信レコード“ I 0 1、E 0 1、E 2 6、I 2 6、G 0 3、F 0 2”の内部パケット出力指定“G 0 3”（第5項目）が“0”以外であるので、IPカプセル化して内部IPパケットを形成して出力しているが、前記内部パケット出力指定が“0”のケースにおいては、当該IPパケットはカプセル化せずに、網ノード装置の溢れ通信回線1841へ転送する。

【0567】

ルータ1809は内部IPパケット1829-2を受信し、経路表1819-1の指定する出力インタフェース“G 2 1”が指定する通信回線1824-2へ、内部IPパケット1829-2をコピーして得た内部IPパケット1829-3を送出する。網ノード装置1804は内部IPパケット1829-3を受信し、アドレス管理表1814-1の第3行目のレコード“ I 2 6、E 2 6、E 0 1、I 0 1、G 3 6、F 1 6”が、内部IPパケット1829-3内の3つのIPアドレス“ I 2 6、E 0 1、I 0 1”を含んでいることを確認し、内部IPパケット1829-3のIPヘッダを除く逆カプセル化により外部IPパケットを復元し、当該レコード内部に含まれる出力インタフェース“F 1 6”が指定する通信回線1826-6へ外部IPパケット1829-4として送出する。端末1810-16は外部IPパケット1829-4を受信する。

【0568】

<<端末の種類>>

端末1810-1乃至1810-19はデータ送受信機能を有するデータ端末、デジタル化音声を送受する機能を有する電話機、デジタル化音声を送信で

きる音声送信端末（つまり有線音声放送用の送信機）、デジタル化音声を受信できる音声受信端末（つまり有線音声放送用の受信機）、デジタル化音声と画像の送受信機能を有する音声画像送受信端末またはTV会議端末、デジタル化音声と動画像を送信できる音声画像送信端末（つまり有線音声画像送信機）、デジタル化音声と動画像を受信できる音声画像受信端末（つまり有線TV受信機）であり、更に前記端末は他の実施例で説明しているメディアルータとメディアルータに接続するデータ端末や電話機、音声画像装置のいずれかの組合せとすることもできる。前記いずれの端末からの送信データ又は受信データも、IPパケットのパイロード部分に格納されるので、以下に述べるマルチキャストの技術が全ての端末に適用できる。

【0569】

＜＜マルチキャスト通信実施の準備＞＞

端末1810-2がマルチキャスト送信端末となり、端末1810-11、1810-13、1810-14、1810-17、1810-18がマルチキャスト受信端末のケースにおける送信端末と受信端末との間における端末間通信接続制御方法を説明する。

【0570】

図296は、IP転送網1800内部における網ノード装置及びルータ間を接続する通信回線のコストを通信回線毎に正整数で表しており、網ノード装置1801とルータ1807との間の通信コストは“1”、網ノード装置1801とルータ1809との間の通信コストは“2”、網ノード装置1802とルータ1807との間の通信コストは“2”、網ノード装置1802とルータ1809との間の通信コストは“1”、ルータ1807とルータ1808との間の通信コストは“1”、ルータ1807とルータ1809との間の通信コストは“3”、ルータ1808とルータ1809との間の通信コストは“3”、ルータ1808と網ノード装置1803との間の通信コストは“1”、ルータ1808と網ノード装置1804との間の通信コストは“4”、ルータ1809と網ノード装置1804との間の通信コストは“1”、ルータ1809と網ノード装置1805との間の通信コストは“1”であることを表わしている。

【0571】

IP転送網1800の内部には、図296に示した他に更に他のルータや通信回線が含まれるが、通信コスト算出に関連するルータや網ノード装置のみ図示している。なお、送信回線の通信コストは“2”、受信回線通信コストは“3”等と、送信方向及び受信方向により異なるように定めてよいが、本実施例では送信回線と受信回線の通信コストを同じ値に設定している。

【0572】

図294の網リソース管理サーバ1858は、IP転送網1800内部のルータやサーバ、通信回線など各種リソースの機能などを、その内部のデータベースに保持している。図297は、網リソース管理サーバ1858が保持する網ノード装置やルータ間の通信回線の通信コストを表わすコスト表1869である。コスト表1869内の記号“N1801”は網ノード装置1801を表わし、“R1807”はルータ1807を表わす。コスト表1869は、図296に示す通信回線コストを一覧表の形で表わしたものであり、例えばコスト表1869の第2行第7列目の“1”は、網ノード装置1801からルータ1807への通信コストは“1”であることを表わし、コスト表1869の第2行第9列目の“2”は、網ノード装置1801からルータ1809への通信コストは“2”であることを表わし、コスト表1869の第3行第7列目の“2”は、網ノード装置1802からルータ1807への通信コストは“2”であることを表わし、コスト表1869の第3行第9列目の“1”は、網ノード装置1802からルータ1809への通信コストは“1”であることを表わし、以下同様の表現である。

【0573】

次に、図298乃至図300を参照して、マルチキャスト通信のための手順を説明する。マルチキャストデータ等の送信者1851（図294）は、端末1810-2をマルチキャストデータ等の送信端末として網ノード装置1801に接続することを、受付者1853に申込む（図300のステップMS1）。受付者1853は送信識別情報や料金支払い方法と共に、送信端末情報1870（図298）をユーザサービスサーバ1855に入力する（ステップMS2）。ここで、送信端末情報1870は、マルチキャスト送信用の端末1810-2を網ノード

ド装置1801に接続する情報を含む。なお、送信端末情報1870内の記号“N1801”は網ノード装置1801を表わし、“T1810-2”は端末1810-2を表わす。ユーザサービスサーバ1855は取得した送信識別情報や送信料金支払い方法と共に、送信端末情報1870をマルチキャスト管理サーバ1857へ送信し（ステップMS3）、マルチキャスト管理サーバ1857は受信した前記情報をそのデータベースに保持する（ステップMS4）。

【0574】

次に、端末1810-11、1810-13、1810-14、1810-17、1810-18の利用者が、マルチキャストデータ等を受信するケースを説明する。これら利用者1852は、受付者1854にマルチキャストデータ等の受信を申込む（ステップMS11）。受付者1854は利用者識別情報や受信料金支払い方法と共に、受信端末情報1871をユーザサービスサーバ1856に入力する（ステップMS12）。ここで、受信端末情報1871（図299）は、マルチキャストデータ受信用の端末1810-11及び1810-13を網ノード装置1803に接続し、端末1810-14を網ノード装置1804に接続し、端末1810-17及び1810-18を網ノード装置1805に接続する情報を含む。なお、受信端末情報1871内の記号“N1803”は網ノード装置1803を表わし、“T1810-11”は端末1810-11を表わし、他の記法も同様である。

【0575】

ユーザサービスサーバ1856は前記取得した受信識別情報や料金支払い方法と共に、受信端末情報1871をマルチキャスト管理サーバ1857へ送信し（ステップMS13）、マルチキャスト管理サーバ1857は受信した前記情報をそのデータベースに保持する（ステップMS14）。マルチキャスト管理サーバ1857はステップMS4とステップMS14の双方を受信すると、送信端末情報1870と利用者端末情報1871との組にマルチキャスト識別情報ID-kを付与し、これら情報をトリー構築サーバ1859（図294）へ送る（ステップMS18）。トリー構築サーバ1859はリソース管理サーバ1858へコスト表1869を要求し（ステップMS19）、コスト表1869を取得する（ス

トップMS20)。トリ－構築サーバ1859はマルチキャスト木構造算出モジュール1859-1(図294)を用いて、マルチキャスト識別情報ID-kにより決定されるマルチキャスト木構造を定め(図301)、つまりマルチキャスト技法によるIPパケットの転送通信路を決定し、網ノード装置へのアドレス管理表追加情報(図302乃至図305)やルータの経路表追加情報(図306乃至図308)を形成し、トリ－構築サーバ1859の内部に保持する(ステップMS21)。

【0576】

<<トリ－構築サーバによるマルチキャスト木構造の構築>>

次に、トリ－構築サーバ1859は、アドレス管理表追加情報1811-2をアドレス管理表1811-1へ、経路表追加情報1817-2を経路表1817-1へそれぞれ追加するように表管理サーバ1861へ要求し(ステップMS22)、表管理サーバ1861は前記要求に対する設定を報告し(ステップMS25)、トリ－構築サーバ1859は、アドレス管理表追加情報1813-2をアドレス管理表1813-1へ、アドレス管理表追加情報1814-2をアドレス管理表1814-1へ、経路表追加情報1818-2を経路表1818-1へそれぞれ追加するように表管理サーバ1862へ要求する(ステップMS23)。そして、表管理サーバ1862は前記要求に対する設定を報告し(ステップMS26)、トリ－構築サーバ1859は、アドレス管理表追加情報1815-2をアドレス管理表1815-1へ、経路表追加情報1819-2を経路表1819-1へそれぞれ追加するように表管理サーバ1863へ要求し(ステップMS24)、表管理サーバ1863は前記要求に対する設定を報告する(ステップMS27)。ここで、表管理サーバ1863は、網ノード装置に近いルータに接続されている。なお、アドレス管理表追加情報や経路表追加情報の意味は、IPパケット転送の流れの中で説明する。トリ－構築サーバ1859は前記ステップMS25乃至MS27の完了を確認すると、網ノード装置内のアドレス管理表やルータの経路表にマルチキャスト情報を追加する手段により、ステップMS18において要求されたトリ－構築の完了をマルチキャスト管理サーバ1857へ報告する(ステップMS28)。以上の手続きにより、マルチキャスト通信のための端

末間通信接続制御の前半部分、つまりマルチキャスト木構造の構築が完了した。

【0577】

<<マルチキャスト木構造>>

図301に示す前記マルチキャスト木構造の意味は次の通りである。端末1810-2から送出された外部IPパケットは網ノード装置1801に到達すると内部IPパケットとなり、前記内部IPパケットはルータ1807及びルータ1809の2方向へ分岐し、ルータ1807へ到達した内部IPパケットはルータ1807を通過し、次にルータ1808を通過して網ノード装置1803へ到達する。他の内部IPパケットはルータ1809へ到達し、ルータ1809は前記内部IPパケットを2つの方向、つまり網ノード装置1804及び1805へ送出する。網ノード装置1803は受信した内部IPパケットを逆カプセル化して外部IPパケットを復元し、復元した外部IPパケットを端末1810-11及び1810-13へ送出する。網ノード装置1804は受信した内部IPパケットを逆カプセル化して外部IPパケットを復元し、復元した外部IPパケットを端末1810-14へ送出する。網ノード装置1805は受信した内部IPパケットを逆カプセル化して外部IPパケットを復元し、復元した外部IPパケットを端末1810-17及び1810-18へ送出する。以上述べたように、マルチキャスト通信においてはIPパケットが木構造状に見える通信路を転送されるので、通信路の形状をマルチキャスト木構造という。

【0578】

<<マルチキャスト技法による木構造の構築>>

前記ステップMS22乃至MS24において、トリート構築サーバ1859から表管理サーバ1861乃至1863への通信は、通信信頼性が高いTCP通信（コネクション通信）で行なっている。但し、複数の表管理サーバがIP転送網内の多数のルータに接続されており、網ノード装置のアドレス管理表やルータの経路表の新規設定やレコード書換え機能を分担している。本実施例はルータ1807乃至1809という少ない（3個）例であるが、IP転送網内のルータ数は多数、例えばルータ数10万台であり、表管理サーバの数も相当に多くなる他の実施例も想定される。

【0579】

このようなケースにおいて、トリー構築サーバから多数の表管理サーバへ、アドレス管理表追加情報や経路表追加情報を転送するのは、通信トラフィックが過大となり得策でない。このため、トリー構築サーバから前記10万台のルータへ、アドレス管理表追加情報や経路表追加情報を転送するための経路表のレコードを、IP転送網を構築した時点において、各ルータに設定しておく。但し、各ルータの通信レコード全体として、マルチキャスト木構造状にIPパケットを転送するようにしておく。このようにして、トリー構築サーバから多数のルータへ、アドレス管理表追加情報や経路表追加情報を転送するための通信トラフィックが過大となることを抑制することができる。

【0580】

<<アドレス管理表>>

図309乃至図311を参照して説明すると、アドレス管理表1811の第1行目にはアドレス管理追加情報1811-2が含まれており、アドレス管理表1813の第1行目にはアドレス管理追加情報1813-2が含まれており、アドレス管理表1814の第1行目にはアドレス管理追加情報1814-2が含まれており、アドレス管理表1815の第1行目にはアドレス管理追加情報1815-2が含まれている。

【0581】

図309の通信回線1822の網ノード装置1801側の終端に内部IPアドレス“I01”が付与され、図311の通信回線1826-1の網ノード装置1803側の終端に内部IPアドレス“I20”及び“IM2”が付与され、通信回線1826-2の網ノード装置1803側の終端に内部IPアドレス“I22”及び“IM2”が付与され、通信回線1826-3の網ノード装置1804側の終端に内部IPアドレス“I24”及び“IM2”が付与され、通信回線1826-4の網ノード装置1805側の終端に内部IPアドレス“I27”及び“IM2”が付与され、通信回線1826-5の網ノード装置1805側の終端に内部IPアドレス“I28”及び“IM2”が付与されている。ここで、内部IPアドレス“IM2”はマルチキャストのために用いるアドレスの実施例である。

【0582】

<<アドレス管理表の表現方法>>

アドレス管理表1811乃至1815のレコード内部項目の記載順序は、従来技術の説明においてはレコード内部項目を“E1, E2, I1, I2”の順序により表わしているが、本実施例では項目の順序を“I1, E1, E2, I2”のように位置を変更しているが、表記上の違いのみで本質的な差はない。IPアドレスが“E01”である端末1810-2から送出されたIPパケット1830は、通信回線1822を経て網ノード装置1801に到達する。IPパケット1830の宛先アドレス“M2”はマルチキャスト外部IPアドレスであり、具体的数値として、例えば“224.1.2.3”であり、ここで“224”はIETFの規定のマルチキャストアドレスを意味する。マルチキャスト内部IPアドレス“IM2”の具体的数値として、例えば“225.1.2.3”の値である。

【0583】

<<ルータの経路表>>

図310を参照して説明すると、経路表1817乃至1819が含まれており、受信したIPパケットを転送すべき通信回線が書き込まれている。経路表1817の第2行目には経路表追加情報1817-2が含まれており、経路表1818の第2行目には経路表追加情報1818-2が含まれており、経路表1819の第2行目には経路表追加情報1819-2が含まれている。例えば、経路表1817の第2行目のレコードの場合、宛先IPアドレスが“IM2”であるIPパケットは、論理通信回線名G12により指定される通信回線1824-1であり、経路表1818の第2行目のレコードの場合、宛先IPアドレスが“IM2”であるIPパケットは、論理通信回線名G27により指定される通信回線1825である。また、経路表1819の第2行目のレコードは“IM2”と“G21, G22”とが書き込まれており、宛先IPアドレスが“IM2”であるIPパケットは、論理通信回線名G21により指定される通信回線1824-2と、論理通信回線名G22により指定される通信回線1824-3とに転送される。

【0584】

<<IPパケットの転送>>

次に、端末1810-2から、外部IPパケット1830の送信から始まる一連のIPパケット転送のステップを説明するが、図312の1800-1はIP転送網1800内におけるIPパケット送受を表わす。端末1810-2は通信回線1822に外部IPパケット1830を送信し（図312のステップD1）、網ノード装置1801は外部IPパケット1830を受信すると、IPパケット1830が入力した通信回線1822の終端部（論理端子）に付与されている内部IPアドレスが“I01”、IPパケット1830の宛先外部IPアドレス“M2”を確認し、アドレス管理表1811内部を検索し、始めに送信元内部IPアドレスが“I01”であり、次に宛先外部IPアドレスが“M2”が含まれるレコードを検索し（第1のIPパケット受け入れ検査）、更に前記検索したレコード内にIPパケット1830内の送信元外部IPアドレス“E01”が含まれるかを調べる（第2のIPパケット受け入れ検査）。

【0585】

本例では、アドレス管理表1811の上から1行目の“I01、E01、M2、IM2、G02、G03、0”を含むレコードを見出し、このレコード内部にあるIPアドレスの“I01”及び“IM2”を用いて、送信元IPアドレスが“I01”であり、宛先IPアドレスが“IM2”を形成し（IPパケットのカプセル化）、カプセル化後の論理通信回線名G02用の通信回線1823-1へ内部IPパケット1831-1として送出し（ステップD2）、更にカプセル化後の論理通信回線名G03用の通信回線1823-2に内部IPパケット1831-2として送出する（ステップD3）。なお、前記手順において、外部IPパケット1830の宛先IPアドレスがアドレス管理表1811に含まれていない場合、外部IPパケット1830は廃棄される（第1のIPパケット受け入れ検査）。なお、前記検出したレコード内にIPパケット1830内の送信元IPアドレス“E01”が含まれるかを調べることは省略することもでき、この場合は前記第2のIPパケット受け入れ検査は行わない。

【0586】

通信回線1823-1を経て転送された内部IPパケット1831-1はルー

タ1807へ到達し、内部IPパケット1831-1の宛先IPアドレスは“IM2”であるので、経路表1817の第2行目の“IM2, G12”に従い、論理通信回線名G12用の通信回線1824-1へ内部IPパケット1831-3として送出される（ステップD4）。ここで、IPパケット1831-1はコピーされてIPパケット1831-3となっている。内部IPパケット1831-3はルータ1808へ到達し、内部IPパケット1831-3の宛先IPアドレスは“IM2”であるので、経路表1818の第2行目の“IM2, G27”に従い、論理通信回線名G27用の通信回線1825へ内部IPパケット1831-4として送出される（ステップD5）。ここで、IPパケット1831-3はコピーされてIPパケット1831-4となっている。一方、通信回線1823-2を経て転送された内部IPパケット1831-2はルータ1809へ到達し、内部IPパケット1831-2の宛先IPアドレスは“IM2”であるので、経路表1819の第2行目の“IM2, G21, G22”に従い、論理通信回線名G21用の通信回線1824-2へ内部IPパケット1831-5として送出され（ステップD7）、更に論理通信回線名G22用の通信回線1824-3へ内部IPパケット1831-6として送出される（ステップD8）。ここで、IPパケット1831-2はコピーされてIPパケット1831-5及びIPパケット1831-6となっている。なお、ルータの経路表1817乃至1819及び網ノード装置の経路表は公知のマスクを有することができるが、省略したケースである。

【0587】

内部IPパケット1831-4は通信回線1825を経て網ノード装置1803に到達する。アドレス管理表1813の第1行目のレコード“IM2, M2, E01, I01, 0, F10, F12”の左から4つの項目“IM2, M2, E01, I01”が、内部IPパケット1831-4内の4つのアドレス“I01, IM2, E01, M2”と一致するので、内部IPパケット1831-4は、他の実施例で説明しているようにIPヘッダを除く逆カプセル化を施されて、外部IPパケット1830が復元される。復元された前記IPパケットは、当該第1行目のレコード内部の出力インタフェースF10とF12の指定する通信回線

、つまり出力インタフェースF10の指定する通信回線1826-1へ外部IPパケット1832-1として送出され（ステップD11）、続いて出力インタフェースF12の指定する通信回線1826-2へ外部IPパケット1832-2として送出される（ステップD13）。IPパケット1832-1は端末1810-11へ到達し、IPパケット1832-2は端末1810-13へ到達する。

【0588】

同様にして、内部IPパケット1831-5は通信回線1824-2を経て網ノード装置1804に到達する。アドレス管理表1814の第1行目のレコード“IM2, M2, E01, I01, 0, F14”の左から4つの項目“IM2, M2, E01, I01”が、内部IPパケット1831-5内の4つのアドレス“I01, IM2, E01, M2”と一致するので、内部IPパケット1831-5は、他の実施例で説明しているようにIPヘッダを除く逆カプセル化を施されて、外部IPパケット1830が復元される。復元された前記IPパケットは、当該第1行目のレコード内部の出力インタフェースF14の指定する通信回線、つまり出力インタフェースF14の指定する通信回線1826-3へ外部IPパケット1832-3として送出される（ステップD14）。IPパケット1832-3は端末1810-14へ到達する。

【0589】

内部IPパケット1831-6は通信回線1824-3を経て網ノード装置1805に到達する。アドレス管理表1815の第1行目のレコード“IM2, M2, E01, I01, 0, F17, F18”の左から4つの項目“IM2, M2, E01, I01”が、内部IPパケット1831-6内の4つのアドレス“I01, IM2, E01, M2”と一致するので、内部IPパケット1831-6は、他の実施例で説明しているようにIPヘッダを除く逆カプセル化を施されて、外部IPパケット1830が復元される。復元された前記IPパケットは、当該第1行目のレコード内部の出力インタフェースF17とF18の指定する通信回線、つまり出力インタフェースF17の指定する通信回線1826-4へ外部IPパケット1832-4として送出され（ステップD17）、出力インタフェ

ースF18の指定する通信回線1826-5へ外部IPパケット1832-5として送出される（ステップD18）。IPパケット1832-4は端末1810-17へ到達し、IPパケット1832-5は端末1810-18へ到達する。

【0590】

＜＜ACKパケットやNACKパケットの大量洪水の予防＞＞

端末1810-11が外部IPパケット1832-1の受信を送信元端末1810-2へ報告するため、端末1810-11が送信元外部IPアドレス“M2”、宛先外部IPアドレス“E01”である外部IPパケット1833を形成して、通信回線1826-1に送出するケースを考える（図312のステップD21）。網ノード装置1803は外部IPパケット1833を受信すると、受信した外部IPパケット内部の送信元外部IPアドレス“M2”がマルチキャストアドレスであることを確認し、前記受信した外部IPパケットをそのままパケット溢れ通信回線1843へ転送する。パケット溢れ通信回線1843へ転送された前記外部IPパケットは廃棄される。同様に、網ノード装置1804が端末1810-14から外部IPパケットを受信した場合や（ステップD22）や、網ノード装置1805が端末1810-17から外部IPパケットを受信した場合も（ステップD23）、前記受信した外部IPパケットをそのまま通信回線1844や1845へ転送する。パケット溢れ通信回線1844及び1845へ転送された外部IPパケットは廃棄される。

【0591】

このようになっているから、マルチキャストデータ受信の全ての端末からマルチキャストデータ送信元端末へ端末個別報告のIPパケット送出を抑制でき、結果としてIP転送網内部のACKパケットやNACKパケットの大量洪水を予防できる。

【0592】

次に、網ノード装置1803が、受信したIPパケット1833を溢れ通信回線1843へ転送する具体的な方法を説明する。網ノード装置1803は、IPパケット1833が入力した通信回線1826-1の終端部（論理端子）に付与されている内部IPアドレス“IM2”、IPパケット1833の宛先外部IP

アドレス“E01”を確認し、アドレス管理表1813の内部の通信レコードを検索し、始めに送信元内部IPアドレスが“IM2”であり、次に宛先外部IPアドレス“E01”が含まれる通信レコードを検索し、更に前記検索したレコード内にIPパケット1833内の送信元外部IPアドレス“M2”が含まれるかを調べる。本ケースではアドレス管理表1813の第1行目の通信レコード“IM2、M2、E01、I01、0、F10、F12”の第1番目から第3番目のアドレス項目が全て一致するのでこのレコードが選択され、次にこの通信レコードの第5番目の項目（内部パケット出力指定）が“0”であるので、IPパケット1833のカプセル化を行わずにIPパケット1833を溢れ通信回線1843へ転送する。

【0593】

また、端末1810-13、1810-14、1810-17、1810-18から送信元IPアドレス“M2”、宛先IPアドレス“E01”である外部IPパケットを網ノード装置に送信するケースにおいて、上述と同様の手順により、各々の網ノード装置の溢れ通信回線へ転送される。以上述べたように、受信端末1810-11から送信元端末1810-2へ、前記マルチキャストIPパケットを受信したことを確認するためのACKパケットを送出しても、網ノード装置1803を通過できないので、ACKパケットの大量洪水（ACK implosion）によるIP転送網の輻輳発生を予防できる。なお、パケット溢れ通信回線上のIPパケットの利用に関しては後述する。

【0594】

ACKパケットの代わりに、網ノード装置1803が端末1810-11からNACKパケットを受信した場合においても、同様の原理によりNACKパケットを廃棄できるので、NACKパケットの大量洪水を予防できる。なお、端末1810-11乃至1810-19がNACKパケットを送信するタイミングは、例えばマルチキャスト技法によるIPパケット転送の時刻を予め決めておき、予定の時刻になってもIPパケットが配送されないケースにおいて、NACKパケットを送信する。

【0595】

<<有線放送の実現>>

端末1810-2がデジタル化音声を送信できる音声送信端末であり、端末1810-11、1810-13、1810-14、1810-17、1810-18がデジタル化音声受信端末である場合、IPパケット1830の送信は有線音声放送となる。また、端末1810-2がデジタル化音声動画像を送信できる音声動画像送信端末であり、端末1810-11、1810-13、1810-14、1810-17、1810-18がデジタル化音声動画像受信端末である場合、IPパケット1830の送信は有線TV放送となる。

【0596】

<<マルチキャスト木構造の修正>>

マルチキャストデータの受信端末の増減等によりマルチキャスト木構造を修正することができる。受付者1854は、予めマルチキャスト管理サーバ1857から、マルチキャストサービスの内容とマルチキャスト識別情報ID-k($k=1, 2, \dots$)との対応付けを入手して保持している。利用者1852は、受付者1854に網ノード装置1804に接続している端末1810-15を用いて、マルチキャストサービスデータの受信を申込む(図313のステップMS31)。受付者1854は利用者1852から受信者識別情報、料金支払い方法、端末関連情報(網ノード装置1804と端末1810-15を用いること)を取得し、更に利用者1852から得たマルチキャストサービスの内容からマルチキャスト識別情報ID-kを特定する。受付者1854はこれら情報をユーザサービスサーバ1856に入力する(ステップMS32)。

【0597】

次に、ユーザサービスサーバ1856は前記取得した受信者識別情報や料金支払い方法、端末関連情報、マルチキャスト識別情報ID-kをマルチキャスト管理サーバ1857へ送信し(ステップMS33)、マルチキャスト管理サーバ1857は前記受信端末情報をそのデータベースに保持する(ステップMS34)。マルチキャスト管理サーバ1857は、マルチキャスト識別情報ID-kと端末関連情報(網ノード装置1804と端末1810-15の利用)とをトリートリー構築サーバ1859へ送る(ステップMS35)。トリートリー構築サーバ1859はリ

ソース管理サーバ1858へコスト表を要求して（ステップMS36）、コスト表を取得する（ステップMS37）。

【0598】

トリー構築サーバ1859はマルチキャスト木構造算出モジュール1859-1を用いて、マルチキャスト識別情報ID-kと端末関連情報を追加したマルチキャスト木構造とを算出し、網ノード装置へのアドレス管理表追加情報及びルータの経路表変更情報を生成し（ステップMS38）、トリー構築サーバ1859の内部に保持する。次に、トリー構築サーバ1859は、アドレス管理表変更情報を網ノード装置1804のアドレス管理表1814へ追加するように表管理サーバ1862へ要求し（ステップMS40）、表管理サーバ1862は前記要求に対する設定を報告し（ステップMS41）、トリー構築サーバ1859は、マルチキャスト木構造の変更を完了したことをマルチキャスト管理サーバ1857へ報告する（ステップMS42）。マルチキャスト管理サーバ1857は、ステップMS31において利用者1852から申込みの手続きが完了したことをユーザサービスサーバ1856を経て（ステップMS43）、受付者1854を経て（ステップMS44）、利用者1852へ報告する（ステップMS45）。

【0599】

なお、アドレス管理表1814は表管理サーバ1862により設定されているとしている。アドレス管理表変更情報は、アドレス管理表1814の第1行目の第6番目の項目“F14”を“(F14, F15)”に変更し、論理通信回線“F15”に接続する端末1810-15を受信端末として追加するように指定する。結果として、アドレス管理表1814の第1行目のレコードは“IM2, M2, E01, I01, 0, (F14, F15)”に変更される。

【0600】

また、端末1810-11がマルチキャストデータ受信を廃止するケースにおいては、利用者1852が受付者に端末1810-11のマルチキャストデータ受信の廃止を申込み、結果として、図311のアドレス管理表1813の第1行目“IM2, M2, E01, I01, 0, (F10, F12)”の第6番目の項目“(F10, F12)”から、端末1810-11に接続する論理通信回線“

F10”を抹消することを指定する。結果として、アドレス管理表1813の第1行目は“IM2, M2, E01, I01, 0, F12”のように変更される。

【0601】

なお、本実施例はルータ1807などの経路表を変更しない例であるが、マルチキャスト木構造の他の修正要求内容により、ルータ1807乃至1809の経路表に対する経路表変更情報を生成し、あるいは他の網ノード装置1801及び1802のアドレス管理表に対して通信レコードの変更情報を生成することも可能である。このようなケースでは、木構造設定を新規に設定するケースにおけるように、他の表管理サーバ1861及び1863に依頼して、ルータの経路表や網ノード装置のアドレス管理表の変更が行われる。

【0602】

<<マルチキャスト木構造の解放>>

マルチキャストサービスを終了するためのマルチキャスト木構造解放手順を説明する。受付者1854は、予めマルチキャスト管理サーバ1857から、マルチキャストサービスの内容とマルチキャスト識別情報ID-k($k=1, 2, \dots$)との対応付けを入手して保持している。マルチキャストデータ等の送信者1851は、前記手続きにより形成しているマルチキャスト木構造の解放を受付者1853に申込む(図313のステップMS60)。受付者1853は送信識別情報とマルチキャスト識別情報ID-kを元に、マルチキャスト木構造の解放をユーザサービスサーバ1855に入力する(ステップMS61)。ユーザサービスサーバ1855は、前記送信識別情報と共にマルチキャスト木構造の解放をマルチキャスト管理サーバ1857へ送信し(ステップMS62)、マルチキャスト管理サーバ1857は受信した送信識別情報と、前記マルチキャスト木構造解放情報(マルチキャスト識別情報ID-kを含む)とを元に、前記マルチキャストサービスの終了をそのデータベースに記録する(ステップMS63)。次に、マルチキャスト管理サーバ1857は、トリー構築サーバ1859へ、マルチキャスト識別情報ID-kにより識別できるマルチキャスト木構造を解放することを指示する(ステップMS64)。

【0603】

トリー構築サーバ1859はマルチキャスト識別情報ID-kを元に、表管理サーバ1861乃至1863へ、網ノード装置のアドレス管理表の付加情報1811-2、1813-2、1814-2、1815-2（図302乃至図305）をアドレス管理表1811、1813、1814、1815から抹消し、更にルータの経路表の付加情報1817-2、1818-2、1819-2（図306乃至図308）を経路表1817、1818、1819から抹消するように指示し（ステップMS66乃至MS68）、報告を受ける（ステップMS70乃至MS72）。続いて、トリー構築サーバ1859はマルチキャスト識別情報ID-kと共に、マルチキャスト木構造を設定する際にリソース管理サーバ1858へ要求してマルチキャスト通信に提供していたIP転送網1800内部のリソースをリソース管理サーバ1858へ返却し（ステップMS73）、報告を受ける（ステップMS74）。トリー構築サーバ1859は、マルチキャスト木構造の解放手続きの完了をマルチキャスト管理サーバ1857へ報告する（ステップMS77）。更に、マルチキャスト管理サーバ1857は、マルチキャスト木構造の解放手続き完了を、ユーザサービスサーバ1855（ステップMS78）を経て、更にデータ送信受付者1853を経て（ステップMS79）、データ送信者1851へ報告する（ステップMS80）。なお、ステップMS78乃至MS80は省略しても良いオプションである。以上の手続きにより、マルチキャスト技法による端末間通信接続制御の後半部分、つまりマルチキャスト木構造の解放が完了した。

【0604】

<<溢れ通信回線の利用>>

溢れ通信回線1843乃至1845の利用方法を説明する。図314の1801乃至1805は網ノード装置、1810-2はマルチキャストデータを送信する端末、1810-11乃至1810-13はマルチキャストデータを受信する端末であり、1880乃至1882は出力回線1843乃至1845に接続する溢れ通信回線サーバ1880乃至1882である。端末1810-11から送出された図311のIPパケット1833、つまり送信元IPアドレス“M2”、宛先IPアドレス“E01”であるIPパケットは、アドレス管理表1813の

第1行目のレコード“IM2, M2, E01, I01, 0, F10, F12”内部の5番目の項目値“0”により、溢れ通信回線1843に転送される。前記レコードの内部パケット出力指定（5番目の項目）が“0”のとき前記IPパケットは溢れ通信回線に転送され、内部パケット出力指定“0”以外ではIPパケットは溢れ通信回線に転送されないようになっている。

【0605】

図315を参照して説明すると、端末1810-11から送出された送信元外部IPアドレス“M2”であるIPパケットは網ノード装置1803に到達し（ステップMC1）、前記IPパケットは溢れ通信回線1843経由で溢れ通信回線サーバ1880に到達する（ステップMC2）。端末1810-12から送信元外部IPアドレス“M2”であるIPパケットが送出された場合、当該IPパケットは網ノード装置1803に到達し（ステップMC3）、前記IPパケットは溢れ通信回線1843経由で溢れ通信回線サーバ1880に到達する（ステップMC4）。端末1810-13から送信元外部IPアドレス“M2”であるIPパケットが送出された場合、当該IPパケットは網ノード装置1803に到達し（ステップMC5）、前記IPパケットは溢れ通信回線1843経由で溢れ通信回線サーバ1880に到達する（ステップMC6）。

【0606】

本ケースでは、溢れ通信回線サーバ1880は送信元外部IPアドレス“M2”、つまり送信元外部IPアドレスがマルチキャストIPアドレスであるIPパケットを複数受信する。端末1810-11乃至1810-13がIPパケットを送信するとき、そのIPパケットのペイロード部分に送信元の端末アドレスを記載するようにしてある。即ち、端末1810-11は送信元外部IPアドレス“E20”、端末1810-12は送信元外部IPアドレス“E21”、端末1810-13は送信元外部IPアドレス“E22”をそれぞれ設定するルールを定めてあるので、溢れ通信回線サーバ1880乃至1882は、送信元端末のIPアドレスを用いて送信元端末の外部IPアドレスを特定できる。このようになっているから、送信元端末1810-11乃至1810-13がACKパケットやNACKパケットを送信してきた場合、送信元の端末を特定できる。

【0607】

溢れ通信回線サーバ1880は、上記方法により取得した3つの端末からの情報をまとめて網ノード装置1803経て（ステップMD1）、更にIP転送網1800内部及び網ノード装置1801を経て（ステップMD2）、マルチキャストデータの送信端末1810-2へ通知できる（ステップMD3）。なお、ステップMD1乃至MD3を実施するため、溢れ通信回線サーバ1880と端末1810-2との間にIPパケット転送を可能とするために、網ノード装置1801内のアドレス管理表1811内部と、網ノード装置1803内のアドレス管理表1813内部とに、IPカプセル化と逆カプセル化を行うレコードを設定しておく。

【0608】

以上の結果として、マルチキャストデータ送信端末1810-2は、端末1810-11乃至1810-13がマルチキャストデータを受信したか否かを知ることができる（送達確認機能）。このとき、ACKパケットやNACKパケットの増大等によるIP転送網1800内部の通信量増大を抑制されている。

【0609】

溢れ通信回線サーバ1880から、マルチキャストアドレス“M2”を用いて端末1810-11乃至1810-13へIPパケットを送信し（ステップME1乃至ME4）、あるいは溢れ通信回線サーバ1880から、IPアドレス“E21”を用いてアドレス管理表1813にカプセル化用アドレスを含むレコードを設定しておき、端末1810-12へIPパケットを送信することもできる（ステップMF1, MF2）。

【0610】

図316を参照して説明すると、溢れ通信回線サーバ1880はIPパケットを送受して、マルチキャスト送信端末1810-2と情報交換可能である（ステップMG1乃至MG3）。また、溢れ通信回線サーバ1881はIPパケットを送受して、マルチキャストデータ送信端末1810-2と情報交換可能であり（ステップMH1乃至MH3）、溢れ通信回線サーバ1882はIPパケットを送受して、マルチキャストデータ送信端末1810-2と情報交換可能である（ス

テップMI1乃至MI3)。このようになっているから、溢れ通信回線サーバが網ノード装置に接続する個々のマルチキャストデータ受信端末とIPパケットを送受し、マルチキャストデータ送信端末1810-2が、全てのマルチキャストデータ受信端末とIPパケットを送受する必要がなくなり、マルチキャストデータ送信端末1810-2の仕事量を減らすことができる。また、例えば端末1810-11が、マルチキャストデータの一部のIPパケットを受信していない等の要求があった場合、溢れ通信回線サーバを経て当該欠損したIPパケットを再送できる。

【0611】

<<アドレス管理表の他の実施形態>>

図309のアドレス管理表1811は、図317のアドレス管理表1811-5の形態としても実施することができる。本実施形態ではアドレス管理表1811のレコードの2番目の項目（送信元外部IPアドレス）を省いて、アドレス管理表1811-5のレコードを形成している。例えばアドレス管理表1811の第3行目のレコード“I01, E01, E26, I26, G03, F02”の2番目の項目“E01”を省いて、アドレス管理表1811-5の第3行目のレコード“I01, E26, I26, G03, F02”となっている。前記2番目の項目を省いたときの網ノード装置のIPカプセル化機能については、本実施例でも説明している。

【0612】

更に、図309のアドレス管理表1811は、図318のアドレス管理表1811-6の形態として実施することができる。本ケースは、IP網ノード装置のIPカプセル化においてマスク技法を使う。

【0613】

終端部の内部IPアドレス“I01”である通信回線1822から、宛先外部IPアドレス“E26”、送信元外部IPアドレス“E01”である外部IPパケットが入力すると、アドレス管理表1811-6の上から1行目と3行目のレコードが該当し、1行目のレコードについては、宛先用外部IPマスク“M-2”と、前記外部IPパケット内の宛先外部IPアドレス“E26”との“a.n

d”演算の結果が、1行目レコード内宛先外部IPアドレス“M2x”と一致するかを調べる（下記（5）式）。本ケースでは一致せず、3行目のレコードについては、宛先用外部IPマスク“M-t26”と、前記外部IPパケット内の宛先外部IPアドレス“E26”との“and”演算の結果が、3行目レコード内宛先外部IPアドレス“E26x”と一致するかを調べる（下記（6）式）。本ケースでは一致する。送信元IPアドレスについても、同様に下記（7）式により比較する。

【0614】

If (“M-t2” and “E26” = “M2x”) . . . (5)

If (“M-t26” and “E26” = “E26x”) . . . (6)

If (“M-h01” and “E01” = “E01x”) . . . (7)

以上の比較結果に基づいて3行目のレコードが選択され、3行目のレコード内の内部レコード“I01”及び“I26”が用いられてカプセル化が行われ、内部IPパケットが形成される。

【0615】

図309のアドレス管理表1811は、図319及び図320に示すように表1811-7及び1811-8に分けて表現し、このような形態によりメモリ上の表として実装することもできる。即ち、アドレス管理表1811の第1行目のレコード“I01, E01, M2, IM2, G02, G03, 0”を、表1811-7の第1行目のレコード“I01, E01, M2, IM2, MT-1, 0”と、表1811-8の第1行目のレコード“MT-1, G02, G03”とに分ける。即ち、マルチキャストの分岐について、表1811-8に記載する。

【0616】

以上要約すると、マルチキャストサービス提供者の情報及びマルチキャストサービス購入者の情報をユーザサービスサーバ経由で受付けて、マルチキャスト木構造の設定に利用するようになっている。また、トリー構築サーバが、網ノード装置やルータ間の通信回線による接続情報や通信回線コストをリソース管理サー

バに問合せ取得し、マルチキャスト木構造の設定に利用するようになっている。また、トリー構築サーバが、網ノード装置内のアドレス管理表へのアドレス付加情報やルータ内の経路表サーバへの付加情報を複数の表管理サーバに通知して、マルチキャスト木構造を定めるようになっている。更に、各ルータの経路表にマルチキャスト通信レコードを設定しておき、トリー構築サーバからマルチキャスト通信レコードを利用して表管理サーバへ、マルチキャストサービス用の木構造設定用のアドレス管理表追加情報や経路表追加情報を転送するようにすることもできる。

【0617】

また、溢れ通信回線サーバが網ノード装置に接続する端末と個別通信し、必要であればマルチキャストデータを送信することにより、高信頼度マルチキャストを実現するようになっている。音声送信端末からデジタル化音声を送信し、複数のデジタル化音声受信端末がデジタル化音声を受信するようになっている。更に、デジタル化音声動画像送信端末からデジタル化音声動画像を送信し、複数のデジタル化音声動画像受信端末がデジタル化音声動画像を受信するようになっている。更にまた、アドレス管理表の内部パケット出力指定が“0”のときIPパケットは溢れ通信回線に転送され、パケット溢れパラメータが“0”以外ではIPパケットは溢れ通信回線に転送されないようになっている。なお、内部パケット出力指定の判定値“0”は、一定値であれば他の特定値でもよい。また、マルチキャストIPアドレスを送信元アドレスとして含むIPパケットを検出したとき当該IPパケットを廃棄して、送信元へのIPパケットの集中を排除できるようにできる。

【0618】

第1のアドレス登録検査として網ノード装置のアドレス管理表に宛先マルチキャストアドレスを登録しておき、網ノード装置に入る外部IPパケットのヘッダ内の宛先マルチキャストアドレスがアドレス管理表に登録されていない場合は、網ノード装置が当該IPパケットを廃棄することにより、登録外のIPパケットがIP転送網内部に混入することを防止する。同様に、第2のアドレス登録検査として網ノード装置のアドレス管理表に送信元アドレスを登録しておき、網ノード

ド装置に入る外部IPパケットのヘッダ内の送信元アドレスがアドレス管理表に登録されていない場合は、網ノード装置が当該IPパケットを廃棄することにより、登録外のIPパケットがIP転送網内部に混入することを防止する。

【0619】

受信者側の網ノード装置のアドレス管理表にマルチキャストアドレスの登録を許可しないことにより、マルチキャストIPパケット受信者からマルチキャストIPパケット送信者へ向けたIPパケット受信確認用のACKパケットが網ノード装置を通過できないようにして、ACKパケットの大量洪水やNACKパケットの大量洪水によるIP転送網の輻輳発生を予防できる。

【0620】

また、ルータのIPアドレスを宛先アドレスとして登録不許可とし、IP転送網の外部からIP転送網内部のルータへマルチキャスト表の書換え等の危険なIPパケットを送り込めないようにし、或はIP転送網内部のマルチキャスト向け運用管理サーバのIPアドレスの登録を不許可とし、IP転送網の外部からIP転送網内部の運用管理サーバへのアクセスを不可能とし、情報安全性を向上する。第2アドレス登録検査として、マルチキャストデータを含むIPパケットの送信元を限定して、不正行為者の不正行為の発生を抑制する。また、不正行為が行われた場合は、IPパケットの送信元を特定することが容易であり、IP転送網の情報安全性を高めることができる。

【0621】

18. マルチキャスト通信を行う第18実施例：

本実施例を図321乃至図324を参照して説明する。IP転送網1900の内部に網ノード装置1901乃至1905及びルータ1907-1乃至1907-4を設置している。網ノード装置及びルータはIP通信回線により、直接に或は網ノード装置やルータ経由で間接的に接続される。IPパケット送受機能を有する端末1910-2乃至1910-70は、IP通信回線を経由で網ノード装置に接続される。1911乃至1915は網ノード装置のアドレス管理表である。1911-3、1911-4、1911-5、1912-3、1912-4、

1912-5はマルチキャストサービス代理サーバ、1913-3、1913-4、1913-5は溢れ通信回線サーバ、1941乃至1945は溢れ通信回線である。本実施例において、端末やサーバは固有のIPアドレスを有する他に、複数のマルチキャストIPアドレスを有し、IPパケットを交換して互いに情報交換できる。

【0622】

<<送信端末と送信事務サーバ>>

端末1910-02及び1910-05は、マルチキャストサービスにおいてマルチキャストデータを送信する送信端末でもある。端末1910-06及び1920-08はマルチキャストサービスのための送信事務サーバでもある。送信事務サーバはデータベースや情報処理機構を有し、マルチキャストサービス代理サーバと情報交換すると共に、マルチキャストデータ送信端末の情報処理の一部を分担する。

【0623】

<<通信レコードの出力先指定>>

アドレス管理表の通信レコードの第5番目の項目を内部IPパケットの出力先指定といい、前記項目値が“0”以外のとき指定有り、“0”のときは指定無しとしている。同様に、アドレス管理表通信レコードの第6番目の項目を外部IPパケットの出力先指定といい、前記項目値が“0”以外のとき指定有り、“0”のときは指定無しとしている。例えばアドレス管理表1913の第1行目の通信レコード“IM2, M2, E02, I02, 0, (F11 to F30, F91)”については、内部IPパケットの出力先指定は“0”、つまり出力先指定無し、外部IPパケットの出力先指定は“F11 to F30, F91”、つまり論理通信回線のF11乃至F30及びF91であることを表わす。ここで、論理通信回線のF11乃至F30は通信回線1960-11乃至1960-30であり、論理通信回線F91は通信回線1960-91である。

【0624】

<<溢れ通信回線>>

溢れ通信回線サーバは、受信端末から送信端末へ返信されるACKパケットや

NACKパケットなどのIPパケットを溢れ通信回線経由で集め、マルチキャストアドレス毎に異なるマルチキャストサービス代理サーバへ転送する。

【0625】

<<マルチキャストIPパケットの転送その1>>

図321の端末1910-02から送信元外部IPアドレス“E02”、宛先外部IPアドレス“M2”である外部IPパケット1930が送出され（図325のステップQ1）、網ノード装置1901に到達し、アドレス管理表1911の第1行目の通信レコード“I02, E02, M2, IM2, . . . , 0”が用いられ内部IPパケット1931-1及び1931-2が形成され、内部IPパケット1931-1はルータ1907-1に到達し（ステップQ2）、内部IPパケット1931-3となって、網ノード装置1903に到達する（ステップQ3）。一方、内部IPパケット1931-2はルータ1907-2に到達し（ステップQ4）、ルータ1907-2において、内部IPパケット1931-2はコピーされて2つに分岐し、内部IPパケット1931-4は網ノード装置1904へ到達し（ステップQ5）、内部IPパケット1931-5は網ノード装置1905へ到達する（ステップQ6）。

【0626】

網ノード装置1903は内部IPパケット1931-3を受信すると、アドレス管理表1913の第1行目の通信レコード“IM2, M2, E02, I02, 0, F11 to F30, F91”を用いて、内部IPパケット1931-3を逆IPカプセル化して外部IPパケット（外部IPパケット1930と同じ内容）を復元する。次に、復元した外部IPパケットを前記通信レコードの第6番目の項目“F11 to F30, F91”に従い、端末1910-11乃至1910-30及びマルチキャストサービス代理サーバ1911-3へ送出する（ステップQ7, Q7x）。ここで、端末1910-11乃至1910-30は外部IPアドレス“E11”乃至“E30”を付与されている他に、マルチキャストアドレス“M2”を付与されている。また、マルチキャストサービス代理サーバ1911-3は外部IPアドレス“E91”と共に、マルチキャストアドレス“M2”を付与されている。マルチキャストサービス代理サーバ1911-3が端末19

10-11乃至1910-30とほぼ同じ時刻にマルチキャストサービスのデータを受信すること（ステップQ7x）が、本実施例の特徴である。

【0627】

網ノード装置1904は内部IPパケット1931-4を受信すると、アドレス管理表1914の第1行目の通信レコード“IM2, M2, E02, I02, 0, F31 to F50, F93”を用いて、内部IPパケット1931-4を逆IPカプセル化して外部IPパケットを復元し、前記復元した外部IPパケットを端末1910-31乃至1910-50及びマルチキャストサービス代理サーバ1911-4へ送出する（ステップQ8, Q8x）。ここで、端末1910-31乃至1910-50は外部IPアドレス“E31”乃至“E50”と共に、マルチキャストアドレス“M2”を付与されている。また、マルチキャストサービス代理サーバ1911-4は、外部IPアドレス“E93”及びマルチキャストアドレス“M2”を付与されている。

【0628】

網ノード装置1905は内部IPパケット1931-5を受信すると、アドレス管理表1915の第1行目の通信レコード“IM2, M2, E02, I02, 0, F51 to F70, F95”を用いて、内部IPパケット1931-5を逆IPカプセル化して外部IPパケットを復元する。そして、復元した外部IPパケットを端末1910-51乃至1910-70及びマルチキャストサービス代理サーバ1911-5へ送出する（ステップQ9, Q9x）。ここで、端末1910-51乃至1910-70は外部IPアドレス“E51”乃至“E70”と共に、マルチキャストアドレス“M2”を付与されている。また、マルチキャストサービス代理サーバ1911-5は、外部IPアドレス“E95”及びマルチキャストアドレス“M2”を付与されている。

【0629】

<<受信端末によるIPパケットの送出その1>>

端末1910-11乃至1910-70は各種のIPパケット、例えば正常受信を送信端末へ知らせるACKパケット、受信不良を送信端末へ知らせるNACKパケット、その他例えば質問に対して回答する等のためのIPパケットを、外

部IPアドレス“E02”である送信元端末1910-02へ送信することがあり、その手順を以下に説明する。但し、送信元アドレスはマルチキャストIPアドレス“M2”、宛先IPアドレス“E02”とする例である。

【0630】

端末1910-11乃至1910-30は端末1910-02へ送信するIPパケットを形成し（ステップQ10）、網ノード装置に送出する（ステップQ11）。網ノード装置1903は外部IPパケットを受信すると、網ノード装置は、前記入力した外部IPパケットに対応するアドレス管理表1913の第1行目の通信レコード“IM2, M2, E02, I02, 0, (F11 to F30, F91)”の内部IPパケット出力先指定が指定無し、つまり当該通信レコードの第5番目の項目が“0”であるので、前記外部IPパケットをそのままパケット溢れ出力回線1943へ転送する（ステップQ12）。

【0631】

<<溢れ通信回線サーバの機能その1>>

溢れ回線通信サーバ1913-3は、溢れ通信回線1943から外部IPパケット1946-1（図328）を受信し（図327のステップMPS1）、外部IPパケット1946-1の送信元IPアドレスが“M2”であることを確認する（ステップMPS2）。そして、マルチキャストアドレス“M2”により特定されるマルチキャストサービスを扱うマルチキャストサービス代理サーバ1911-3へ送出するIPパケット1946-2を形成し、前記IPパケットを送出する（ステップMPS3）。ここで、IPパケット1946-2の送信元IPアドレスは、溢れ通信回線サーバ1913-3のIPアドレス“E90”、宛先IPアドレスは、マルチキャストサービス代理サーバ1911-3のIPアドレス“E91”である。IPパケット1946-2は溢れ通信回線サーバ1913-3から送出され（図325のステップQ13）、網ノード装置1903を経てマルチキャストサービス代理サーバ1911-3に到達する（ステップQ14）。このとき、アドレス管理表1913の第12行目の通信レコード“I90, E90, E91, I91, …, F90”と、第10行目の通信レコード“I91, E91, E90, I90, …, F91”とが使用される。

【0632】

マルチキャストサービス代理サーバ1911-3は前記受信したIPパケットがNACKパケットであり、マルチキャストデータを再送するように要求しているケースである。マルチキャストサービス代理サーバ1911-3は、前記ステップQ7xにおいてIPアドレス“M2”により区分されるマルチキャストデータを事前に受信しており、このマルチキャストデータを前記再送要求に用いることができる。マルチキャストサービス代理サーバ1911-3は、再送要求されているマルチキャストデータを網ノード装置1903へ向けて再送し（ステップQ15）、マルチキャストデータは端末1910-11乃至1910-30へ到達する（ステップQ16）。このとき、アドレス管理表1913の第3行目の通信レコード“I91, E91, M2, IM2, …、F91”と、第2行目の通信レコード“IM2, M2, E91, I91, 0, F11 to F30”とが使用される。

【0633】

<<マルチキャストサービス代理サーバの機能その1>>

マルチキャストサービス代理サーバ1911-3は受信したIPパケット1946-2の内容を調べて、受信確認を意味するACKパケットを一覧表などに集約した情報、あるいは端末から受信した受信不良通知などを意味するNACKパケットを一覧表などに集約した情報、端末の個別報告などの集約情報などを格納したIPパケットを形成して、送信元端末1910-02へ送出し、あるいは送信元端末1910-02から返信のIPパケットを受信する（図325のステップQ41乃至Q44）。ここで、前記IPパケットのIPアドレスは、マルチキャストサービス代理サーバ1911-3の外部IPアドレス“E91”と送信元端末1910-02の外部IPアドレス“E02”であり、アドレス管理表1913の第7行目の通信レコード“I91, E91, E02, I02, …、F91”と、アドレス管理表1911の第2行目の通信レコード“I02, E02, E91, I91, …、F02”とが使用される。

【0634】

<<受信端末によるIPパケットの送出その2>>

端末 1 9 1 0 - 3 1 乃至 1 9 1 0 - 5 0 は、ステップ Q 8 においてマルチキャストデータを受信する。端末 1 9 1 0 - 3 1 乃至 1 9 1 0 - 5 0 は受信確認などに用いる IP パケットを形成し（図 3 2 5 のステップ Q 2 0）、網ノード装置 1 9 0 4 に送出する（ステップ Q 2 1）。網ノード装置は外部 IP パケットを受信すると、当該外部 IP パケットに対応するアドレス管理表 1 9 1 4 の第 1 行目の通信レコード“IM 2, M 2, E 0 2, I 0 2, 0, (F 3 1 t o F 5 0, F 9 3)”の内部 IP パケット出力先指定が指定無し、つまり当該通信レコードの第 5 番目の項目が“0”であるので、外部 IP パケットを IP カプセル化せずにそのままパケット溢れ出力回線 1 9 4 4 へ転送する（ステップ Q 2 2）。

【 0 6 3 5 】

<< 溢れ通信回線サーバその 2 >>

溢れ回線通信サーバ 1 9 1 3 - 4 は溢れ通信回線 1 9 4 4 から外部 IP パケットを受信し、外部 IP パケットの送信元 IP アドレスが“M 2”であることを確認する。そして、マルチキャストアドレス“M 2”により特定されるマルチキャストサービスを扱うマルチキャストサービス代理サーバ 1 9 1 1 - 4 へ送出する IP パケットを形成し、前記 IP パケットを通信回線 1 9 1 4 - 1 経由でマルチキャストサービス代理サーバ 1 9 1 1 - 4 へ送出する（図 3 2 5 のステップ Q 2 4）。このケースでは、溢れ回線通信サーバ 1 9 1 3 - 4 とマルチキャストサービス代理サーバ 1 9 1 1 - 4 との間が通信回線 1 9 1 4 - 1 で接続されていることが特徴である。

【 0 6 3 6 】

<< マルチキャストサービス代理サーバの機能その 2 >>

マルチキャストサービス代理サーバ 1 9 1 1 - 4 は、前記ステップ Q 8 x においてマルチキャストデータを事前に受信している。マルチキャストサービス代理サーバ 1 9 1 1 - 4 は再送要求されているマルチキャストデータを網ノード装置 1 9 0 4 へ向けて再送し（ステップ Q 2 5）、マルチキャストデータは端末 1 9 1 0 - 3 1 乃至 1 9 1 0 - 5 0 へ到達する（ステップ Q 2 6）。このとき、アドレス管理表 1 9 1 4 の第 3 行目の通信レコード“I 9 3, E 9 3, M 2, IM 2, …, F 9 3”と、第 2 行目の通信レコード“IM 2, M 2, E 9 3, I 9 3

、0、F31 to F50”とが使用される。

【0637】

マルチキャストサービス代理サーバ1911-4は受信したIPパケットの内容を調べ、ACKパケット集約情報、NACKパケット集約情報、端末個別集約情報などを格納したIPパケットを形成して送信元端末1910-02へ送出し、あるいは送信元端末1910-02から返信のIPパケットを受信する(図325のステップQ45乃至Q48)。ここで、アドレス管理表1914の第7行目の通信レコード“I93, E93, E02, I02, …、F93”と、アドレス管理表1911の第3行目の通信レコード“I02, E02, E93, I93, …、F02”とが使用される。

【0638】

<<受信端末によるIPパケットの送出その3>>

端末1910-51乃至1910-70は、ステップQ9においてマルチキャストデータを受信する。端末1910-51乃至1910-70は受信確認などに用いるIPパケットを生成し(図325のステップQ30)、網ノード装置1905に送出する(ステップQ31)。網ノード装置1905は、前記外部IPパケットをパケット溢れ出力回線1945へ転送する(ステップQ32)。溢れ回線通信サーバ1913-5は溢れ通信回線1945から前記外部IPパケットを受信し、前記IPパケットを通信回線1915-1経由でマルチキャストサービス代理サーバ1911-5へ送出する(図325のステップQ34)。

【0639】

マルチキャストサービス代理サーバ1911-5は、前記ステップQ9xにおいてマルチキャストデータを事前に受信している。マルチキャストサービス代理サーバ1911-5は再送要求されているマルチキャストデータを網ノード装置1905へ向けて再送し(ステップQ35)、マルチキャストデータは端末1910-51乃至1910-70へ到達する(ステップQ36)。

【0640】

マルチキャストサービス代理サーバ1911-5は受信したIPパケットの内容を調べ、ACKパケット集約情報などを格納したIPパケットを形成して送信

元端末1910-02へ送出し、あるいは送信元端末1910-02から返信のIPパケットを受信する(図325のステップQ49乃至Q52)。また、マルチキャストサービス代理サーバ1911-5は、端末1910-70と直接にIPパケットを送受して情報交換できる(ステップQ38, Q39)。このとき、アドレス管理表1915の第9行目の通信レコード“I95, E95, E70, I70, . . . , F95”と第10行目の通信レコード“I70, E70, E95, I95, . . . , F70”とが使用される。本ケースでは、マルチキャストサービス代理サーバ1911-5は、端末1910-70と直接に通信するサービスを提供していることが特徴である。

【0641】

<<マルチキャストIPアドレス“M5”のパケット転送>>

図322の端末1910-05から送信元外部IPアドレス“E05”、宛先外部IPアドレス“M5”である外部IPパケット1932が送出され、網ノード装置1902を経由してIPカプセル化されて内部IPパケット1933-1及び1933-2となり、それぞれルータ1907-3及び1907-4を経由して網ノード装置1903乃至1905に到達し、ここで内部IPパケットが逆カプセル化され、端末1910-21乃至1910-30、端末1910-41乃至1910-50、端末1910-61乃至1910-70へ送信される。前記手順は、図326に示してあり、図325と異なる主要な第1の点は、送信端末1910-02に代わり端末1910-05が送信端末となり、ルータ1907-1及び1907-2に代わり、ルータ1907-3及び1907-4が用いられる。IPパケットが転送される経路は図326に示すように変更している。

【0642】

以上述べたように、網ノード装置に接続する複数の受信側端末はそれぞれ固有の外部IPアドレスを有すると共に、マルチキャストサービス毎に定まるマルチキャストIPアドレスを1以上有し、1以上のマルチキャストサービスを受けられるようになっている。

【0643】

<<送信事務サーバ>>

更に主要な第2の点は、マルチキャストサービス代理サーバ1912-3乃至1912-5が、前記ACK集約情報IPパケット、NACK集約情報IPパケット、個別端末の集約情報を含むIPパケットを送信事務サーバ1910-08へ送信すると共に、送信事務サーバ1910-08から送出されるデータを受信できるようになっていることである。送信事務サーバ1910-08及び送信端末1910-05もIPパケットを送受して情報交換する（図326のステップR55）。マルチキャストサービス代理サーバ1912-3（IPアドレス“E92”）と送信事務サーバ1910-08（IPアドレス“E08”）との間のIPパケット送受は、アドレス管理表1912の第5行目の通信レコード“I08, E08, E92, I92, …、F08”と、アドレス管理表1913の第8行目の通信レコード“I92, E92, E08, I08, …、F92”とが使用される。マルチキャストサービス代理サーバ1912-4（IPアドレス“E94”）と送信事務サーバ1910-08との間のIPパケット送受は、アドレス管理表1912の第6行目の通信レコード“I08, E08, E94, I94, …、F08”と、アドレス管理表1914の第8行目の通信レコード“I94, E94, E08, I08, …、F94”とが使用される。

【0644】

マルチキャストサービス代理サーバ1912-5（IPアドレス“E96”）と送信事務サーバ1910-08との間のIPパケット送受は、アドレス管理表1912の第7行目の通信レコード“I08, E08, E96, I96, …、F08”と、アドレス管理表1915の第8行目の通信レコード“I96, E96, E08, I08, …、F96”とが使用される。送信事務サーバ1910-08（IPアドレス“E08”）と送信端末1910-05（IPアドレス“E05”）との間のIPパケット送受は、アドレス管理表1912の第8行目の通信レコード“I08, E08, E05, I05, …、F08”と第9行目の通信レコード“I05, E05, E08, I08, …、F05”とが使用される。

【0645】

<<盗れ通信回線サーバとマルチキャストサービス代理サーバ>>

溢れ通信回線サーバとマルチキャストサービス代理サーバの機能は、マルチキャストIPアドレス“M2”のケースと同一である。溢れ通信回線サーバ1913-3は溢れ通信回線1943からIPパケットを入力すると（図327のステップMPS1）、IPパケットのマルチキャストIPアドレスが“M2”であるか“M5”であるか等を調べ（ステップMPS2）、マルチキャストサービス代理サーバ1911-3とマルチキャストサービス代理サーバ1912-3に振り分けて転送する（ステップMPS3）。

【0646】

<<マルチキャストIPアドレスの新規設置と取り消し>>

IP転送網1900の管理者は、網ノード装置のアドレス管理表1911乃至1915の通信レコードを書き換える権限を有する。網ノード装置1901内のアドレス管理表1911に、マルチキャストサービス送信用の端末1910-7が用いる通信レコード“I07, E07, M7, IM7, …, 0”を追加し（但し、“M7”はマルチキャストIPアドレス）、ルータ1907-1乃至1907-4内の経路表にマルチキャストアドレス“M7”の経路情報を追加し、網ノード装置1903内のアドレス管理表1913に、マルチキャストサービス受信用の端末1910-11乃至1910-20が用いる通信レコード“IM7, M7, E07, I07, 0, F11 to F20, F91-1”を追加する。但し、“M7”は、“M7”と同一のマルチキャストIPアドレスであり、F11乃至F20は端末1910-11乃至1910-20に接続する出力回線インタフェース、F91-1は新たに設置するマルチキャストサービス代理サーバに接続する出力回線インタフェースである。1900運用管理者は端末1910-11乃至1911-20にマルチキャストIPアドレス“M7”を設置する。

【0647】

同様に、網ノード装置1904内のアドレス管理表1914に、マルチキャストサービス受信用の端末1910-31乃至1910-40が用いる通信レコード“IM7, M7, E07, I07, 0, F31 to F40, F93-1”を追加し、網ノード装置1905内のアドレス管理表1915に、マルチキャストサービス受信用の端末1910-51乃至1910-60が用いる通信レコード

“IM7, M7, E07, I07, 0, F51 to F60, F95-1”を追加する。以上の手続きにより、端末1910-11乃至1910-20、端末1910-31乃至1910-40、端末1910-51乃至1910-60が新しいマルチキャストサービスを受けられるようになる。また、端末1910-30はIPアドレス“M5”により識別できるマルチキャストIPサービスを受けしており、アドレス管理表1913の第4行目の通信レコード“IM5, M5, E05, I05, 0, (F21 to F30, F92)”内の第6番目の項目“(F21 to F30, F92)”と、アドレス管理表1913の第5行目の通信レコード“IM5, M5, E92, I92, 0, (F21 to F30)”内の第6番目の項目“(F21 to F30)”とを利用している。レコードの“F30”が端末1910-30に対応するので、当該レコードを変更する。即ち、アドレス管理表1913の第4行目の通信レコード“IM5, M5, E05, I05, 0, (F21 to F29, F92)”と、第5行目の通信レコード“IM5, M5, E92, I92, 0, (F21 to F29)”とする。以上述べた通信レコードの変更により、端末1910-30はマルチキャストIPアドレス“M5”により識別できるマルチキャストサービスを取り消すことができた。

<<送信事務サーバを接続する網ノード装置>>

前記実施例において、送信端末1910-05と送信事務サーバ1910-08とは同じ網ノード装置1902に接続しているが、網ノード装置1901に接続する端末1910-07（IPアドレス“E07”）を送信事務サーバに新たに設定し、端末1910-08（IPアドレス“E08”）を送信事務サーバとして使わないように、送信端末1910-05は網ノード装置1902に接続の状態で、送信事務サーバ1910-07は網ノード装置1901に接続することもできる。つまり、送信端末と送信事務サーバとは異なる網ノード装置に接続できる。

【0648】

この場合、送信事務サーバ1910-07、IPパケットを送受するマルチキャストサービス代理サーバ1912-3乃至1912-5及び送信端末1910

ー05は、送信事務サーバのIPアドレスを“E07”に変更する。更に、アドレス管理表1913の第8行目のレコード“I92, E92, E08, I08, . . . , F92”を“I92, E92, E07, I07, . . . , F92”に変更し、アドレス管理表1914の第8行目のレコード“I94, E94, E08, I08, . . . , F94”を“I94, E94, E07, I07, . . . , F94”に変更し、アドレス管理表1915の第8行目のレコード“I96, E96, E08, I08, . . . , F96”を“I96, E96, E07, I07, . . . , F96”に変更する。

【0649】

更に、送信事務サーバ1910-07と送信端末1910-05との間の通信レコード“I07, E07, E05, I05, . . . , F07”、送信事務サーバ1910-07とマルチキャストサービス代理サーバ1912-3乃至1912-5との間の通信レコード“I07, E07, E92, I92, . . . , F07”、“I07, E07, E94, I94, . . . , F07”、“I07, E07, E96, I96, . . . , F07”を、アドレス管理表1911に追加する。更に、アドレス管理表1912に、送信端末1910-05と送信事務サーバ1910-07との間のためのアドレス管理表1912内レコード“I05, E05, E07, I07, . . . , F05”を追加する。また、端末1910-08と送信端末1910-05との間の通信レコード“I08, E08, E05, I05, . . . , F08”やマルチキャストサービス代理サーバ1912-3乃至1912-5との通信レコード“I08, E08, E92, I92, . . . , F08”などを抹消する。

【0650】

<<送信端末と送信事務サーバの一体化>>

更に、送信端末1910-02と送信事務サーバ1910-06と同じIPを付与し、送信事務サーバ1910-06の機能を送信端末1910-02の機能に含め一体化することもできる。ここで、送信事務サーバ1910-06の機能と送信端末1910-02の機能とは、TCPポート番号やUDPポート番号により区分する。

【0651】

<<溢れ通信回線のバリエーション>>

図324の溢れ通信回線サーバ1913-5は、溢れ通信回線1945から受信したIPパケットのマルチキャストIPアドレスを分類し、通信回線1915-1と1915-2とに分けて送信する手段であるが、この手段のバリエーションとして、溢れIPパケット分類機能部を設ける方法を述べる。図329の1905-1は網ノード装置、1915-1はアドレス管理表、1925-1は外部回線インタフェース部、1911-5Xは、図324の1911-5と同機能のマルチキャストIPアドレス“M2”により特定されるマルチキャストサービス代理サーバ、1912-5Xは図324の1912-5と同機能のマルチキャストIPアドレス“M5”により特定されるマルチキャストサービス代理サーバである。1913-5Xは、溢れ通信回線サーバ1913-5と類似の機能を有する溢れIPパケット分類機能部である。

【0652】

溢れIPパケット分類機能部は、送信元がマルチキャストIPアドレスである外部IPパケットを受信すると、当該通信レコードの溢れパラメータの指定値が“0”のとき、送信元マルチキャストIPアドレスを判別して、該当するマルチキャストサービス代理サーバに通信回線1915-1X、あるいは1915-2Xを経由して転送する。

【0653】

<<有線放送やメディア配信通信システムの実現>>

マルチキャストデータはデジタル化した音声やファックスデータ、静止画像や動画像などのいわゆるマルチメディアデータを含む。端末1910-02がデジタル化音声を送信できる音声送信端末であり、端末1910-11乃至1910-70がデジタル化音声受信端末である場合、IPパケット1930の送信は有線音声放送の送信となり、IP転送を用いた有線音声放送通信システムが実現できる。また、端末1910-02がデジタル化音声動画像を送信できる音声動画像送信端末であり、端末1910-11乃至1910-70がデジタル化音声動画像受信端末である場合、IPパケット1930の送信は有線TV放

送の送信となり、IP転送を用いた有線TV放送通信システムが実現できる。同様な方法により、デジタル化静止画像を送受するIP転送を用いた有線ファックス通信システムが実現できる。

【0654】

デジタル化音声受信端末や音声動画像受信端末は、マルチキャストデータの受信データ（放送内容）に対する感想などの受信端末個別情報を含むIPパケットを、送信端末1910-02へ向けて送信することができる。マルチキャストサービス代理サーバはIPパケットを複数の受信端末から受信し、IPパケットに含まれる情報を一覧表や短い文章に編集した集約情報などを含むIPパケットを送信端末や送信事務サーバに送信できる。また、送信端末や送信事務サーバは、集約情報を含むIPパケットを受信した結果に対するコメントを含んだIPパケットをマルチキャストサービス代理サーバに返信でき、結果としてマルチキャストデータ送信側とマルチキャストデータの受信側との情報交換を行うことができる有線放送通信システムが実現できる。以上述べたように、マルチキャスト代理サーバが、マルチキャストデータ送信側とマルチキャストデータの受信側との間の情報交換を仲介している。送信するメディアを書籍や新聞、音楽やビデオとすると、有線放送通信システムは、マルチキャストサービスとしての書籍配送通信システムや新聞配送通信システム、音楽配送通信システム、ビデオ配送通信システムを実現できる。ここで、ビデオはビデオテープやCD、DVDなどにデジタル化され格納されている音声と動画像からなる情報を指す。

【0655】

<<要約>>

網ノード装置にIP通信回線を経て接続する端末は、固有の外部IPアドレスを有すると共に、マルチキャストサービス毎に定まるマルチキャストIPアドレスを1以上有することができ、送信端末は複数可能である。また、マルチキャストデータの送信端末が送信したマルチキャストデータはIP転送網内部を転送され、複数の端末に送達することにより端末は1以上のマルチキャストサービスを受けられる。受信側端末は、IP転送網運用者に依頼することにより、マルチキャストサービス別のマルチキャストIPアドレスを随時新たに設置し、あるいは

取り消すことができる。マルチキャストサービス代理サーバは、網ノード装置に 1 以上を接続できる。

【 0 6 5 6 】

マルチキャストサービス代理サーバは、マルチキャストサービス代理サーバが接続する当該網ノード装置に接続する 1 以上の端末から受信した A C K パケット集約情報や、N A C K パケット集約情報、個別端末の情報を集約した情報を含む I P パケットを、当該マルチキャストサービスを実施している送信端末あるいは送信事務サーバへ送信できる。マルチキャストサービスはマルチキャストデータの受信確認通知（A C K パケット）、受信不良通知（N A C K パケット）などの改善要求などによる品質が高いサービスが可能であり、通信会社は、A C K パケットや N A C K パケットや受信者の個別報告の抑制により、I P 転送網内部の通信トラヒックの増大を抑止できる。更に、通信会社と契約していないマルチキャストデータの配信を防止でき、マルチキャストサービスの利用に対する課金を容易に実施できる。

【 0 6 5 7 】

マルチキャストサービス代理サーバは、マルチキャストサービス代理サーバが接続する当該マルチキャストサービスを実施している送信端末、あるいは送信事務サーバと、I P パケットを送受して情報交換できる。マルチキャストサービス代理サーバが、送信元端末から送信されたマルチキャストデータを受信して内部に保持し、マルチキャストサービス代理サーバが網ノード装置のマルチキャスト機能を用いて、保持しているマルチキャストデータをマルチキャストサービス代理サーバが接続する当該網ノード装置に接続する端末に送出できる。マルチキャストサービス代理サーバが、通信レコードを網ノード装置に設定してある特定の端末と、I P パケットを送受することにより情報交換できる。

【 0 6 5 8 】

I P カプセル化及び逆 I P カプセル化の方法を指定する通信レコード内部の、内部 I P パケット出力先指定値が指定有りのとき I P カプセル化し、内部 I P パケット出力先指定値が指定無しの場合 I P カプセル化せずに、当該外部 I P パケットを外部 I P パケット溢れ通信回線に出力する。溢れ通信回線サーバは、I P

カプセル化されない外部 I P パケットを外部 I P パケット溢れ通信回線を経由して受信すると共に、外部 I P パケットが含む情報を網ノード装置経由で、マルチキャストサービス代理サーバに転送するようになっている。

【 0 6 5 9 】

溢れ通信回線サーバは、I P カプセル化されない外部 I P パケットを外部 I P パケット溢れ通信回線を経由して受信すると共に、I P パケットが含む情報を溢れ通信回線サーバとマルチキャストサービス代理サーバとを接続する通信回線を経由して、マルチキャストサービス代理サーバに転送するようになっている。外部 I P パケット溢れ通信回線に接続する溢れ I P パケット振分け機能部を含む。通信レコード内部の、外部 I P パケット出力先指定値が指定有りのとき逆 I P カプセル化し、外部 I P パケット出力先指定値が指定無しの場合逆 I P カプセル化せずに、当該内部 I P パケットを内部 I P パケット溢れ通信回線に出力するようになっている。

【 0 6 6 0 】

1 9. マルチキャスト通信を行う第 1 9 実施例：

本実施例は網ノード装置は I P カプセル化を行わない特徴があり、図 3 3 0 乃至図 3 3 3 を参照して説明する。

【 0 6 6 1 】

I P 転送網 2 0 0 0 の内部に網ノード装置 2 0 0 1 乃至 2 0 0 5 及びルータ 2 0 0 7 乃至 2 0 0 9 を設置している。網ノード装置とルータは、I P 通信回線により直接に或は網ノード装置やルータ経由で間接的に接続される。2 0 1 1 乃至 2 0 1 5 は網ノード装置のアドレス管理表であり、網ノード装置に通信回線経由で接続する端末の I P アドレスを登録している。2 0 1 6 乃至 2 0 2 0 は網ノード装置の経路表、2 0 2 1 乃至 2 0 2 3 はルータの経路表である。端末 2 0 2 5 乃至 2 0 3 9 は I P パケット送受機能を有し、I P 通信回線を経由で網ノード装置に接続される。2 0 4 5 乃至 2 0 4 9 は、予定外の I P パケットが出力される溢れ通信回線である。2 0 5 0 はマルチキャストサービス代理サーバである。端末 2 0 2 6 はマルチキャストサービスにおいてマルチキャストデータを送信する

送信端末でもある。マルチキャストデータは、デジタル化した音声やファックスデータ、静止画像や動画像などのいわゆるマルチメディアデータを含む。端末2027はマルチキャストサービスのための送信事務サーバでもある。

【0662】

<<IPパケットの転送>>

次に、送信端末2026による外部IPパケット2040の送信から始まる一連のIPパケット転送のステップを説明する。端末2026は、通信回線2051に送信元外部IPアドレス“E02”、宛先IPアドレス“M2”である外部IPパケット2040を送信し（図333のステップDD1）、網ノード装置2001は、受信したIPパケット2040の送信元IPアドレス“E02”がアドレス管理表2011に登録されているかを調べ（IPパケット受け入れ検査）、このケースでは、通信回線2051の論理通信回線名“F02”とIPアドレス“E02”の組がアドレス管理表2011の第2行目のレコード“F02, E02”として登録されているので、IPパケット2040を受入れる。なお、登録されていないケースでは受信したIPパケットをそのままパケット溢れ通信回線2045へ転送し、IPパケットを廃棄する。

【0663】

次に、経路表2016の第1行目のレコード“Msk-m2, M2, G02, G03”について、当該レコードの第1番目の項目“Msk-m2”とIPパケット2040の宛先IPアドレス“M2”との“and”演算の結果が、前記レコードの第2番目の項目“M2”と一致するかを調べる（下記（8）式）。本ケースでは一致する。ここで、“Msk-m2”の値は、255.255.255.255のケースである。

【0664】

$$\text{If } (“Msk-m2”) \text{ and } “M2” = “M2”) \quad \dots (8)$$

次に、当該レコードの第3番目の項目G02及びG03について、IPパケット2041を論理通信回線名“G02”である通信回線2053へ送出し（ステ

ップDD2)、IPパケット2042を論理通信回線名“G03”である通信回線2054へ送出する(ステップDD3)。IPパケット2041及び2042は共に、IPパケット2040をコピーして生成されている。なお、前記手順において、IPパケット2040の宛先IPアドレス“M2”が経路表2016に含まれていない場合、外部IPパケット2040は廃棄される(マルチキャストアドレスの登録検査)。

【0665】

IPパケット2041はルータ2007へ到達し、経路表2021の第2行目のレコード“M2, G12”に従い、論理通信回線名G12である通信回線2055へIPパケット2043として送出される(ステップDD4)。IPパケット2043はルータ2008へ到達し、経路表2022の第2行目のレコード“M2, G27”に従い、論理通信回線名G27である通信回線2058へIPパケット2034として送出される(ステップDD5)。一方、通信回線2054へ送出されたIPパケット2042はルータ2009へ到達し、経路表2023の第2行目の“M2, G21, G22”に従い、論理通信回線名“G21”である通信回線2056へIPパケット2035を送出し(ステップDD6)、論理通信回線名“G22”である通信回線2057へIPパケット2036を送出する(ステップDD7)。IPパケット2035及び2036は共に、IPパケット2042をコピーして生成されている。なお、ルータの経路表2021乃至2023は、網ノード装置の経路表2016と同様なマスクを有することができるが、公知であり省略している。

【0666】

IPパケット2034は通信回線2058を経て網ノード装置2003に到達する。経路表2018の第1行目のレコード“Mask-m2, M2, F10, F12, F22”について、当該レコードの第1番目の項目“Mask-m2”とIPパケット2034の宛先IPアドレス“M2”との“and”演算の結果が、前記レコードの第2番目の項目“M2”と一致するかを調べる(下記(9)式)。本ケースでは一致する。ここで、“Mask-m2”の値は255.255.255.255のケースである。

【0667】

If (“Msk-m2”) and “M2” = “M2”) . . . (9)

次に、当該レコードの第3番目の項目F10, F12, F22について、論理通信回線名“F10”である通信回線2060へIPパケット2038を送出し（ステップDD11）、論理通信回線名“F12”である通信回線2061へIPパケット2039を送出し（ステップDD13）、論理通信回線名“F22”である通信回線2059へIPパケットを送出する（ステップDD9）。端末2031及び2033は、それぞれ通信回線2060及び2061経由でマルチキャストデータを受信する。マルチキャスト代理サーバ2050は、通信回線2059経由で受信したマルチキャストデータを内部のデータベースに保持する。

【0668】

網ノード装置2004はIPパケット2035を受信し、経路表2019の第1行目のレコード“Msk-m2, M2, F13”を用い、網ノード装置2003の手順と同様にして、IPパケット2035をコピーしたIPパケット2040を論理通信回線名“F13”である通信回線2062へ送出的（ステップDD14）。網ノード装置2005はIPパケット2036を受信し、経路表2020の第1行目のレコード“Msk-m2, M2, F16, F17”を用い、前記網ノード装置2003の手順と同様にして、IPパケット2036をコピーしたIPパケット2041を通信回線2063へ、IPパケット2042を通信回線2064へそれぞれ送出的（ステップDD17、DD18）。

【0669】

<<ACKパケットやNACKパケットの大量洪水の予防>>

端末2031がIPパケット2038の受信に関連した情報、つまり受信報告のACKパケットや受信不良報告のNACKパケット、端末の個別報告などを送信端末2026へ報告するため、送信元外部IPアドレス“M2”、宛先外部IPアドレス“E02”であるIPパケット2044を形成して通信回線2060に送出的（図333のステップDD21）。同様に、端末2033がIPパケ

ット 2 0 3 9 の受信を送信端末 2 0 2 6 へ報告するため、送信元外部 IP アドレス “M2”、宛先外部 IP アドレス “E 0 2” である IP パケットを通信回線 2 0 6 1 に送出する（ステップ DD 2 2）。

【 0 6 7 0 】

網ノード装置 2 0 0 3 は、端末 2 0 3 1 や 2 0 3 3 が送出した送信端末 2 0 2 6 へ報告する IP パケットを受信すると、IP パケットの送信元外部 IP アドレス “M2” がアドレス管理表 2 0 1 3 に登録されているかを調べる。本ケースでは登録されていないので、受信した IP パケットをそのままパケット溢れ通信回線 2 0 5 9 へ転送する（ステップ DD 2 6）。

【 0 6 7 1 】

このようになっているから、マルチキャストデータ受信の全ての端末からマルチキャストデータ送信端末へ、端末個別報告の IP パケット送出を抑制でき、結果として IP 転送網内部の ACK パケットや NACK パケットの大量洪水を予防できる。

【 0 6 7 2 】

<<マルチキャスト代理サーバによるデータ送信>>

マルチキャスト代理サーバ 2 0 5 0 は、前記ステップ DD 9 において、端末 2 0 2 6 から送信されたマルチキャストデータを受信して内部のデータベースに保持しており、端末 2 0 3 1 及び 2 0 3 3 から前記ステップ DD 2 1 及び DD 2 2 において、前記マルチキャストデータの再送信を要求されている場合、前記保持しているマルチキャストデータを網ノード装置 2 0 0 3 経由で（ステップ DD 2 7）、端末 2 0 3 1 へ送出し（ステップ DD 2 8）、あるいは端末 2 0 3 3 へ送出できる（ステップ DD 2 9）。このとき、網ノード装置 2 0 0 3 内の経路表 2 0 1 8 の第 1 行目 “M s k - m 2, M 2, F 1 0, F 1 2, F 2 2” が用いられ、マルチキャストデータの送信が行われる。

【 0 6 7 3 】

<<送信端末間とのデータ送受>>

マルチキャストサービス代理サーバ 2 0 5 0 は、前記形成した各種集約情報を格納した IP パケットを送信端末 2 0 2 6 へ送信し、あるいは送信端末 2 0 2 6

から返信のIPパケットを受信する（図333のステップDD41乃至DD45）。ここで、前記IPパケットのIPアドレスは、マルチキャストサービス代理サーバ2050のIPアドレス“E22”及び送信端末2026のIPアドレス“E02”であり、アドレス管理表2013の第4行目の通信レコード“F22, E22”と、経路表2018の第5行目のレコード“Mask22, E22, F22”及び、アドレス管理表2011の第2行目の通信レコード“F02, E02”と、経路表2016の第3行目のレコード“Mask02, E02, F02”とが用いられる。このように、マルチキャストサービス代理サーバは、マルチキャストサービス代理サーバが接続する当該マルチキャストサービスを実施している送信端末2026と、IPパケットを送受して情報交換できるようになっている。

【0674】

<<送信事務サーバ間とのデータ送受>>

マルチキャストサービス代理サーバ2050は、前記形成した各種集約情報（ACKパケット集約情報、NACKパケット集約情報、個別端末情報）を格納したIPパケットを送信事務サーバ2027へ送信し、あるいは送信事務サーバ2027から返信のIPパケットを受信することもできる（図333のステップDD46乃至DD50）。ここで、IPパケットのIPアドレスは、マルチキャストサービス代理サーバ2050のIPアドレス“E22”及び送信事務サーバ2027のIPアドレス“E03”であり、アドレス管理表2013の第4行目の通信レコード“F22, E22”と、経路表2018の第5行目のレコード“Mask22, E22, F22”と、アドレス管理表2011の第3行目の通信レコード“F03, E03”と、経路表2016の第4行目のレコード“Mask03, E03, F03”とが用いられる。このように、マルチキャストサービス代理サーバは、マルチキャストサービス代理サーバが接続する当該マルチキャストサービスを実施している送信事務サーバと、IPパケットを送受して情報交換できるようになっている。

【0675】

<<送信端末と送信事務サーバ間の情報交換>>

送信端末及び送信事務サーバは、IPパケットを交換してマルチキャストサービス実施のために情報交換できる（図333のステップDD51）。更に、送信端末2026と送信事務サーバ2027と同じIPを付与し、送信事務サーバ2027の機能を送信端末2026の機能に含めて一体化することができる。ここで、送信事務サーバ2027の機能と送信端末2026の機能とは、TCPポート番号やUDPポート番号により区分する。

【0676】

<<送信事務サーバを接続する網ノード装置>>

本実施例において、送信端末2026と送信事務サーバ2027とは同じ網ノード装置2001に接続しているが、網ノード装置2002に接続する端末2028（IPアドレス“E04”）を送信事務サーバに新たに設定し、端末2027を送信端末として使わないようにすること、つまり送信端末と送信事務サーバとを異なる網ノード装置に接続することもできる。この場合、送信事務サーバ2028、IPパケットを送受するマルチキャストサービス代理サーバ2050及び送信端末2026は、送信事務サーバのIPアドレスを“E04”としてIPパケットを送受する。

【0677】

<<網ノード装置のバリエーション>>

図330の網ノード装置2001は、図334に示すアドレス管理モジュール2090とルータ2091とに分離して実施できる。但し、アドレス管理モジュール2090とルータ2091とは、回線2092を経由して情報交換できる。アドレス管理モジュール2090内のアドレス管理表2011xは、網ノード装置2001内のアドレス管理表2011と同一の情報を含み、ルータ2091内の経路表2016xは、網ノード装置2001内の経路表2016と同一の情報を含む。アドレス管理モジュール2090は、パソコンなどで実現するサーバやハードウェアモジュールとして実現する。

【0678】

<<アドレス管理モジュールを用いたIPパケットの転送>>

図334を参照して、IP転送網2000内のIPパケット転送を説明する。

端末2026は、送信元外部IPアドレス“E02”、宛先IPアドレス“M2”である外部IPパケット2040を通信回線2051に送信し、ルータ2091は通信回線2051経由で外部IPパケット2040を受信し、受信した外部IPパケット2040を回線2092経由でアドレス管理モジュール2090に送信する。アドレス管理モジュール2090は、受信したIPパケット2040の送信元IPアドレス“E02”がアドレス管理表2011xに登録されているかを調べる。本ケースでは、通信回線2051の論理通信回線名“F02”とIPアドレス“E02”の組がアドレス管理表2011xの第2行目のレコード“F02, E02”として登録されていることを確認し、ルータ2091へ確認結果を通知する。ルータ2091はアドレス管理モジュール2090の報告に従い、IPパケット2040を受入れる。なお、前記IPパケットが登録されていないと報告されたケースでは、受信したIPパケットをそのままパケット溢れ通信回線2045へ転送し、IPパケットを廃棄する。

【0679】

次に、ルータ2091は、経路表2016xの第1行目のレコード“Msk-m2, M2, G02, G03”について、当該レコードの第1番目の項目“Msk-m2”とIPパケット2040の宛先IPアドレス“M2”との“and”演算の結果が、前記レコードの第2番目の項目“M2”と一致するかを調べる下記(10)式)。本ケースでは一致する。ここで、“Msk-m2”の値は255.255.255.255のケースである。

【0680】

If (“Msk-m2”) and “M2” = “M2”) . . . (10)

次に、当該レコードの第3番目の項目G02及びG03について、IPパケット2041を論理通信回線名“G02”である通信回線2053へ送出し、IPパケット2042を論理通信回線名“G03”である通信回線2054へ送出する。

【0681】

図332の網ノード装置2003は、前記同様の機能を有するアドレス管理モジュールとルータの組合せにより置換えることができる。ここで、置き換えたアドレス管理モジュールはアドレス管理表2013と同一の情報を含むアドレス管理表を含み、前記置き換えたルータは経路表2018と同一の情報を含む。同様の原理により、網ノード装置2004及び2005は、前記同様の機能を有するアドレス管理モジュールとルータとの組により置換えることができ、それぞれ網ノード装置2004乃至2005が含むアドレス管理表や経路表の情報を含むようにしておく。

【0682】

<<有線放送やメディア配信通信システムの実現>>

端末2026がデジタル化音声を送信できる音声送信端末であり、端末2031乃至2039がデジタル化音声受信端末である場合、前記IPパケット2040の送信は有線音声放送の送信となり、IP転送を用いた有線音声放送通信システムが実現できる。また、端末2026がデジタル化音声動画像を送信できる音声動画像送信端末であり、端末2031乃至2039がデジタル化音声動画像受信端末である場合、IPパケット2040の送信は有線TV放送の送信となり、IP転送を用いた有線TV放送通信システムが実現できる。同様な方法により、デジタル化静止画像を送受するIP転送を用いた有線ファックス通信システムが実現できる。デジタル化音声受信端末や音声動画像受信端末は、マルチキャストデータの受信データ（放送内容）に対する感想などの受信端末個別情報を含むIPパケットを送信端末2026へ向けて送信することができ、マルチキャストサービス代理サーバはIPパケットを複数の受信端末から受信し、IPパケットに含まれる情報を一覧表や短い文章に編集した集約情報などを含むIPパケットを送信端末や送信事務サーバに送信できる。また、送信端末や送信事務サーバは、集約情報を含むIPパケットを受信した結果に対するコメントを含んだIPパケットをマルチキャストサービス代理サーバに返信でき、結果としてマルチキャストデータ送信側とマルチキャストデータの受信側との情報交換が行える有線放送通信システムが実現できる。以上述べたように、マルチキャスト代

理サーバが、マルチキャストデータ送信側とマルチキャストデータの受信側との間の情報交換を仲介している。送信するメディアを書籍や新聞、音楽やビデオとすると、有線放送通信システムは、マルチキャストサービスとしての書籍配送通信システムや新聞配送通信システム、音楽配送通信システム、ビデオ配送通信システムを実現できる。ここで、ビデオは、ビデオテープやCD、DVDなどにデジタル化され格納されている音声と動画像からなる情報を指す。

【0683】

<<要約>>

端末は、通信回線経由でアドレス管理モジュールを接続するルータに接続し、前記アドレス管理モジュールのアドレス管理表に送信元IPアドレスを登録しておき、ルータに入るIPパケットのヘッダ内の送信元IPアドレスがアドレス管理モジュール内のアドレス管理表に登録されている場合はIPパケットを転送し、登録されていない場合は、当該IPパケットをルータの溢れ通信回線に転送する方法により、予定外のIPパケットがIP転送網内部に混入することを防止するようにしている。更に、ルータに入るIPパケットのヘッダ内の宛先マルチキャストIPアドレスがルータの前記経路表に登録されていない場合は、当該IPパケットをルータの溢れ通信回線に転送する方法により、予定外のIPパケットがIP転送網内部に混入することを防止するようにしている。

【0684】

網ノード装置のアドレス管理表に端末のIPアドレスを登録してある場合はIPパケットを送信し、IPアドレスを登録していない場合はIPパケットを溢れ通信回線に転送し、IPパケットは廃棄されるか、マルチキャスト代理サーバに送られる。網ノード装置のアドレス管理表にマルチキャストIPアドレスを登録許可しないことにより、マルチキャストIPパケット受信者からマルチキャストIPパケット送信者へ向けたIPパケットを受信したことを通知するIPパケット受信確認用のACKパケットや受信状態不良を知らせるNACKパケット、個別報告用のIPパケットなどが網ノード装置を通過できないようにする。また、網ノード装置の経路表に宛先マルチキャストアドレスを登録してある場合は、網ノード装置に入る外部IPパケットのヘッダ内の宛先マルチキャストアドレスが

経路表に登録されてIPパケットを転送し、経路表に登録されていない場合は網ノード装置が当該IPパケットを廃棄することにより、予定外のIPパケットがIP転送網内部に混入することを防止している。

【0685】

マルチキャストサービス代理サーバが送信端末から送信されたマルチキャストデータを受信して内部に保持し、マルチキャストサービス代理サーバが、網ノード装置のマルチキャスト機能を用いて、前記保持しているマルチキャストデータを、マルチキャストサービス代理サーバが接続する当該網ノード装置に接続する端末に送出できるようにしている。

【0686】

マルチキャストサービス代理サーバが接続する当該網ノード装置に接続する1以上の端末から受信したACKパケット集約情報や、NACKパケット集約情報、個別端末の情報の集約情報を含むIPパケットを当該マルチキャストサービスを実施している送信端末、あるいは送信事務サーバへ送信できるようにしている。

【0687】

マルチキャストサービス代理サーバは、マルチキャストサービス代理サーバが接続する当該マルチキャストサービスを実施している送信端末、あるいは送信事務サーバと、IPパケットを送受して情報交換できるようになっている。更に前記マルチキャストサービス代理サーバは、IPパケット溢れ通信回線を経由して受信したIPパケットが含む情報を用いるようになっている。

【0688】

デジタル化音声や音声動画像、静止画像などを送信できる音声送信端末、音声動画像送信端末、静止画像送信端末を用いることにより、IP転送を用いた有線音声放送通信システム、有線TV放送通信システム、有線ファックス通信システムが実現できる。有線放送の受信端末は、受信端末の個別情報を含むIPパケットを送信端末へ向けて送信可能であり、結果としてマルチキャストデータ送信側とマルチキャストデータの受信側との間の情報交換が行える有線放送通信システムが実現できる。マルチキャスト代理サーバが、マルチキャストデータ送信側

とマルチキャストデータの受信側と間の情報交換を仲介する。

【0689】

マルチキャストサービスは、マルチキャストデータの受信確認通知（ACKパケット）、受信不良通知（NACKパケット）などの改善要求などによる品質が高いサービスが可能であり、通信会社はACKパケットやNACKパケットや受信者の個別報告の抑制により、IP転送網内部の通信トラヒックの増大を抑止できる。更に通信会社と契約していないマルチキャストデータの配信を防止でき、マルチキャストサービスの利用に対する課金を容易に実施できる。

【0690】

20. マルチキャスト通信を行う第20実施例：

本実施例を図335を参照して説明する。IP転送網2100の内部には通信会社Xの管理範囲2101と通信会社Yの管理範囲2102とが設けられており、更に網ノード装置2103乃至2114、ルータ2115-1乃至2115-11、ルータ2116が設置されている。網ノード装置とルータはIP通信回線により、直接に或は網ノード装置やルータ経由で間接的に接続されている。IPパケット送受機能を有する端末2117乃至2133は、IP通信回線経由で網ノード装置に接続されている。2140乃至2143はマルチキャストPサービス代理サーバ、2144乃至2147はマルチキャストQサービス代理サーバ、2148乃至2151は溢れ通信回線サーバである。通信会社X及び通信会社Yはルータ2116を共同で管理する。網ノード装置2103乃至2114は、全てがIPカプセル化と逆カプセル化機能を有する装置であるか、または全てがIPカプセル化と逆カプセル化機能を有さない装置であるかに限定され、それぞれの網ノード装置の内部構成については他の実施例により説明している。

【0691】

<<通信会社の送信端末と送信事務サーバ>>

A新聞社による電子新聞配送サービスをマルチキャストPサービス、B放送局によるニュース配信サービスをマルチキャストQサービスとして区分する。端末2117は通信会社Xが管理するマルチキャストデータ送信端末、端末2118

は通信会社Xが管理する送信事務サーバ、端末2120は通信会社Yが管理するマルチキャストデータ送信端末、端末2122は通信会社Yが管理する送信事務サーバ、端末2123はA新聞社が管理する端末である。端末2117～2120は、A新聞社が作成する電子新聞を通信会社Xの送信事務サーバ2118や通信会社Yの送信事務サーバ2122に送信し、電子新聞配送に関する事務連絡通信を行うマルチキャストPサービス用の端末である。端末2119はB放送局が管理する端末であり、B放送局が提供する（音声動画像）TVニュース配信サービスを通信会社Xの送信事務サーバ2118や通信会社Yの送信事務サーバ2122に送信し、電子新聞配送に関する事務連絡通信を行うマルチキャストQサービス用の端末である。

【0692】

送信事務サーバ2118は通信会社Xを代表し、A新聞社が作成する電子新聞の配送やB放送局によるTVニュース配信サービス、C証券会社による電子株価案内サービスなどのマルチキャストデータの送信に関する事務手続きを行ない、同様に送信事務サーバ2122は、通信会社Yを代表してマルチキャストデータの送信に関する事務手続きを行う。

【0693】

<<マルチキャストIPパケットの転送>>

電子新聞は多数のIPパケットにデジタル情報として格納されており、電子新聞IPパケットと呼ぶ。A新聞社は、電子新聞IPパケットをA新聞社の端末2123から通信会社Xの送信事務サーバ2118に送信する（図336のステップ2160）。このとき、電子新聞IPパケットは、網ノード装置2111、ルータ2115-10、2115-7、2115-6、2116、2115-5、2115-3、2115-1、網ノード装置2103を経由して送信事務サーバ2118に到達する。端末2123から送信事務サーバ2118への電子新聞IPパケットの送信は、公知のUDP通信技法（コネクションレス通信）あるいはTCP通信技法（コネクション通信）のいずれでも実施できる。

【0694】

送信事務サーバ2118は、受信した電子新聞IPパケットを内部のデータベ

ースに保持する（ステップ2161）。次に、送信事務サーバ2118は、受信し保持している電子新聞IPパケットを送信端末2117へ送信し（ステップ2162）、送信端末2117は受信した電子新聞IPパケットを保持する。このとき、送信事務サーバ2118から端末2117への電子新聞IPパケットの送信は、UDP通信技法あるいはTCP通信技法のいずれでも実施できる。

【0695】

送信端末2117は、前記保持している電子新聞IPパケットを網ノード装置2103へ送出する（ステップ2163）。ここで、宛先アドレスは、マルチキャストアドレス“Mx”である。前記送出された電子新聞IPパケットは同時にマルチキャスト専用のIP転送網2152内部を転送され、網ノード装置2106乃至2108へ到達し（ステップ2171乃至2174）、電子新聞IPパケットの受信端末である端末2124乃至2128へ到達し（ステップ2175乃至2177）、同時にマルチキャストPサービス代理サーバ2140乃至2141へ到達する（ステップ2178）。

【0696】

端末2124乃至2125は、電子新聞IPパケットを正常に受け取ったことを知らせるACKパケット、又は前記IPパケットは誤りであったことを知らせるNACKパケットを送信すると（ステップ2181）、ACKパケット乃至NACKパケットは、電子新聞配送サービスを担当するマルチキャストPサービス代理サーバ2140に転送される（ステップ2183）。同様に、端末2126乃至2127は、IPパケットの受信状態を知らせるACKパケット又はNACKパケットを送信すると（ステップ2182）、前記ACKパケット乃至NACKパケットは、マルチキャストPサービス代理サーバ2141に転送される（ステップ2184）。端末2128からACKパケット乃至NACKパケットが送出されるケースも同様手順である。

【0697】

マルチキャストPサービス代理サーバ2140乃至2141は、電子新聞IPパケットを端末2124乃至2127へマルチキャストデータとして再送する（ステップ2185、2186）。マルチキャストPサービス代理サーバ2140

乃至2141は、電子新聞IPパケットの受信状況を報告するIPパケットを形成して網ノード装置2106乃至2107へ送出し（ステップ2187）、IPパケットはIP転送網2152を経由し（ステップ2188）、網ノード装置2103を経由して送信事務サーバ2118へ到達する（ステップ2189）。

【0698】

通信会社Xの管理する送信事務サーバ2118は、ステップ2162及び2189において電子新聞IPパケット配送に関与した情報を用いて、通信会社Xの管理するIP網2101の利用料金を算出することができる。送信事務サーバ2118は、前記受信したIPパケットの内容に含まれる情報からA新聞社への報告事項を含むIPパケットを形成し、A新聞社の端末2123へ形成したIPパケットを送信する（ステップ2190）。ここで、IPパケットは、網ノード装置2103、ルータ2115-1、2115-3、2115-5、2116、2115-6、2115-7、2115-10、2111を経由して端末2123へ到達する。A新聞社はIPパケットを受信し、通信会社Xに依頼した電子新聞IPパケットの配送状況を確認する。

【0699】

A新聞社は前記ステップ2160を終えた後、電子新聞IPパケットをA新聞社の端末2123から通信会社Yの送信事務サーバ2122に送信する（図336のステップ2164）。このとき、電子新聞IPパケットは、網ノード装置2111、ルータ2115-10、網ノード装置2110を経由して送信事務サーバ2122に到達する。送信事務サーバ2122は、前記受信した電子新聞IPパケットを内部のデータベースの保持する（ステップ2165）。

【0700】

送信事務サーバ2122は、送信端末2120に対して、送信事務サーバ2122が電子新聞IPパケットを送れる資格を有する正規の送信事務サーバであることの認証を受け（ステップ2260）、送信事務サーバ2122は、前記受信し保持している電子新聞IPパケットを送信端末2120へ送信し（ステップ2166）、送信端末2120は受信した電子新聞IPパケットを保持する。なお、前記ステップ2164において、A新聞社の端末2123は、通信会社Yの送

信事務サーバ2122に対して、A新聞社の端末2123に間違いのないことの認証を受けるようにすることもできる。

【0701】

送信端末2120は、前記保持している電子新聞IPパケットを網ノード装置2109へ送出する（ステップ2167）。ここで、宛先アドレスは、マルチキャストアドレス“M_y”である。前記送出された電子新聞IPパケットは同時にマルチキャスト専用のIP転送網2153内部を転送され、網ノード装置2112乃至2114へ到達し（ステップ2191乃至2194）、電子新聞IPパケットの受信端末である端末2129乃至2133へ到達し（ステップ2195乃至2197）、同時にマルチキャストPサービス代理サーバ2142乃至2143へ到達する（ステップ2198）。端末2129乃至2133は、前記電子新聞IPパケットの受信状況を知らせるACKパケット又はNACKパケットを送信すると（ステップ2201、2202）、ACKパケット乃至NACKパケットは、電子新聞配送サービスを担当するマルチキャストPサービス代理サーバ2142又は2143に転送される（ステップ2203又は2204）。

【0702】

マルチキャストPサービス代理サーバ2142乃至2143は、電子新聞IPパケットを端末2129乃至2133へマルチキャストデータとして再送する（ステップ2205、2206）。マルチキャストPサービス代理サーバ2142乃至2143は、電子新聞IPパケットの受信状況を報告するIPパケットを形成して網ノード装置2112乃至2113へ送出し（ステップ2207）、IPパケットはIP転送網2153を経由し（ステップ2208）、網ノード装置2109を経由して送信事務サーバ2122へ到達する（ステップ2209）。

【0703】

通信会社Yの管理する送信事務サーバ2122は、通信会社Yの管理するIP網2102の利用料金を算出し、更に受信したIPパケットの内容に含まれる情報からA新聞社への報告事項を含むIPパケットを形成し、A新聞社の端末2123へ前記形成したIPパケットを送信する（ステップ2210）。ここで、IPパケットは、網ノード装置2110、ルータ2115-10、網ノード装置2

111を経由して端末2123へ到達する。A新聞社はIPパケットを受信し、通信会社Yに依頼した電子新聞IPパケットの配送状況を確認する。マルチキャストQサービスを実施するケースにおいても、前記同様の方法により実施できる。

【0704】

<<認証手続き>>

前記ステップ2260の認証手続きは公知の技法が各種あり、図337を参照して一例を説明する。送信事務サーバ2122及び送信端末2120は、共通の関数 $y = f(a, b)$ と秘密の認証鍵“K”を内部に保持している。送信事務サーバ2122は、送信事務サーバ2122を識別する情報“ID2122”を送信端末2120へ送信する（ステップ2160-1）。送信端末2120は送信事務サーバ2122を識別する情報“ID2122”を受信し、乱数“R”を生成して $C1 = f(K, R)$ を算出し保持すると共に、送信事務サーバ2122へ乱数“R”を送信する（ステップ2160-2）。送信事務サーバ2122は、受信した乱数“R”と認証鍵“K”と関数“f”とを用いて $C2 = f(K, R)$ を算出し、送信端末2120へ“C2”を送信する（ステップ2160-3）。送信端末は、前記生成し保持している“C1”と、前記受信した“C2”とが一致するか否かを調べ、一致すれば送信事務サーバ2122が正規の認証鍵“K”を保持していることが確認できるので、送信事務サーバ2122が正規送信事務サーバであることを認証できる。

【0705】

<<バリエーション>>

図338を参照して説明すると、IP転送網2100-1の内部は、通信会社Xの管理範囲2101-1と通信会社Yの管理範囲2102-1、網ノード装置2104-1、2105-1、2107-1乃至2114-1、ルータ2230及び2232、アドレス管理モジュール2231及び2233、ルータ2115-1乃至2115-11、ルータ2116を設置している。網ノード装置2104-1、2105-1、2107-1乃至2114-1は、全てがIPカプセル化と逆カプセル化機能を有さない装置であり、その具体的内部構成は他の実施例

により説明しているのと同様である。ルータ 2 2 3 0 とアドレス管理モジュール 2 2 3 1 とは回線で接続され、ルータ 2 2 3 0 とアドレス管理モジュール 2 2 3 1 とは一体となって網ノード装置と同様の機能を果たす。同様に、ルータ 2 2 3 2 とアドレス管理モジュール 2 2 3 3 とは回線で接続され、一体となって網ノード装置と同様の機能を果たす。このようになっているから、図 3 3 5 乃至 3 3 6 を用いて説明したマルチキャストサービスと同様のマルチキャストサービスが実施できる。

【0706】

マルチキャストサービスを提供する A 新聞社の端末 2 1 2 3 から、電子新聞 IP パケットを送信事務サーバ 2 1 1 8 及び 2 1 2 2 へ送信し、送信事務サーバ 2 1 1 8 及び 2 1 2 2 は、前記受信した電子新聞 IP パケットを IP 転送網 2 1 0 1 - 1 及び 2 1 0 2 - 1 を経由して、受信端末 2 1 2 4 乃至 2 1 3 3 へマルチキャスト技法により配信できる。前記配信した結果は送信事務サーバ 2 1 1 8 及び 2 1 2 2 に報告され、前記受信端末 2 1 2 4 乃至 2 1 3 3 に課金を行うことができる。

【0707】

なお、IP 転送網 2 1 5 2 及び 2 1 5 3 はマルチキャスト専用の IP 転送網である必要はなく、他の実施例で説明している IP 電話やデータ転送、音声画像転送のための IP 転送と共用して、前記説明のマルチキャストサービスが実施できる。

【0708】

<<アドレス管理表や経路表の設定>>

通信会社 X の管理範囲 2 1 0 1 及び通信会社 Y の管理範囲 2 1 0 2 内部の網ノード装置内部のアドレス管理表やルータの経路表は、マルチキャストサービスの種別毎に、別個のアドレス管理表やルータの経路表を設定（マルチキャスト木構造の設定）が必要であり、他の実施例により説明している方法が適用できる。更に、マルチキャストサービス利用者の増減によるマルチキャスト木構造の変更や、マルチキャストサービスの停止によるマルチキャスト木構造の解放などの他実施例において説明されている技法が本実施例に適用できる。

【0709】

<<まとめ>>

以上述べた方法により、複数のマルチキャストサービスが、複数の通信会社のIP転送網を接続したIP転送網を用いて実施される。マルチキャストサービス提供者は、前記通信会社に依頼して、課金業務の代行を依頼できる。通信会社Xの管理する送信事務サーバと、通信会社Yの管理する送信事務サーバにマルチキャストデータを送信し、前記通信会社Xの送信事務サーバは、通信会社Xの送信端末を経由して、通信会社Xの管理するIP転送網に接続する複数端末にマルチキャストデータを配送し、同様に、前記通信会社Yの送信事務サーバは、通信会社Yの送信端末を経由して、通信会社Yの管理するIP転送網に接続する複数端末にマルチキャストデータを配送できるようになっている。通信会社Xや通信会社Yの管理するIP転送網内の配送結果は、マルチキャストサービス代理サーバ経由で、通信会社Xや通信会社Yの送信事務サーバが収集する。

【0710】

【発明の効果】

IP転送網を用いた端末間通信接続制御方法と装置マルチメディア端末、つまりIP通信機能を有するパソコンなどのIP端末やIP電話機、IP音声画像装置を統合IP転送網の網ノード装置やゲートウェイ、メディアルータのいずれか1以上に接続することにより、IP転送網を用いた端末間通信のための端末通信接続制御が出来る。ここで、メディアルータは統合IP転送網の外部に設置し、統合IP転送網を経由してマルチメディア端末識別用の電話番号などからなるホスト名を用いて、マルチメディア端末間で情報交換などの相互通信を行えるようにする。

【0711】

LAN内部のメディアルータに公衆電話交換網用の電話番号を有する電話機を接続しておき、公衆電話交換網に接続する電話機から、統合IP転送網を経由してLAN内部の電話機へ接続し、端末間通信が可能である。また、単一のマルチメディア端末が送信元となり、電子書籍などの電子データや音声画像データを、複数の受信側となるマルチメディア端末に送信する形態のIPデータマルチキャスト

網や I P ベース TV 放送網のために用いることができる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】

共通線信号方式を適用した I P 転送網の端末間通信接続制御方法を説明する図である。

【図 2】

本発明による端末を登録する管理型 I P 網の構成を説明する模式図である。

【図 3】

本発明の対象とする I P 転送網の形態を示す模式図である。

【図 4】

本発明の第 1 実施例として開示されるメディアルータの機能や、第 2 実施例として開示されるゲートウェイの機能を説明する補助図である。

【図 5】

本発明の第 1 実施例、第 2 実施例のメディアルータやゲートウェイ機能の説明に用いる I P パケットの 1 つの形態の説明図である。

【図 6】

本発明の第 1 実施例のメディアルータの構成を模式的に表し、このメディアルータの動作の手順を説明する補助図である。

【図 7】

本発明の第 1 実施例のメディアルータの構成を模式的に表わし、このメディアルータの動作の手順を説明する補助図である。

【図 8】

本発明の第 1 実施例の網ノード装置内部のアドレス管理テーブルを説明する図である。

【図 9】

2 つの I P 端末間通信に現れる I P パケットの形態を説明する図である。

【図 1 0】

2 つの I P 端末間通信に現れる I P パケットの形態を説明する図である。

【図 1 1】

2つのIP端末間通信に現れるIPパケットの形態を説明する図である。

【図12】

2つのIP端末間通信に現れるIPパケットの形態を説明する図である。

【図13】

2つのIP電話機間通信に現れるIPパケットの形態を説明する図である。

【図14】

2つのIP電話機間通信に現れるIPパケットの形態を説明する図である。

【図15】

2つのIP電話機間通信に現れるIPパケットの形態を説明する図である。

【図16】

2つのIP電話機間通信に現れるIPパケットの形態を説明する図である。

【図17】

2つのIP電話機間通信に現れるIPパケットの形態を説明する図である。

【図18】

2つのIP電話機間通信に現れるIPパケットの形態を説明する図である。

【図19】

2つのIP電話機間通信に現れるIPパケットの形態を説明する図である。

【図20】

2つのIP電話機間通信に現れるIPパケットの形態を説明する図である。

【図21】

2つのIP電話機間通信に現れるIPパケットの形態を説明する図である。

【図22】

2つのIP電話機間通信に現れるIPパケットの形態を説明する図である。

【図23】

2つのIP電話機間通信に現れるIPパケットの形態を説明する図である。

【図24】

2つのIP電話機間通信に現れるIPパケットの形態を説明する図である。

【図25】

2つのIP電話機間通信に現れるIPパケットの形態を説明する図である。

【図 2 6】

2つのIP電話機間通信に現れるIPパケットの形態を説明する図である。

【図 2 7】

2つのIP電話機間通信に現れるIPパケットの形態を説明する図である。

【図 2 8】

2つのIP電話機間通信に現れるIPパケットの形態を説明する図である。

【図 2 9】

2つのIP電話機間通信に現れるIPパケットの形態を説明する図である。

【図 3 0】

メディアルータ内部のメディアルータ状態表の例を示す図である。

【図 3 1】

独立型IP電話機の概念構成を示すブロック図である。

【図 3 2】

独立型IP音声画像装置の概念構成を示すブロック図である。

【図 3 3】

2つのIP電話機間通信に現れるIPパケットの他の実施形態を説明する図である。

【図 3 4】

2つのIP電話機間通信に現れるIPパケットの他の実施形態を説明する図である。

【図 3 5】

2つのIP電話機間通信に現れるIPパケットの他の実施形態を説明する図である。

【図 3 6】

2つのIP電話機間通信に現れるIPパケットの他の実施形態を説明する図である。

【図 3 7】

2つのIP電話機間通信に現れるIPパケットの他の実施形態を説明する図である。

【図38】

2つのIP電話機間通信に現れるIPパケットの他の実施形態を説明する図である。

【図39】

2つのIP電話機間通信に現れるIPパケットの他の実施形態を説明する図である。

【図40】

2つのIP電話機間通信に現れるIPパケットの他の実施形態を説明する図である。

【図41】

2つのIP電話機間通信に現れるIPパケットの他の実施形態を説明する図である。

【図42】

2つのIP電話機間通信に現れるIPパケットの他の実施形態を説明する図である。

【図43】

2つのIP電話機間通信に現れるIPパケットの他の実施形態を説明する図である。

【図44】

2つのIP電話機間通信に現れるIPパケットの他の実施形態を説明する図である。

【図45】

2つのIP電話機間通信に現れるIPパケットの他の実施形態を説明する図である。

【図46】

2つのIP電話機間通信に現れるIPパケットの他の実施形態を説明する図である。

【図47】

2つのIP電話機間通信に現れるIPパケットの他の実施形態を説明する図で

ある。

【図 4 8】

本発明の第 1 実施例において、2つの IP 電話機間通信に現れる IP パケットの他の実施形態を説明する図である。

【図 4 9】

本発明の第 1 実施例において、2つの IP 電話機間通信に現れる IP パケットの他の実施形態を説明する図である。

【図 5 0】

本発明の第 1 実施例におけるメディアルータの RAS 管理を説明するための模式図である。

【図 5 1】

本発明の第 2 実施例のゲートウェイの構成を模式的に表わすと共に、このゲートウェイの動作の手順を説明する補助図である。

【図 5 2】

本発明の第 2 実施例のゲートウェイの構成を模式的に表わすと共に、このゲートウェイの動作の手順を説明する補助図である。

【図 5 3】

2つの IP 電話機間通信に現れる IP パケットの他の実施形態を説明する図である。

【図 5 4】

2つの IP 電話機間通信に現れる IP パケットの他の実施形態を説明する図である。

【図 5 5】

2つの IP 電話機間通信に現れる IP パケットの他の実施形態を説明する図である。

【図 5 6】

本発明の第 2 実施例において、2つの IP 電話機間通信に現れる IP パケットの他の実施形態を説明する図である。

【図 5 7】

2つのIP電話機間通信に現れるIPパケットの他の実施形態を説明する図である。

【図58】

2つのIP電話機間通信に現れるIPパケットの他の実施形態を説明する図である。

【図59】

2つのIP電話機間通信に現れるIPパケットの他の実施形態を説明する図である。

【図60】

2つのIP電話機間通信に現れるIPパケットの他の実施形態を説明する図である。

【図61】

2つのIP電話機間通信に現れるIPパケットの他の実施形態を説明する図である。

【図62】

2つのIP電話機間通信に現れるIPパケットの他の実施形態を説明する図である。

【図63】

2つのIP電話機間通信に現れるIPパケットの他の実施形態を説明する図である。

【図64】

2つのIP電話機間通信に現れるIPパケットの他の実施形態を説明する図である。

【図65】

2つのIP電話機間通信に現れるIPパケットの他の実施形態を説明する図である。

【図66】

2つのIP電話機間通信に現れるIPパケットの他の実施形態を説明する図である。

【図 67】

2つのIP電話機間通信に現れるIPパケットの他の実施形態を説明する図である。

【図 68】

2つのIP電話機間通信に現れるIPパケットの他の実施形態を説明する図である。

【図 69】

本発明の第2実施例の網ノード装置内部の他のアドレス管理テーブルを説明する図である。

【図 70】

本発明の第2実施例におけるゲートウェイ状態表の記載例である。

【図 71】

本発明の第3実施例におけるCATVシステム内部に実装するメディアルータの構成の模式図である。

【図 72】

本発明の第4実施例における端末収容無線装置とゲートウェイ装置を用いた各種の端末を接続する方法を説明する図である。

【図 73】

本発明の第5実施例におけるゲートウェイの構造例を示すブロック図である。

【図 74】

本発明の第6実施例において、電話通信制御サーバを用いる場合の構成例を示すブロック図である。

【図 75】

本発明の第6実施例を説明するための流れ図である。

【図 76】

本発明の第6実施例を説明するための図である。

【図 77】

本発明の第6実施例を説明するための図である。

【図 78】

本発明の第 6 実施例を説明するための流れ図である。

【図 7 9】

本発明の第 6 実施例を説明するための図である。

【図 8 0】

本発明の第 6 実施例を説明するための図である。

【図 8 1】

本発明の第 6 実施例を説明するための図である。

【図 8 2】

本発明の第 6 実施例を説明するための図である。

【図 8 3】

本発明の第 6 実施例を説明するための図である。

【図 8 4】

本発明の第 6 実施例を説明するための図である。

【図 8 5】

本発明の第 6 実施例を説明するための図である。

【図 8 6】

本発明の第 6 実施例を説明するための流れ図である。

【図 8 7】

本発明の第 6 実施例を説明するための図である。

【図 8 8】

本発明の第 6 実施例を説明するための図である。

【図 8 9】

本発明の第 6 実施例を説明するための図である。

【図 9 0】

本発明の第 6 実施例（解放フェーズ）を説明するための流れ図である。

【図 9 1】

本発明の第 6 実施例（通信会社が 1 社）を説明するための図である。

【図 9 2】

本発明の第 6 実施例を説明するための流れ図である。

【図 9 3】

本発明の第 6 実施例を説明するための流れ図である。

【図 9 4】

電話番号の通信会社区分表の例を示す図である。

【図 9 5】

電話番号の電話管理サーバ区分表の例を示す図である。

【図 9 6】

本発明の第 7 実施例であるメディアルータの構造例を示すブロック図である。

【図 9 7】

本発明の第 7 実施例を説明するための図である。

【図 9 8】

本発明の第 8 実施例の構成を示すブロック図である。

【図 9 9】

本発明の第 8 実施例の動作例を示す流れ図である。

【図 1 0 0】

本発明の第 8 実施例を説明するための図である。

【図 1 0 1】

本発明の第 8 実施例を説明するための図である。

【図 1 0 2】

本発明の第 8 実施例の動作例を示す流れ図である。

【図 1 0 3】

本発明の第 8 実施例を説明するための図である。

【図 1 0 4】

本発明の第 8 実施例を説明するための図である。

【図 1 0 5】

本発明の第 8 実施例を説明するための図である。

【図 1 0 6】

本発明の第 6 実施例を説明するための図である。

【図 1 0 7】

本発明の第 8 実施例を説明するための図である。

【図 1 0 8】

本発明の第 6 実施例を説明するための図である。

【図 1 0 9】

本発明の第 8 実施例を説明するための図である。

【図 1 1 0】

本発明の第 8 実施例を説明するための図である。

【図 1 1 1】

本発明の第 8 実施例（メディアルータの他の例）を説明するための図である。

【図 1 1 2】

本発明の第 8 実施例を説明するための図である。

【図 1 1 3】

本発明の第 8 実施例を説明するための図である。

【図 1 1 4】

本発明の第 8 実施例を説明するための図である。

【図 1 1 5】

メディアルータ内部の一部とこれに接続される I P 端末や LAN の接続状態を示す模式図である。

【図 1 1 6】

発信優先度制御管理表の例を示す図である。

【図 1 1 7】

発信優先度制御管理表の例を示す図である。

【図 1 1 8】

本発明の第 9 実施例を説明するための図である。

【図 1 1 9】

本発明の第 9 実施例の構成を示すブロック図である。

【図 1 2 0】

本発明の第 9 実施例の動作例を示す流れ図である。

【図 1 2 1】

本発明の第 9 実施例を説明するための図である。

【図 1 2 2】

本発明の第 9 実施例を説明するための図である。

【図 1 2 3】

本発明の第 9 実施例を説明するための図である。

【図 1 2 4】

本発明の第 9 実施例を説明するための図である。

【図 1 2 5】

本発明の第 9 実施例を説明するための図である。

【図 1 2 6】

本発明の第 9 実施例を説明するための図である。

【図 1 2 7】

本発明の第 9 実施例を説明するための図である。

【図 1 2 8】

本発明の第 1 0 実施例の構成を示すブロック図である。

【図 1 2 9】

本発明の第 1 0 実施例の動作例を示す流れ図である。

【図 1 3 0】

本発明の第 1 0 実施例を説明するための図である。

【図 1 3 1】

本発明の第 1 0 実施例を説明するための図である。

【図 1 3 2】

本発明の第 1 0 実施例を説明するための図である。

【図 1 3 3】

本発明の第 1 0 実施例を説明するための図である。

【図 1 3 4】

本発明の第 1 0 実施例の動作例を示す流れ図である。

【図 1 3 5】

本発明の第 1 0 実施例を説明するための図である。

【図 1 3 6】

本発明の第 1 0 実施例を説明するための図である。

【図 1 3 7】

本発明の第 1 0 実施例を説明するための図である。

【図 1 3 8】

本発明の第 1 0 実施例を説明するための図である。

【図 1 3 9】

本発明の第 1 0 実施例を説明するための図である。

【図 1 4 0】

本発明の第 1 0 実施例を説明するための図である。

【図 1 4 1】

本発明の第 1 0 実施例を説明するための図である。

【図 1 4 2】

本発明の第 1 0 実施例を説明するための図である。

【図 1 4 3】

本発明の第 1 0 実施例を説明するための図である。

【図 1 4 4】

本発明の第 1 0 実施例を説明するための図である。

【図 1 4 5】

本発明の第 1 0 実施例を説明するための図である。

【図 1 4 6】

本発明の第 1 0 実施例を説明するための図である。

【図 1 4 7】

本発明の第 1 0 実施例を説明するための図である。

【図 1 4 8】

本発明の第 1 0 実施例を説明するための図である。

【図 1 4 9】

本発明の第 1 0 実施例を説明するための図である。

【図 1 5 0】

本発明の第 1 0 実施例を説明するための図である。

【図 1 5 1】

本発明の第 1 0 実施例を説明するための図である。

【図 1 5 2】

本発明の第 1 0 実施例を説明するための図である。

【図 1 5 3】

本発明の第 1 0 実施例を説明するための図である。

【図 1 5 4】

本発明の第 1 0 実施例を説明するための図である。

【図 1 5 5】

本発明の第 1 0 実施例を説明するための図である。

【図 1 5 6】

本発明の第 1 0 実施例を説明するための図である。

【図 1 5 7】

本発明の第 1 0 実施例を説明するための図である。

【図 1 5 8】

本発明の第 1 0 実施例を説明するための図である。

【図 1 5 9】

本発明の第 1 0 実施例を説明するための図である。

【図 1 6 0】

本発明の第 1 0 実施例を説明するための図である。

【図 1 6 1】

本発明の第 1 0 実施例を説明するための図である。

【図 1 6 2】

本発明の第 1 0 実施例の動作例を示す流れ図である。

【図 1 6 3】

本発明の第 1 0 実施例の動作例を示す流れ図である。

【図 1 6 4】

本発明の第 1 0 実施例の動作例 (TCP-IAM) を示す流れ図である。

【図 1 6 5】

本発明の第 1 0 実施例の動作例 (TCP-ACM) を示す流れ図である。

【図 1 6 6】

本発明の第 1 0 実施例の動作例 (TCP-CPG) を示す流れ図である。

【図 1 6 7】

本発明の第 1 0 実施例の動作例 (TCP-ANM) を示す流れ図である。

【図 1 6 8】

本発明の第 1 0 実施例の動作例 (TCP-REL) を示す流れ図である。

【図 1 6 9】

本発明の第 1 0 実施例の動作例 (TCP-RLC) を示す流れ図である。

【図 1 7 0】

本発明の第 1 0 実施例を説明するための図である。

【図 1 7 1】

本発明の第 1 0 実施例を説明するための図である。

【図 1 7 2】

本発明の第 1 0 実施例を説明するための図である。

【図 1 7 3】

本発明の第 1 0 実施例を説明するための図である。

【図 1 7 4】

本発明の第 1 0 実施例を説明するための図である。

【図 1 7 5】

本発明の第 1 0 実施例を説明するための図である。

【図 1 7 6】

本発明の第 1 0 実施例を説明するための図である。

【図 1 7 7】

本発明の第 1 0 実施例を説明するための図である。

【図 1 7 8】

本発明の第 1 0 実施例を説明するための図である。

【図 1 7 9】

本発明の第 1 0 実施例を説明するための図である。

【図 1 8 0】

本発明の第 1 0 実施例を説明するための図である。

【図 1 8 1】

本発明の第 1 1 実施例の構成を示すブロック図である。

【図 1 8 2】

本発明の第 1 1 実施例の動作を示す流れ図である。

【図 1 8 3】

本発明の第 1 1 実施例の動作を示す流れ図である。

【図 1 8 4】

本発明の第 1 1 実施例の動作を示す流れ図である。

【図 1 8 5】

本発明の第 1 2 実施例の構成を示すブロック図である。

【図 1 8 6】

本発明の第 1 2 実施例を説明するための図である。

【図 1 8 7】

本発明の第 1 2 実施例を説明するための図である。

【図 1 8 8】

本発明の第 1 2 実施例の動作を示す流れ図である。

【図 1 8 9】

本発明の第 1 2 実施例の動作を示す流れ図である。

【図 1 9 0】

本発明の第 1 2 実施例の動作を示す流れ図である。

【図 1 9 1】

本発明の第 1 2 実施例の動作を示す流れ図である。

【図 1 9 2】

本発明の第 1 2 実施例の動作を示す流れ図である。

【図 1 9 3】

本発明の第 1 2 実施例を説明するための図である。

【図 1 9 4】

本発明の第 1 2 実施例の動作を示す流れ図である。

【図 1 9 5】

本発明の第 1 2 実施例を説明するための図である。

【図 1 9 6】

本発明の第 1 2 実施例を説明するための図である。

【図 1 9 7】

本発明の第 1 3 実施例を示すブロック構成図である。

【図 1 9 8】

本発明の第 1 3 実施例の動作例を示す流れ図である。

【図 1 9 9】

本発明の第 1 3 実施例を説明するための図である。

【図 2 0 0】

本発明の第 1 3 実施例を説明するための図である。

【図 2 0 1】

本発明の第 1 3 実施例を説明するための図である。

【図 2 0 2】

本発明の第 1 3 実施例を説明するための図である。

【図 2 0 3】

本発明の第 1 3 実施例を説明するための図である。

【図 2 0 4】

本発明の第 1 3 実施例を説明するための図である。

【図 2 0 5】

本発明の第 1 3 実施例を説明するための図である。

【図 2 0 6】

本発明の第 1 3 実施例を説明するための図である。

【図 2 0 7】

本発明の第 1 3 実施例を説明するための図である。

【図 2 0 8】

本発明の第 1 3 実施例を説明するための図である。

【図 2 0 9】

本発明の第 1 3 実施例を説明するための図である。

【図 2 1 0】

本発明の第 1 3 実施例を説明するための図である。

【図 2 1 1】

本発明の第 1 3 実施例を説明するための図である。

【図 2 1 2】

本発明の第 1 3 実施例を説明するための図である。

【図 2 1 3】

本発明の第 1 3 実施例を説明するための図である。

【図 2 1 4】

本発明の第 1 3 実施例を説明するための図である。

【図 2 1 5】

本発明の第 1 3 実施例を説明するための図である。

【図 2 1 6】

本発明の第 1 3 実施例を説明するための図である。

【図 2 1 7】

本発明の第 1 3 実施例を説明するための図である。

【図 2 1 8】

本発明の第 1 3 実施例を説明するための図である。

【図 2 1 9】

本発明の第 1 3 実施例を説明するための図である。

【図 2 2 0】

本発明の第 1 3 実施例を説明するための図である。

【図 2 2 1】

本発明の第 1 3 実施例を説明するための図である。

【図 2 2 2】

本発明の第 1 3 実施例を説明するための図である。

【図 2 2 3】

本発明の第 1 3 実施例を説明するための図である。

【図 2 2 4】

本発明の第 1 3 実施例を説明するための図である。

【図 2 2 5】

本発明の第 1 3 実施例を説明するための図である。

【図 2 2 6】

本発明の第 1 3 実施例を説明するための図である。

【図 2 2 7】

本発明の第 1 3 実施例を説明するための図である。

【図 2 2 8】

本発明の第 1 3 実施例を説明するための図である。

【図 2 2 9】

本発明の第 1 3 実施例を説明するための図である。

【図 2 3 0】

本発明の第 1 3 実施例を説明するための図である。

【図 2 3 1】

本発明の第 1 3 実施例を説明するための図である。

【図 2 3 2】

本発明の第 1 4 実施例を示すブロック構成図である。

【図 2 3 3】

本発明の第 1 4 実施例の動作例を示す流れ図である。

【図 2 3 4】

本発明の第 1 4 実施例を説明するための図である。

【図 2 3 5】

本発明の第 1 4 実施例を説明するための図である。

【図 2 3 6】

本発明の第 1 4 実施例を説明するための図である。

【図 2 3 7】

本発明の第 1 4 実施例を説明するための図である。

【図 2 3 8】

本発明の第 1 4 実施例を説明するための図である。

【図 2 3 9】

本発明の第 1 4 実施例を説明するための図である。

【図 2 4 0】

本発明の第 1 4 実施例を説明するための図である。

【図 2 4 1】

本発明の第 1 4 実施例を説明するための図である。

【図 2 4 2】

本発明の第 1 4 実施例を説明するための図である。

【図 2 4 3】

本発明の第 1 4 実施例を説明するための図である。

【図 2 4 4】

本発明の第 1 4 実施例を説明するための図である。

【図 2 4 5】

本発明の第 1 4 実施例を説明するための図である。

【図 2 4 6】

本発明の第 1 4 実施例を説明するための図である。

【図 2 4 7】

本発明の第 1 4 実施例を説明するための図である。

【図 2 4 8】

本発明の第 1 4 実施例を説明するための図である。

【図 2 4 9】

本発明の第 1 4 実施例を説明するための図である。

【図 2 5 0】

本発明の第 1 4 実施例を説明するための図である。

【図 2 5 1】

本発明の第 1 4 実施例を説明するための図である。

【図 2 5 2】

本発明の第 1 4 実施例を説明するための図である。

【図 2 5 3】

本発明の第 1 4 実施例を説明するための図である。

【図 2 5 4】

本発明の第 1 4 実施例を説明するための図である。

【図 2 5 5】

本発明の第 1 4 実施例を説明するための図である。

【図 2 5 6】

本発明の第 1 4 実施例の動作例を示す流れ図である。

【図 2 5 7】

本発明の第 1 4 実施例の動作例を示す流れ図である。

【図 2 5 8】

本発明の第 1 4 実施例の動作例を示す流れ図である。

【図 2 5 9】

本発明の第 1 4 実施例の動作例を示す流れ図である。

【図 2 6 0】

本発明の第 1 5 実施例を示すブロック構成図である。

【図 2 6 1】

本発明の第 1 5 実施例の動作例を示す流れ図である。

【図 2 6 2】

本発明の第 1 5 実施例を説明するための図である。

【図 2 6 3】

本発明の第 1 5 実施例を説明するための図である。

【図 2 6 4】

本発明の第 1 5 実施例を説明するための図である。

【図 2 6 5】

本発明の第 1 5 実施例を説明するための図である。

【図 2 6 6】

本発明の第 1 5 実施例を説明するための図である。

【図 2 6 7】

本発明の第 1 5 実施例を説明するための図である。

【図 2 6 8】

本発明の第 1 5 実施例を説明するための図である。

【図 2 6 9】

本発明の第 1 5 実施例を説明するための図である。

【図 2 7 0】

本発明の第 1 5 実施例を説明するための図である。

【図 2 7 1】

本発明の第 1 5 実施例を説明するための図である。

【図 2 7 2】

本発明の第 1 5 実施例を説明するための図である。

【図 2 7 3】

本発明の第 1 5 実施例を説明するための図である。

【図 2 7 4】

本発明の第 1 5 実施例を説明するための図である。

【図 2 7 5】

本発明の第 1 5 実施例を説明するための図である。

【図 2 7 6】

本発明の第 1 5 実施例を説明するための図である。

【図 2 7 7】

本発明の第 1 5 実施例を説明するための図である。

【図 2 7 8】

本発明の第 1 5 実施例を説明するための図である。

【図 2 7 9】

本発明の第 1 5 実施例を説明するための図である。

【図 2 8 0】

本発明の第 1 5 実施例を説明するための図である。

【図 2 8 1】

本発明の第 1 5 実施例を説明するための図である。

【図 2 8 2】

本発明の第 1 5 実施例を説明するための図である。

【図 2 8 3】

本発明の第 1 5 実施例を説明するための図である。

【図 2 8 4】

本発明の第 1 5 実施例を説明するための図である。

【図 2 8 5】

本発明の第 1 5 実施例を説明するための図である。

【図 2 8 6】

本発明の第 1 5 実施例を説明するための図である。

【図 2 8 7】

本発明の第 1 5 実施例を説明するための図である。

【図 2 8 8】

本発明の第 1 6 実施例を示すブロック構成図である。

【図 2 8 9】

本発明の第 1 6 実施例の動作例を示す流れ図である。

【図 2 9 0】

本発明の第 1 6 実施例を説明するための図である。

【図 2 9 1】

本発明の第 1 6 実施例を説明するための図である。

【図 2 9 2】

本発明の第 1 6 実施例を説明するための図である。

【図 2 9 3】

本発明の第 1 7 実施例の構成を示すブロック図の一部である。

【図 2 9 4】

本発明の第 1 7 実施例の構成を示すブロック図の一部である。

【図 2 9 5】

本発明の第 1 7 実施例の構成を示すブロック図の一部である。

【図 2 9 2】

本発明の第 1 7 実施例を説明するための図である。

【図 2 9 6】

本発明の第 1 7 実施例を説明するための図である。

【図 2 9 7】

本発明の第 1 7 実施例を説明するための図である。

【図 2 9 8】

本発明の第 1 7 実施例を説明するための図である。

【図 2 9 9】

本発明の第 1 7 実施例を説明するための図である。

【図 3 0 0】

本発明の第 1 7 実施例の動作を説明するための流れ図である。

【図 3 0 1】

本発明の第 1 7 実施例を説明するための図である。

【図 3 0 2】

本発明の第 1 7 実施例を説明するための図である。

【図 3 0 3】

本発明の第 1 7 実施例を説明するための図である。

【図 3 0 4】

本発明の第 1 7 実施例を説明するための図である。

【図 3 0 5】

本発明の第 1 7 実施例を説明するための図である。

【図 3 0 6】

本発明の第 1 7 実施例を説明するための図である。

【図 3 0 7】

本発明の第 1 7 実施例を説明するための図である。

【図 3 0 8】

本発明の第 1 7 実施例を説明するための図である。

【図 3 0 9】

本発明の第 1 7 実施例におけるアドレス管理表を説明する図の一部である。

【図 3 1 0】

本発明の第 1 7 実施例におけるアドレス管理表を説明する図の一部である。

【図 3 1 1】

本発明の第 1 7 実施例におけるアドレス管理表を説明する図の一部である。

【図 3 1 2】

本発明の第 1 7 実施例を説明するための図である。

【図 3 1 3】

本発明の第 1 7 実施例を説明するための図である。

【図 3 1 4】

本発明の第 1 7 実施例を説明するための図である。

【図 3 1 5】

本発明の第 1 7 実施例を説明するための図である。

【図 3 1 6】

本発明の第 1 7 実施例を説明するための図である。

【図 3 1 7】

本発明の第 1 7 実施例を説明するための図である。

【図 3 1 8】

本発明の第 1 7 実施例を説明するための図である。

【図 3 1 9】

本発明の第 1 7 実施例を説明するための図である。

【図 3 2 0】

本発明の第 1 7 実施例を説明するための図である。

【図 3 2 1】

本発明の第 1 8 実施例の構成を示すブロック図の一部である。

【図 3 2 2】

本発明の第 1 8 実施例の構成を示すブロック図の一部である。

【図 3 2 3】

本発明の第 1 8 実施例の構成を示すブロック図の一部である。

【図 3 2 4】

本発明の第 1 8 実施例の構成を示すブロック図の一部である。

【図 3 2 5】

本発明の第 1 8 実施例の動作を説明するための流れ図である。

【図 3 2 6】

本発明の第 1 8 実施例の動作を説明するための流れ図である。

【図 3 2 7】

本発明の第 1 8 実施例を説明するための図である。

【図 3 2 8】

本発明の第 1 8 実施例を説明するための図である。

【図 3 2 9】

本発明の第 1 8 実施例を説明するための図である。

【図 3 3 0】

本発明の第 1 9 実施例の構成を示すブロック図の一部である。

【図 3 3 1】

本発明の第 1 9 実施例の構成を示すブロック図の一部である。

【図 3 3 2】

本発明の第 1 9 実施例の構成を示すブロック図の一部である。

【図 3 3 3】

本発明の第 1 9 実施例を説明するための図である。

【図 3 3 4】

本発明の第 1 9 実施例を説明するための図である。

【図 3 3 5】

本発明の第 2 0 実施例の構成を示すブロック図である。

【図 3 3 6】

本発明の第 2 0 実施例の動作を説明するための流れ図である。

【図 3 3 7】

本発明の第 2 0 実施例を説明するための図である。

【図 3 3 8】

本発明の第 2 0 実施例を説明するための図である。

【図 3 3 9】

統合 I P 転送網の概略を示すブロック図である。

【図 3 4 0】

交換機と信号網との関係を説明するためのブロック図である。

【図 3 4 1】

No.7-共通線信号方式の信号ユニットの一例を示す図である。

【図 3 4 2】

交換機と信号網との関係を説明するための流れ図である。

【図 3 4 3】

交換機と信号網との関係を説明するための流れ図である。

【図 3 4 4】

交換機と信号網との関係を説明するための流れ図である。

【図 3 4 5】

交換機と信号網との関係を説明するための流れ図である。

【図 3 4 6】

ゲートウェイの基本的な機能を示すブロック構成図である。

【図 3 4 7】

I P パケット内の呼制御データの例を示す図である。

【図 3 4 8】

I P パケット内の音声データの例を示す図である。

【図 3 4 9】

I P パケット内の映像データの例を示す図である。

【図 3 5 0】

統合情報通信網の基本原理を示すブロック図である。

【図 3 5 1】

統合情報通信網の基本原理を示すブロック図である。

【図 3 5 2】

統合情報通信網の基本原理を示すブロック図である。

【図 3 5 3】

統合情報通信網の動作を説明するための図である。

【図 3 5 4】

マルチキャスト I P 転送網の構成例を示すブロック図である。

【図 3 5 5】

マルチキャスト I P 転送網で使用するマルチキャスト表の例である。

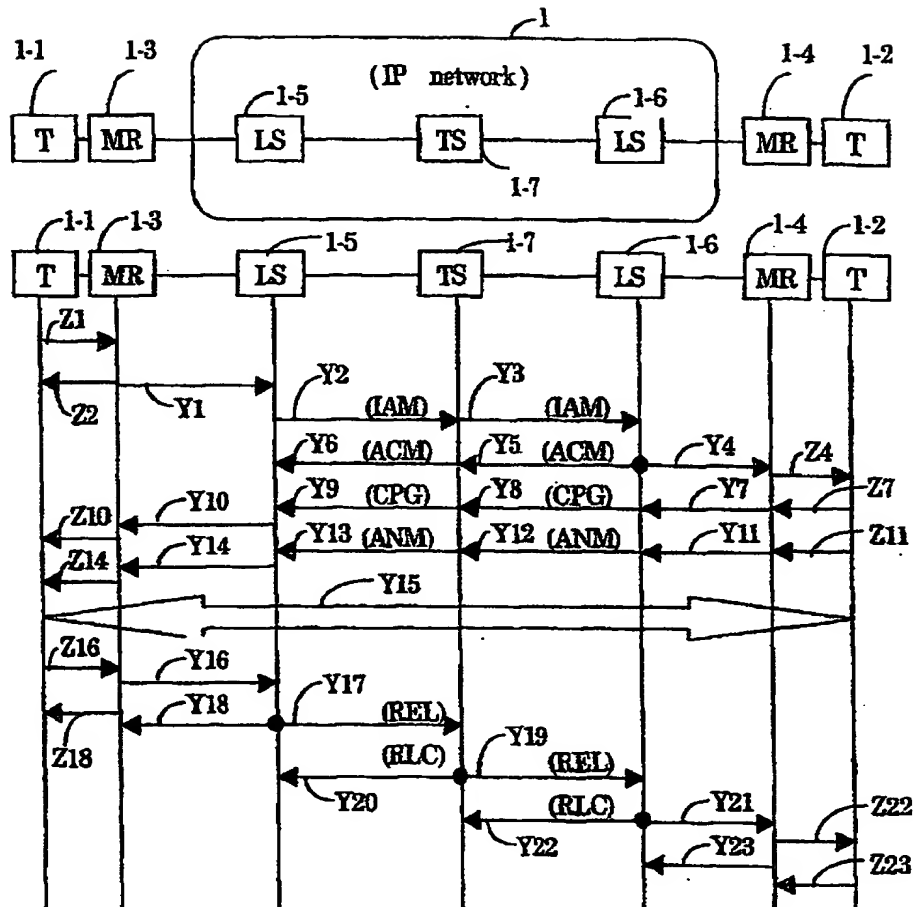
【符号の説明】

1	I P 転送網
1 - 1, 1 - 2	端末
1 - 3, 1 - 4	メディアルータ
1 - 5, 1 - 6	接続サーバ
1 - 7	中継接続サーバ
1 - 1 0	I P 転送網
1 - 1 1, 1 - 1 2, 1 - 1 3, 1 - 1 4	網ノード装置
1 - 1 5 乃至 1 - 2 0	ルータ
2	統合 I P 転送網
3	I P データ網
4	I P 電話網
5 - 1	I P 音声画像網
5 - 2	ベストエフォート網
6 - 1	通信会社 X が運用管理する I P 転送網の範囲
6 - 2	通信会社 Y が運用管理する I P 転送網の範囲
7 - 1, 7 - 2, 7 - 3, 7 - 4	通信会社 X が運用管理する網ノード装置
8 - 1, 8 - 2, 8 - 3, 8 - 4	通信会社 Y が運用管理する網ノード装置
9 - 1, 9 - 2	ゲートウェイ
1 0 - 1 ~ 1 0 - 8	統合 I P 転送網 1 の外部の通信網
1 1 - 1 ~ 1 1 - 1 0	I P 端末
1 2 - 1, 1 2 - 2	独立型 I P 電話機

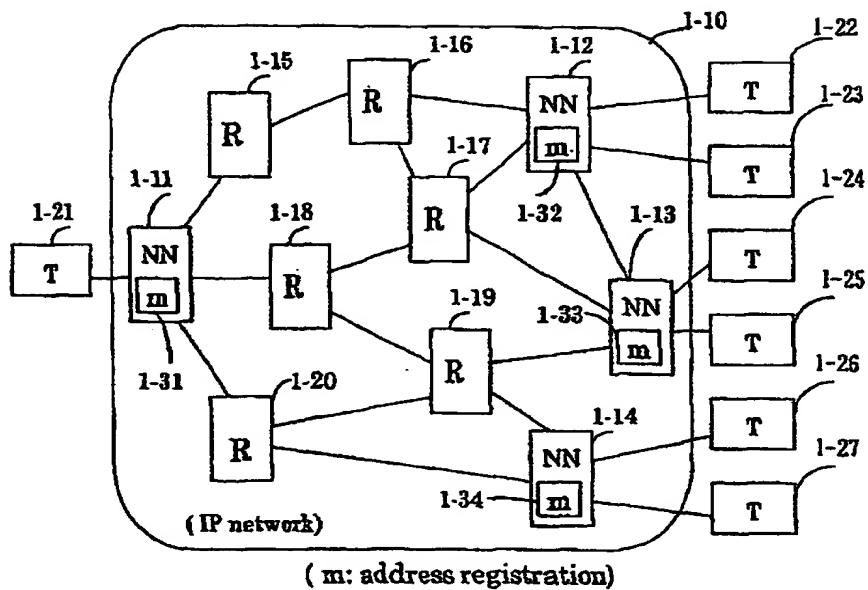
1 2 - 3	独立型 I P 音声画像装置
1 3 - 1、1 3 - 2、1 3 - 3、1 3 - 4	非独立型 I P 電話機
1 4 - 1、1 4 - 2、1 4 - 3、1 4 - 4	メディアルータ
1 5 - 1、1 5 - 2	LAN
1 6 - 1、1 6 - 2、1 6 - 3、1 6 - 4	非独立型 I P 音声画像装置
1 7 - 1、1 7 - 2、1 7 - 3、1 7 - 4	公衆電話回線
1 8 - 1 ~ 1 8 - 8	アナログ電話機
1 9 - 1 ~ 1 9 - 1 9	I P 転送機能をもつルータ
2 0 - 1 乃至 2 0 - 4	LAN 内部やメディアルータ内で用いるルータ
2 1 - 1 乃至 2 1 - 5	通信会社の異なる I P 転送網間で用いるルータ
2 2 - 1、2 2 - 2	接続制御部
2 3 - 1、2 3 - 2	H323 終端部
2 4 - 1、2 4 - 2	SCN 境界部
2 7 - 1、2 7 - 2	ATM 網
2 7 - 3	光通信網
2 7 - 4	フレームリレー交換網
3 0 - 1 乃至 3 0 - 4	I P データ網の専用のドメイン名サーバ
3 1 - 1、3 1 - 2	I P 電話網の専用のドメイン名サーバ
3 2 - 1、3 2 - 2	I P 音声画像網の専用のドメイン名サーバ
3 3 - 1、3 3 - 2	ベストエフォート網の専用のドメイン名サーバ
3 5 - 1、3 5 - 2	I P データサービス運用管理サーバ (DSS)
3 6 - 1、3 6 - 2	I P 電話サービス運用管理サーバ (TES)
3 7 - 1、3 7 - 2	I P 音声画像サービス運用管理サーバ (AVS)
3 8 - 1、3 8 - 2	ベストエフォートサービス運用管理サーバ (BES)
4 8 - 1、7 8 - 1	ドメイン名サーバ

【書類名】 図面

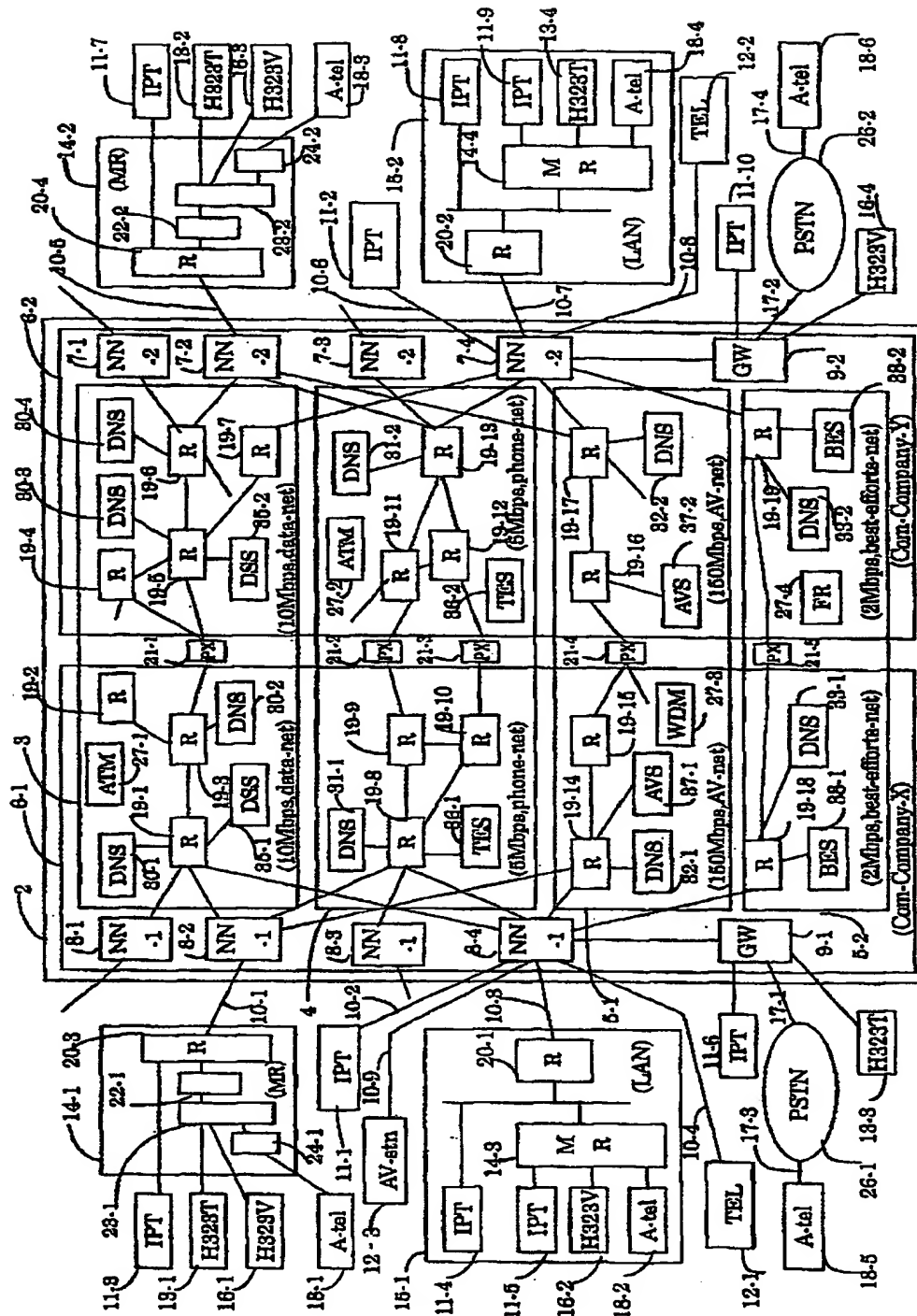
【図 1】



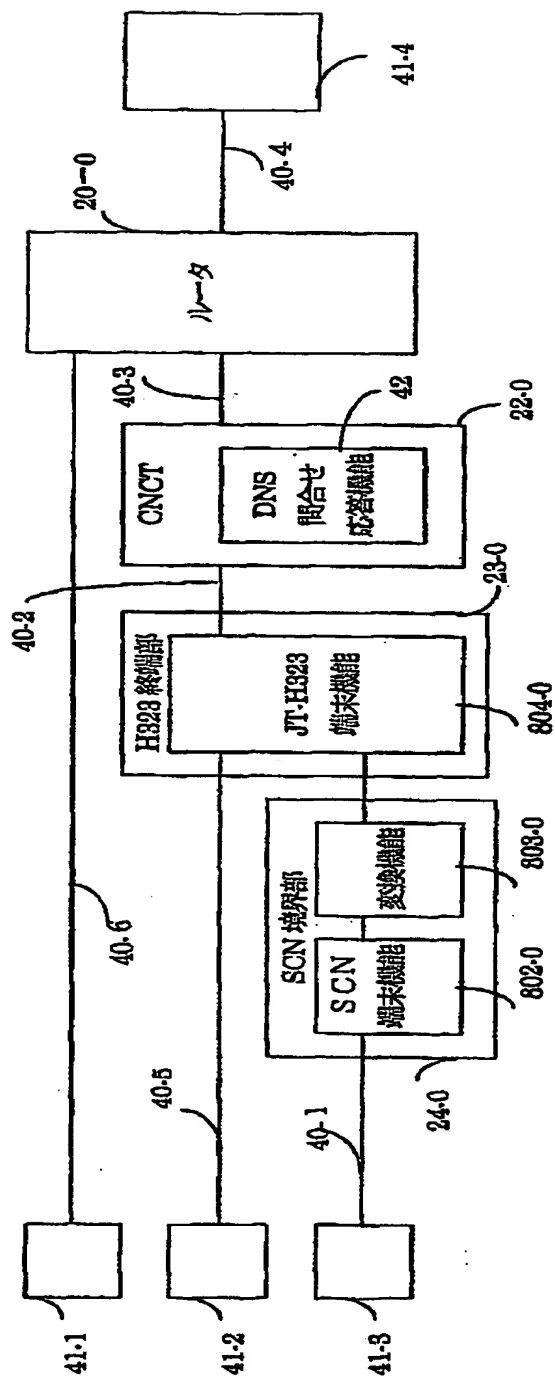
【図 2】



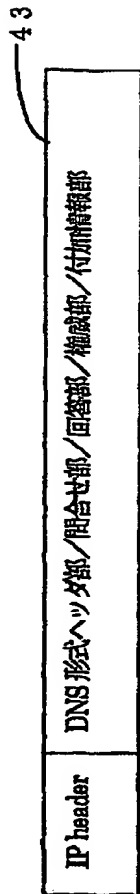
【図 3】



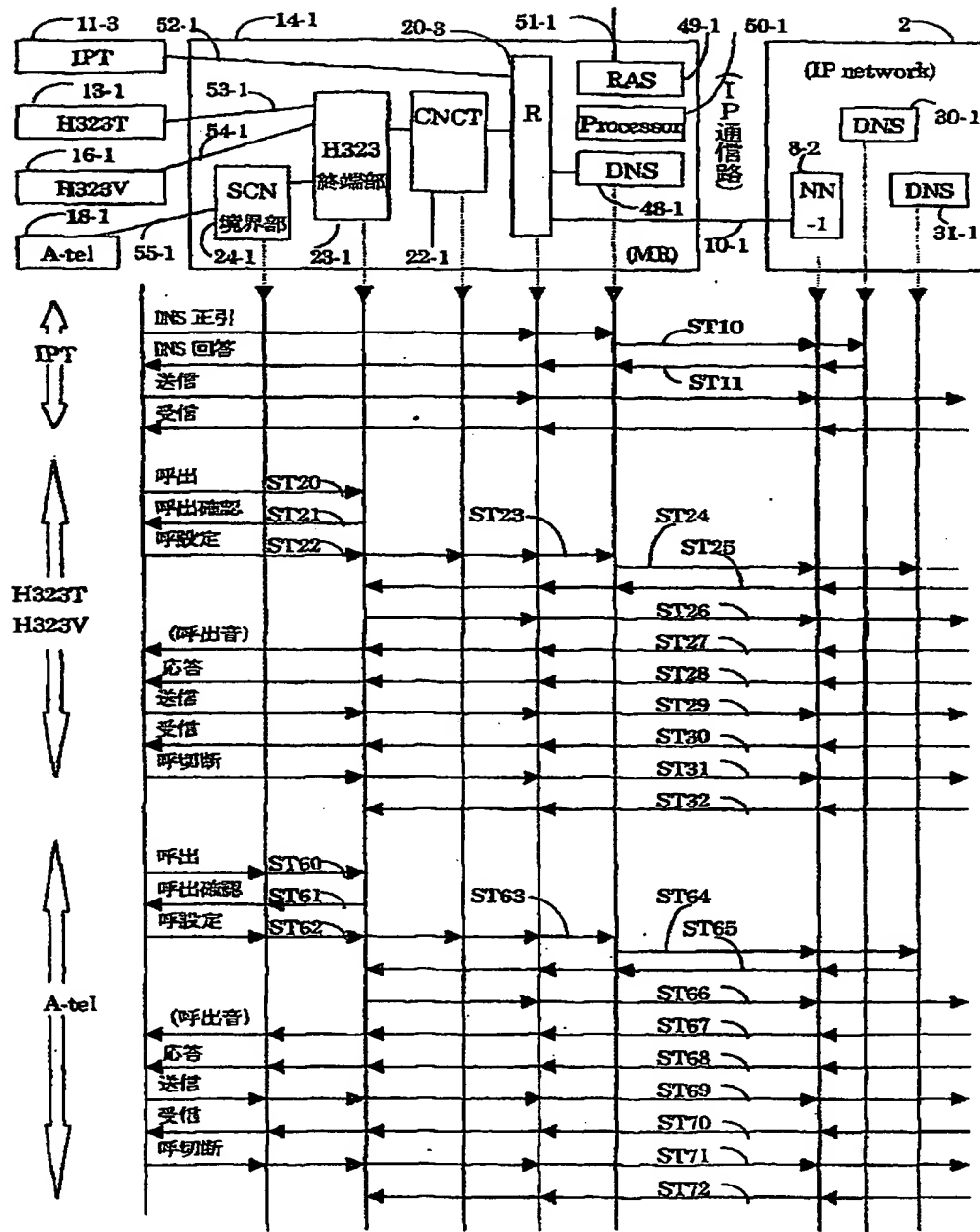
【図 4】



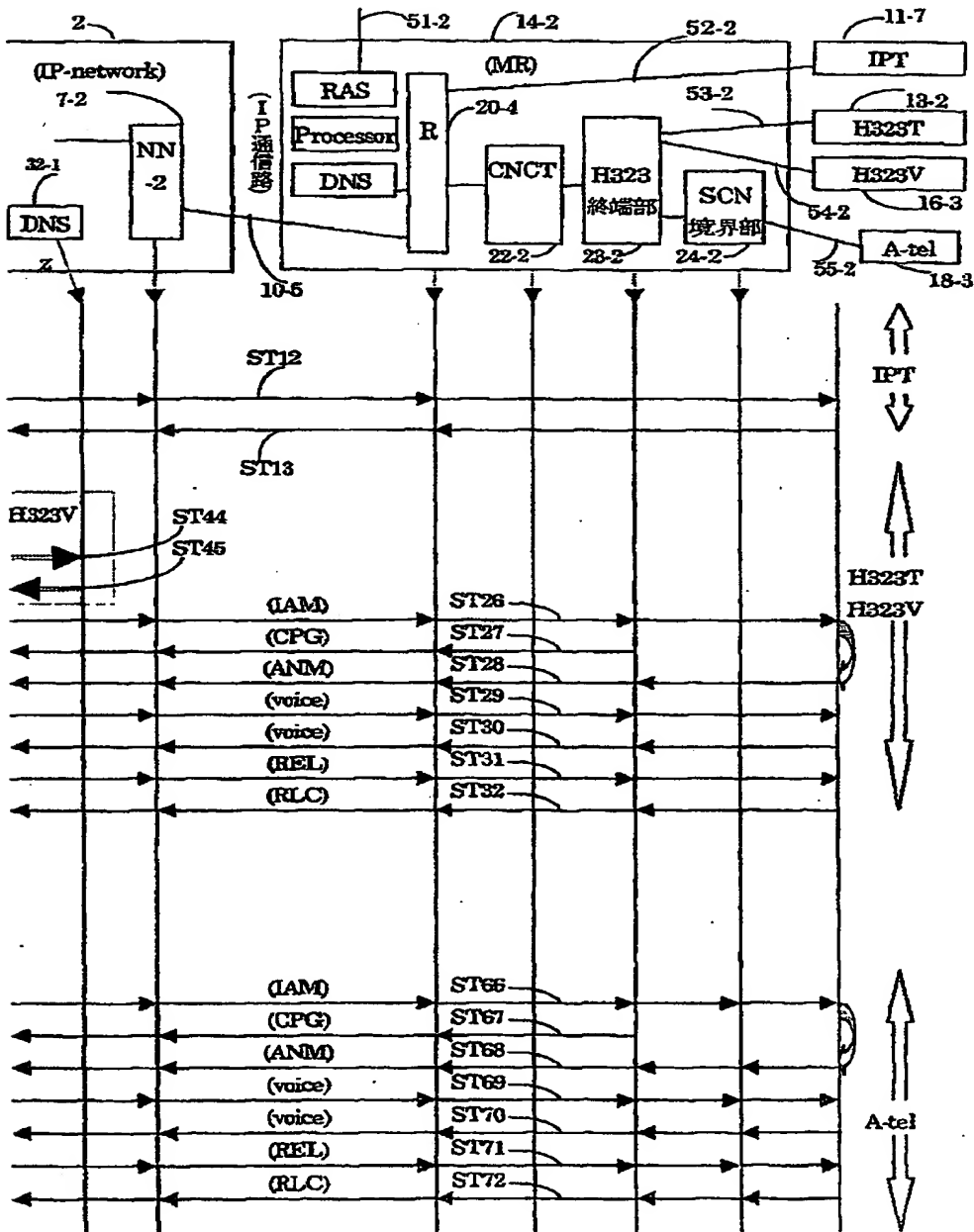
【図 5】



【図6】



【図7】

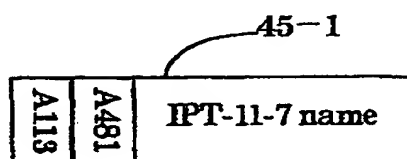


【図 8】

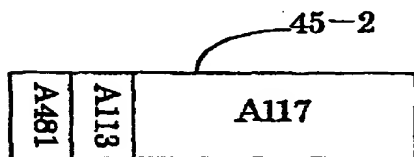
44-1

外部 IP アドレス	通信回線識別記号
A481	Line-10-1
A113	Line-10-1
A131	Line-10-1
A161	Line-10-1
A181	Line-10-1
..	..

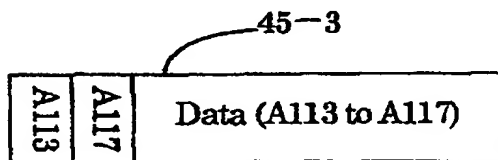
【図 9】



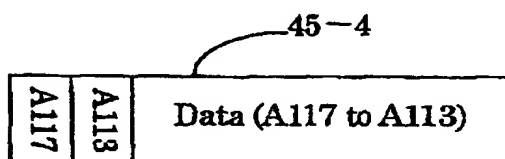
【図 10】



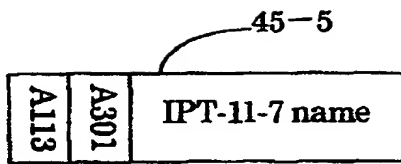
【図 11】



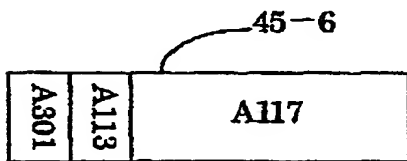
【図 12】



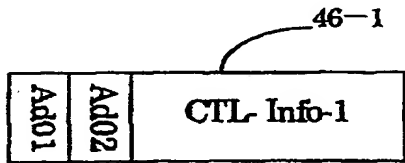
【図 1 3】



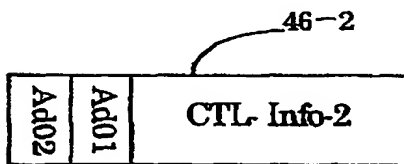
【図 1 4】



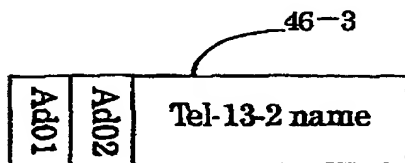
【図 1 5】



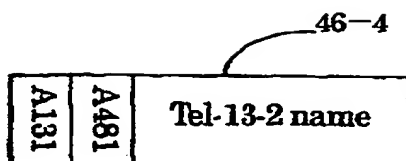
【図 1 6】



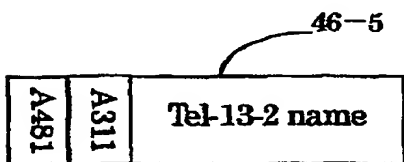
【図 1 7】



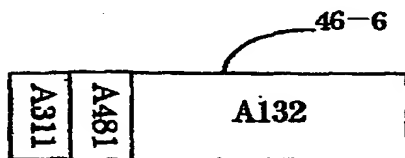
【図 1 8】



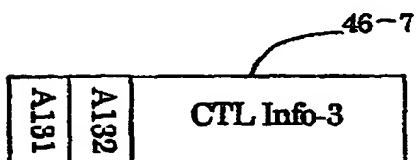
【図 1 9】



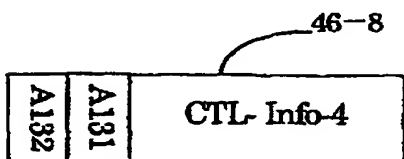
【図 2 0】



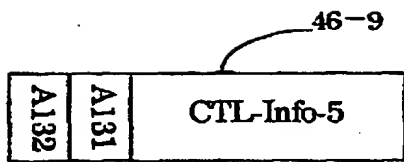
【図 2 1】



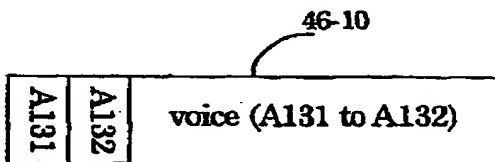
【図 2 2】



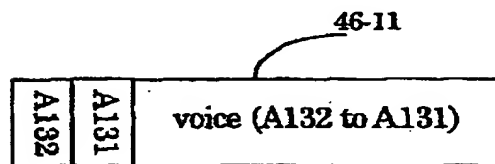
【図 2 3】



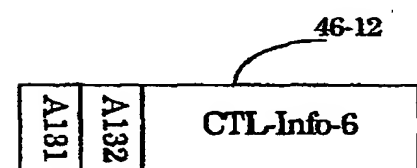
【図 2 4】



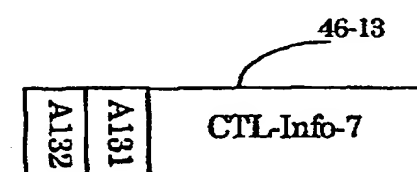
【図 2 5】



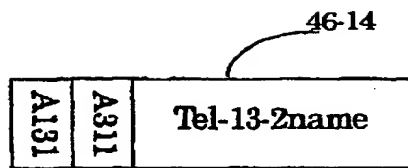
【図 2 6】



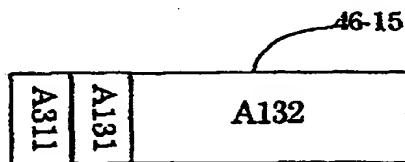
【図 2 7】



【図 28】



【図 29】

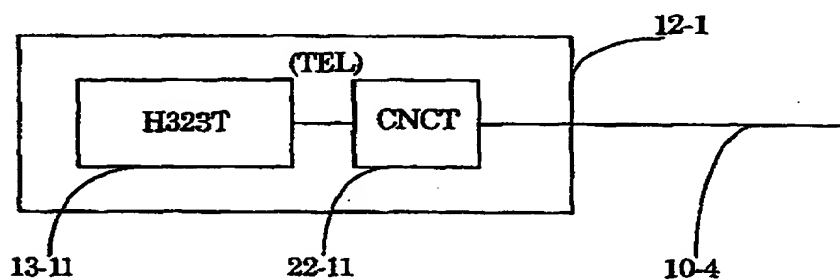


【図 30】

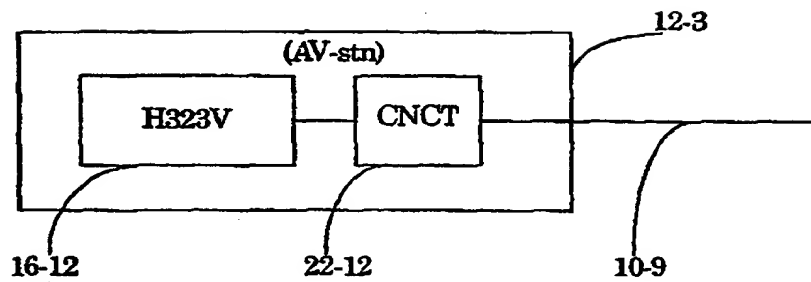
100-1

回線識別子	電話番号 (ホスト名)	端末 IP アドレス	端末種別	速度	回線種別
53-1	81-3-1234-5679	32.3.53.1	H323T	64Kbps	ISDN
54-1	81-3-1200-2002	32.3.54.1	H323V	1.5Mbps	
55-1	81-47-325-3887	20.0.55.1	A-tel	64Kbps	ISDN
..

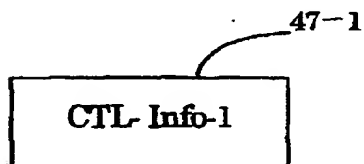
【図 31】



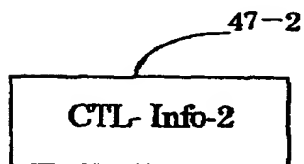
【図 3 2】



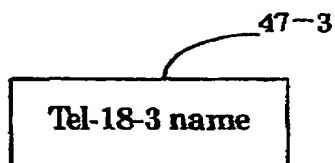
【図 3 3】



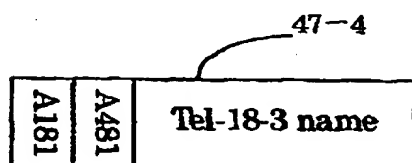
【図 3 4】



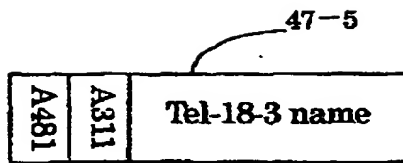
【図 3 5】



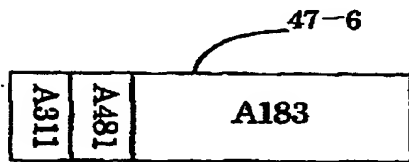
【図 3 6】



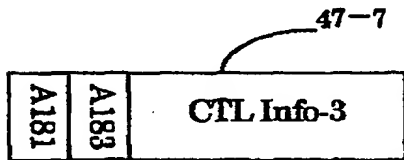
【図37】



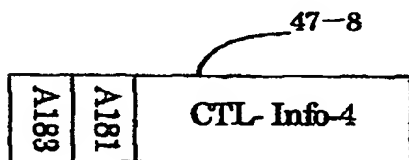
【図38】



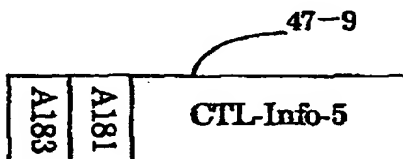
【図39】



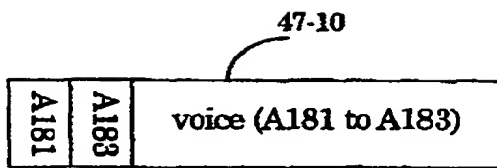
【図40】



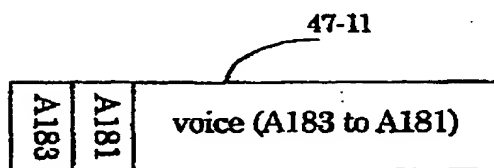
【図41】



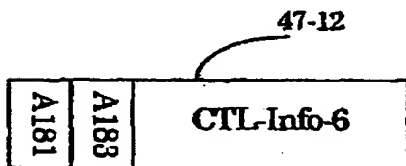
【図42】



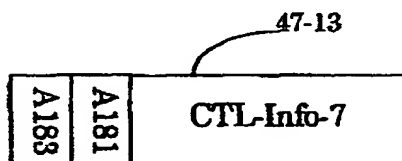
【図43】



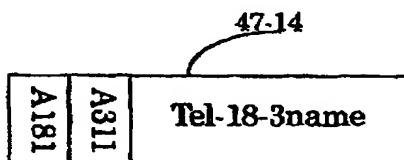
【図44】



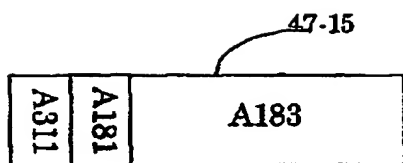
【図45】



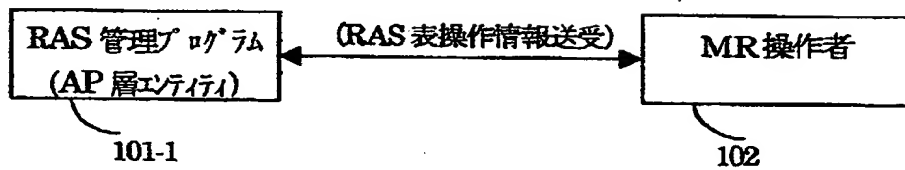
【図46】



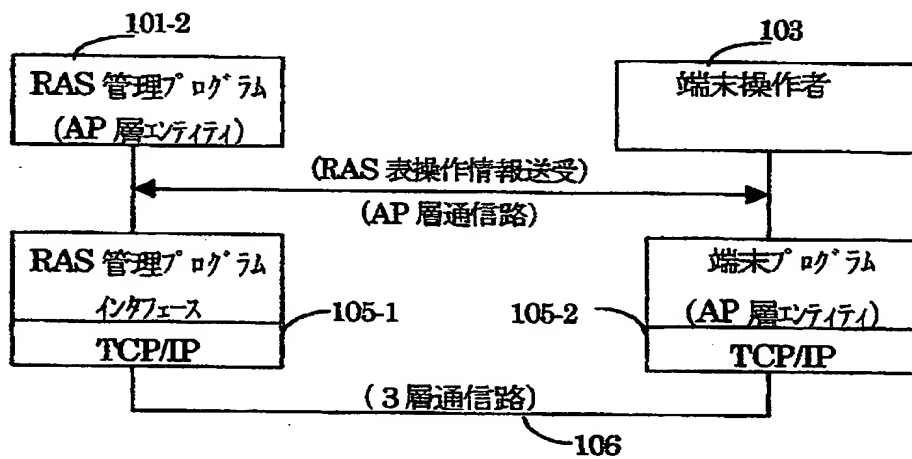
【図 4 7】



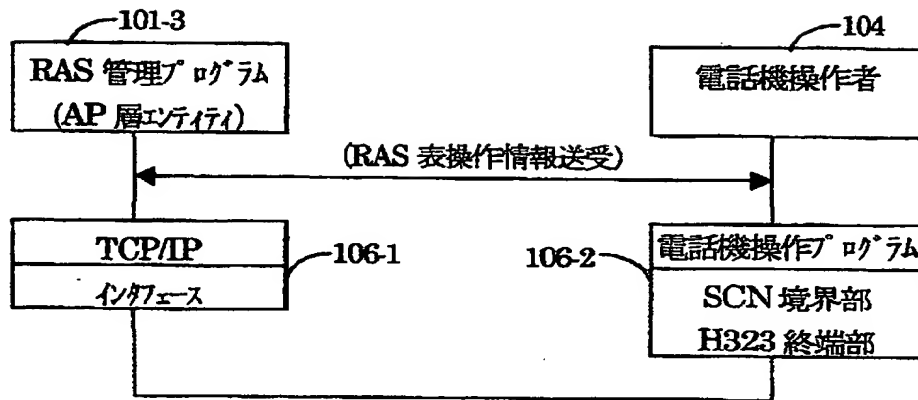
【図 4 8】



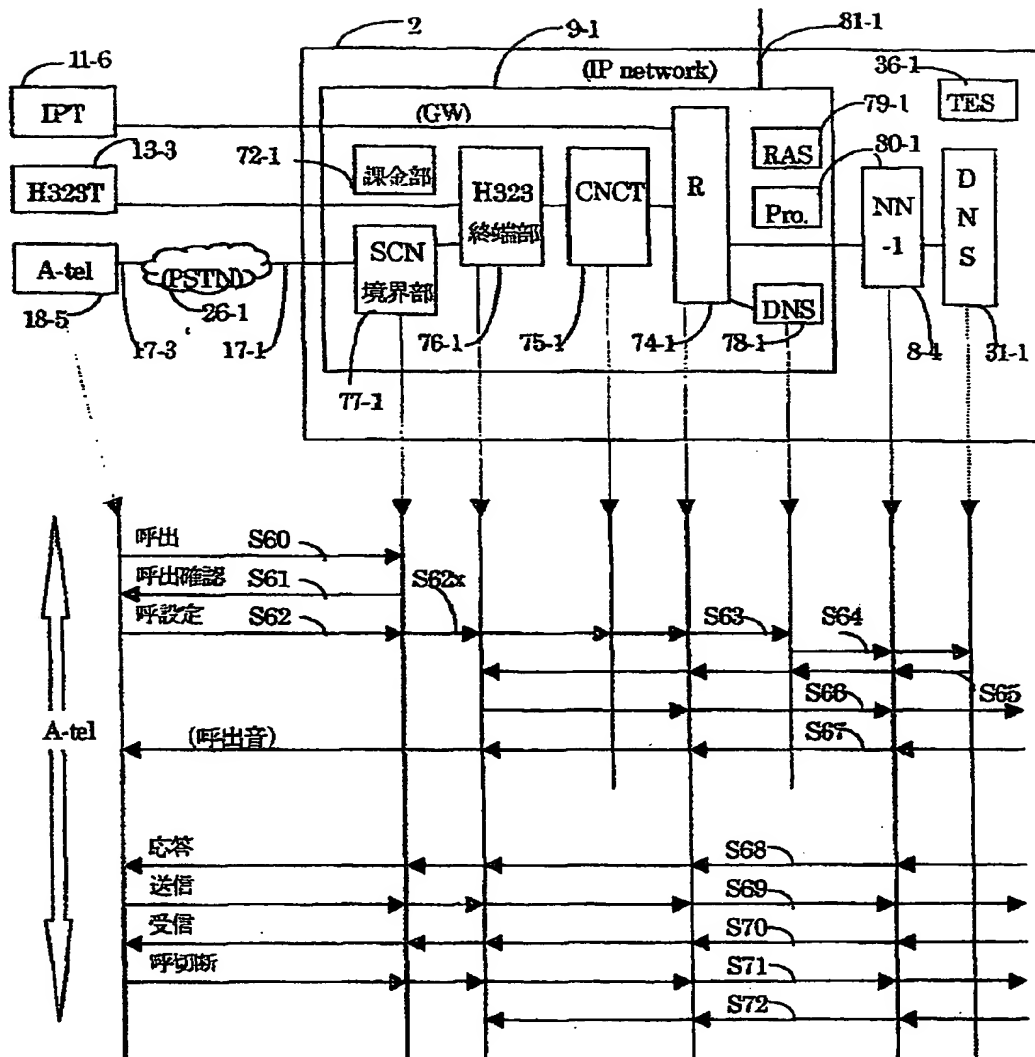
【図 4 9】



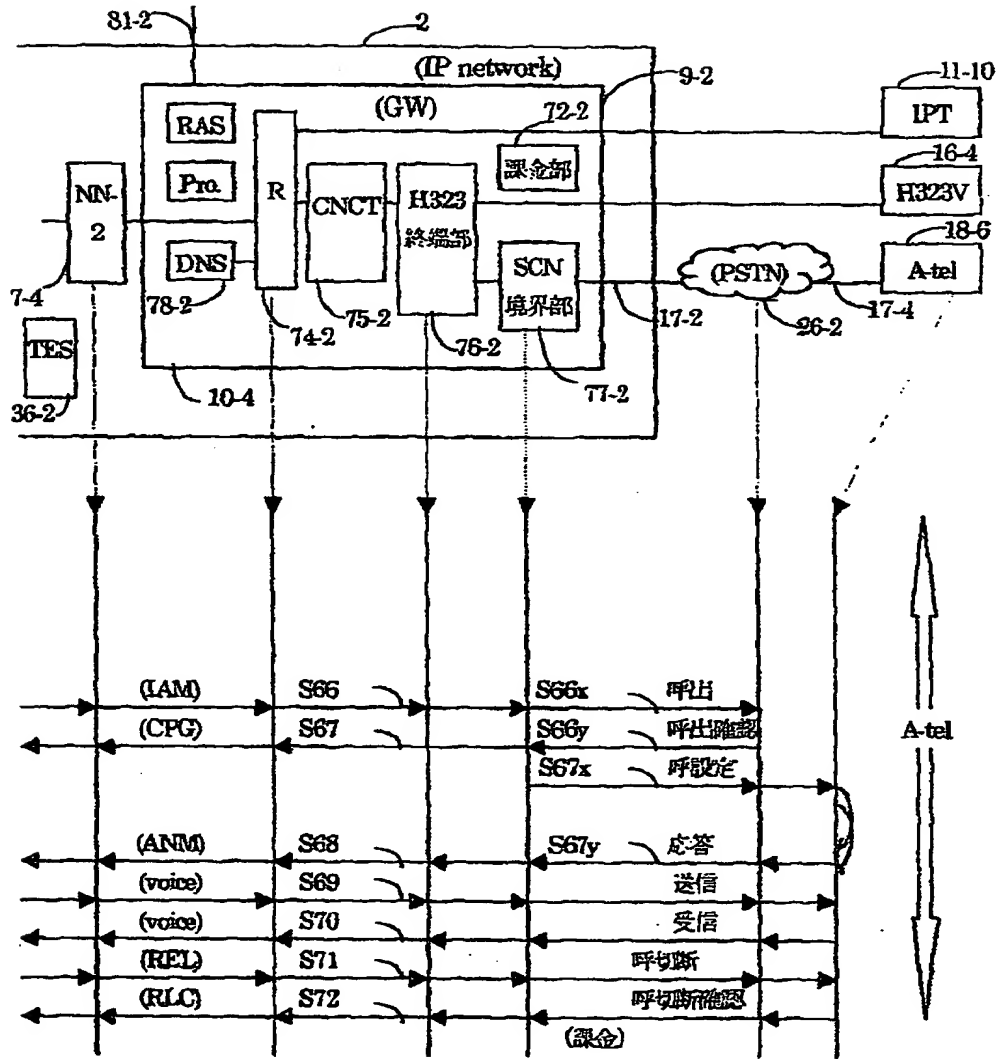
【図 5 0】



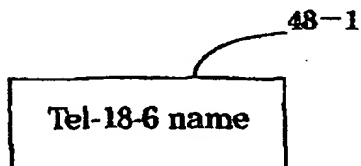
【図 5 1】



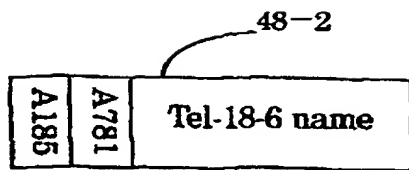
【図52】



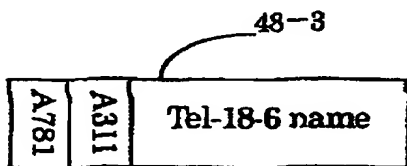
【図53】



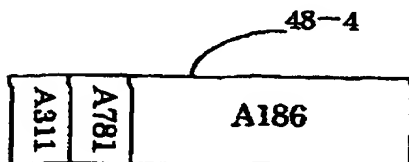
【図 5 4】



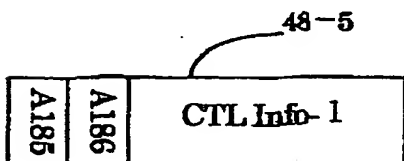
【図 5 5】



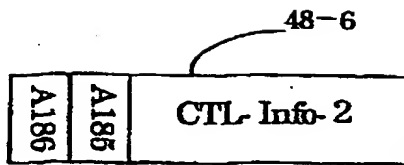
【図 5 6】



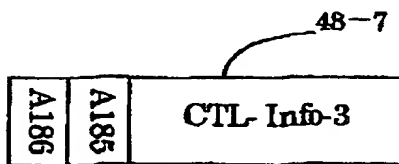
【図 5 7】



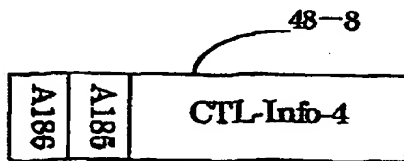
【図 58】



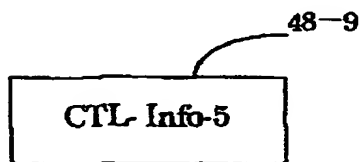
【図 59】



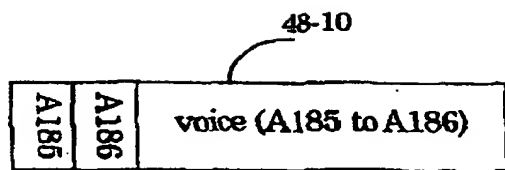
【図 60】



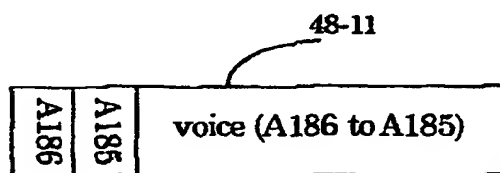
【図 61】



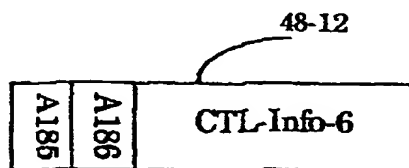
【図62】



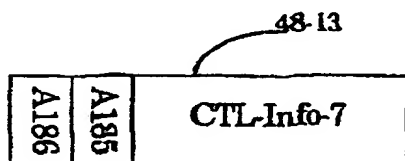
【図63】



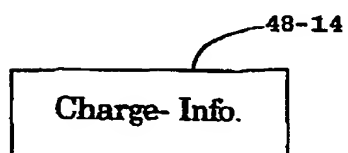
【図64】



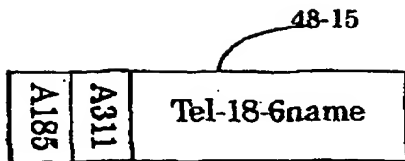
【図65】



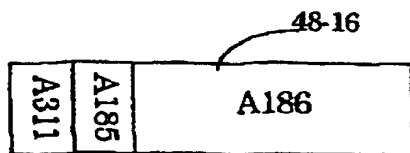
【図66】



【図 6 7】



【図 6 8】



【図 6 9】

44-2

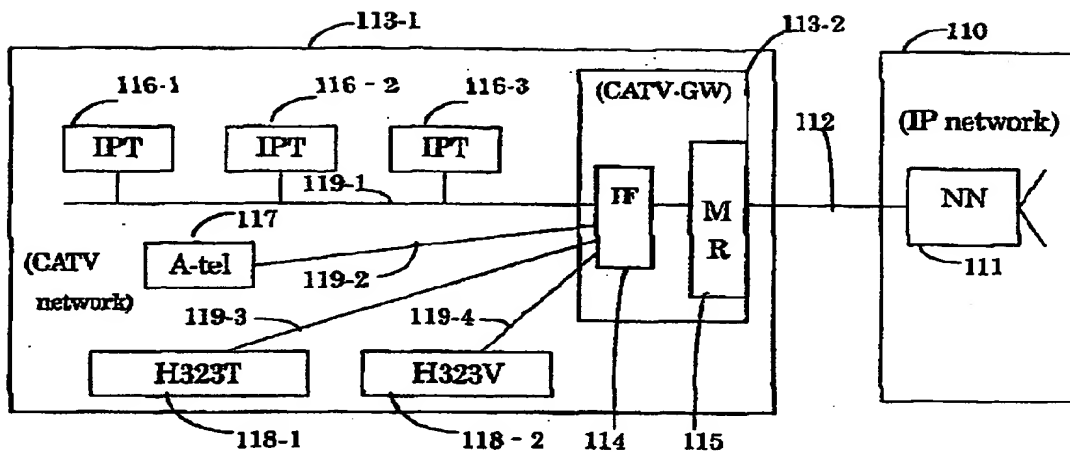
外部 IP アドレス	通信回線識別記号
A781	Line-17-1
A116	Line-17-1
A133	Line-17-1
A185	Line-17-1
..	..

【図 7 0】

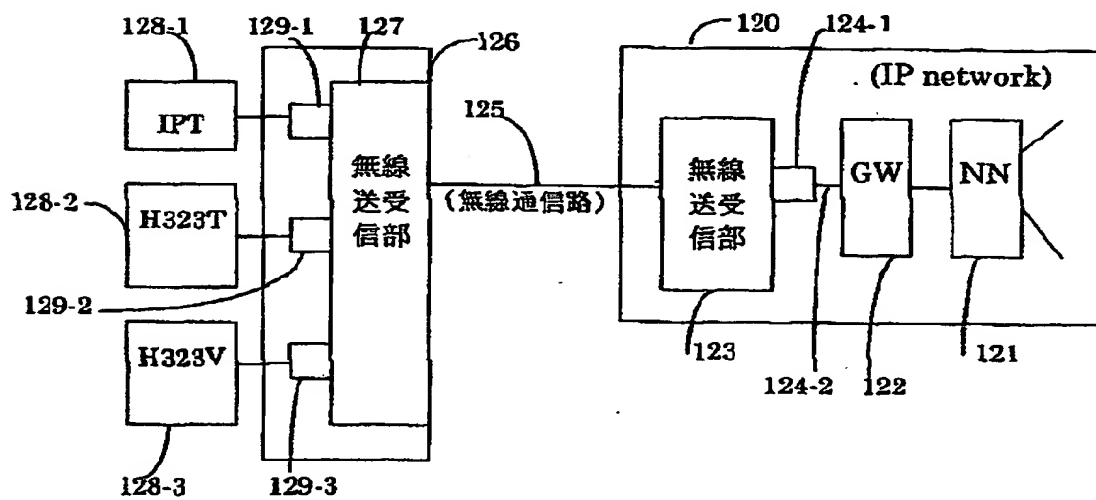
100-2

回線識別子	電話番号 (ホスト名)	端末 IP アドレス	端末種別	速度	回線種別
17-1	81-3-9876-5432	100.101.102.103	A-tel	64kbps	ISDN
..	81-3-9876-5431	110.111.112.113	ISDN

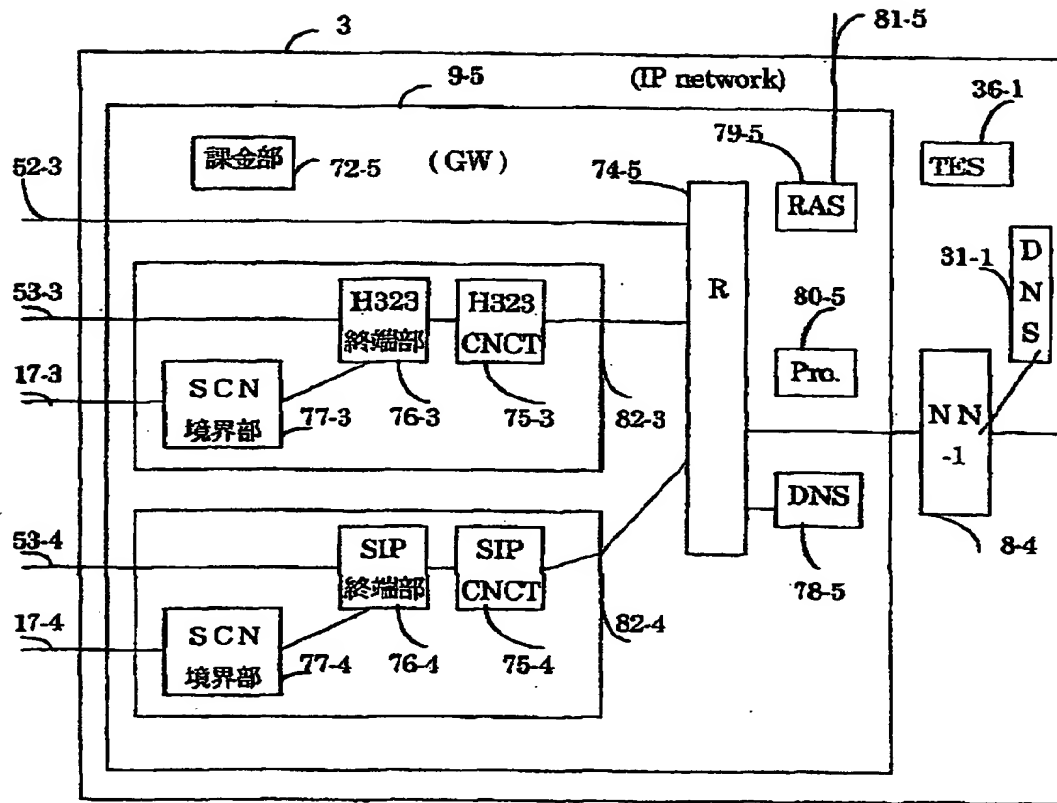
【図 7 1】



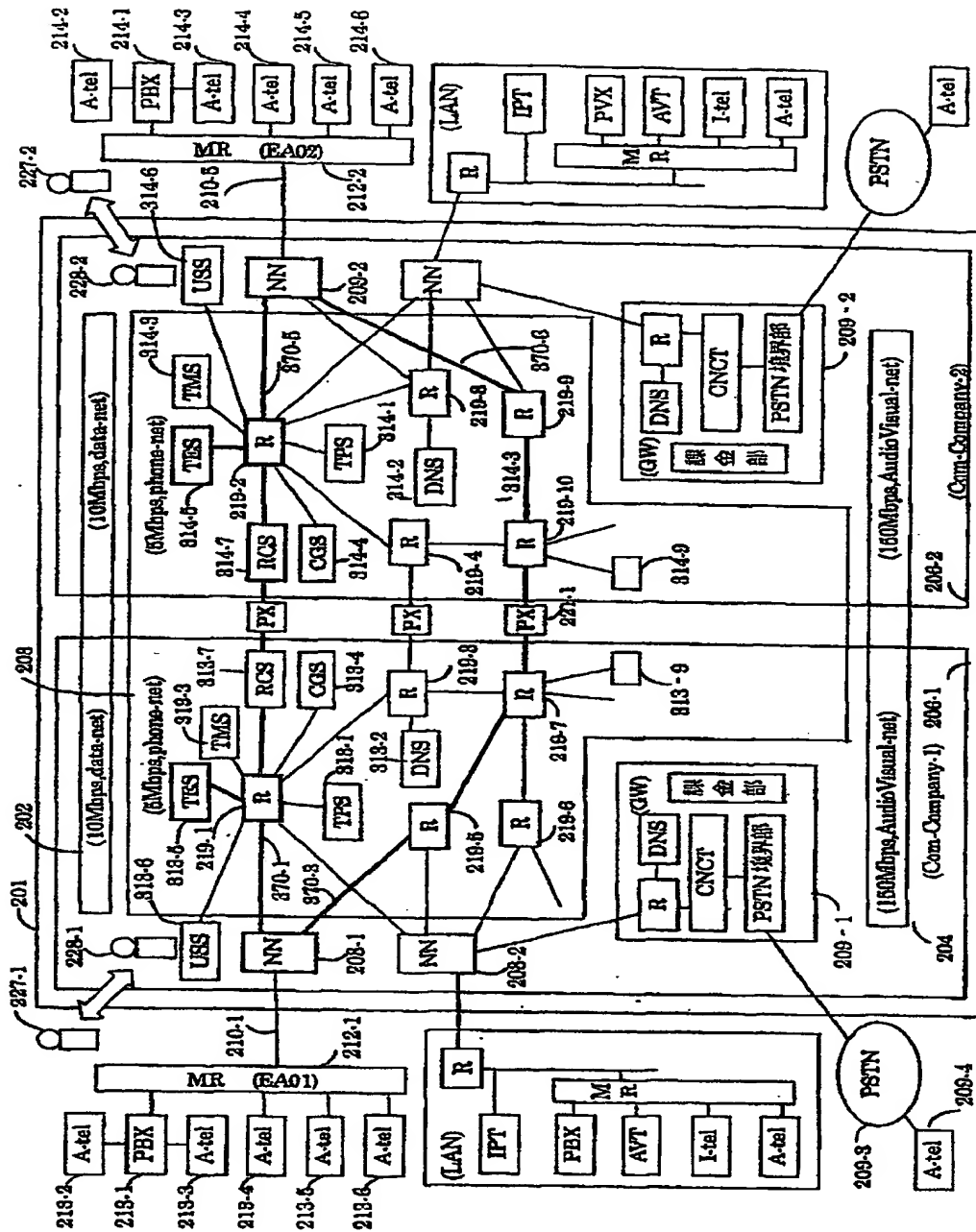
【図 7 2】



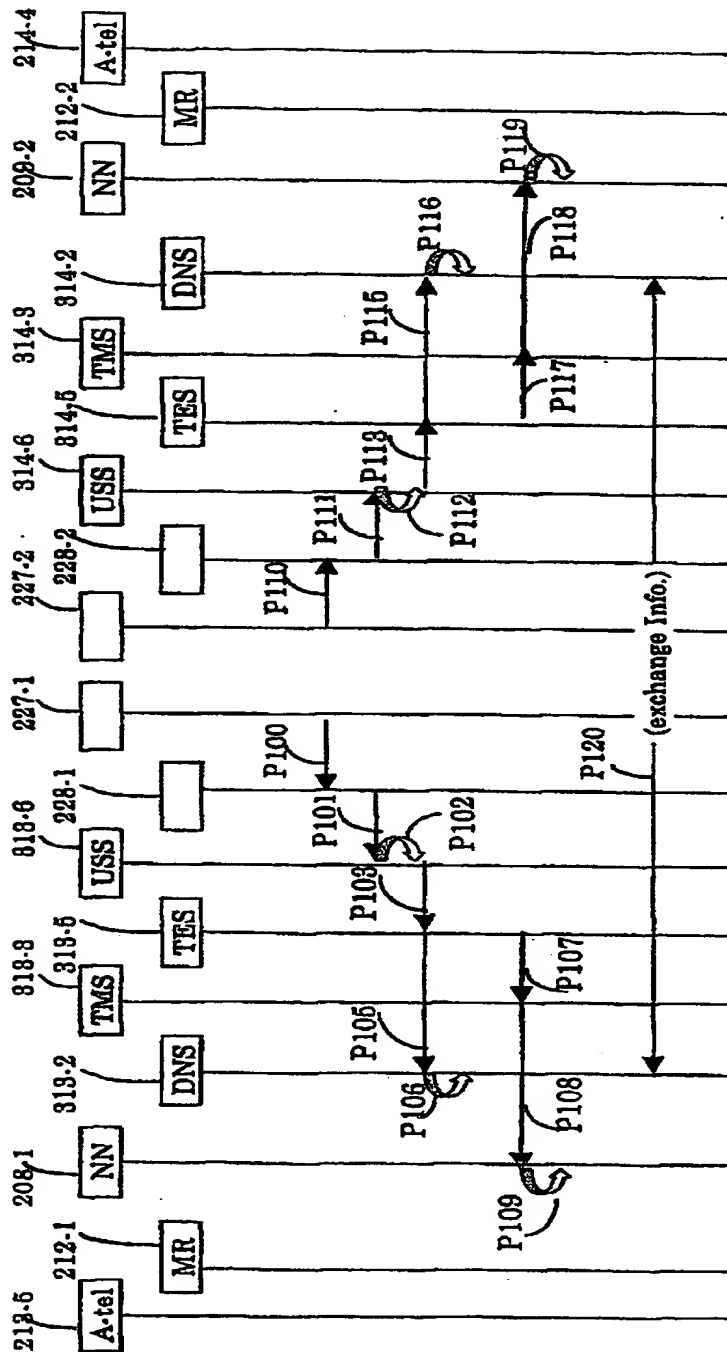
【図 73】



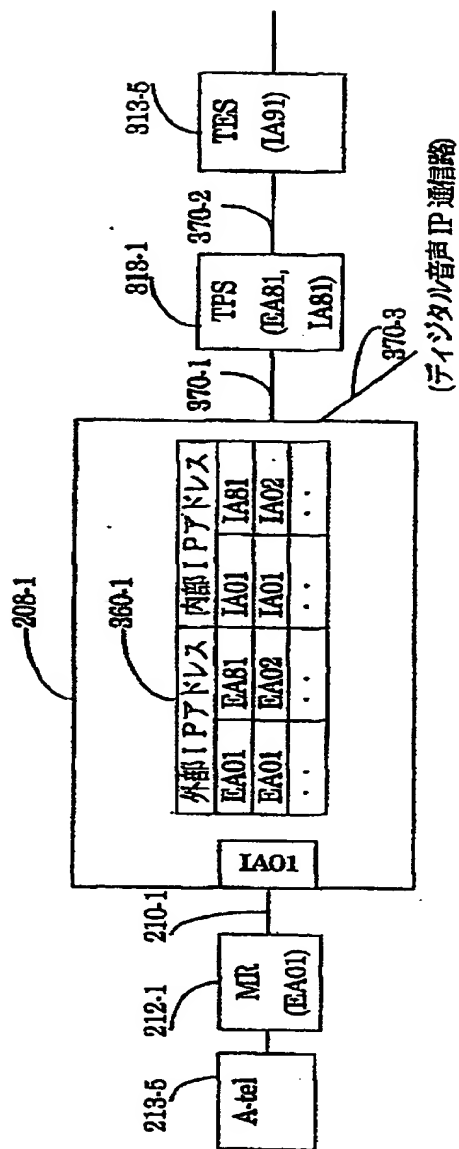
【図 74】



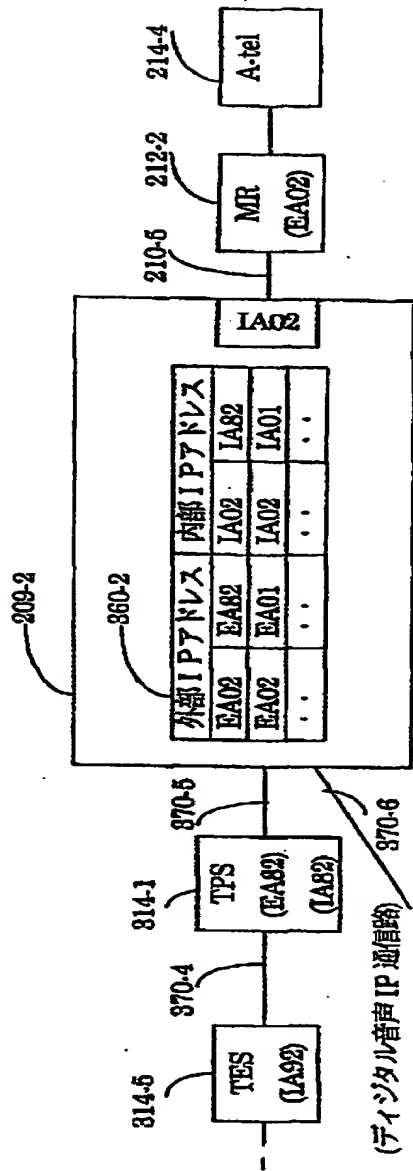
【図 75】



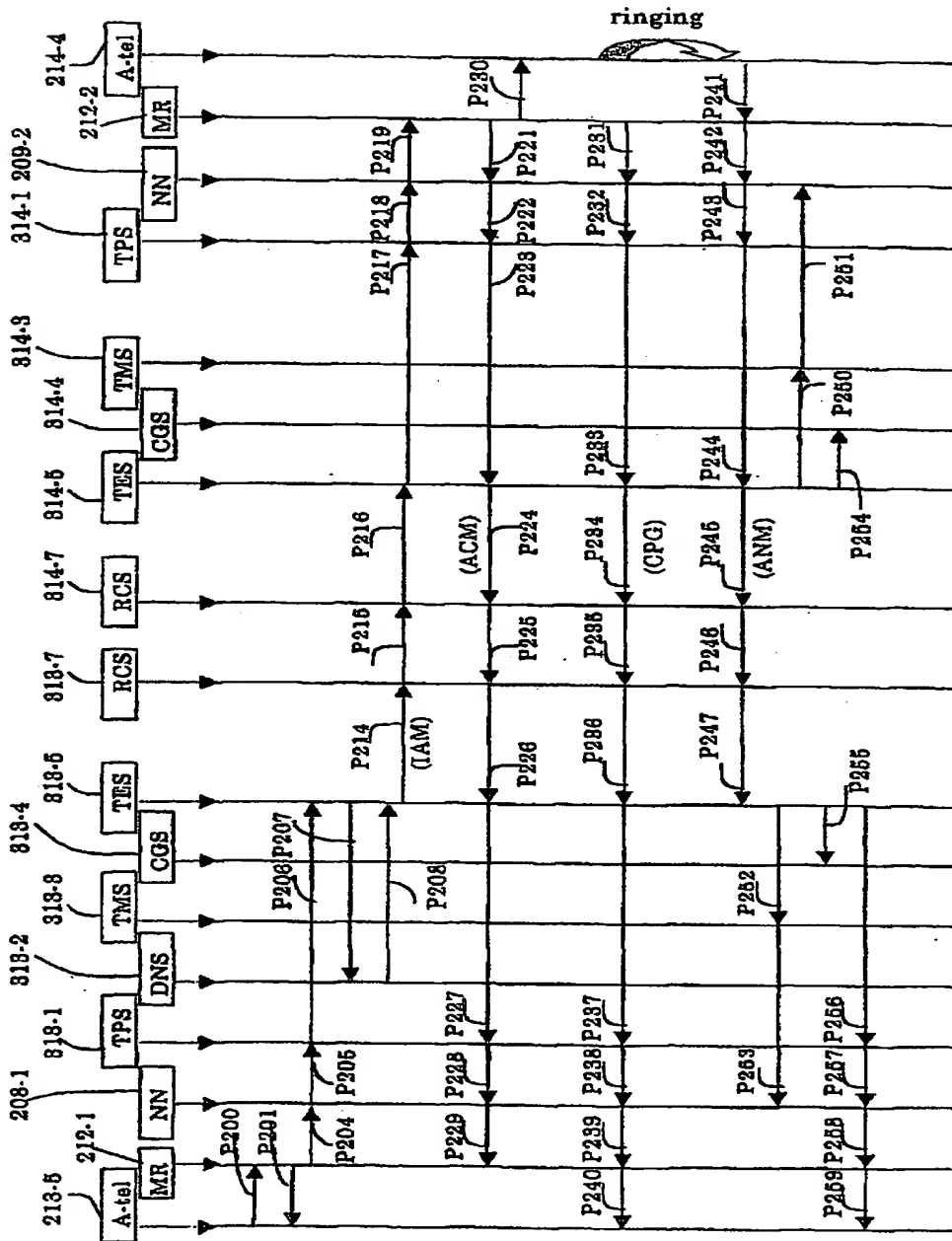
【図 76】



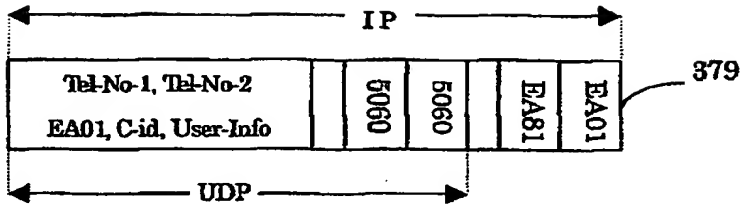
【図 77】



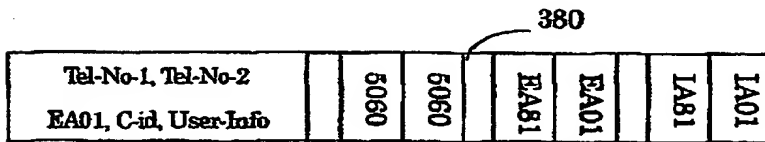
【図78】



【図 7 9】



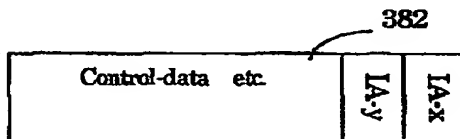
【図 8 0】



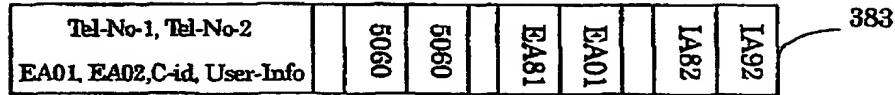
【図 8 1】



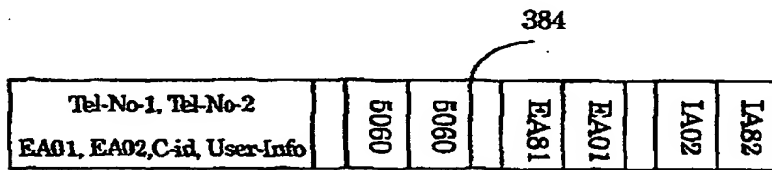
【図 8 2】



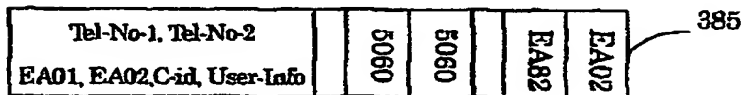
【図 8 3】



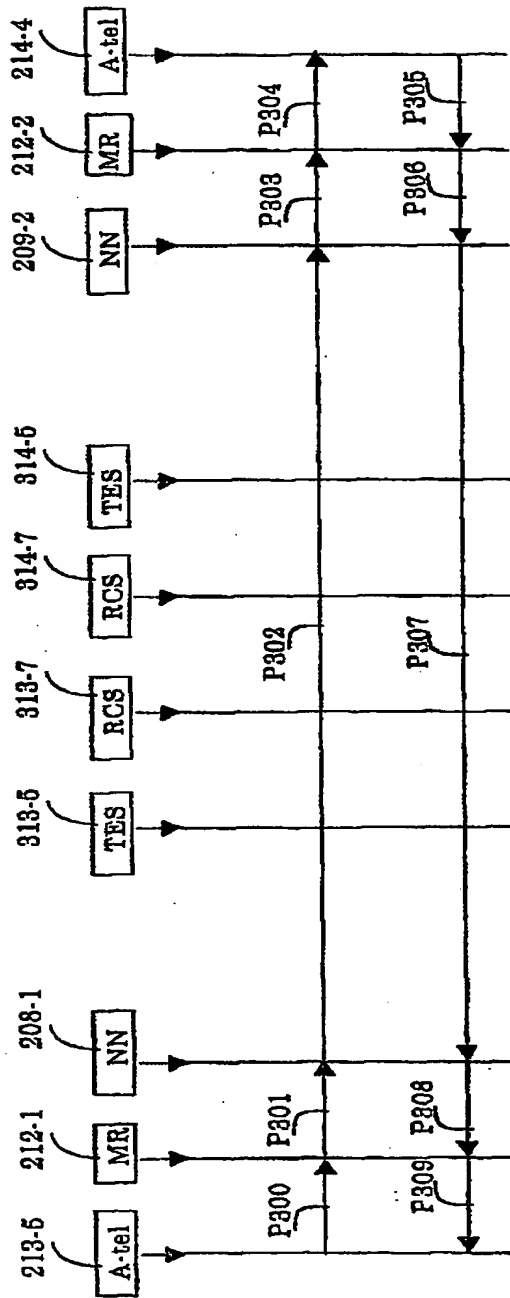
【図 8 4】



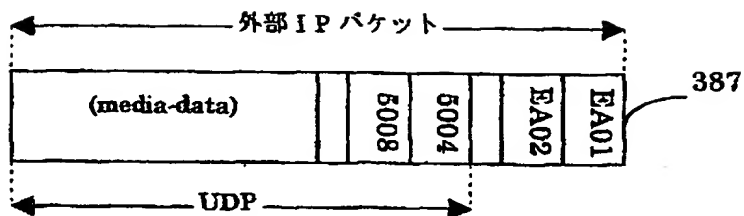
【図 8 5】



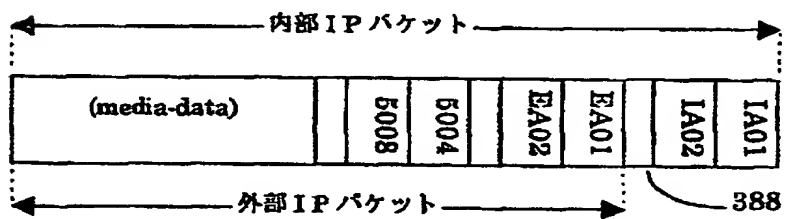
【図 86】



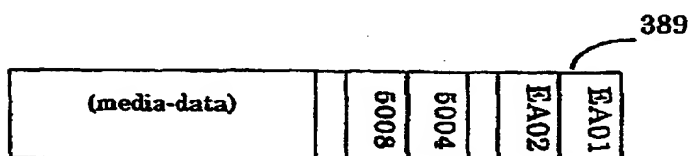
【図 87】



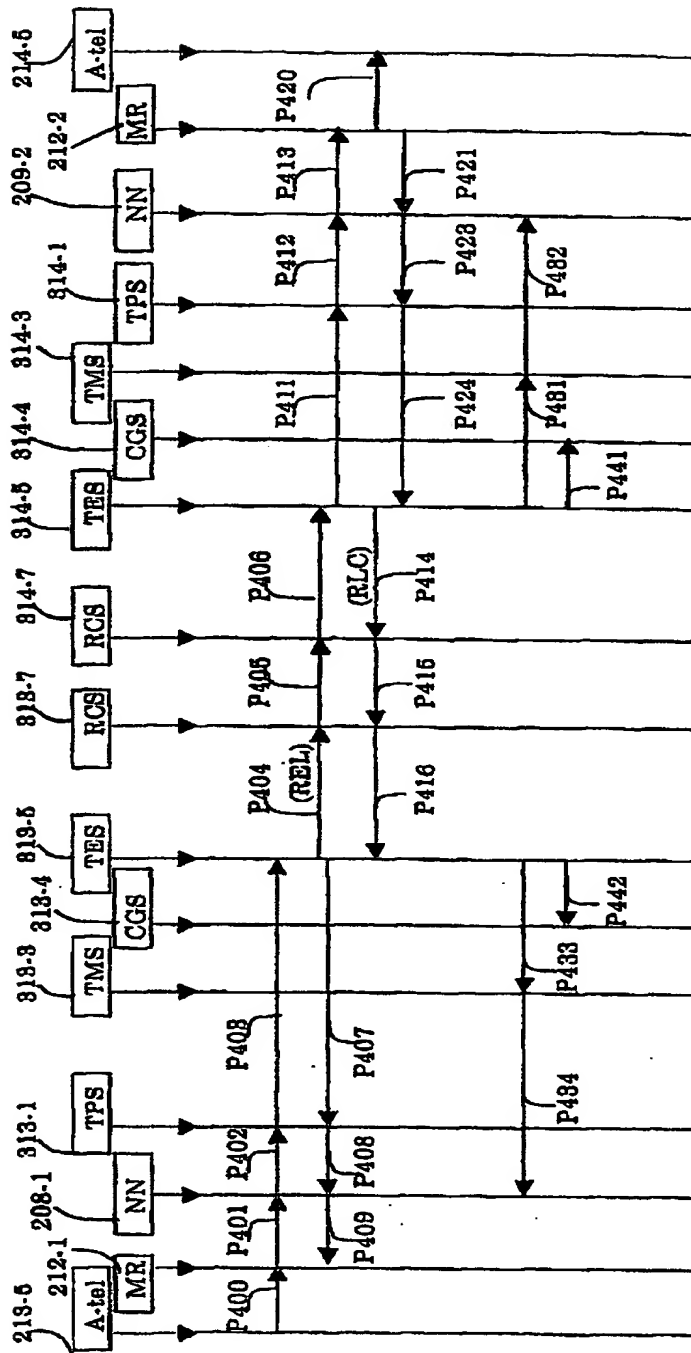
【図 88】



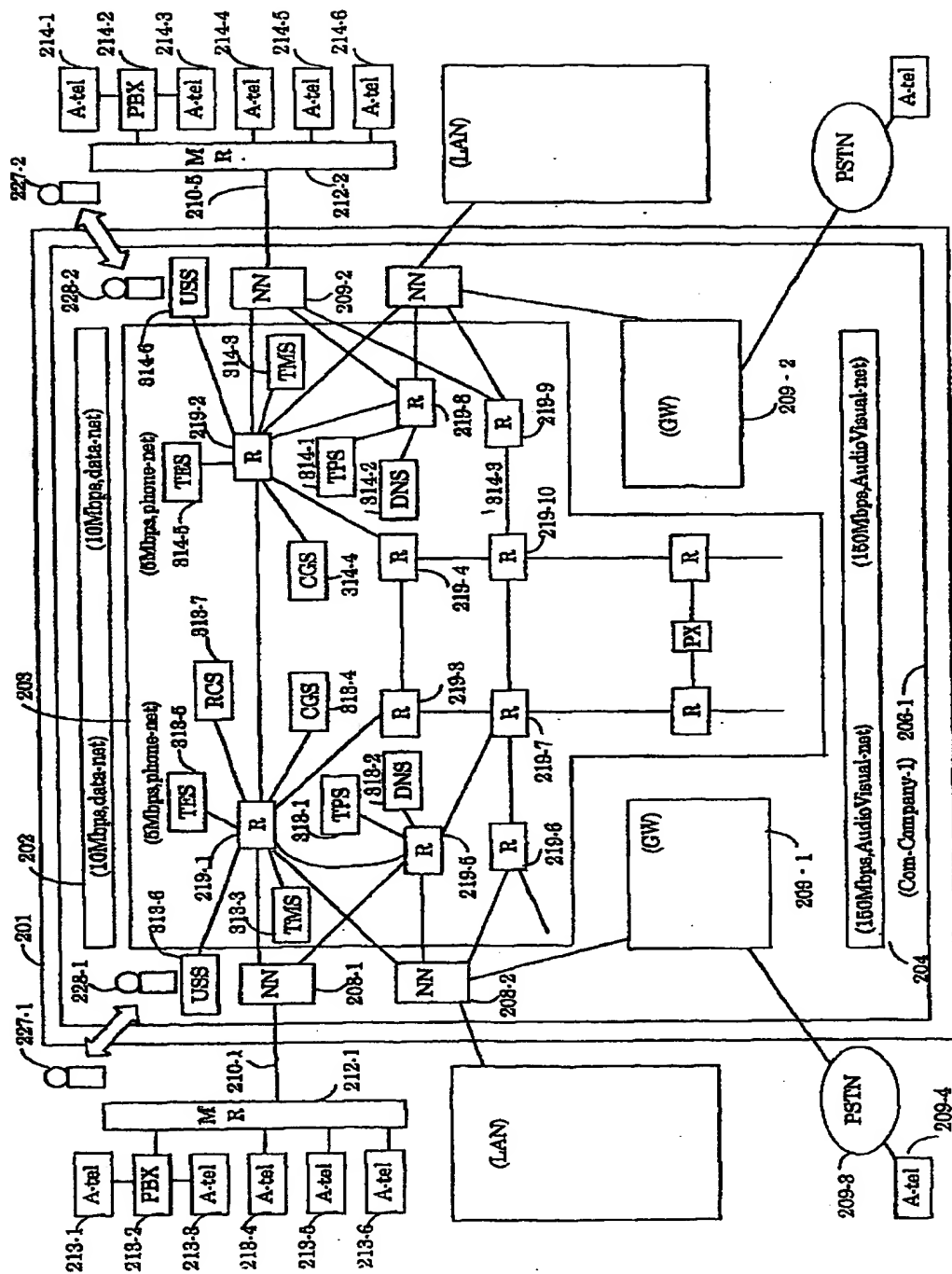
【図 89】



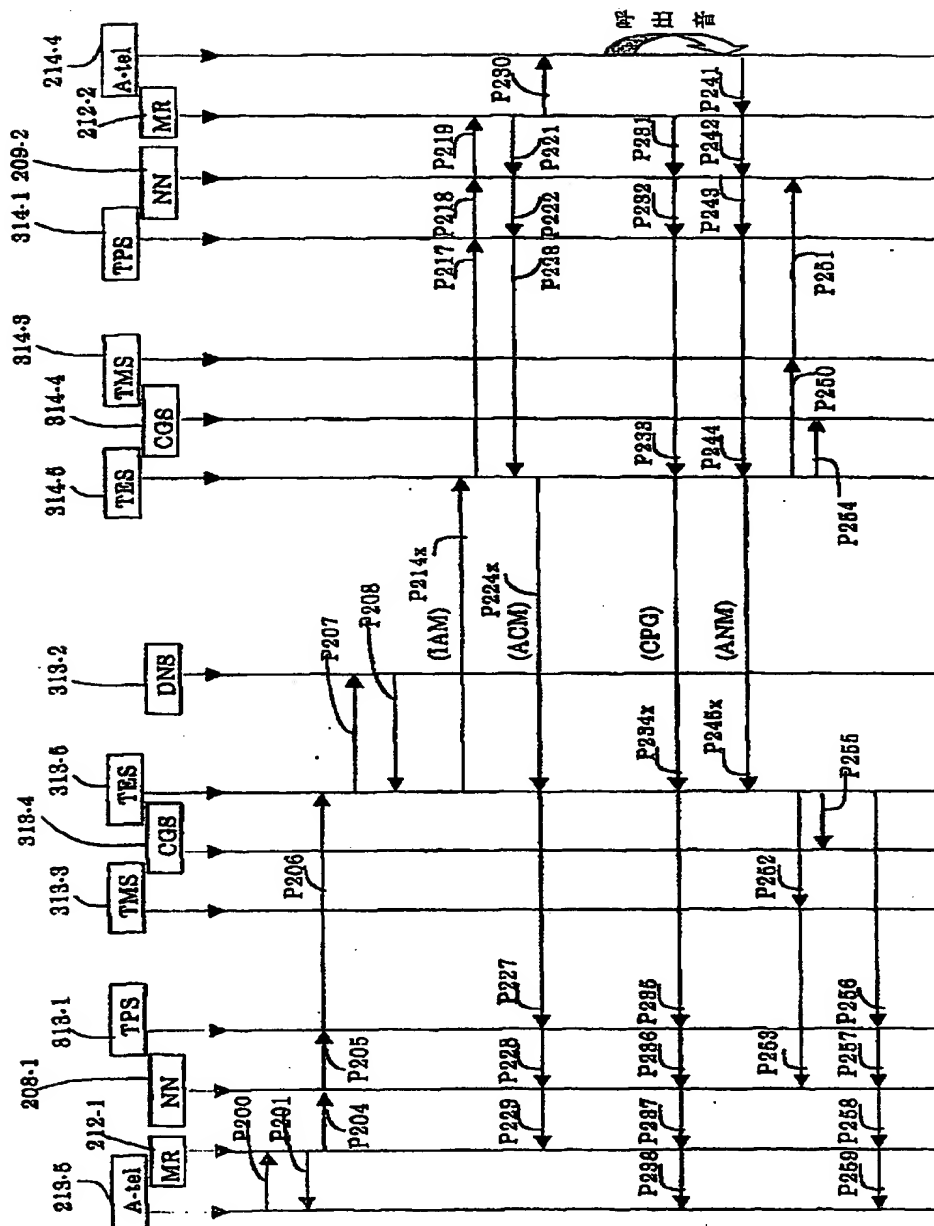
【図 90】



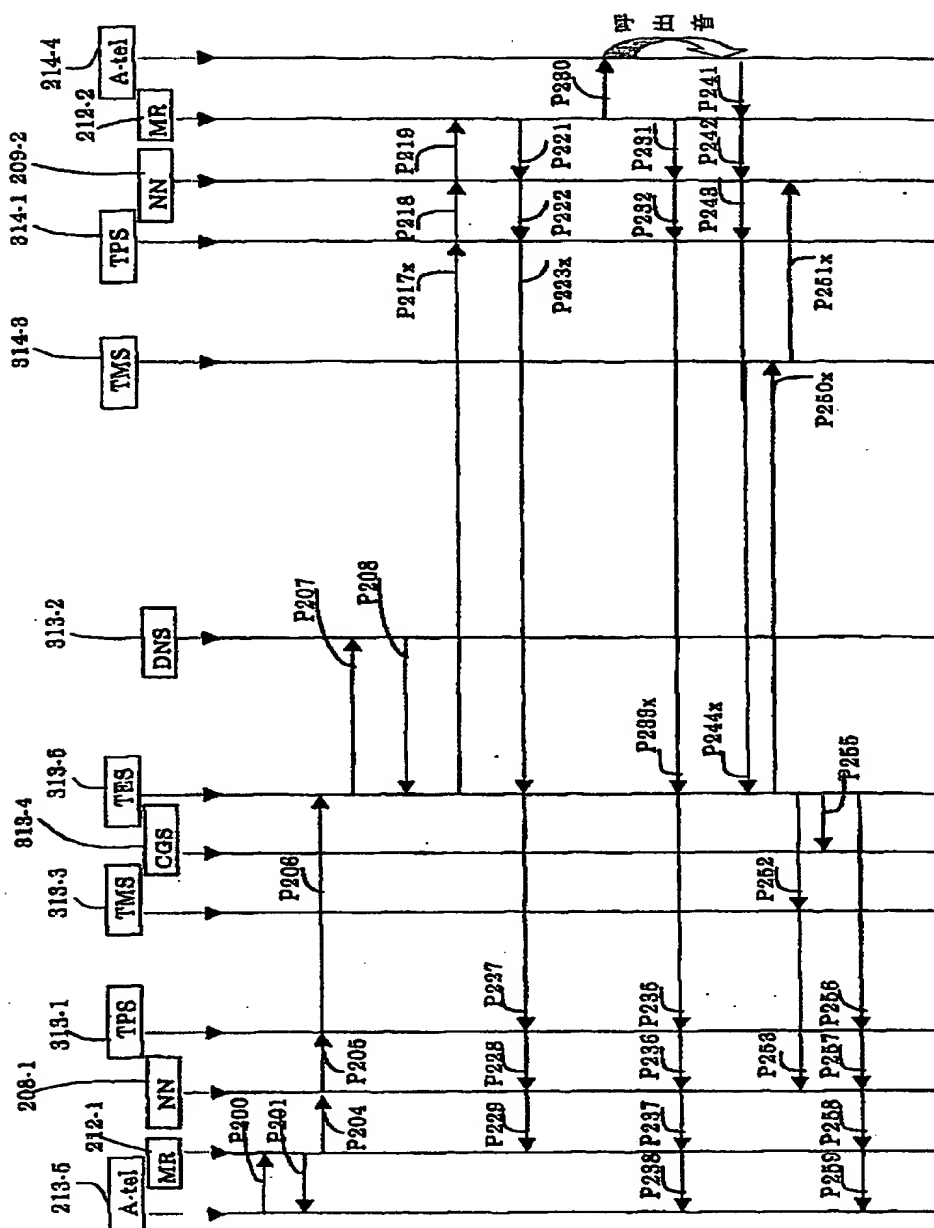
【図 91】



【図 9 2】



【図 93】



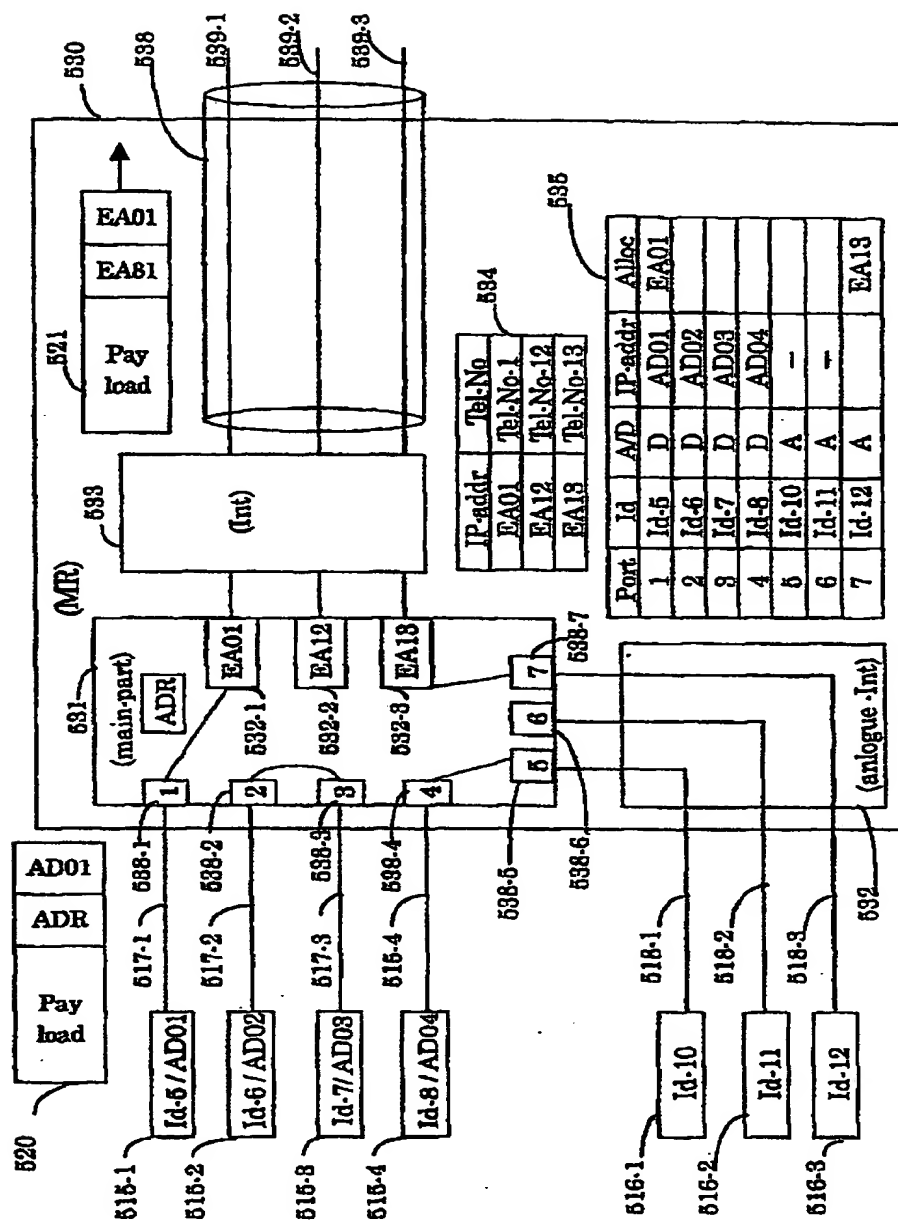
【図94】

通番	電話番号	自社か？	他の通信会社識別情報
1	81-3-5414-xxxx	No.	Com-130
2	1-2245-5678	No.	Com-025
3	81-47-325-3887	Yes	
4	81-2245-56xx	Yes	
..	81-6-1234-xxxx	Yes	
n	1-2345-2345	No	Com-840

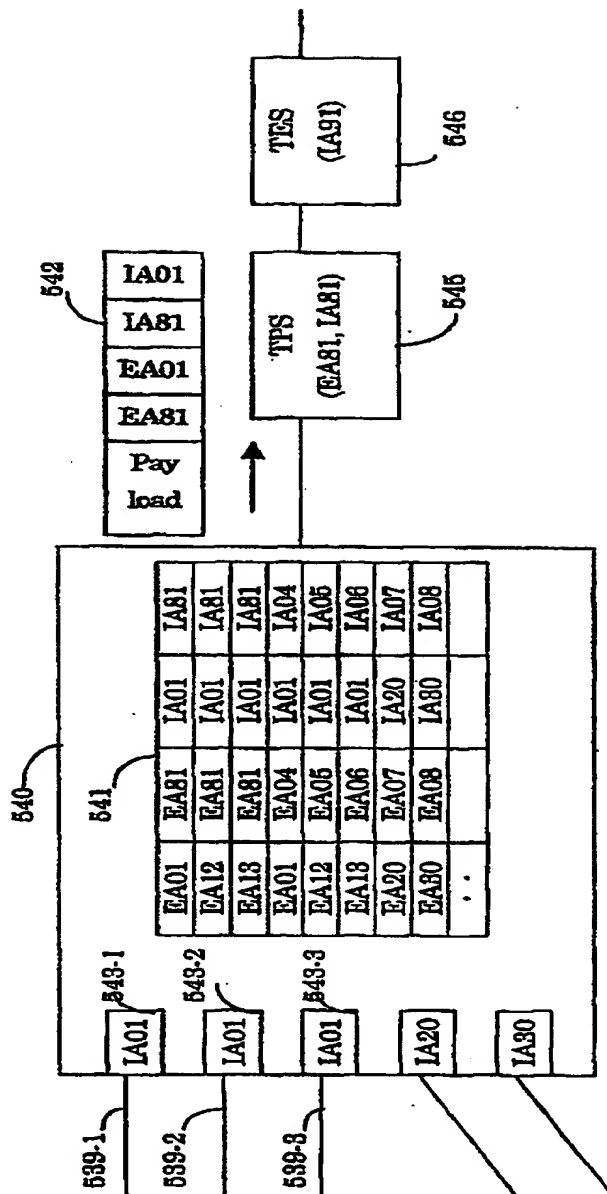
【図95】

通番	電話番号	(自社) 当該・電話管理サーバ配下か？	(自社) 他の電話管理サーバ識別情報
1	81-47-325-3887	Yes	
2	81-2245-56xx	No.	100.10.11.40
3	81-6-1234-xxxx	Yes	
..			
m	1-2345-2345	No	100.10.11.70

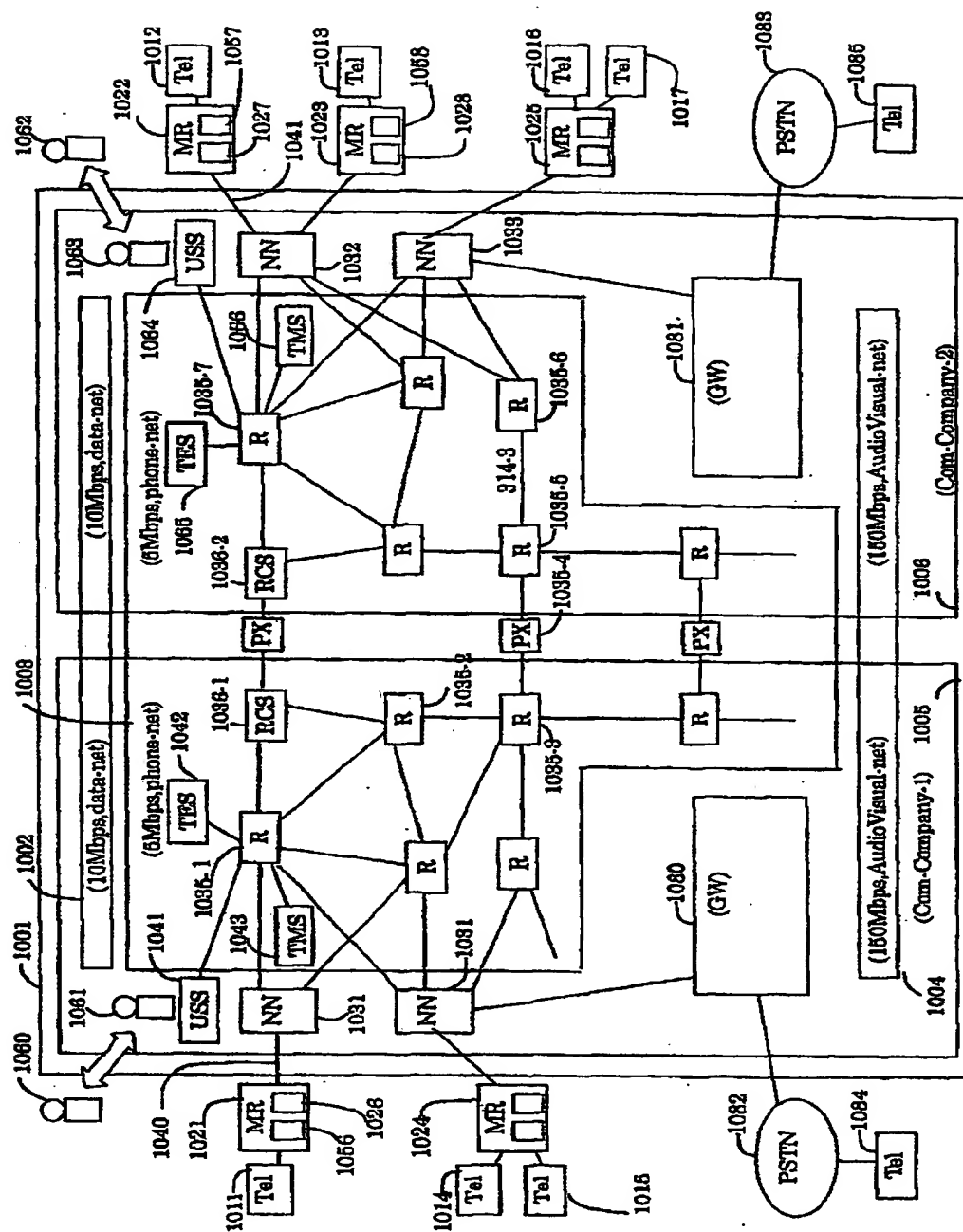
【图 9 6】



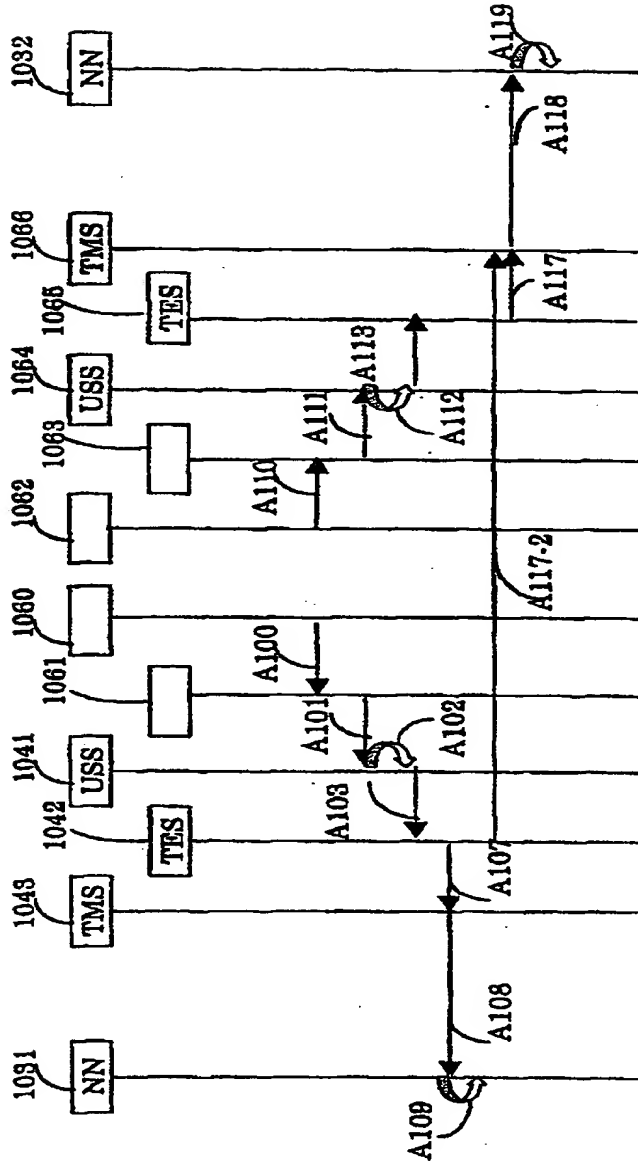
【図 9 7】



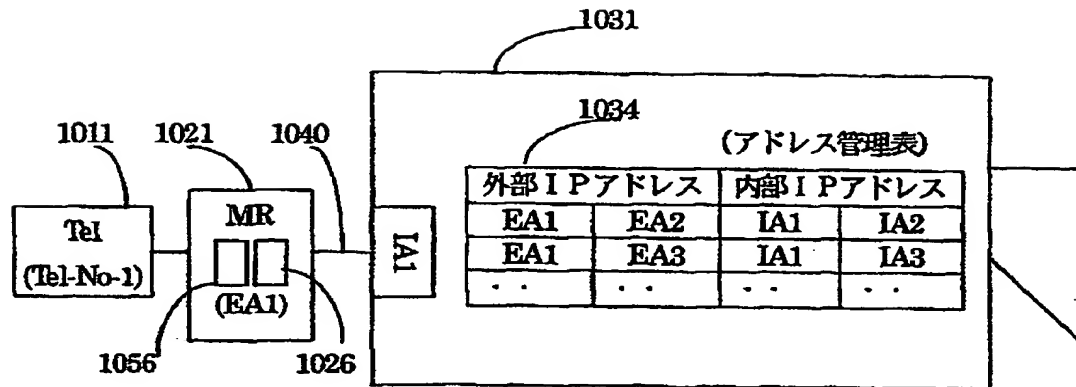
【図 98】



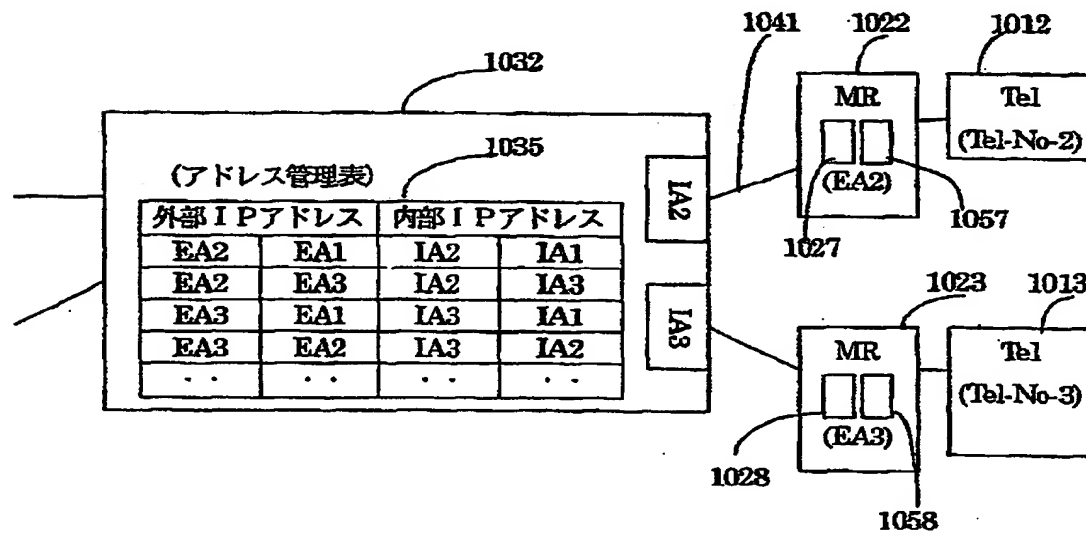
【図 99】



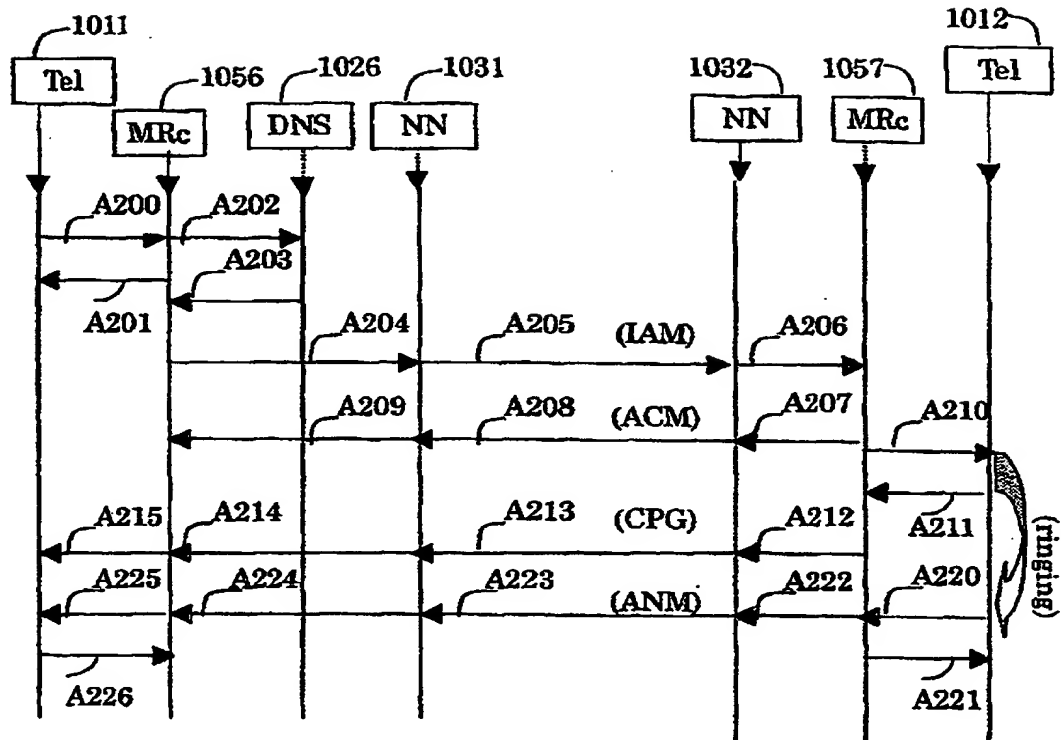
【図100】



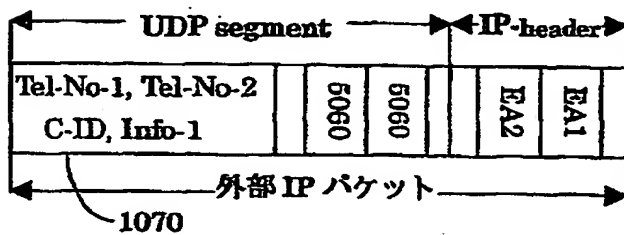
【図101】



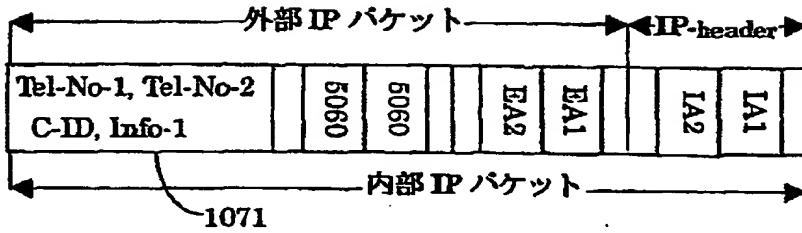
【図102】



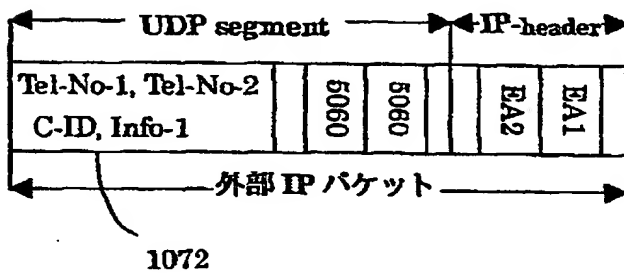
【図103】



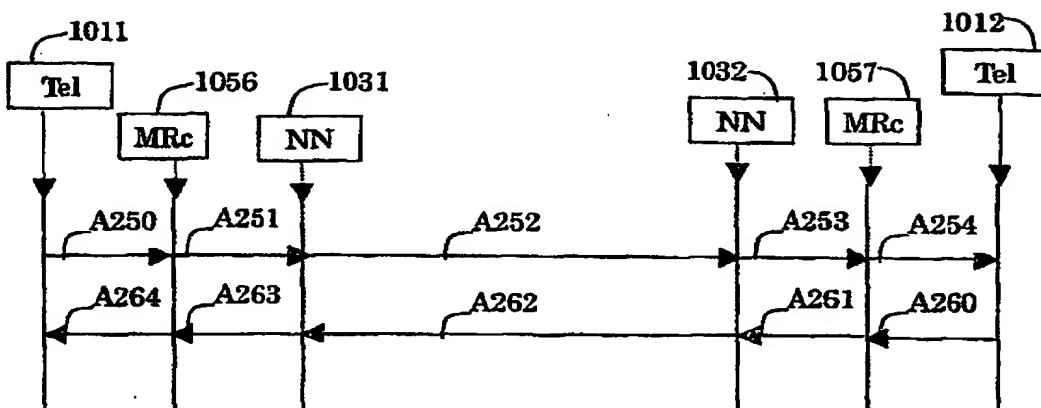
【図 1 0 4】



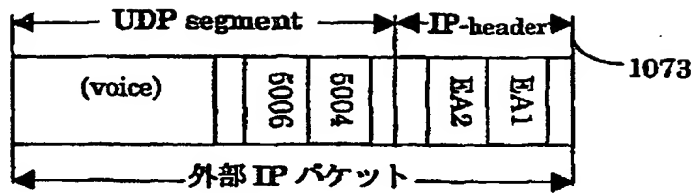
【図 1 0 5】



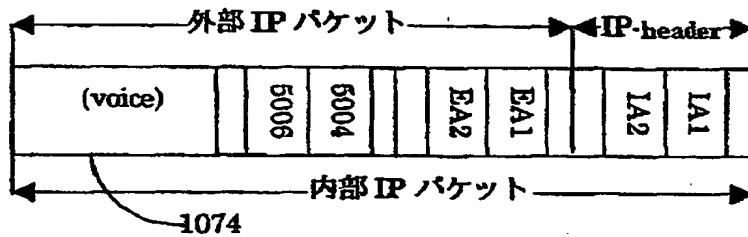
【図 1 0 6】



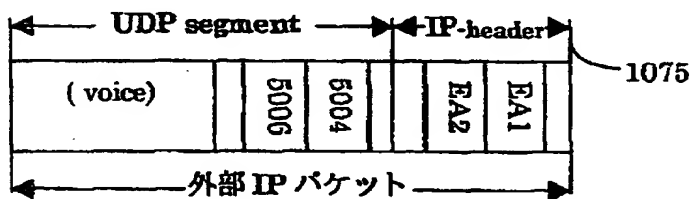
【図 1 0 7】



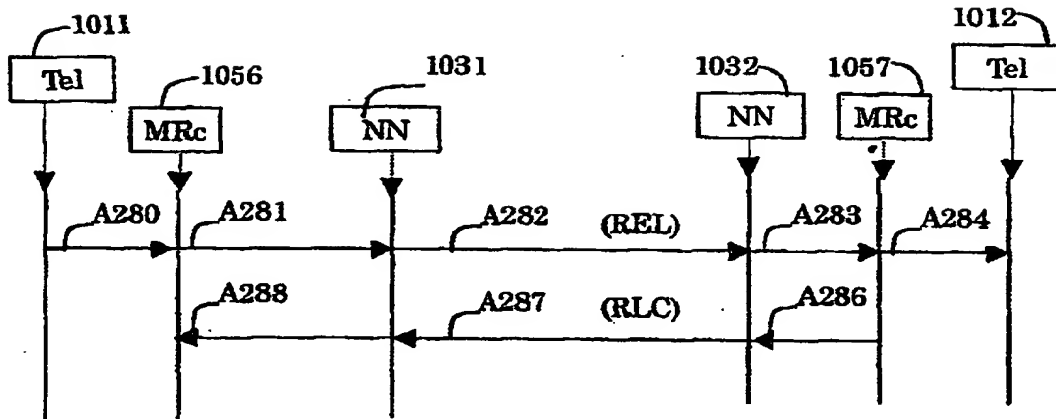
【図 1 0 8】



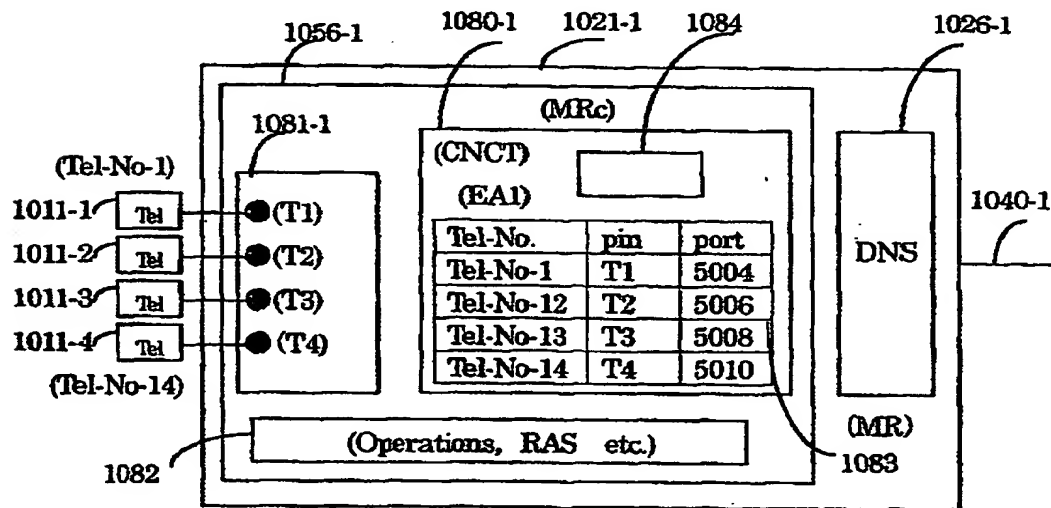
【図 1 0 9】



【図110】



【図111】



【図 1 1 2】

1083-1

Tel-No.	pin	port
Tel-No-1	T1	5004
Tel-No-1	T2	5006
Tel-No-1	T3	5008
Tel-No-1	T4	5010

【図 1 1 3】

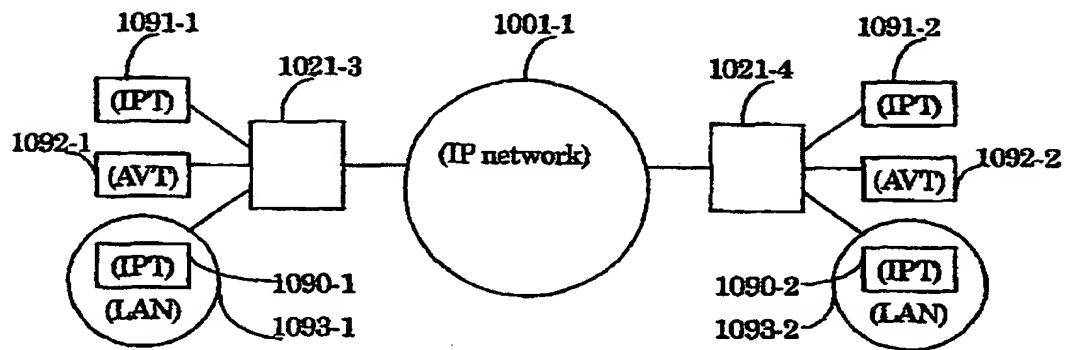
1083-2

Tel-No.	pin	port
Tel-No-1	T1	
Tel-No-12	T2	5004
Tel-No-13	T3	
Tel-No-14	T4	

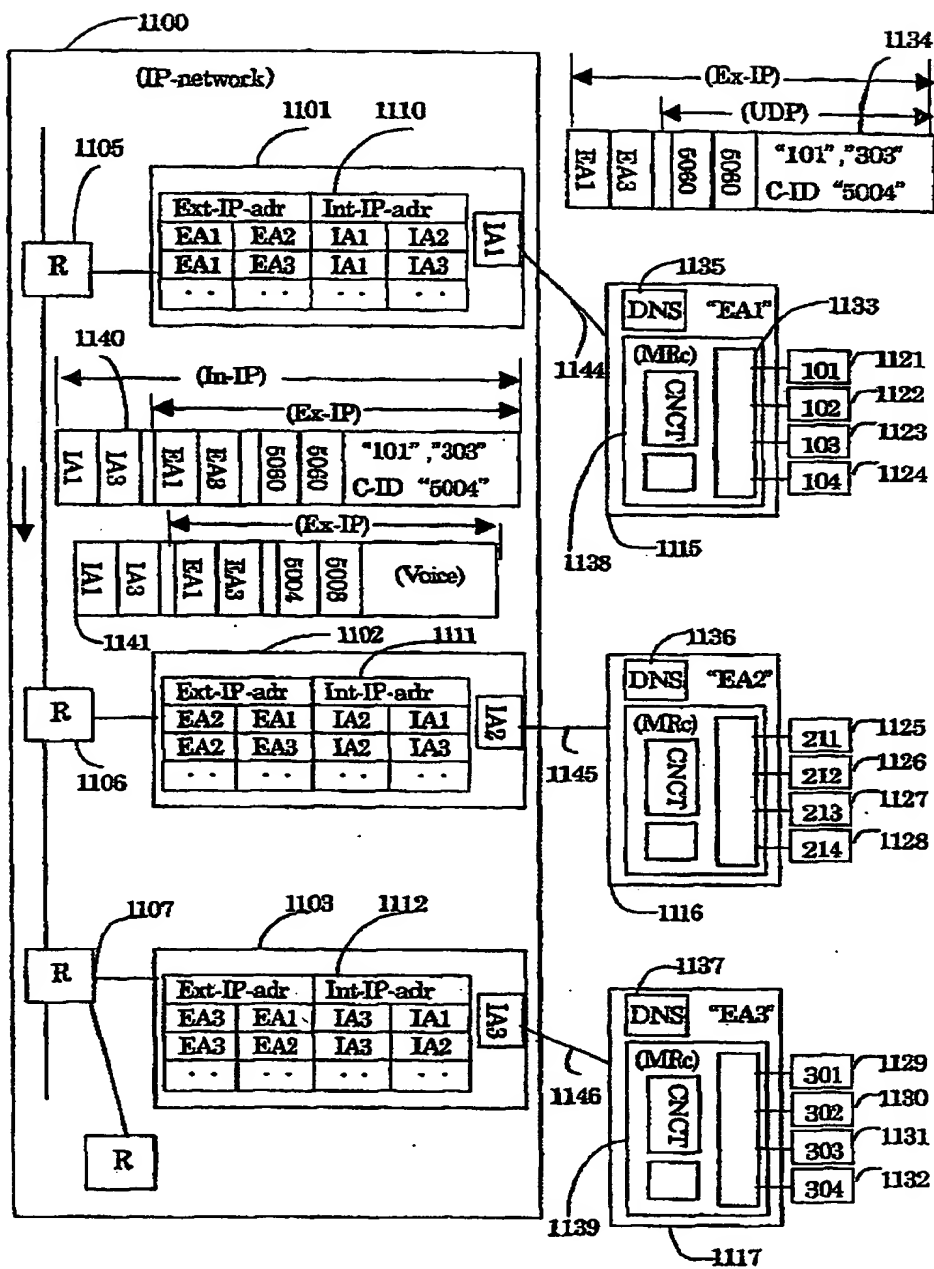
【図 117】

(priority)	(IP-address-port No.)
2 (high)	150.1.2.3 -108
1	192.1.2.3-5060, 192.1.2.3-(5004 to 5020)
0	others

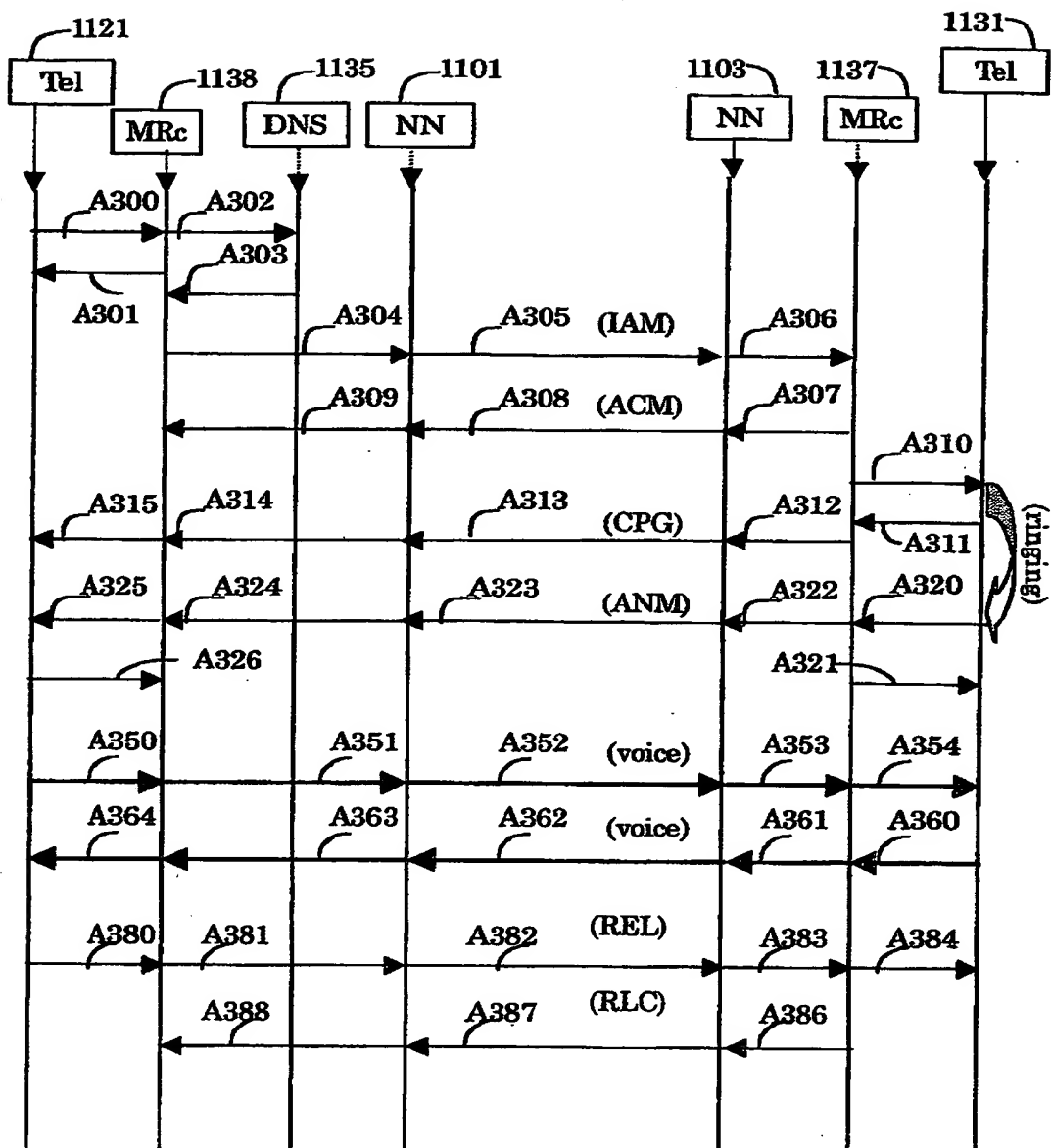
【図 118】



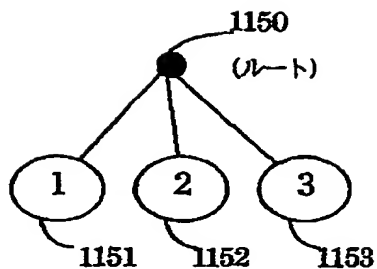
【図119】



【図120】



【図 1 2 1】



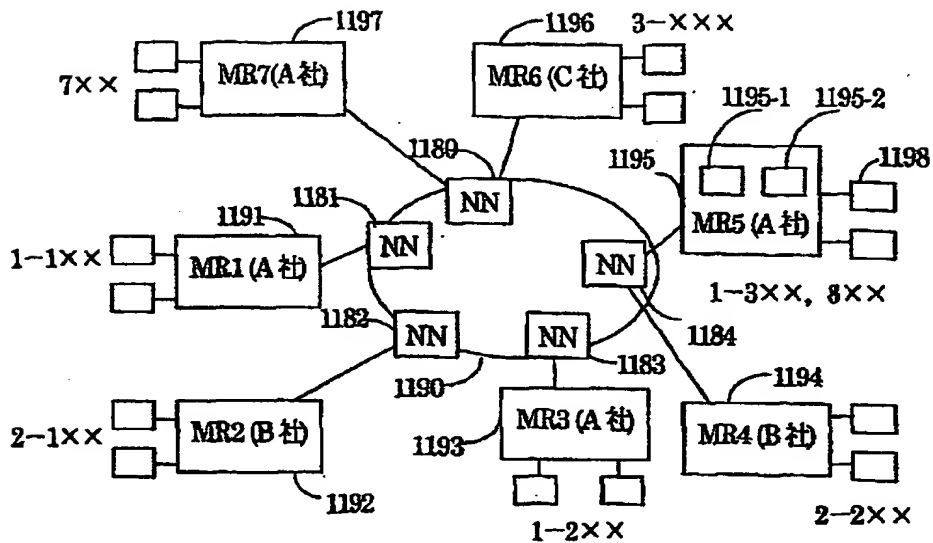
【図 1 2 2】

電話番号	電話番号の ドメイン名表現
1××	1.
2××	2.
3××	3.

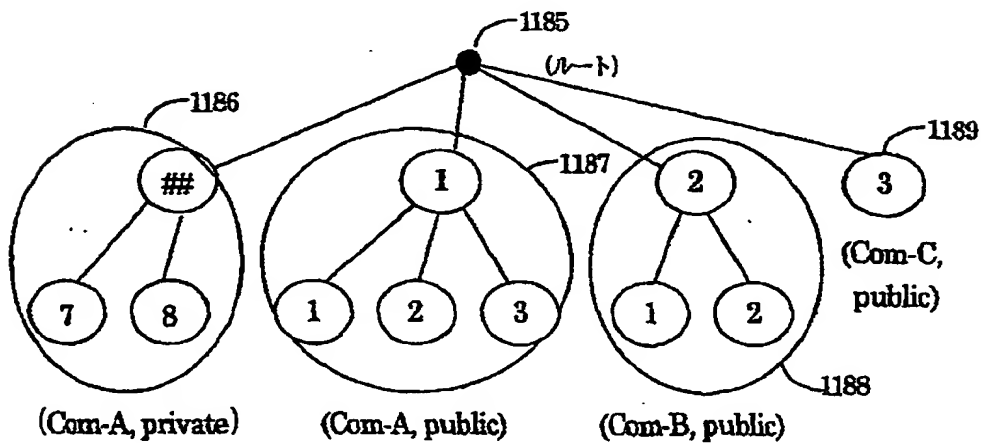
【図 1 2 3】

電話番号サーバ への質問		回答の内容
質問	1.	EA1
	2.	EA2
	3.	EA3

【図 1 2 4】



【図 1 2 5】



【図 1 2 6】

1185-1

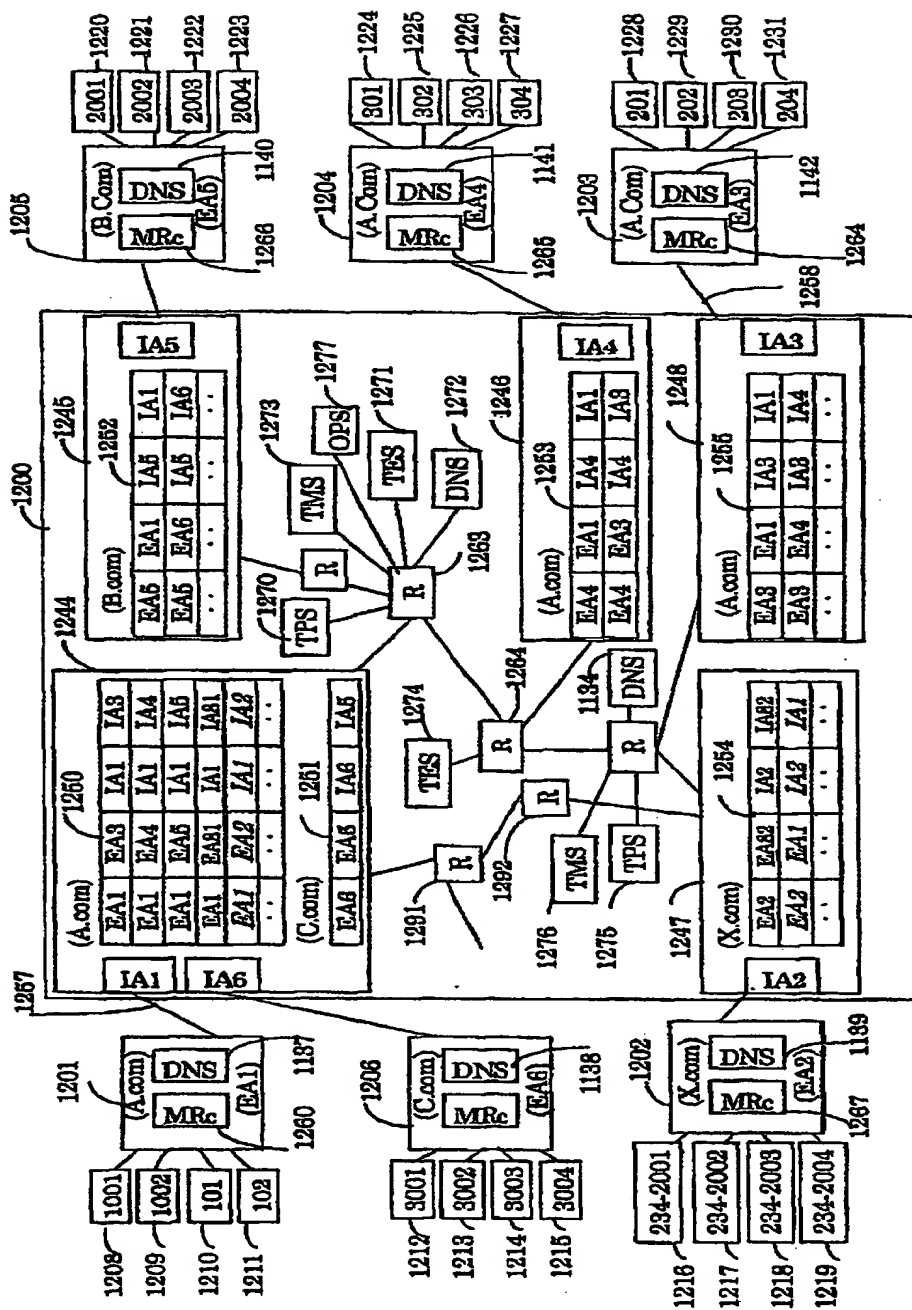
電話番号	電話番号のドメイン名表現
1-1××	1. 1.
1-2××	2. 1.
1-3××	3. 1.
2-1××	1. 2.
2-2××	2. 2.
3-×××	3.
7××	7. #.
8××	8. #.

【図 1 2 7】

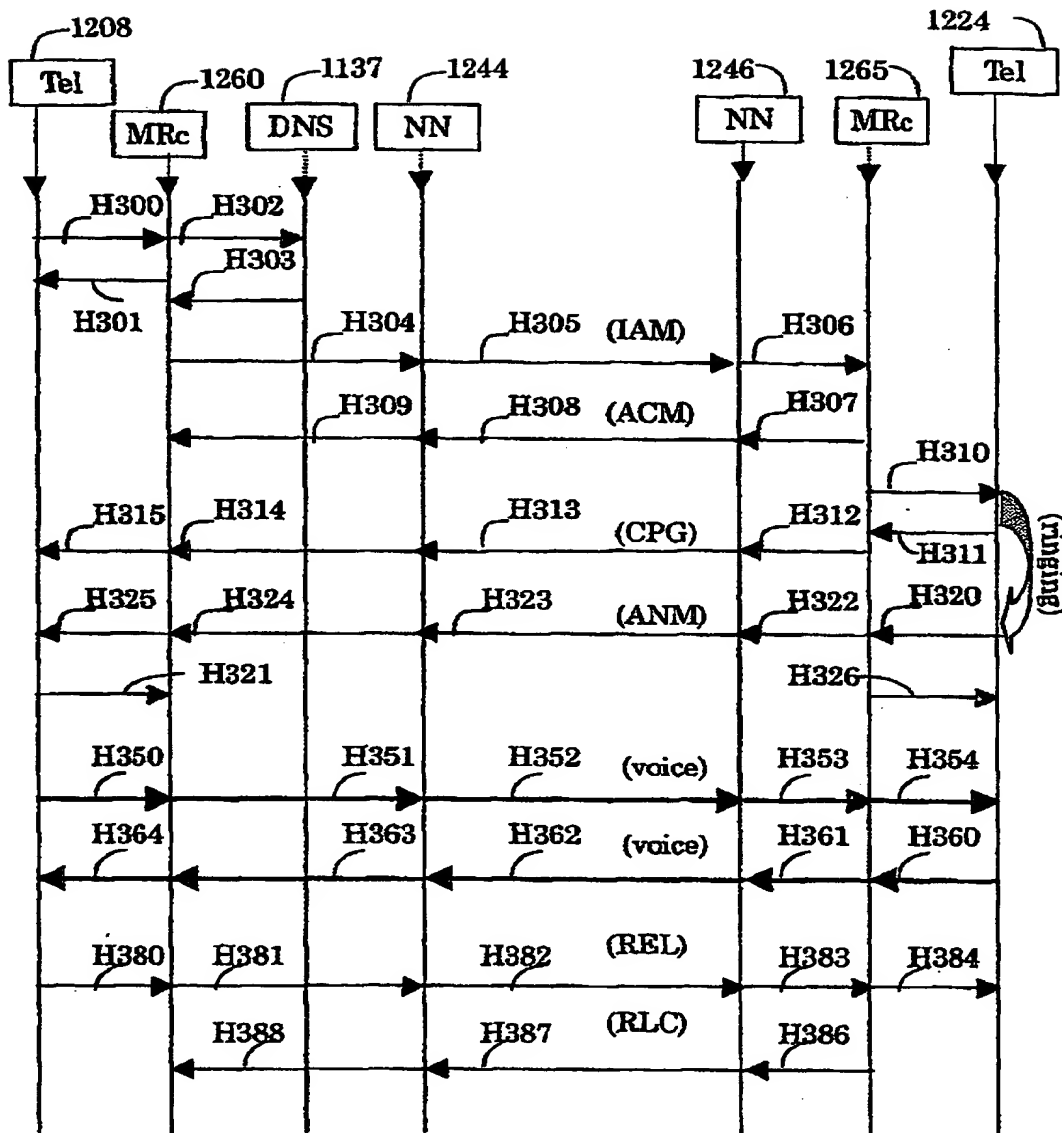
1185-2

電話番号サーバへの質問	回答の内容
1. 1.	MR1のIPアドレス
2. 1.	MR3のIPアドレス
3. 1.	MR5のIPアドレス
1. 2.	MR2のIPアドレス
2. 2.	MR4のIPアドレス
3.	MR6のIPアドレス
7. #.	MR7のIPアドレス
8. #.	MR5のIPアドレス

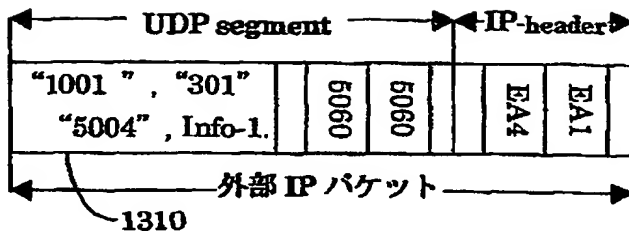
【図 128】



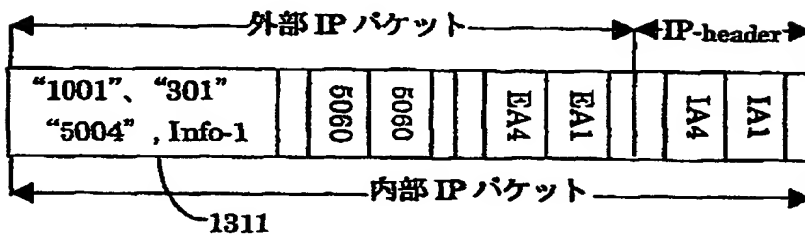
【図129】



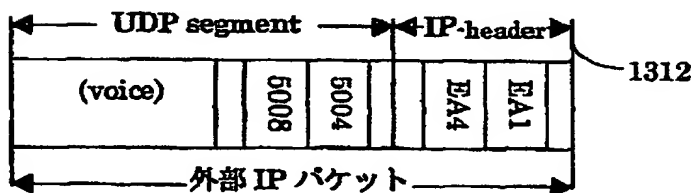
【図130】



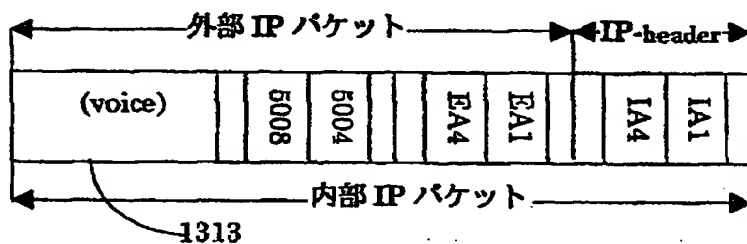
【図131】



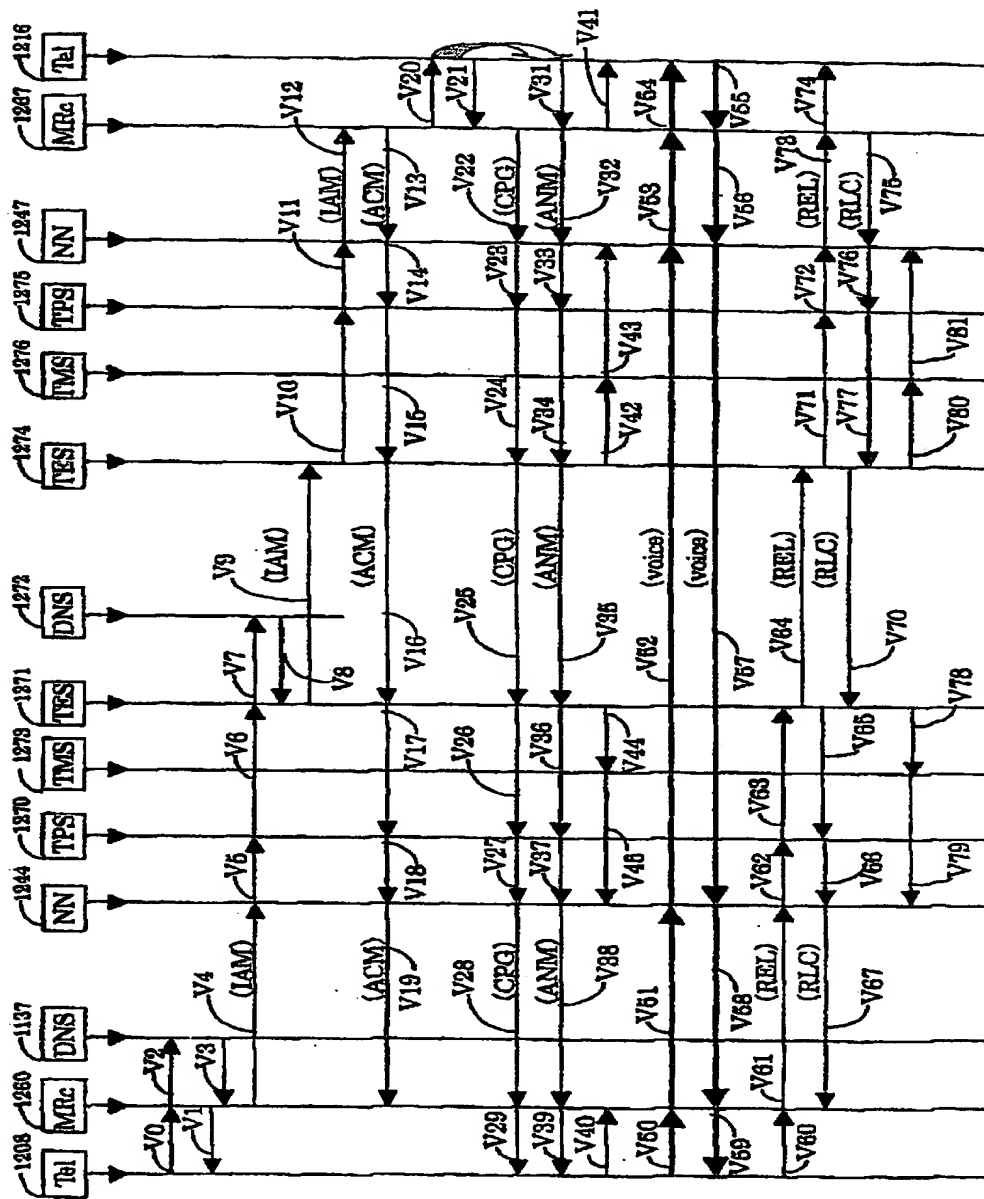
【図132】



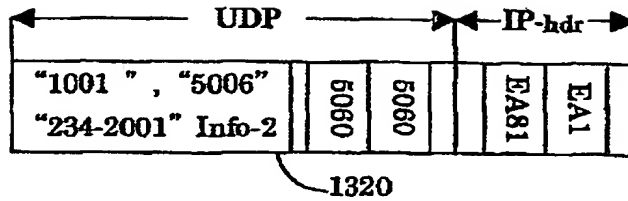
【図133】



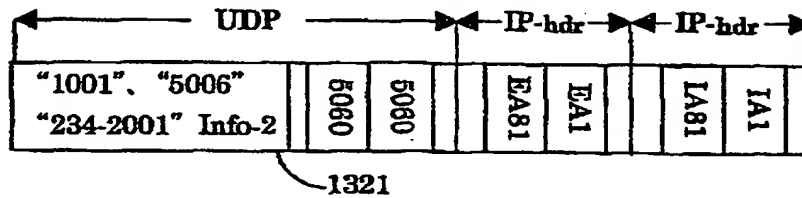
【図 1 3 4】



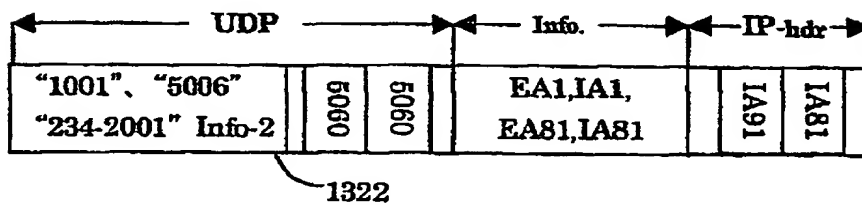
【図135】



【図136】



【図137】

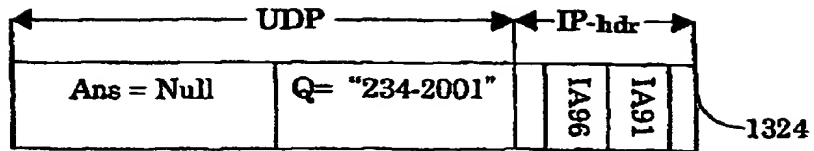


【図138】

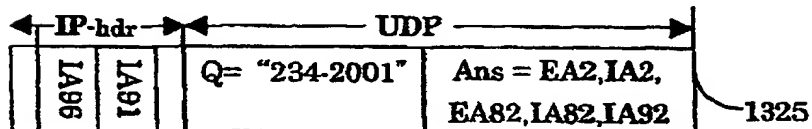
1323

CIC 番号	送信元 電話番号	宛先 電話番号	IP アドレス	手順 区分	開始 時刻	終了 時刻
CIC-1	"1004"	"××・・・"	×,×,××・・	ANM	St-1	
CIC-2	"1001"	"234-2001"	EA1,IA1,EA81, IA81,IA91	IAM	St-2	
..

【図139】



【図140】

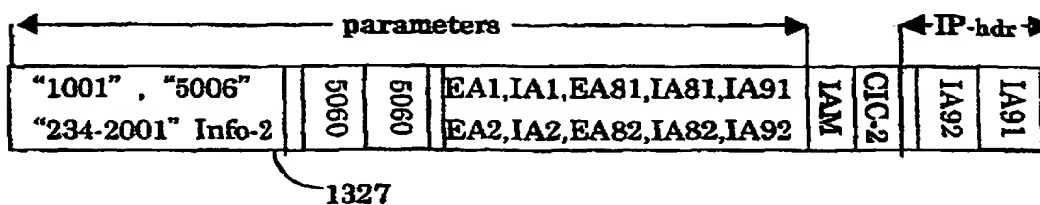


【図141】

1326-1

CIC 番号	送信元 電話番号	宛先 電話番号	IP アドレス	手順 区分	開始 時刻	終了 時刻
CIC-1	"1004"	"××"	×, ×, ×× . .	ANM	St-1	
CIC-2	"1001"	"234-2001"	EA1, IA1, EA81, IA 81, IA91, EA2, IA2, EA82, IA82, IA92	IAM	St-2	
.

【図142】

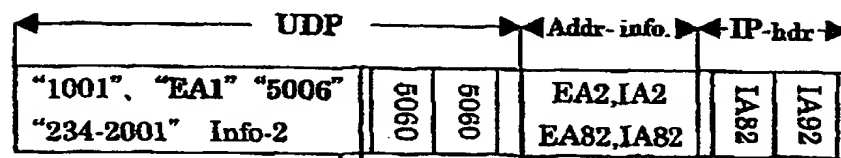


【図143】

CIC 番号	送信元 電話番号	宛先 電話番号	IP アドレス	手順 区分	開始 時刻	終了 時刻
CIC-2	"1001"	"234-2001"	EA1,IA1,EA81,IA 81,IA91,EA2,IA2, EA82,IA82,IA92	IAM	St-3	
..

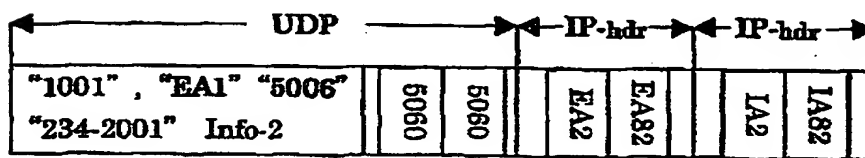
1326-2

【図144】



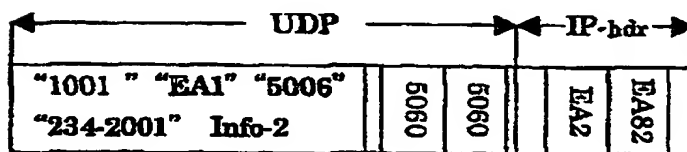
1328

【図145】



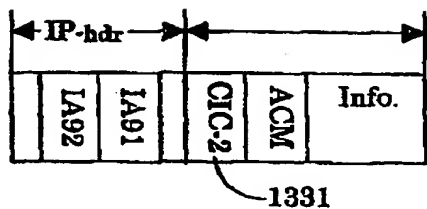
1329

【図146】

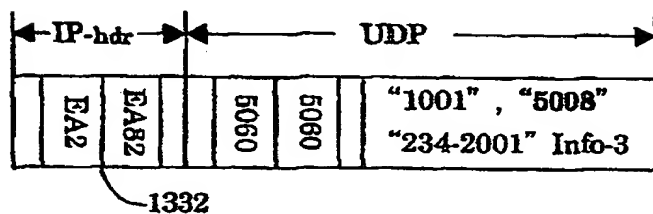


1330

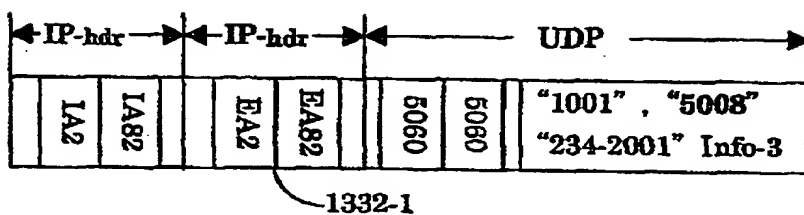
【図 147】



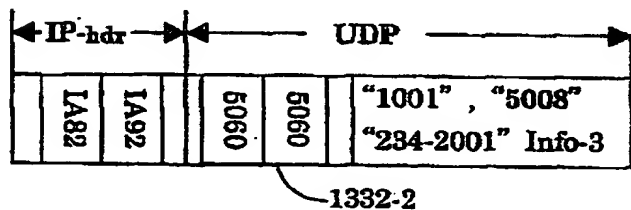
【図 148】



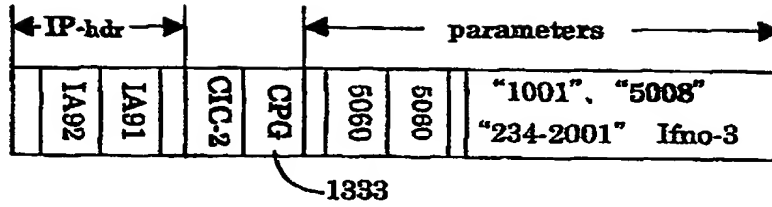
【図 149】



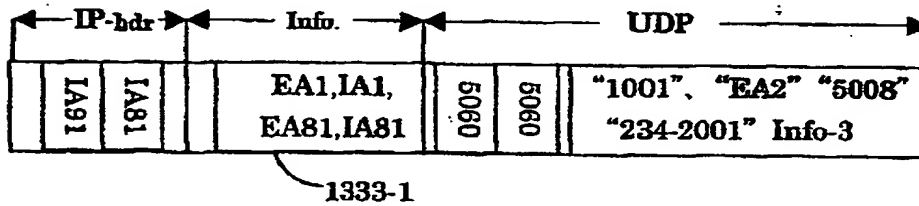
【図 150】



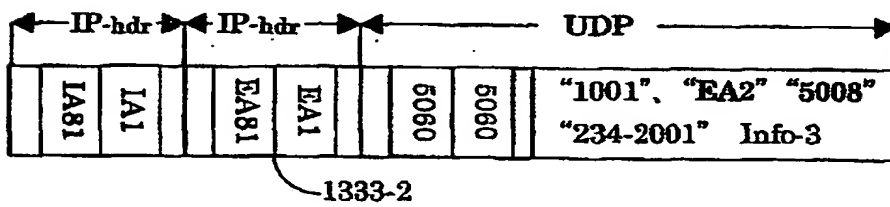
【図151】



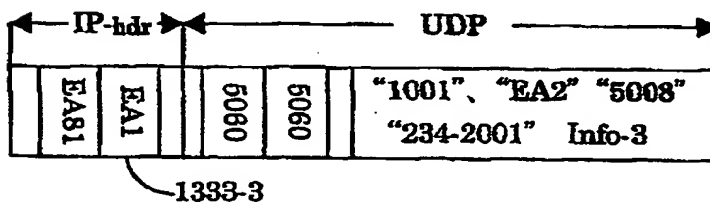
【図152】



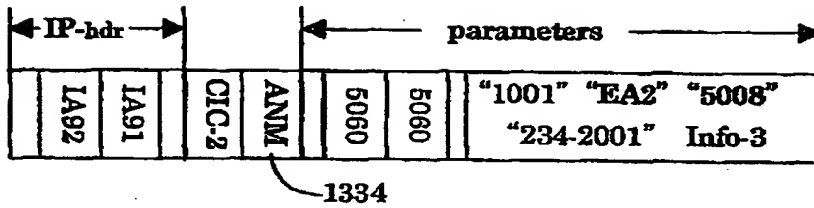
【図153】



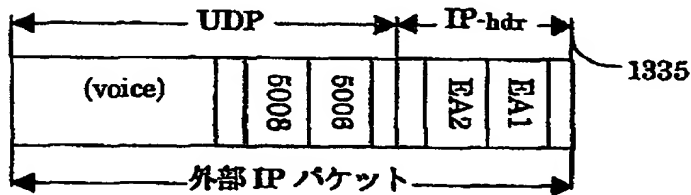
【図154】



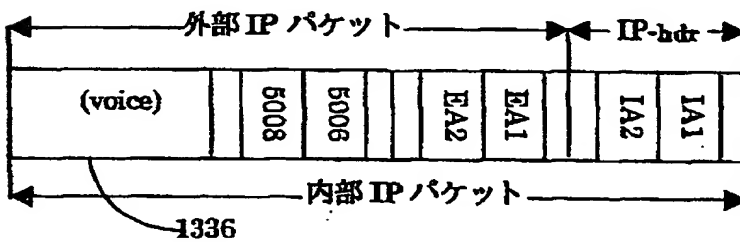
【図 155】



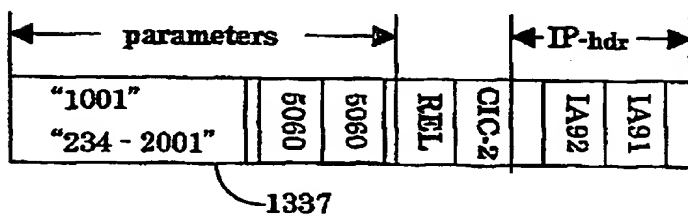
【図 156】



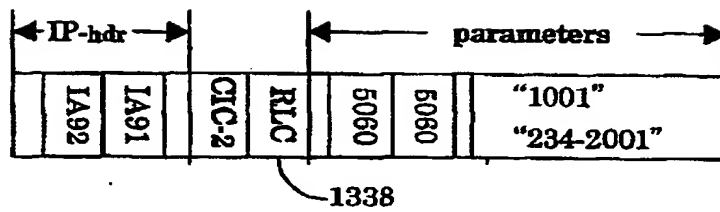
【図 157】



【図 158】



【図 1 5 9】



【図 1 6 0】

1326-5

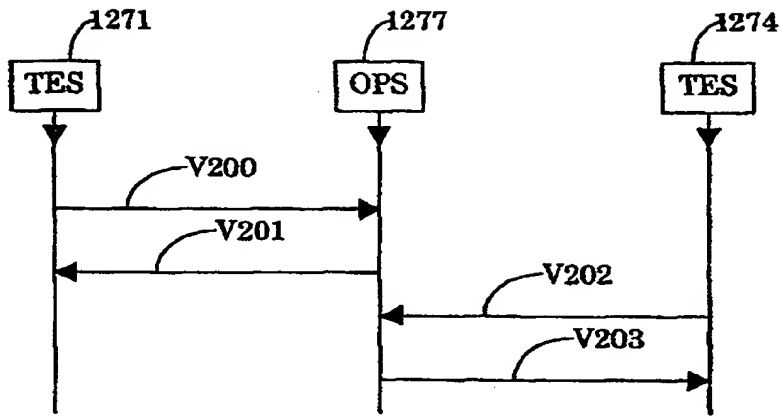
(メディアルータ IP アドレス)	使用中 回線数	上限 回線数
EA1	2	5
EA6	3	4
..

【図 1 6 1】

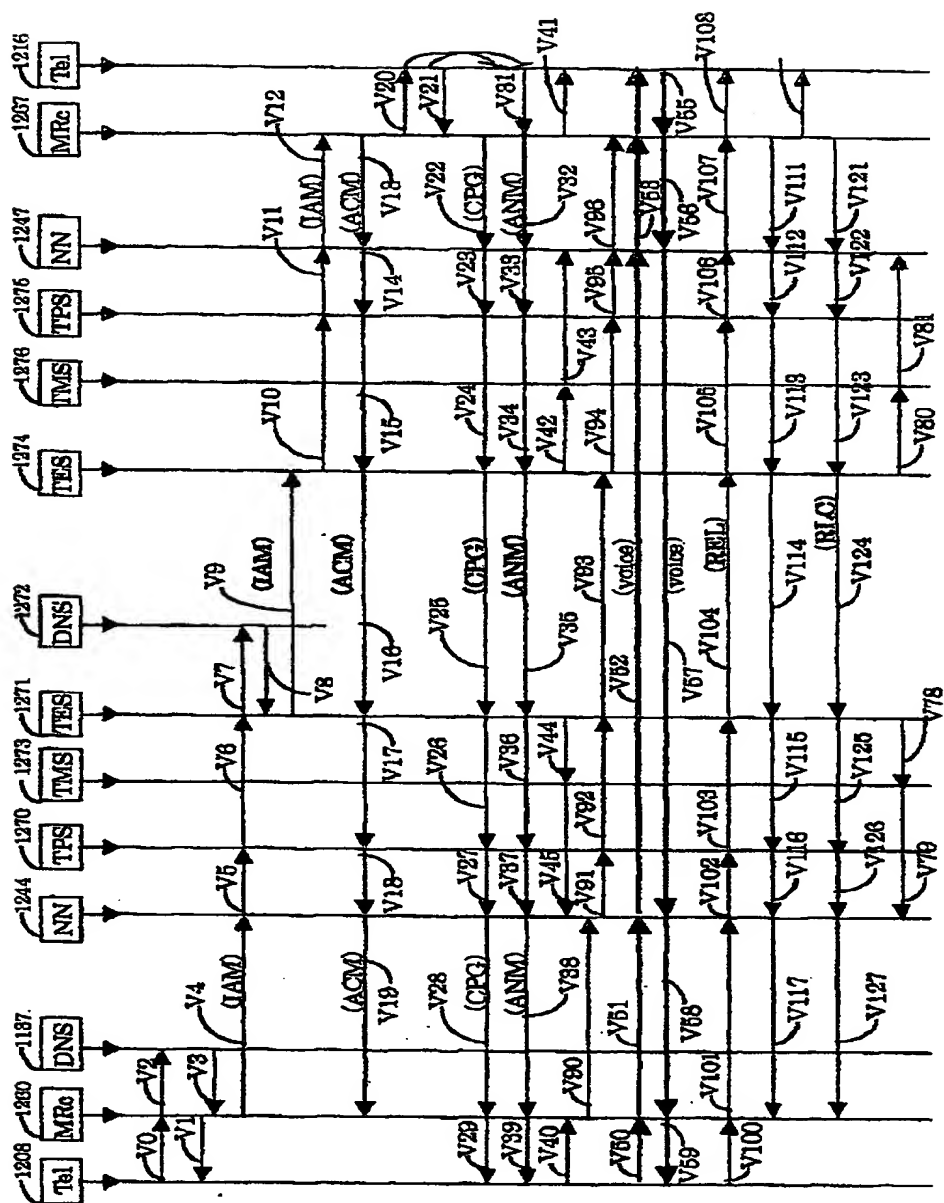
1326-6

(メディアルータ IP アドレス)	使用中 回線数	上限 回線数
EA7	0	3
EA2	2	7
..

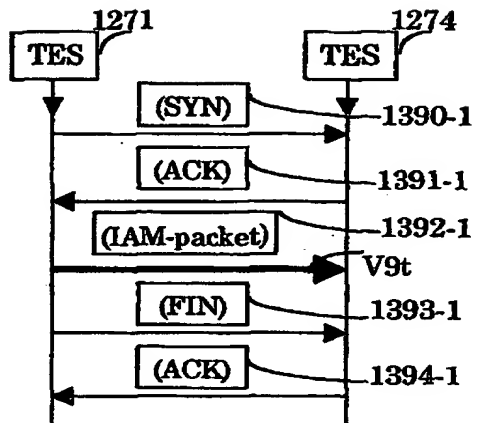
【図 1 6 2】



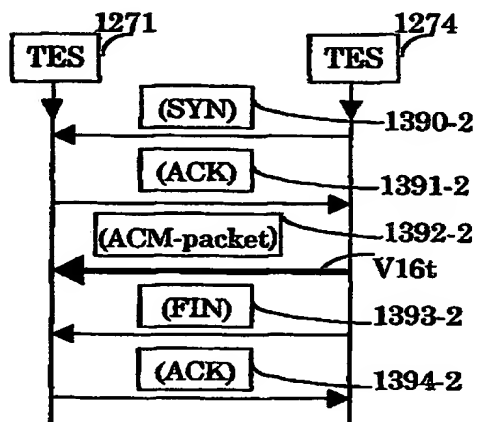
【図 163】



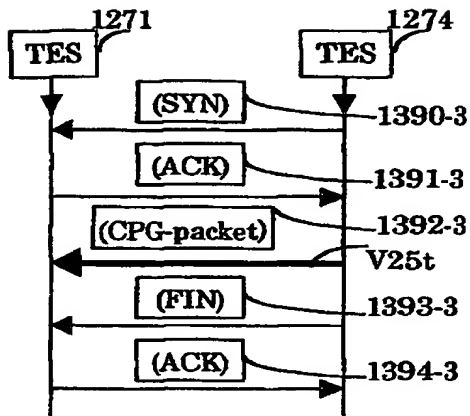
【図 1 6 4】



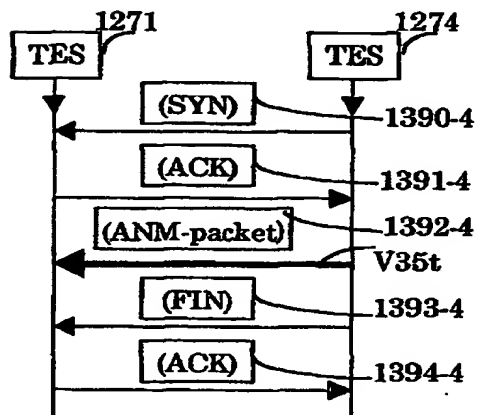
【図 1 6 5】



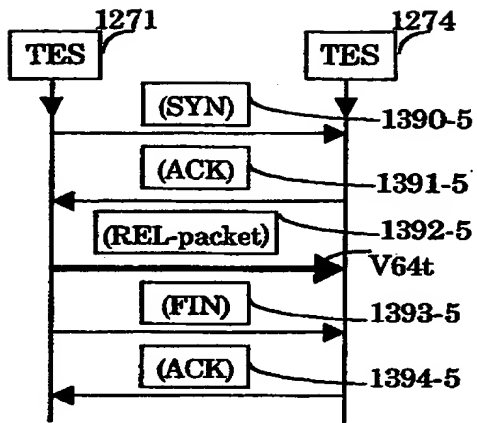
【図166】



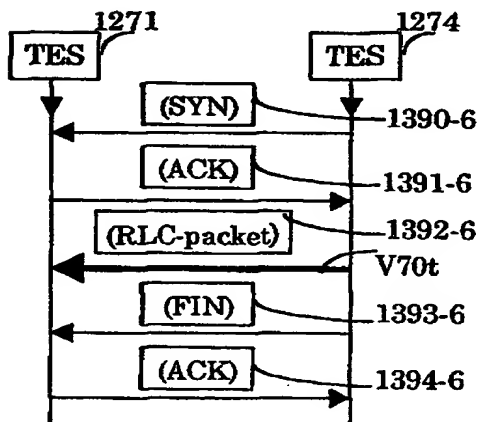
【図167】



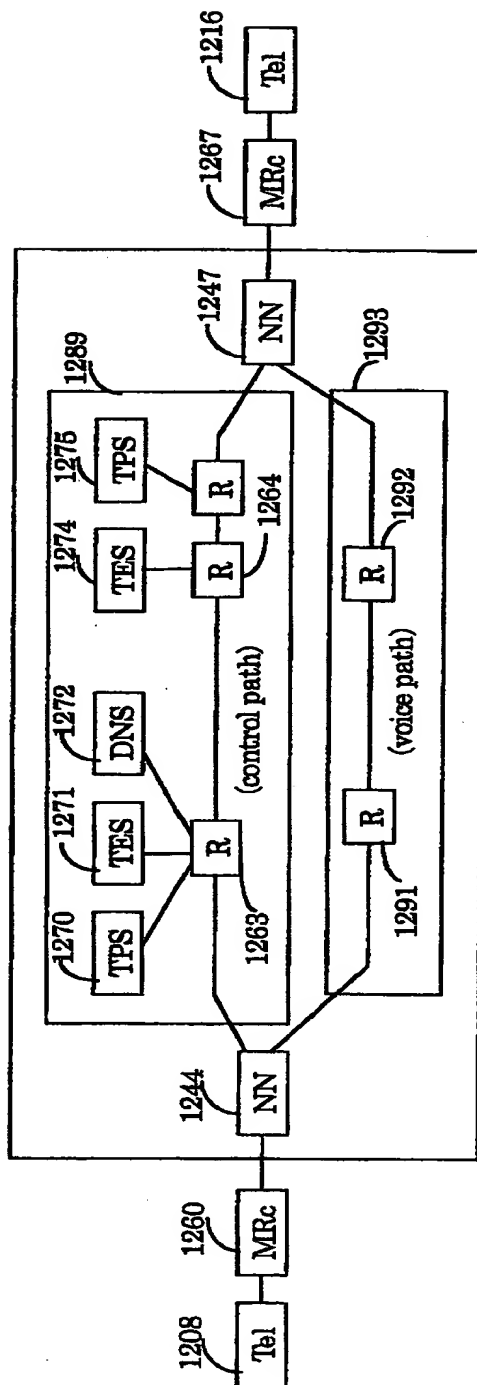
【図 1 6 8】



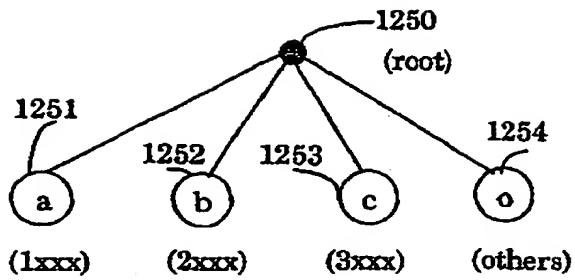
【図 1 6 9】



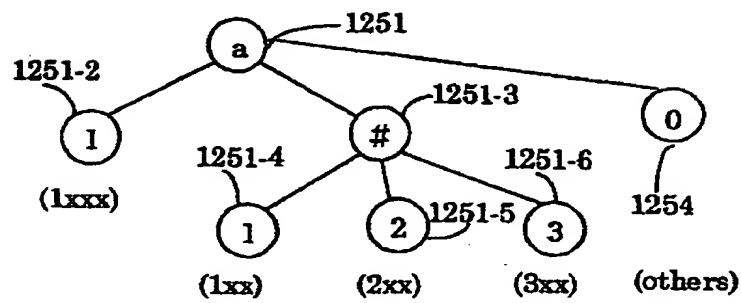
【図170】



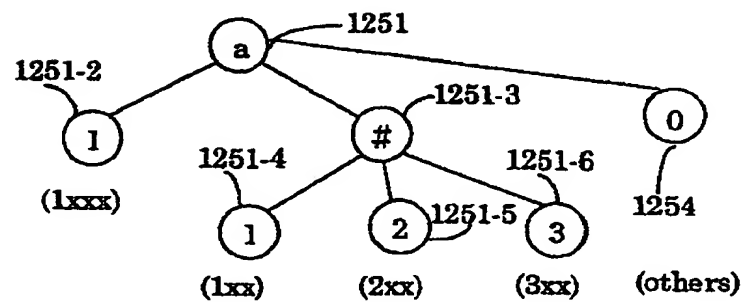
【図 1 7 1】



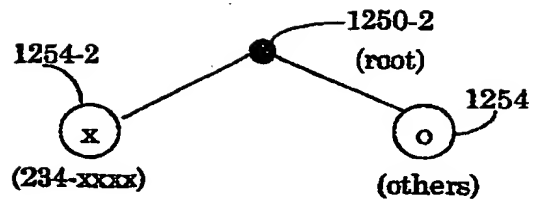
【図 1 7 2】



【図 1 7 3】



【図 174】



【図 175】

1255-1

電話番号	電話番号の ドメイン名表現
1xxx	1.a.
2xxx	b.
3xxx	c.
1xx	1.#.a.
2xx	2.#.a.
3xx	3.#.a.
others	o.

【図 176】

1255-2

電話番号の ドメイン名表現	IP アドレス
1.a.	EA1
b.	EA5
c.	EA6
1#.a.	EA1
2#.a.	EA3
3#.a.	EA4
o.	EA81

【図 177】

1256-1

電話番号	電話番号の ドメイン名表現
1xxx	1.a.
1xx	1.#.a.
2xx	2.#.a.
3xx	3.#.a.
others	o.

【図 178】

1256-2

電話番号の ドメイン名表現	IP アドレ ス
1.a.	EA1
1.#.a.	EA1
2.#.a.	EA3
3.#.a.	EA4
o.	EA81

【図 179】

1257-1

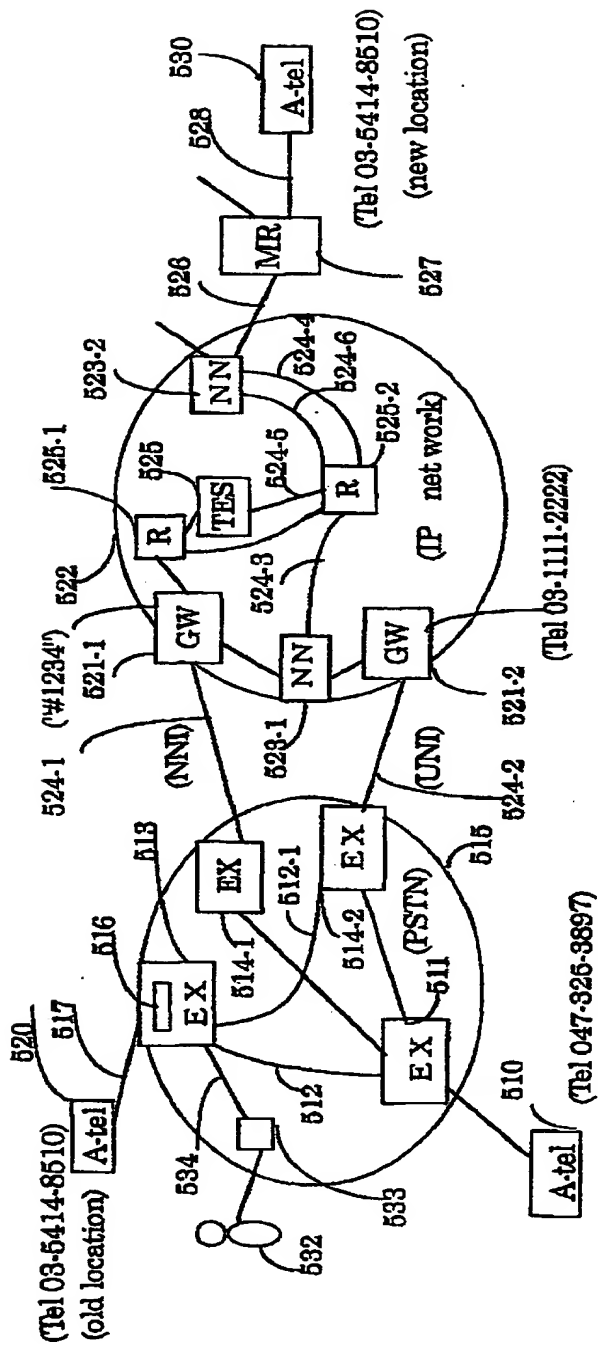
電話番号	電話番号の ドメイン名表現
1xxx	a.
2xxx	b.
3xxx	c.
others	o.

【図 180】

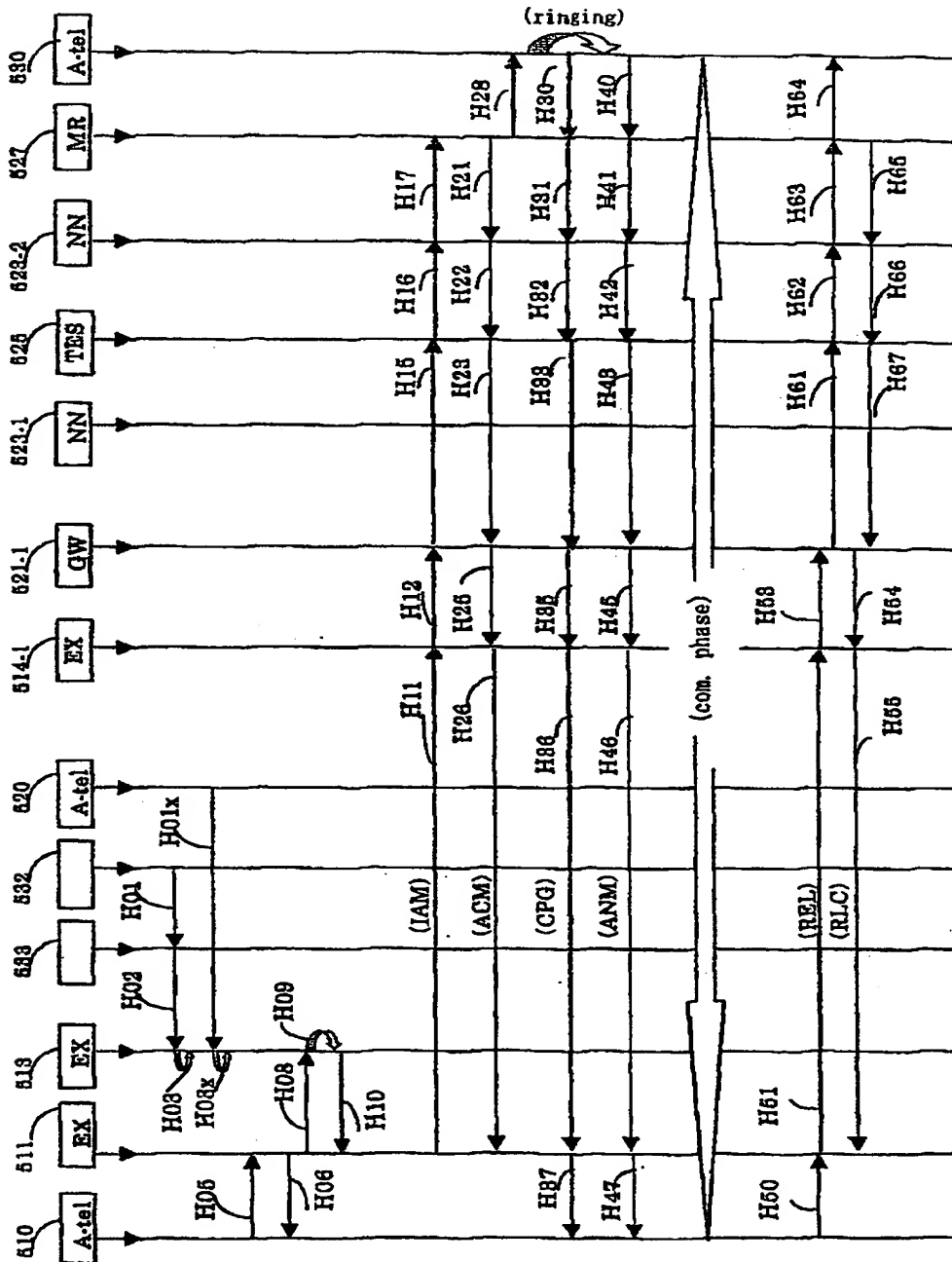
1257-2

電話番号の ドメイン名表現	IP アドレス
a.	EA1
b.	EA5
c.	EA6
d.	EA81

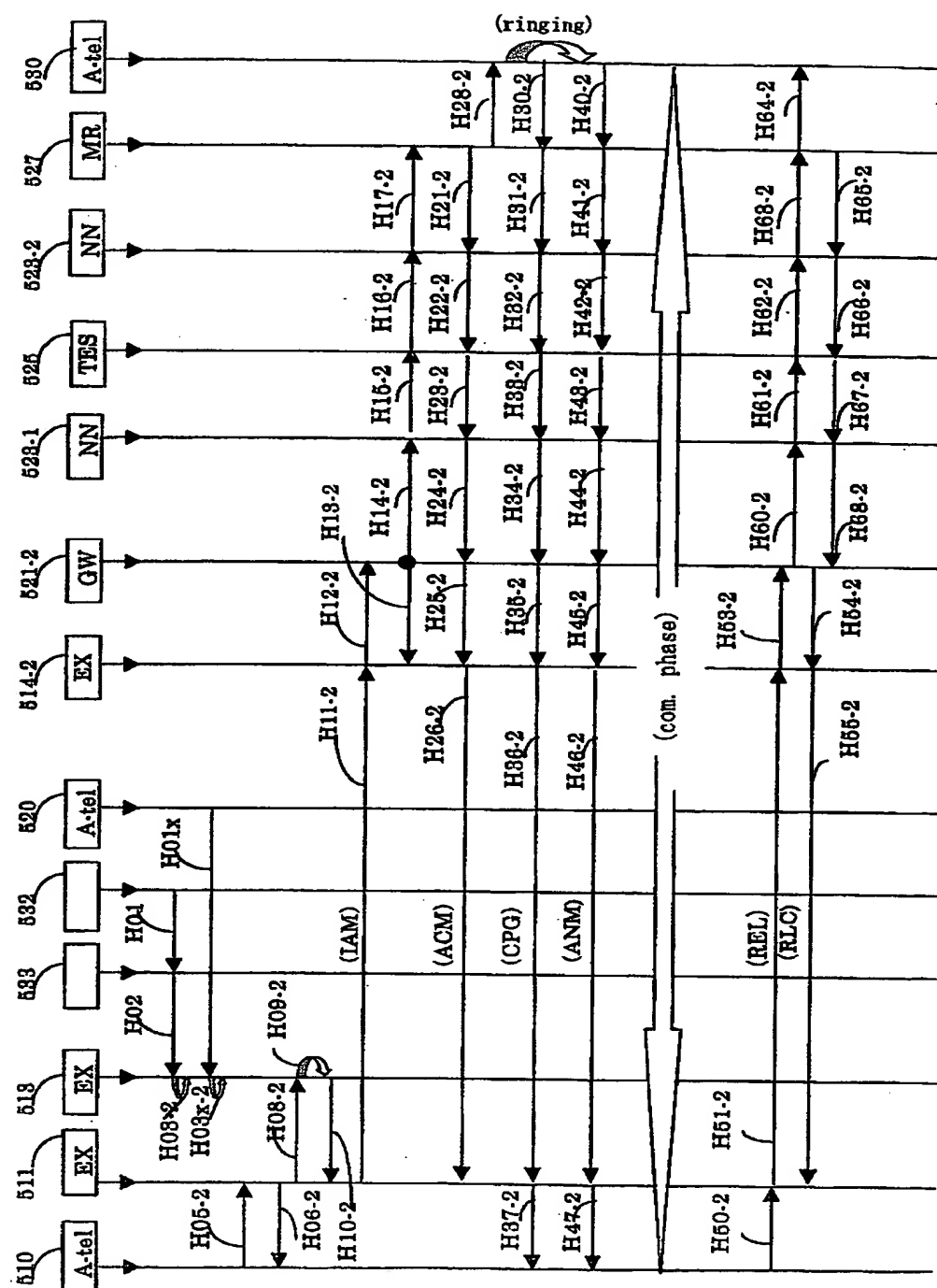
【図 181】



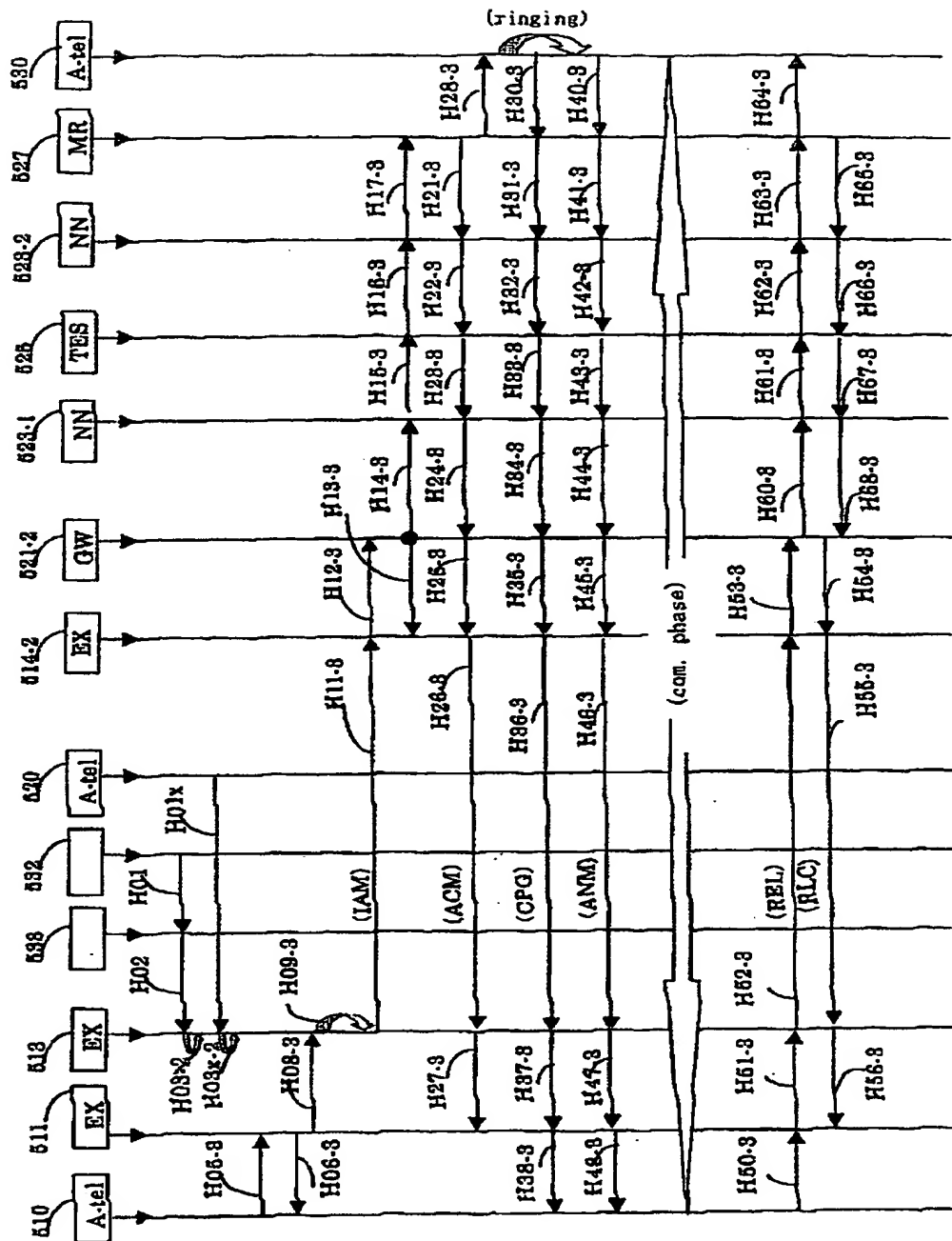
【図182】



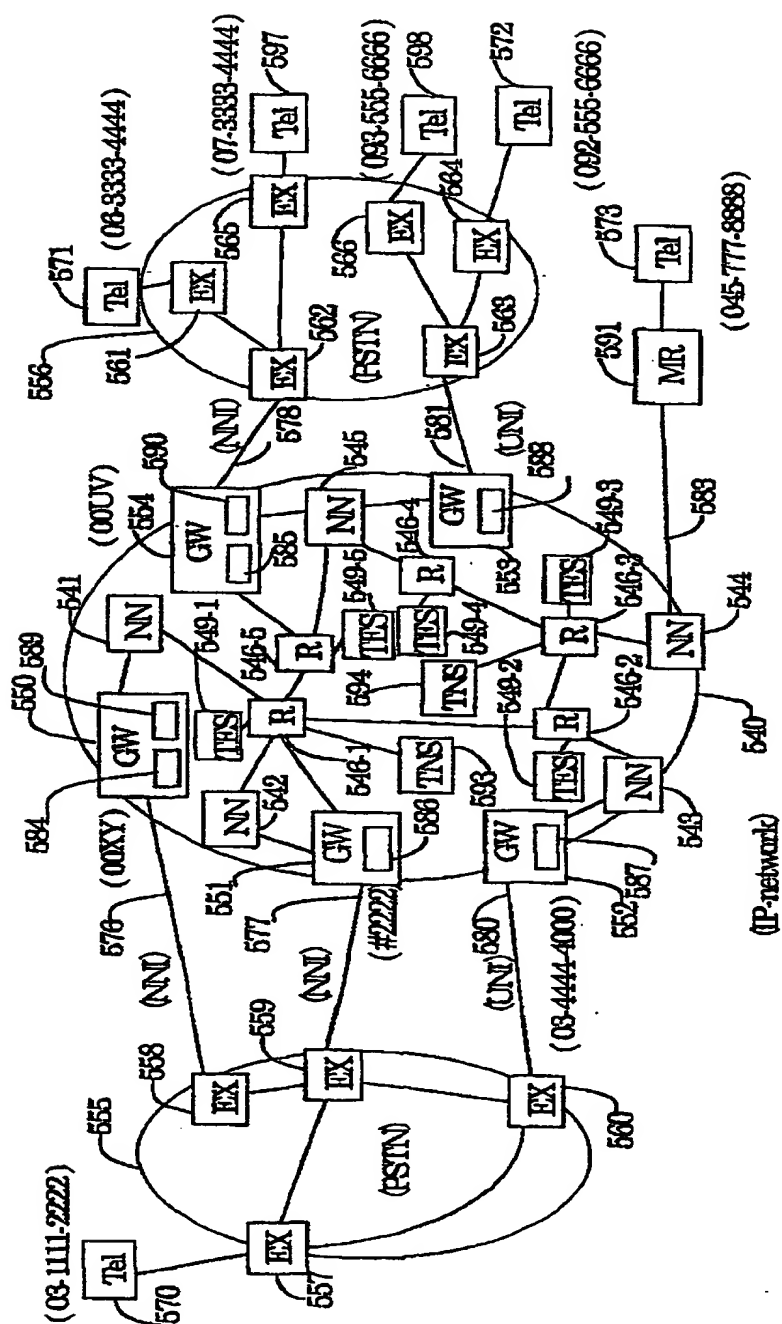
【図 183】



【図184】



【図 185】



【図 186】

584

宛先電話番号の範囲	区分	入 GW の 電話番号	入 GW の 信号局コード
06-0000-0000~06-9999-9999	NNI		#2222
092-000-0000~092-999-9999	UNI	03-4444-4000~ 03-4444-4099	
045-777-8880~045-777-8890	UNI	03-4444-4000~ 03-4444-4099	
07-0000-0000~07-9999-9999	UNI	03-4444-4000~ 03-4444-4099	
093-000-0000~093-999-9999	NNI		#2222
..	

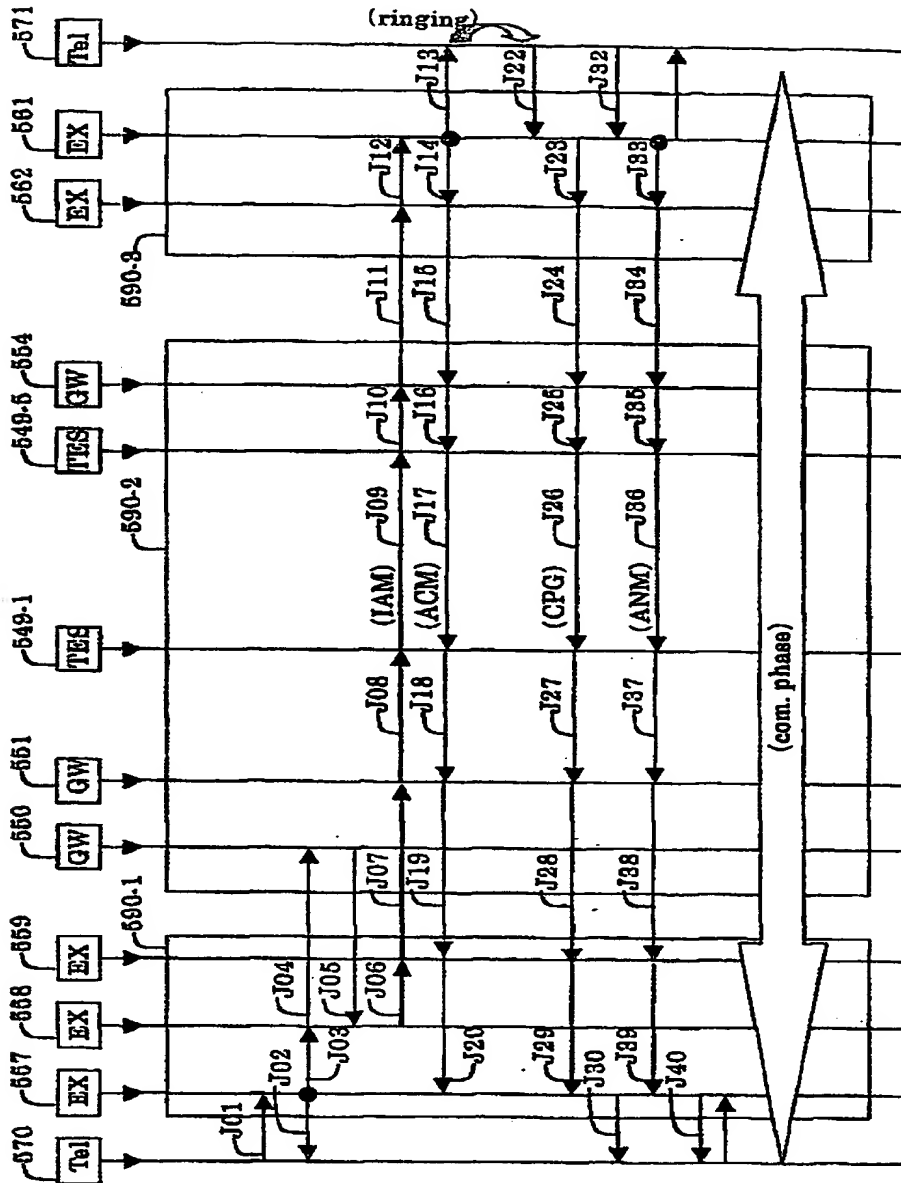
hex-decimal

【図 187】

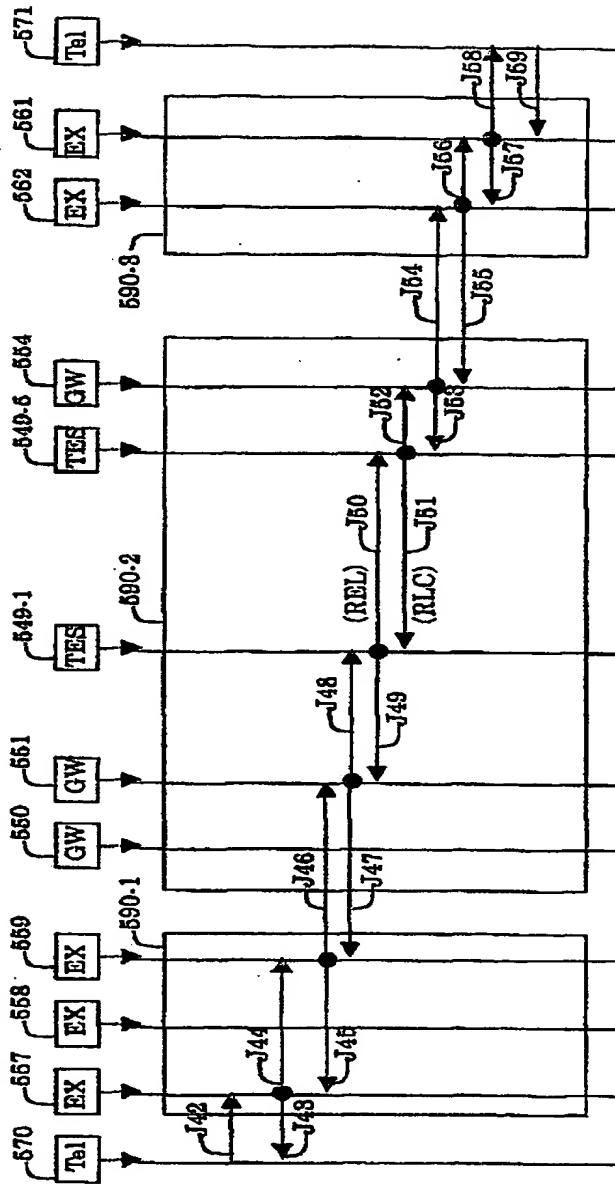
586

宛先電話番号の範囲	IP 転送網外部への出回線情報 (出 GW/MR の IP アドレス範囲)
06-0000-0000~06-9999-9999	10.240.240.1~10.240.240.255
092-000-0000~092-999-9999	10.240.241.1~10.240.241.31
045-777-8880~045-777-8890	10.241.1.1 ~ 10.241.1.3
07-0000-0000~07-9999-9999	10.240.240.1~10.240.240.255
093-000-0000~093-999-9999	10.240.241.1~10.240.241.31
..	..

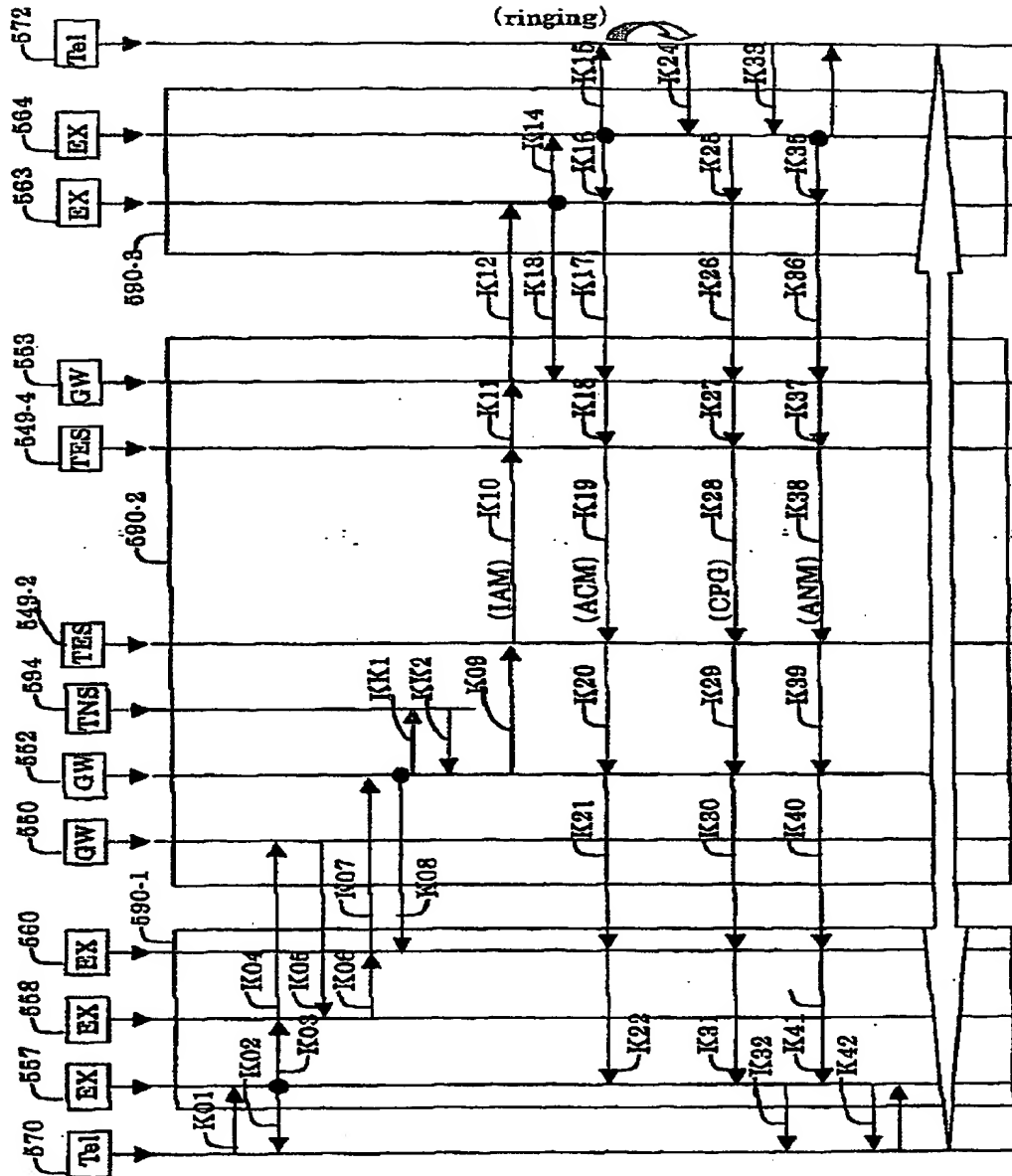
【図 188】



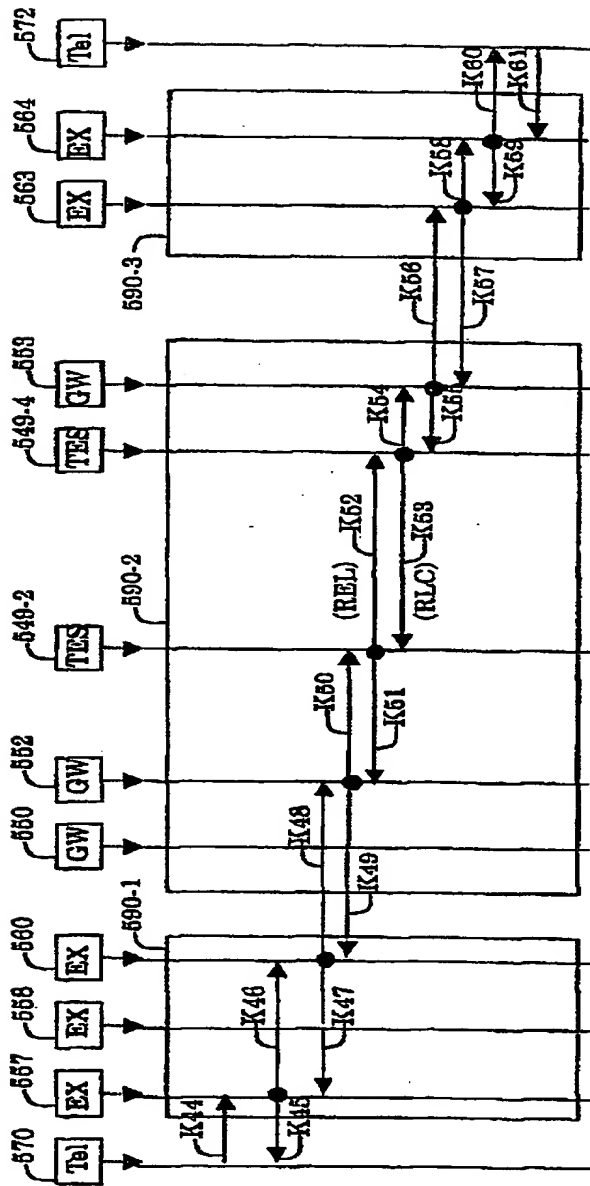
【図 189】



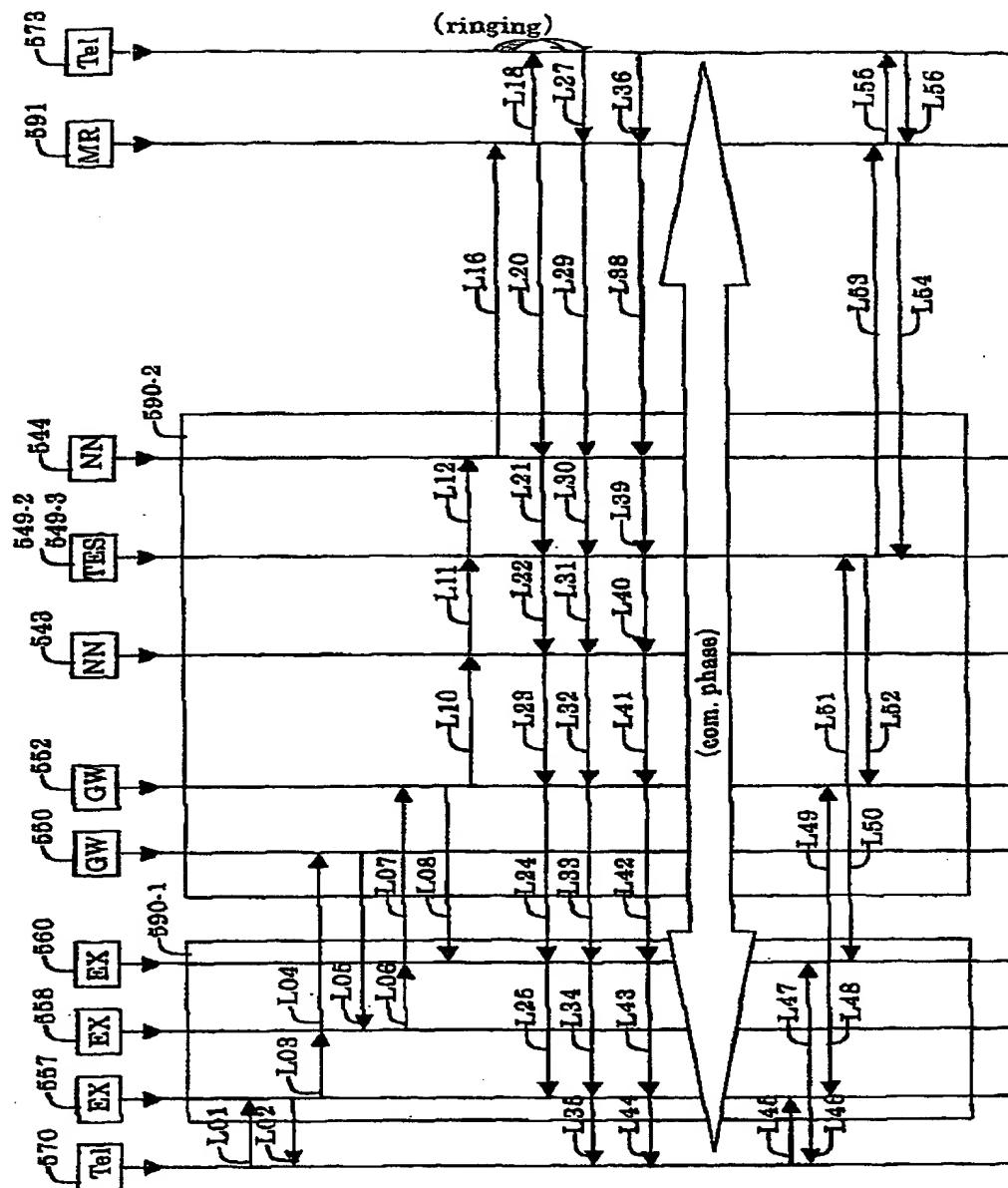
【図 190】



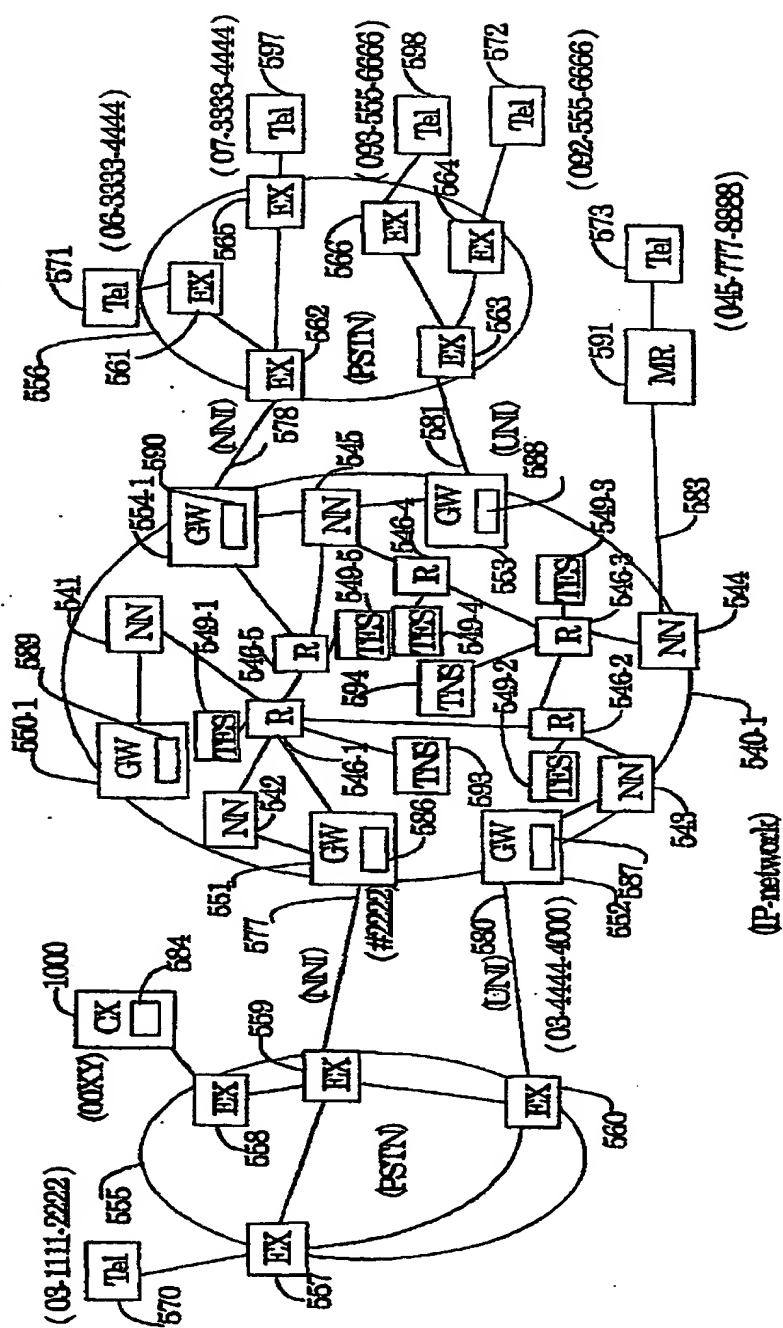
【図191】



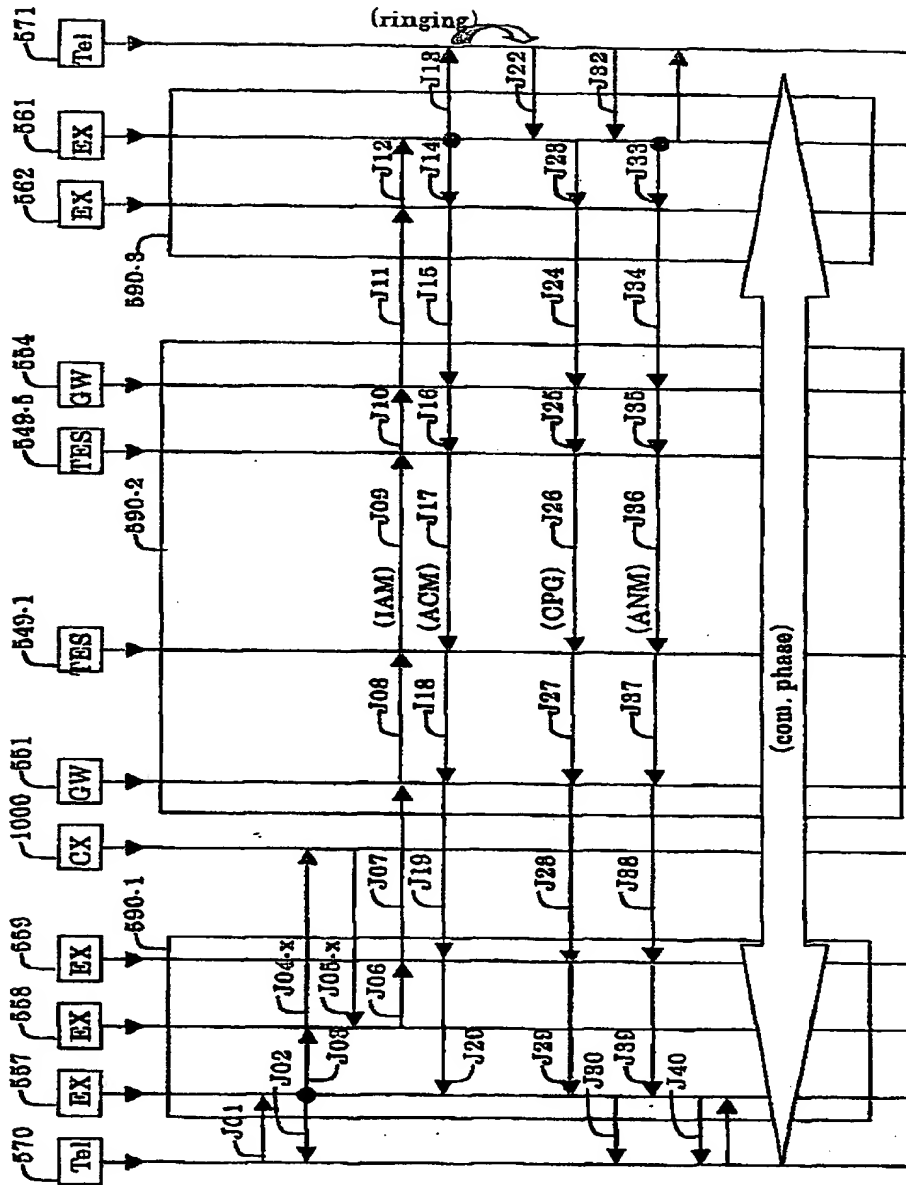
【図 192】



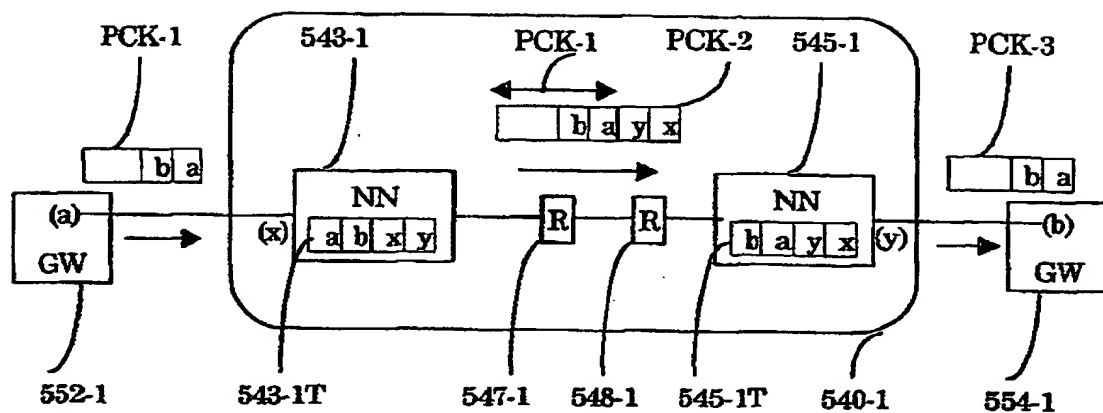
【図 193】



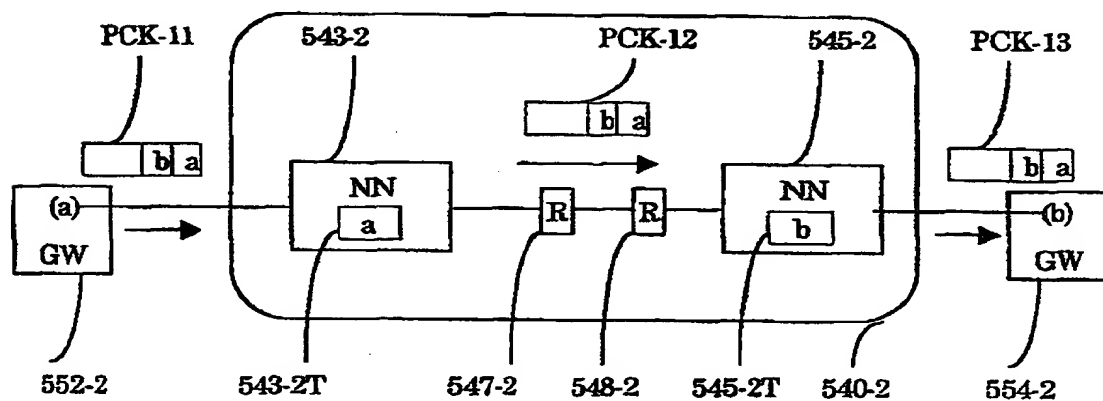
【図 194】



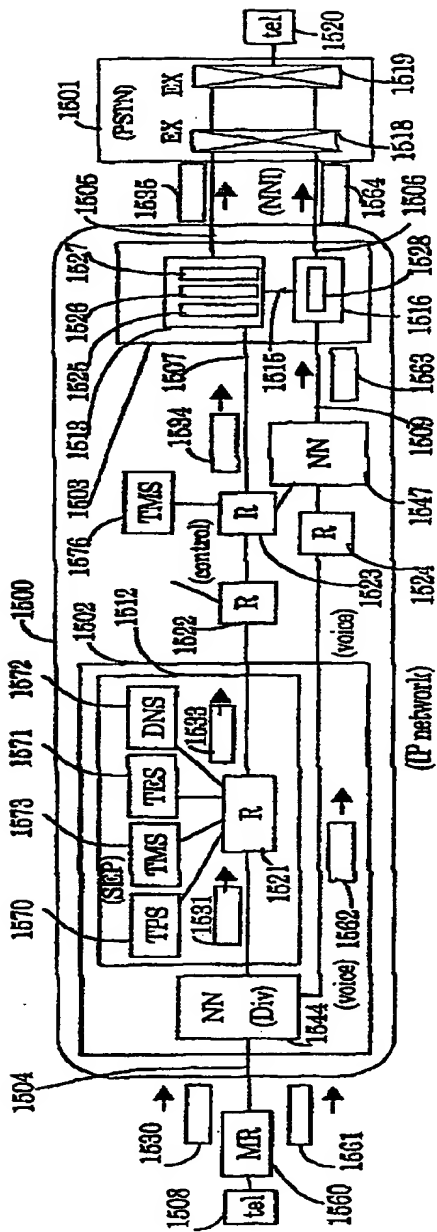
【図195】



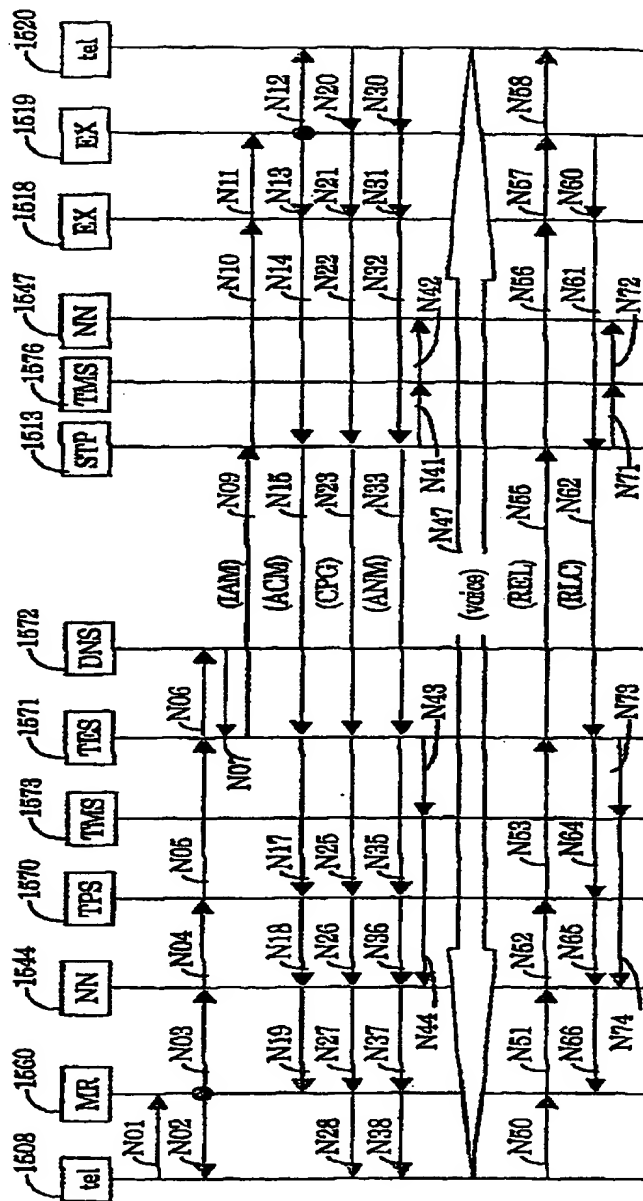
【図196】



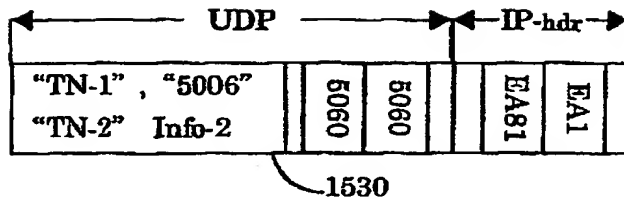
【图 197】



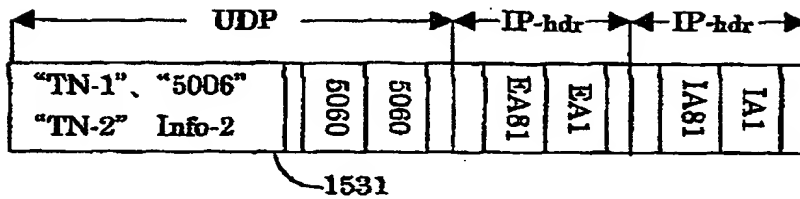
【図 198】



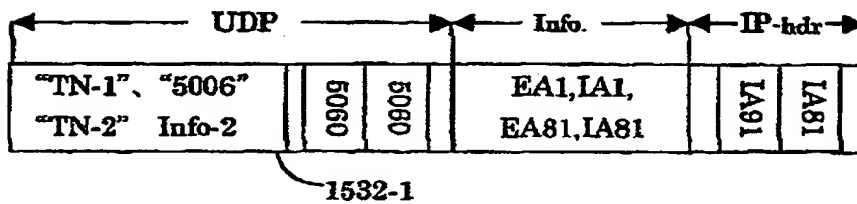
【図 199】



【図 200】



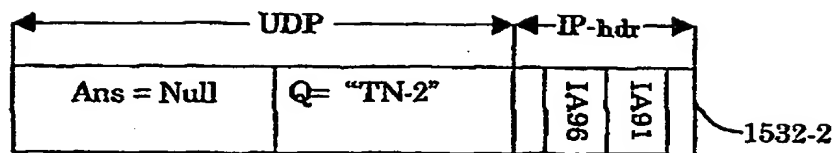
【図 201】



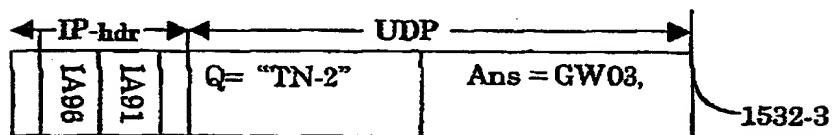
【図 202】

呼制御用 アドレス	CIC 番号	手順 区分	電話 番号	ユーザ用 アドレス	音声 ポート 番号	代理 SV アドレス	開始 時刻	終了 時刻
IA91		IAM	TN-1 TN-2	EA1,IA1	5006	EA81,IA81	St2	

【図 203】



【図 204】

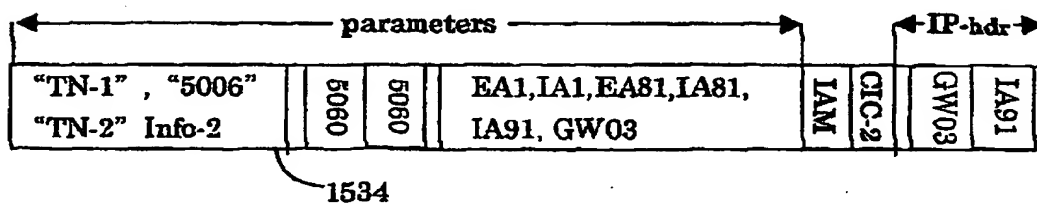


【図 205】

1571-2

呼制御用 アドレス	CIC 番号	手順 区分	電話 番号	ユーザ用 アドレス	音声 ポート 番号	代理 SV アドレス	開始 時刻	終了 時刻
IA91 GW03	CIC-2	IAM	TN-1 TN-2	EA1,IA1	5006	EA81,IA81	St2	
..

【図 206】



【図 207】

呼制御用 アドレス	CIC 番号	手順 区分	電話 番号	ユーザ用 アドレス	音声 ポート 番号	代理 SV アドレス	開始 時刻	終了 時刻
IA91 GW03	CIC-2	IAM	TN-1 TN-2	EA1,IA1	5006	EA81,IA81	St3	

【図 208】

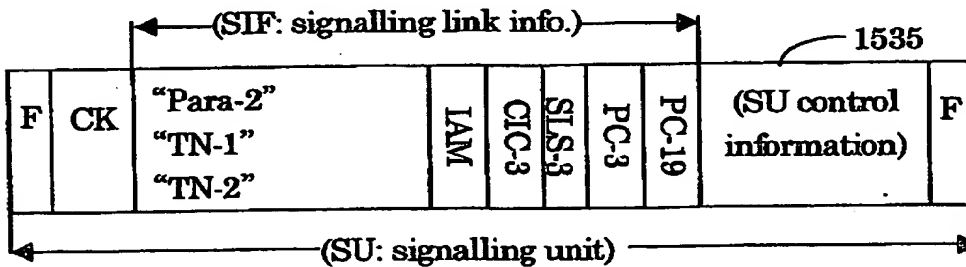
宛先電話番号の範囲	信号局コード
02-0000-0000~06-9999-9999	#1112
09-0000-0000~06-9999-9999	#1119
(default)	#1111

hex-decimal

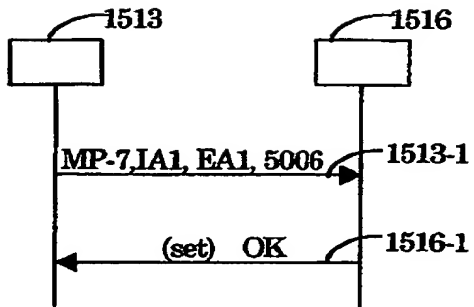
【図 209】

No.	PSTN1501				IPnet1500			MP-id
1	PC-3	PC-19	SLS-3	CIC-3	GW03	IA91	CIC-2	MP-7
2								

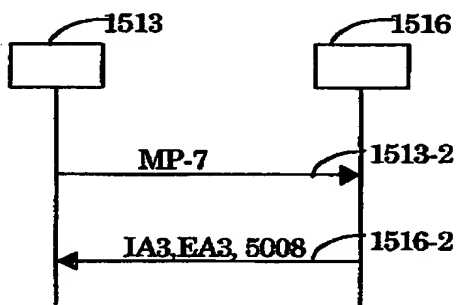
【図 210】



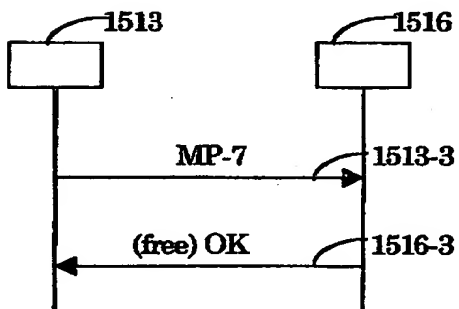
【図 2 1 1】



【図 2 1 2】



【図 2 1 3】



【図 2 1 4】

1528-1

MP-id	IP-i- Addr-d	IP-e- addr-d	Port -d	IP-i- Addr-o	IP-e- addr-o	Port -o	Channel -S	Channel -R
Null	—	—	—	—	—	—	—	—
..

【図 2 1 5】

1528-2

MP-id	IP-i- Addr-d	IP-e- addr-d	Port -d	IP-i- Addr-o	IP-e- addr-o	Port -o	Channel -S	Channel -R
MP-7	—	—	—	IA1	EA1	5006	CH-1	—
..

【図 2 1 6】

1528-3

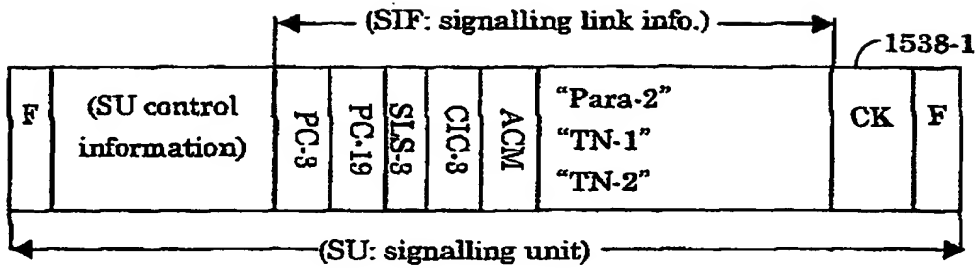
MP-id	IP-i- Addr-d	IP-e- addr-d	Port -d	IP-i- Addr-o	IP-e- addr-o	Port -o	Channel -S	Channel -R
MP-7	IA3	EA3	5008	IA1	EA1	5006	CH-1	CH-2
..

【図 2 1 7】

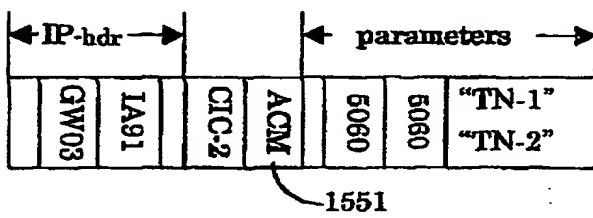
1513-2

呼制御用 アドレス	CIC 番号	手順 区分	電話 番号	ユーザ用 アドレス	ユーザ ポート 番号	代理 SV アドレス	開始 時刻	終了 時刻
IA91 GW03	CIC-2	IAM	TN-1 TN-2	EA1,IA1 EA3,IA3	5006 5008	EA81,IA81	St3	

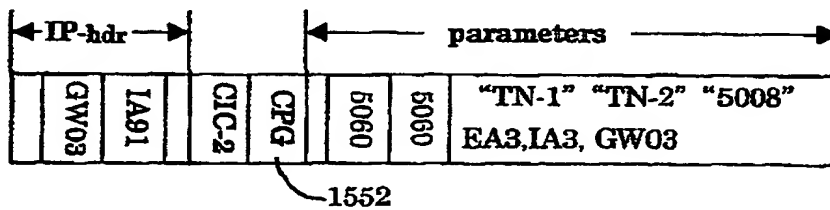
【図 2 1 8】



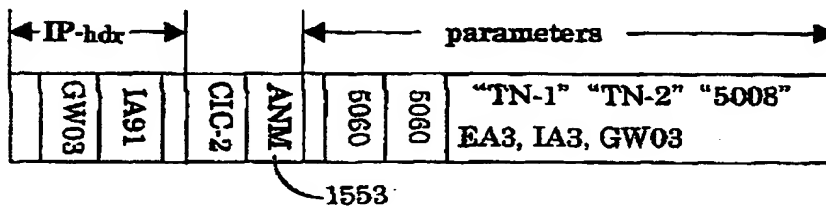
【図 2 1 9】



【図 2 2 0】



【図 2 2 1】

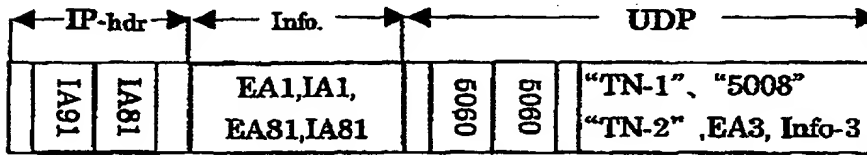


【図 2 2 2】

呼制御用 アドレス	CIC 番号	手順 区分	電話 番号	ユーザ用 アドレス	ユーザ ポート 番号	代理 SV アドレス	開始 時刻	終了 時刻
IA91 GW03	CIC-2	ANM	TN-1 TN-2	EA1,IA1 EA3,IA3	5006 5008	EA81,IA81	St3	

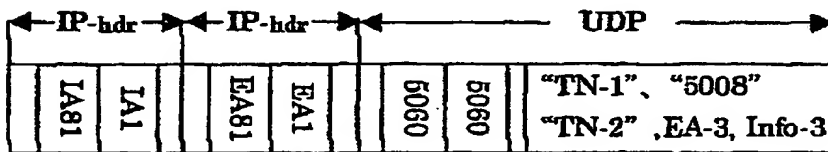
1513-3

【図 2 2 3】



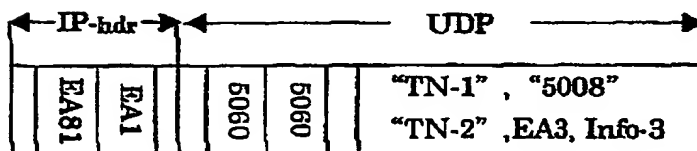
1554

【図 2 2 4】



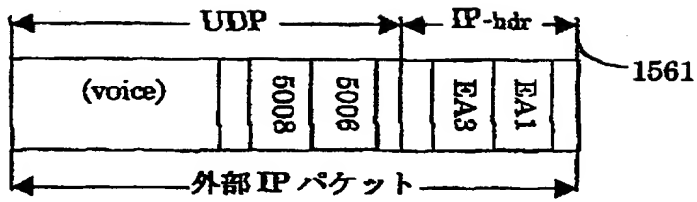
1555

【図 2 2 5】

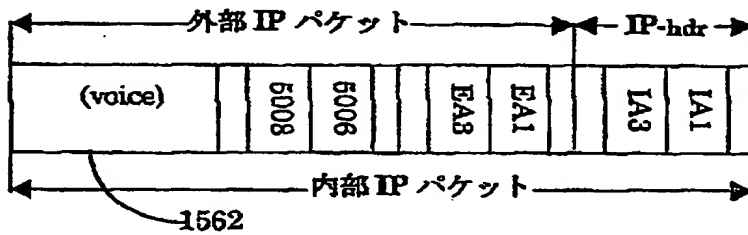


1556

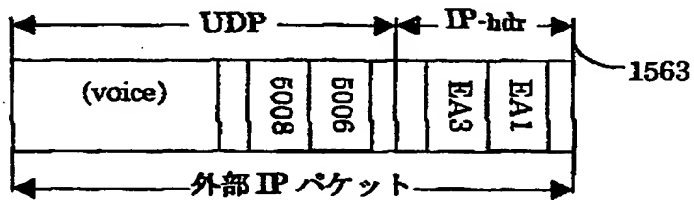
【図 2 2 6】



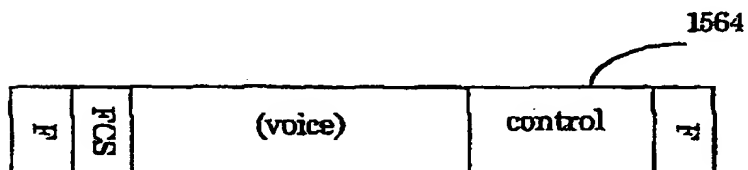
【図 2 2 7】



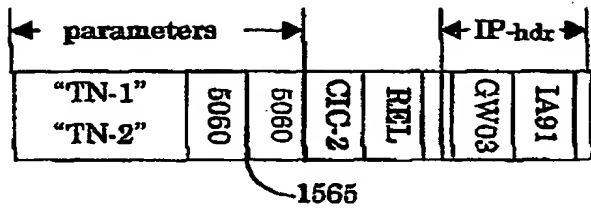
【図 2 2 8】



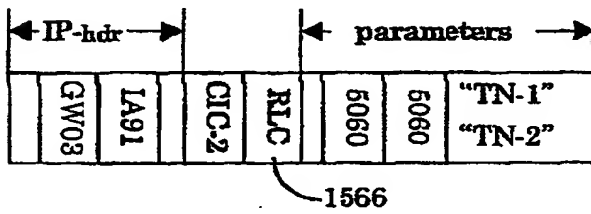
【図 2 2 9】



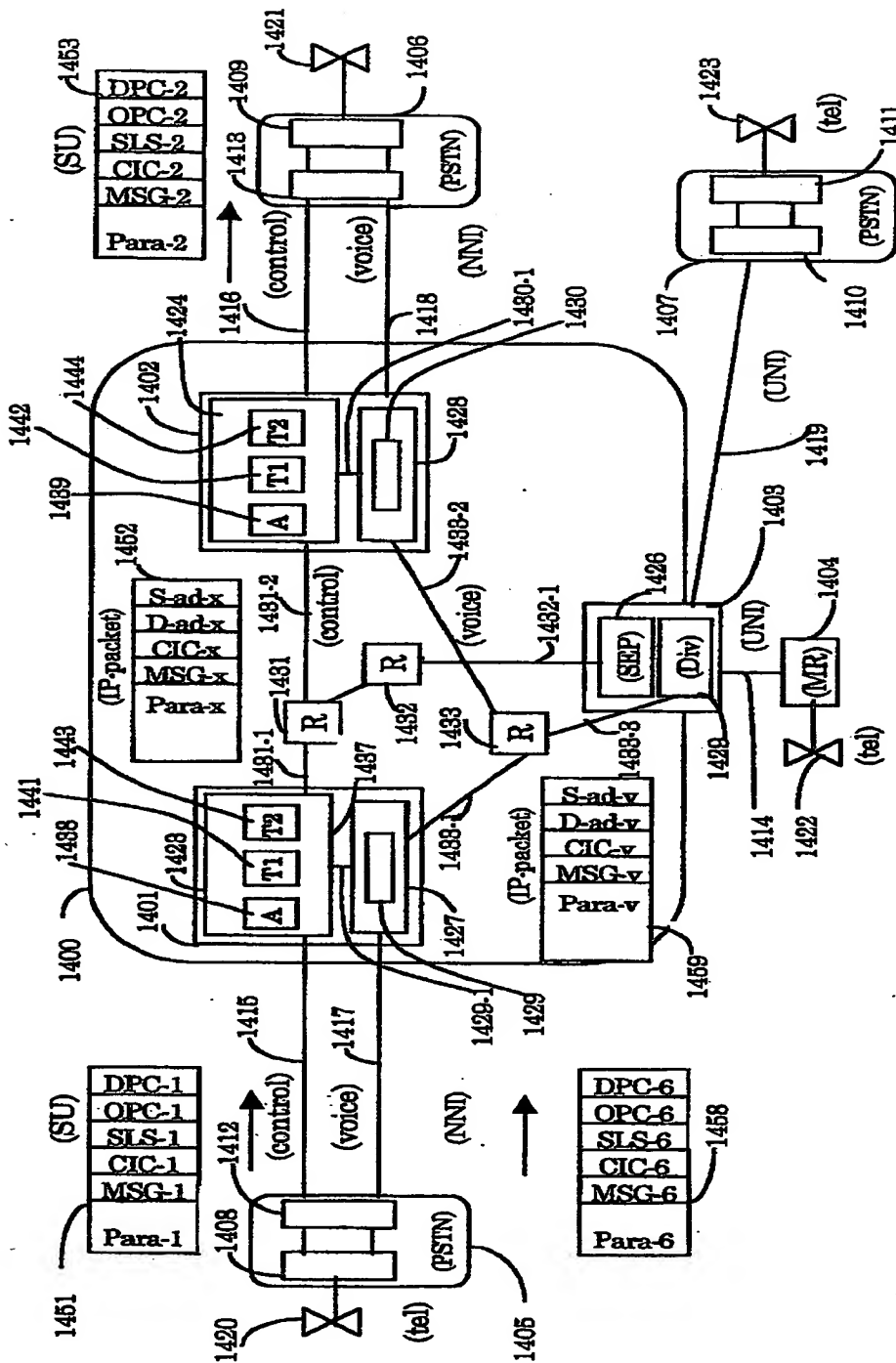
【図 2 3 0】



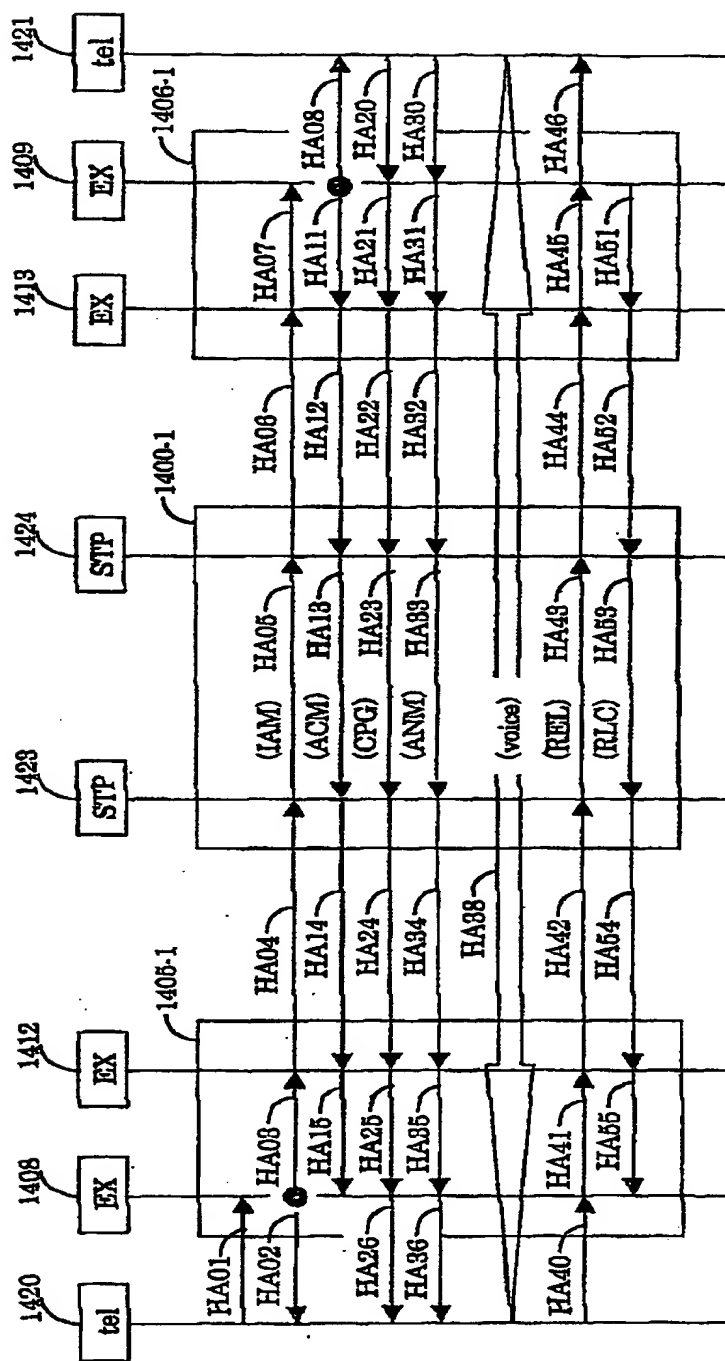
【図 2 3 1】



【図232】



【図 233】



【図 2 3 4】

1441-1

宛先電話番号の範囲	IP アドレス範囲
06-0000-0000～06-9999-9999	10.240.240.1～10.240.240.2
092-000-0000～092-999-9999	10.240.241.1～10.240.241.1
045-777-8880～045-777-8890	10.241.1.1 ～ 10.241.1.3
(default)	10.242.1.1

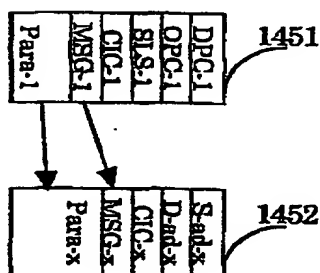
【図 2 3 5】

1444-2

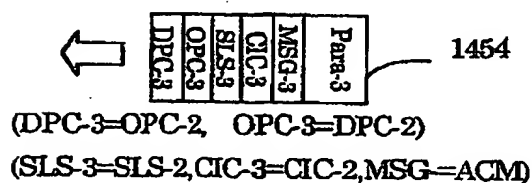
宛先電話番号の範囲	信号局コード
06-0000-0000～06-9999-9999	# 1111
092-000-0000～092-999-9999	# 1122
045-777-8880～045-777-8890	# 3344
(default)	# 1113

hex-decimal

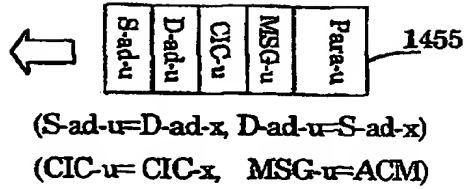
【図 2 3 6】



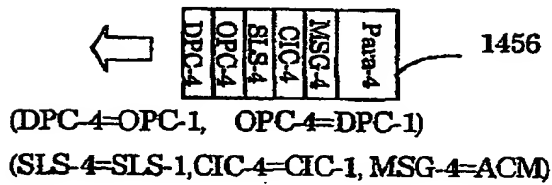
【図 2 3 7】



【図 2 3 8】



【図 2 3 9】



【図 2 4 0】

1423-1

呼制御用 アドレス	CIC 番号	手順 区分	電話 番号	ユーザ用 アドレス	ユーザ ポート 番号	代理 SV アドレス	開始 時刻	終了 時刻
GW05	CIC-2	IAM	TN-1 TN-2	EA5,IA5	5010		St5	

【図 2 4 1】

1424-1

呼制御用 アドレス	CIC 番号	手順 区分	電話 番号	ユーザ用 アドレス	ユーザ ポート 番号	代理 SV アドレス	開始 時刻	終了 時刻
GW06 GW05	CIC-2	ANM	TN-1 TN-2	EA5,IA5	5010		St6	

【図 2 4 2】

1424-2

呼制御用 アドレス	CIC 番号	手順 区分	電話 番号	ユーザ用 アドレス	ユーザ ポート 番号	代理 SV アドレス	開始 時刻	終了 時刻
GW06 GW05	CIC-2	CPG	TN-1 TN-2	EA6,IA6 EA5,IA5	5012 5010		St6	

【図 2 4 3】

1423-2

呼制御用 アドレス	CIC 番号	手順 区分	電話 番号	ユーザ用 アドレス	ユーザ ポート 番号	代理 SV アドレス	開始 時刻	終了 時刻
GW05 GW06	CIC-2	CPG	TN-1 TN-2	EA5,IA5 EA6,IA6	5010 5012		St5	

【図 2 4 4】

1438-1

No.	PSTN1405				IPnet1400			MP-id
1								
2								

【図 2 4 5】

1438-2

No.	PSTN1405				IPnet1400			MP-id
1	DPC-1	OPC-1	SLS-1	CIC-1	S-ad-x	D-ad-x	CIC-x	MP-8
2								

【図 246】

1439-1

No.	PSTN1406				IPnet1400			MP-id
1								
2								

【図 247】

1439-2

No.	PSTN1406				IPnet1400			MP-id
1	OPC-2	DPC-2	SLS-2	CIC-2	D-ad-x	S-ad-x	CIC-x	MP-9
2								

【図 248】

1429-1

MP-id	IP-i- Addr-d	IP-e- addr-d	Port -d	IP-i- Addr-o	IP-e- addr-o	Port -o	Channel -S	Channel -R
MP-8	IA5	EA5	5010	-	-	-	CH-1	CH-2
..

【図 249】

1430-1

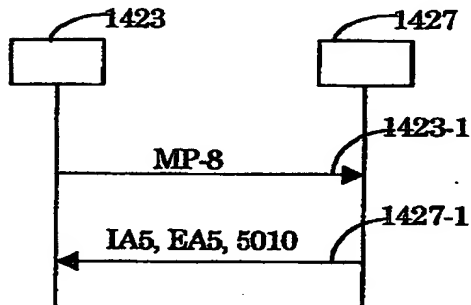
MP-id	IP-i- Addr-d	IP-e- addr-d	Port -d	IP-i- Addr-o	IP-e- addr-o	Port -o	Channel -S	Channel -R
MP-9	IA6	EA6	5012	IA5	EA5	5010	CH-3	CH-4
..

【図 2 5 0】

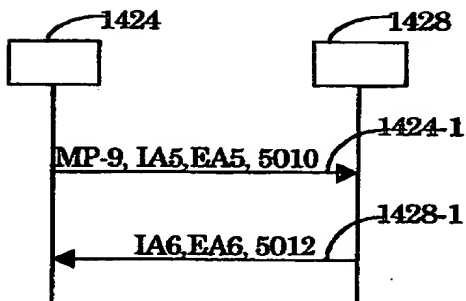
MP-id	IP-i- Addr-d	IP-e- addr-d	Port -d	IP-i- Addr-o	IP-e- addr-o	Port -o	Channel -S	Channel -R
MP-8	IA5	EA5	5010	IA6	EA6	5012	CH-1	CH-2
..

1429-2

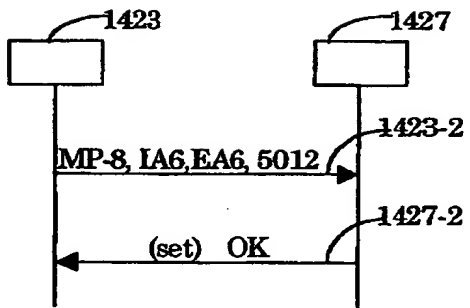
【図 2 5 1】



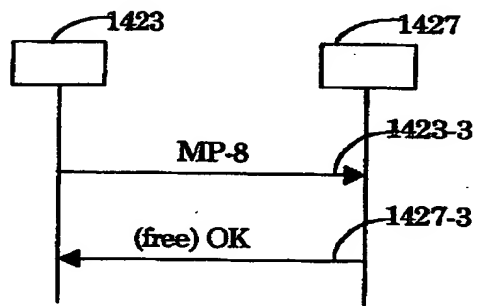
【図 2 5 2】



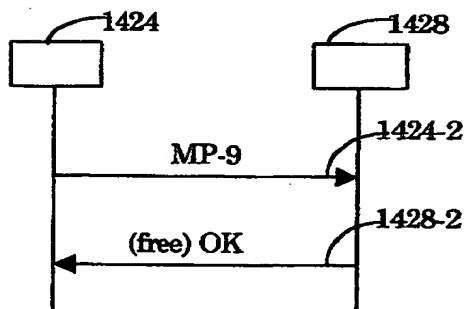
【図 2 5 3】



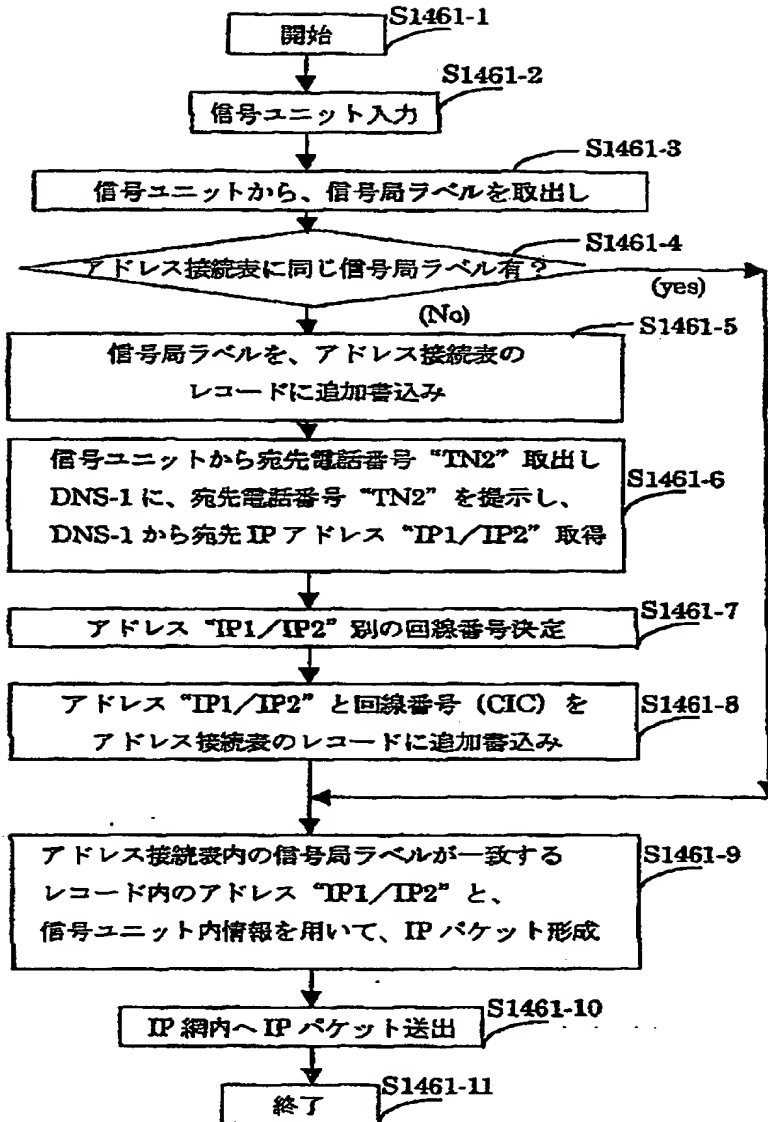
【図 2 5 4】



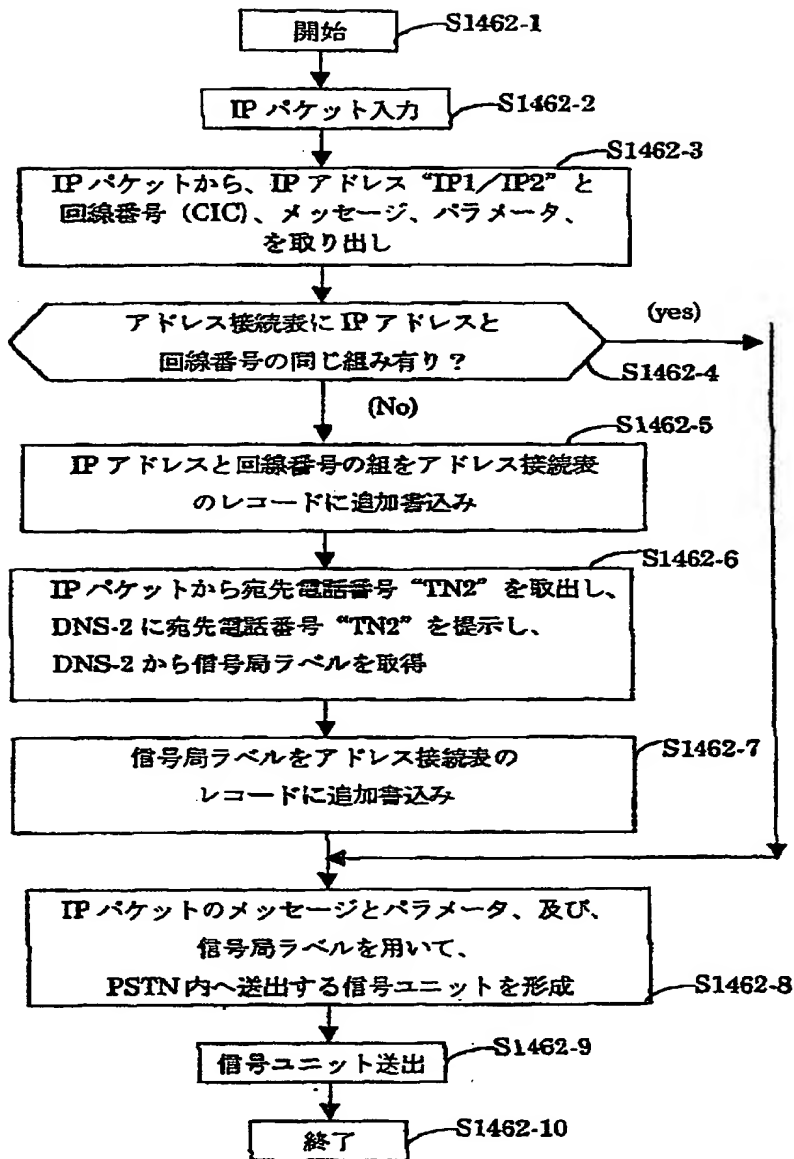
【図 2 5 5】



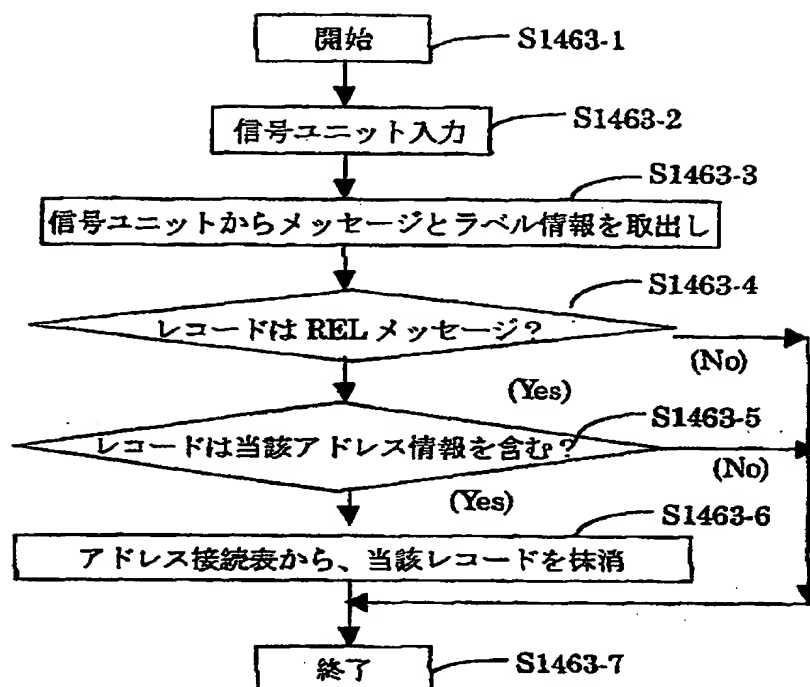
【図 256】



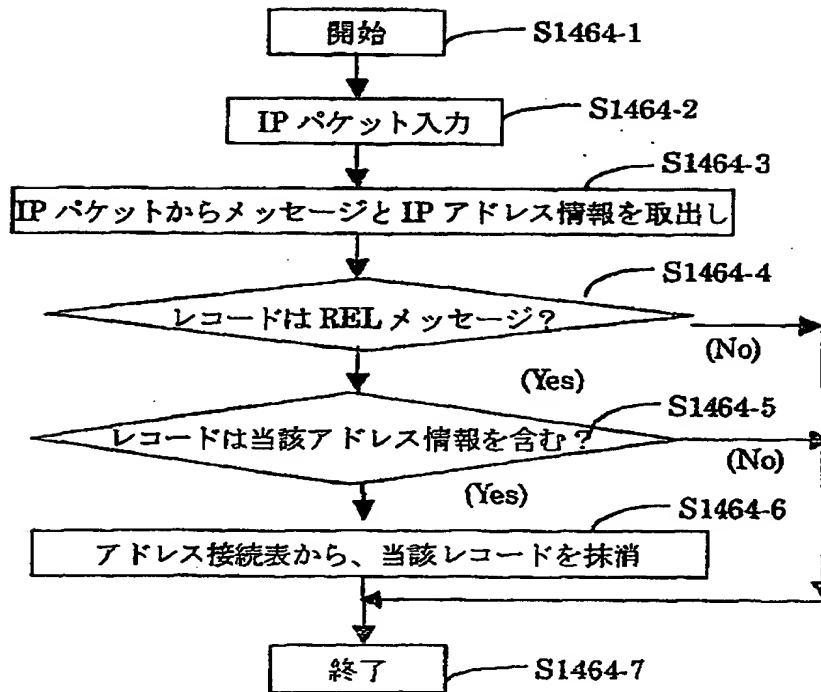
【図 257】



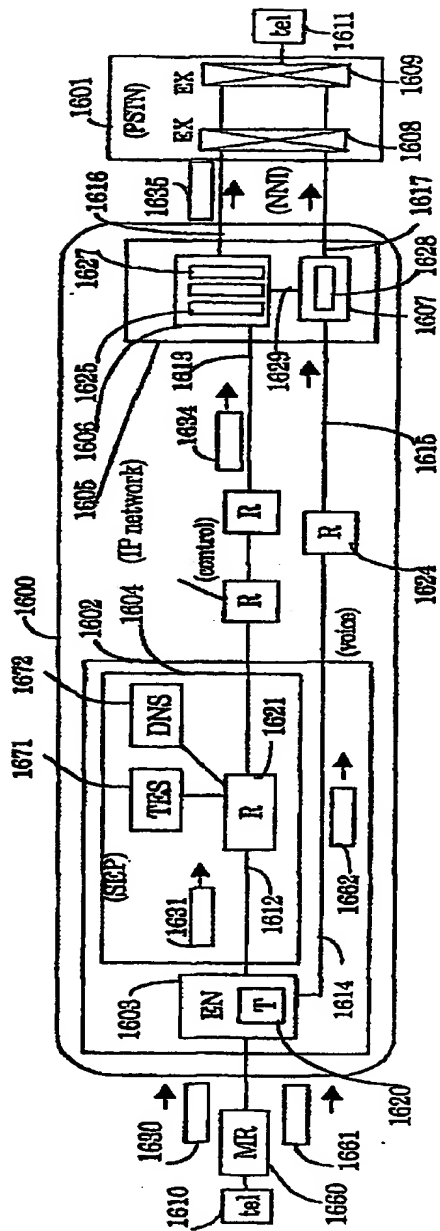
【図 258】



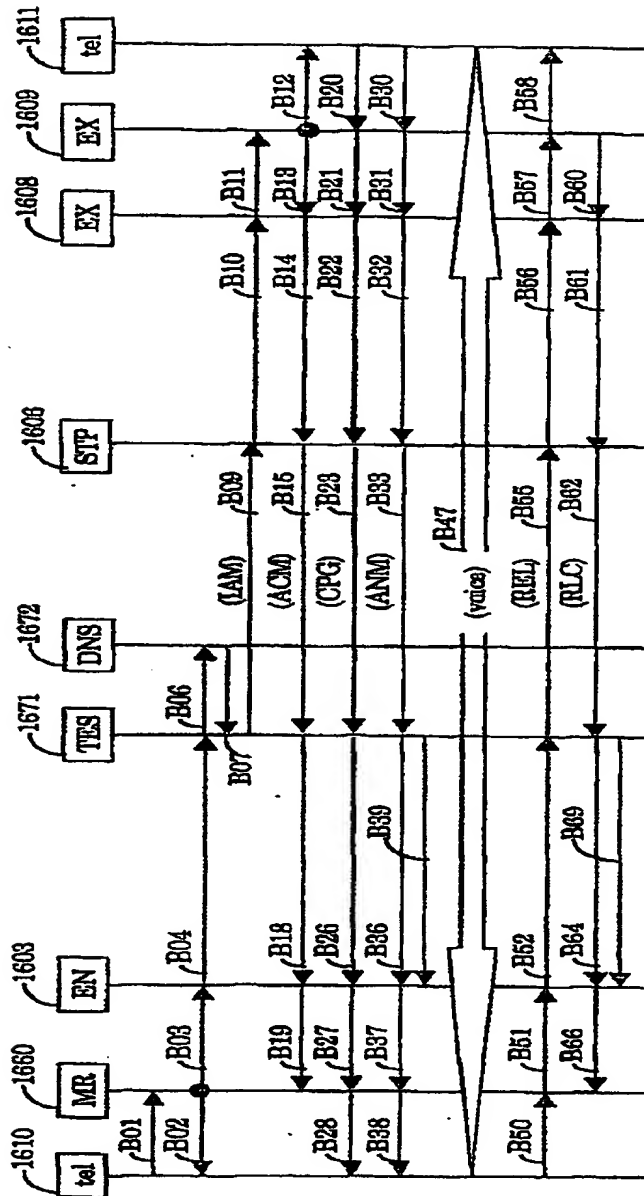
【図 259】



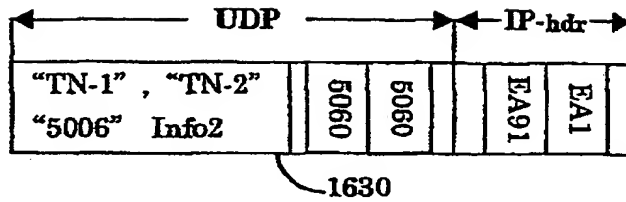
【図 2 6 0】



【図 261】



【図 262】



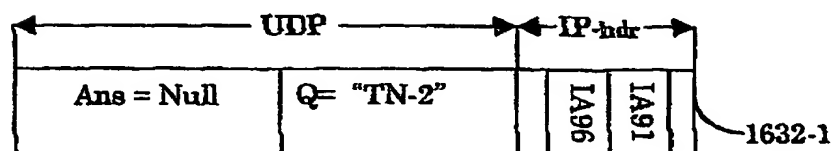
【図 263】

Source IP address	Source Port No	Dest. IP address	Dest. Port No	Output I/F
EA1	5060	EA91	5060	IF1612
EA23	5060	EA91	5060	IF1612
Null				
..				

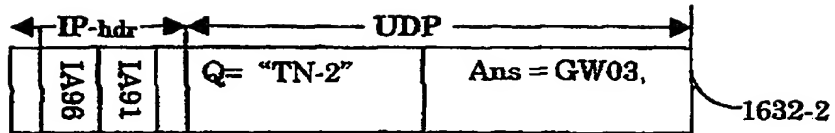
【図 264】

呼制御用 アドレス	CIC 番号	手順 区分	電話 番号	外部 IP アドレス	ポート 番号	開始 時刻	終了 時刻
IA91		IAM	TN-1 TN-2	EA1	5006	St6	

【図 265】



【図 266】

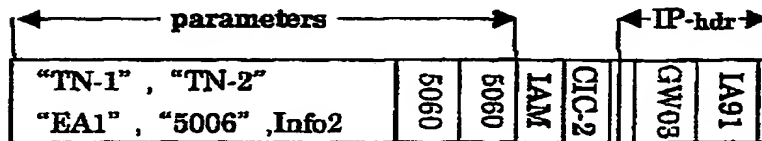


【図 267】

呼制御用 アドレス	CIC 番号	手順 区分	電話 番号	外部 IP アドレス	ポート 番号	開始 時刻	終了 時刻
IA91 GW03	CIC-2	IAM	TN-1 TN-2	EA1	5006	St6	

1671-2

【図 268】



1634

【図 269】

呼制御用 アドレス	CIC 番号	手順 区分	電話 番号	外部 IP アドレス	ポート 番号	開始 時刻	終了 時刻
IA91 GW03	CIC-2	IAM	TN-1 TN-2	EA1	5006	St7	

1605-1

【図 270】

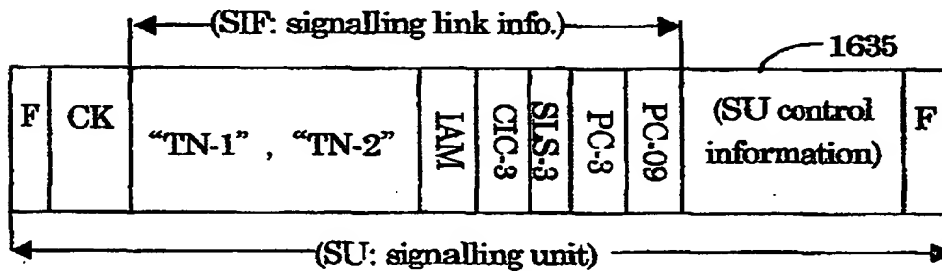
宛先電話番号の範囲	信号局コード
02-0000-0000~06-9999-9999	#1112
09-0000-0000~06-9999-9999	#1119
(default)	#1111

hex-decimal

【図 271】

No.	PSTN1501				IPnet1500			MP-id
1	PC-3	PC-09	SLS-3	CIC-3	GW03	IA91	CIC-2	MP-7
2								

【図 272】



【図 273】

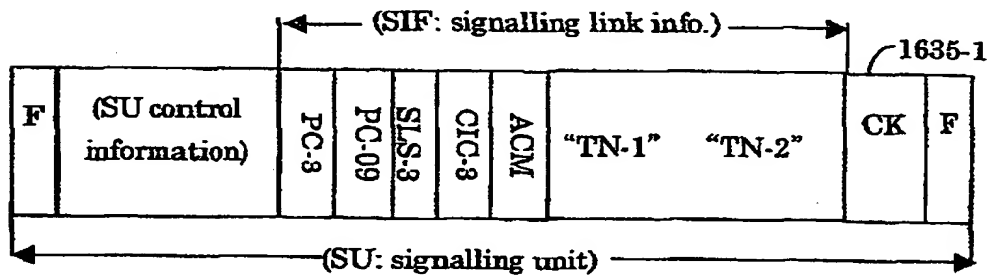
MP-id	IP-addr-d	Port-d	IP-addr-o	Port-o	Channel-S	Channel-R
MP-7			EA1	5006	CH-1	
..

【図 274】

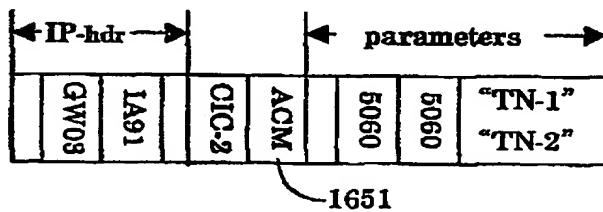
MP-id	IP-addr-d	Port-d	IP-addr-o	Port-o	Channel-S	Channel-R
MP-7	EA7	5008	EA1	5006	CH-1	CH-2
..

1628-2

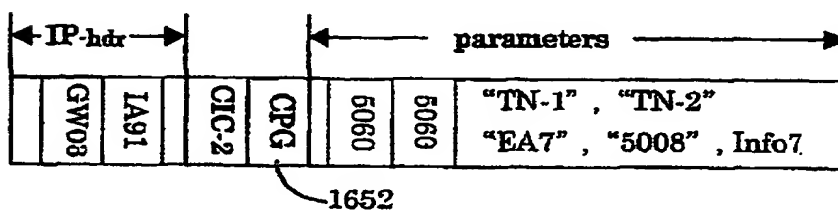
【図 275】



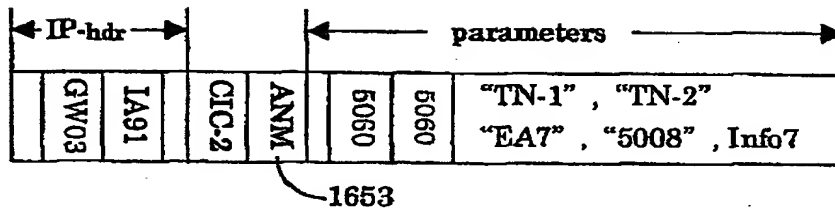
【図 276】



【図 277】



【図 278】



【図 279】

1605-2

呼制御用 アドレス	CIC 番号	手順 区分	電話 番号	外部 IP アドレス	ポート 番号	開始 時刻	終了 時刻
IA91 GW03	CIC-2	ANM	TN-1 TN-2	EA1 EA7	5006 5008	St7	

【図 280】

1671-3

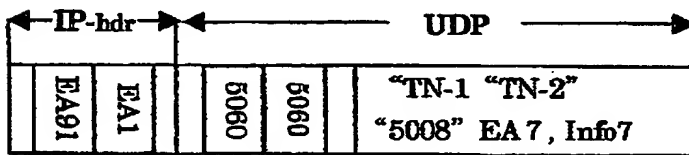
呼制御用 アドレス	CIC 番号	手順 区分	電話 番号	外部 IP アドレス	ポート 番号	開始 時刻	終了 時刻
IA91 GW03	CIC-2	ANM	TN-1 TN-2	EA1 EA7	5006 5008	St6	

【図 2 8 1】

Source IP address	Source Port No	Dest. IP address	Dest. Port No	Output I/F
EA1	5060	EA91	5060	IF1612
EA23	5060	EA91	5060	IF1612
EA1	5006	EA7	5008	IF1614
Null				
..				

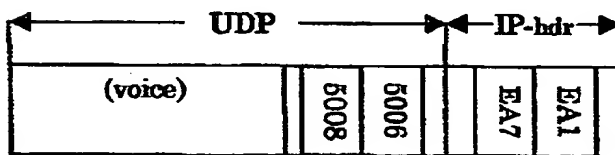
1620-2

【図 2 8 2】



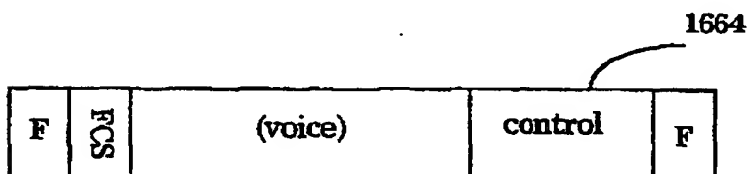
1656

【図 2 8 3】



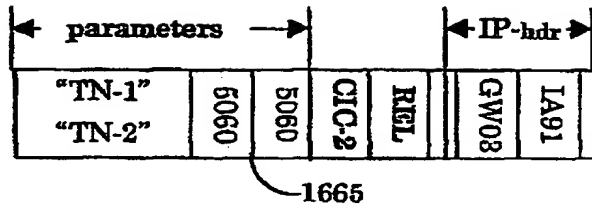
1661

【図 2 8 4】

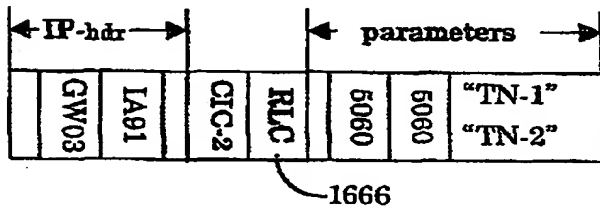


1664

【図 2 8 5】



【図 2 8 6】

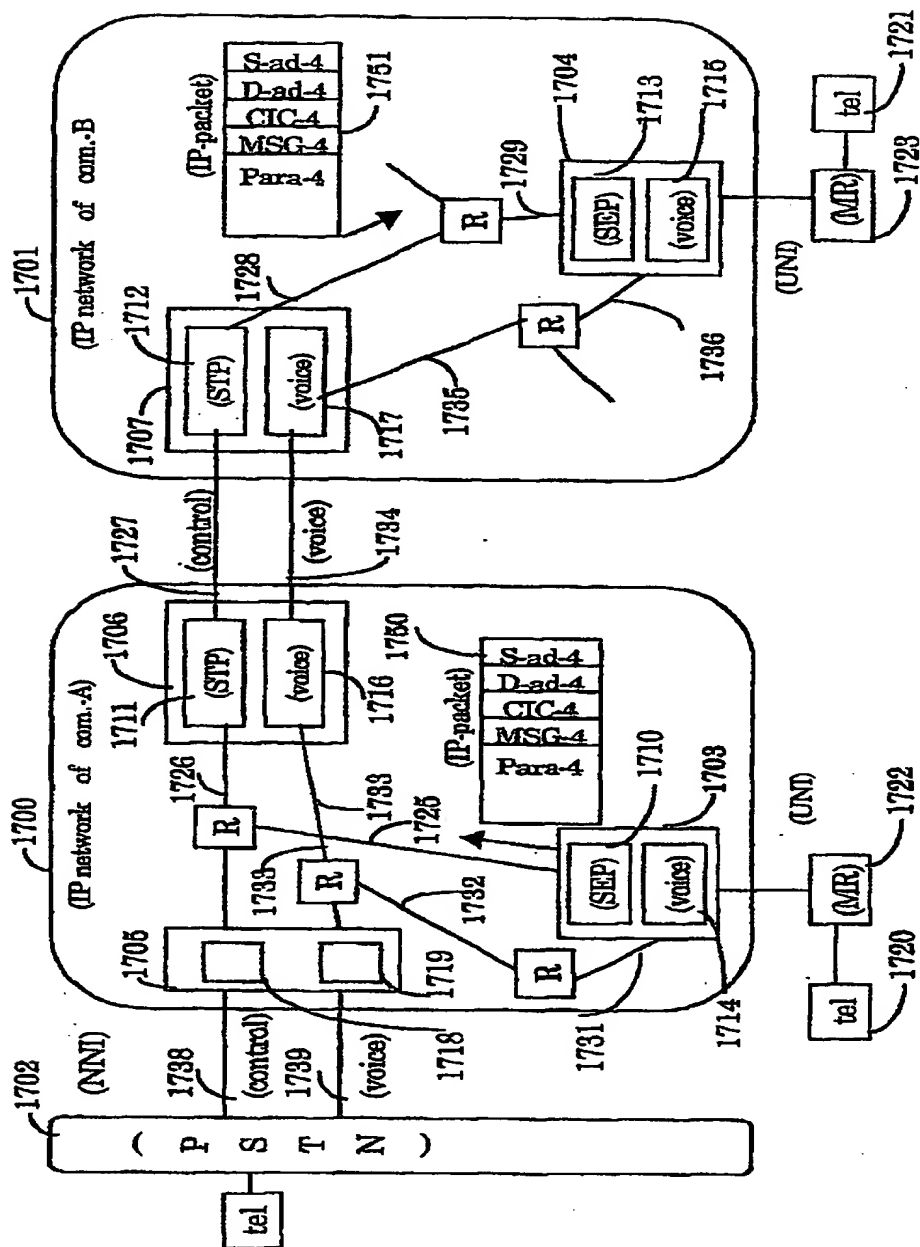


【図 2 8 7】

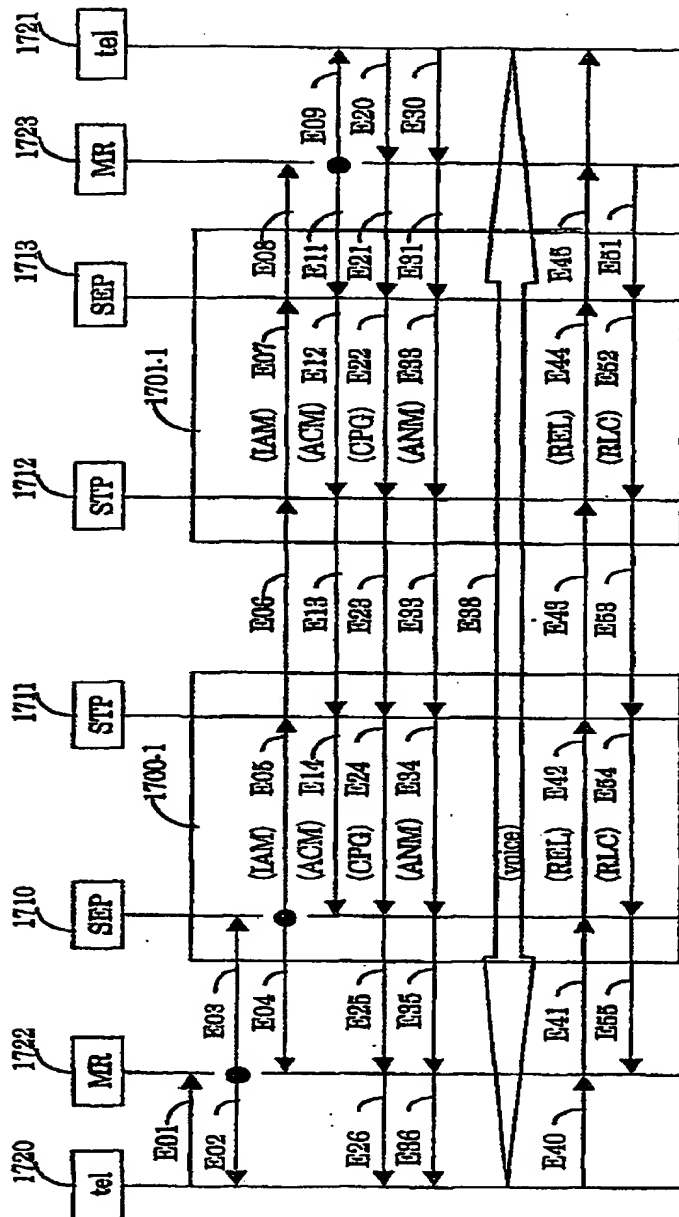
Output I/F	Port No
IF1631	5060
IF1632	From 5004 to5048,
..	..

1620-3

【図288】



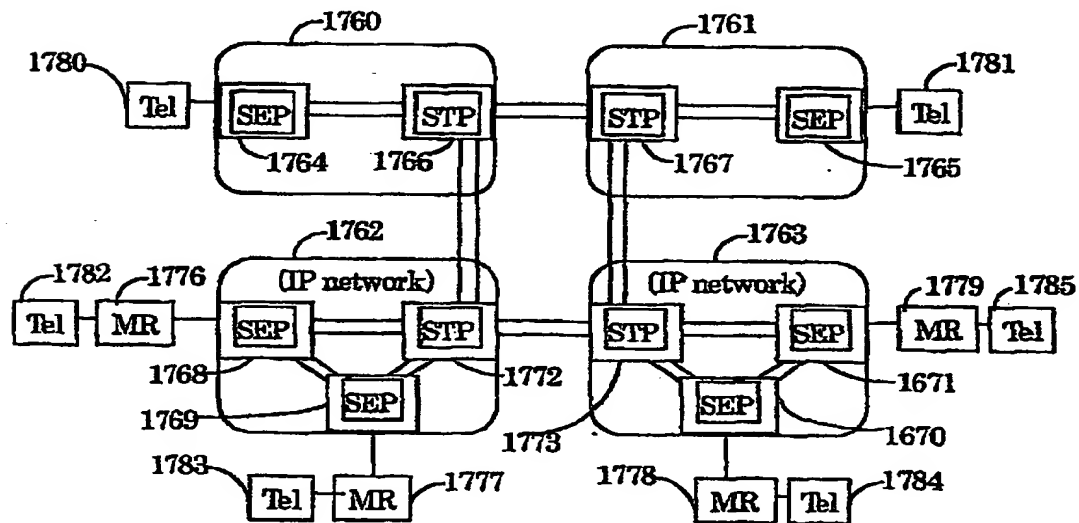
【図 289】



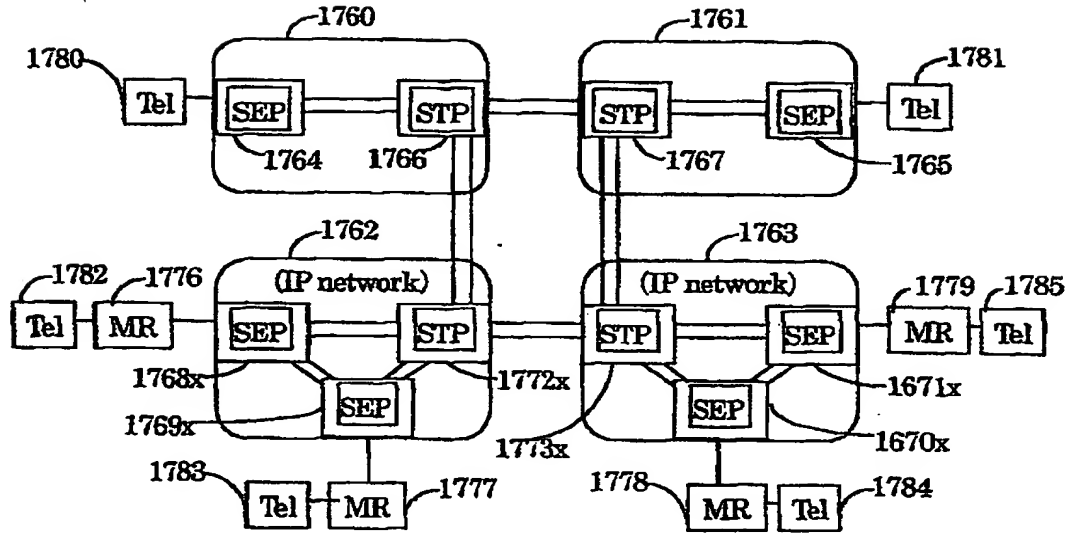
【図 290】

呼制御用 アドレス	CIC 番号	手順 区分	電話 番号	外部 IP アドレス	ポート 番号	開始 時刻	終了 時刻
D-ad-4 S-ad-4	CIC-4	IAM	TN-1 TN-2	EA1722	5014	St5	

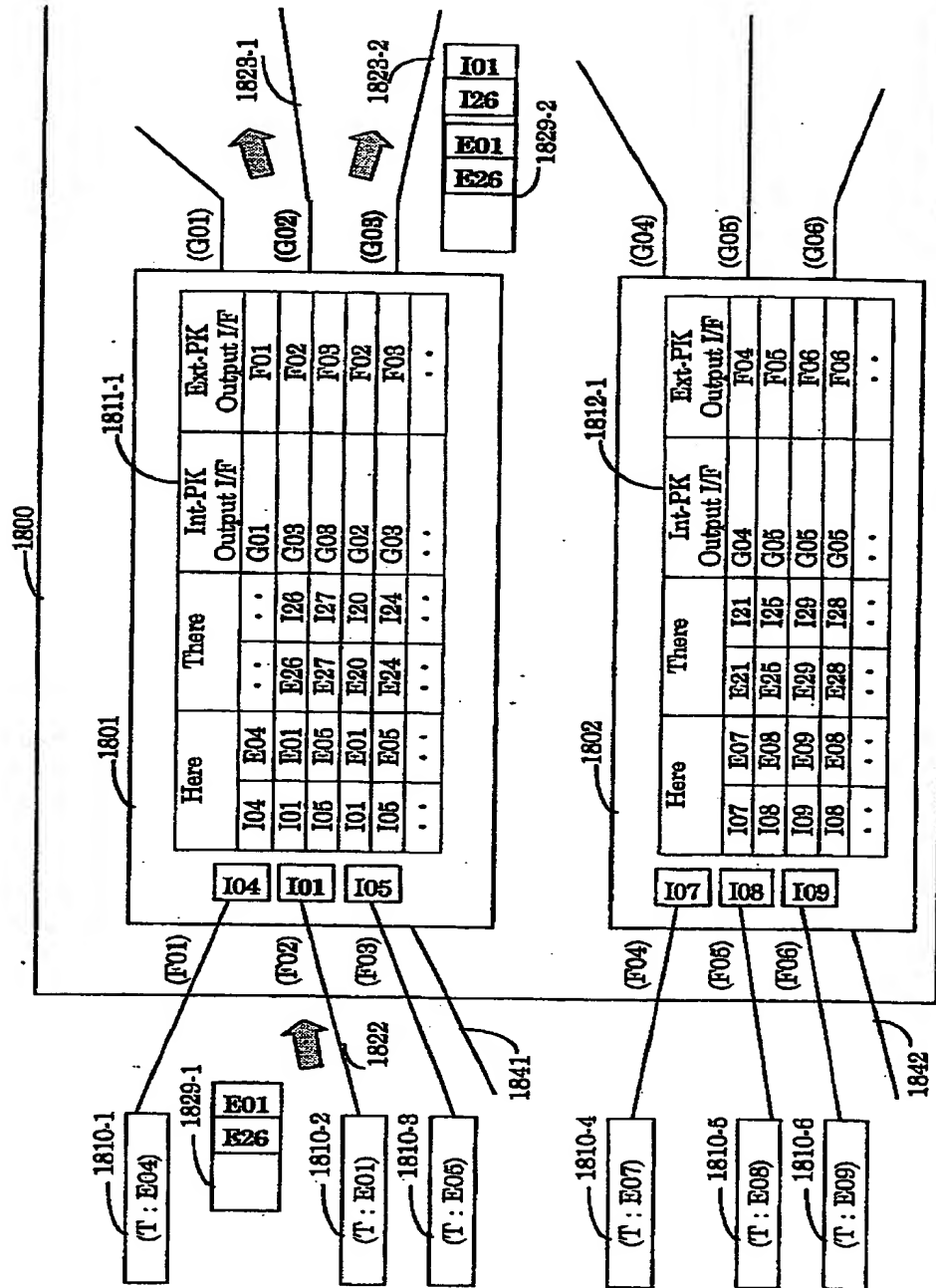
【図 291】



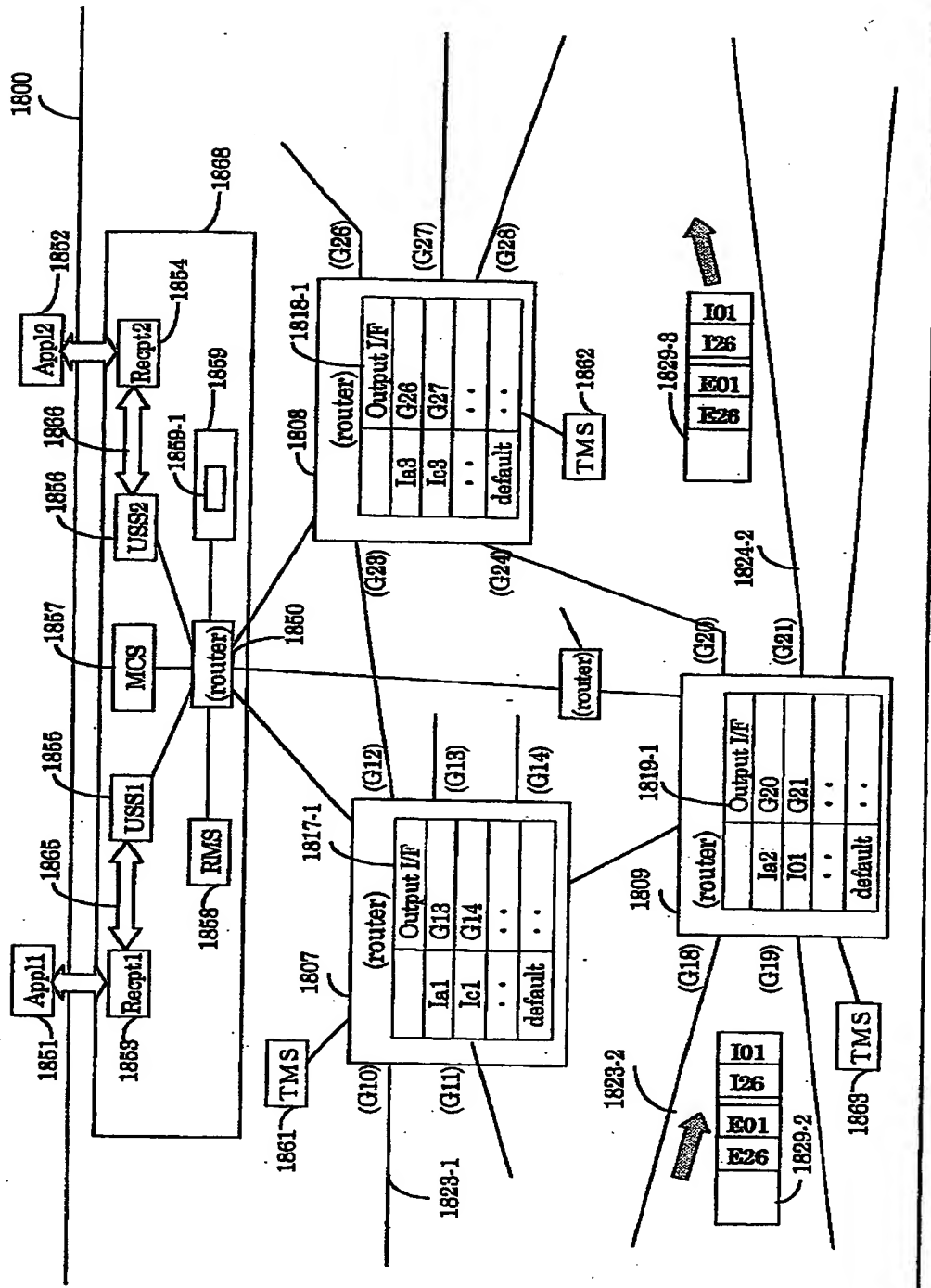
【図 2 9 2】



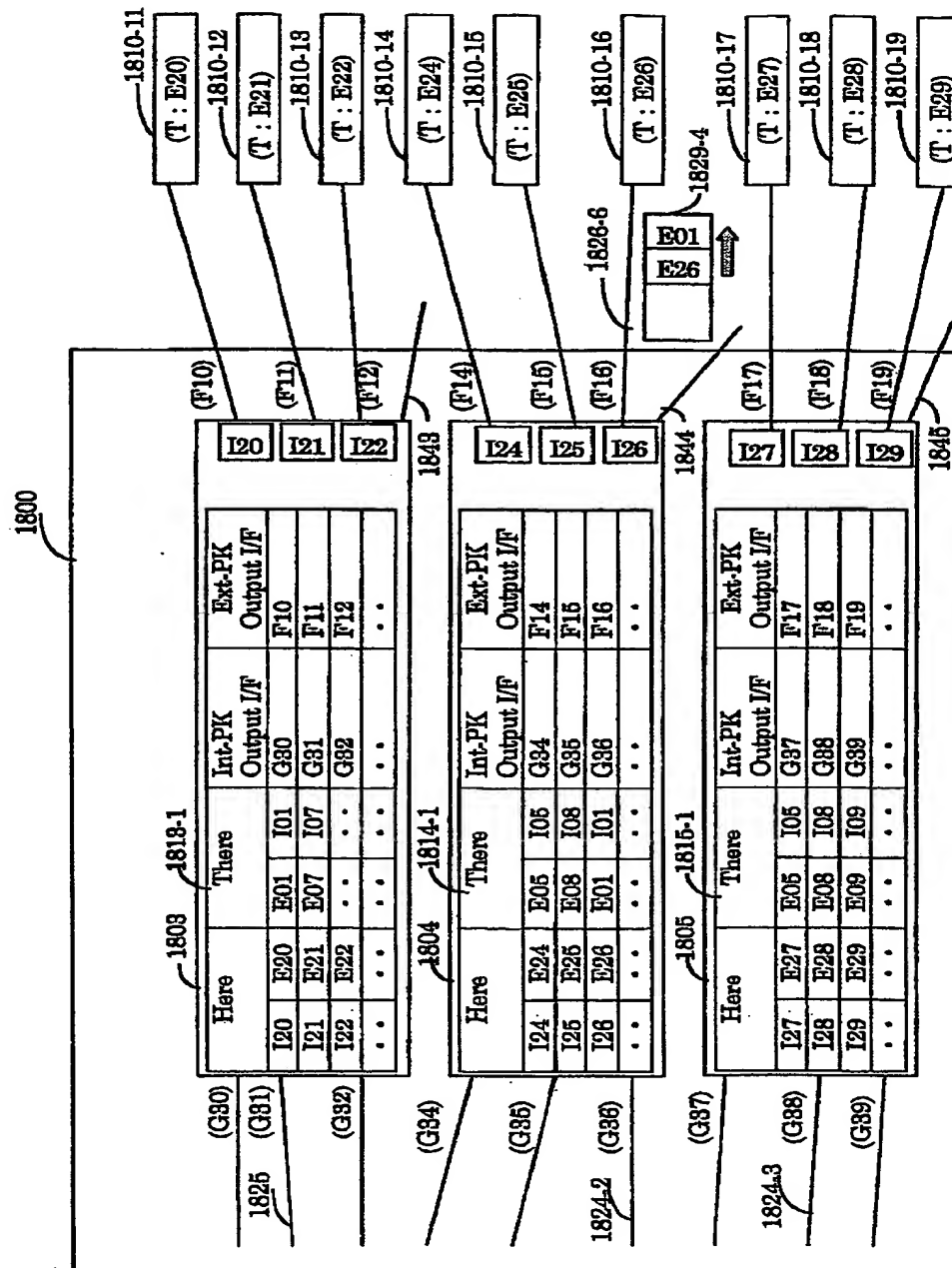
【図 293】



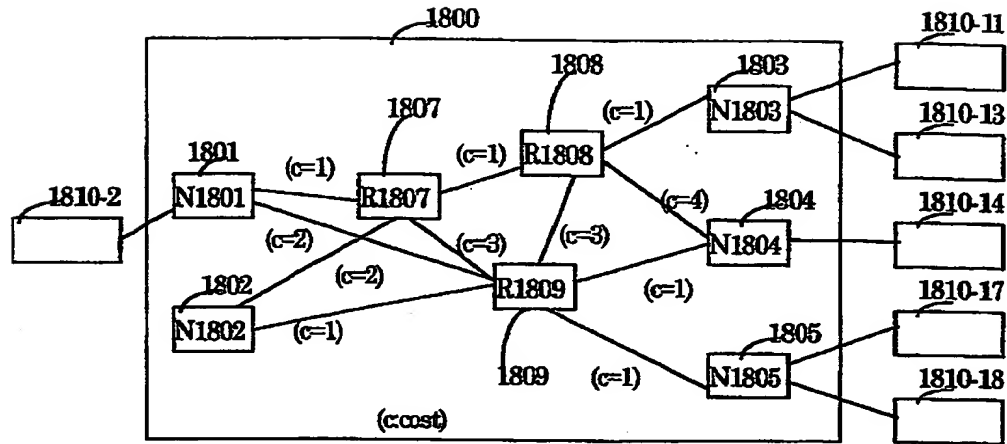
【図 294】



【図 295】



【図 296】



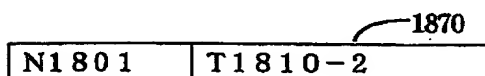
【図 297】

1869

	N1801	N1802	N1803	N1804	N1805	R1807	R1808	R1809	.
N1801						1		2	.
N1802						2		1	.
N1803							1		.
N1804							4	1	.
N1805								1	.
R1807	1	2					1	3	
R1808			1	4		1		3	.
R1809	2	1		1	1	3	3		
..

(note: blank = no connection)

【図 298】

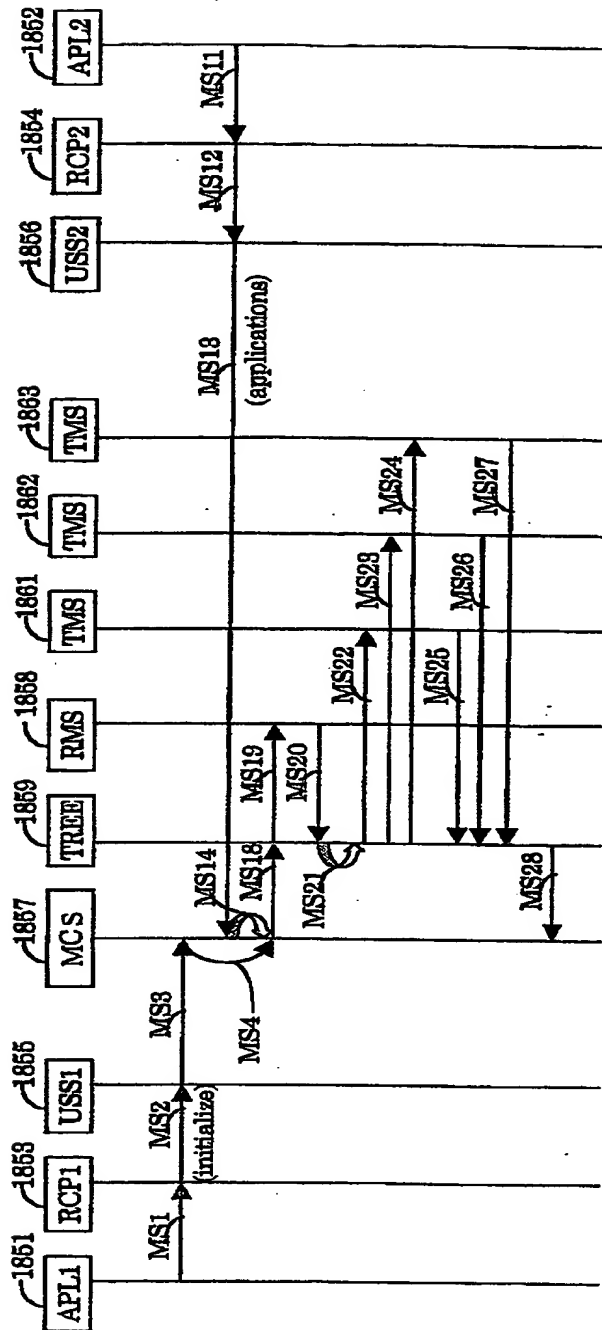


【図299】

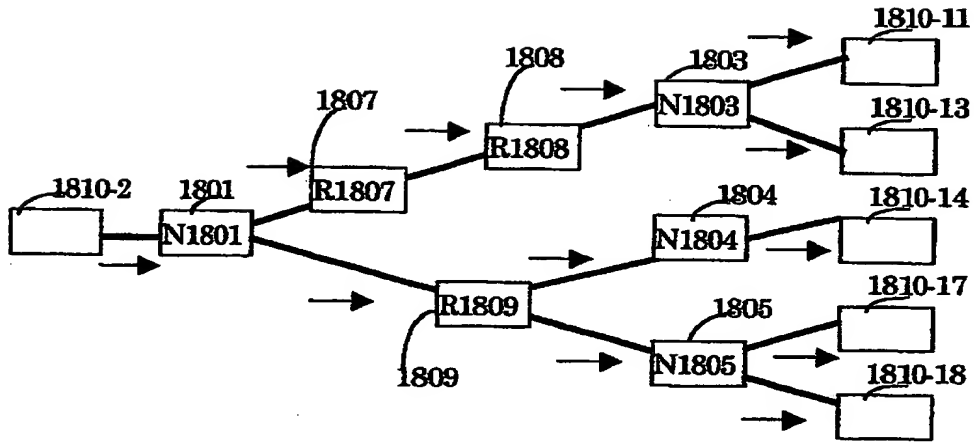
1871

N1803	T1810-11、T1810-13
N1804	T1810-14
N1805	T1810-17、T1810-18

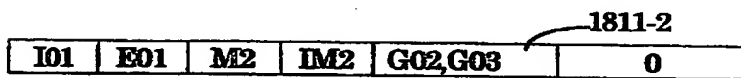
【図 3 0 0】



【図 3 0 1】



【図 3 0 2】



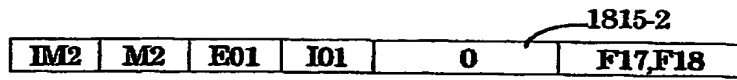
【図 3 0 3】



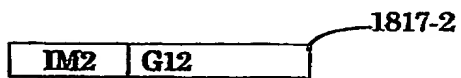
【図 3 0 4】



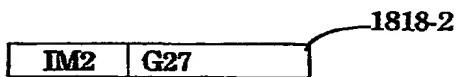
【図305】



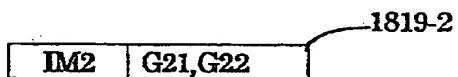
【図306】



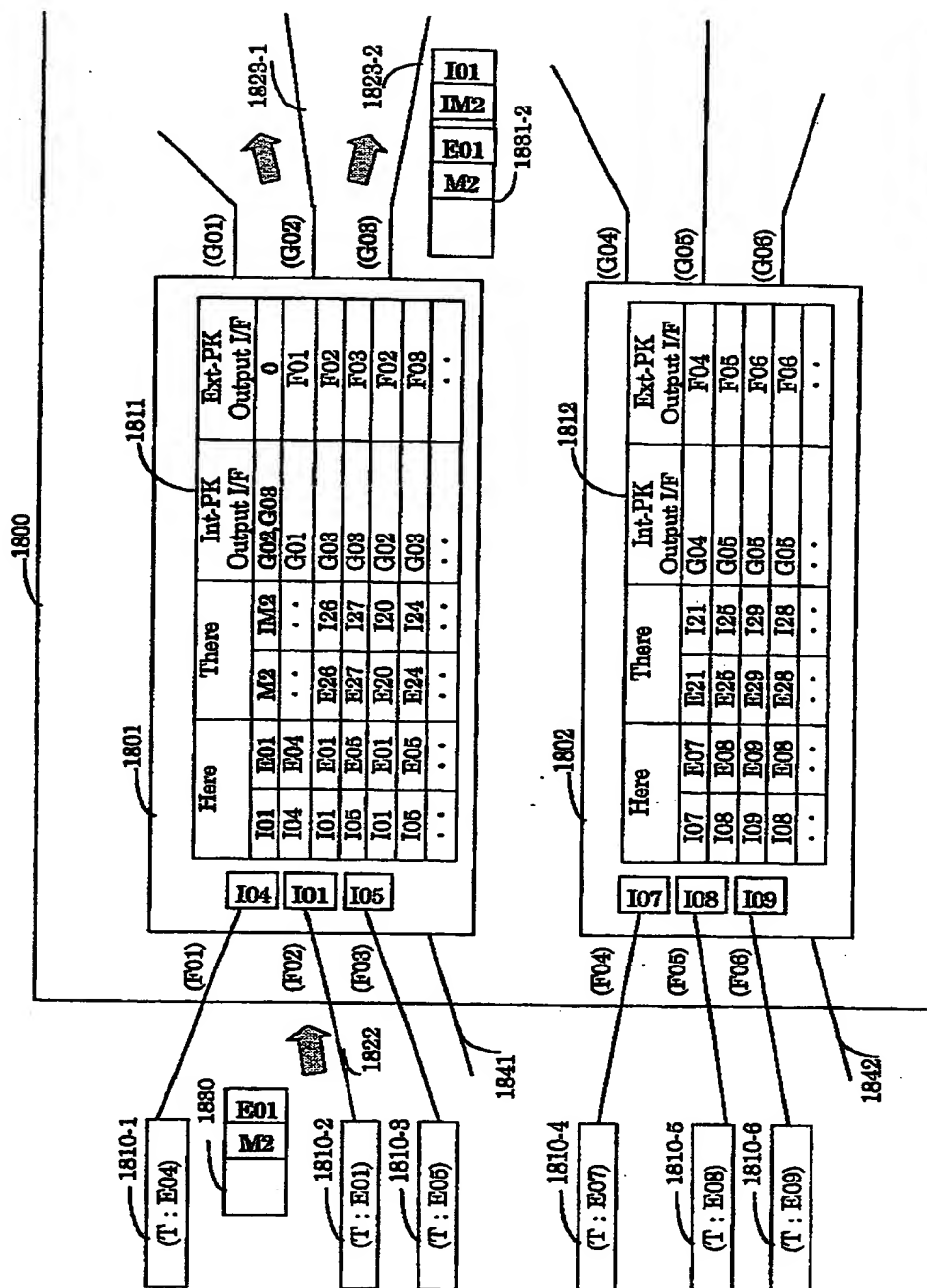
【図307】



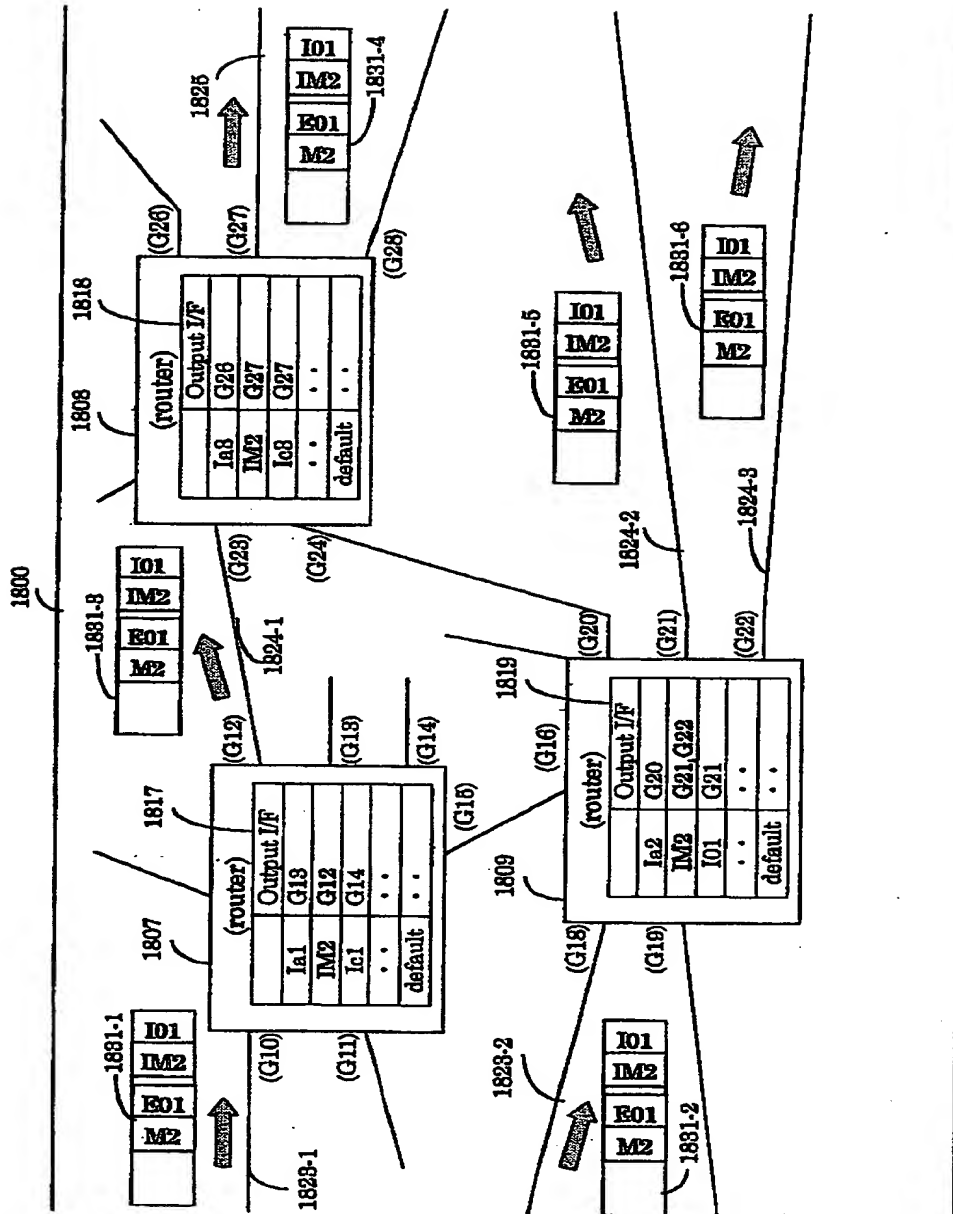
【図308】



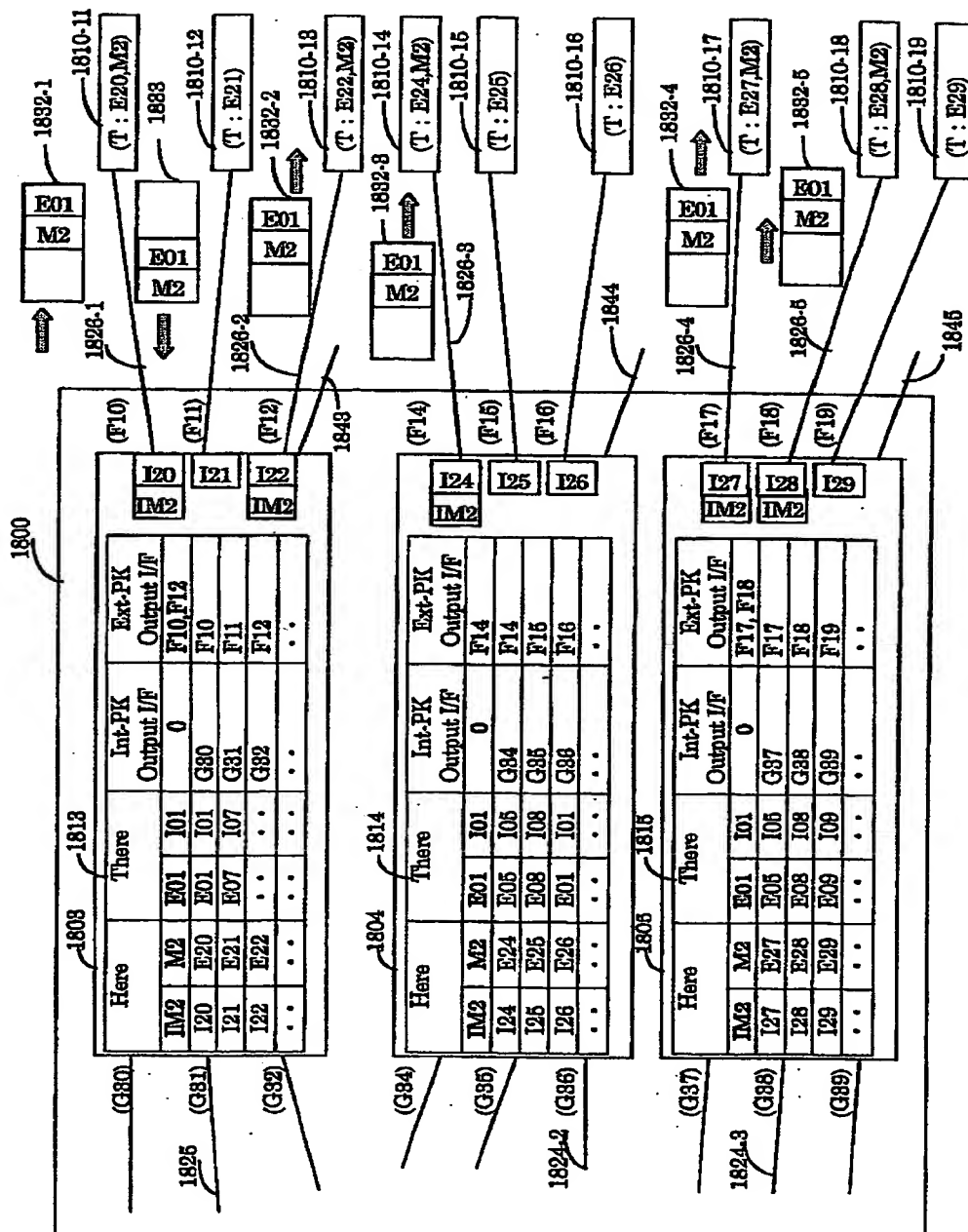
【図 309】



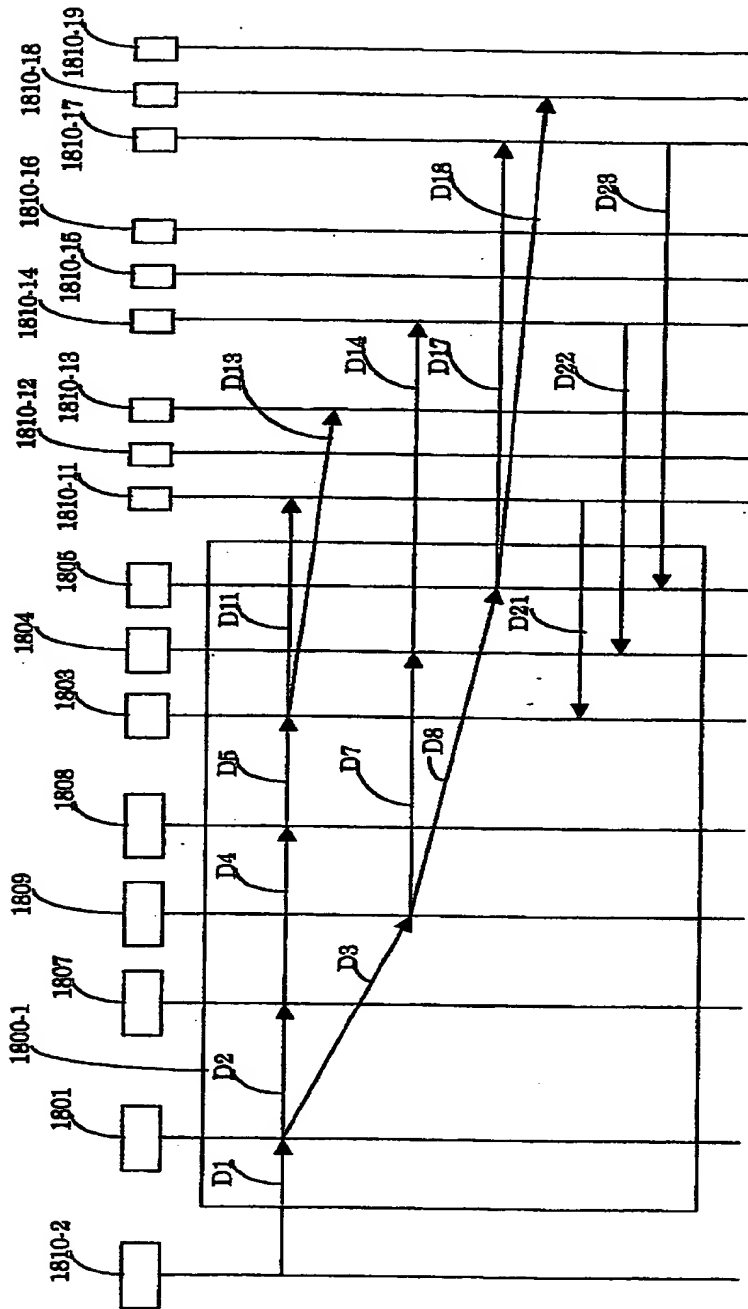
【図 310】



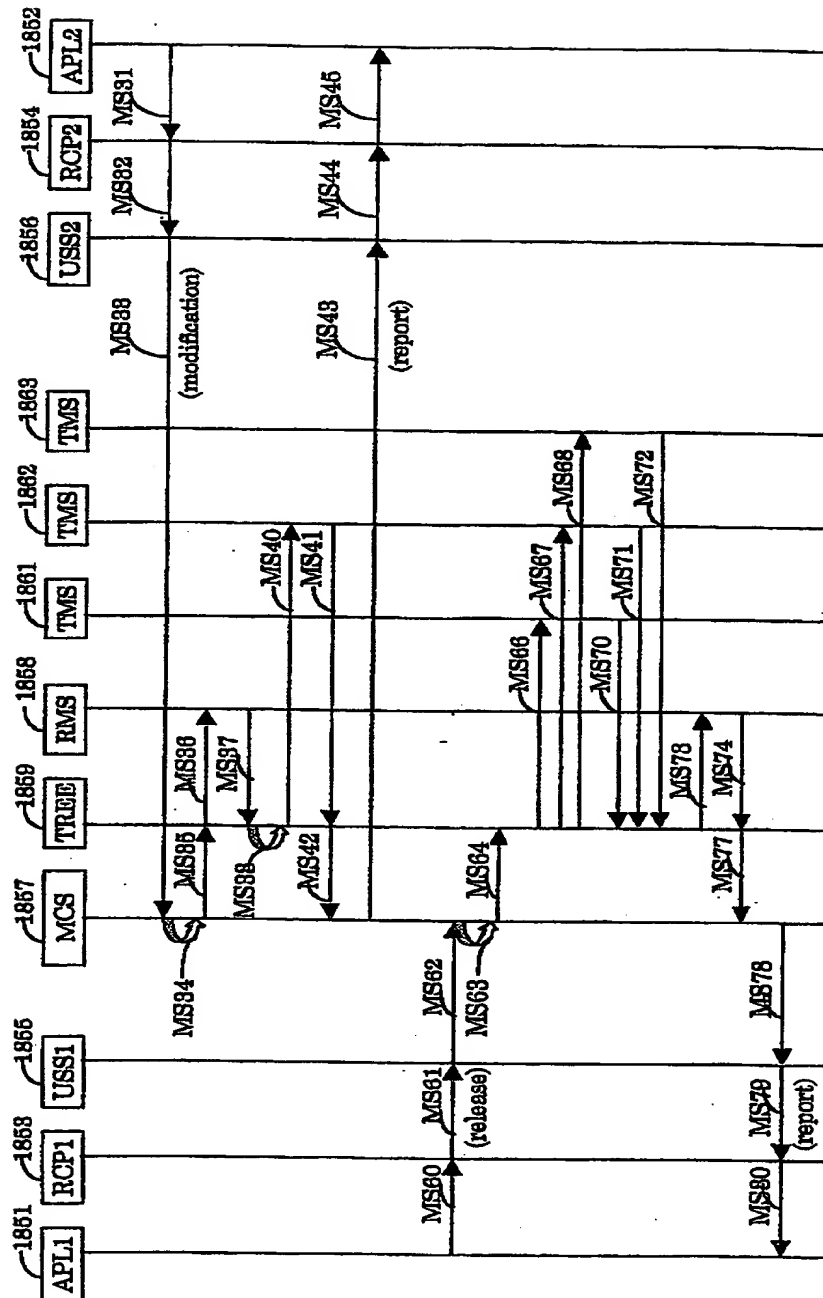
【図 3 1 1】



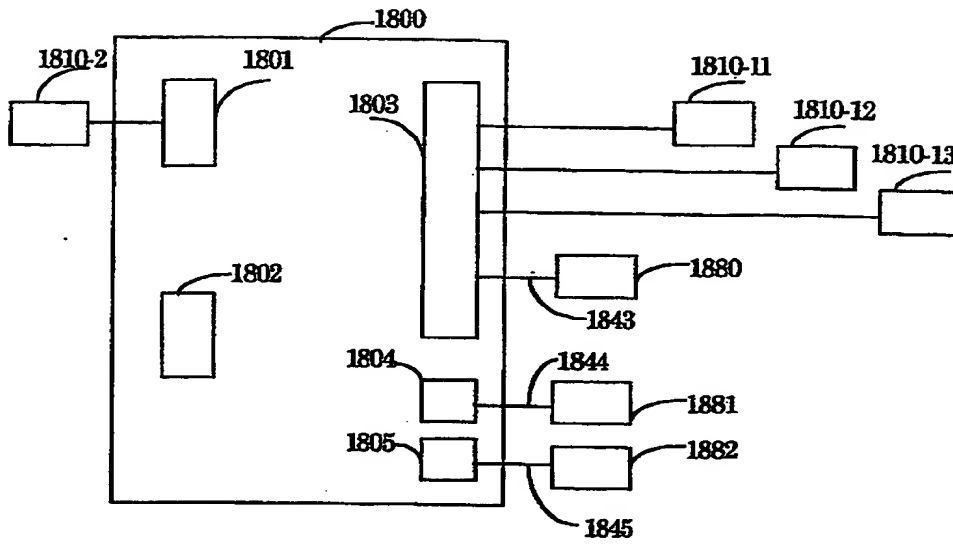
【図 3 1 2】



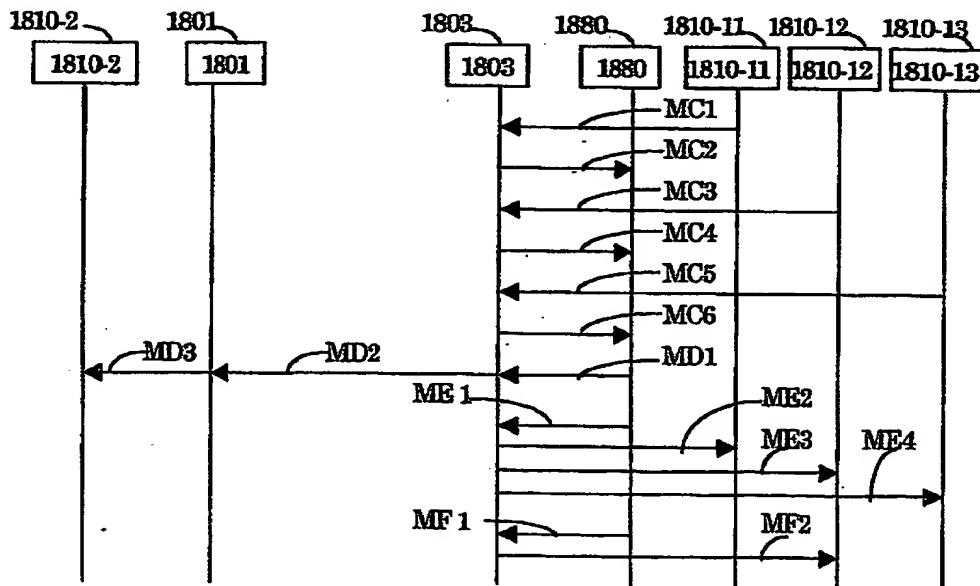
【图 3 1 3】



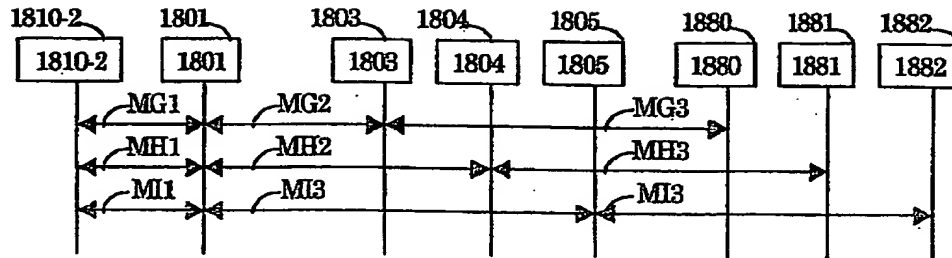
【図 3 1 4】



【図 3 1 5】



【図 3 1 6】



【図 3 1 7】

1811-5

Here	There		Int-PK Output I/F	Ext-PK Output I/F
I01	M2	IM2	G02,G03	0
I04	G01	F01
I01	E26	I26	G03	F02
I05	E27	I27	G03	F03
I01	E20	I20	G02	F02
I05	E24	I24	G03	F03
..

【図 3 1 8】

1811-6

Here			There			Int-PK Out I/F	Ext-PK Out I/F
I-adr	Mask	E-adr	Mask	E-adr	I-adr		
I01	M-h01	E01x	M-t2	M2x	IM2	G02,G03	0
I04	M-h04	E04x	G01	F01
I01	M-h01	E01x	M-t26	E26x	I26	G03	F02
I05	M-h05	E05x	M-t27	E27x	I28	G03	F03
I01	M-h01	E01x	M-t20	E20x	I20
I05	M-h05	E05x	M-t24	E24x	I24
..

【図 3 1 9】

1811-7

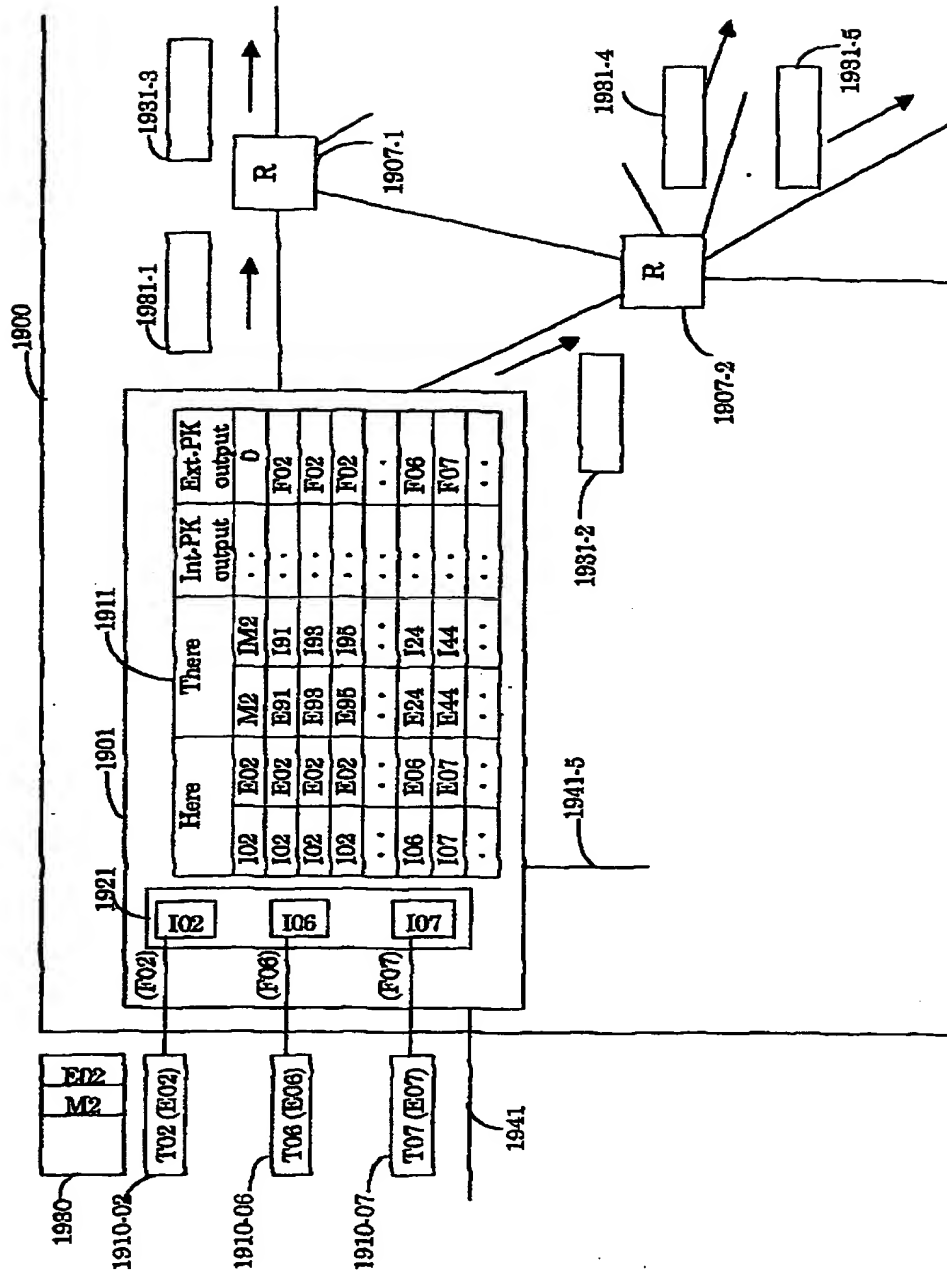
Here		There		Int-PK Output I/F	Ext-PK Output I/F
I01	E01	M2	IM2	MT-1	0
I04	E04	G01	F01
I01	E01	E26	I26	G03	F02
I05	E05	E27	I28	G03	F03
I01	E01	E20	I20
I05	E05	E24	I24
..

【図 3 2 0】

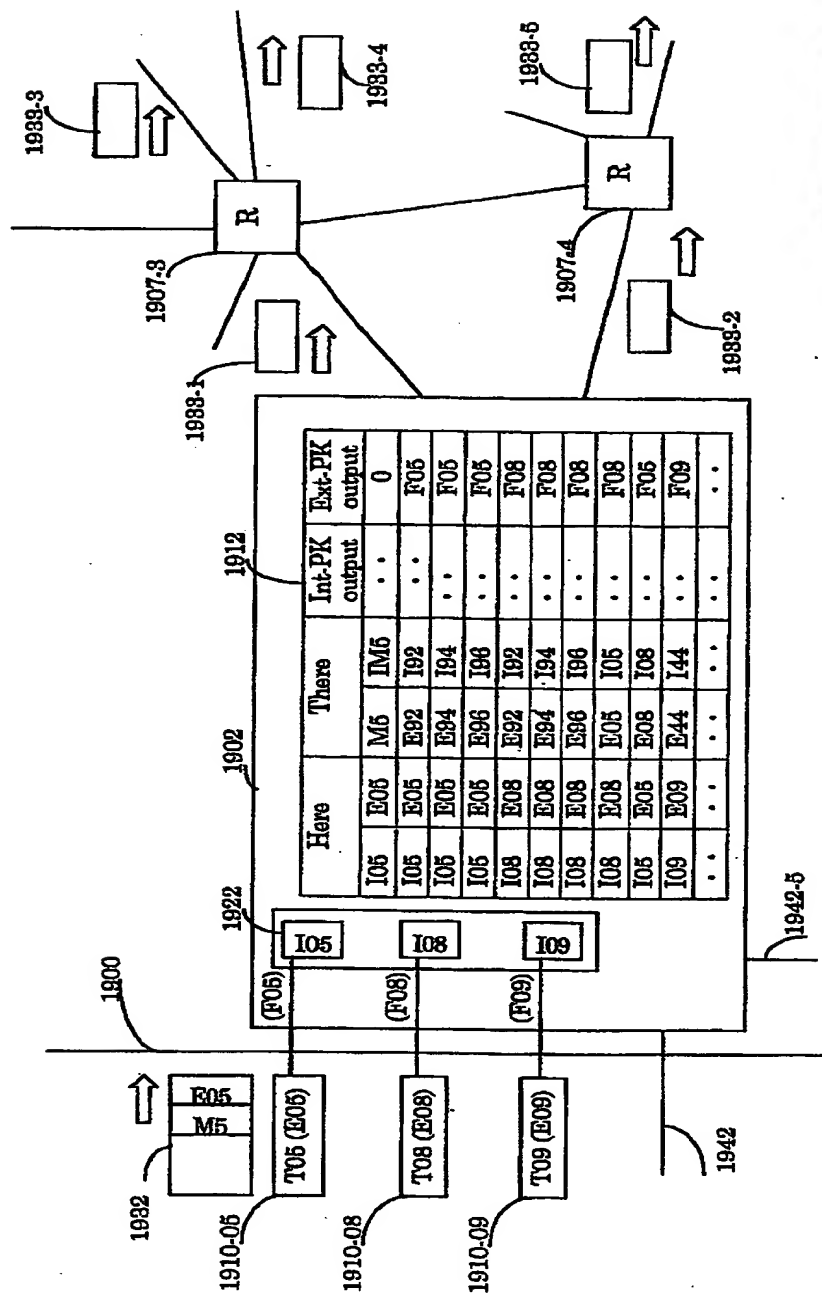
1811-8

MT-1	G02,G03
..	..

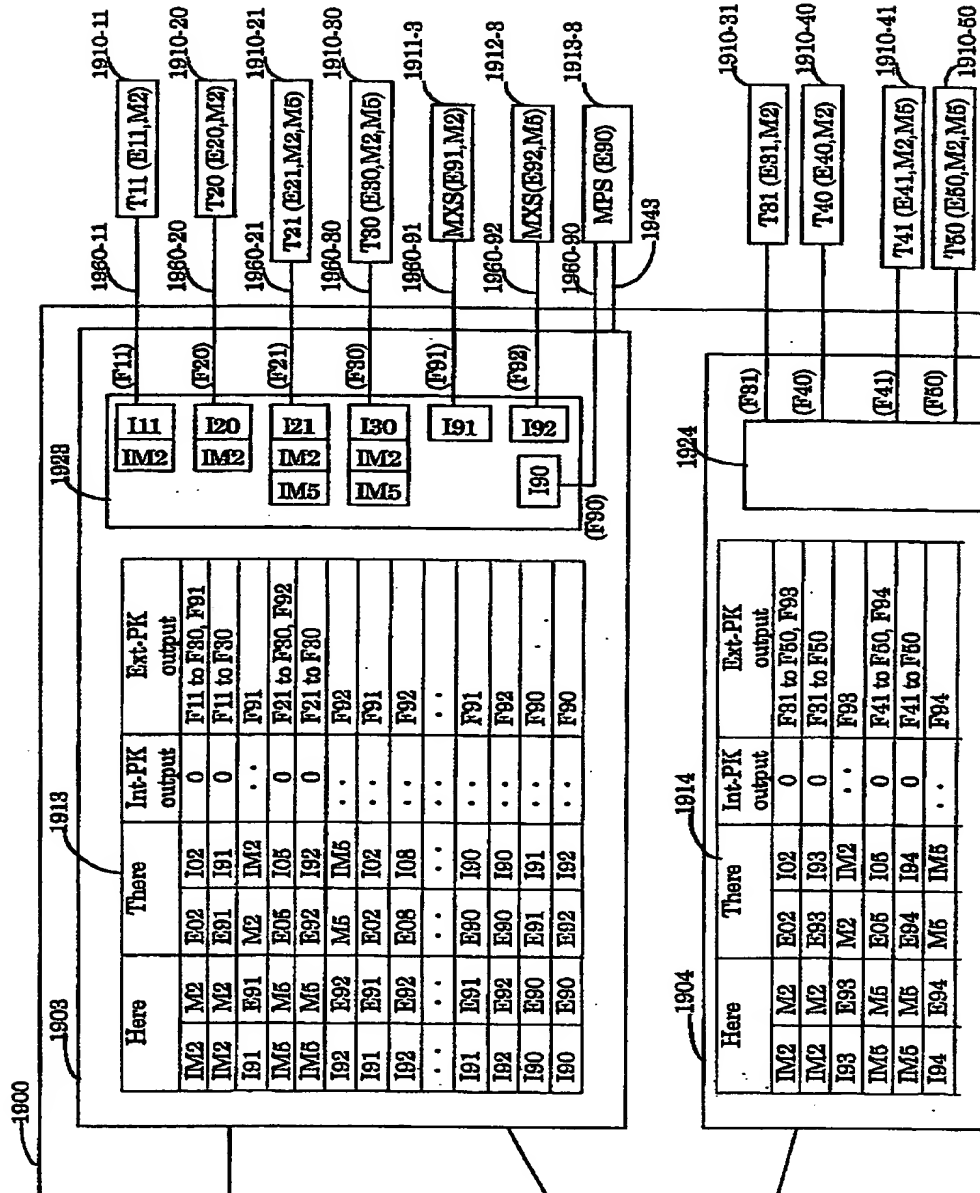
【図 3 2 1】



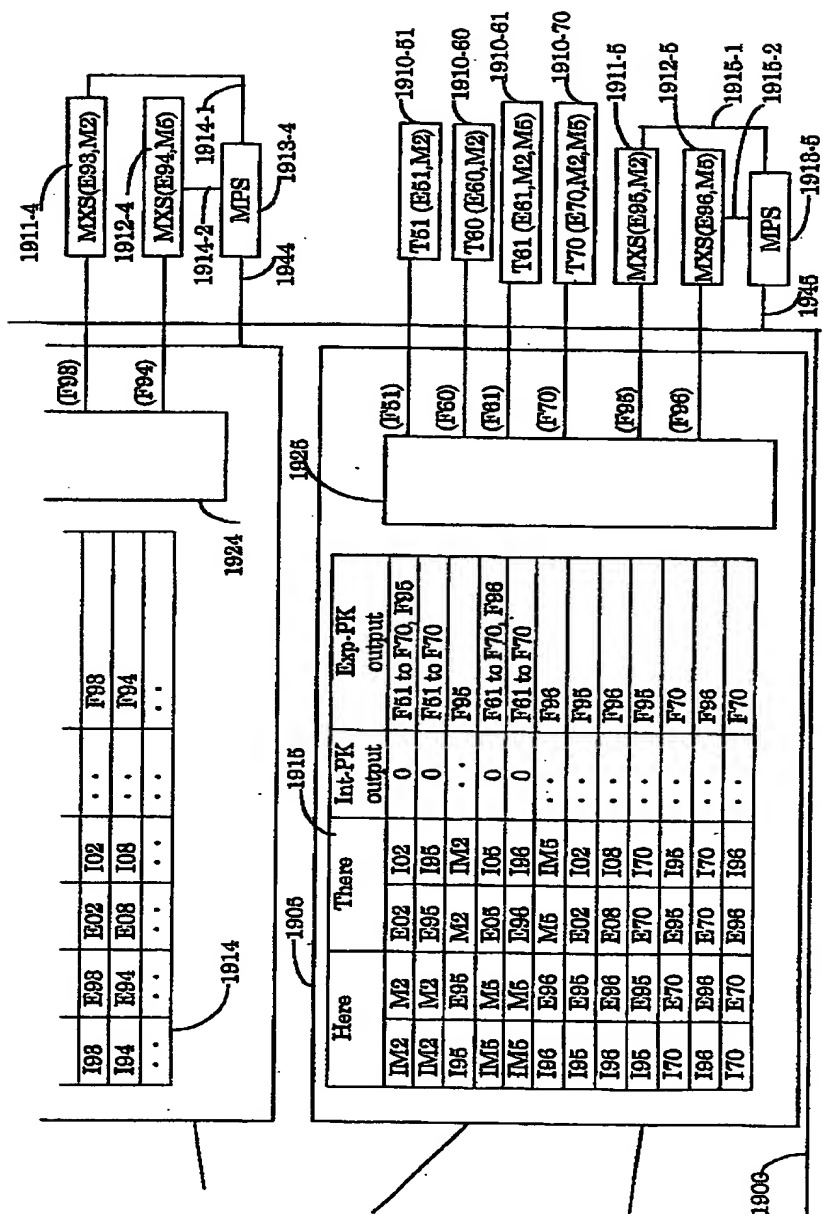
【図 322】



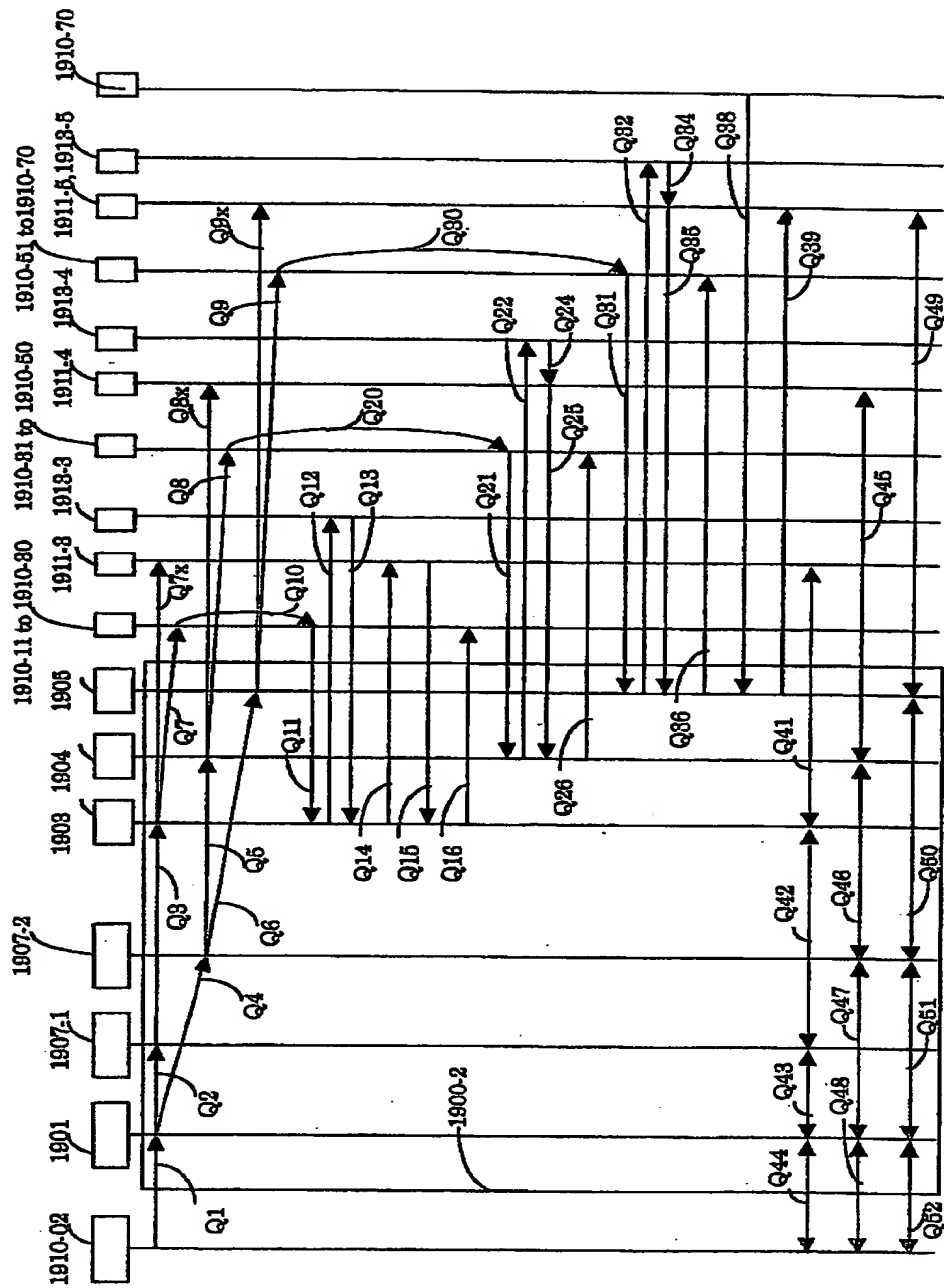
【図 323】



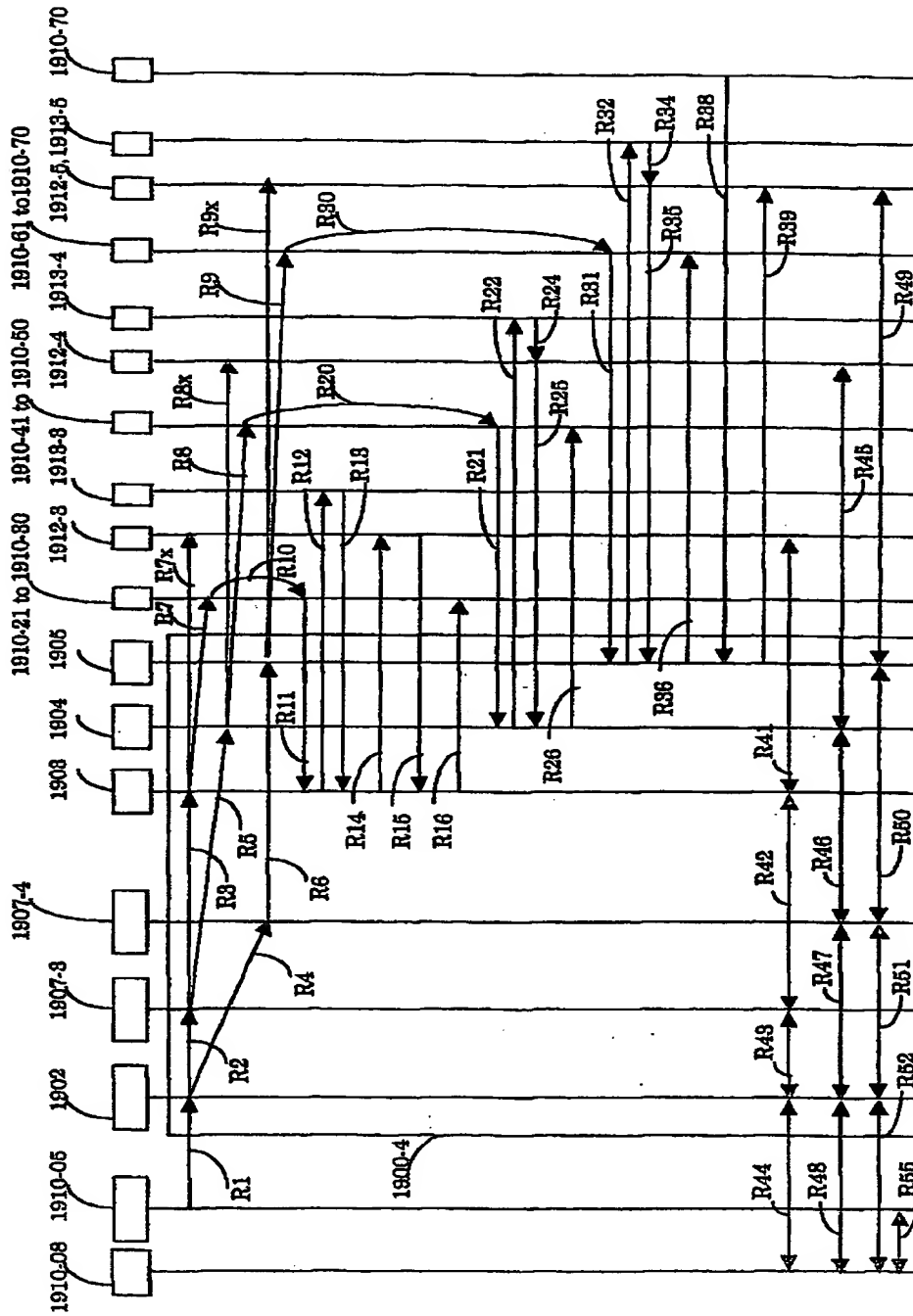
【圖 3 2 4】



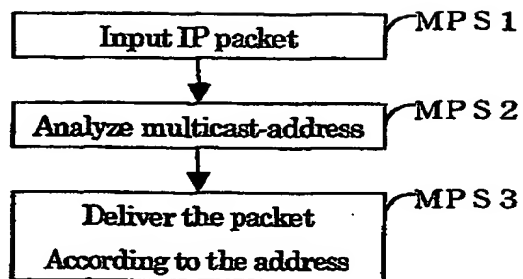
【図 325】



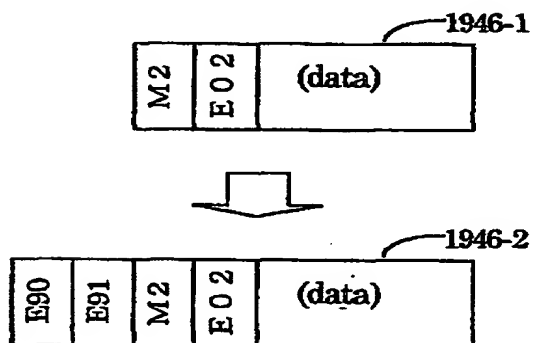
【図 326】



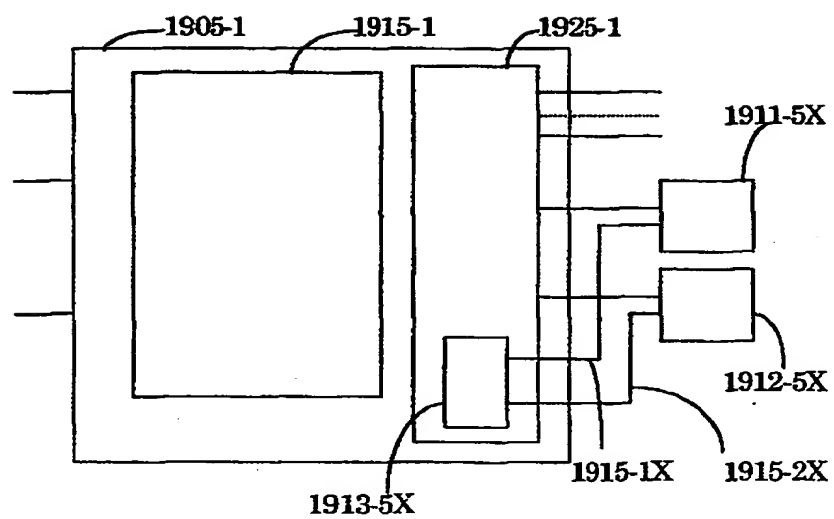
【図 3 2 7】



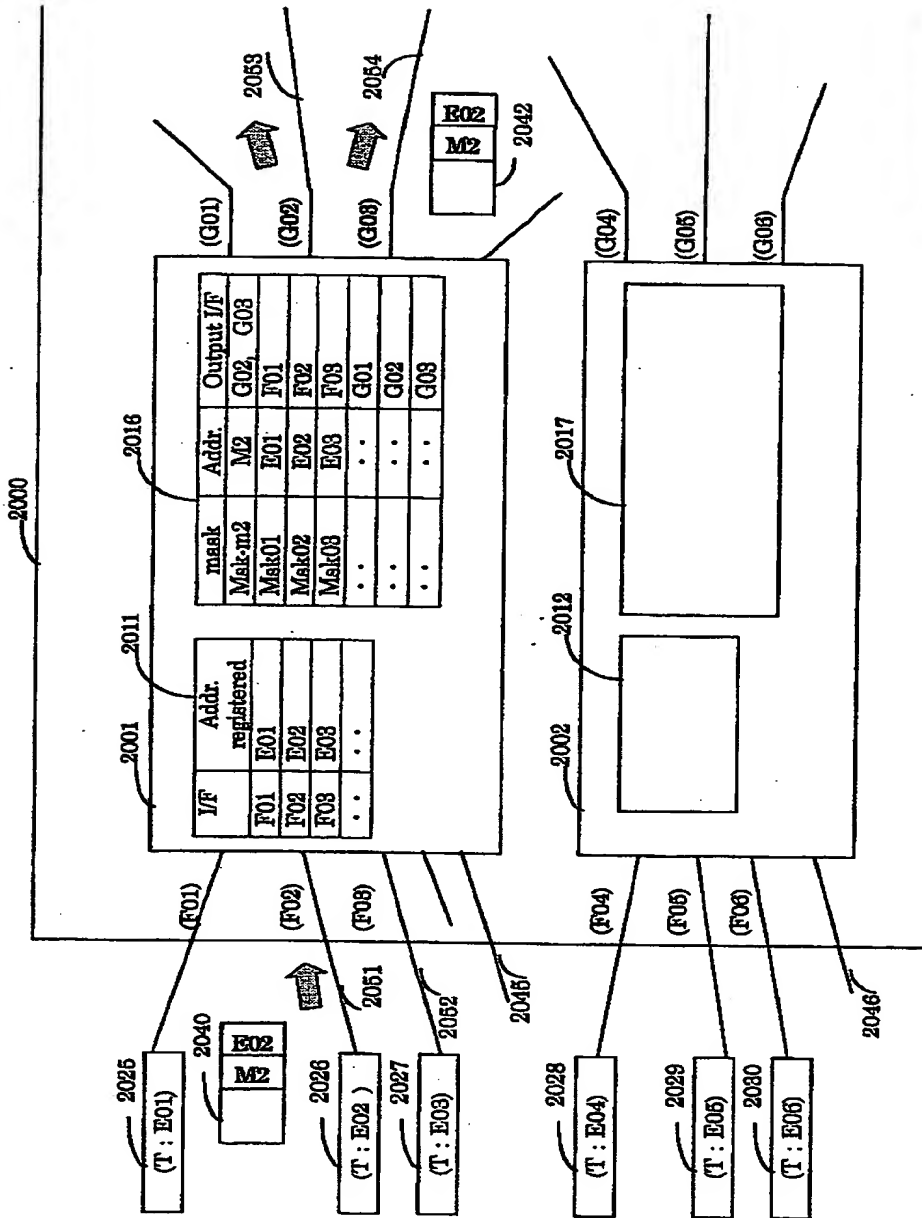
【図 3 2 8】



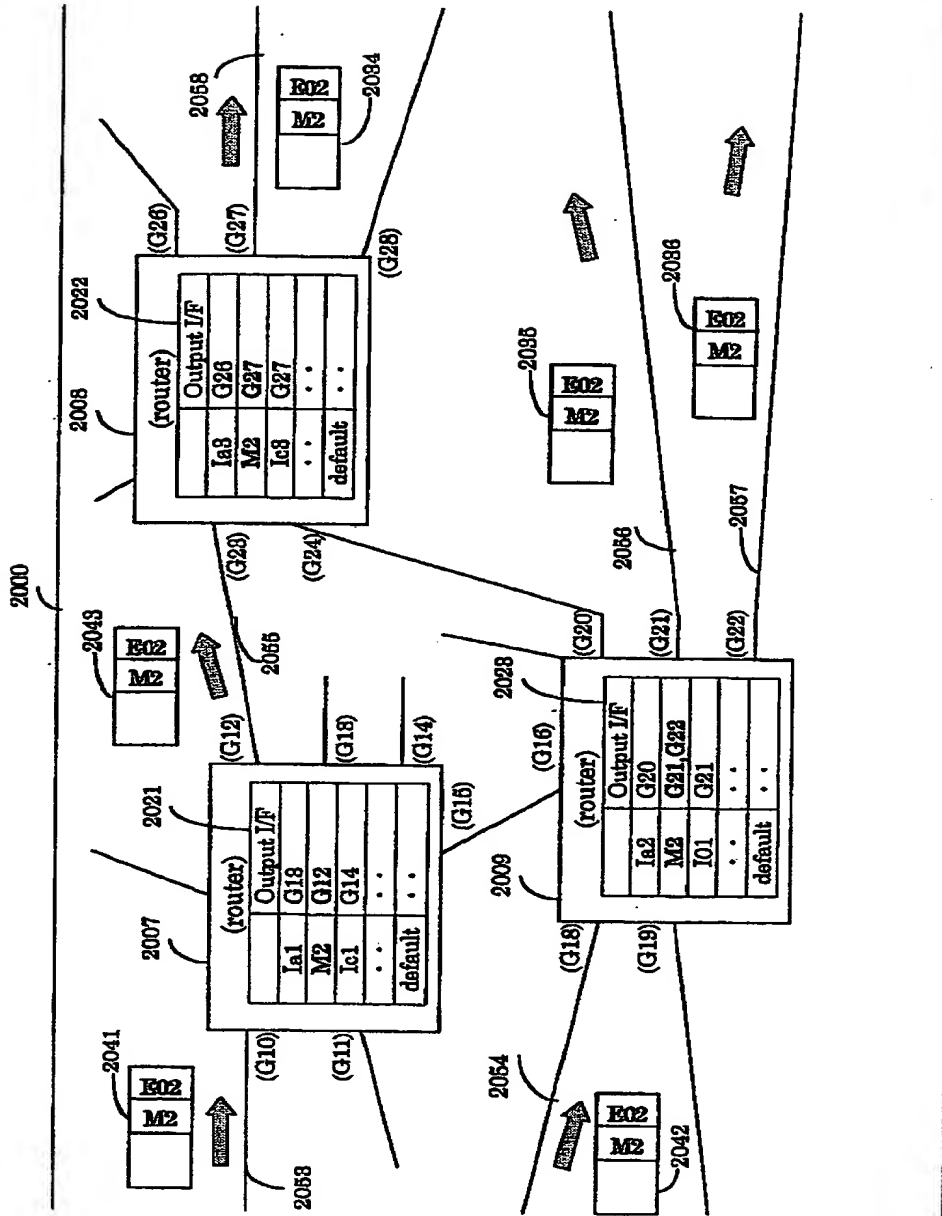
【図 3 2 9】



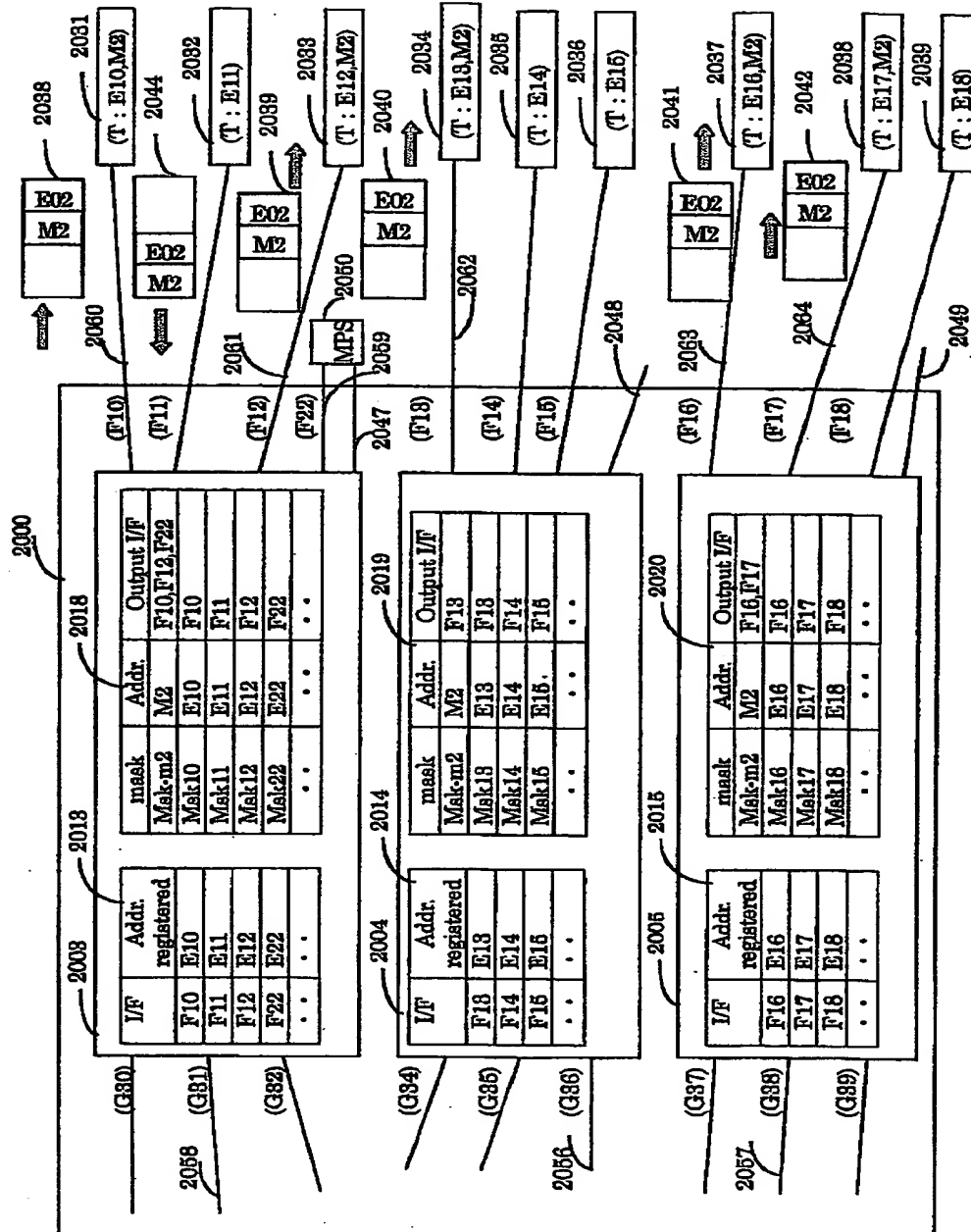
【図 330】



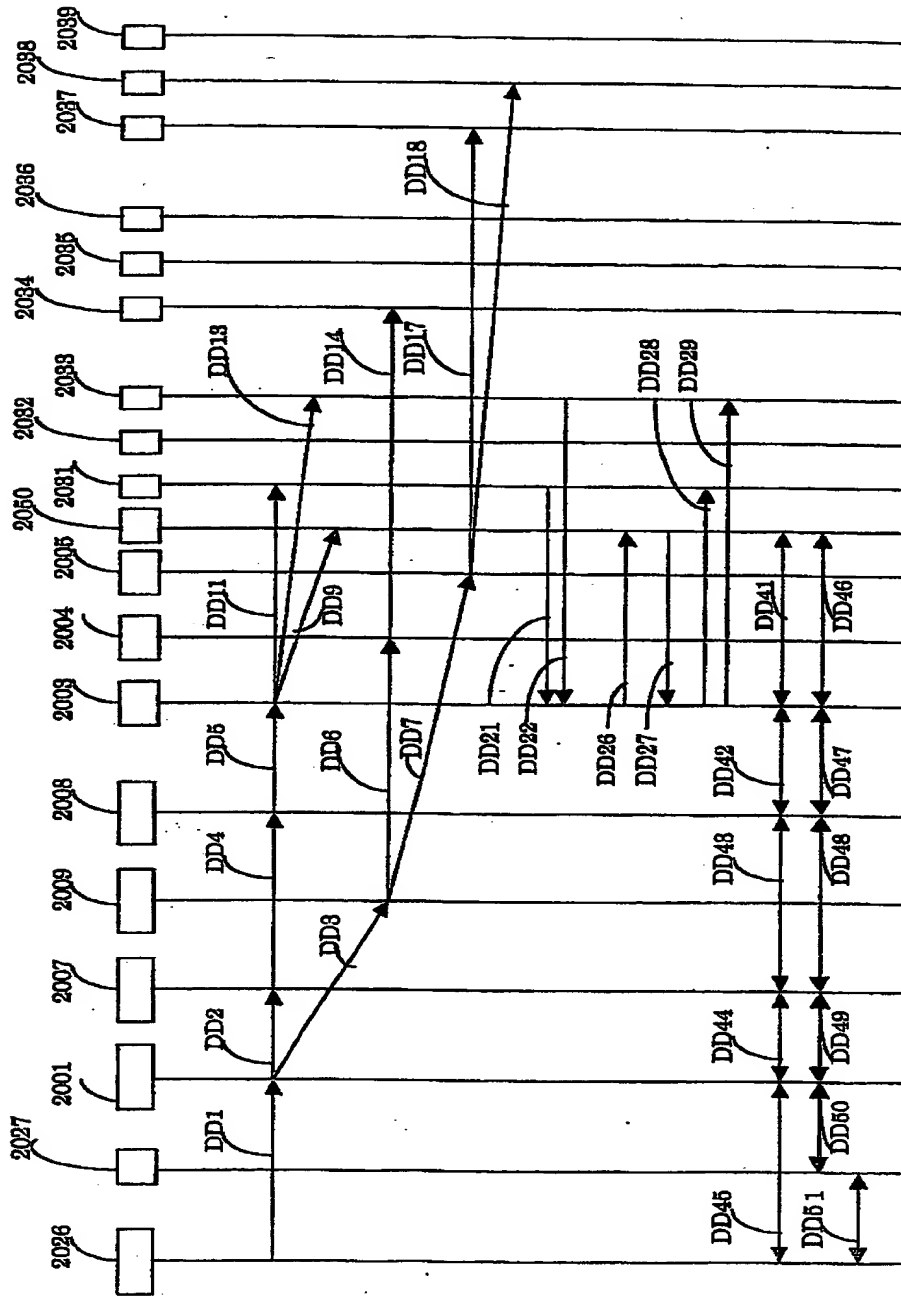
【図 331】



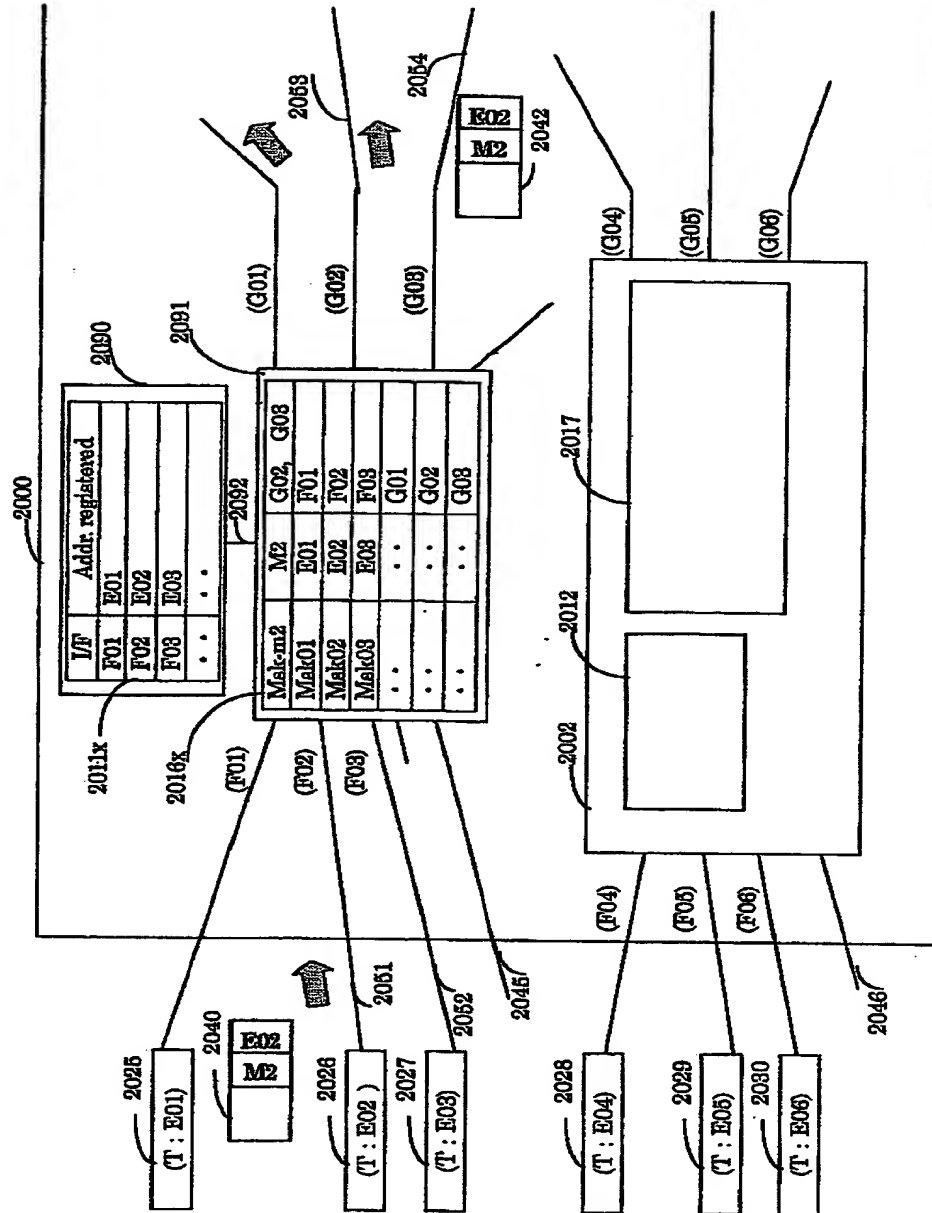
【図 332】



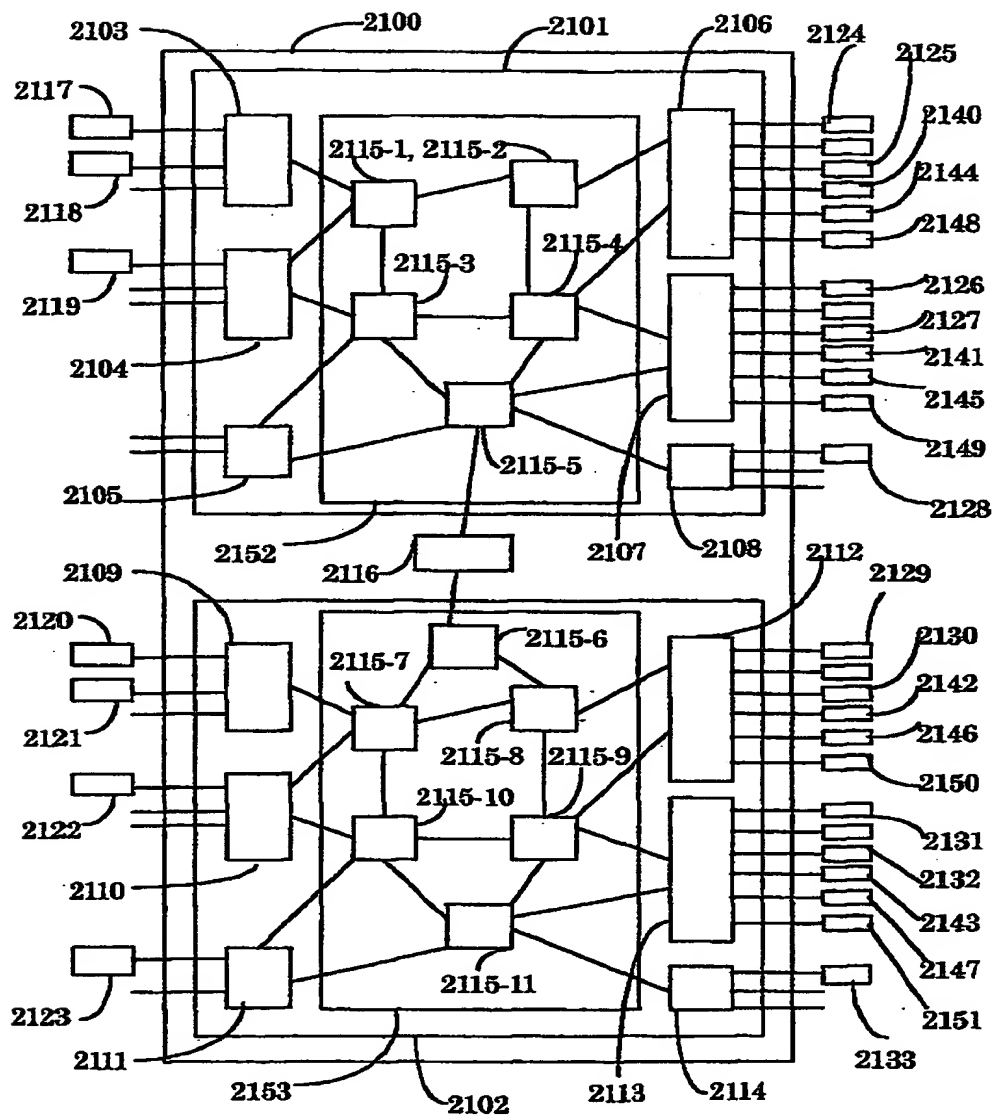
【図 333】



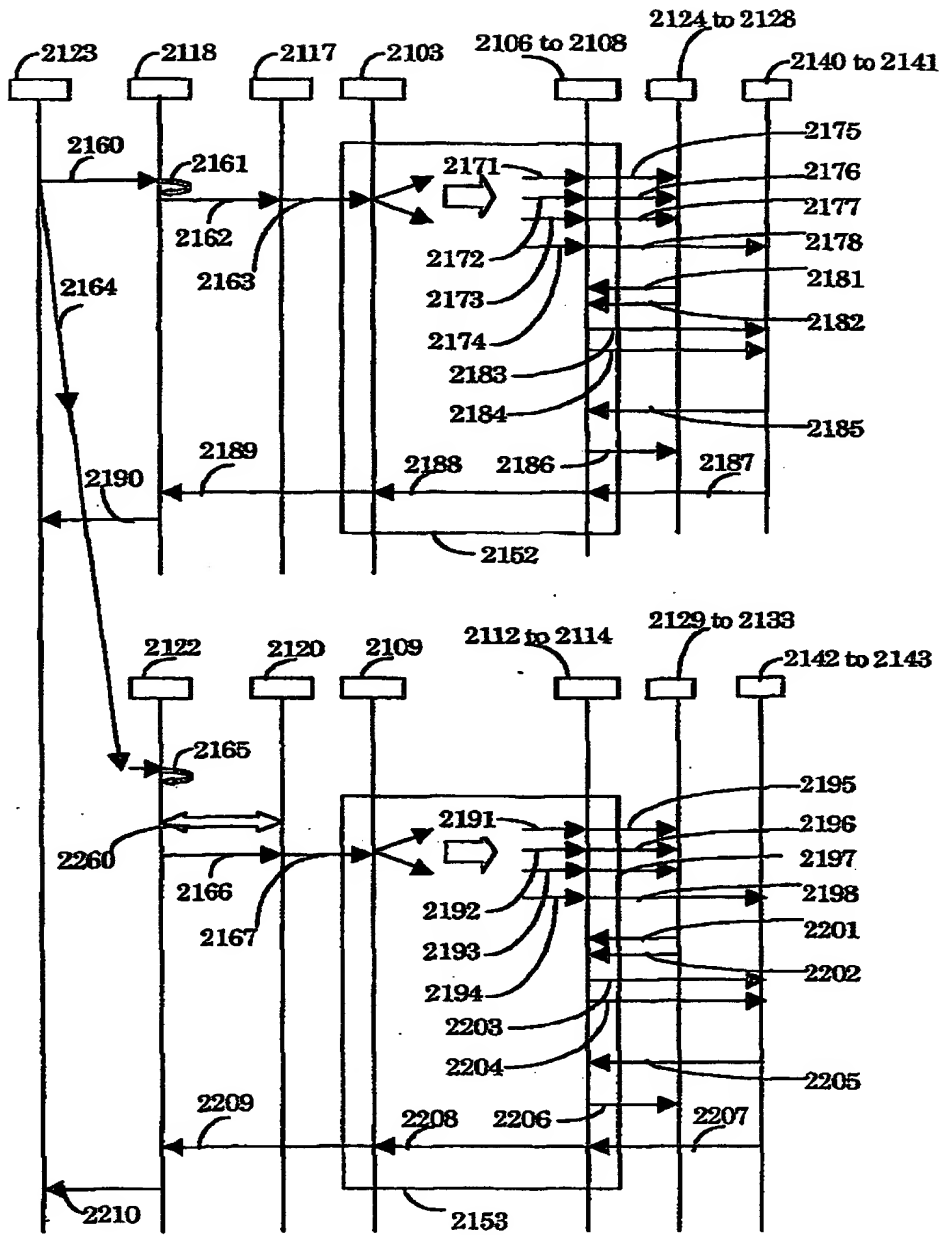
【図 334】



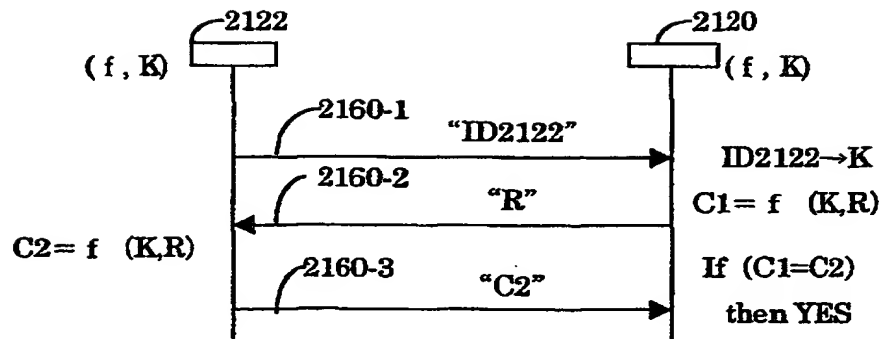
【図 335】



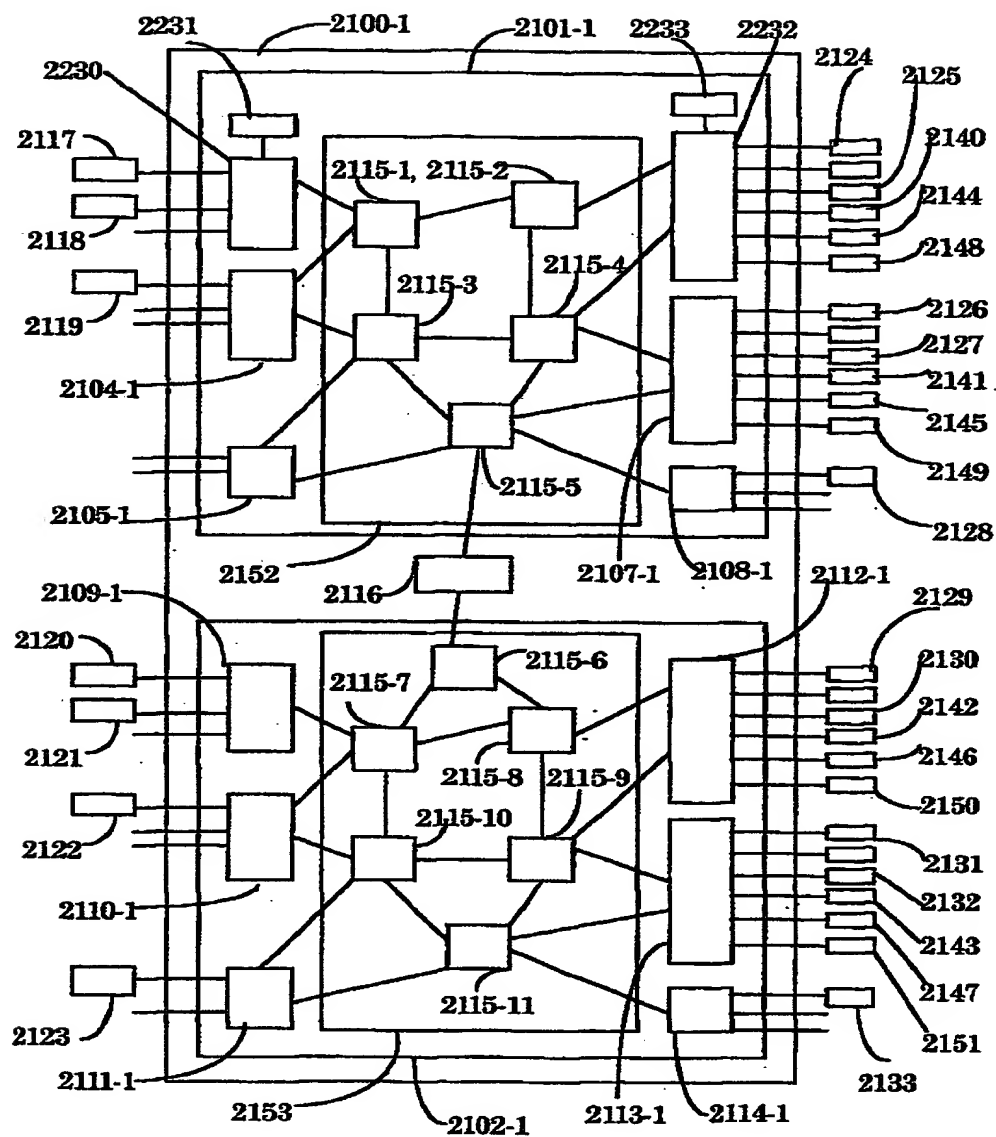
【図 3 3 6】



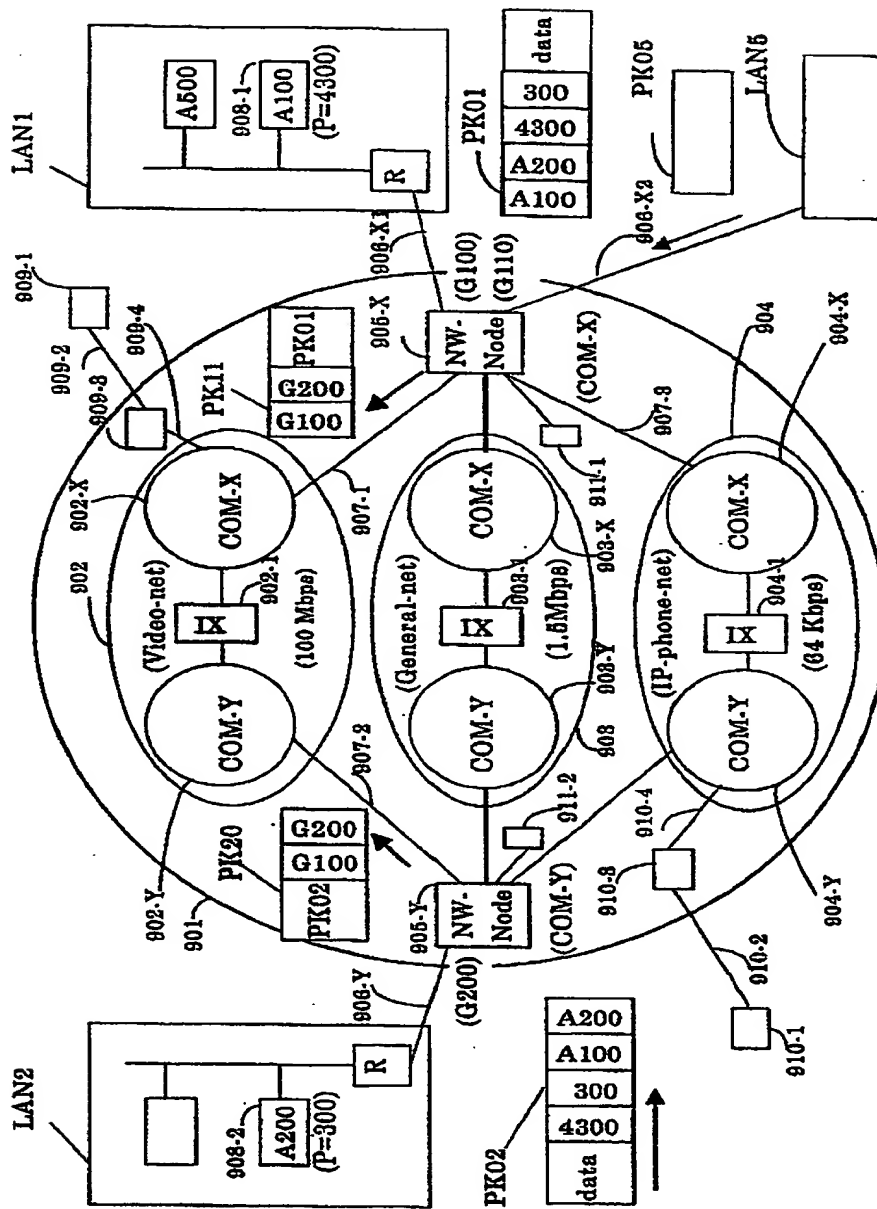
【図 3 3 7】



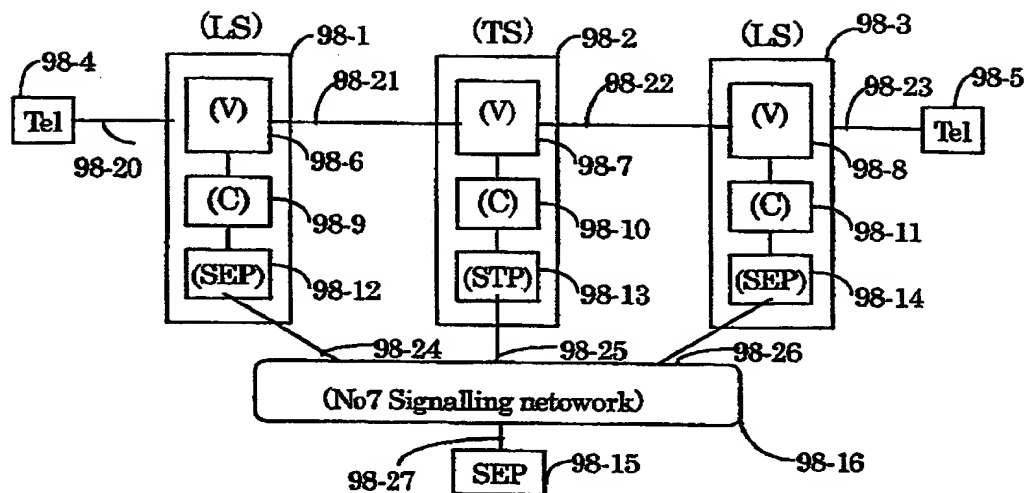
【図 338】



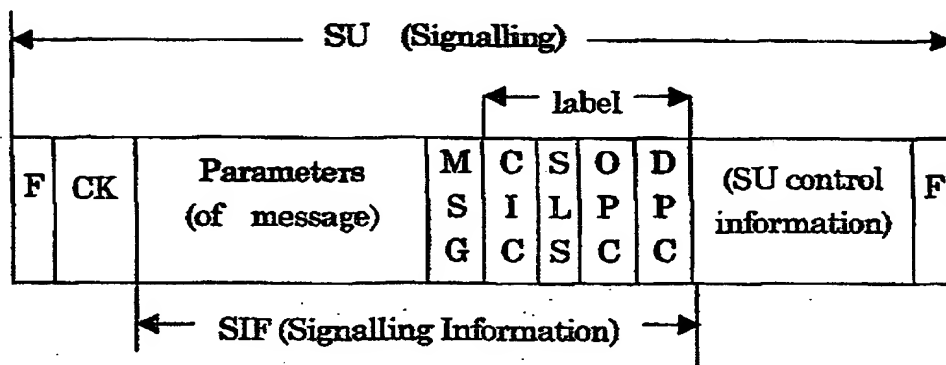
【図 339】



【図 3 4 0】



【図 3 4 1】



MSG: message (IAM, ACM, CPG, ANM, REL, RLC, SUS, RES, CON, etc.)

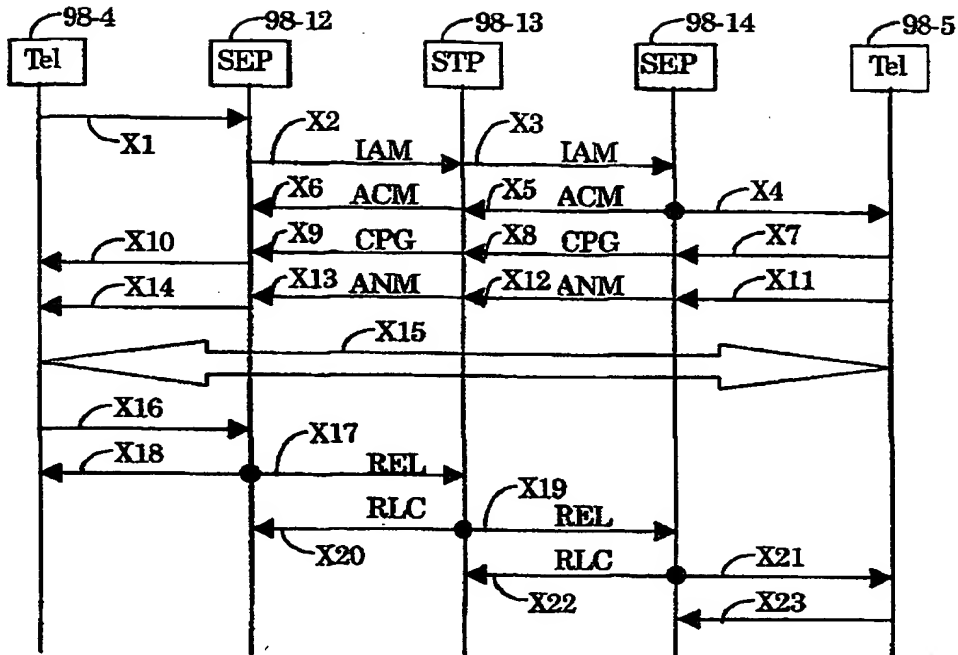
OPC: origin point code DPC: destination point code

CIC: circuit identification code

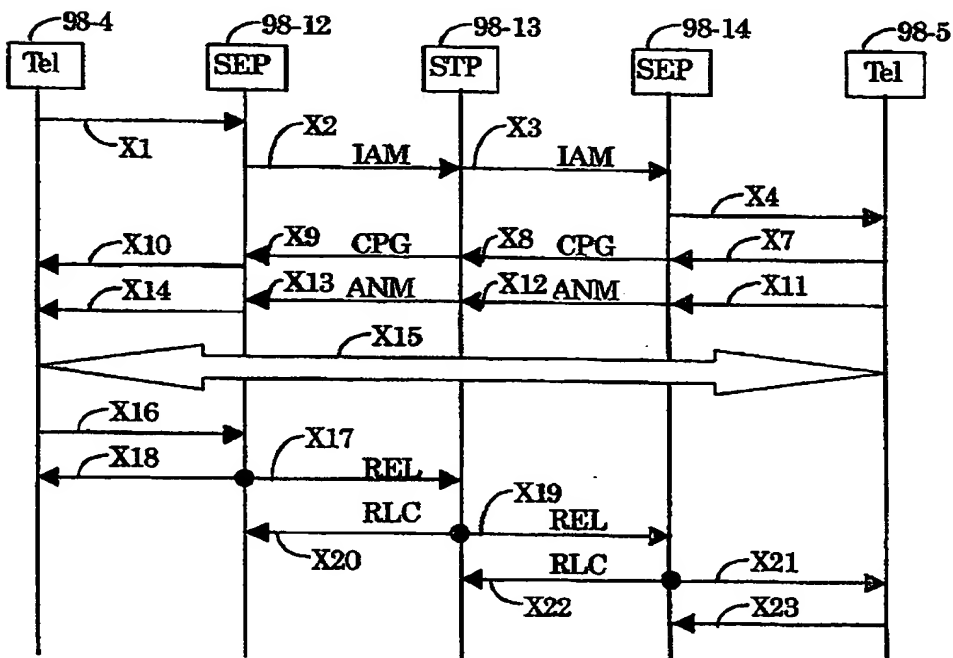
SLS= Signalling Link Selection

F: flag (01111110) CK: check code

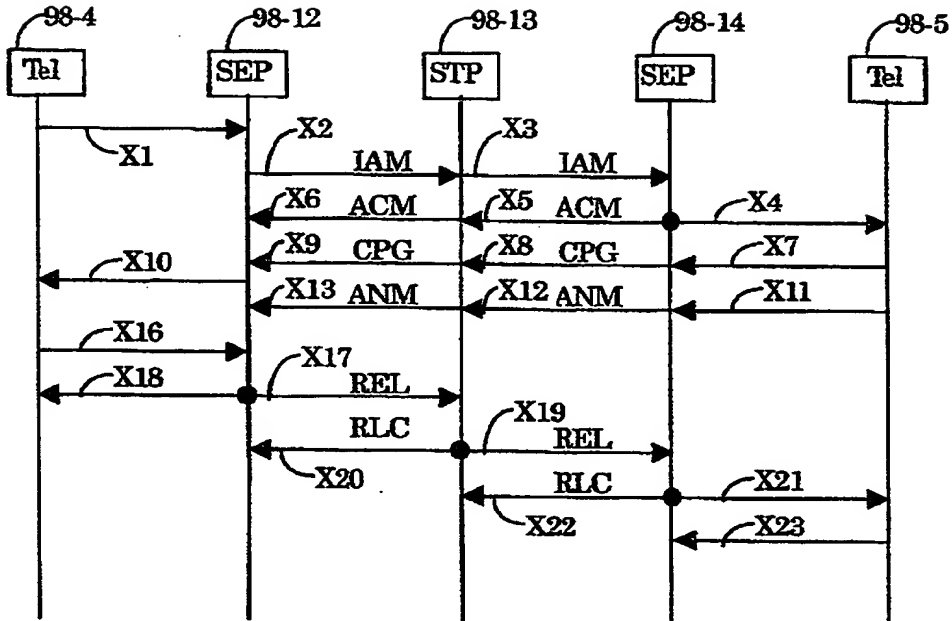
【図 3 4 2】



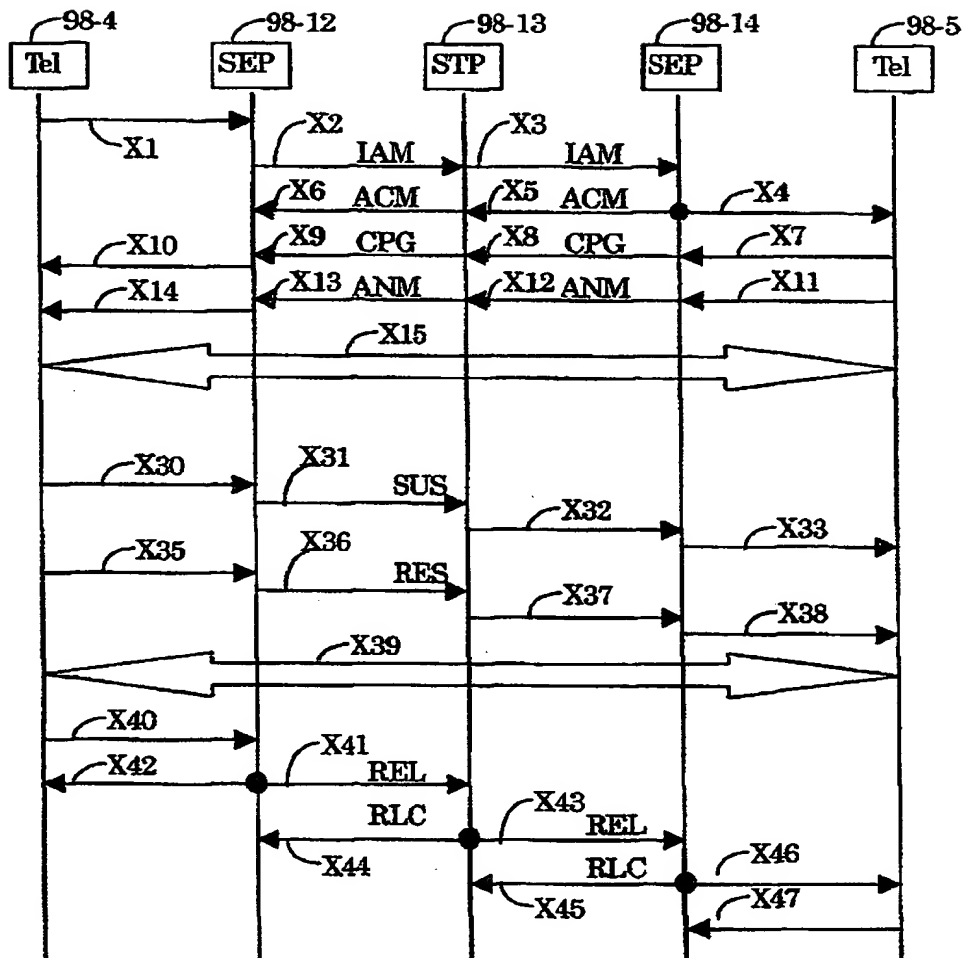
【図 3 4 3】



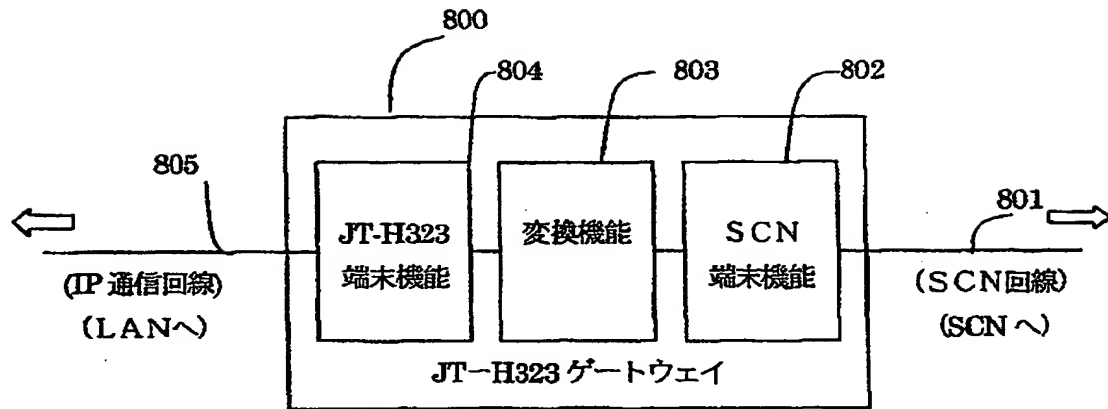
【図 3 4 4】



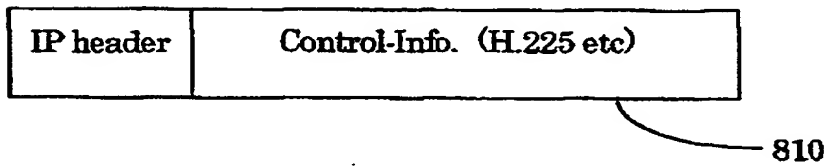
【図 345】



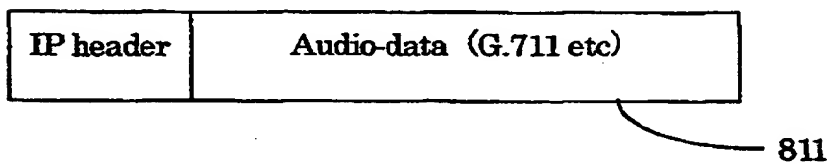
【図 3 4 6】



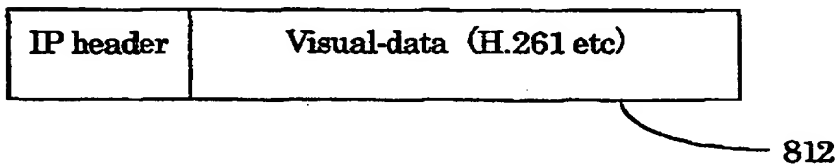
【図 3 4 7】



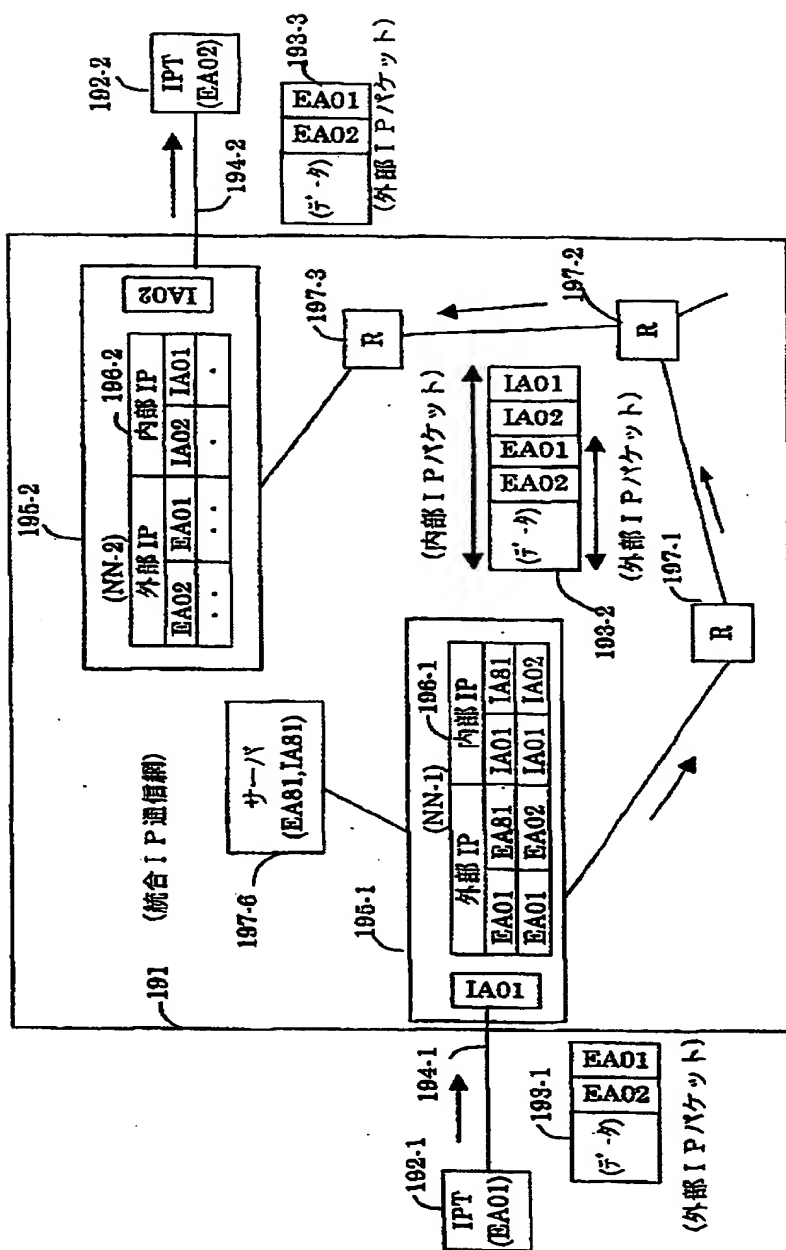
【図 3 4 8】



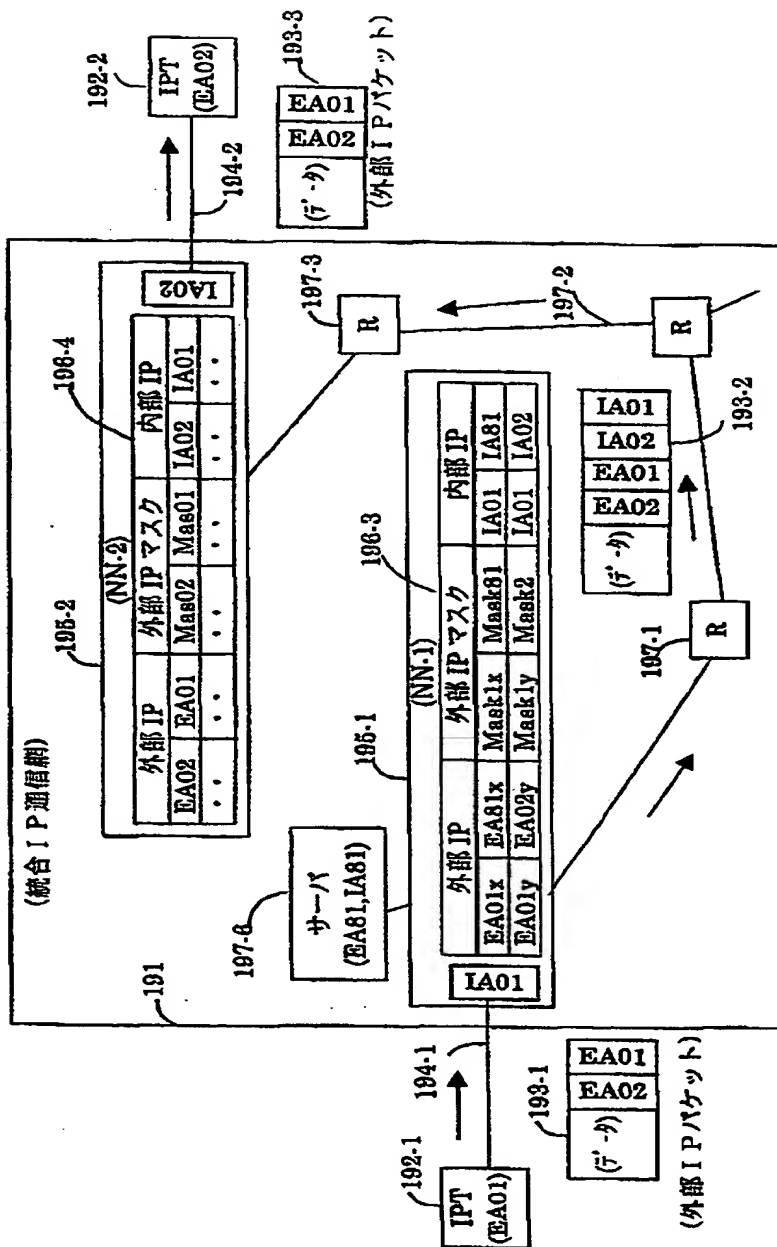
【図 3 4 9】



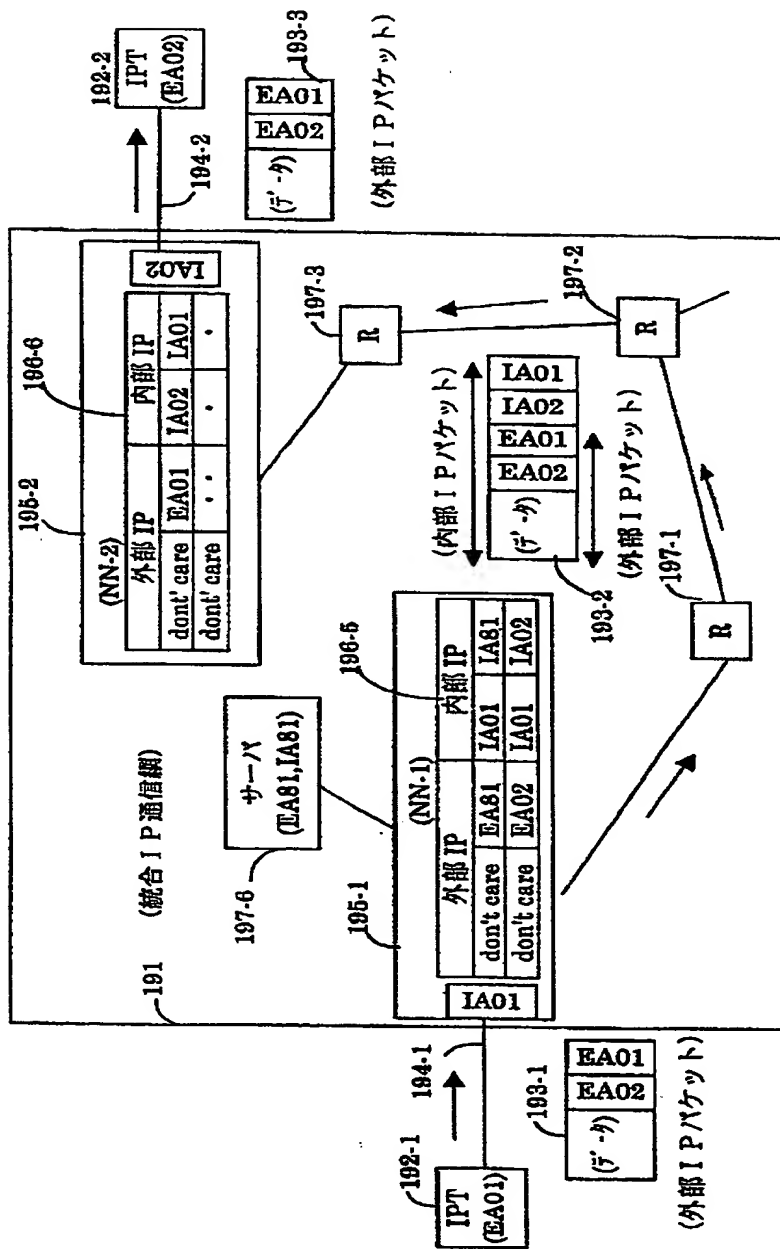
【図 350】



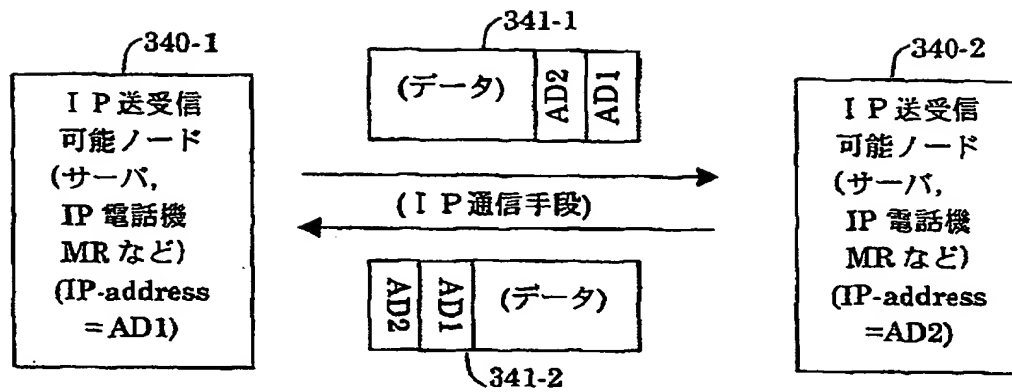
【図351】



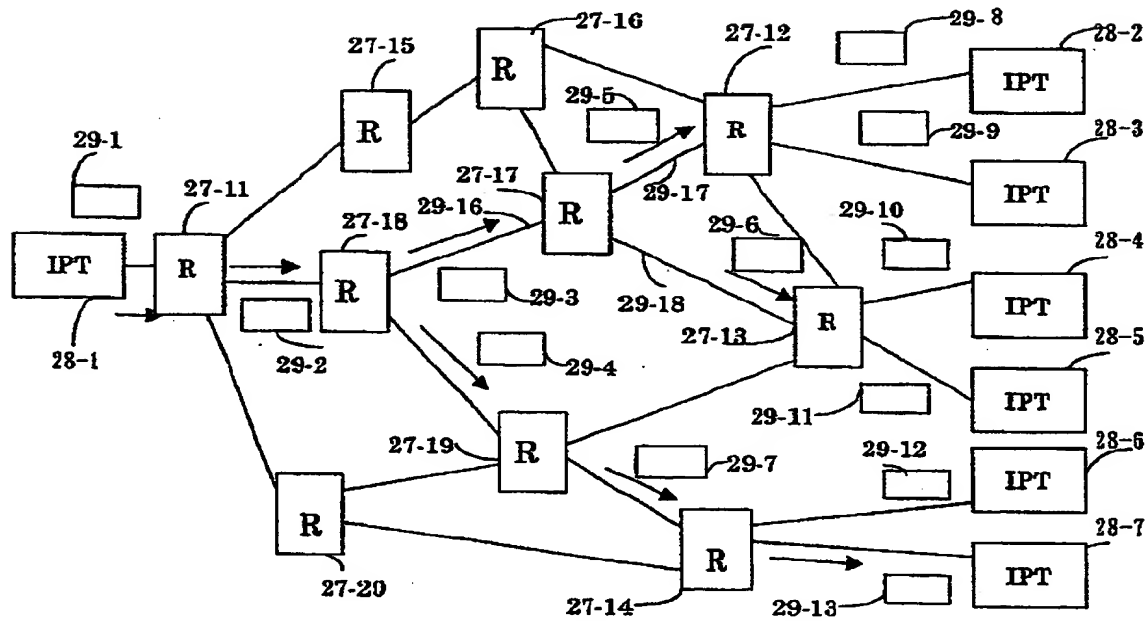
【図 352】



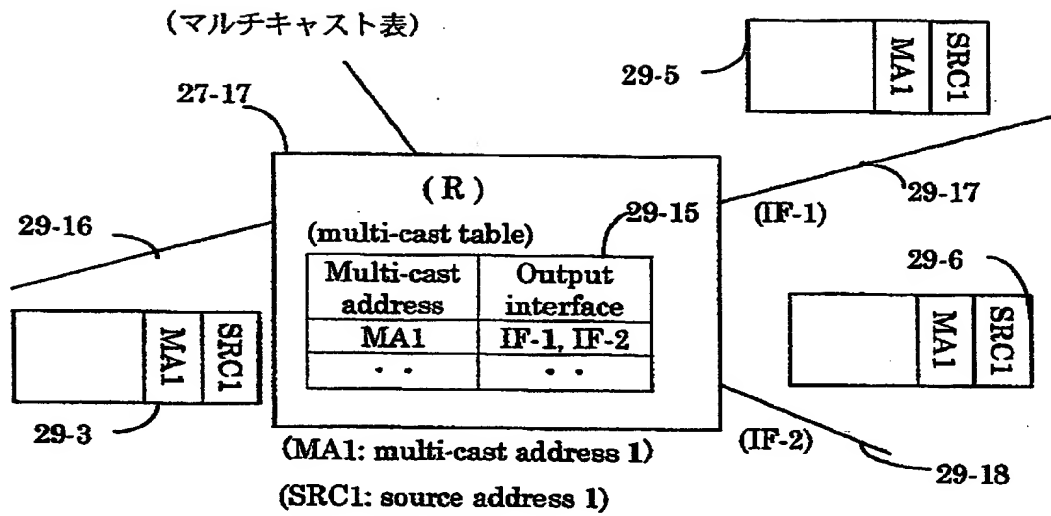
【図 353】



【図 354】



【図 355】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 I P 電話機間の通信や音声画像通信、 I P マルチキャスト通信などのマルチメディア通信に適用できる端末間通信接続制御方法を提供する。

【解決手段】 I P 転送網の内部に、接続サーバと中継接続サーバを設置し、接続サーバは加入者交換機（L S）の回線接続制御と類似した機能を付与され、中継接続サーバは中継交換機（T S）の回線接続制御と類似した機能を付与され、電話機や I P 端末、映像端末などの端末が、 I P 転送網の中を経由して、共通線信号方式の回線接続制御メッセージと 1 : 1 対応付け可能な、初期アドレスメッセージ（I A M），アドレス完了メッセージ（A C M），呼経過メッセージ（C P G），応答メッセージ（A N M），解放メッセージ（R E L），解放完了メッセージ（R L C）を送受することにより、 I P 転送網を用いた端末間通信接続制御方法を実現する。更に、 I P 転送網の網ノード装置にアドレス管理表を設定し、このアドレス管理表に端末のアドレスを登録しておく手段により、情報安全性を高めたマルチキャストによる I P パケット通信を実現する。

【選択図】 図 1

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [596176286]

1. 変更年月日	1997年 1月21日
[変更理由]	住所変更
住 所	東京都港区赤坂7丁目3番37号
氏 名	財団法人流通システム開発センター

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [398009317]

1. 変更年月日 1998年 2月 2日

[変更理由] 新規登録

住 所 千葉県市川市菅野1丁目4番4号
氏 名 有限会社宮口研究所